那覇市文化財調査報告書第39集

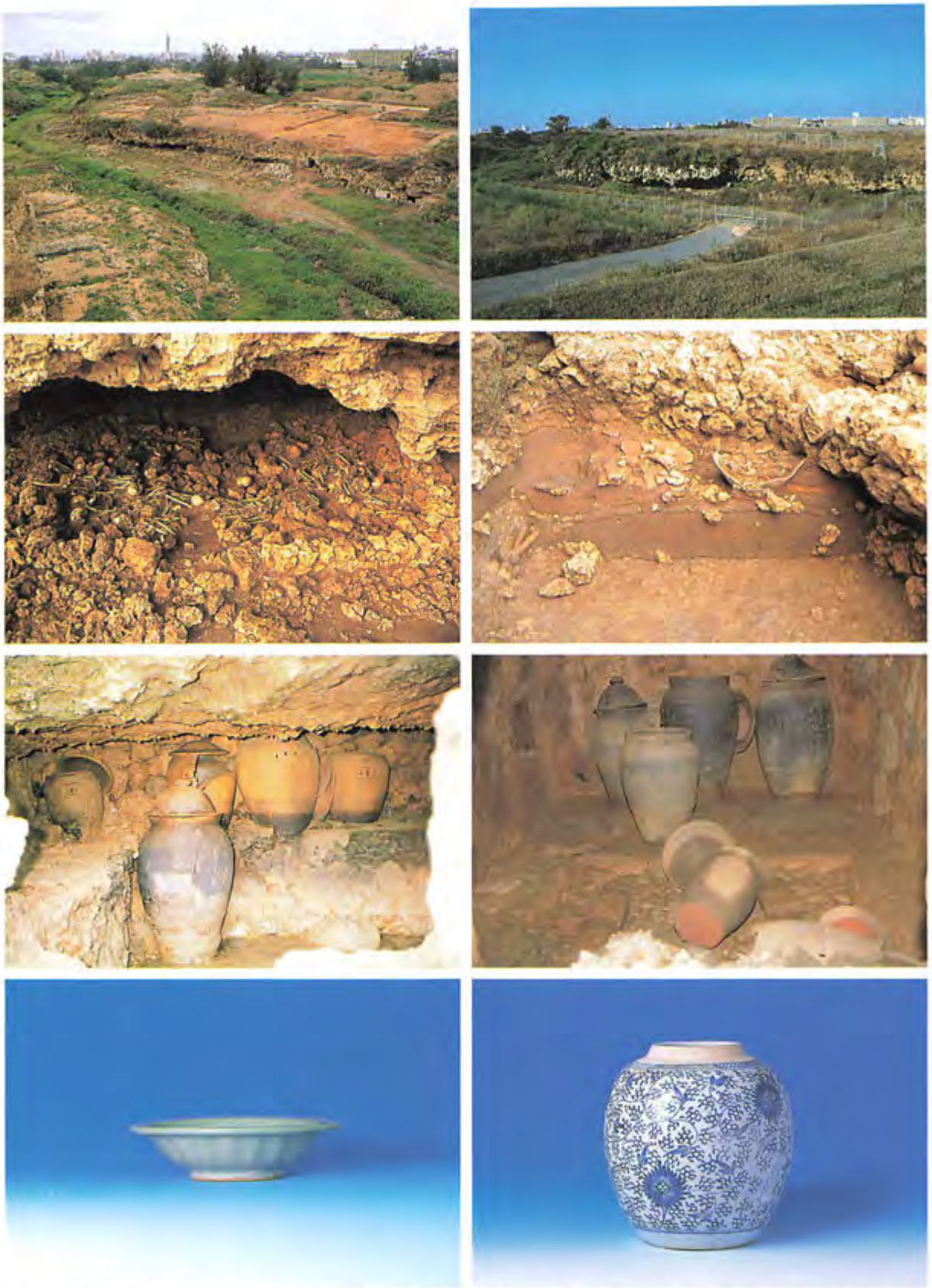
銘苅古墓群（I）

－ 那覇新都心土地区画整理事業に伴う緊急発掘調査報告Ⅴ －

1998年３月

那覇市教育委員会

巻首図版1　上：遺跡遠景（左がE地区、右がB地区）（南から）
中：遺跡遠景（左がB地区、右がE地区）（北から）
下：遺跡遠景（B地区）（西から）



巻首図版2　1段左：B地区（崖下）とヒヤジョー毛遺跡（崖上）　1段右：B地区の現状（フェンス内が保存地区）

2段左：B－4号の下位墓　2段右：B－49号の中位墓と下位墓（墓室内層序）

3段左：B－32号墓室内　3段右：B－12号墓室内

4段左：B－43号墓室内出土の青磁双魚文皿　4段右：B－12号墓庭出土の青花壺

序

この報告書は、地域振興整備公団（総裁　工藤敦夫）の「那覇新都心土地区画整理事業」に伴って実施された、銘苅古墓群南地区内のＢ地区およびＥ地区の緊急発掘調査の成果を収録したものです。

本遺跡は1990年７月から調査開始された、那覇新都心土地区画整理事業に係る最初の発掘調査の一部であります。

遺跡は1950年代の米軍施設建設でかなり破壊されていましたが、全体で約９万㎡という広大な面積にもおよぶ範囲から、約200基の古墓が思いのほか良好な状態で姿を現しました。これだけ大規模な遺跡は那覇市においてはかつてないもので、得られた資料も質量ともに膨大なものがありました。したがって発掘調査はもとより資料整理においても多くの時間と労力をかけたものとなりました。

詳細については報文にもあるとおり、今回はこの内のＢ地区とＥ地区についての報告となりますが、崖下半洞穴囲込・掘り込み（フインチャー）・破風・亀甲など、各形式の大小様々な墓が、また、これらの遺構からは厨子甕などの蔵骨器をはじめとする多種多様な遺物が出土しております。以上の成果により、墓群のおおよその時間の経過をみることができるとともに、15・16世紀以降中近世の沖縄の葬墓制の変遷を語るうえで貴重な資料となるものです。

末尾になりましたが、本事業にご協力頂いた関係者各位に深く感謝申し上げるとともに、本書が文化財愛護思想の高揚や諸開発計画における保存協議の円滑な推進への寄与など、多くの方々に活用されることを期待するものであります。

1998年３月

那覇市教育委員会
教育長　嘉手納　是　敏

例　言

1．本書は、那覇市教育委員会が地域振興整備公団（総裁　工藤敦夫）の委託を受けて、平成２年度から同８年度にかけて実施した「銘苅古墓群南地区緊急発掘調査」の成果を収録したものである。

2．出土人骨については、琉球大学医学部土肥直美氏（琉球大学医学部助教授）・北條眞子氏（同非常勤）から玉稿を賜った（第VI章）。記して感謝申し上げる。

3．発掘調査にあたっては、下記の方々の指導・助言を得た。記して感謝申し上げる。

平敷　令治（沖縄国際大学学長）
名嘉真宜勝（読谷村立歴史民俗資料館館長）
松下　孝幸（土井ケ浜遺跡人類学ミュージアム館長）
中村　　愿（北谷町教育委員会社会教育課主査）

4．本報告書の執筆は下記のとおりである。なお、編集は主に金武があたった。

金武　正紀（那覇市教育委員会文化課長）第Ｖ章　第１節、第VII章
島　　弘（　　〃　　主事）第Ｖ章　第４節
内間　　靖（　　〃　　〃　）第III章　第１節、第IV章　第１節、
第Ｖ章　第３・５節
玉城　安明（　　〃　　〃　）第Ｉ～IV章
仲宗根　啓（　　〃　　〃　）第Ｖ章　第６節
當間　麻子（　　〃　　〃　）第Ｖ章　第７節
山城　直子（　　〃　調査指導員）第Ｖ章　第２節
土肥　直美（琉球大学医学部助教授）第VI章

5．資料整理は下記のメンバーで行った。

洗浄・注記：中村フサ子　砂川久代　洲鎌園子　成底光代　石川小百合　赤嶺明子　外間まゆみ
儀間律子　大城ますみ　島袋春美　与古田絵美　小那覇美恵子　嵩原真喜子
分類・集計：城間千栄子　大城弘子　山城直子　野村知子　宮城友美　富島靖子　徳嶺明子
栗山初美　びしょっぷ利恵子　津波古清美　永田靖子　饒平名淳子　狩俣亜希子
花城美智子　内間渚佐　大城末子　喜屋武朋子　比嘉君子　友利江美子
具志みどり　大城久美子　砂川貴子　城間久美子　崎浜貴子　阿部直子　下地初枝
吉嶺末子
実　　測：城間千栄子　山城直子　金城礼子　具志みどり　早川ルリ子　徳嶺明子
福里ひろみ　宮良文子　外間まゆみ　成底光代　儀間律子　宮城かの子
宮城みさ子　知念美智子　赤嶺和美　びしょっぷ利恵子　伊計めぐみ　名嘉真由美
宮城友美　富島靖子　曽木菊枝　上原章子　鈴木もえ子　請盛智秋　友利江美子
島袋明子　伊良波房子　高良チカ子　浦崎順子　国吉由起枝　慶田秀美　野村知子

大城久美子　内間渚佐　仲里志麻子　大城末子　冨里順子　島袋春美　沢岻永子
城間美登里　国吉成子　富山園美　大城弘子　仲松勝枝

トレース　：宮城みさ子　鈴木もえ子　曽木菊枝　宮良文子　宮城かの子　西銘定子　内間浩子

復　　元：高良チカ子　具志みどり　砂川貴子　上原章子　内間渚佐　新原理奈　東恩納孝子
山下真利子　大城亜姫代　富島靖子　国吉美奈子　勝連紋子　びしょっぷ利恵子

表　・　図：城間千栄子　大城弘子　栗山初美　宮良文子　野村知子　具志みどり　名嘉真由美
早川ルリ子　冨山維佐子　勝連紋子　砂川貴子　富島靖子　内間渚佐　友利江美子
鈴木もえ子　曽木菊枝　宮城友美　島袋明子

拓　　本：上原章子　徳嶺明子　比嘉君子　びしょっぷ利恵子　早川ルリ子

写真撮影・現像・焼付・図版：金武正紀　栗山初美　赤嶺知子　冨山維佐子　勝連紋子
徳嶺明子　知念美智子　国吉美奈子　新原理奈　砂川貴子　津波古清美　上原章子
大城亜姫代　喜屋武朋子　山下真利子　富島靖子　野村知子　名嘉真由美
早川ルリ子　具志みどり

6．遺物実測図と写真の番号は一致するように配置してある。

報告書抄録

ふりがな	めかるこぼぐん
書名	銘苅古墓群（Ⅰ）
副書名	那覇新都心土地区画整理事業に伴う緊急発掘調査報告Ⅴ
巻次	
シリーズ名	那覇市文化財調査報告書
シリーズ番号	第39集
編著者名	金武正紀　島　弘　内間靖　玉城安明　仲宗根啓　當間麻子　山城直子　土肥直美
編集機関	那覇市教育委員会文化課
所在地	〒900-8553　沖縄　都道府㊥県　那覇市樋川2-8-8　TEL　098-853-5775
発行年月日	西暦　1998年　3　月　13日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
銘苅古墓群 南(B・E)地区	那覇市大字 銘苅 小字銘苅原 小字名護松 尾原	47201		26度 13分 35秒	127度 42分 5秒	1990 07 ～ 1996 10	20,800	地域振興整備公団の土地区画整理事業に伴う緊急発掘

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
銘苅古墓群 南(B・E)地区	古墓	15・16世紀 17世紀以降	囲込岩陰墓 掘込墓 亀甲墓	専用蔵骨器 転用蔵骨器 瓦証文 墓誌 沖縄産陶器 中国産陶磁器 本土産陶磁器 銭貨 金属製品	

目　次

序
例言
報告書抄録
第Ⅰ章　調査に至る経緯 …… 1
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境 …… 1
第Ⅲ章　調査経過と調査組織 …… 4
　第1節　調査経過 …… 4
　第2節　調査組織 …… 5
第Ⅳ章　遺　構 …… 9
　第1節　B地区の古墓 …… 9
　第2節　E地区の古墓 …… 9
　第3節　E地区の井戸 …… 71
第Ⅴ章　遺　物 …… 72
　第1節　蔵骨器 …… 72
　　1．専用蔵骨器 …… 72
　　2．転用蔵骨器 …… 74
　第2節　沖縄産施釉陶器 …… 138
　　1．B地区の施釉陶器 …… 138
　　2．E地区の施釉陶器 …… 161
　第3節　沖縄産無釉陶器 …… 178
　　1．B地区の無釉陶器 …… 178
　第4節　瓦証文、墓誌、中国陶磁器、陶質土器ほか …… 185
　　1．B地区の瓦証文、窯道具、中国陶磁器、陶質土器、円盤状製品、陶製品 …… 185
　　2．E地区の墓誌、窯道具、中国陶磁器、陶質土器、円盤状製品 …… 200
　第5節　銭貨 …… 207
　　1．B地区の銭貨 …… 207
　　2．E地区の銭貨 …… 217
　第6節　金属製品 …… 221
　　1．B地区の金属製品 …… 221
　　2．E地区の金属製品 …… 224
　第7節　本土産陶磁器 …… 228
　　1．B地区の本土産陶磁器 …… 228
　　2．E地区の本土産陶磁器 …… 233
第Ⅵ章　那覇市銘苅古墓群南（B・E）地区出土の人骨 …… 235
第Ⅶ章　総　括 …… 253

挿図目次

第１図　那覇市の位置
第２図　銘苅古墓群及び那覇市内の主な古墓群 …3
第３図　銘苅古墓群南地区 ……6
第４図　Ｂ・Ｅ地区の古墓群 ……7
第５図　銘苅古墓群（南・Ｂ地区）４号墓…10
第６図　銘苅古墓群（南・Ｂ地区）５号墓…11
第７図　銘苅古墓群（南・Ｂ地区）６号墓…12
第８図　銘苅古墓群（南・Ｂ地区）７号墓…13
第９図　銘苅古墓群（南・Ｂ地区）８号墓…14
第10図　銘苅古墓群（南・Ｂ地区）10号墓…15
第11図　銘苅古墓群（南・Ｂ地区）11号墓…16
第12図　銘苅古墓群（南・Ｂ地区）12号墓…17
第13図　銘苅古墓群（南・Ｂ地区）13号墓…18
第14図　銘苅古墓群（南・Ｂ地区）13号墓…19
第15図　銘苅古墓群（南・Ｂ地区）14号墓…20
第16図　銘苅古墓群（南・Ｂ地区）14号墓…21
第17図　銘苅古墓群（南・Ｂ地区）16号墓…22
第18図　銘苅古墓群（南・Ｂ地区）17号墓…23
第19図　銘苅古墓群（南・Ｂ地区）18号墓…24
第20図　銘苅古墓群（南・Ｂ地区）19号墓…25
第21図　銘苅古墓群（南・Ｂ地区）19号墓…26
第22図　銘苅古墓群（南・Ｂ地区）20号墓…27
第23図　銘苅古墓群（南・Ｂ地区）21号墓…28
第24図　銘苅古墓群（南・Ｂ地区）22号墓…29
第25図　銘苅古墓群（南・Ｂ地区）23号墓…30
第26図　銘苅古墓群（南・Ｂ地区）24号墓…31
第27図　銘苅古墓群（南・Ｂ地区）25号墓…32
第28図　銘苅古墓群（南・Ｂ地区）26号墓…33
第29図　銘苅古墓群（南・Ｂ地区）28号墓…34
第30図　銘苅古墓群（南・Ｂ地区）29号墓…35
第31図　銘苅古墓群（南・Ｂ地区）30号墓…36
第32図　銘苅古墓群（南・Ｂ地区）31号墓…37
第33図　銘苅古墓群（南・Ｂ地区）32号墓…38
第34図　銘苅古墓群（南・Ｂ地区）36号墓…39
第35図　銘苅古墓群（南・Ｂ地区）38号墓…40
第36図　銘苅古墓群（南・Ｂ地区）43号墓…41
第37図　銘苅古墓群（南・Ｂ地区）44号墓…42
第38図　銘苅古墓群（南・Ｂ地区）46号墓…43
第39図　銘苅古墓群（南・Ｂ地区）47号墓…44
第40図　銘苅古墓群（南・Ｂ地区）49号墓…45
第41図　銘苅古墓群（南・Ｂ地区）50号墓…46
第42図　銘苅古墓群（南・Ｅ地区）１号墓…47
第43図　銘苅古墓群（南・Ｅ地区）２号墓…48
第44図　銘苅古墓群（南・Ｅ地区）３号墓…49
第45図　銘苅古墓群（南・Ｅ地区）４号墓…50
第46図　銘苅古墓群（南・Ｅ地区）５号墓…51
第47図　銘苅古墓群（南・Ｅ地区）６号墓…52
第48図　銘苅古墓群（南・Ｅ地区）７号墓…53
第49図　銘苅古墓群（南・Ｅ地区）８号墓…54
第50図　銘苅古墓群（南・Ｅ地区）11号墓…55
第51図　銘苅古墓群（南・Ｅ地区）12号墓…56
第52図　銘苅古墓群（南・Ｅ地区）13号墓…57
第53図　銘苅古墓群（南・Ｅ地区）14号墓…58
第54図　銘苅古墓群（南・Ｅ地区）15号墓…59
第55図　銘苅古墓群（南・Ｅ地区）17号墓…60
第56図　銘苅古墓群（南・Ｅ地区）19号墓…61
第57図　銘苅古墓群（南・Ｅ地区）21号墓…62
第58図　銘苅古墓群（南・Ｅ地区）22号墓…63
第59図　銘苅古墓群（南・Ｅ地区）23号墓…64
第60図　銘苅古墓群（南・Ｅ地区）24号墓…65
第61図　銘苅古墓群（南・Ｅ地区）25号墓…66
第62図　銘苅古墓群（南・Ｅ地区）26号墓…67
第63図　銘苅古墓群（南・Ｅ地区）27号墓…68
第64図　銘苅古墓群（南・Ｅ地区）28号墓…69
第65図　銘苅古墓群（南・Ｅ地区）30号墓…70
第66図　銘苅古墓群（南・Ｅ地区）の井戸…71
第67図　石製家形蔵骨器〔Ｂ地区〕 ……89
第68図　陶製家形蔵骨器〔Ｂ地区〕：素焼
焼締…90
第69図　〃　：焼締 ……91
第70図　〃　：施釉 ……92
第71図　〃　：施釉、素焼 ……93
第72図　陶製無頸甕形蔵骨器〔Ｂ地区〕 ……94
第73図　〃 ……95
第74図　〃 ……96

第 75図　陶製無頸甕形蔵骨器〔B地区〕 …97
第 76図　〃 …98
第 77図　〃 …99
第 78図　陶製有頸甕形蔵骨器〔B地区〕 …100
第 79図　〃 …101
第 80図　〃 …102
第 81図　〃 …103
第 82図　陶製有頸甕形蔵骨器
陶製軒付甕形蔵骨器〔B地区〕 …104
第 83図　転用蔵骨器〔B地区〕 ……105
第 84図　〃 ……106
第 85図　石製家形蔵骨器〔E地区〕 ……111
第 86図　陶製家形蔵骨器〔E地区〕:素焼
施釉 …112
第 87図　陶製無頸甕形蔵骨器〔E地区〕 …113
第 88図　陶製有頸甕形蔵骨器〔E地区〕 …114
第 89図　陶製有頸甕形蔵骨器
陶製軒付甕形蔵骨器〔E地区〕 …115
第 90図　陶製軒付甕形蔵骨器、陶製小型軒付
甕形蔵骨器〈施釉〉〔E地区〕 ……116
第 91図　転用蔵骨器〔E地区〕 ……117
第 92図　沖縄産施釉陶器〔B地区〕：碗 …149
第 93図　〃 ：〃 ……150
第 94図　〃 ：碗、小碗 ……151
第 95図　〃 ：小碗、蓋付碗 …152
第 96図　〃 ：皿、鉢、水鉢 ……153
第 97図　〃 ：瓶 ……154
第 98図　〃 ：〃 ……155
第 99図　〃 ：〃 ……156
第100図　〃 ：瓶、酒注 ……157
第101図　〃 ：水注、あんびん …158
第102図　〃 ：火入れ、鍋、火炉
灯明具、香炉 …159
第103図　〃 ：小壺、猪口、煙管…160
第104図　沖縄産施釉陶器〔E地区〕：碗 …168
第105図　〃 ：碗、小碗 ……169
第106図　〃 ：小碗、蓋付碗
皿、鉢 ……170
第107図　沖縄産施釉陶器〔E地区〕：瓶 …171
第108図　〃 ：〃 ……172
第109図　〃 ：〃 ……173
第110図　〃 ：瓶、酒注 ……174
第111図　〃 ：水注、火入れ …175
第112図　〃 ：火炉、香炉 ……176
第113図　〃 ：猪口、煙管 ……177
第114図　沖縄産無釉陶器〔B地区〕：蓋、小皿
火入れ、火炉、瓶、
溲瓶 ……182
第115図　〃 ：徳利 ……183
第116図　〃 ：煙管 ……184
第117図　瓦証文、窯道具〔B地区〕 ……193
第118図　中国陶磁器〔B地区〕：青磁、青花
色絵 ……194
第119図　〃 ：天目、褐釉陶器 …195
第120図　陶質土器〔B地区〕：鍋 ……196
第121図　〃 ：土瓶、灯明皿、炉…197
第122図　円盤状製品〔B地区〕 ……198
第123図　陶製品〔B地区〕：土鈴、人形 …199
第124図　墓誌、窯道具〔E地区〕 ……203
第125図　中国陶磁器〔E地区〕：白磁、青磁
青花、人形 …204
第126図　陶質土器〔E地区〕：鍋、灯明皿、炉…205
第127図　円盤状製品〔E地区〕 ……206
第128図　銭貨〔B地区〕 ……211
第129図　〃 ……212
第130図　〃 ……213
第131図　〃 ……214
第132図　〃 ……215
第133図　〃 ……216
第134図　銭貨〔E地区〕 ……219
第135図　〃 ……220
第136図　金属製品〔B地区〕：煙管、簪
指輪、釘 …223
第137図　金属製品〔E地区〕：煙管、簪
指輪、釘 …226
第138図　金属製品〔E地区〕：鏡 ……227

第139図　本土産陶磁器〔B地区〕：碗……231
第140図　〃　：〃……232
第141図　未成人骨の割合……240
第142図　銘苅南BE人骨と周辺集団の比較…242
第143図　E地区5号墓出土人骨……248
第144図　E地区13号墓出土人骨……249
第145図　E地区17号墓出土人骨……250
第146図　E地区23号墓出土人骨……251

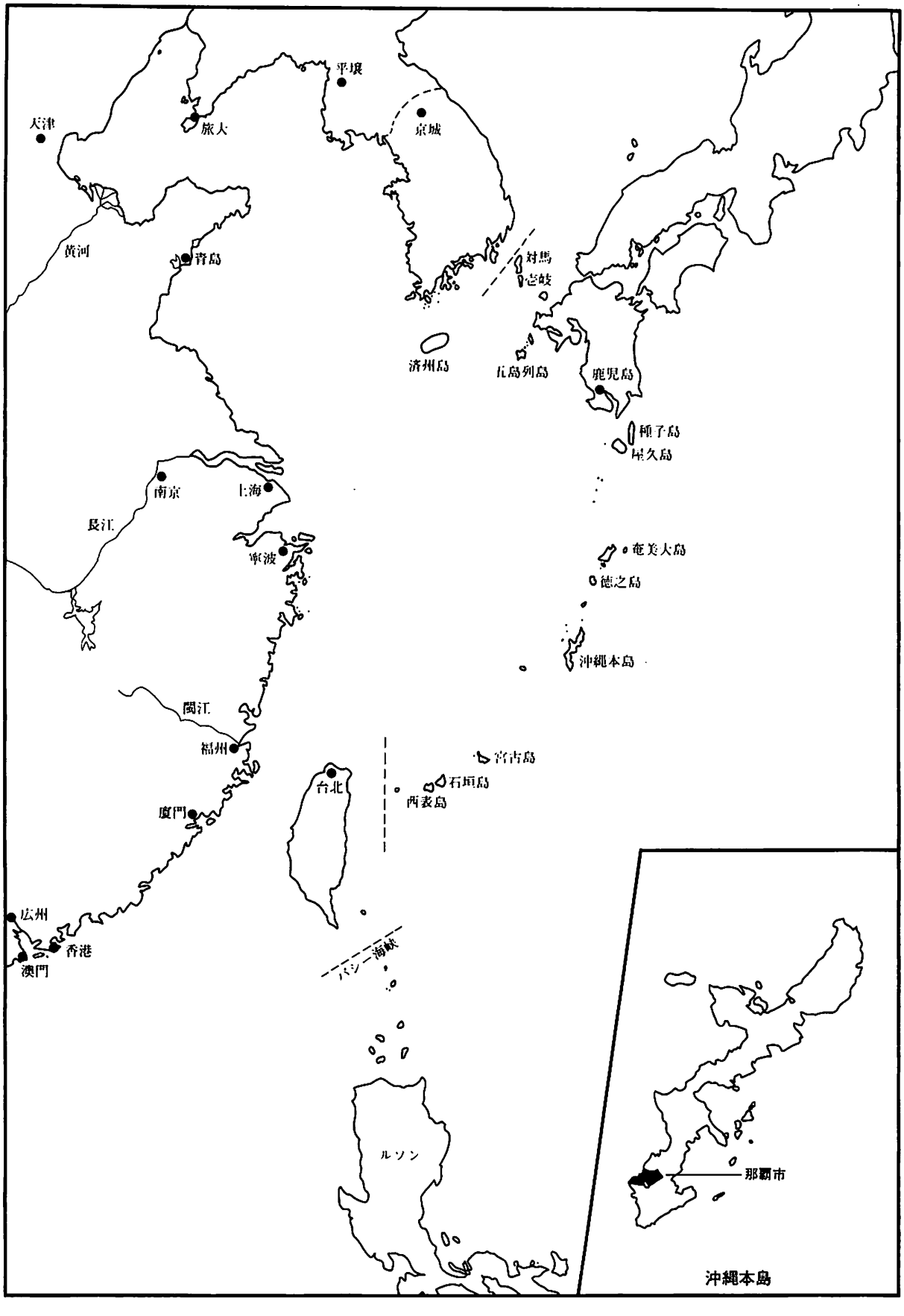
挿表目次

第1表　蔵骨器分類表……72
第2表　B地区蔵骨器集計一覧……76
第3表　E地区蔵骨器集計一覧……78
第4表　B地区蔵骨器観察一覧……80
第5表　E地区蔵骨器観察一覧……107
第6表　B地区ミガチ（銘書）のある蔵骨器観察一覧……118
第7表　E地区ミガチ（銘書）のある蔵骨器観察一覧……130
第8表　B地区施釉陶器観察一覧……143
第9表　E地区施釉陶器観察一覧……163
第10表　B地区蓋・小皿・火入れ・火炉瓶・溲瓶観察一覧……179
第11表　B地区徳利観察一覧……180
第12表　B地区煙管観察一覧……181
第13表　窯道具出土一覧……185
第14表　B地区陶質土器観察一覧……189
第15表　円盤状製品出土一覧……190
第16表　B地区円盤状製品種類・大きさ別出土状況……190
第17表　B地区円盤状製品計測一覧……191
第18表　B地区人形観察一覧……192
第19表　E地区陶質土器観察一覧……202
第20表　E地区円盤状製品種類・大きさ別出土状況……202
第21表　E地区円盤状製品計測一覧……191
第22表　B地区出土銭貨集計一覧……207
第23表　B地区出土銭貨観察一覧……208
第24表　B地区出土銭貨観察一覧……209
第25表　〃……210
第26表　E地区出土銭貨集計一覧……217
第27表　E地区出土銭貨観察一覧……217
第28表　〃……218
第29表　B地区金属製品集計一覧……221
第30表　B地区金属製品観察一覧……222
第31表　E地区金属製品集計一覧……224
第32表　E地区金属製品観察一覧……225
第33表　B地区本土産陶磁器観察一覧……230
第34表　B・E地区出土人骨の構成……236
第35表　頭蓋主要計測値……242
第36表　上腕骨計測値（男性）……243
第37表　上腕骨計測値（女性）……243
第38表　尺骨計測値（男性）……243
第39表　尺骨計測値（女性）……244
第40表　橈骨計測値（男性）……244
第41表　橈骨計測値（女性）……244
第42表　大腿骨計測値（男性）……245
第43表　大腿骨計測値（女性）……245
第44表　脛骨計測値（男性）……246
第45表　脛骨計測値（女性）……246
第46表　推定身長（ピアソンの式より）…246

図版目次

PL. 1　遺跡一帯の空中写真
PL. 2　銘苅古墓群遠景
PL. 3　銘苅古墓群遠景
PL. 4　B地区古墓
PL. 5　〃
PL. 6　〃
PL. 7　〃
PL. 8　〃
PL. 9　E地区古墓
PL. 10　〃
PL. 11　E地区古墓と井戸
PL. 12　石製家形蔵骨器〔B地区〕
PL. 13　陶製家形蔵骨器〔B地区〕

PL. 14　陶製家形蔵骨器〔B地区〕
PL. 15　〃
PL. 16　〃
PL. 17　陶製無頸甕形蔵骨器〔B地区〕
PL. 18　〃
PL. 19　〃
PL. 20　〃
PL. 21　〃
PL. 22　〃
PL. 23　陶製有頸甕形蔵骨器〔B地区〕
PL. 24　〃
PL. 25　〃
PL. 26　〃
PL. 27　陶製有頸甕形蔵骨器
　　陶製軒付甕形蔵骨器〔B地区〕
PL. 28　転用蔵骨器〔B地区〕
PL. 29　転用蔵骨器〔B地区〕
PL. 30　石製家形蔵骨器〔E地区〕
PL. 31　陶製家形蔵骨器〔E地区〕
PL. 32　陶製無頸甕形蔵骨器〔E地区〕
PL. 33　陶製有頸甕形蔵骨器〔E地区〕
PL. 34　陶製有頸甕形蔵骨器
　　陶製軒付甕形蔵骨器〔E地区〕
PL. 35　陶製軒付甕形蔵骨器、陶製小型
　　軒付甕形蔵骨器〈施釉〉〔E地区〕
PL. 36　転用蔵骨器〔E地区〕
PL. 37　沖縄産施釉陶器〔B地区〕
PL. 38　〃
PL. 39　〃
PL. 40　〃
PL. 41　〃
PL. 42　〃
PL. 43　〃
PL. 44　〃
PL. 45　〃
PL. 46　〃
PL. 47　〃
PL. 48　沖縄産施釉陶器〔B地区〕
PL. 49　沖縄産施釉陶器〔E地区〕
PL. 50　〃
PL. 51　〃
PL. 52　〃
PL. 53　〃
PL. 54　〃
PL. 55　〃
PL. 56　〃
PL. 57　〃
PL. 58　〃
PL. 59　沖縄産無釉陶器〔B地区〕
PL. 60　〃
PL. 61　〃
PL. 62　瓦証文、窯道具〔B地区〕
PL. 63　中国陶磁器〔B地区〕
PL. 64　〃
PL. 65　陶質土器〔B地区〕
PL. 66　〃
PL. 67　円盤状製品〔B地区〕
PL. 68　陶製品〔B地区〕
PL. 69　墓誌、窯道具〔E地区〕
PL. 70　中国陶磁器〔E地区〕
PL. 71　陶質土器〔E地区〕
PL. 72　円盤状製品〔E地区〕
PL. 73　銭貨〔B地区〕
PL. 74　〃
PL. 75　〃
PL. 76　〃
PL. 77　〃
PL. 78　〃
PL. 79　銭貨〔E地区〕
PL. 80　〃
PL. 81　金属製品〔B地区〕
PL. 82　金属製品〔E地区〕
PL. 83　〃
PL. 84　本土産陶磁器〔B地区〕
PL. 85　〃


平壌
天津
旅大
京城
黄河
青島
対馬
壱岐
済州島
五島列島
鹿児島
種子島
屋久島
南京
上海
長江
寧波
奄美大島
徳之島
沖縄本島
閩江
福州
宮古島
台北
石垣島
西表島
厦門
広州
香港
澳門
バシー海峡
ルソン
那覇市
沖縄本島

第１図　那覇市の位置

銘苅古墓群南（B・E）地区発掘調査報告書

第Ⅰ章　調査に至る経緯

本古墓群の所在する一帯は1951（昭和26）年に米軍に接収され、主に米軍住宅施設として約30年余に亘り使用されていた地域である。その後同地域は、1973・74（昭和48・49）年の日米安全保障協議委員会での返還合意に基づき1987（昭和62）年に全域が解放され、一般に「天久解放地」と称されている。

同地域は、地域振興整備公団（以下、公団）によって「那覇新都心土地区画整理事業」が計画され、那覇市教育委員会（以下、市教委）では1987（昭和62）年から1989（平成元）年にかけて埋蔵文化財の分布調査および試掘調査を実施した。その結果九ヶ所の遺跡が確認された。この内、古墓群は同地域を流れる銘苅川（メカルガーラ）・大湾川（オオワンガーラ）と、両川が合流した多和田川（ータガーラ）それぞれ両岸の琉球石灰岩崖下に多数分布していることが確認された。これらの古墓群を「南Ａ～Ｇ地区」（銘苅・大湾川一帯）と「北Ａ～Ｄ地区」（多和田川一帯）に大きく区分し、市教委では区画整理事業を進めている公団からの委託を受け、「南Ａ地区」より緊急発掘調査を開始した。今回報告する古墓群は「南地区」内の銘苅川両岸に位置し、東岸を「Ｂ地区」西岸を「Ｅ地区」と称するエリアである。

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

銘苅古墓群南地区は那覇市大字銘苅に所在する。

那覇市は東中国海に面した沖縄本島南西部にあって、東西約11km、南北約８kmを測る総面積37．89km²のほぼ三角形を呈した都市で、県内人口の約１／４を擁する沖縄の政治・経済の中心地である。

本市は北に浦添市、東に西原町、東南に南風原町、南に豊見城村に隣接し、これら他市町村に接する地域、天久・首里・識名・小禄などは微高台地が形成され、一方、東中国海側の旧那覇と真和志の一部では標高２～10mの沖積平野部となっている。つまり市のほぼ中央の低地を取り囲むかたちで縁辺部は高台となっている訳で、これらの高台からは国場川・ガーブ川・安里川・安謝川等の各河川が平野部を横切るように流れている。

ここで市内北方に目を遣ると、天久台地から東側の銘苅・古島方面へかけて広大な緑地が広がっている。俗に天久解放地と称される米軍住宅跡地である。1951年に米軍の施設用地として接収された214ヘクタールにも及ぶ広大な面積を持つここは、第Ⅰ章でも述べたとおり1973年の日米返還合意にもとづいて解放されたが、これまで開発の手が加えられなかったことで豊かな緑が残り、市内で野鳥の飛来が観察される数少ない所でもある。

現在解放地内には安謝・天久・銘苅の大字が含まれる。これらは王府時代に遡れば、王府直轄地として真和志間切（三ヶ字とも西原間切より編入）に含まれたところで、「琉球国旧記」巻之十、郡邑の条に天久邑と安謝邑の名がみえるなど、古い村落を擁する地域であった。明治41年村には間切から村へと行政組織が変更され、真和志村（後年1953年市に昇格）に属する。翌年安謝より銘苅が分離するが、この当時銘苅は首里士族出身者のヤードゥイ（屋取り）から発展した集落を中心としており、

首里との関係は深かったようである。真和志村は戦前までは甘藷栽培を中心とした農業の盛んな地域で、人口の増加しつつあった旧那覇の食料物資の供給地としての地位を占めていた。

その後沖縄戦を経て1957年に那覇市と合併する訳だが、この時点で大字の大部分はすでに米軍施設として接収されており、周りとは隔絶された地域となる。当然施設地内の住民は居住できず、墓も移転を余儀なくされた。しかし実際には移転の済んでいないと思われる物件も確認されており、土地収用が性急であった様子が窺える。

地質的には、発達した琉球石灰岩の露頭が認められ、これを取り込むかたちで島尻層群泥岩（クチャ）や琉球石灰岩風化土（島尻マージ）が分布する。また、地区内をほぼ南北に縦断して銘苅川が流れるが、その河川沿部では浸食性の段丘が形成されており、特に石灰岩部分では急峻な崖もみられるなど、比較的起伏に富んだ地勢となっている。この銘苅川は安謝川支流であるが、上流地区内で分岐しており、地元ではその名称が異なる。即ち古島方面からの流れをメカルガーラ（銘苅川）、真嘉比方面からの流れをオオワンガーラ（大湾川）と呼んでおり、両者は途中で合流してタータガーラ（多和田川）と呼び名を変え、最終的に安謝川へと注がれる訳である。銘苅古墓群南地区はこのメカルガーラ・オオワンガーラ流域を中心に形成された墓域の総称で、これらはＡ～Ｇ地区の各支群からなる。先述のメカルガーラ沿いの東岸墓域をＢ地区、同じく西岸墓域がＥ地区である（第３・４図）。

ちなみに下流域のタータガーラ沿いには銘苅古墓群北地区がある。

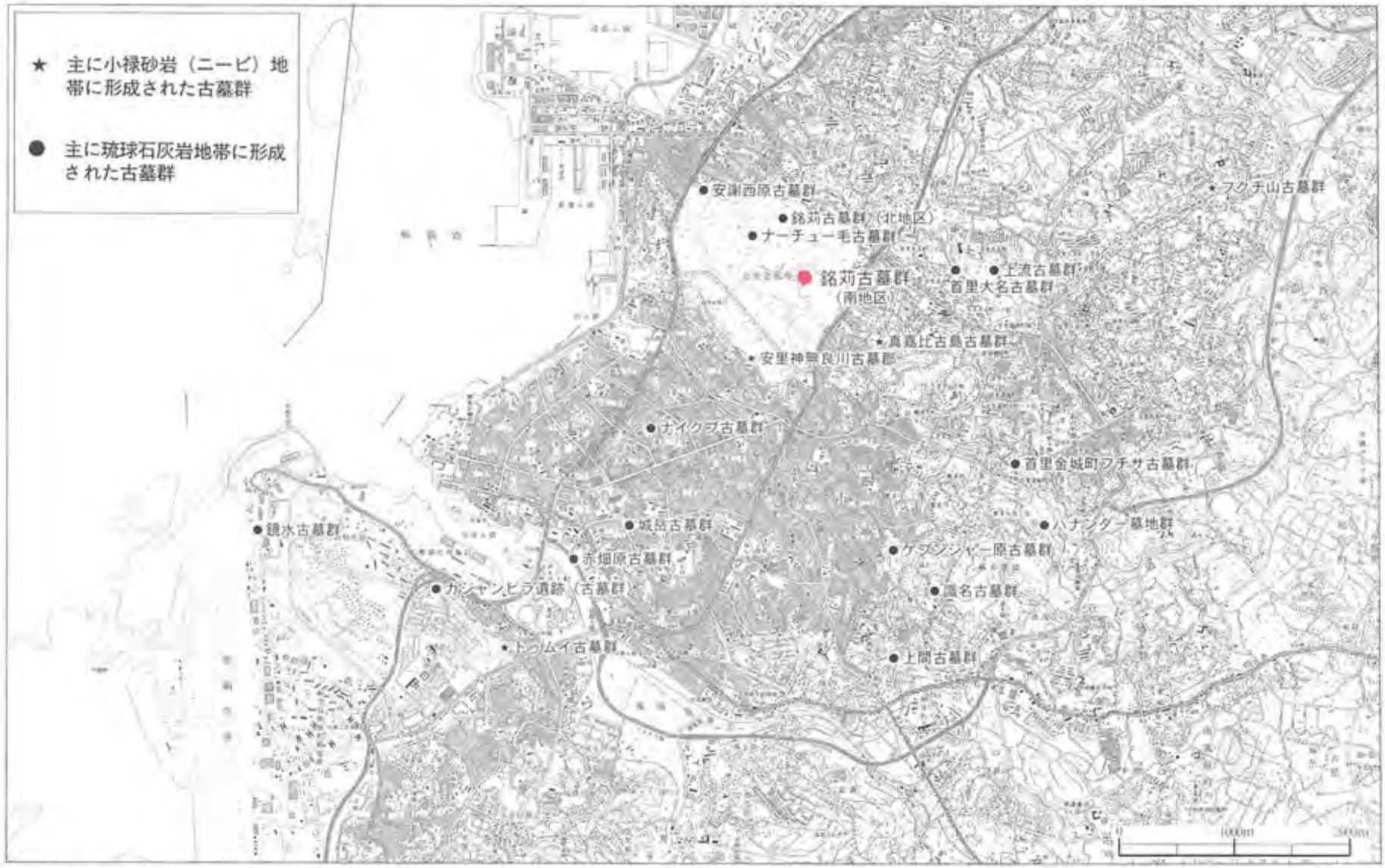
参考文献

『統計那覇』No102　那覇市　1996年２月

『那覇市史』通史篇第１巻　那覇市　昭和60年８月

『真和志市誌』真和志市　1956年２月

『銘苅古墓群（南地区）』埋蔵文化財発掘調査ニュースNo１　那覇市教育委員会　1992年１月



第2図　銘苅古墓群及び那覇市内の主な古墓群

第III章　調査経過と調査組織

第１節　調査経過

（Ｂ地区）

発掘調査は1990（平成２）年７月から実施された。本地区の古墓は、その殆どが米軍の造成で崖上より落とされた大量の土で覆われており、全体の状況を把握するにはかなりの時間と労力を要した。

調査は地区の北側一帯を中心に、バックホーを使用して大量に堆積した埋土を除去しながら基数の確認作業をすることから始めた。その後ある程度の遺構が露出した時点で、作業員を投入しての本格的な発掘調査を開始した。古墓は検出順に番号を付与しながら調査を行った（第４図参照）。古墓群が形成された石灰岩盤は永年の風化により脆い部分が多く、特に８号墓付近には大きな亀裂と併せて前方の埋土が除去されたため、一時川の方向へ巨大な岩盤がずれ動くことがあった。このため崖下や墓室内での作業は慎重を期しながらの調査となった。本地区では分布調査及び試掘調査の時点で20基程度の墓が確認されていたが、発掘調査範囲が広がるにつれ古墓の基数が増し、最終的には当初の倍を超える52基の古墓が検出された。これらの中で、４号墓と47号墓の風葬墓は埋葬の変遷を追うことのできる古墓として県内外でも注目されるものであった。４号墓検出の人骨については長崎大学医学部と共に慎重かつ詳細な調査を実施し、最終的に36体を取り上げ同大学に鑑定を依頼した。また調査期間中の10月には調査成果を広く一般の人々に公開するために、2日間にわたって現場説明会を実施した。古墓より出土した遺物は原位置を保っていると考えられるものを優先し、特に蔵骨器についてはその配置状況の略図と番号を付与して取り上げた。各古墓の実測図は写真測量により業者へ委託して作成した。古墓群完掘後に全景の写真撮影を行い調査を完了した。

（Ｅ地区）

発掘調査にあたってはまず、バックホーを使用して、崖下斜面部に堆積した土砂の除去作業から着手した。事前の現地踏査で確認されていた墓を中心に土砂の除去を行い、おおよその遺構が確認された時点で手掘りでの掘り方作業へ切り換えた。崖上からの土砂の流入は著しく、また場所によっては高低差が10m近くもあるため搬出した土量は膨大なものとなった。土砂のなかには崩落した岩盤やまた明らかに戦後の廃材等も多量に確認されたことから、当初からこれらの殆どは米軍施設建設時によるものと考えられた。実際施設建設作業に従事した人の話もあり、大規模な土地改変が行われたことが明らかとなった。なお、不発弾の発見等もあって、作業は慎重に行った。

本地区では当初10基前後の墓が確認されていたが、除去作業が進むにつれその範囲がひろがり、最終的には34基の遺構が検出された。

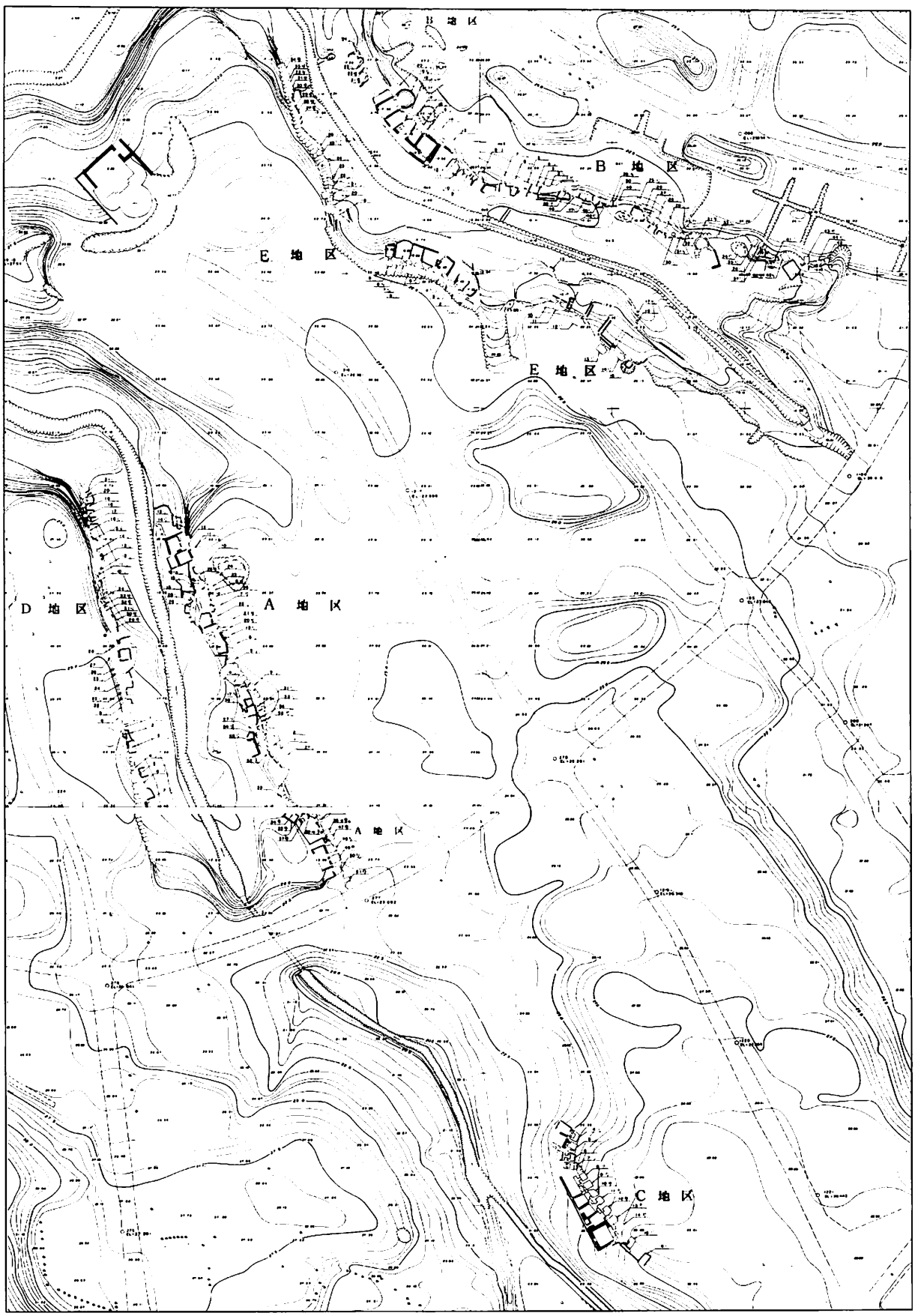
遺構面は後世の改変を極力取り除き本来のプランの確認に努めた。また墓庭あるいは墓室内にて原位置を保っていると思われる遺物を優先して取り上げた。遺構検出後写真撮影を行い、また実測については業者に写真測量を委託。調査を完了した。

第2節　調査組織

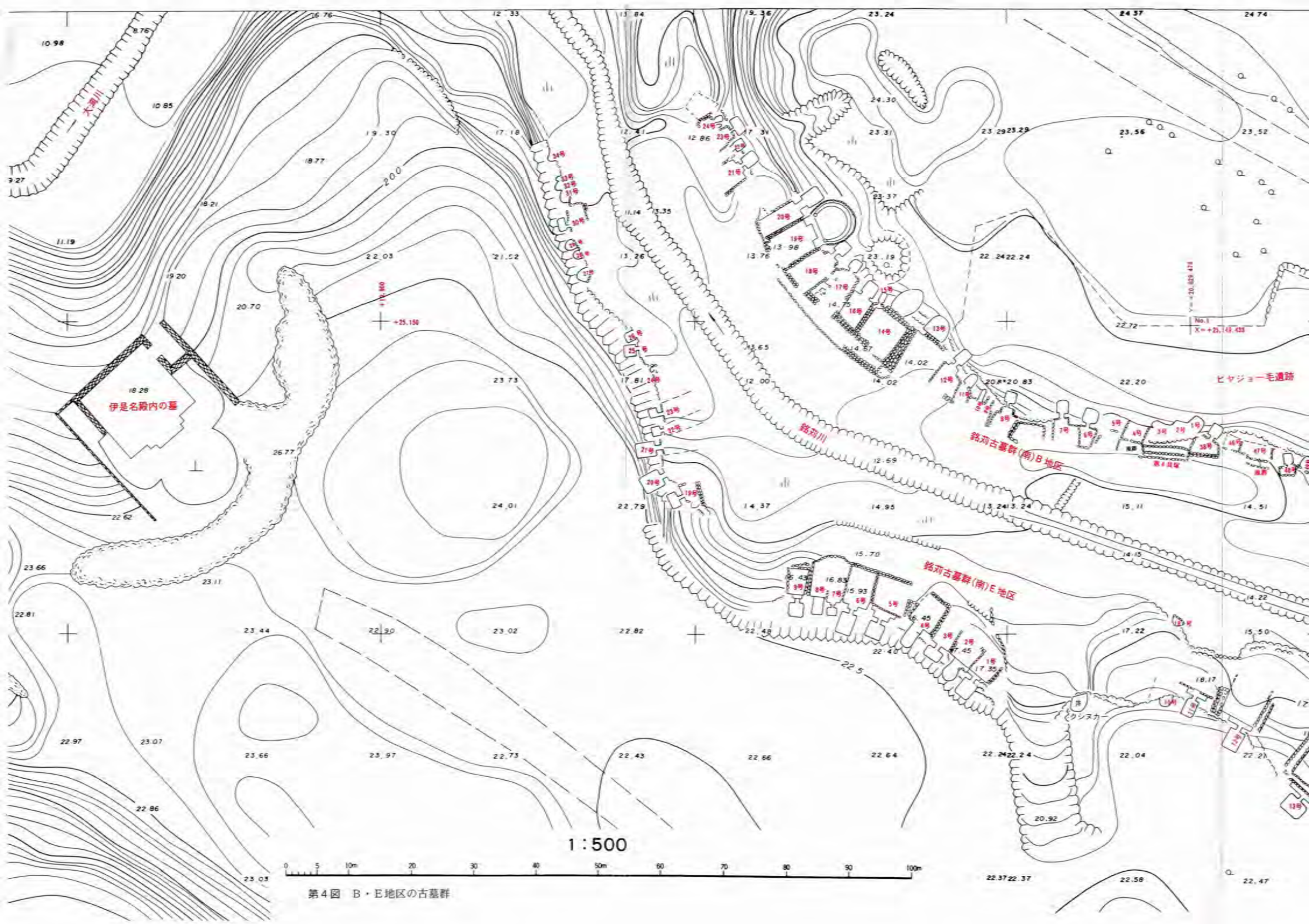
本遺跡の調査組織は次のとおりである。

調査責任者	那覇市教育委員会	教育長	嘉手納　是　敏
〃	那覇市教育委員会文化課	課　長	浦　本　茂　則
		〃	仲　田　美加子（1991年度）
		〃	高江洲　　隆（1992年度以降）
調査　総括	〃	主　幹	金　武　正　紀
調査　事務	〃	係　長	新　城　和　範
〃	〃	主　事	手登根　　朗
〃	〃	〃	吉　峯　なおみ
〃	〃	〃	赤　嶺　優　子
〃	〃	〃	赤　嶺　知　子（臨時職員）
〃	〃	〃	野　村　知　子（　〃　）
調　査　員	〃	〃	島　　弘
〃	〃	〃	内　間　　靖
〃	〃	〃	玉　城　安　明
調査補助員	〃	〃	山　城　安　生（臨時職員）
〃	〃	〃	豊　里　友　哉（　〃　）
〃	〃	〃	山　城　直　子（　〃　）
〃	〃	〃	大　城　一　成（　〃　）
〃	〃	〃	渡久地　　真（　〃　）

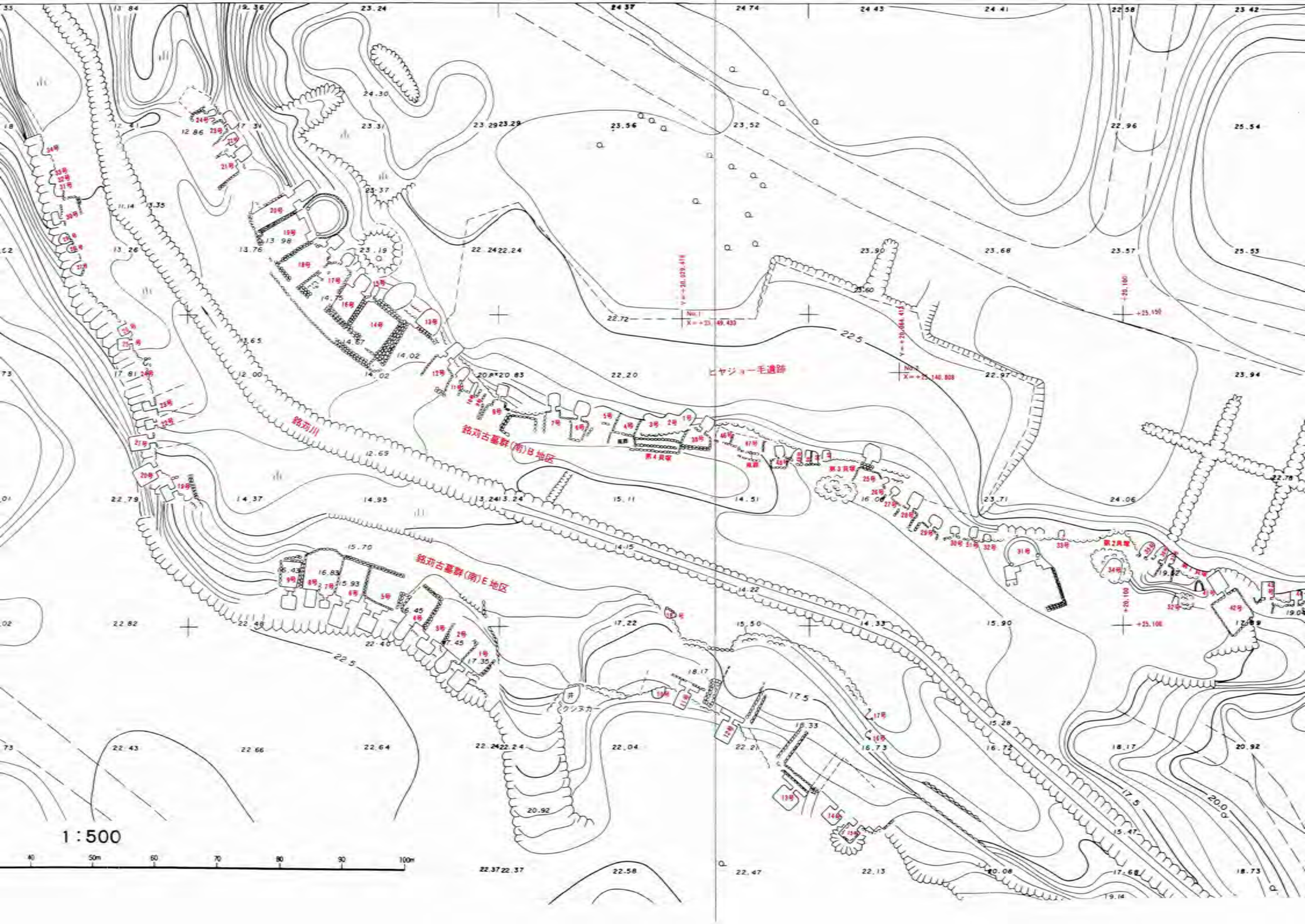
発掘調査作業員	安　里　セツ子	津波古　美津江	新　垣　安太郎	島　袋　節　子
嘉味田　千枝子	安次嶺　政　寿	洲　鎌　武　雄	國　頭　傳　三	桃　原　佐恵美
津波古　朝　子	宮　城　悦　子	平　良　ト　ヨ	比　嘉　ヨ　シ	新　垣　キ　ク
大　城　節　子	平安名　哲　子	新　垣　良　子	小　浜　信　子	新　垣　キ　ヨ
奥　浜　悦　子	新　里　準　子	玉　城　史　子	謝　敷　時　子	津波古　よし子
棚　原　ノリ子	上　地　ト　ミ	渡慶次　和　子	金　城　郁　恵	阿波根　栄　子
知　花　マサ子	兼　城　光　子	与那城　好　子	川　上　サツ子	照喜名　武　子
諸見里　豊　子	石　嶺　米　子	呉　屋　　救	金　城　春　江	伊　禮　ヒロ子
並　里　富　子	新　垣　シゲ子	小橋川　徳　子	新　垣　ヒ　デ	羽　地　恵　雄
新　里　榮　男	喜舎場　盛　安	仲　里　春　子	太　田　吉　光	津波古　充　政
玉　城　信　子	稲　福　文　子	城　間　初　子	宮　城　澄　子	真栄城　千枝子
瑞慶覧　長　祐	大宜見　より子	宮　国　恵　子	与那覇　勢津子	比　嘉　すが子
中　塚　末　子	喜屋武　めり子	仲　村　トヨ子	知　念　　聰	びしょっぷ　利恵子
仲　里　志麻子				



第３図　銘苅古墓群南地区



第4図　B・E地区の古墓群


ヒャジョー毛遺跡
銘苅古墓群(南)B地区
銘苅古墓群(南)E地区
銘苅川
1:500

第Ⅳ章　遺　構

第１節　Ｂ地区の古墓（第５図～第41図）

銘苅川（メカルガーラ）東岸の石灰崖下に形成された古墓群である。（第３図）同川を挟む対岸にはＥ地区が対峙している。

本地区より検出された古墓は総数52基である。全体に小振りの墓が多いが、川の下流、やや北側の一角に広い墓庭と参道らしきものを持つものが一つの群れを作っている。基本的に本地区の古墓は横穴を掘り込む掘込墓（方言でフインチャー）の構造形態をした墓が主体であるが、４号墓と47号墓は囲込岩陰墓（方言でチンマーサー）の形態を呈している。また19号墓と31号墓は外観の形状から亀甲墓（方言でカーミヌクーバカ）の形態を呈するものである。本地区では４号墓と47号墓が風葬墓として確認されており、特に前者では36体の人骨が検出されている。両古墓共に17世紀以前の葬制を知る上で非常に重要なものとして注目されている。また、21号墓では墓室内から墓誌（第117図）が検出されている。

52基中遺構の状態が良好なもの34基を図示した。なお、４号墓と47号墓の人骨及び蔵骨器の詳細な出土状況を示した実測図は、「ヒヤジョー毛遺跡」[註1]に掲載しているので参照されたい。

註１　金武正紀・城間千栄子「ヒヤジョー毛遺跡」那覇市教育委員会　1994

第２節　Ｅ地区の古墓（第42図～第65図）

メカルガーラ南岸沿いの琉球石灰岩の岩陰に形成された墓群である。ちょうど川を挟んでＢ地区と対峙する位置にある。戦災や米軍施設造成時の撹乱が著しく、遺構の状態は必ずしも良好ではない。したがって形態については不明確な部分もあるが、ここでは33基の墓が確認されている。何れも横穴を掘り込む掘込墓（フインチャーバカ）の構造形態である。Ｂ地区にみられる亀甲形式はここには無い。24基を図示した。

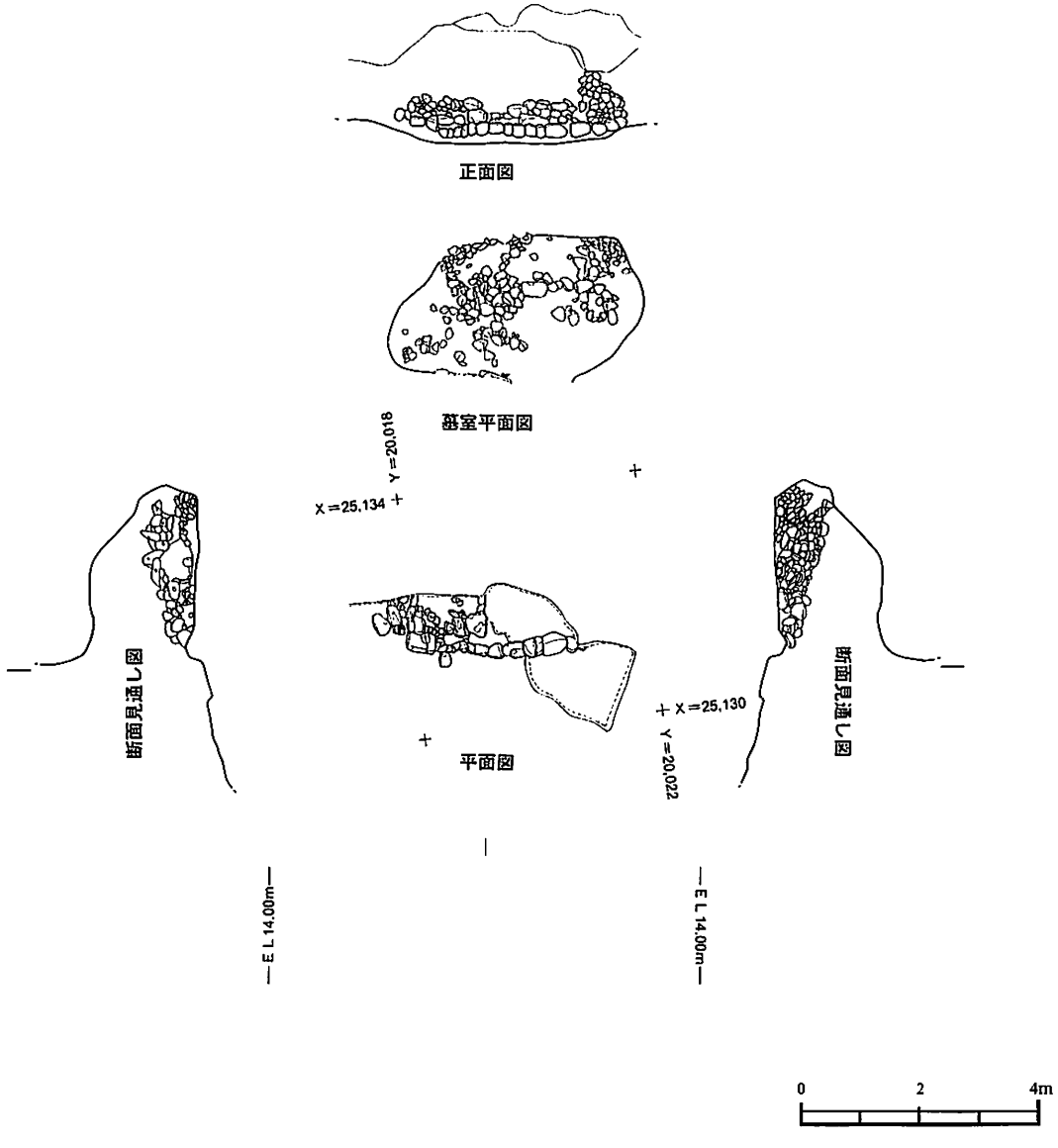
ここで主な特徴について簡記しておく。

岩盤やマージ等基盤層を掘り込み墓室をつくるもの（１・３～５・７・13～15・23号墓）。

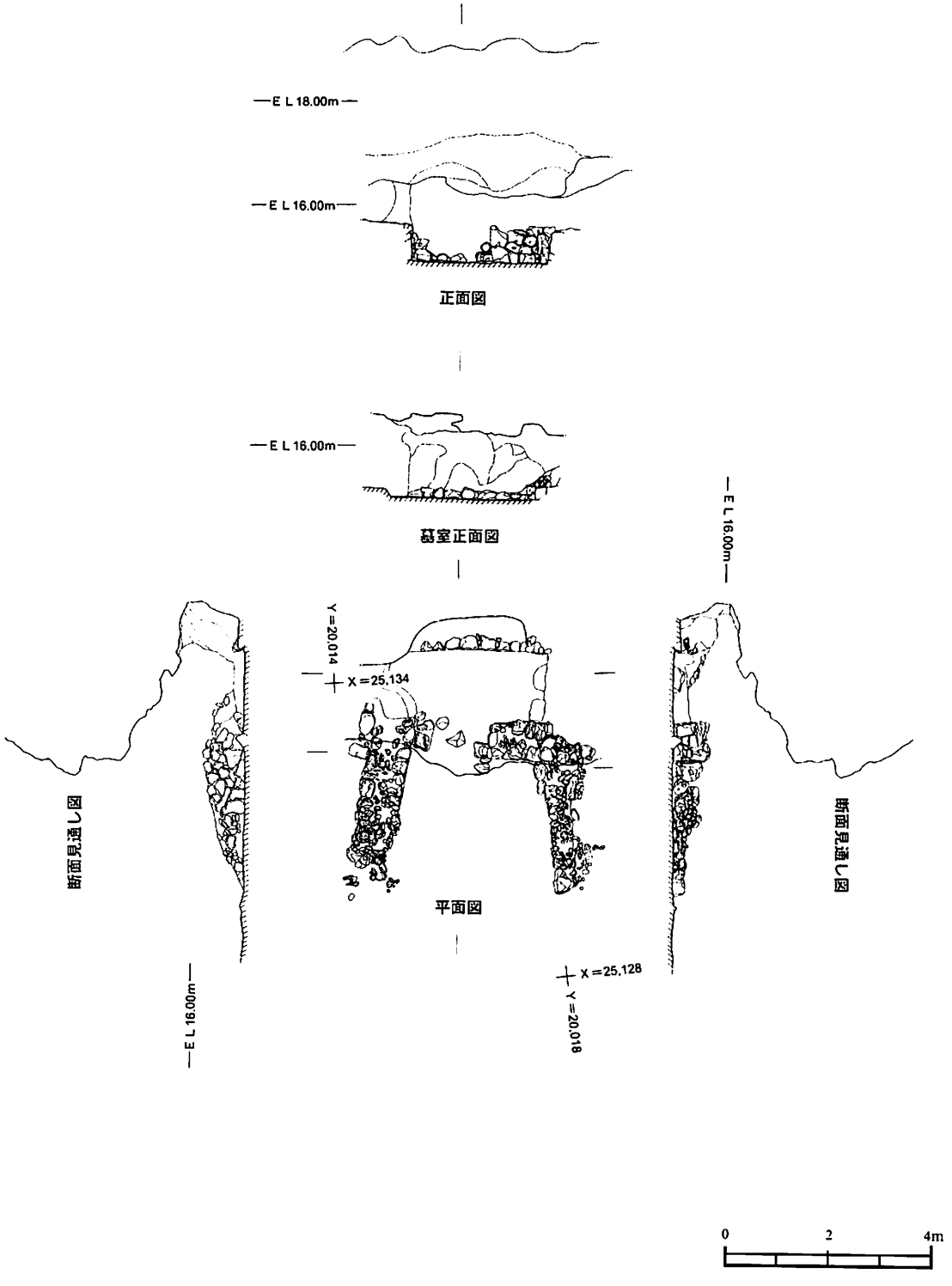
墓室を外部とを石積みで遮蔽することでつくるものもの（２・６・８～12・17～19・21・22・24～28・30号墓）。

墓室内にタナやシルヒラシドゥクルなどの施設を有するあるいはその痕跡の残るもの（１～６・11～15・21・23号墓）。

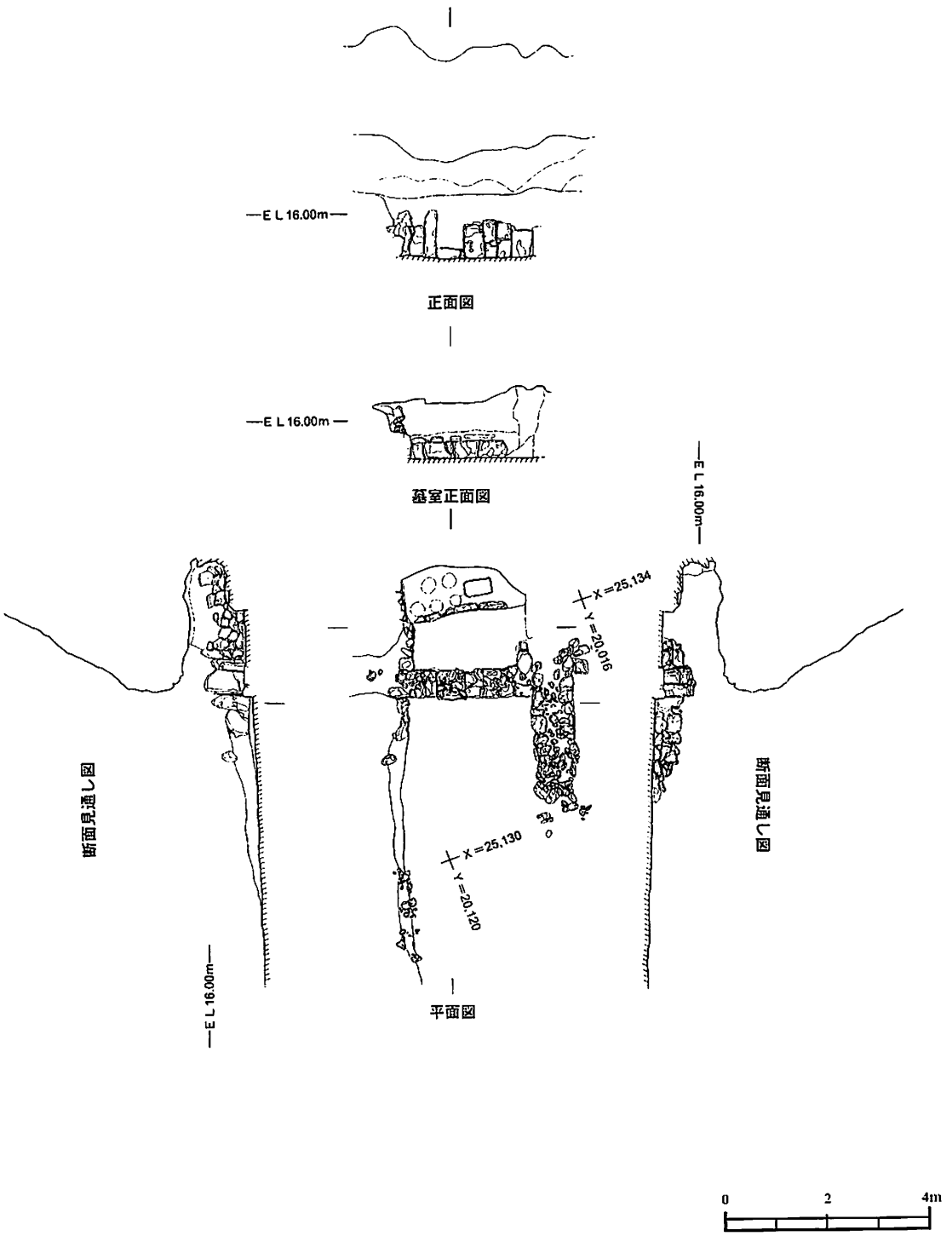
墓堂前面にサンミデーあるいは墓庭を囲う石積み(墓庭)などの施設を有するもの(1～９・12～15・17・19・21～24号墓)。



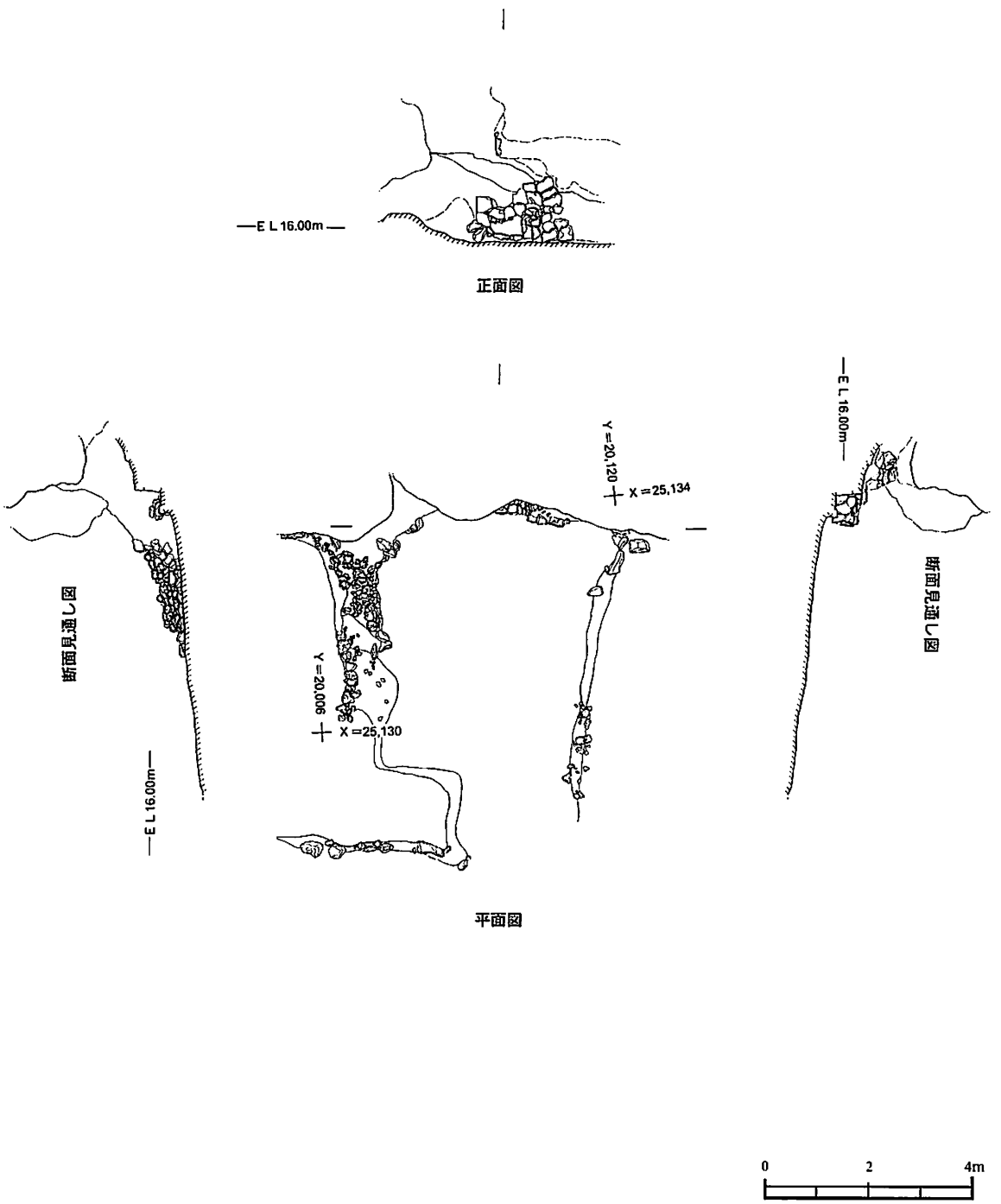
第5図 銘苅古墓群（南・B 地区）4号墓



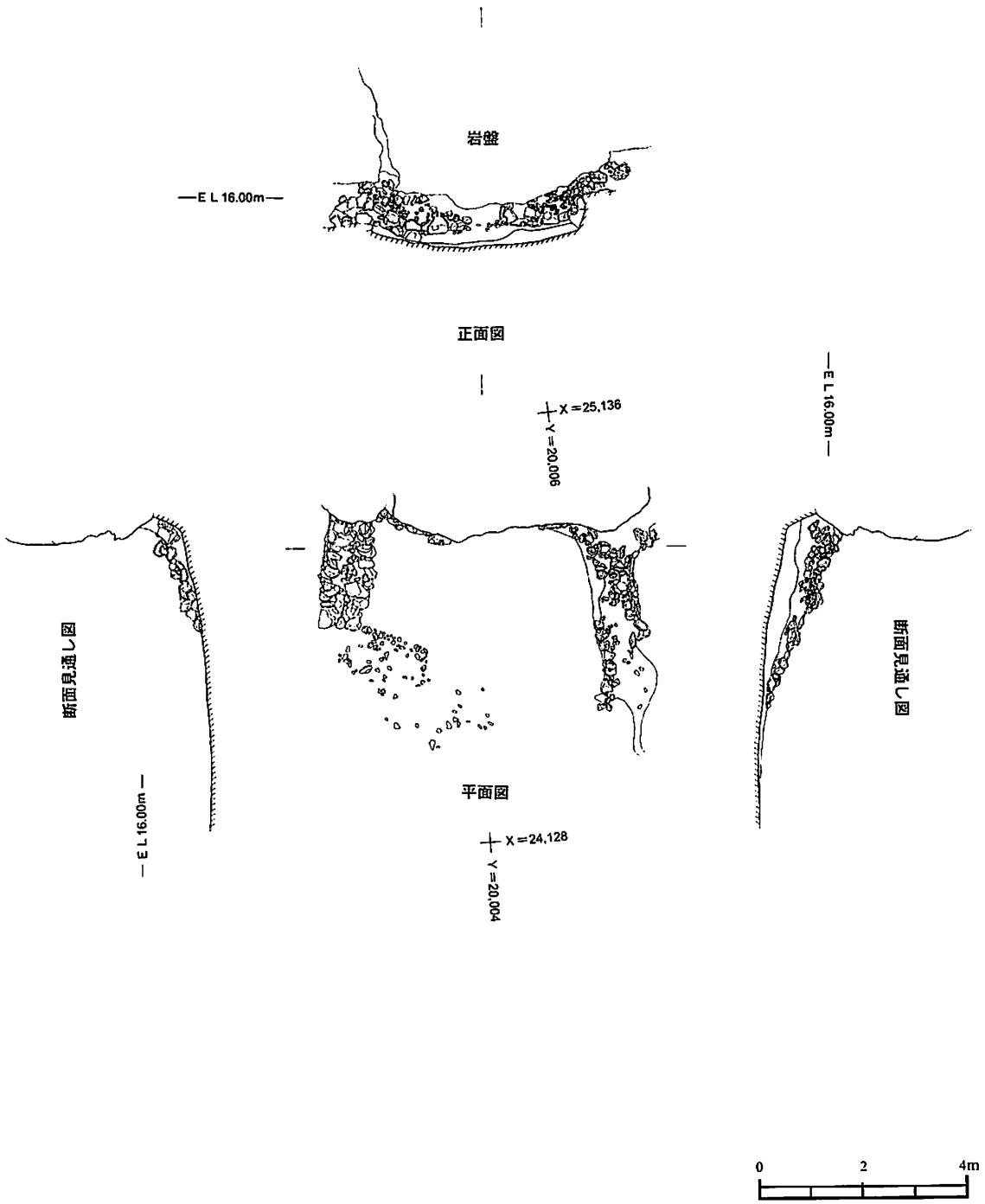
第6図 銘苅古墓群（南・B 地区）5号墓



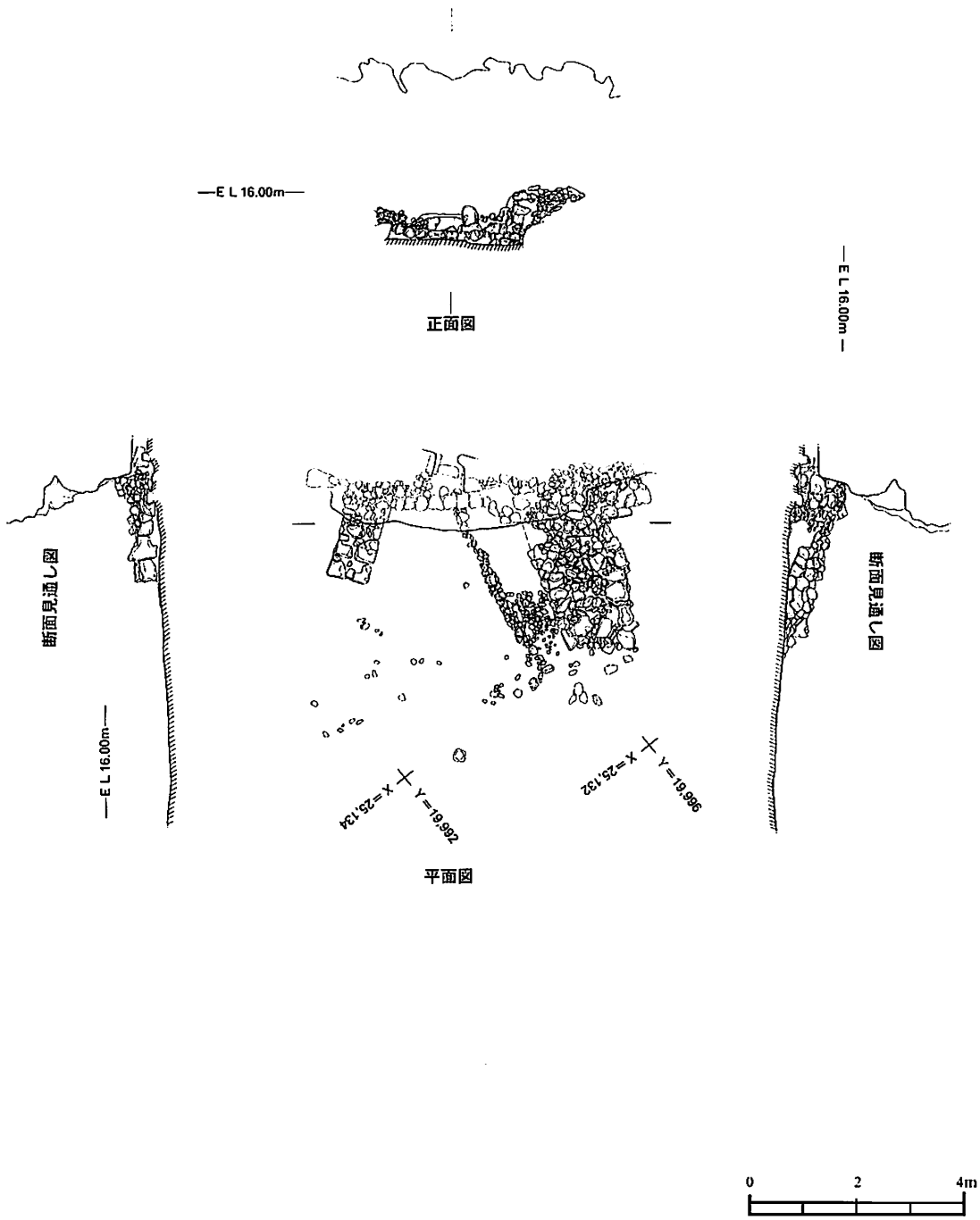
第7図 銘苅古墓群（南・B 地区）6号墓



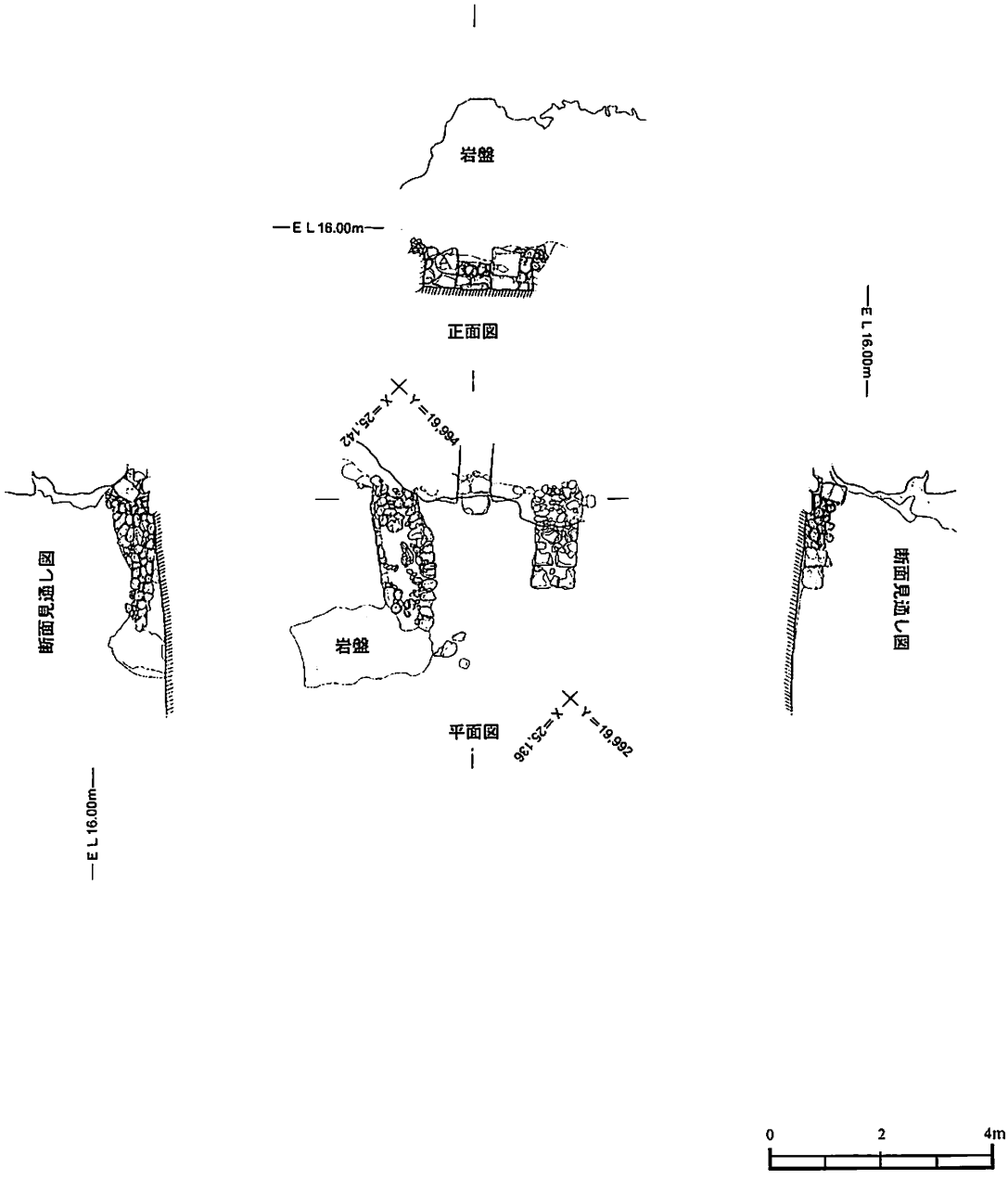
第8図 銘苅古墓群（南・B 地区）7号墓



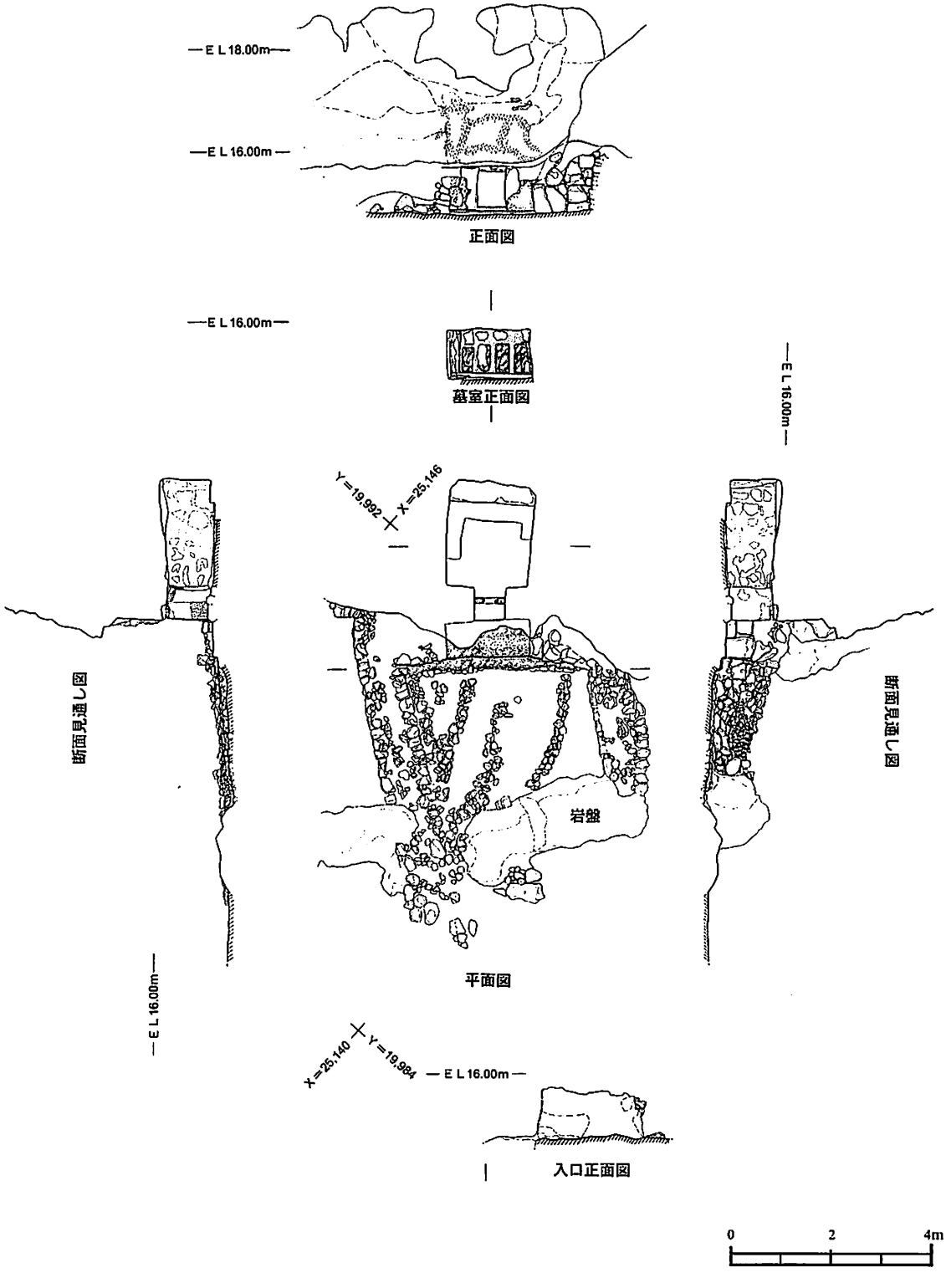
第9図 銘苅古墓群（南・B 地区）8号墓



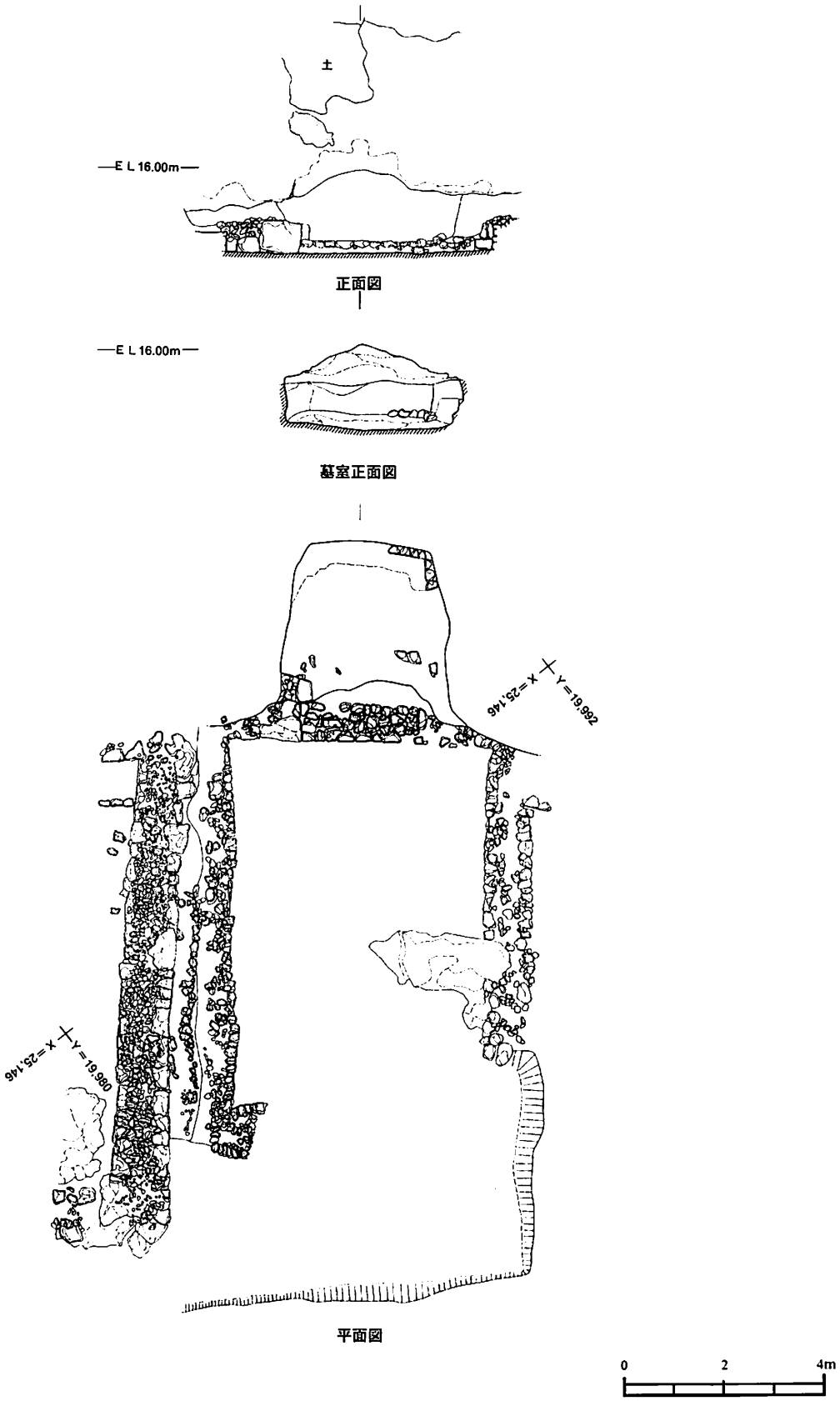
第10図 銘苅古墓群（南・B 地区）10号墓



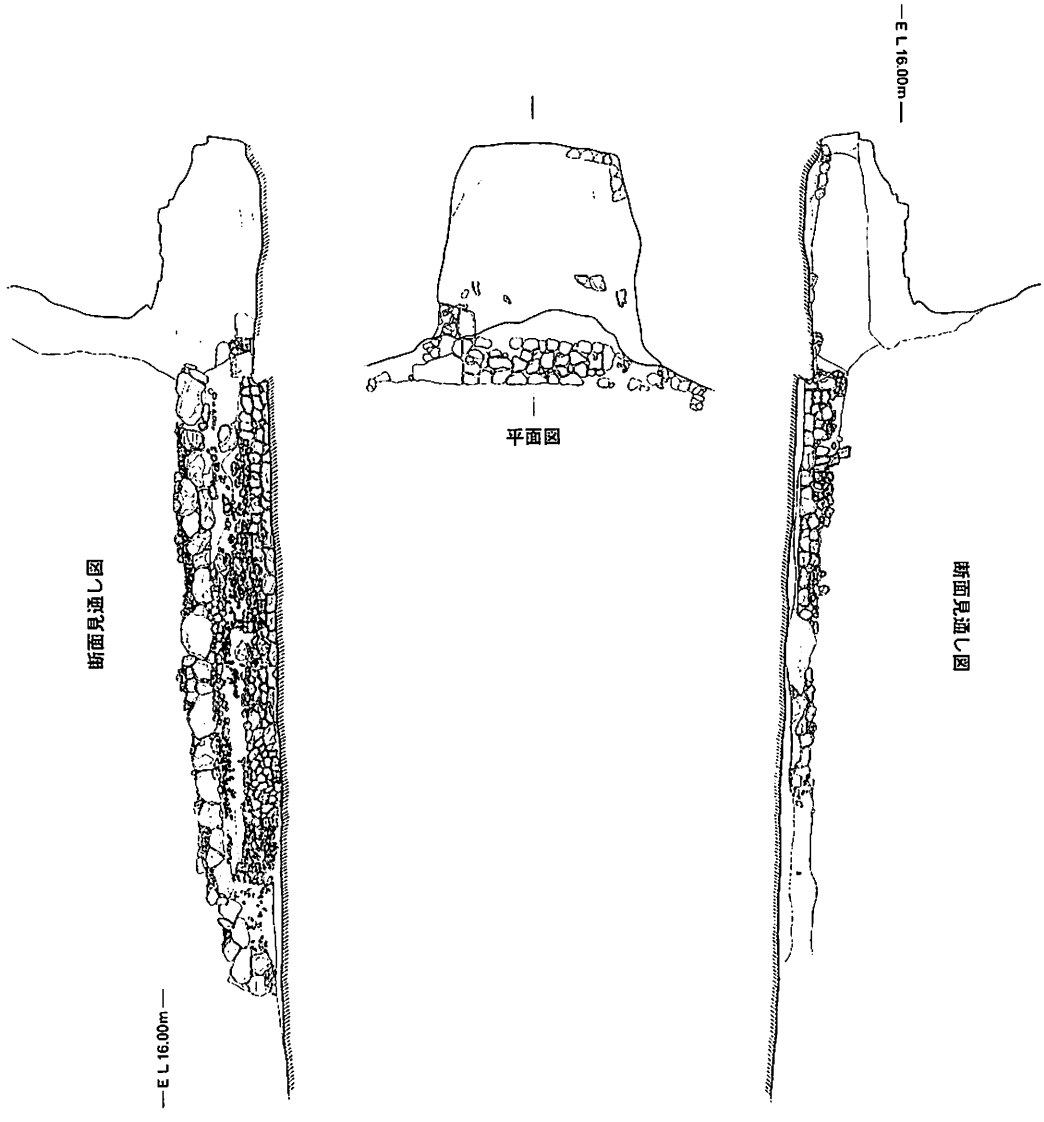
第11図 銘苅古墓群（南・B 地区）11号墓

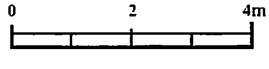


第12図 銘苅古墓群（南・B 地区）12号墓

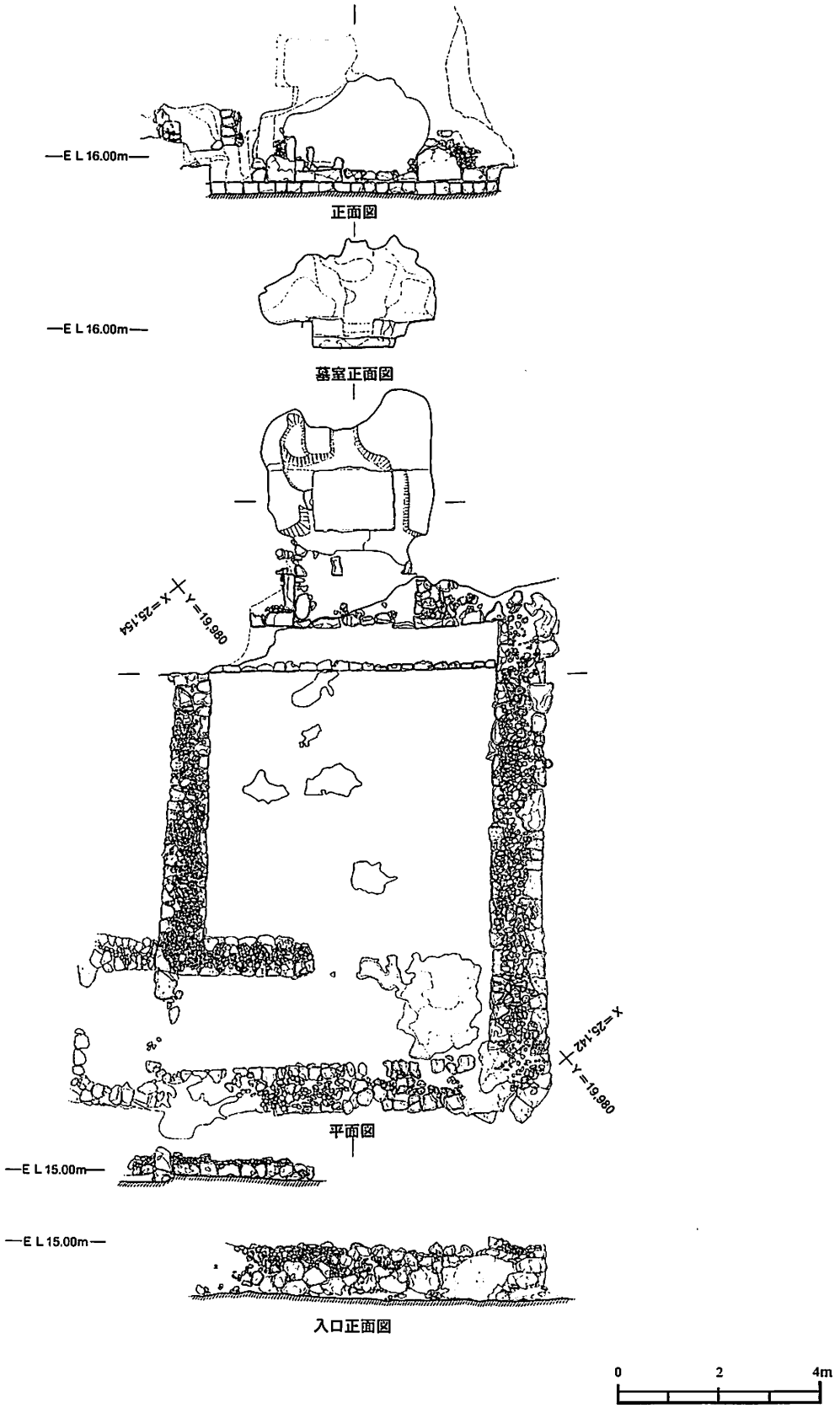


第13図 銘苅古墓群（南・B 地区）13号墓

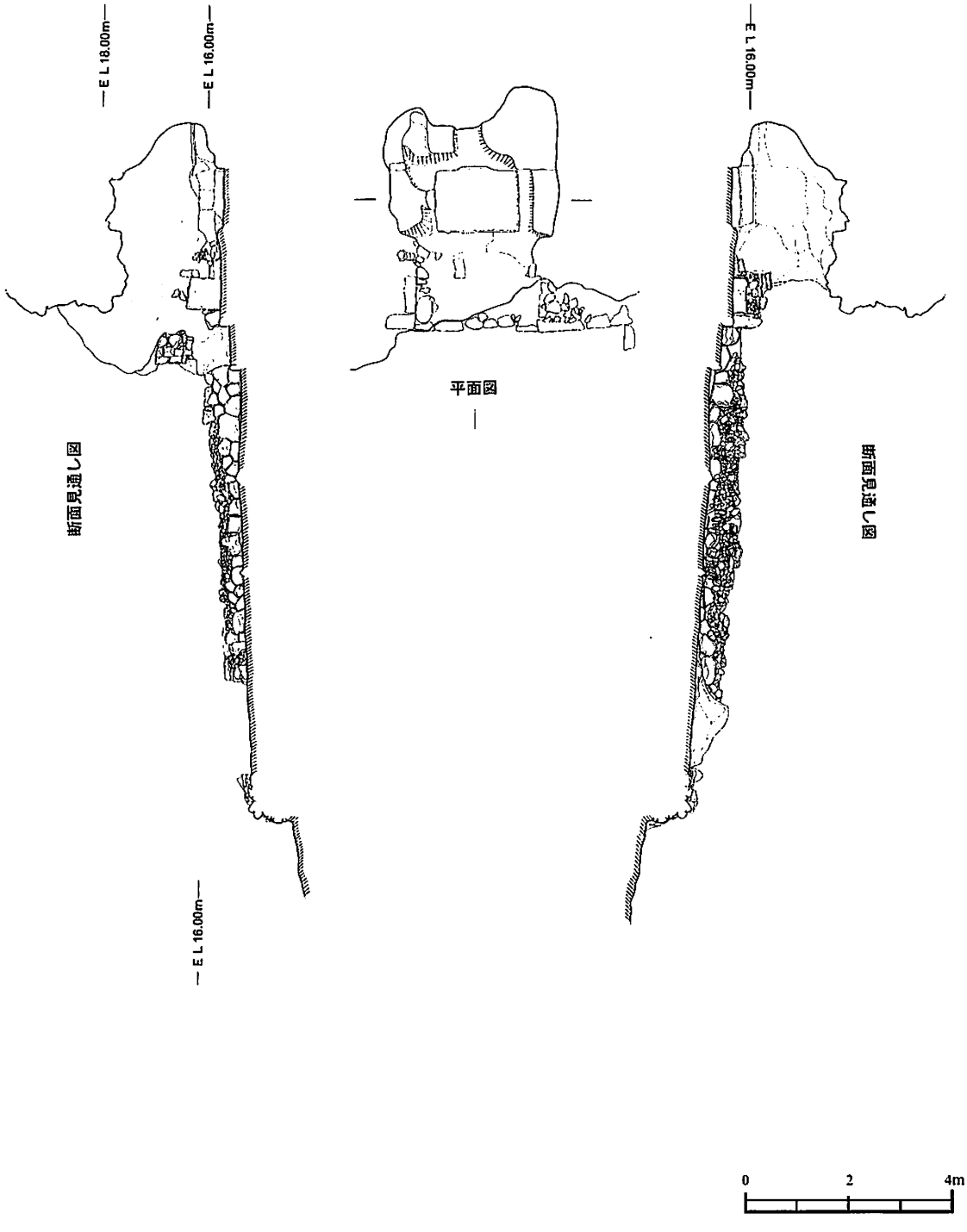




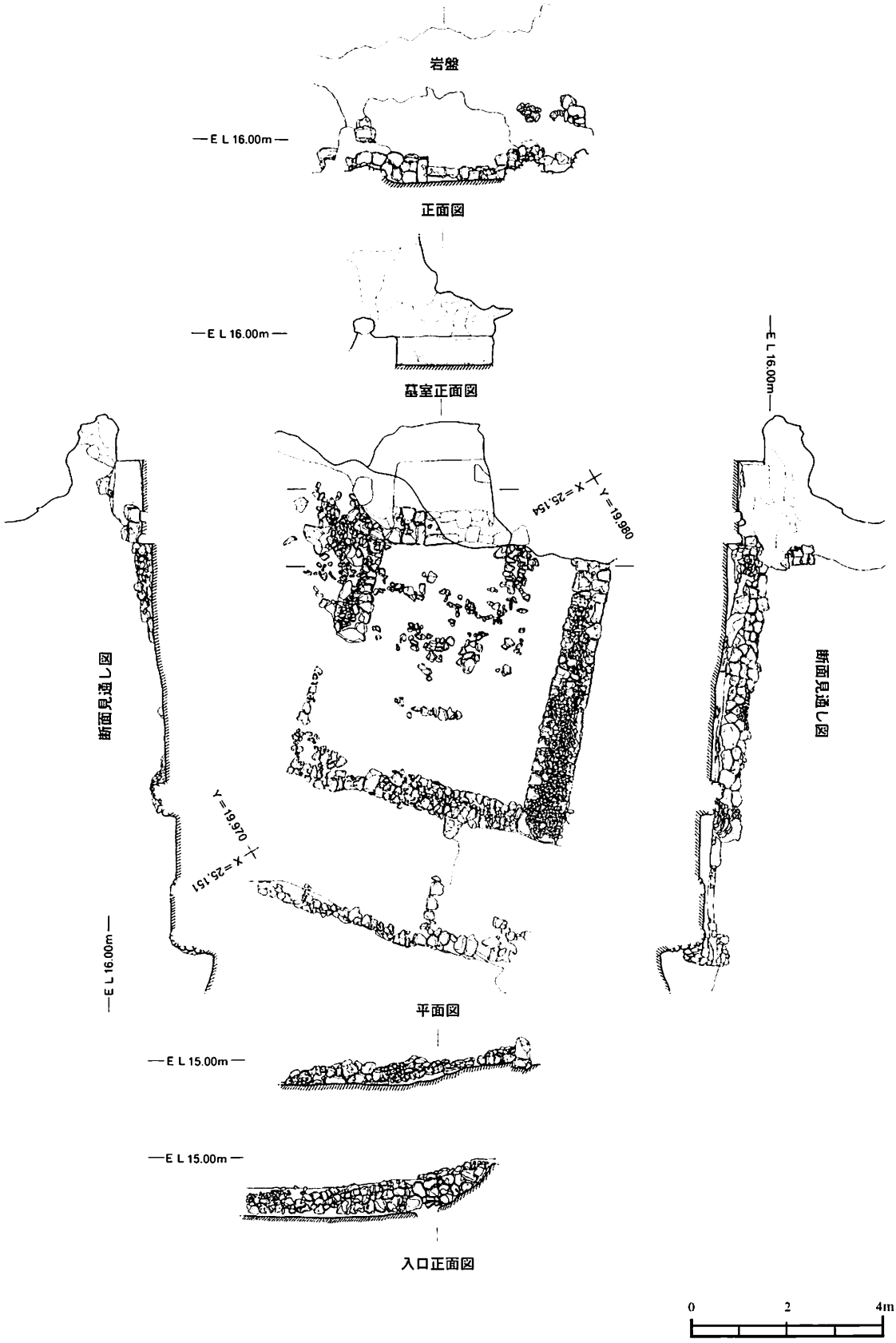
第14図 銘苅古墓群（南・B 地区）13号墓



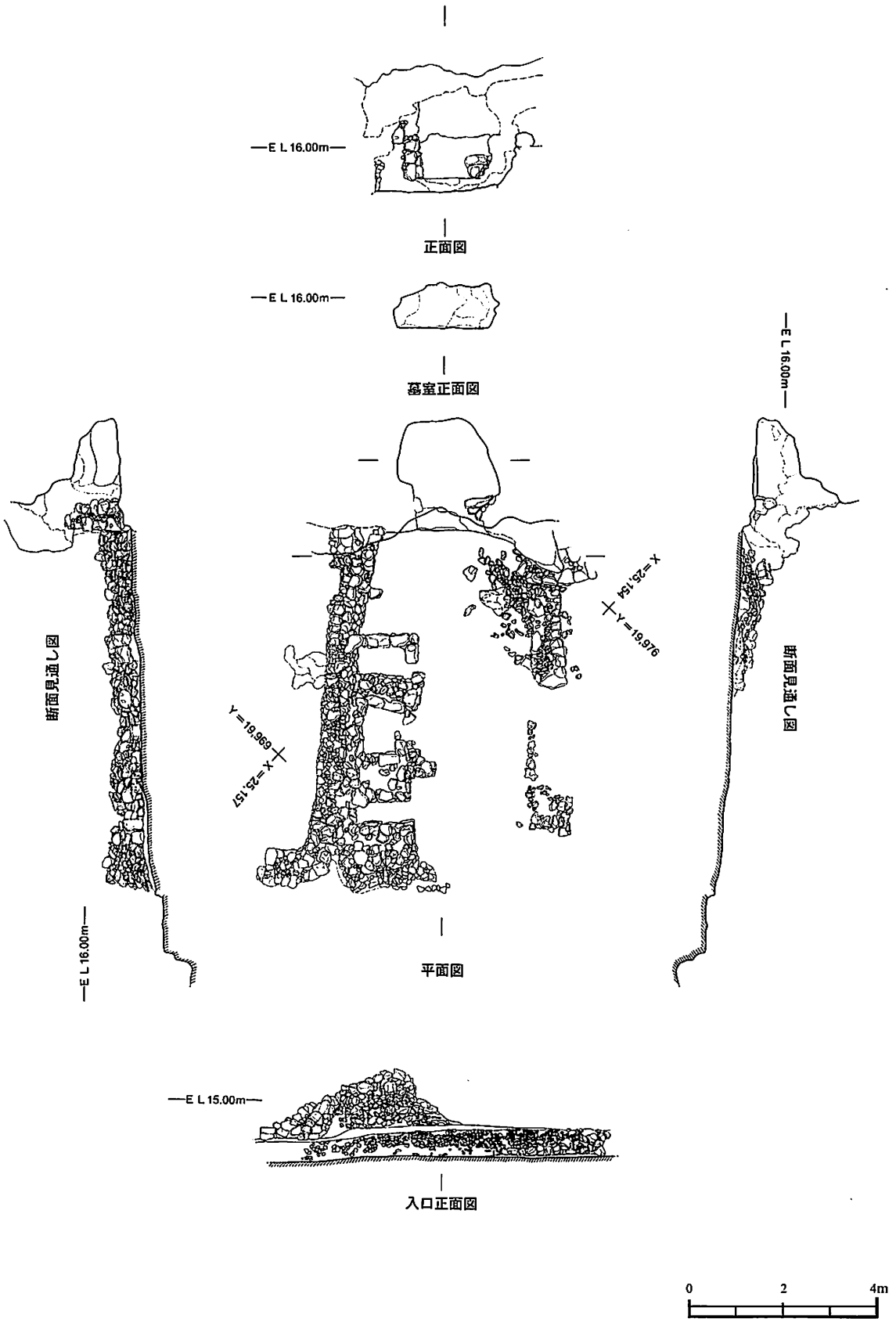
第15図 銘苅古墓群（南・B 地区）14号墓



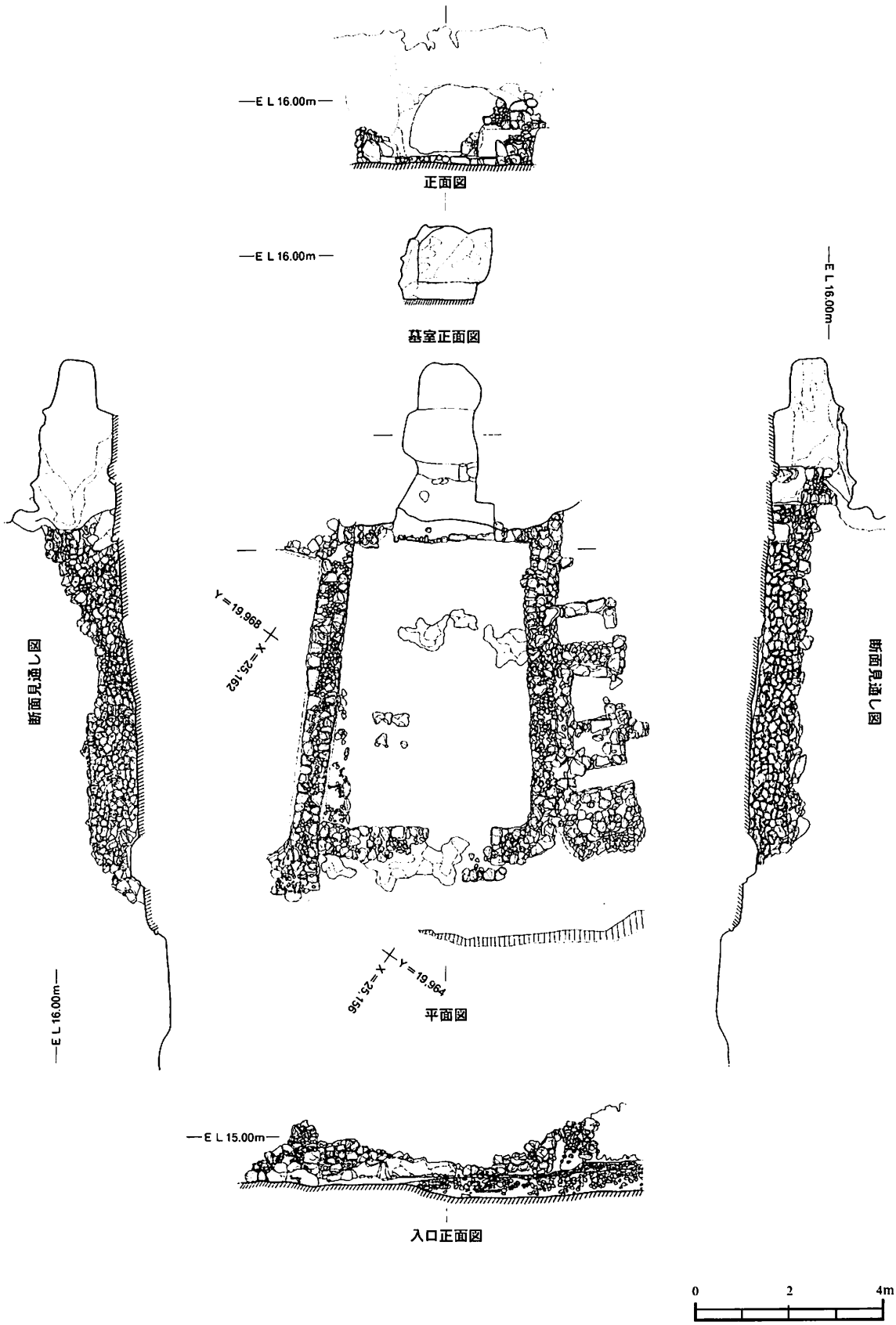
第16図 銘苅古墓群（南・B 地区）14号墓



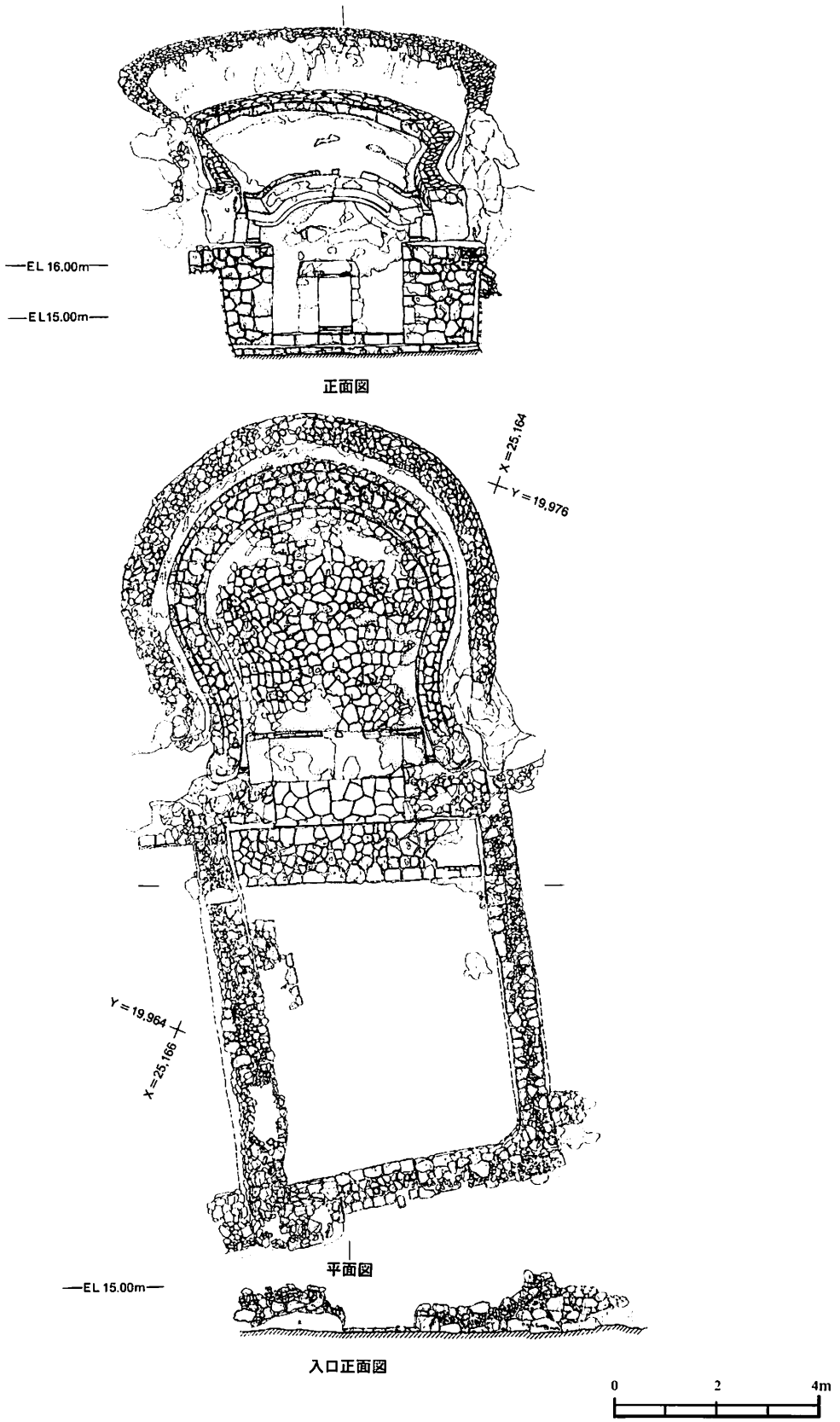
第17図 銘苅古墓群（南・B 地区）16号墓



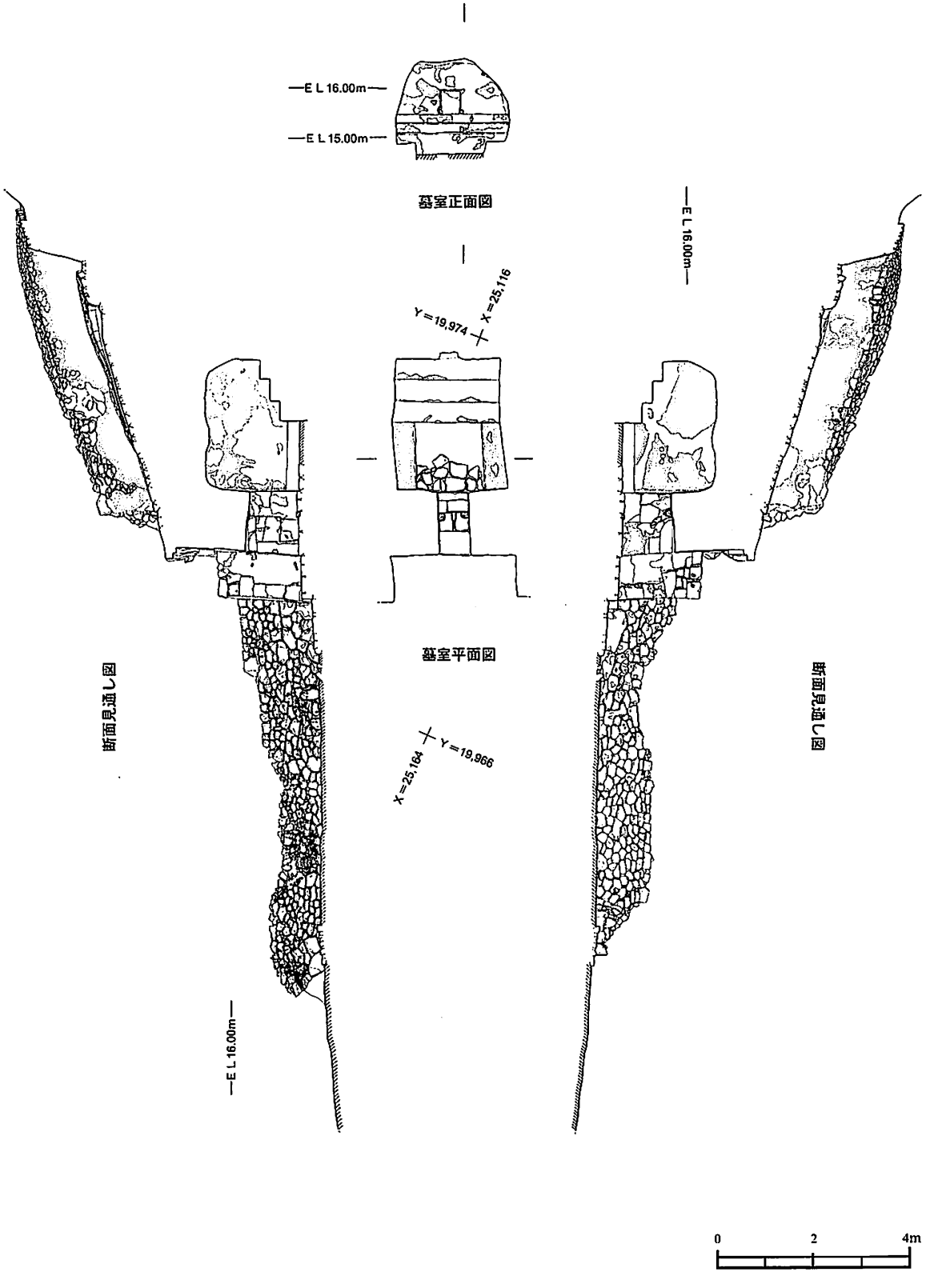
第18図 銘苅古墓群（南・B 地区）17号墓



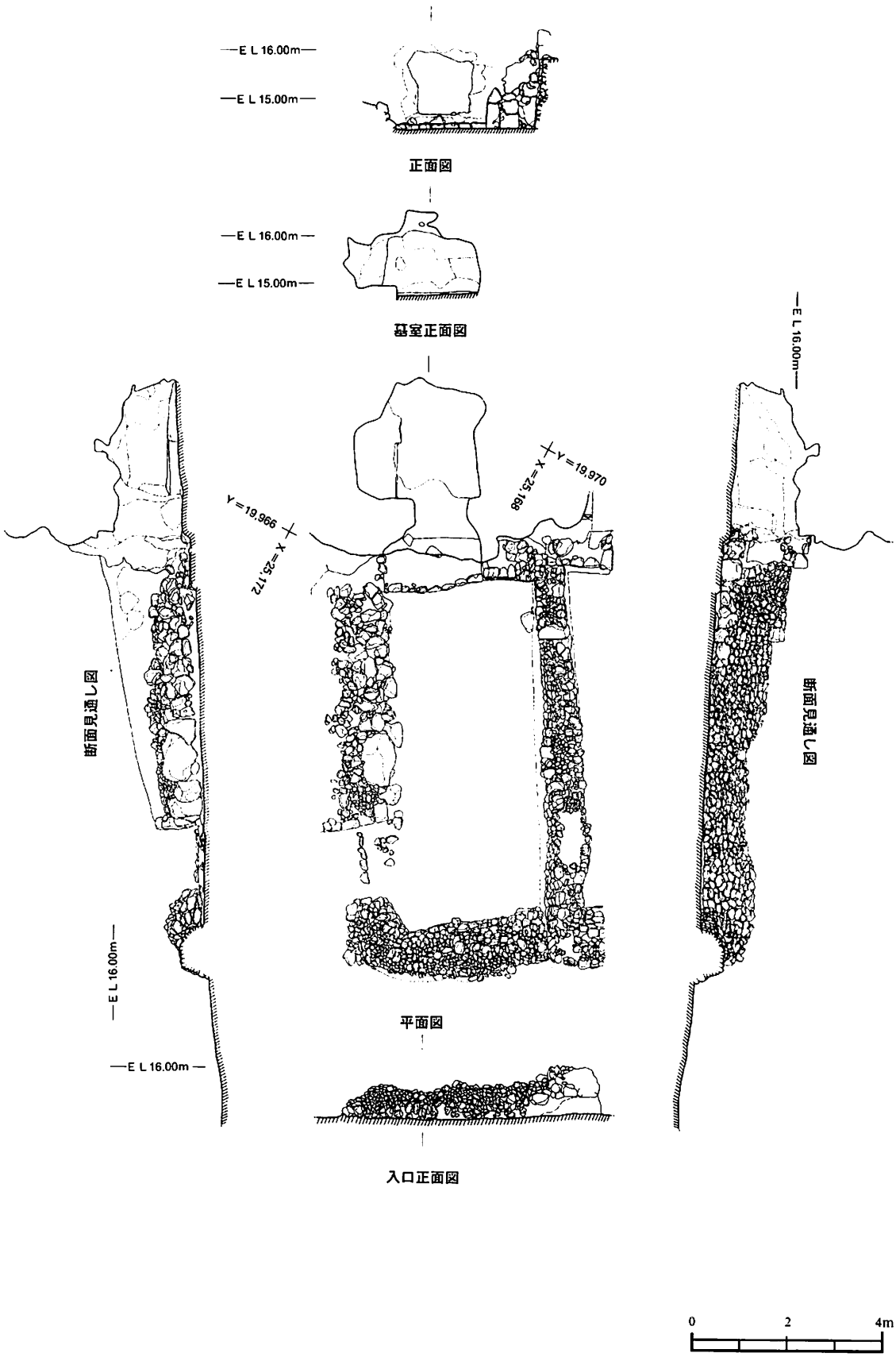
第19図 銘苅古墓群（南・B 地区）18号墓



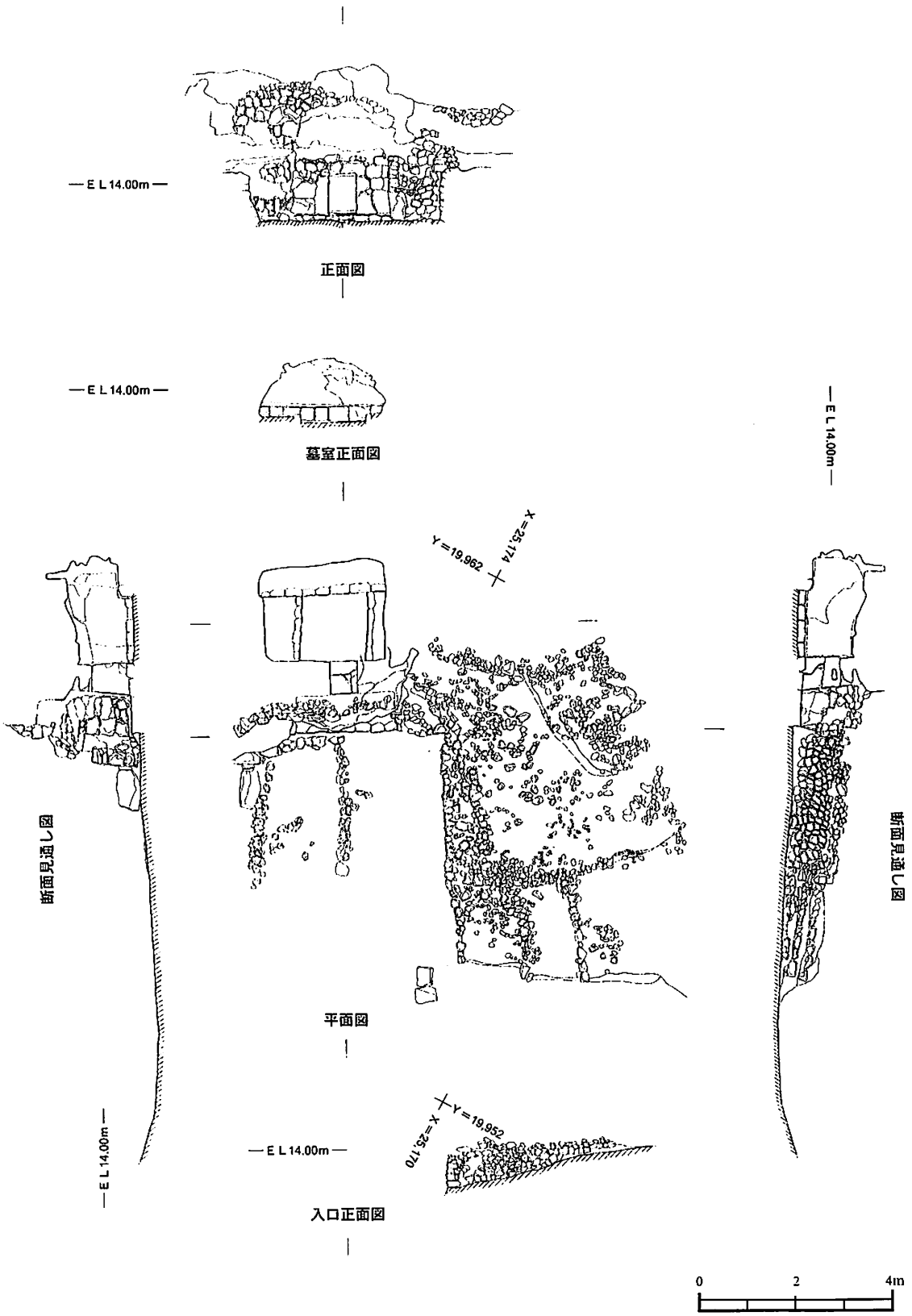
第20図 銘苅古墓群（南・B 地区）19号墓



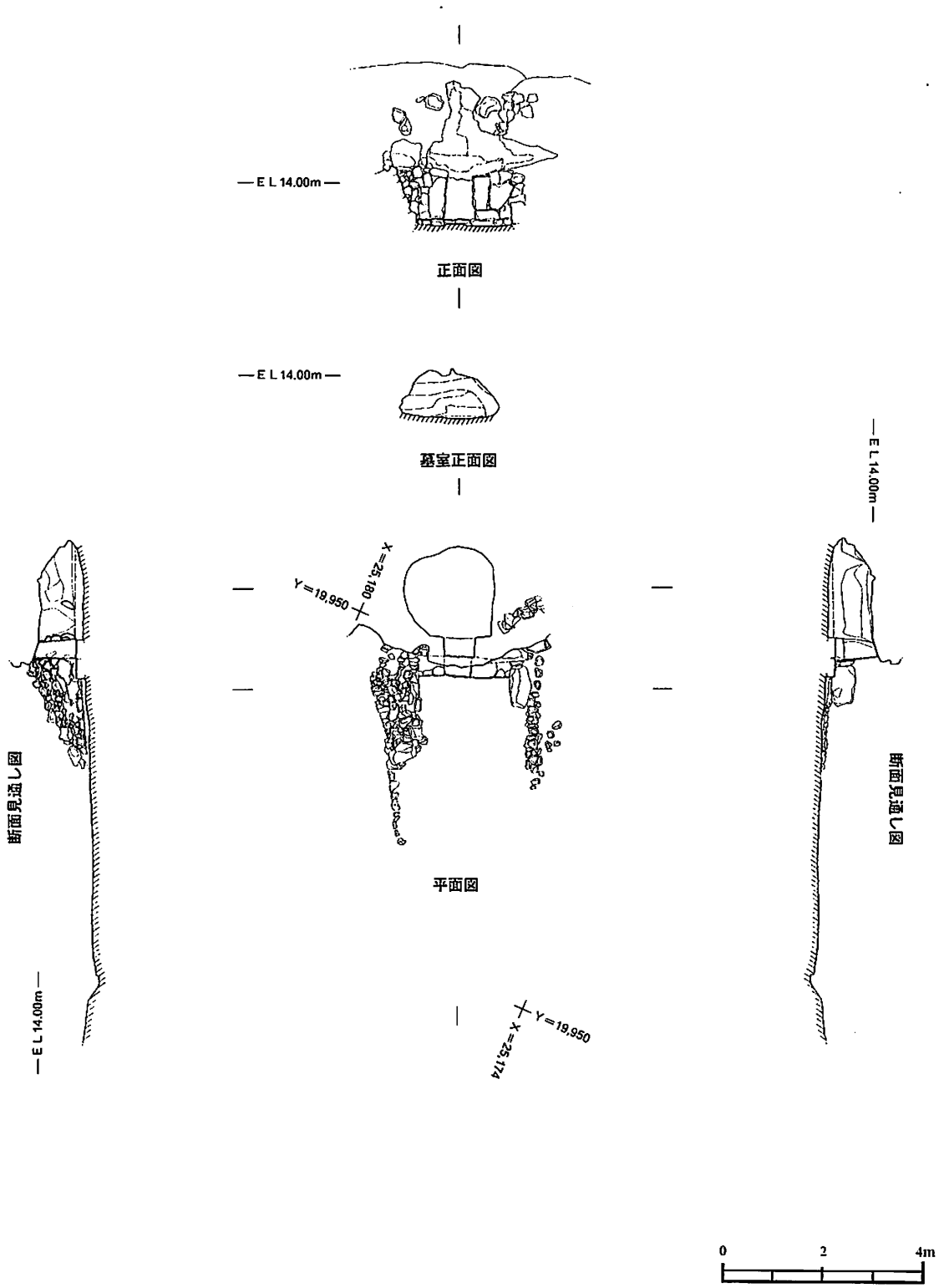
第21図 銘苅古墓群（南・B 地区）19号墓



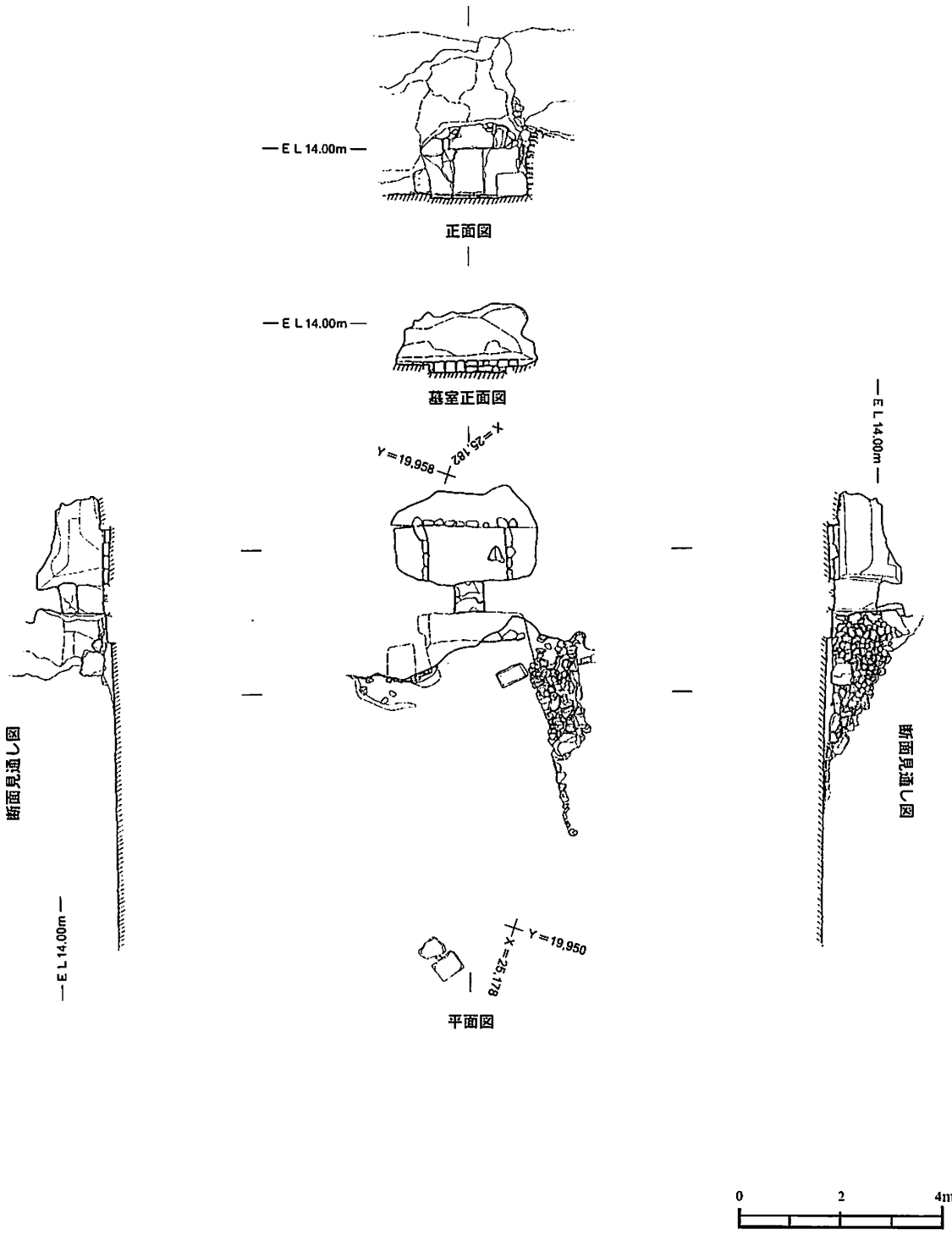
第22図 銘苅古墓群（南・B 地区）20号墓



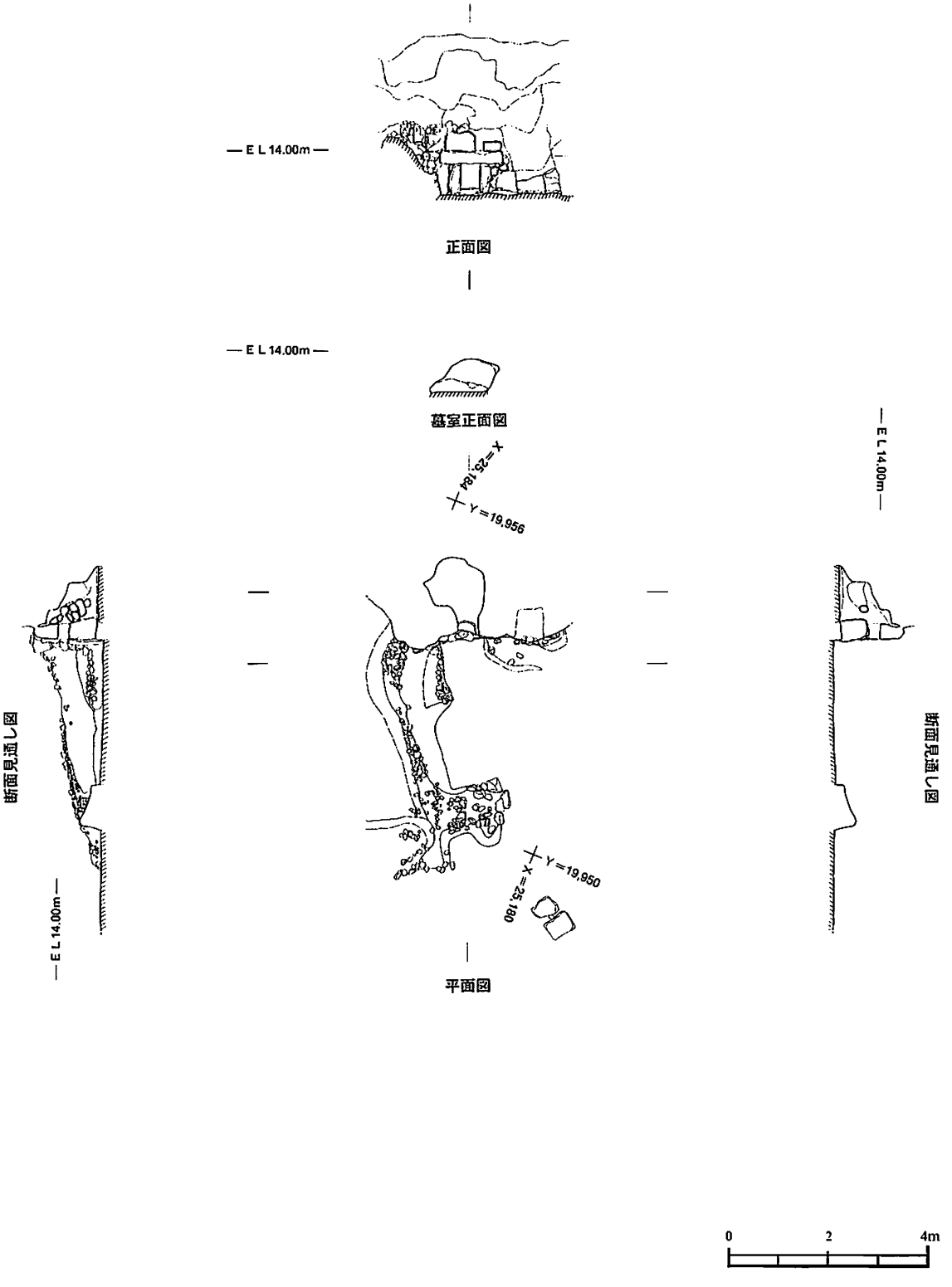
第23図 銘苅古墓群（南・B地区）21号墓



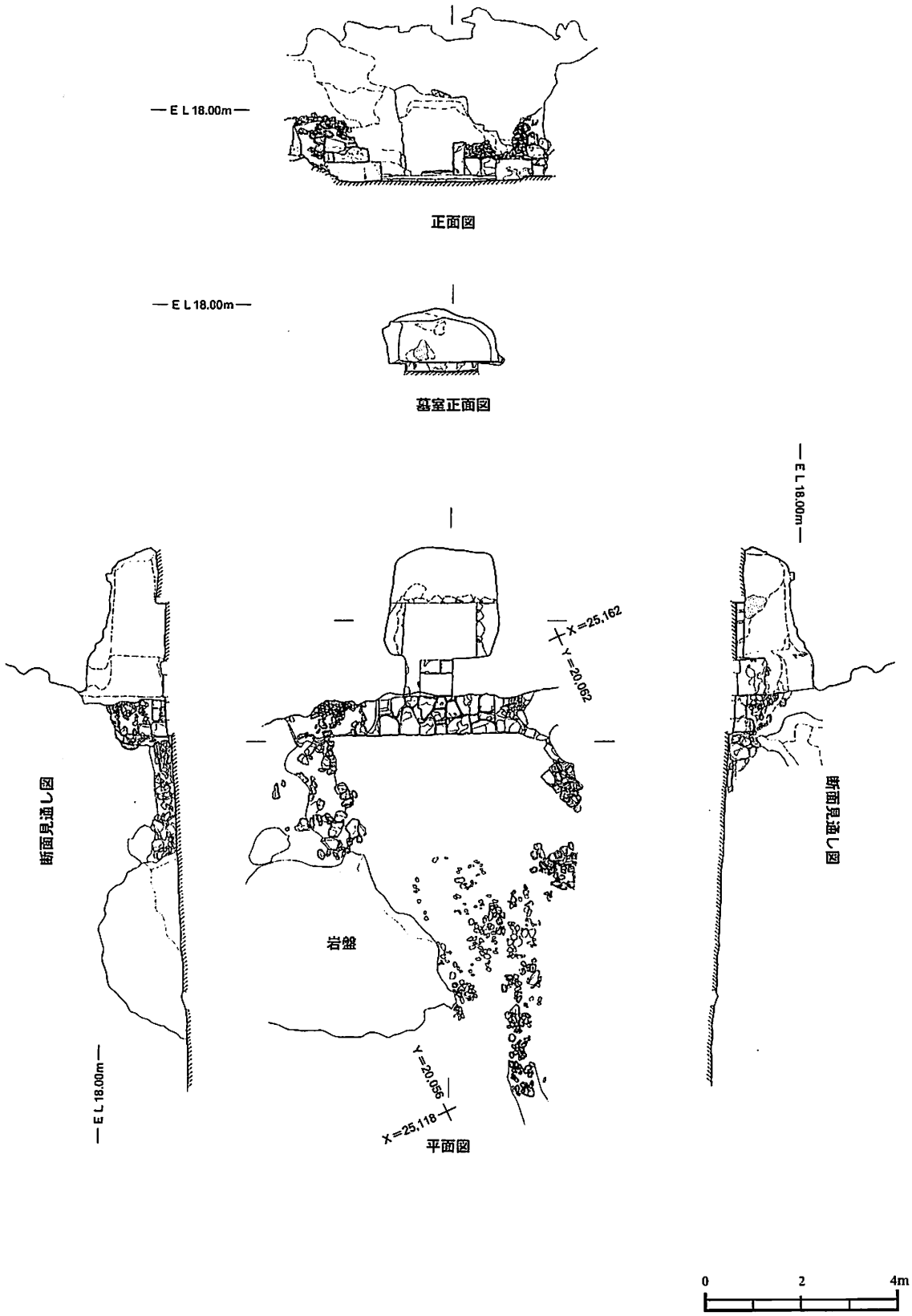
第24図 銘苅古墓群（南・Ｂ地区）22号墓



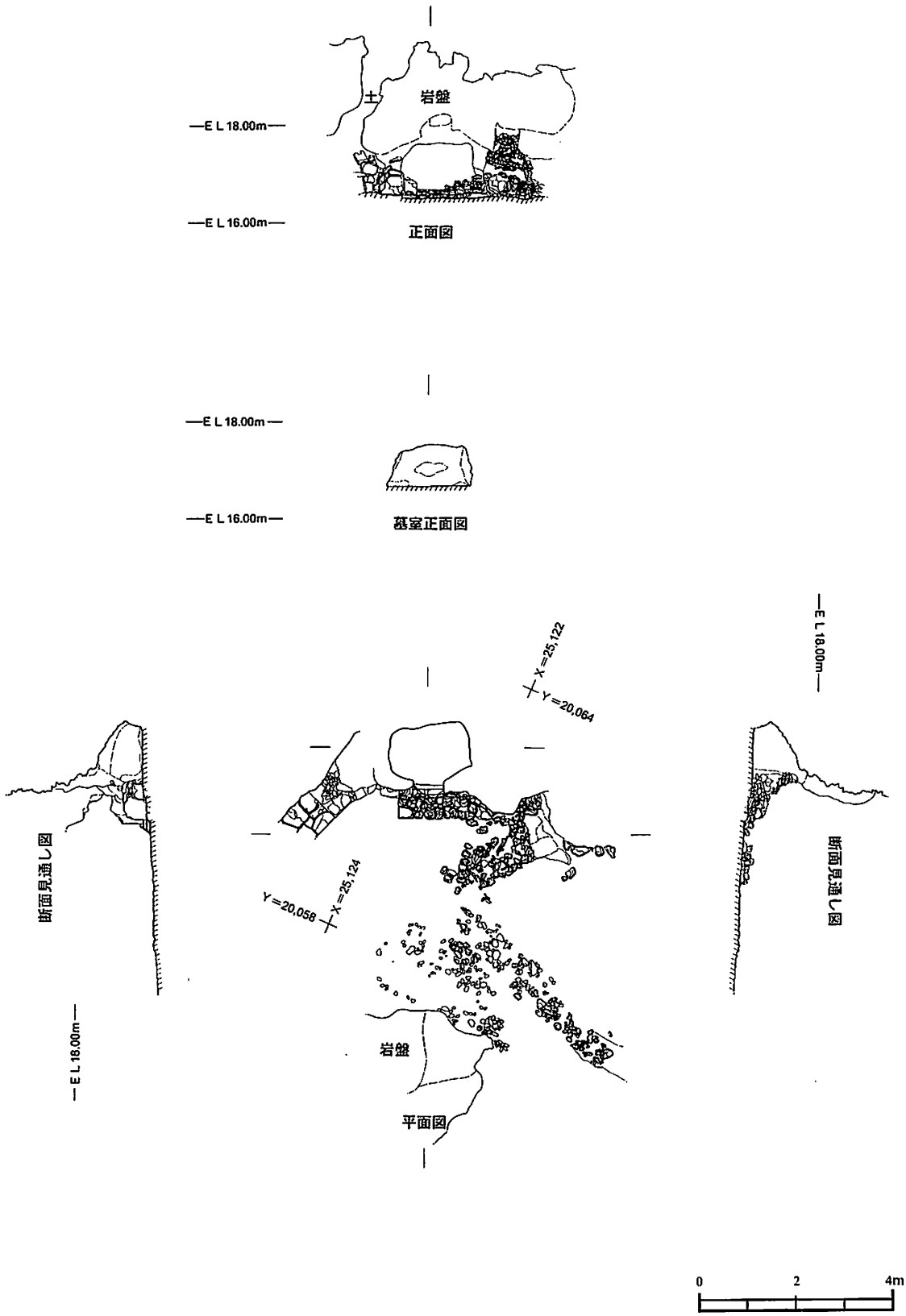
第25図 銘苅古墓群（南・Ｂ地区）23号墓



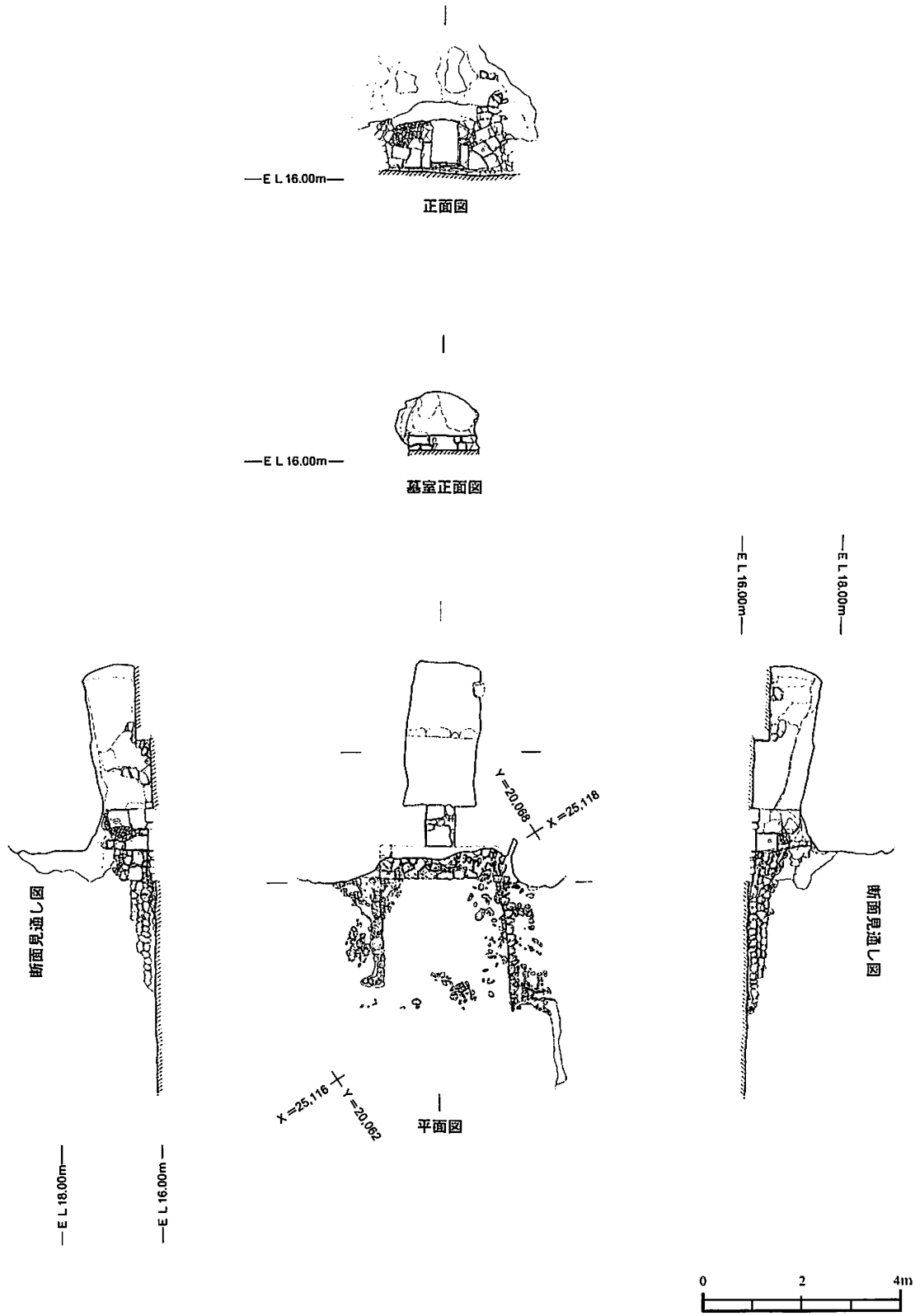
第26図 銘苅古墓群（南・Ｂ地区）24号墓



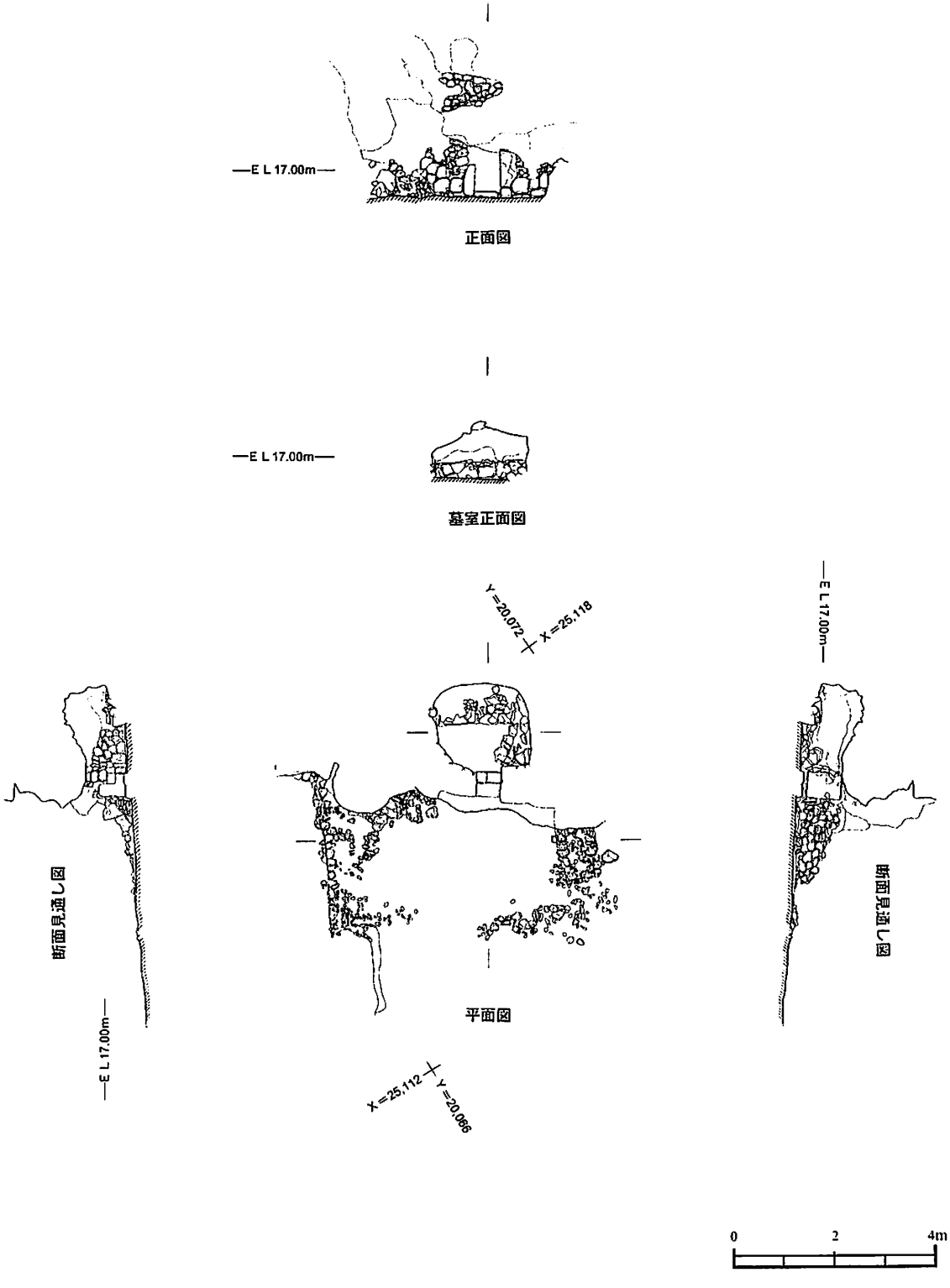
第27図 銘苅古墓群（南・B 地区）25号墓



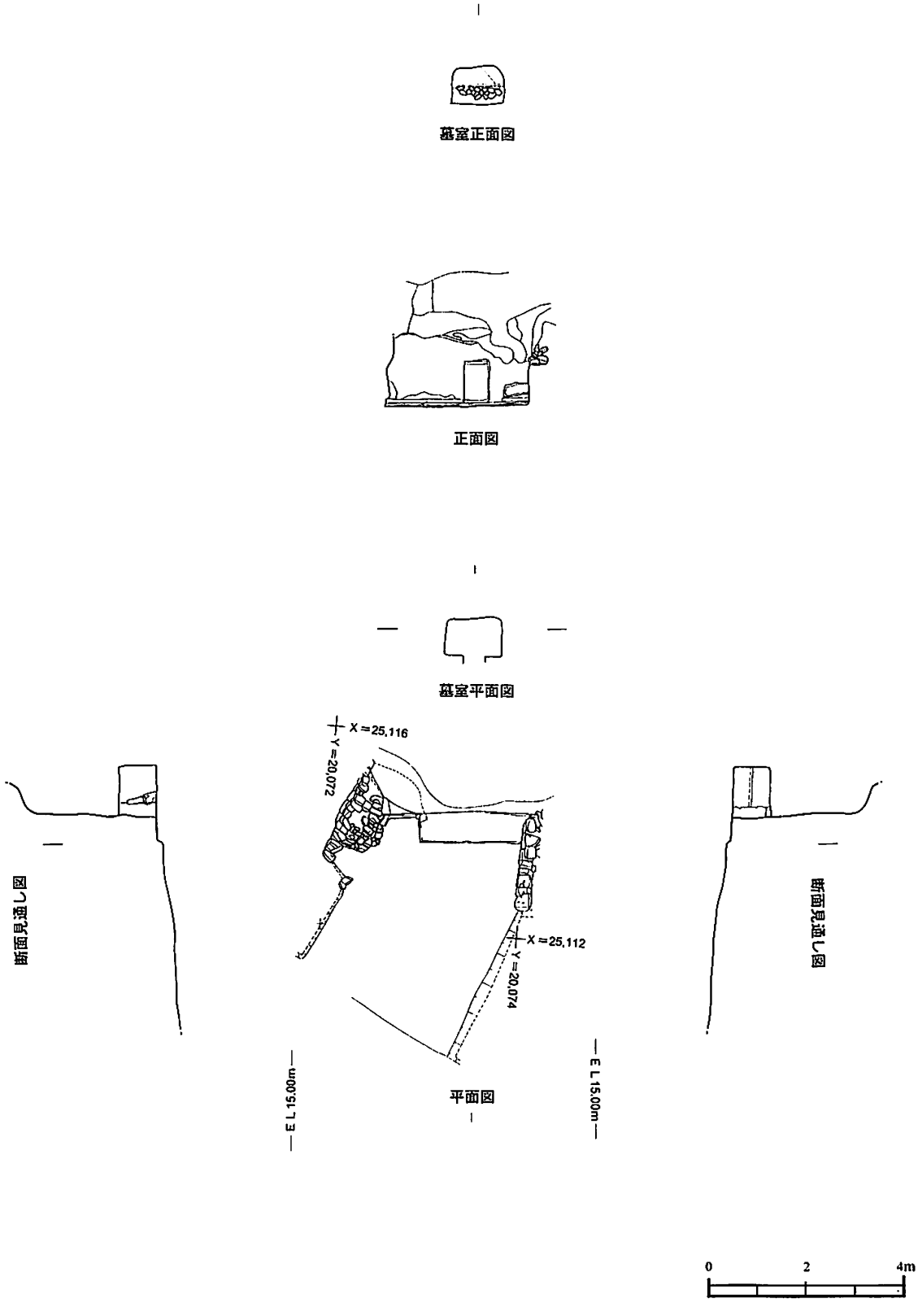
第28図 銘苅古墓群（南・B 地区）26号墓



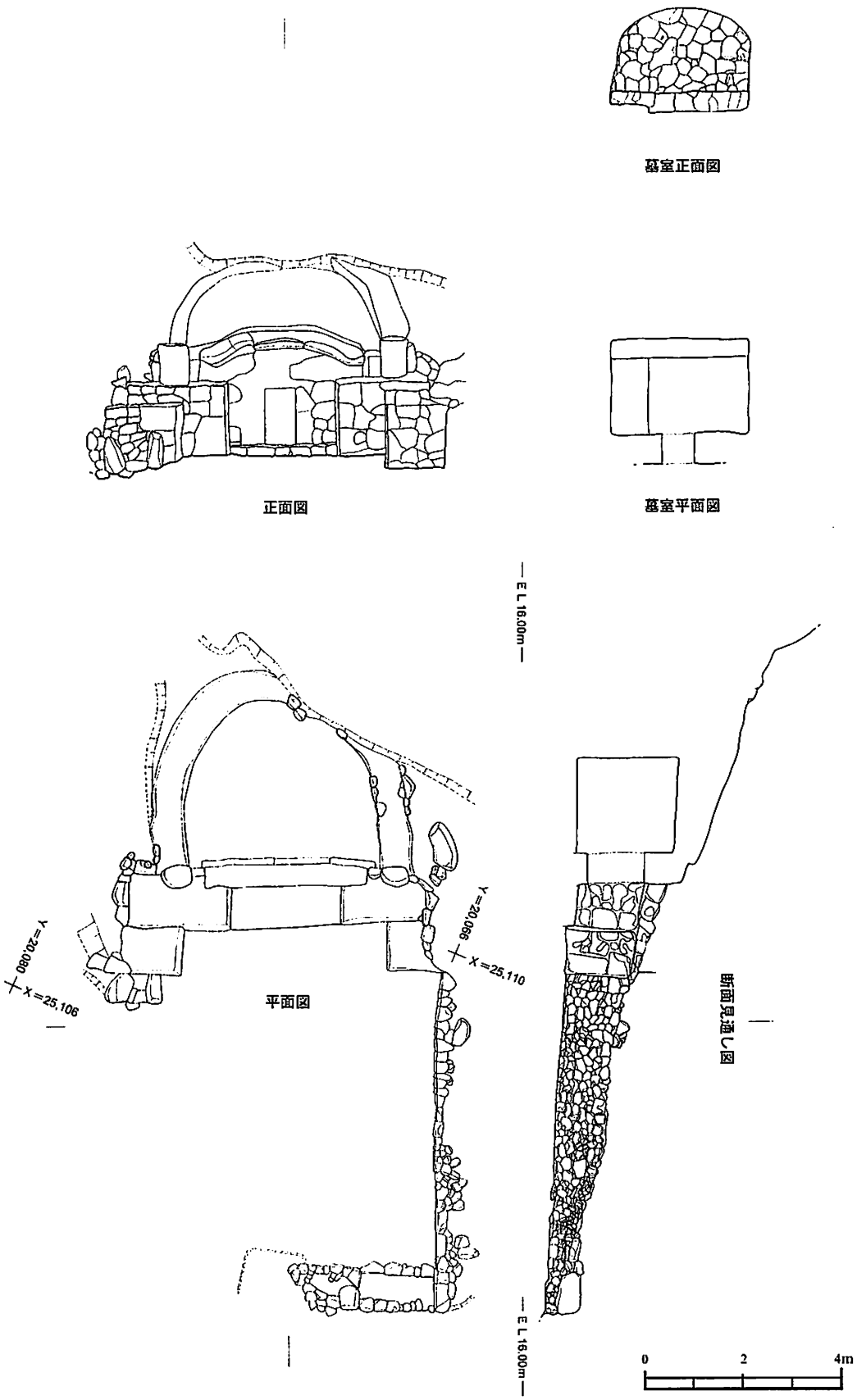
第29図 銘苅古墓群（南・B 地区）28号墓



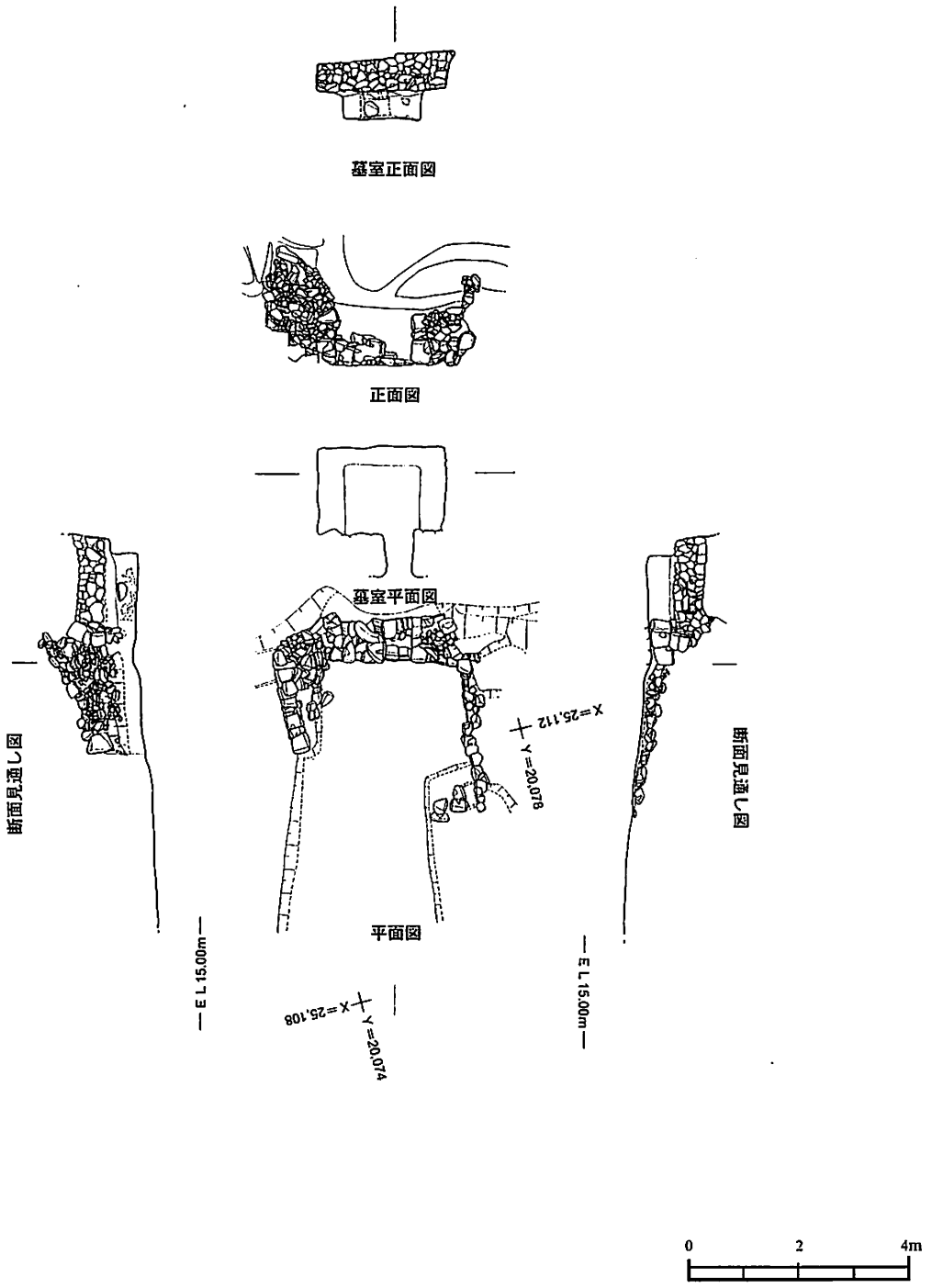
第30図 銘苅古墓群（南・B 地区）29号墓



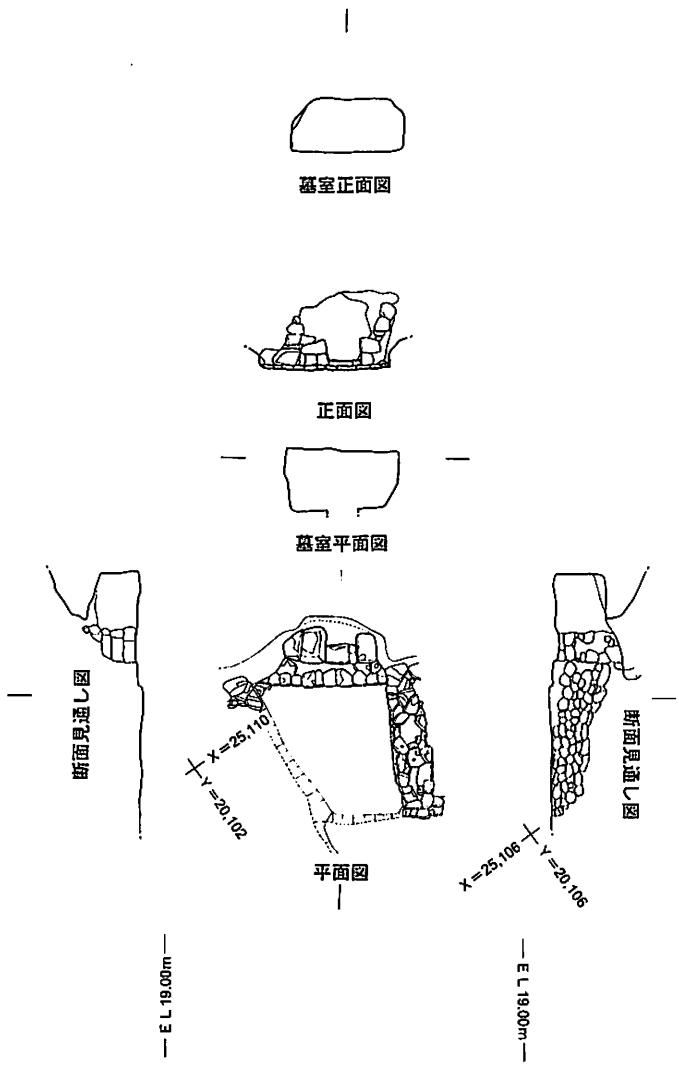
第31図 銘苅古墓群（南・B 地区）30号墓

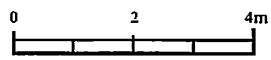


第32図 銘苅古墓群（南・B 地区）31号墓

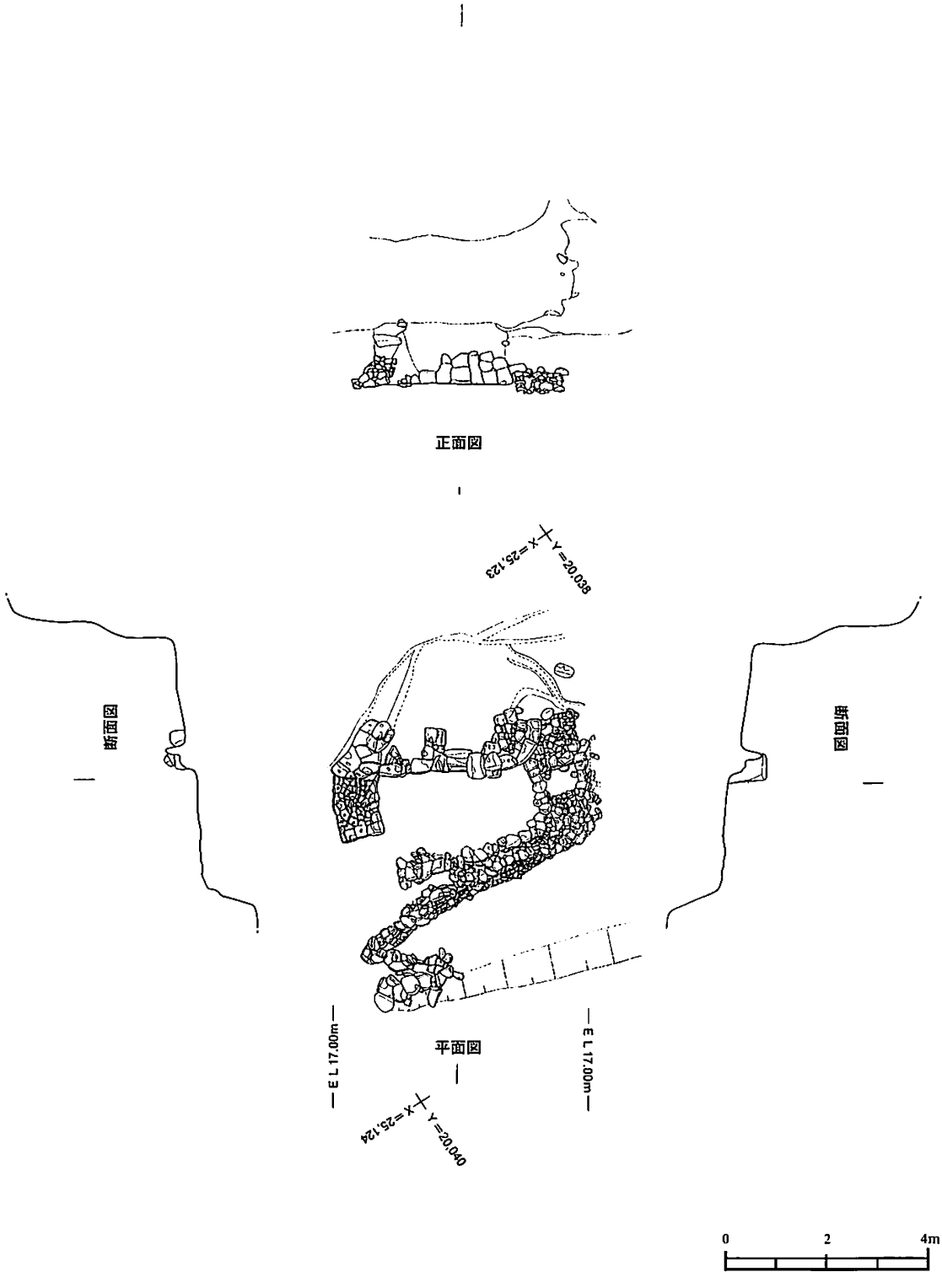


第33図 銘苅古墓群（南・B 地区）32号墓

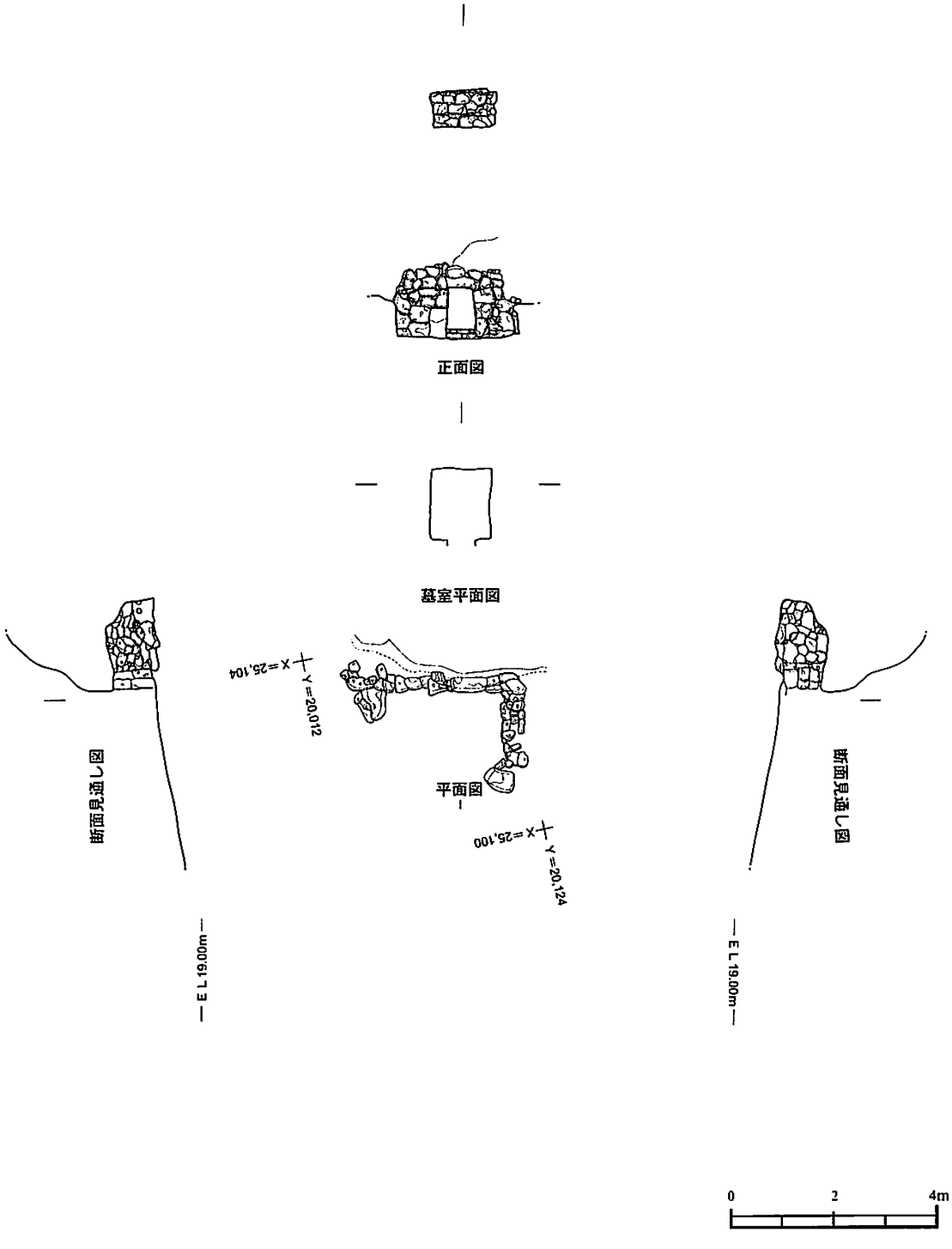




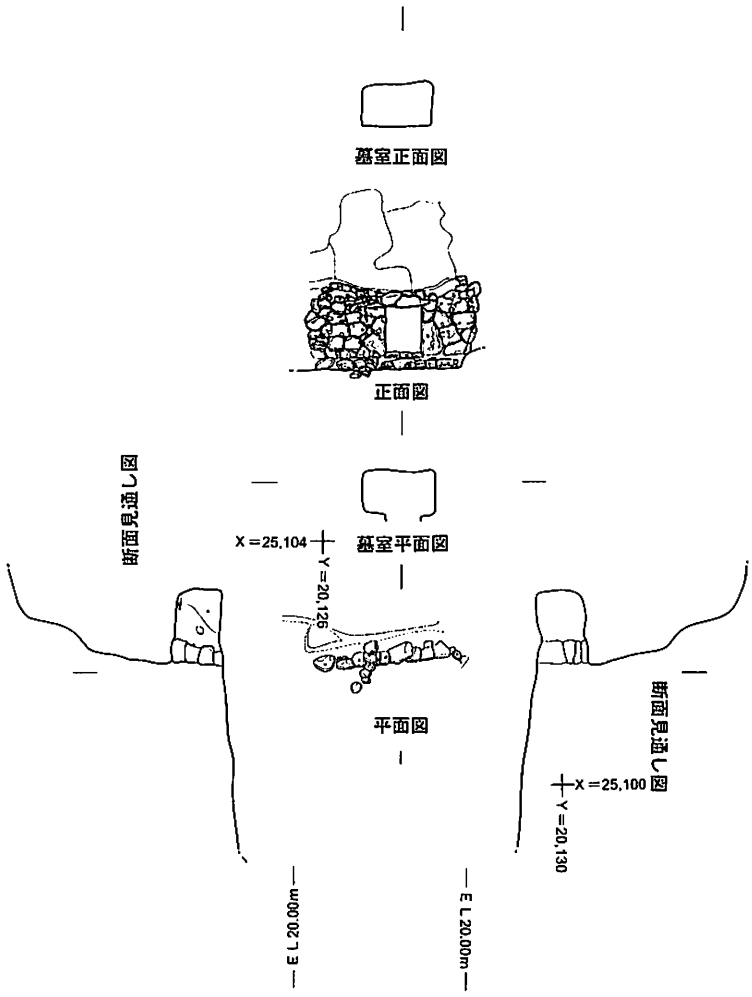
第34図 銘苅古墓群（南・B 地区）36号墓

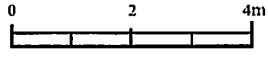


第35図 銘苅古墓群（南・B 地区）38号墓

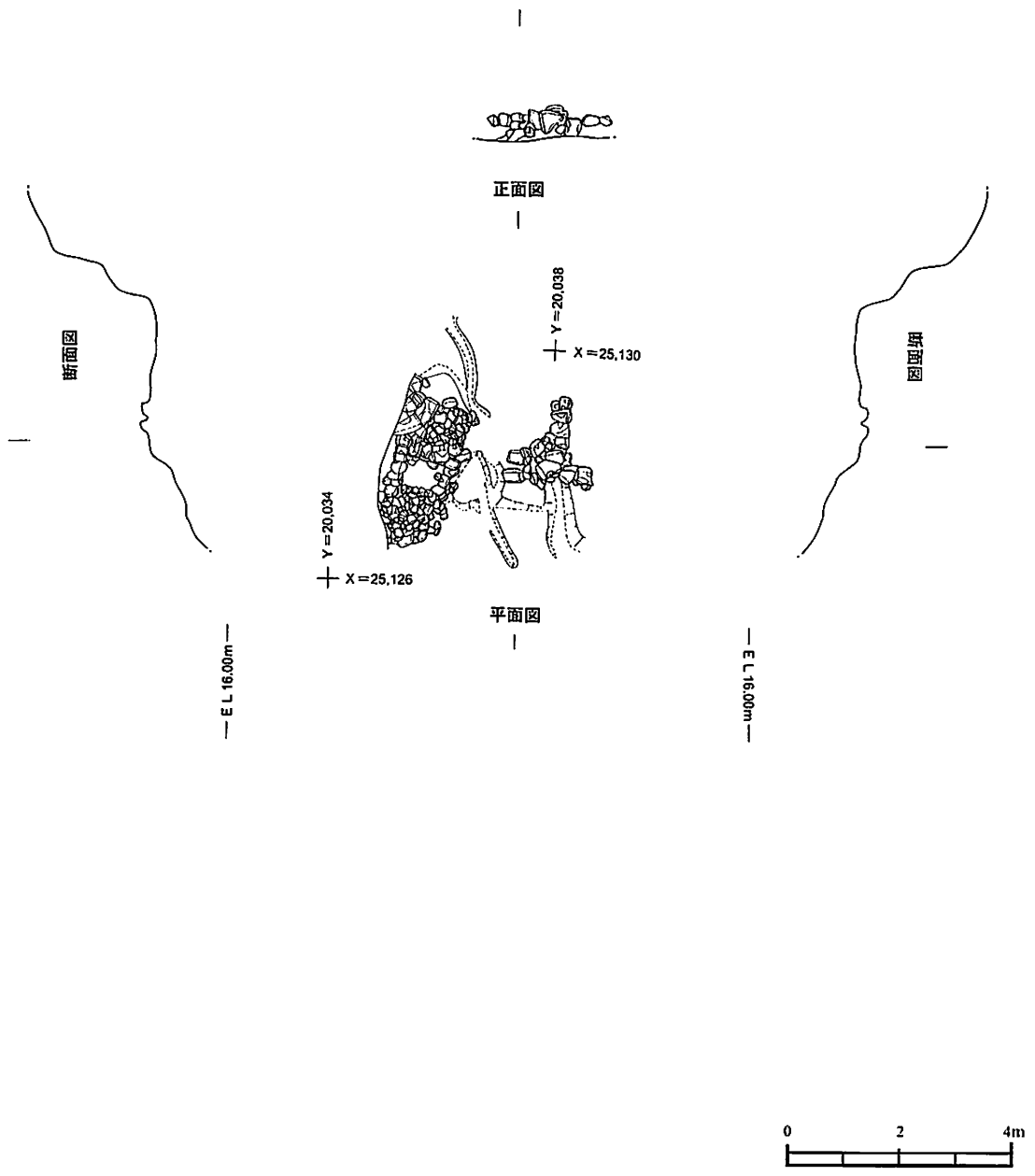


第36図 銘苅古墓群（南・B 地区）43号墓

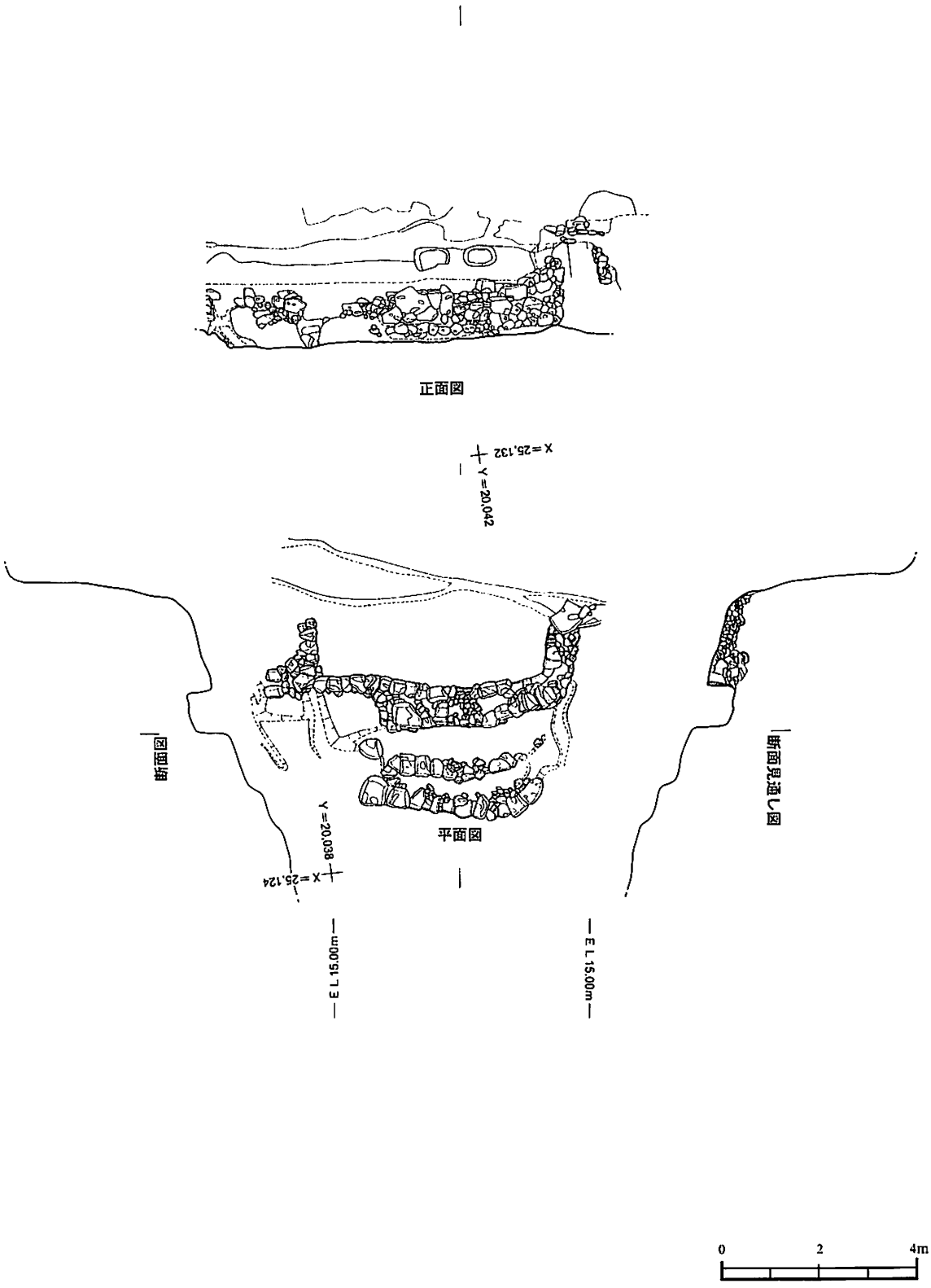




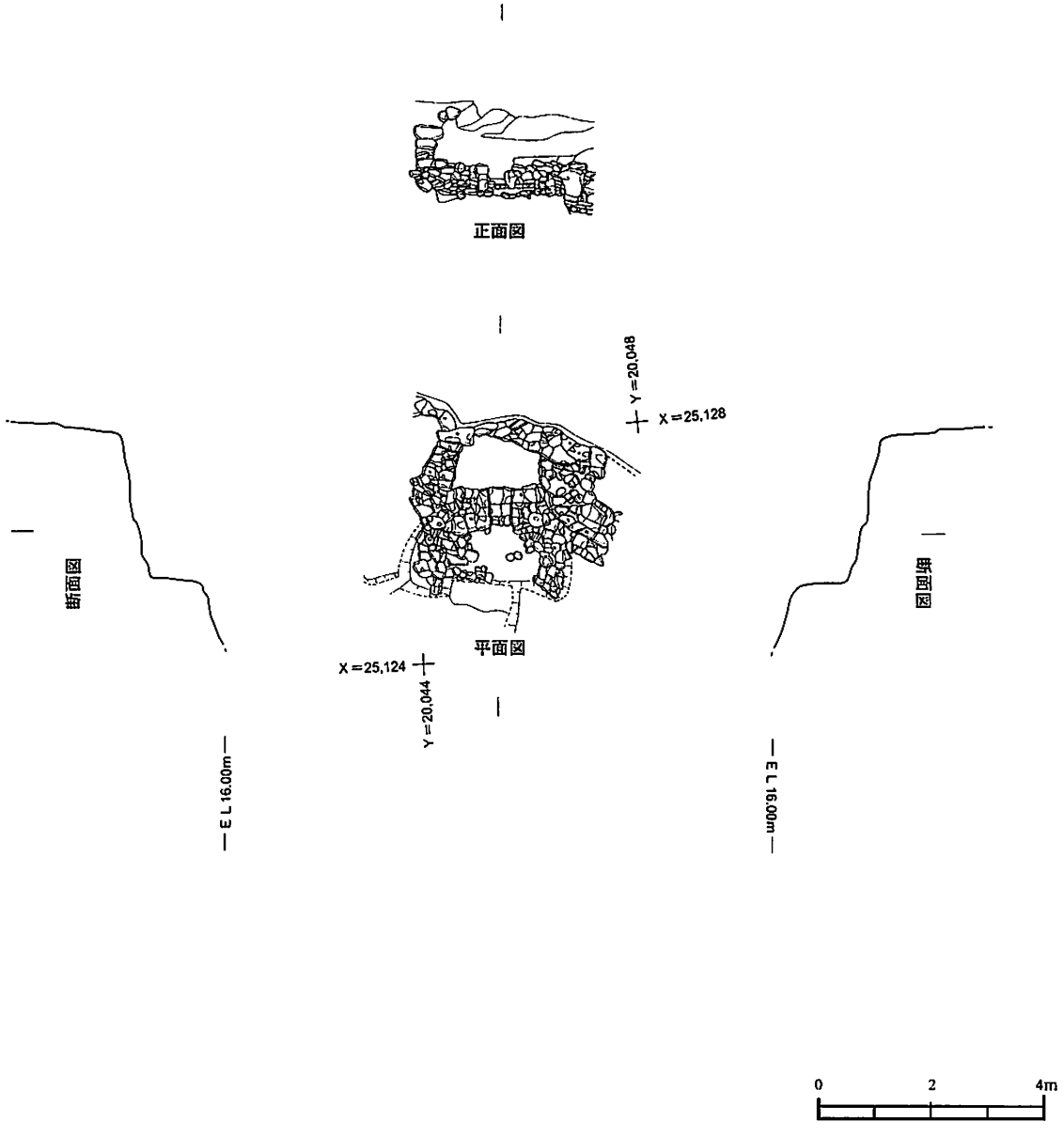
第37図 銘苅古墓群（南・B 地区）44号墓



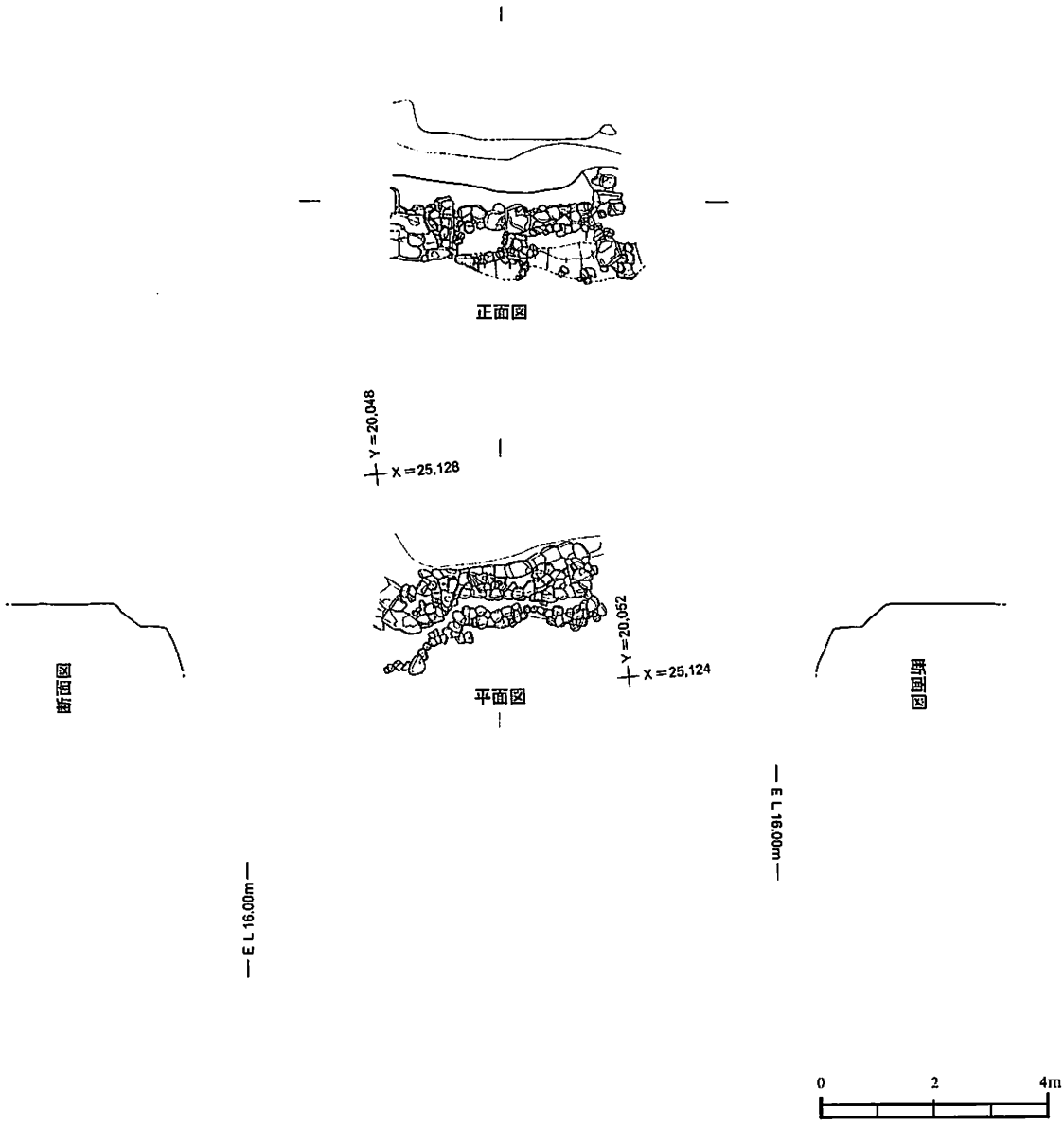
第38図 銘苅古墓群（南・B 地区）46号墓



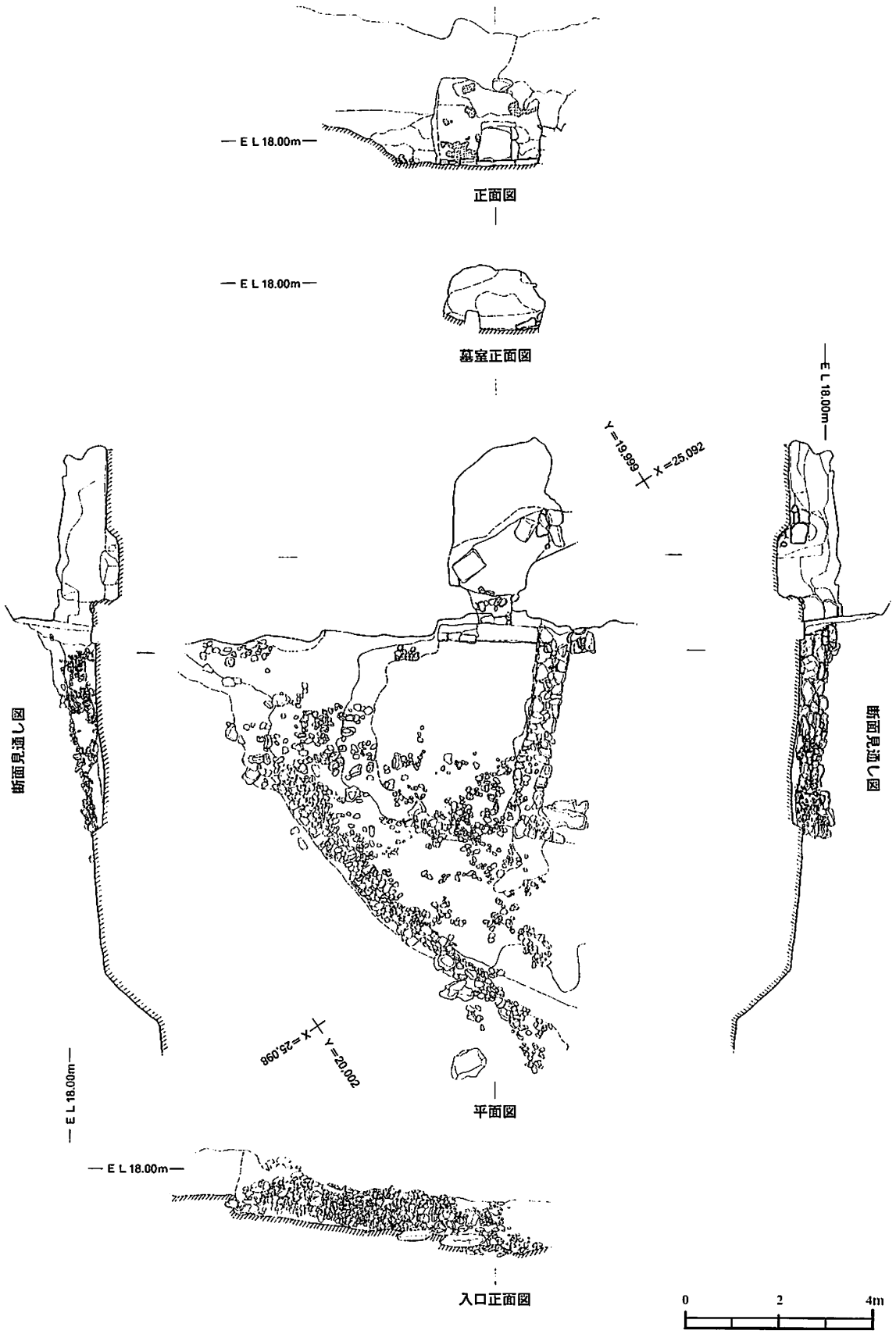
第39図 銘苅古墓群（南・B 地区）47号墓



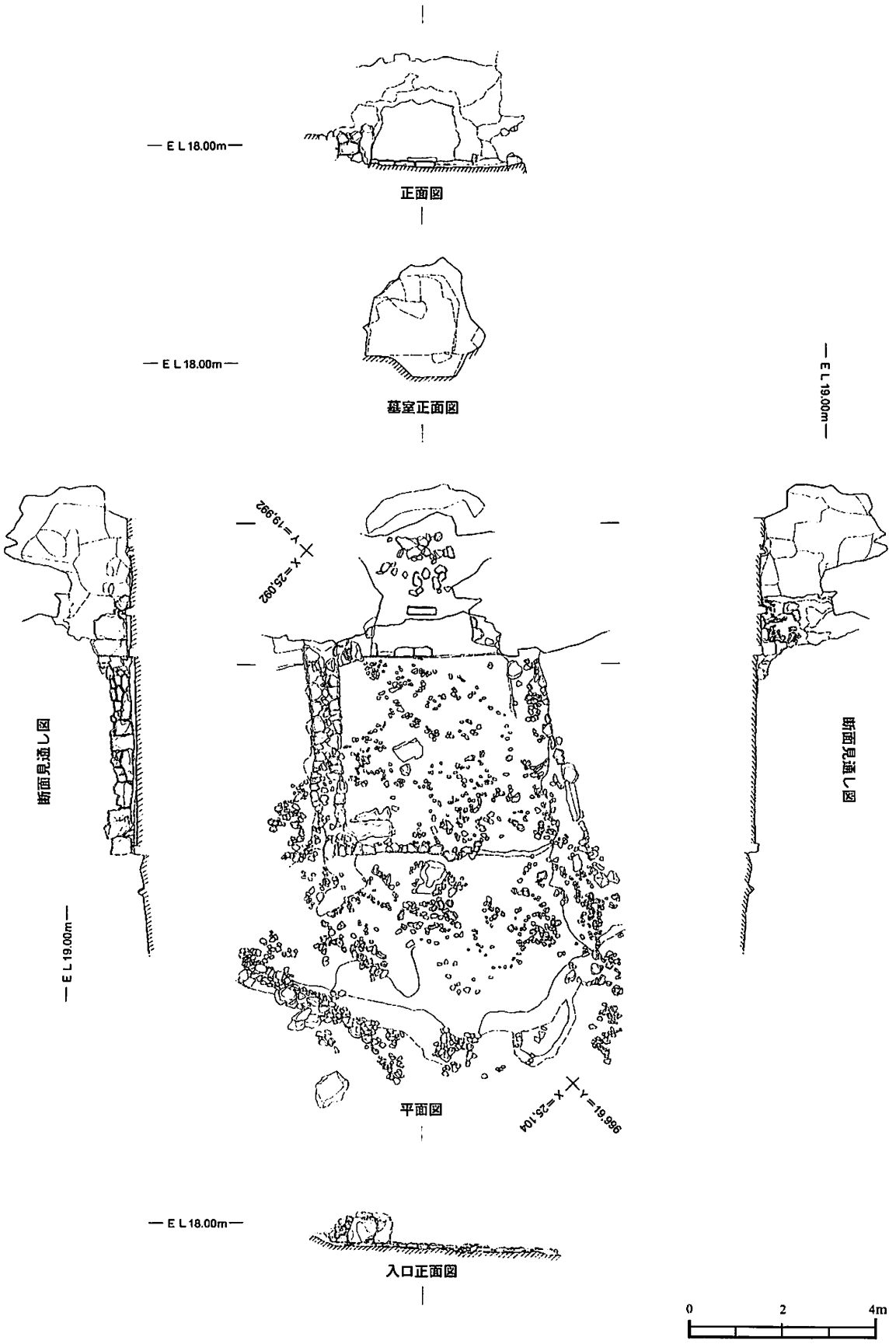
第40図 銘苅古墓群（南・B 地区）49号墓



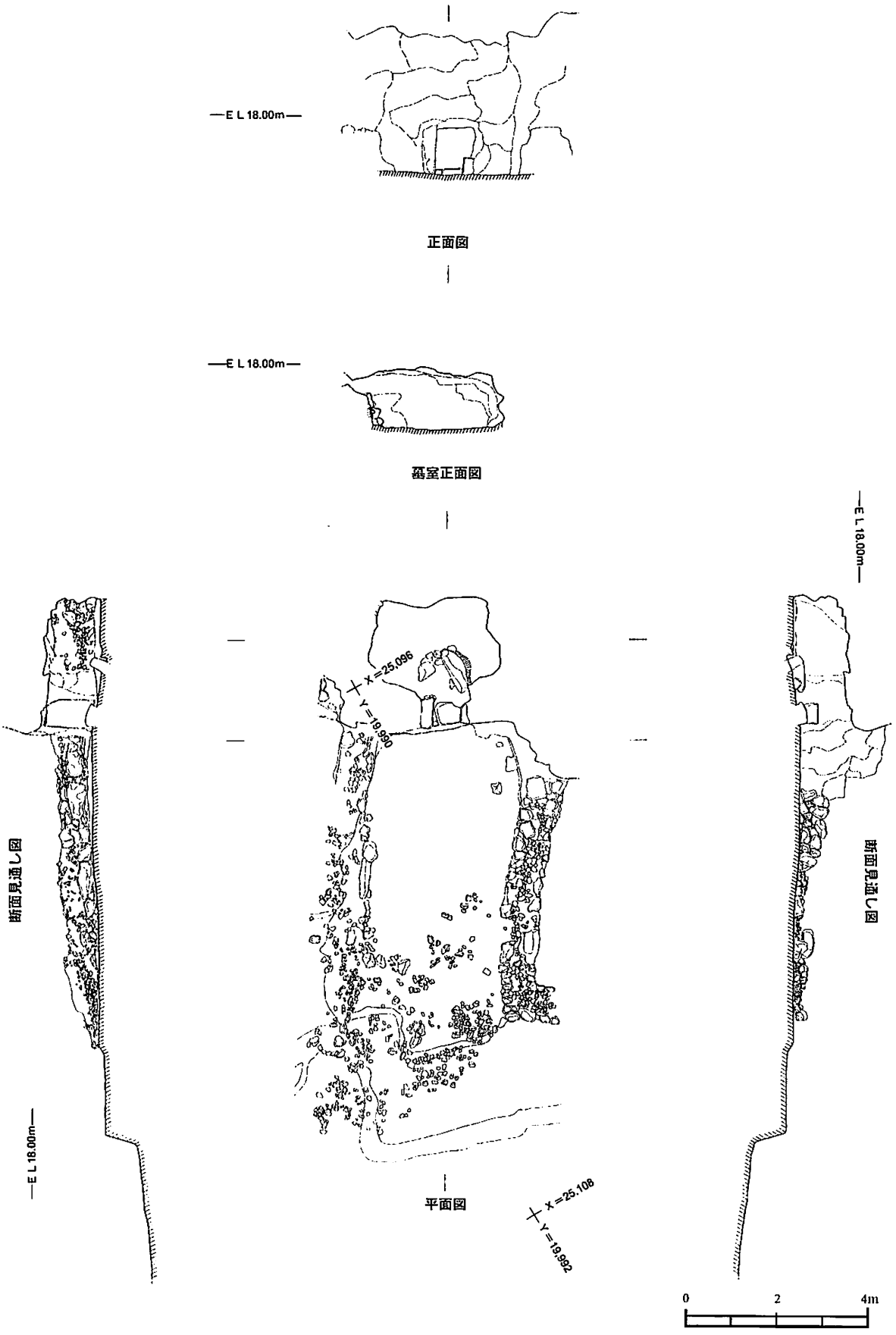
第41図 銘苅古墓群（南・B 地区）50号墓



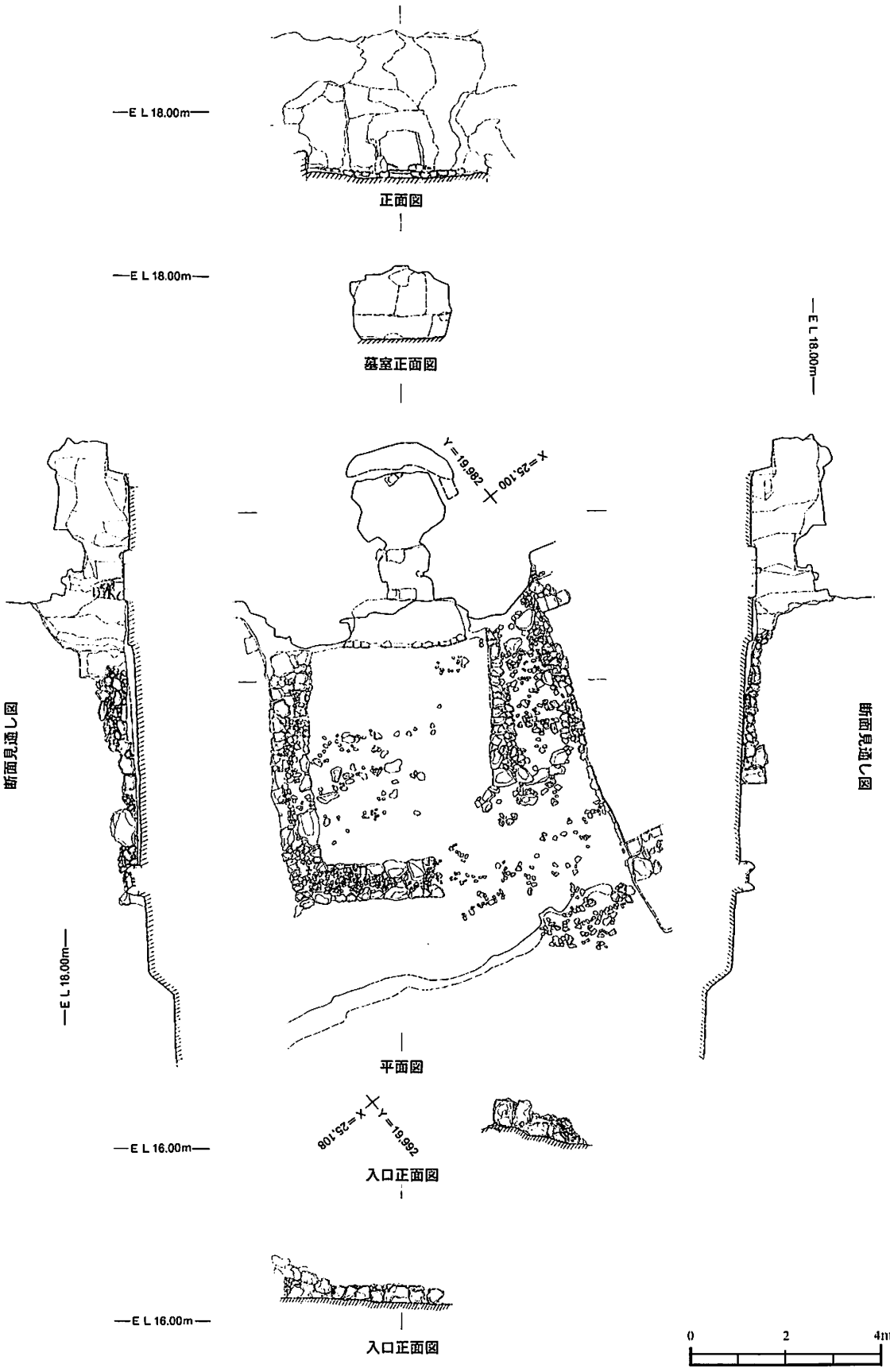
第42図 銘苅古墓群（南 ・ E地区）1号墓



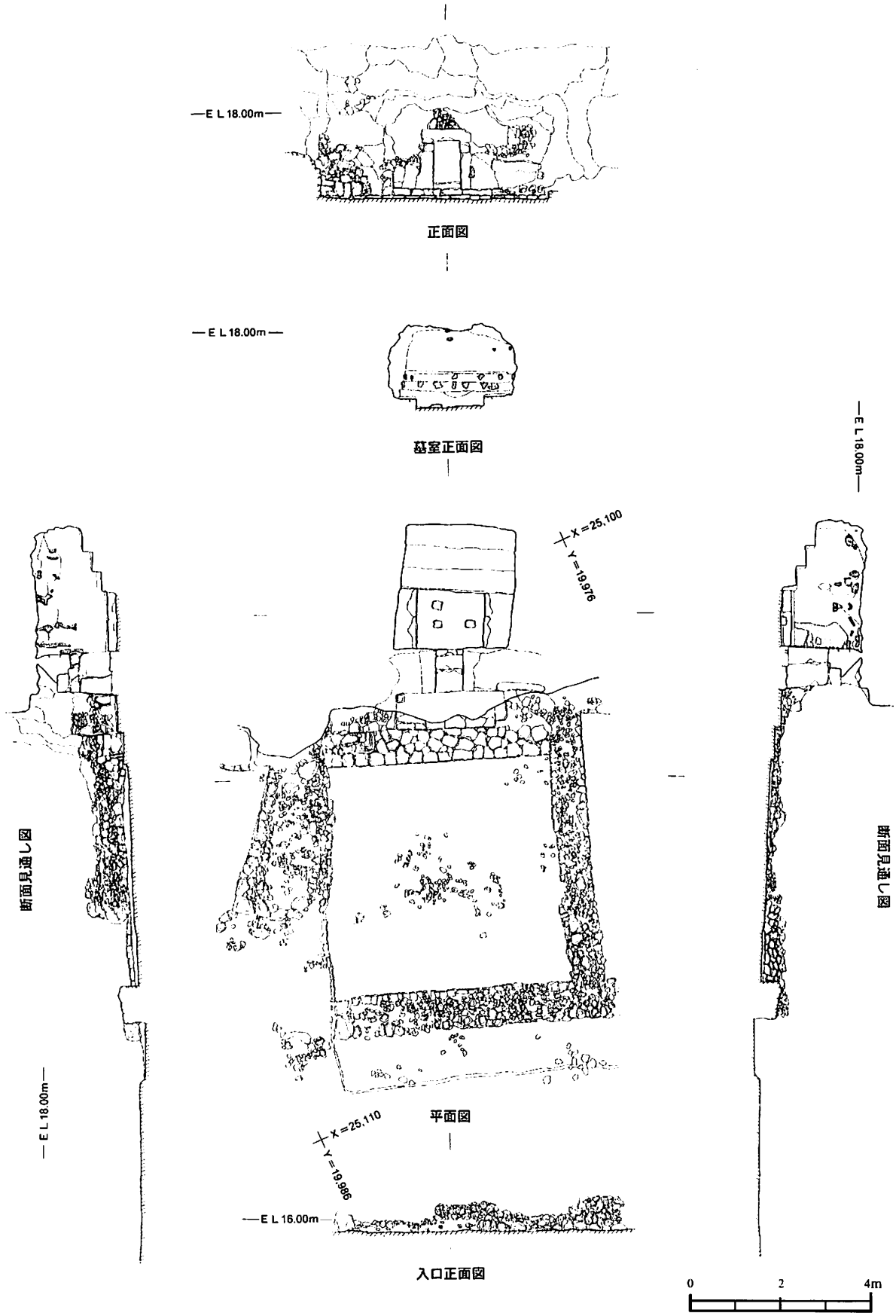
第43図 銘苅古墓群（南・E地区）2号墓



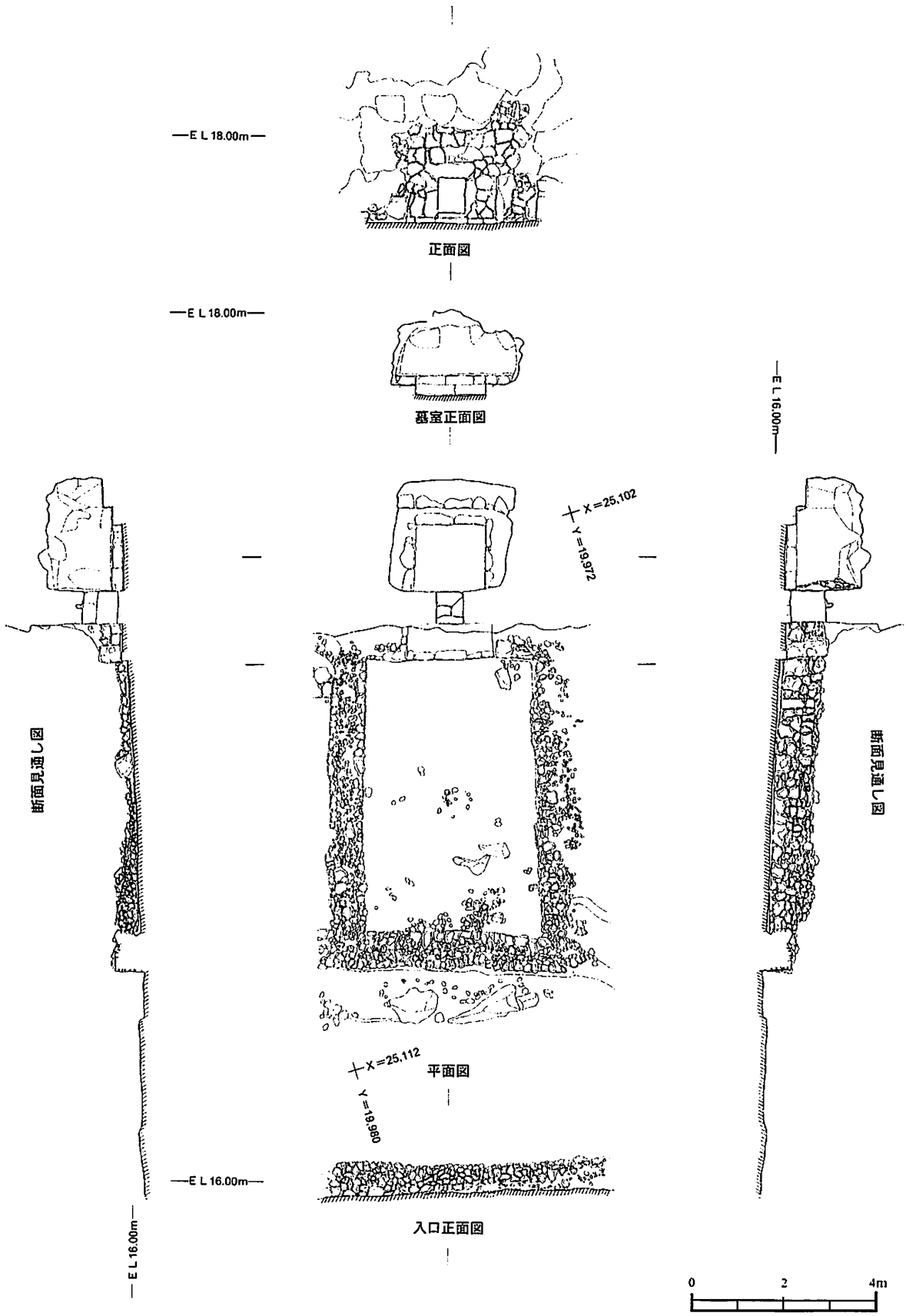
第44図 銘苅古墓群（南・E地区）3号墓



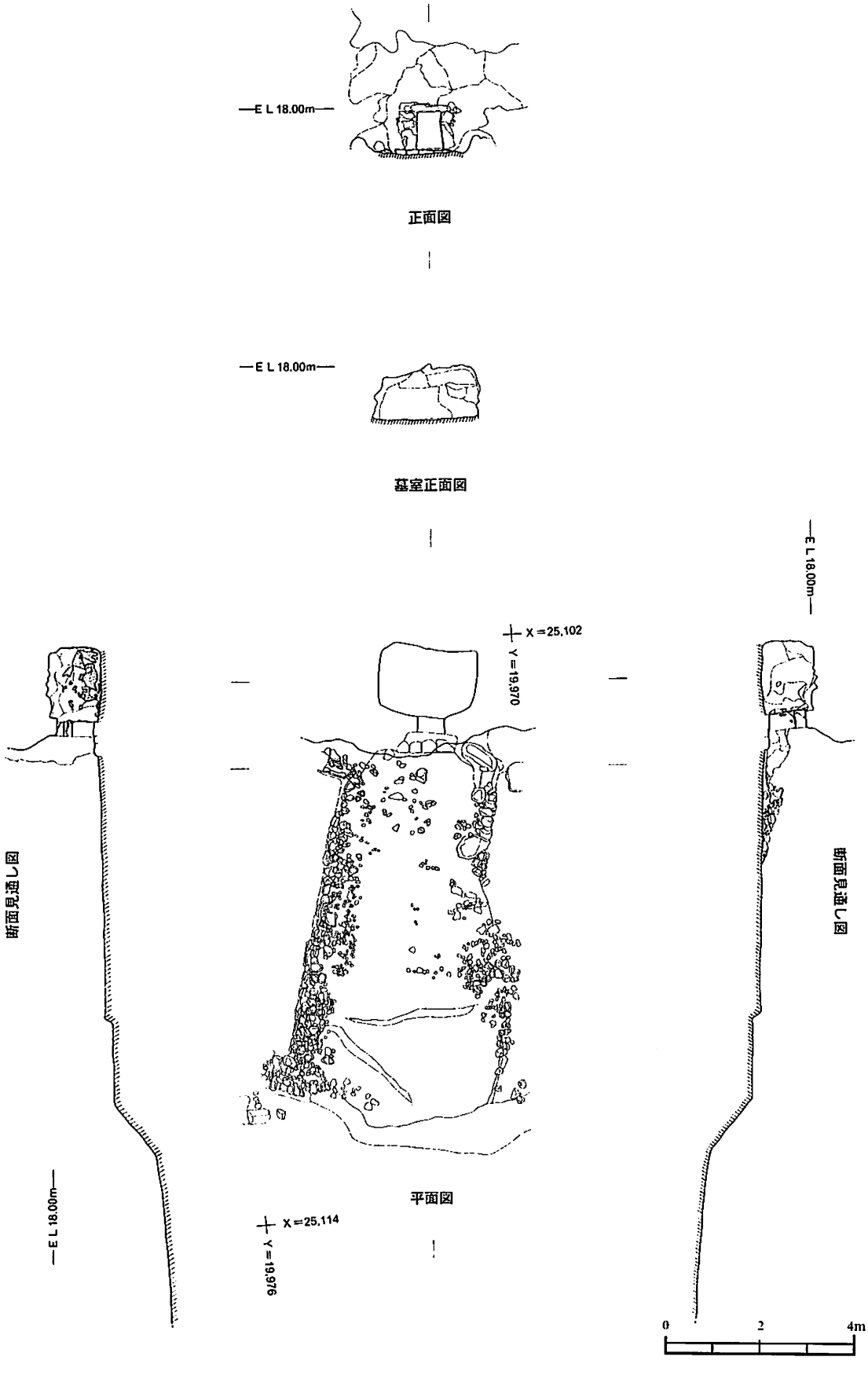
第45図 銘苅古墓群（南・Ｅ地区）4号墓



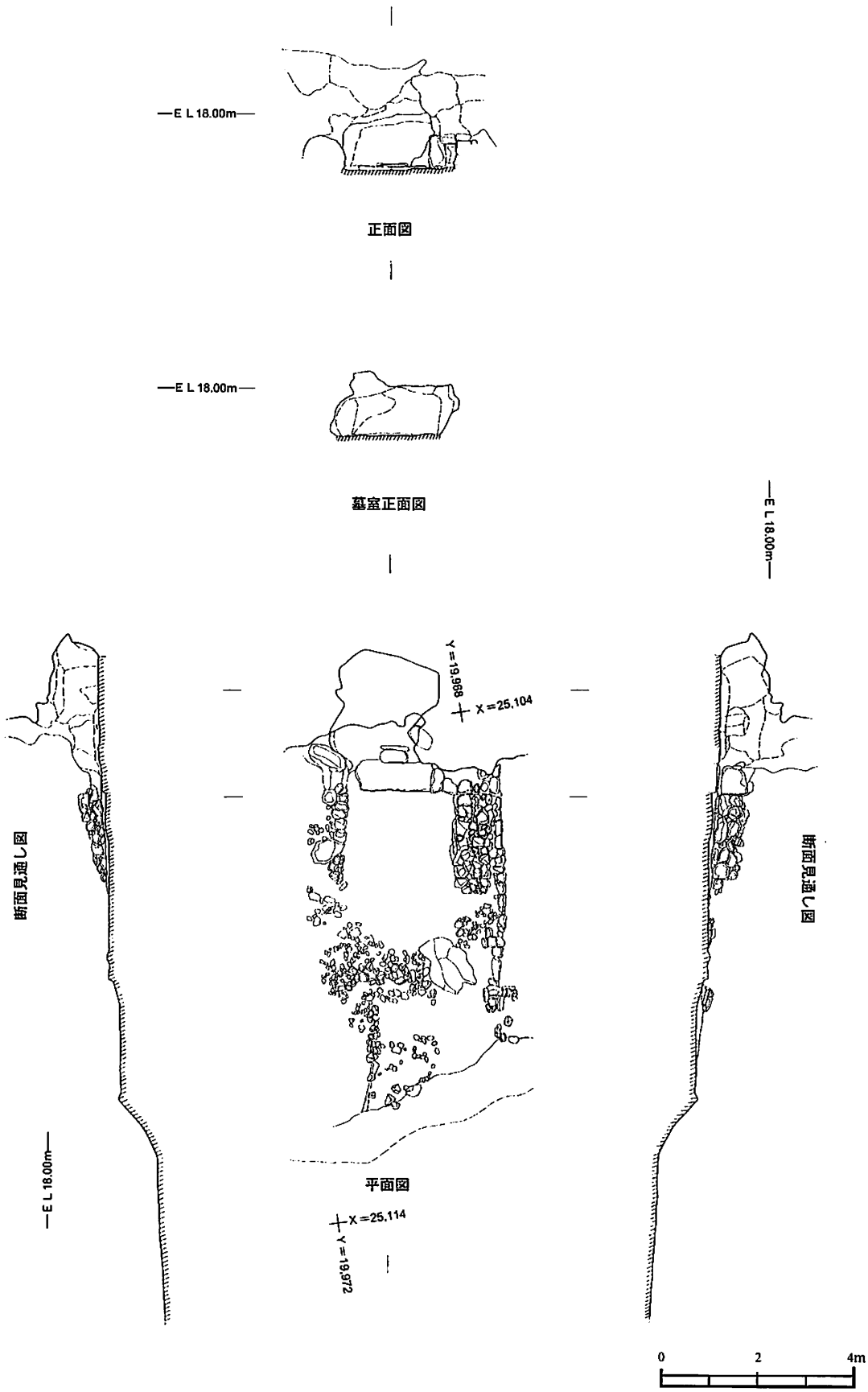
第46図 銘苅古墓群（南・Ｅ地区）5号墓



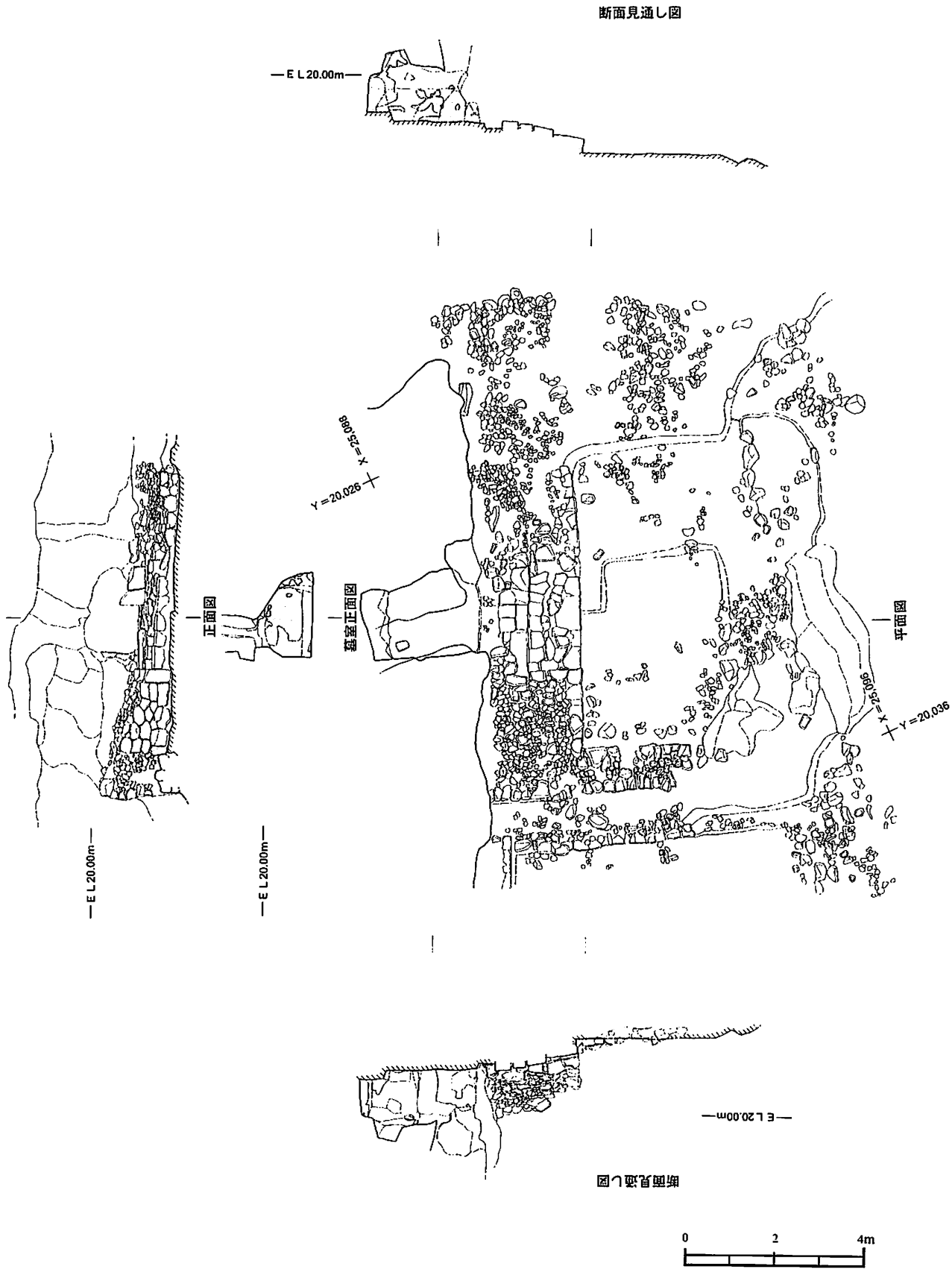
第47図 銘苅古墓群（南・E地区）6号墓



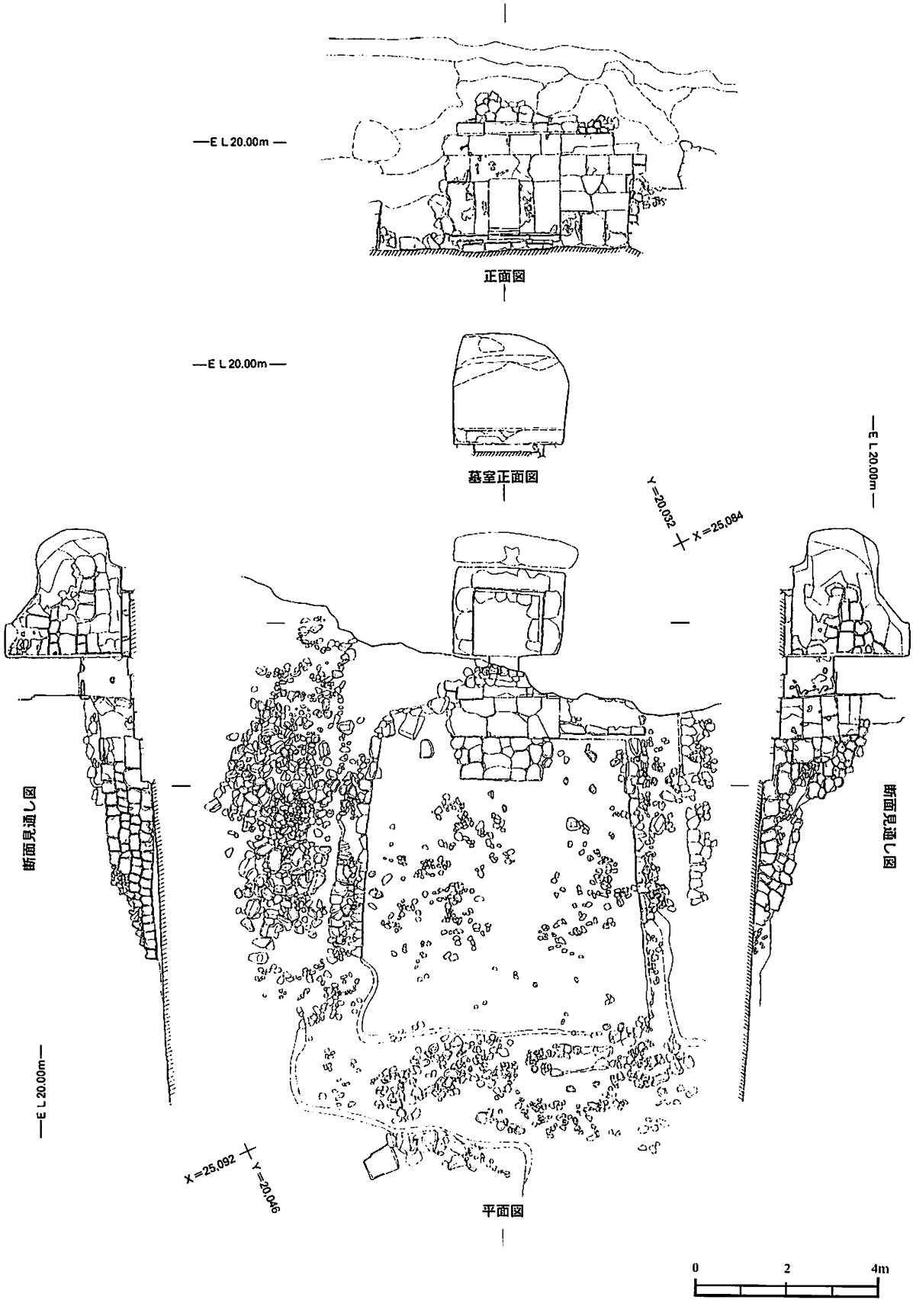
第48図 銘苅古墓群（南・Ｅ地区）7号墓



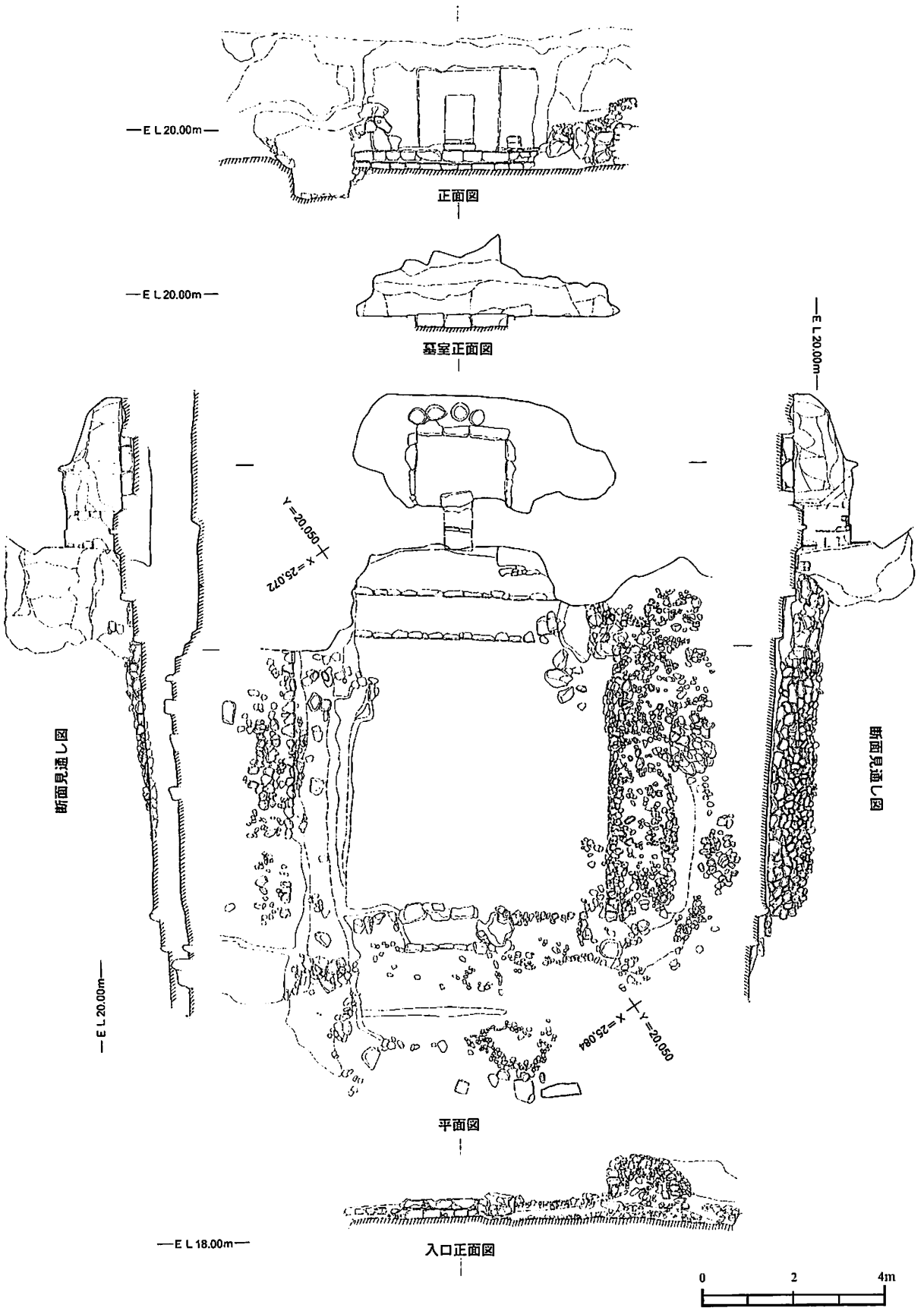
第49図 銘苅古墓群（南・Ｅ地区）8号墓



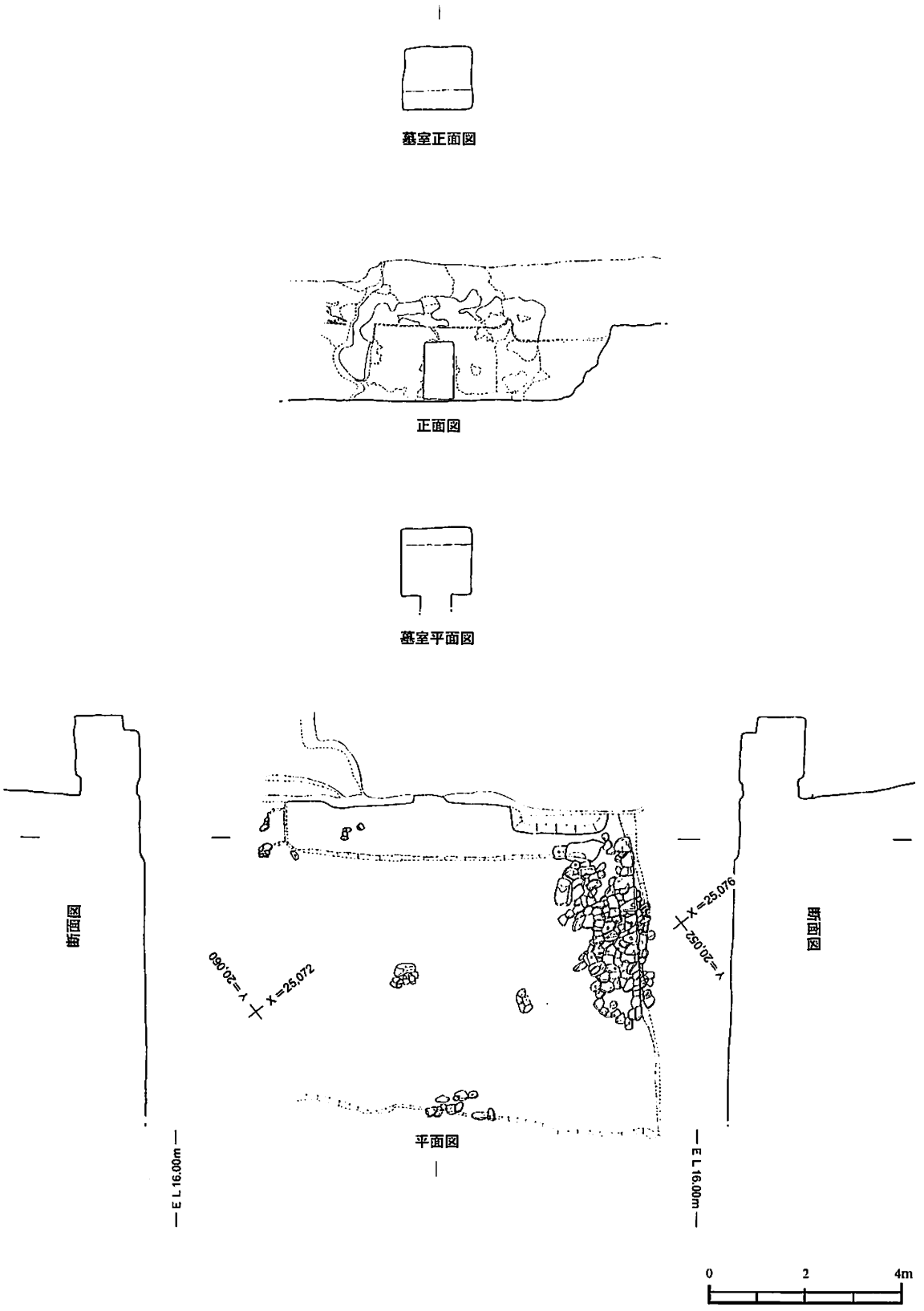
第50図 銘苅古墓群（南・Ｅ地区）11号墓



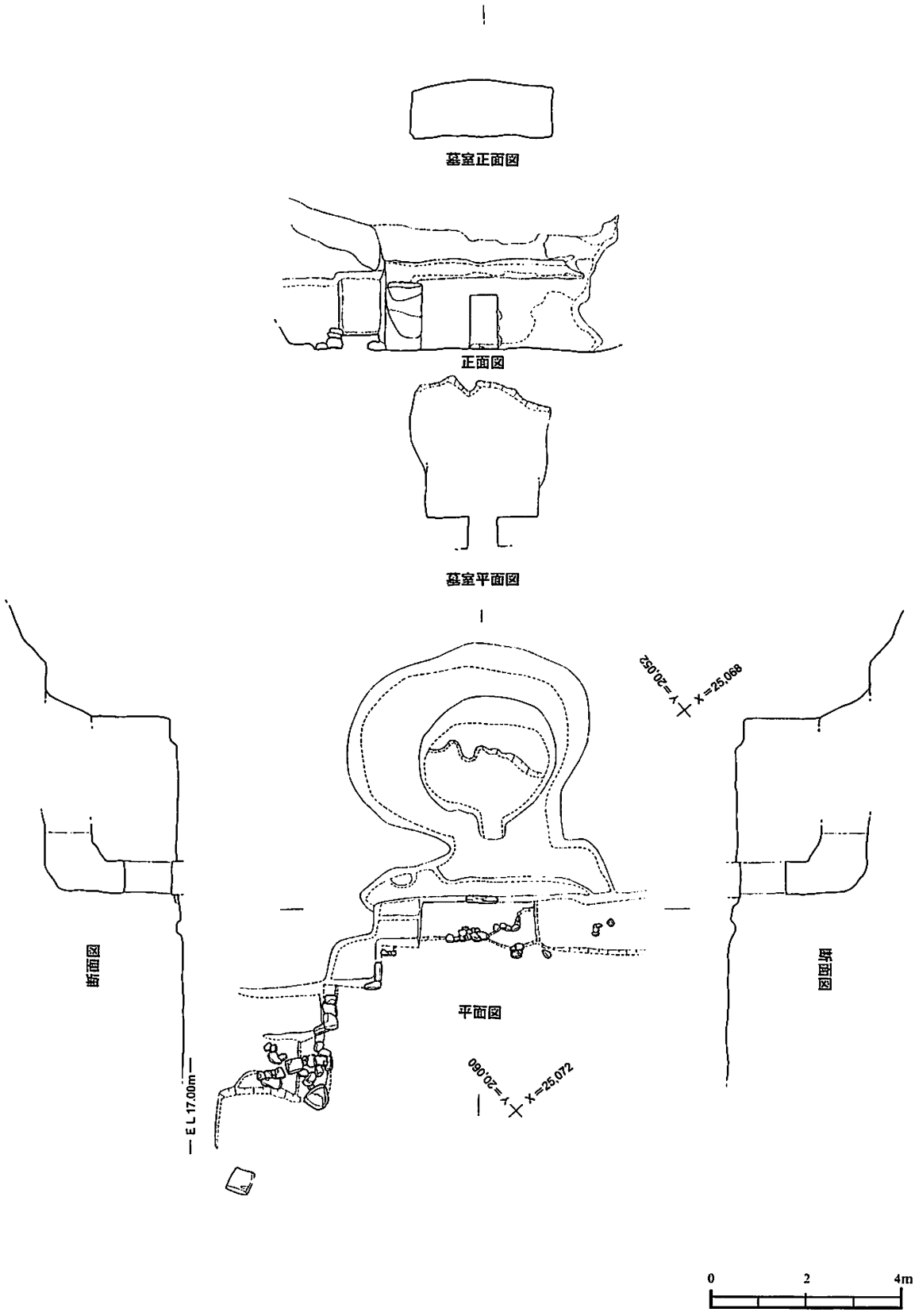
第51図 銘苅古墓群（南・E地区）12号墓



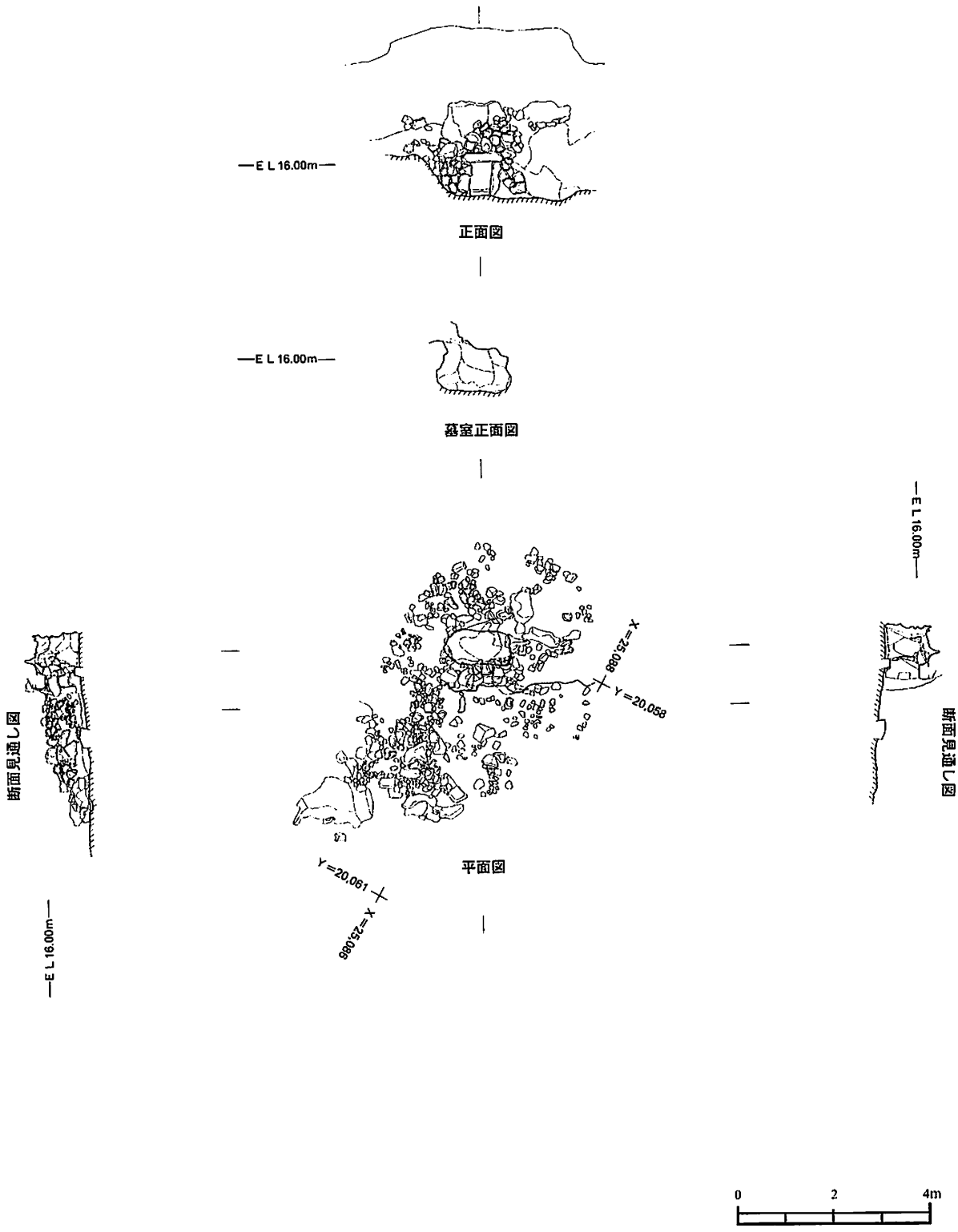
第52図 銘苅古墓群（南・Ｅ地区）13号墓



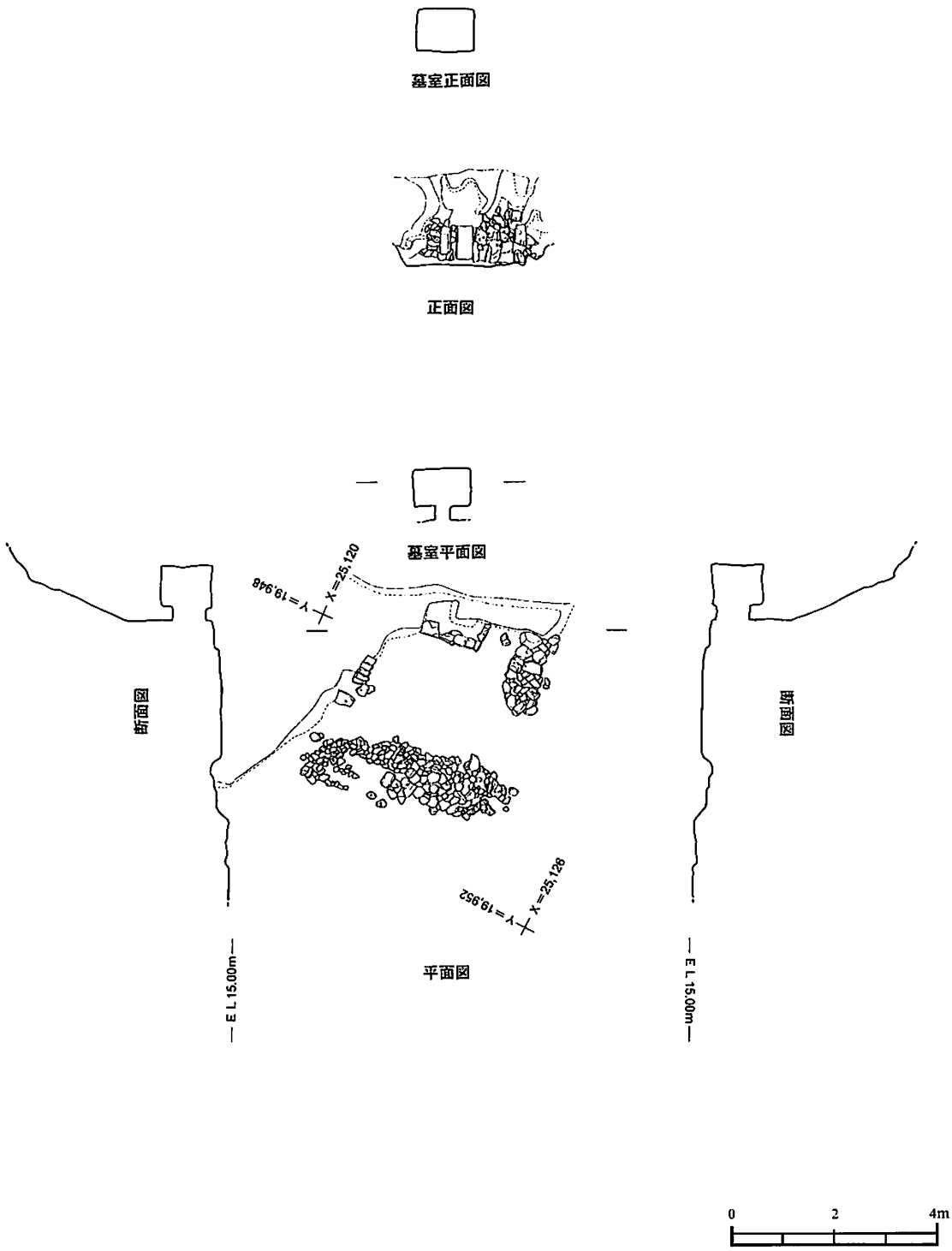
第53図 銘苅古墓群（南・E地区）14号墓



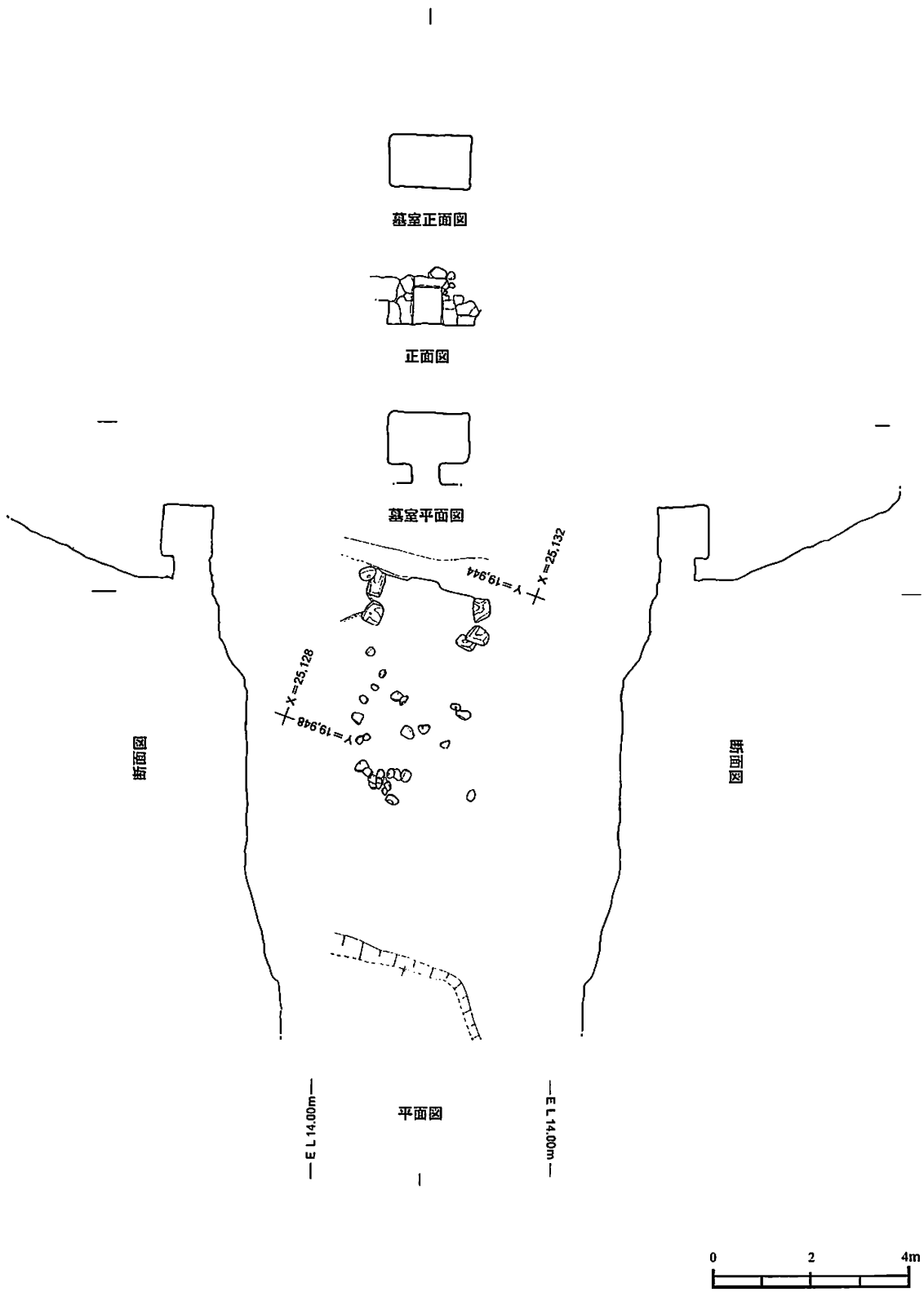
第54図 銘苅古墓群（南・Ｅ地区）15号墓



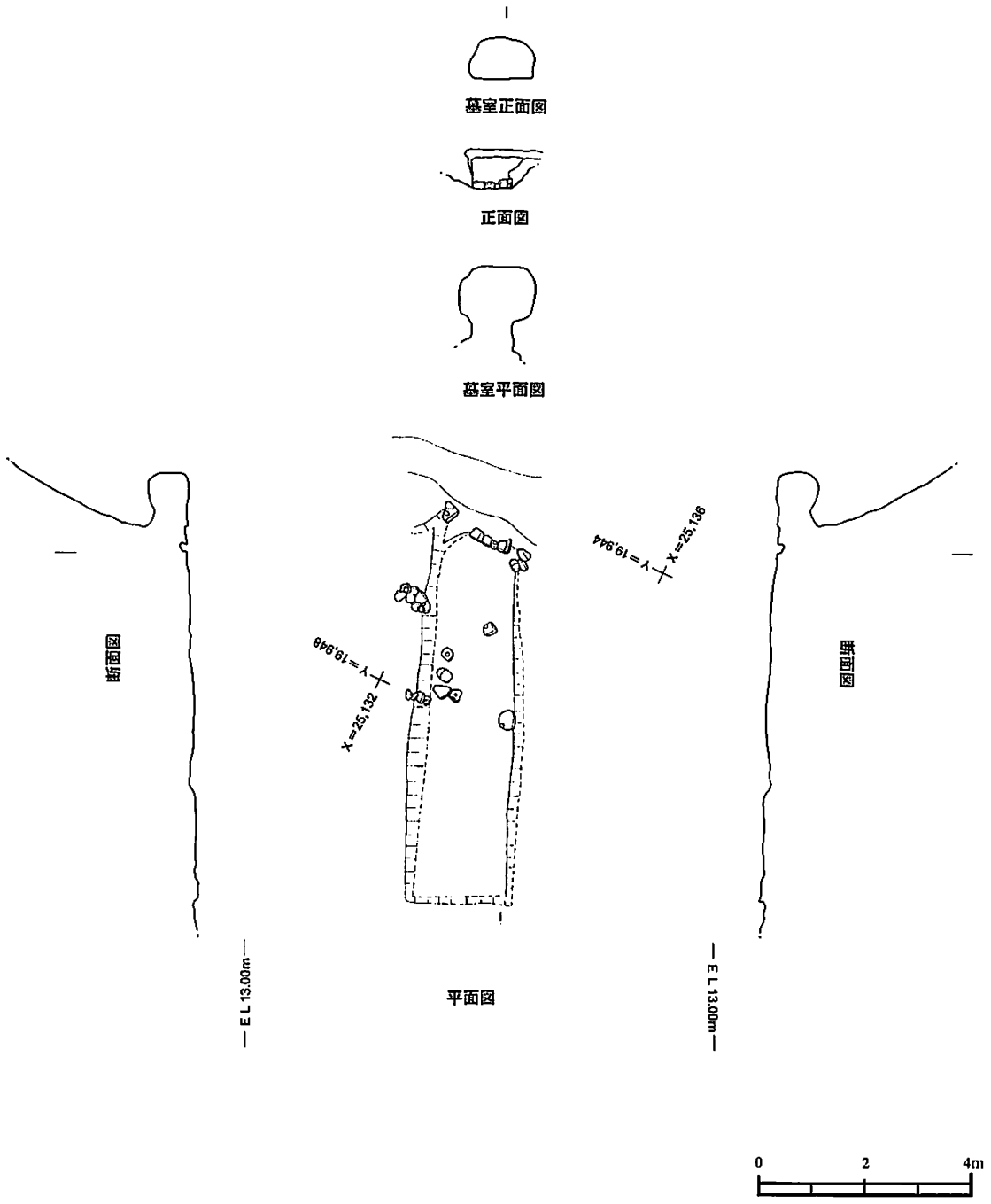
第55図 銘苅古墓群（南・Ｅ地区）17号墓



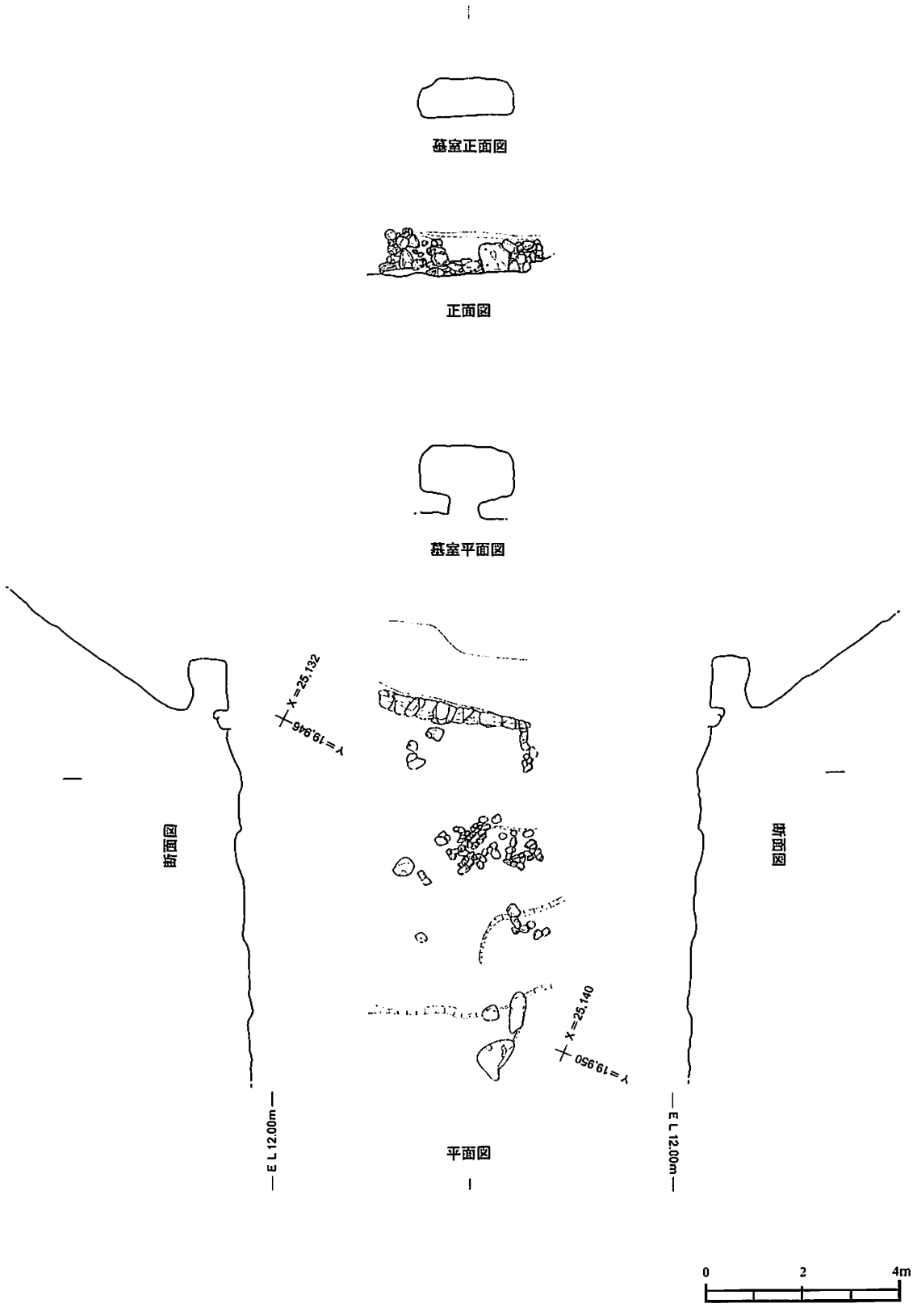
第56図 銘苅古墓群（南・Ｅ地区）19号墓



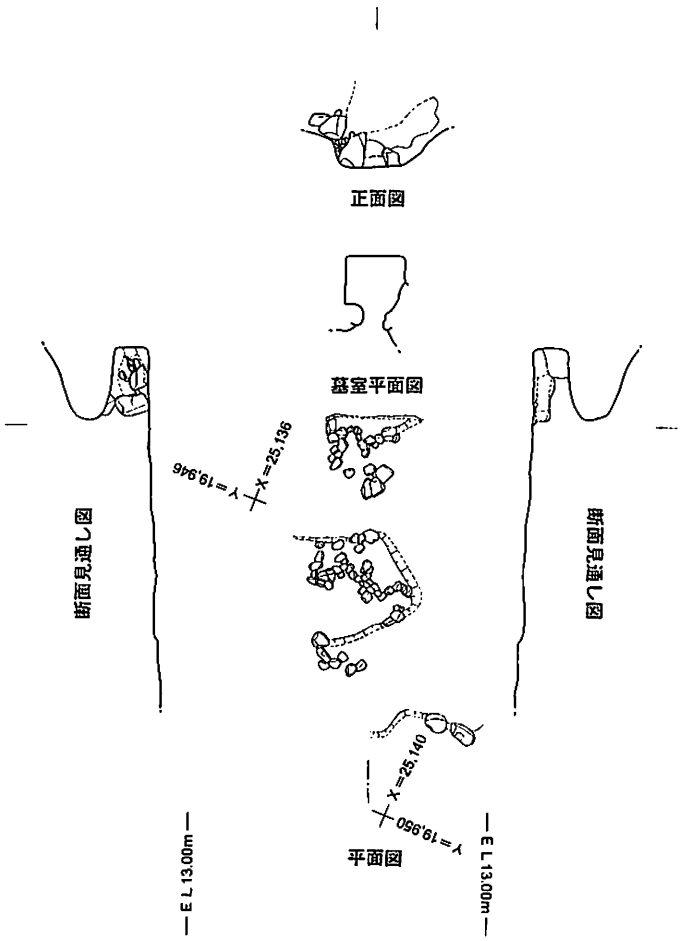
第57図 銘苅古墓群（南・Ｅ地区）21号墓

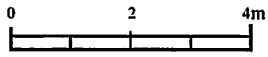


第58図 銘苅古墓群（南・E 地区）22号墓

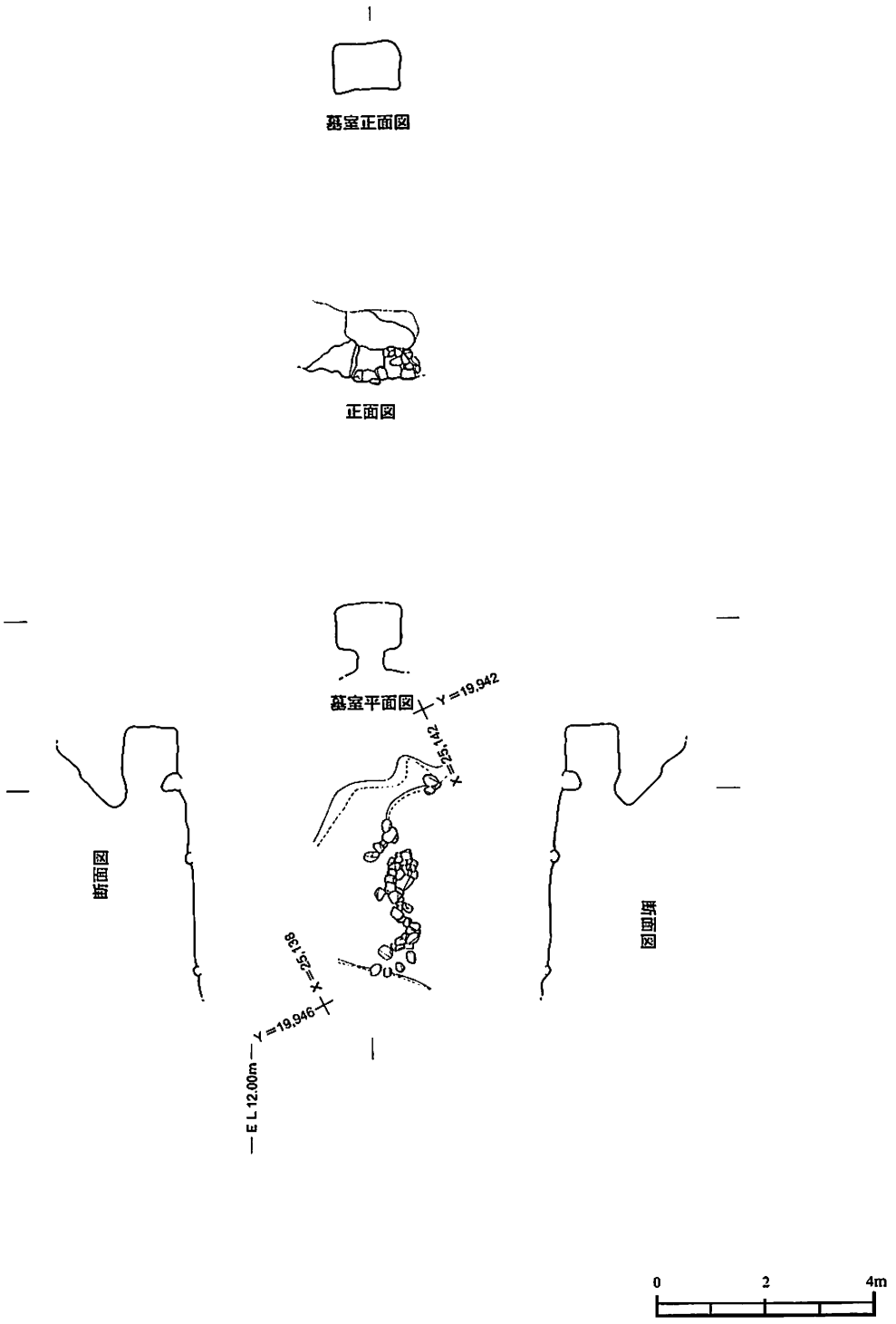


第59図 銘苅古墓群（南・E 地区）23号墓

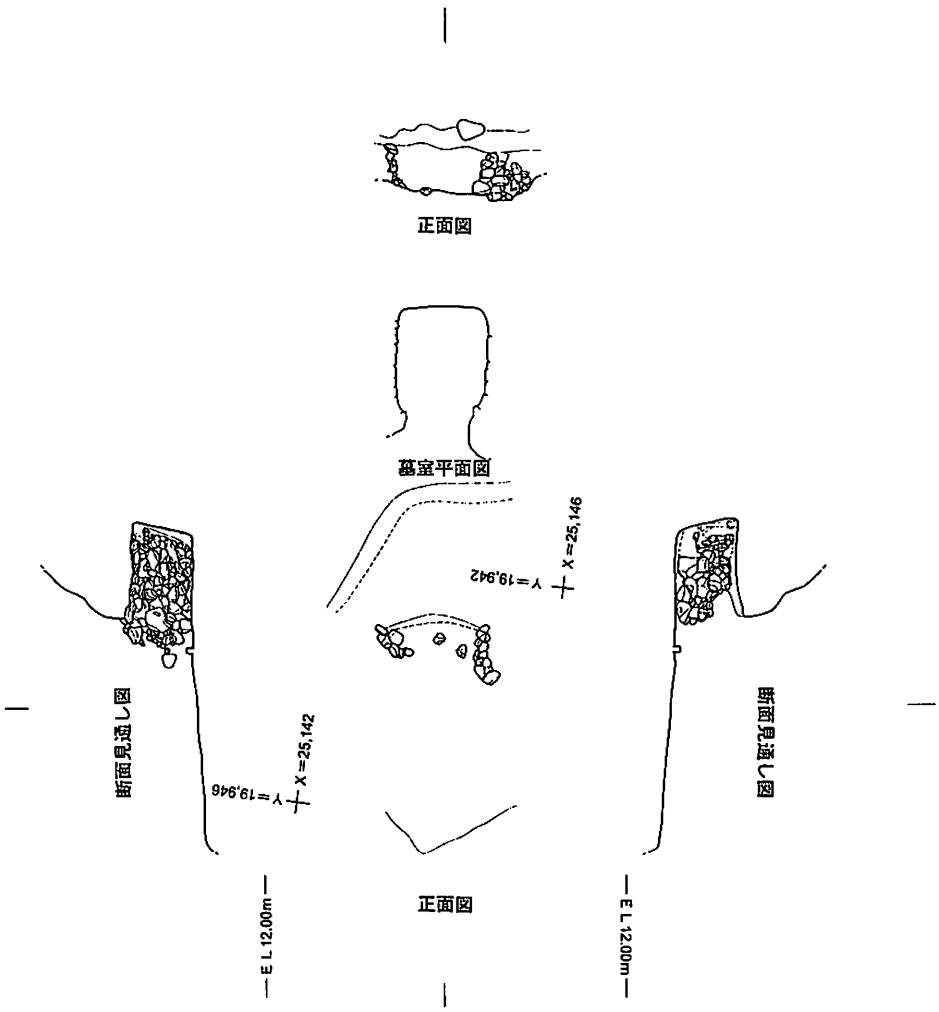


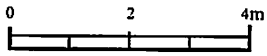


第60図 銘苅古墓群（南・E 地区）24号墓

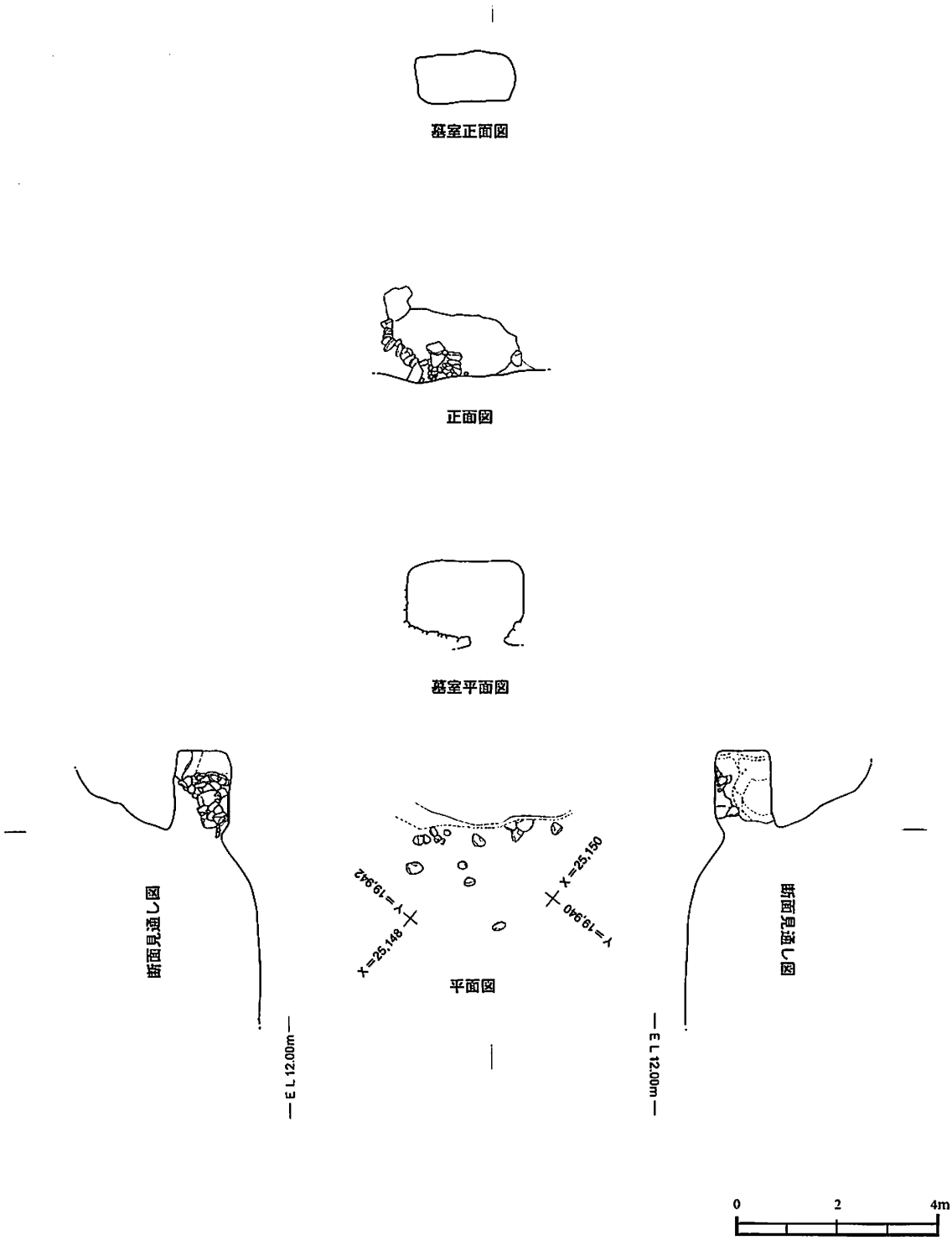


第61図 銘苅古墓群（南・Ｅ地区）25号墓

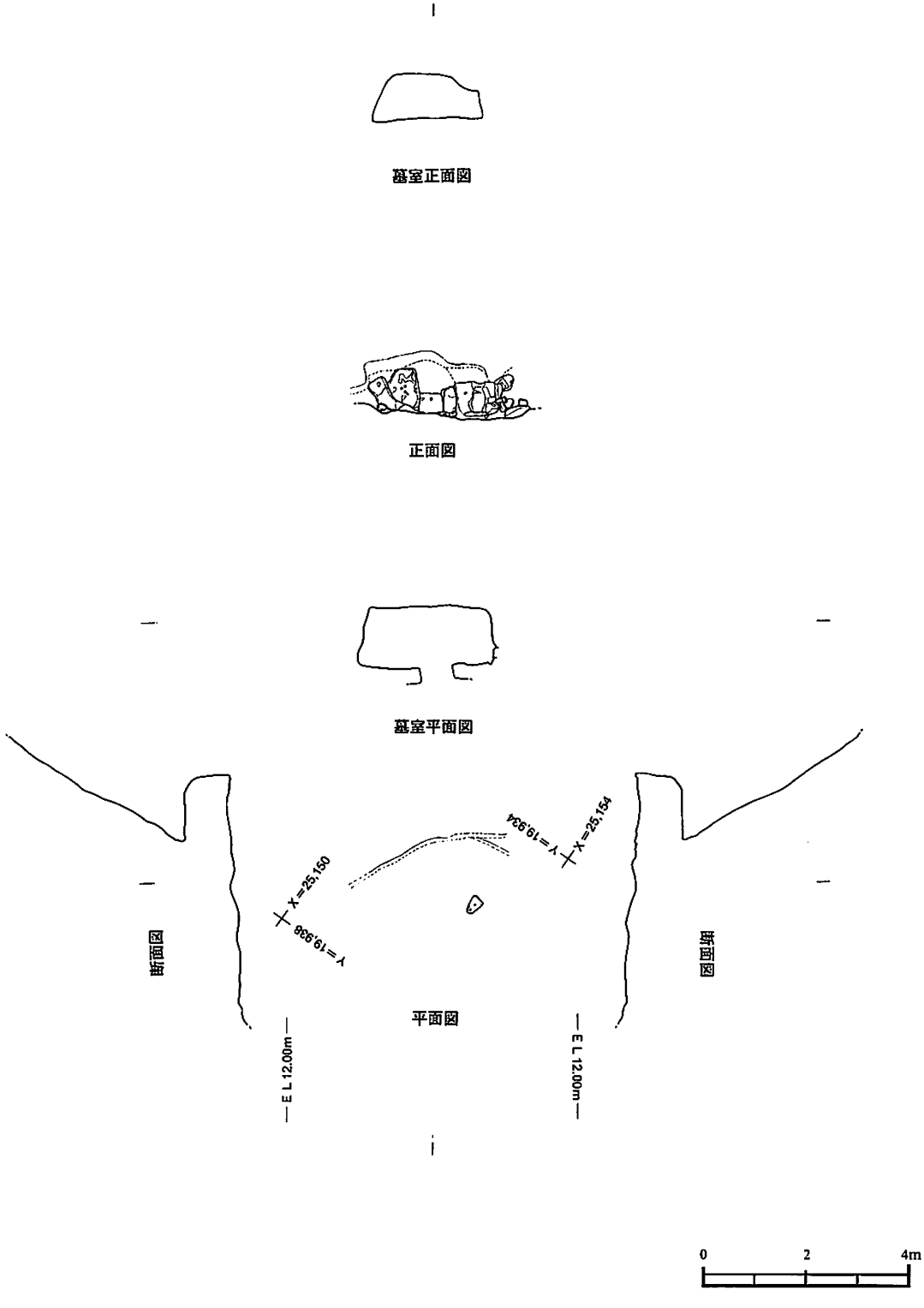




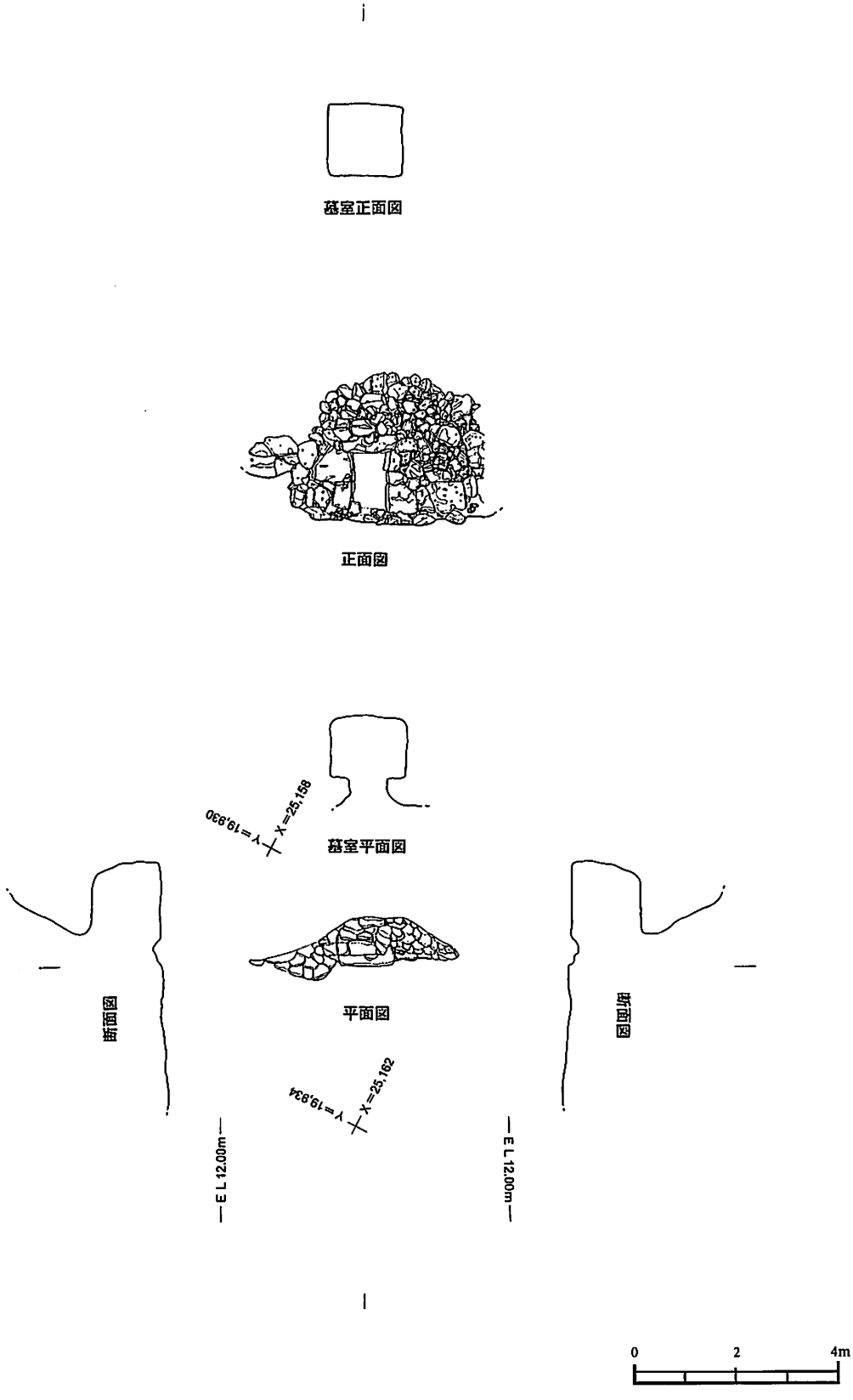
第62図 銘苅古墓群（南・Ｅ地区）26号墓



第63図 銘苅古墓群（南・Ｅ地区）27号墓



第64図 銘苅古墓群（南・E地区）28号墓

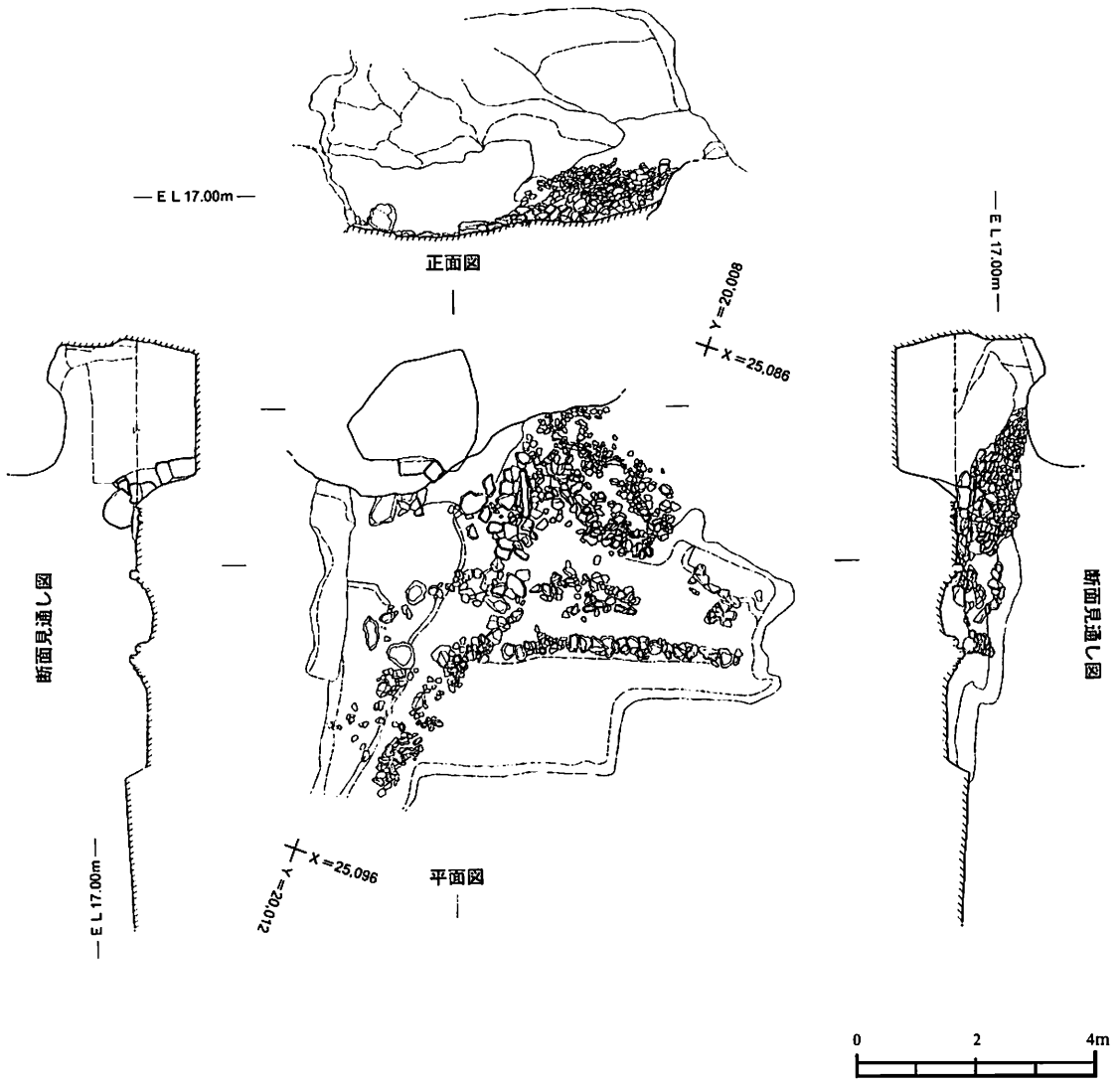


第65図 銘苅古墓群（南・Ｅ地区）30号墓

第３節　古井戸遺構

Ｅ地区において古井戸（井泉）が１基確認された。地元の人の話や戦前の地図等から「クシヌカー」と呼ばれる井戸と判明した。この井戸はかつて名護松尾原集落の共同井戸（ムラガー）として洗濯や作物を洗う等に利用されていたという。調査期間中も雨の後等、多量の湧き水があり、水を汲み出しながらのものであった。

遺構は琉球石灰岩とその下部のクチャとの接理面から湧き出す水を利用したもので、下部のクチャを掘り込んで溜井を設けている。溜井の周りとその内縁には石積みを巡らす。前庭部分は比較的平坦な面が広がっており、洗い場としての空間を有する。本来は石張りであったと考えられるが、破損が著しく明瞭でない。平場左前方には石列が走っており、これは排水溝もしくは洗い場の縁の一部と思われる。



第66図 銘苅古墓群（南・Ｅ地区）の井戸〈クシヌカー〉

第V章　遺　物

第1節　蔵骨器

1．専用蔵骨器

沖縄は中国との関係が深く、洗骨の習俗が入ってくる。死者を木の棺に納めて墓口から墓室内に入ってすぐの平坦地（方言でシルヒラシ）に安置し、死後3年以上の奇数年に墓庭で洗骨をし、その骨を蔵骨器（方言でジーシ）に納めて、シルヒラシの奥の壇や左右の壇の上に安置する。この二次葬のときに使用するのが蔵骨器である。蔵骨器の身や蓋には、納められた人の氏名、死亡年月日、洗骨年月日などが墨書で記されている。これを方言でミガチ（銘書）という。このミガチは蔵骨器分類に重要である。ミガチを参考にしながらつぎのように分類した。

なお、分類の関係で、B・E地区をまとめて分類、解説したが、図や観察表はB・E地区に分けて掲載した。また、実測図のないものでもミガチ（銘書）のあるものはすべて第6・7表に掲載した。

第1表　蔵骨器分類表

名称又は仮称	身	蓋
I　石製家形	方形で4脚付	入母屋
II　陶製家形	〃	a．切妻 b．入母屋（御殿形） c．寄棟（民家形）
III　陶製無頸甕形（ボージャー）	1．中型（高さ50cm前後） 2．大型（高さ60cm前後） 3．小型（高さ40cm前後）	a．宝珠形つまみ b．饅頭形つまみ c．つまみなし
IV　陶製有頸甕形	1．文様なし（ボージャーに近い） 2．貼付文 3．貼付文＋線彫文 4．線彫文	a．5㎜以上の「き」 b．5㎜以下の「き」 c．「き」なし
V　陶製軒付甕形	1．降棟（くだりむね）に装飾のないもの 2．降棟に獅子等の装飾があるもの	a．降棟に装飾のないもの b．降棟に獅子等の装飾があるもの

※蔵骨器観察一覧（第4・5表）の形式分類は上記表によるもので、例えばIII 1は陶製無頸甕形（III）の中型（1）を表わし、III aは陶製無頸甕形（III）の蓋で宝珠形つまみ（a）の付くものを表わしている。以下同じように組合わせている。

I　石製家形蔵骨器（第67図１～４、第85図１～４）

琉球石灰岩をくりぬいて造ったものがほとんどである。身は長方形で４脚が付く。

蓋は入母屋形がほとんどである。

II　陶製家形蔵骨器

陶器の家形で、素焼と釉をかけたものがある。身は長方形で４脚が付く。

蓋は　a．切妻で素焼（アカムン）（第86図１、２）

b．入母屋（御殿形）　（a）素焼（アカムン）（第68図１、２）

（b）焼締（第68図３、第69図１、２）

（c）施釉（第70図１、２、第86図３）

c．寄棟（民家形）　（a）施釉（第71図１、２）

（b）素焼（瓦質）（第71図３、４）

III　陶製無頸甕形蔵骨器

方言で「ボージャー」と言われているものである。口縁部は丸く肥厚し、頸部がほとんどない。これには喜名焼と壺屋焼があるが、喜名焼は第72図１と第87図１・２だけである。

身は１．中型（高さが50cm前後）（第72図１・３・５・７、第73図１・３・５・７、第75図２～４、第87図２・３・４）

２．大型（高さが60cm前後）（第75図６、第76図１・２）

３．小型（高さが40cm前後）（第76図４・５）

に大別される。中型を最初に入れたのは、壺屋焼より古い喜名焼には大型はほとんどなく、中型が主であることによる。文様は正面窓の両サイドに蓮花の線彫り文が喜名焼にはよく見られる。壺屋焼はかなり喜名焼の影響を受けたようで、壺屋の古いものは窓の庇や窓の両サイドに蓮花文など喜名焼を模倣したのが見られる。形から見ると喜名焼や壺屋焼の古いものは胴部で大きく膨らむが、壺屋焼はその後肩部が膨らむようになり、最も新しい時期になると胴部も肩部もあまり膨らまない寸胴形に近いものへと変化していく傾向にある。

正面には１～４個の孔を穿った窓があるが、その窓の上に付けられた庇によってつぎのように大別した。なお、庇と窓の左右の枠は別々に造ってから貼付している。

①　庇が２cm以上出ているもの。これには

①－１　庇が直線的なもの（第72図１、第87図２など）

①－２　庇が破風状のもの（第76図１など）

②　庇が１cm台のもの。これには

②－１　庇が直線的なもの（第72図５など）

②－２　庇が破風状のもの（第75図６など）

③　庇が１cm以下しか出てないもの。これには

③－１　庇が直線的なもの（第74図２など）

③－２　庇が破風状のもの（第76図４など）

蓋は　a．宝珠形つまみの付くもの（第72図６、第73図６など）
　　b．饅頭形つまみの付くもの（第72図２、第73図４など）
　　c．つまみの付かないもの（第74図１、第77図８～11など）

に大別される。宝珠形としたのはつまみの内側が空洞になっているもので、饅頭形は内側に空洞のないものとして大別した。喜名焼はほとんど宝珠形で、壺屋焼の古いものも宝珠形が多い。また波状文などの文様も見られる。

Ⅳ　陶製有頸甕形蔵骨器

頸部が立ち上がるタイプで、素焼も見られるが、ほとんどはマンガン釉が施されている。

身　１．文様のないもの（ボージャーに近い）
　　２．貼付文（蓮花など）（第78図２・４・５、第88図１など）
　　３．貼付文＋線彫文（第79図２・３・５・６など）
　　４．線彫文（第80図２・３、第88図６・７など）

に大別される。

蓋の大きな特徴は「き」（蓋の鍔の内側に突出したもの。鍔全体に廻っており、これは蓋が身からずれるのを防止するもの）である。

a．５㎜以上の大きな「き」　（第78図３、第81図６・７など）
b．５㎜以下の小さな「き」　（第78図１、第81図９～11など）
c．「き」がないもの　（第82図10～13、第89図４など）

に大別した。喜名焼や壺屋焼の古いものは幅も高さも大きくしっかりしている。

Ⅴ　陶製軒付甕形蔵骨器

蓋にも身にも瓦屋根の軒が付くタイプである。身には蓮花、獅子などの貼付文が全面に見られる。

身は　１．降棟に装飾のないもの
　　２．降棟に獅子等の貼付装飾のあるもの（第89図７、第90図２・４など）
蓋も　a．降棟に装飾のないもの（第89図５）
　　b．降棟に獅子等の貼付装飾のあるもの（第89図６、第90図１・３など）

２．転用蔵骨器

専用蔵骨器ではない壺、甕、鉢などを蔵骨器として使用したものを転用蔵骨器とした。

これには　１．土器甕（第83図１）
　　２．褐釉陶器壺（第83図２・４・５）
　　３．薩摩焼甕・壺（第83図６、第91図５）
　　４．喜名焼甕・壺（第83図７・８・９、第84図１、第91図３）
　　５．産地不明の壺（第84図２）
　　６．壺屋焼の甕・壺・鉢・擂鉢等（第84図３～13、第91図１・２・13など）

などがある。壺は頭骨が入るように口縁部や胴部を打ち欠いて立てたり、横にしたりして使用している。また、胴部に窓孔を意識して穿孔したのも見られる。

小壺は子供用に使用したのが多いが、中には枝珊瑚が入ったのもある。枝珊瑚の入っているのは、海で死亡して遺体があがらない人や戦争で亡くなって遺体が見つからない人は海から枝珊瑚を拾ってきて壺に入れて、納める沖縄の習俗からきているものである。なお、黒釉の耳付小壺（方言でアンダガーミ）などは、転用蔵骨器もあるが、中には沖縄戦のときに墓に避難した住民が持ち込んだ可能性のものもある。

※ミガチ（銘書）の凡例

観察表の中のミガチ（銘書）の項目で次のような表記を用いた。

○○　→　不鮮明な文字。

・・　→　文字があったと考えられるがその部分が欠損している。

（　）　→　その部分の文字はないが、全体から見てそのように考えられる。
氏、家名、名乗頭の項目も同じ。

／　→　文章の切れ目。

〈　〉　→　ミガチ（銘書）に（　）書きされている。

［右］［左］［内面］［ふち］　→　ミガチ（銘書）の書かれている場所。

（ほんとうは…）　→　年号に干支が合わない場合。

第2表　B地区 蔵骨器集計一覧

		I 石製家形								II 陶製家形								III 陶製無類壺形							
		身				蓋				身				蓋				身				蓋			
		口	胴	底	完	頭	胴	底	完	口	胴	底	完	頭	胴	底	完	口	胴	底	完	頭	胴	底	完
1号墓	墓室																		13						
	墓庭																								
3号墓	墓室																	1	3		1				
	墓庭																								
4号墓	墓室																								
	墓庭																							1	
5号墓	墓室																	4	18	2		1	1		
	墓庭																	5	38	3	1	1	1	3	1
6号墓	墓室		2								1							9	21	3		1		1	
	墓庭																	2	2	2	1		1		1
7号墓	墓室																								
	墓庭																1	5	24	3		1	3	4	2
8号墓	墓室																								
	墓庭										1							13	50	1		1	2	6	2
9号墓	墓室																								
	墓庭																	5	51	3			1	7	4
11号墓	墓室																								
	墓庭												2				1	1	5		1				
12号墓	墓室																								1
	墓庭												1						1						
13号墓	墓室																								
	墓庭												1	1			2		32			1			2
14号墓	墓室				1				1											1	2				3
	墓庭																	3	26						3
15号墓	墓室																	1	1	2					
	墓庭																								
16号墓	墓室		4		2			3					1						9						
	墓庭																1	15	42	2		1		3	3
17号墓	墓室																								
	墓庭																								
18号墓	墓室		1																3	1					
	墓庭				1				1					1					28	1			3	1	
19号墓	墓室																								
	墓庭																		9						
20号墓	墓室																								
	墓庭																		5						
21号墓	墓室																		1						
	墓庭																		3						
22号墓	墓室																								
	墓庭																		3						
24号墓	墓室																								
	墓庭																						1		
25号墓	墓室																	2	24	4			1		
	墓庭																								
26号墓	墓室																	9	15	5	2		1	4	
	墓庭																								
27号墓	墓室																				1				1
	墓庭																	1	14	1	1			1	
28号墓	墓室																								
	墓庭																		10						
29号墓	墓室																		1						
	墓庭																	1	3						
30号墓	墓室																		18	2				1	2
	墓庭																	2	4						
31号墓	墓室																								
	墓庭																	2	17	1		1	1	1	
32号墓	墓室																				4				3
	墓庭																								
34号墓	墓室																		1						
	墓庭																		3						
36号墓	墓室												1								2				
	墓庭																		1						
37号墓	墓室																				2				1
	墓庭																1		1						2
38号墓	墓室																	2	2		1				2
	墓庭																	3	27						3
39号墓	墓室																	7	20		3			1	1
	墓庭																								
40号墓	墓室																								
	墓庭																								
41号墓	墓室																				1				1
	墓庭																								
42号墓	墓室																		3	1					
	墓庭																	1	12	1				2	
43号墓	墓室																				9			1	10
	墓庭																								1
44号墓	墓室																								
	墓庭																		10						
45号墓	墓室																								
	墓庭																		1						
46号墓	墓室																		3	1			2	1	1
	墓庭																								
47号墓	墓室																		2						
	墓庭																								
49号墓	墓室																	1			1			1	
	墓庭																								
51号墓	墓室																								
	墓庭																								
墓室・墓庭外			1						1			1	6		3		5	94	743	46	15	3	14	46	23
合　計		0	8	0	4	0	0	3	3	0	2	1	12	2	3	0	11	189	1323	86	48	11	32	85	73

Ⅳ陶製有頸壺形								Ⅴ陶製軒付壺形								転用								合計
身				蓋				身				蓋				身				蓋				
口	胴	底	完	頭	胴	底	完	口	胴	底	完	頭	胴	底	完	口	胴	底	完	頭	胴	底	完	
					1		1																	15
																								0
	1															1								7
																								0
	1																							1
																								1
2	16	1														1	1							47
2	11						1									1	1	1						70
	8			1	1	1																		49
3	7	1					1								1				1				1	24
																								0
	10	1			1	4		1	4								1	2				2		69
																								0
4	48	5			1	3	1	1	1				3	1		5	2	3						154
																								0
4	27				1	1	1									1	3							109
																								0
4	39	5		1		2	1										2							64
			5				4																	10
3	3																							8
																								0
11	53	11	4			1	9	1								1	4	5						139
2		3	7			2	10									1			1					34
14	96	1			1	4	2									5	13	6	1				1	176
1																								5
																								0
																1								20
1	4				1	1	1									2	2							79
							1																1	2
	3															1		1						5
2	27	3					1												1				1	40
9	57	6	1			2	4									3	1	4					1	124
	2																							2
2	45	2			1	1	1								1		2	1	1					66
27	78	8	6	2	1	3	14	3	14	1	1		3		1	1			2	1				166
4	6		1	1		2	4											1	2					26
5	28	4	1			2	5											1					1	48
	2	1			1													1	2					10
																								0
5	12				1	1																		22
																								0
																								1
7	54	5				3																		100
1			1				6		6	1	1				1		2	1						20
5	22	1			1	4	2	1	7					2										81
																								0
	1		8			1	7																	19
2	19	2											1			3	1						1	47
	1																1	1						3
	1					2										1	1	1						16
2	9				1	2											1							16
1	9				1		1	1								1								18
	4	2																1						30
1	5	1																						13
																								0
2	5				1	1										1	2	1						36
			1				1																	9
																								0
																								1
	1															1	2							7
1			6								1													11
1	9															4	10							25
																	1	1	2					7
8	15	10	4	1	1	1	12							1	1		1						1	61
2	2	1	2	1			3										1		1					20
1	10				1		3										1	2	1					52
2	6																3	1						44
																								0
1																								1
																								0
																			1					3
					1												1							2
7	12	3	3				5		1										7					42
4	24				1		1						1	2		1		1						51
		1	3				3												2				1	30
							1																	2
																								0
2	20	1				3	1									1	2							40
																								0
	1					1																		3
					1												3	1	3					16
																								0
																								2
																								0
																								3
																								0
			2				2																	4
																								0
134	817	82	12	13	20	43	34	5	26			6	5	1		53	66	51	21				7	2397
289	1631	161	67	20	40	91	144	13	59	2	3	6	13	7	5	90	131	88	50	1	0	2	16	4825

第3表　E地区 蔵骨器集計一覧

		Ⅰ石製家形								Ⅱ陶製家形								Ⅲ陶製無頸壺形							
		身				蓋				身				蓋				身				蓋			
		口	胴	底	完	頭	胴	底	完	口	胴	底	完	頭	胴	底	完	口	胴	底	完	頭	胴	底	完
1号墓	墓室																								
	墓庭																	2	6						
2号墓	墓室																								
	墓庭																				1			1	
3号墓	墓室																		1						
	墓庭																		12	3					
4号墓	墓室																								
	墓庭																		3						
5号墓	墓室												1				1					1			
	墓庭																	2	5	1				3	1
6号墓	墓室																								
	墓庭										4	1			5	5		3	5					1	
7号墓	墓室																								
	墓庭																	3	4						
8号墓	墓室																								
	墓庭									1									1						
9号墓	墓室																								
	墓庭																		2						
11号墓	墓室																								
	墓庭																	4	11	4				3	
12号墓	墓室																								
	墓庭											1						40	169	19	2	1	8	11	7
13号墓	墓室																								
	墓庭									15	54	9	3		1	2	1	7	33	4			1	3	1
14号墓	墓室																								
	墓庭							2										1	33	5					1
15号墓	墓室																								
	墓庭										1						1	2	4	2					
17号墓	墓室																								
	墓庭																								
18号墓	墓室																								
	墓庭																								
19号墓	墓室																								
	墓庭																	3	21	5			1		
20号墓	墓室																							1	3
	墓庭														1		1	22	59	4	4	1	2	5	4
21号墓	墓室																								
	墓庭									1									6	2			1	1	
22号墓	墓室																								
	墓庭																								
23号墓	墓室																				1				
	墓庭																	1		1					
24号墓	墓室																	2							
	墓庭																								
26号墓	墓室																								
	墓庭																		1	3					
28号墓	墓室									1	2														
	墓庭																								
29号墓	墓室														2	2									
	墓庭																								
墓室・墓庭外					2				2	15	42	9			14	13		32	212	24	18	5	8	21	12
合　計		0	0	0	2	0	0	2	2	33	103	20	4	0	23	22	4	124	588	77	26	8	21	50	29

Ⅳ陶製有頸甕形								Ⅴ陶製軒付甕形								転　用								合
身				蓋				身				蓋				身				蓋				
口	胴	底	完	頭	胴	底	完	口	胴	底	完	頭	胴	底	完	口	胴	底	完	頭	胴	底	完	計
		1																						1
	6																3	2						19
	1																							1
																		1						3
																								1
2	4			1												3	2						1	28
																								0
																	1	1						5
	1	1	6			1	6				4	1	1	3	3									30
1	7				1											1	4	3						29
																								0
	4					2										1	13	2						46
																								0
2	9				1	2																		21
																								0
1	11	1			1	4										1	1	2						24
																								0
	2				1	2										1								8
																								0
2	17	3			1	2																		47
																								0
1	7	3				1											8					1		279
	1																							1
65	258	23	14	3	19	28	20	6	19	1	1		13	8	3	3		1	5				2	626
																								0
3	17	3		1	3									1		1	3	2						76
																								0
7	33			2	4	1			5														1	63
			1				1																	2
																								0
			2				1												1					4
																								0
																								0
5	18	2			2	1								1		2	8	2						71
1	1						1																	7
20	92	14	5		3	5	4		7								2	1					1	257
																								0
2	11	1			1											3	4	1						34
																								0
			1				1																	2
2	3	2		1		1													1				1	12
2	22	1			1		1									1	1							31
			1				1																	4
																			1					1
																								0
	1	1																						6
11	34	2			1	2	3																	56
																								0
1	2						1																	8
																								0
130	649	77	7	23	47	92	32	9	24		1		10		5	4	15	11	8			1	6	1580
258	1211	135	37	31	86	144	72	15	55	1	6	1	24	13	11	21	65	29	16	0	0	2	12	3383

第4表　B地区蔵骨器観察一覧

法量　上：上部径　中：器高　下：下部径（cm）

挿図番号 図版番号	墓番号	出土地点	身・蓋	名称又は仮称	形式分類	法量	対No.	文様	施釉	銘書	氏	家名	名乗頭	西暦死去年	西暦洗骨年	備考
第67図1 PL.12の1	16号墓	フク土	蓋	石製家形	I	38.5 25.0 63.7	2									琉球石灰岩使用。正面と左右の軒に方形の垂木を表示。屋根は入母屋。屋根の正面と裏面は曲線的。
〃　2 〃　2	16号墓	墓室タナ	身	石製家形	I	－ － 50.0	1			[左]康熙二十(○年○月○○)十二日死去／・・・真妙静○○〔也？〕〔中央〕○・・・・・○／[右](乾隆元年丙)辰四月十五日去／・・・○・	向	(泉水)	朝	1681 ～ 1690		琉球石灰岩使用。四脚付く。正面の左右に窓孔が3個ずつあるが貫通していない。
〃　3 〃　3	18号墓	墓庭フク土	蓋	石製家形	I	40.5 27.3 －	4									凝灰岩(？)。屋根は入母屋。軒には縁が廻っており、縁の内側に身が納まる。屋根の正面と裏面は直線的。
〃　4 〃　4	18号墓	墓庭フク土	身	石製家形	I	51.4 36.5 51.6	3									凝灰岩(？)。正面に窓孔なし。底孔1。
第68図1 PL.13の1	16号墓	墓庭フク土	蓋	陶製家形 (素焼) (壺屋)	II b	23.3 19.5 45.8	2	屋根は瓦葺。棟の両端には鯱。屋根の上に4つの獅子貼付降棟も獅子。		[左側縦]・(泉水)・○筑登之親雲上妻／(泉水)筑登之親雲上嫡子・・・／						赤褐色でいわゆる「アカムン」。屋根は入母屋。
〃　2 〃　2	16号墓	墓室	身	陶製家形 (素焼) (壺屋)	II	45.0 41.5 42.5	1	正面窓に3つの孔と庇や窓枠の貼付。その左右と両側面に仏像貼付。								赤褐色でいわゆる「アカムン」。底孔16
〃　3 〃　3	11号墓	墓庭フク土	蓋	陶製家形 (焼締) (壺屋)	II b	46.0 37.2 46.0		屋根は瓦葺で棟の両端に鯱。軒4面に方形の垂木。		○門ノ御思○／嘉慶三年戊午十一月廿日ミヤク墓ヨリ移○天久親方○○／位牌／○川安置／○二人先祖首里金城糸○／道光三年癸未／○月七日洗骨／天久親方望む／○○○○○／川○女子○○川／安置		天久		1784 ～ 1796	1798, 1823	屋根の入母屋部分に長方形の孔
第69図1 PL.14の1		19・20号墓庭外フク土	蓋	陶製家形 (焼締) (壺屋)	II b	31.5 36.0 44.5	2	屋根は瓦葺で、棟の両端に龍、中央に宝珠。正面屋根や降棟などに獅子貼付。垂木。		大清同治十二年壬(ほんとは癸)酉十一月七日死去／光緒五年己卯九月廿九日洗骨／同人男子合骨○○				1873	1879	屋根の入母屋部分に円孔。
〃　2 〃　2		19・20号墓庭外フク土	身	陶製家形 (焼締) (壺屋)	II	45.3 40.0 －	1	瓦葺の軒の上に獅子貼付、その上に揺座。正面左右や側面に蓮花貼付。								四脚。正面庇の下に3つの円孔。底孔35
第70図1 PL.15の1	10号墓	墓口フク土	蓋	陶製家形 (施釉) (壺屋)	II b	－ 41.5 48.8	2	棟の両端に鯱。龍や獅子の貼付多い。	外面全体に施釉。	[ふち]光緒十六年庚寅十二月二十二日安康洗骨ス／明治四十一年(戊)申旧五月三日安康妻／妻洗骨ス	(毛)	(内間)	安		1890, 1908	入母屋部分に小孔。鯱の魚部分に鉛、龍、獅子、蓮花に呉須で絵付。その上から全面施釉。

挿図番号 図版番号	墓番号	出土地点	身・蓋	名称又は仮称	形式分類	法量	対No.	文様	施釉	銘書	氏	家名	名乗頭	西暦死去年	西暦洗骨年	備考
第70図2 PL.15の2	10号墓	墓口フク土	身	陶製家形 (施釉) (壺屋)	II	46.4 43.0 38.2	1	龍、獅子、蓮花などの貼付。	外面に施釉。	[正面]光緒(十六年)庚寅十二月二十二日安康・・・/ [ふち]明治三十一年(戊)戌正月三日安康妻ウト死ス	(毛)	(内間)	安	1875 ~ 1909 1898	1890 1900 ~ 1912	四脚。瓦葺の軒付き。龍、獅子、蓮花には呉須で絵付。その上から施釉。 底孔6。
第71図1 PL.16の1	13号墓	墓庭フク土	蓋	陶製家形 (施釉) (古我知?)	II c	15.5 26.0 49.0	2		黒釉を内外面に施釉。「き」の外側縁は露胎。	屋我良道(妻真鍋世年)明治旧六月廿七日死/・・・・/仝世五年十二月廿七日旧(十一月廿八日洗骨)	(馬)	屋我	良	1888 ~ 1900	1902	寄棟で茅葺のイメージの民家タイプ。「き」付き。
〃 2 〃 2	12号墓	墓庭フク土	身	陶製家形 (施釉) (古我知?)	II	48.5 41.7 —	1	窓枠貼付。	黒釉を内外面に施釉したあと窓枠内の釉を削り取っている。	屋我里之子親雲上良道咸豊・・・七日死/咸豊七年巳十一月五日洗骨/同人妻真鍋明治世年旧六月廿七日/死同世五年十二月廿七日旧十一月廿八日洗骨	(馬)	屋我	良	1851 ~ 1855, 1897	1857, 1902	四脚。窓に長方形の孔。 底孔15
〃 3 〃 3	04号墓	前方フク土	蓋	陶製家形 (素焼) (湧田?)	II c	— 12.0 37.5	4	瓦葺で方形の垂木。								瓦葺の民家タイプ。瓦質の焼物。
〃 4 〃 4		38・39号墓間フク土	身	陶製家形 (素焼) (湧田?)	II	35.0 32.0 36.5	3	細い線描きで柱などを表現。3面に描かれているが、正面の右側面には描かれていない。								四脚。瓦質の焼物。
第72図1 PL.17の1	43号墓	墓室蔵骨器No.7	身	陶製無頸甕形 (焼締) (喜名)	III 1	24.5 48.5 18.2		窓の両側に線描の蓮花文。底に垂木を表現した刻み文。窓枠には鋸歯文。								口唇部に枝珊瑚の目跡5個。 底孔5。喜名焼。 窓底[1.5cm]②−1
〃 2 〃 2	43号墓	墓室蔵骨器No.3	蓋	陶製無頸甕形 (焼締) (壺屋)	III b	8.9 13.3 28.5	3	沈線。櫛描波状文。		康熙五九年辛酉(ほんとは庚子)七月二十五日死去/○○/	毛			1720	1722 ~ 1734	つまみb 蓋段[一段]
〃 3 〃 3	43号墓	墓室蔵骨器No.3	身	陶製無頸甕形 (焼締) (壺屋)	III 1	26.5 46.2 21.2	2	圏線							1722 ~ 1734	窯印[χ] 窓底[1.0cm] 底孔5
〃 4 〃 4	37号墓	墓室フク土	蓋	陶製無頸甕形 (焼締) (壺屋)	III a	— 11.0 30.0	5			小禄御○新垣尓也		新垣			1712	つまみa
〃 5 〃 5	37号墓	墓室蔵骨器No.1	身	陶製無頸甕形 (焼締) (壺屋)	III 1	24.0 52.4 23.0	4	窓の両側に線描の蓮花文。底は線描で瓦葺。窓枠には鋸歯文。		大清康熙五十一年壬辰八月十八日小禄御(尓也?)新垣尓也・・		新垣			1712	口縁にひび割れ。窓底[1.7cm]②−1 底孔16
〃 6 〃 6	43号墓	墓室蔵骨器フタNo.5	蓋	陶製無頸甕形 (焼締) (壺屋)	III a	— 13.5 34.0	7			康熙六十一年己亥(ほんとは壬寅)○七月十一日死去新垣母親/雍正二年甲辰八月○四日洗骨	毛	新垣		1722	1724	つまみa
〃 7 〃 7	43号墓	墓室蔵骨器No.11	身	陶製無頸甕形 (焼締) (壺屋)	III 1	25.3 49.8 20.0	6	圏線		康熙六十一年壬寅七月十一日死去				1722	1724	窓底[1.0cm] 底孔7

挿図番号 図版番号	墓番号	出土地点	身・蓋	名称又は仮称	形式分類	法量	対No.	文様	施釉	銘書	氏	家名	名乗頭	西暦死去年	西暦洗骨年	備考
第73図1 PL.18の1	06号墓	墓庭フク土	身	陶製無頸甕形 (焼締) (壺屋)	III 1	21.0 51.3 21.2		圏線		○／康熙五十一年癸辰(ほんとは壬辰)八月廿七日用○尓也／母親○(→骨)○○○○(室？)／○○○				(1698 ～ 1710)	(1712)	窓庇[2.0cm] 底孔3
〃 2 〃 2	41号墓	墓室安置蔵骨器No.2	蓋	陶製無頸甕形 (焼締) (壺屋)	III a	8.7 12.0 33.8	3	単線の波状文。								窯印[十] つまみa 蓋段[一段]
〃 3 〃 3	41号墓	墓室安置蔵骨器No.2	身	陶製無頸甕形 (焼締) (壺屋)	III 1	24.0 49.3 20.0	2	圏線。線描のおもだか文。								窓庇[1.5cm]②−1 底孔10
〃 4 〃 4	14号墓	墓室	蓋	陶製無頸甕形 (焼締) (壺屋)	III b	7.9 7.1 27.9	5			乾隆○○年・・・／朝隆室思・・・	(向)	(湧川)	朝		1736 ～ 1796	つまみb
〃 5 〃 5	14号墓	墓室	身	陶製無頸甕形 (焼締) (壺屋)	III 1	26.4 51.5 22.0	4			[窓の上]朝隆／室思戸／朝要／娘○○(真鶴)[窓の下]o湧川・・・・乾隆七年壬(戌)・・・／o泉水親雲上・・・・／嘉慶十三年(戊辰)・・・／同年十月十八日・・・／	(向)	湧川	朝	1742	1744 ～ 1756 1808	窓庇[1.5cm]②−1 底孔2
〃 6 〃 6	14号墓	墓室	蓋	陶製無頸甕形 (焼締) (壺屋)	III a	8.9 19.2 32.0	7	線彫の唐草文		湧川親雲上朝隆乾隆二十五年庚辰二月十日死／	(向)	湧川	朝	1760	1761	つまみa 蓋段[一段]
〃 7 〃 7	14号墓	墓室	身	陶製無頸甕形 (焼締) (壺屋)	III 1	27.0 49.5 22.0	6			乾隆二十五年庚辰二月十日朝隆死、湧川里之子親雲上朝隆／乾隆二十六年辛巳○月十七日／洗骨	(向)	湧川	朝	1760	1761	窓の孔を使用時に穿孔している。 窓庇[1.3cm]②−1 底孔6
第74図1 PL.19の1	27号墓	墓室安置蔵骨器No.5	蓋	陶製無頸甕形 (焼締) (壺屋)	III c	8.8 10.8 28.4	2			嘉慶二十二年(丁丑)九月○亀嶋袋○母○○		嶋袋			1817	
〃 2 〃 2	27号墓	墓室安置蔵骨器No.5	身	陶製無頸甕形 (焼締) (壺屋)	III 1	27.5 48.4 22.6	1									窯印有。 窓庇[0.8cm]③−1 底孔5
〃 3 〃 3	43号墓	墓室安置蔵骨器No.8	身	陶製無頸甕形 (焼締) (壺屋)	III 1	38.0 50.0 21.4		窓の両サイドに仏像貼付。								窯印[±] 窓庇[0.9cm]③−2 底孔6
〃 4 〃 4	43号墓	墓室蔵骨器No.5	身	陶製無頸甕形 (焼締) (壺屋)	III 1	28.5 51.0 23.4										窓庇[0.5cm]③−1
〃 5 〃 5	43号墓	墓室安置蔵骨器No.13	身	陶製無頸甕形 (焼締) (壺屋)	III 1	23.0 46.0 19.0										窯印[二] 窓庇[1.3cm]②−1 底孔5
第75図1 PL.20の1	32号墓	墓室安置蔵骨器No.3	蓋	陶製無頸甕形 (焼締) (壺屋)	III	− 9.5 31.0	2									
〃 2 〃 2	32号墓	墓室安置蔵骨器No.3	身	陶製無頸甕形 (焼締) (壺屋)	III 1	28.0 49.2 22.0	1									窯印有。 窓庇[0.7cm]③−1 底孔4
〃 3 〃 3	43号墓	墓室蔵骨器No.2	身	陶製無頸甕形 (焼締) (壺屋)	III 1	27.5 46.5 20.4										窯印有。 窓庇[1.6cm]②−1 底孔5

挿図番号 図版番号	墓番号	出土地点	身・蓋	名称又は仮称	形式分類	法量	対No.	文様	施釉	銘書	氏	家名	名乗頭	西暦死去年	西暦洗骨年	備考
第75図 4 PL.20の 4	32号墓	墓室安置蔵骨器No.5	身	陶製無頸甕形 (焼締) (壺屋)	III 1	28.0 47.7 21.6										窓庇[1.0cm] 底孔2
〃 5 〃 5	43号墓	墓室安置蔵骨器フタNo.12	蓋	陶製無頸甕形 (焼締) (壺屋)	III b	— 12.1 30.0	6			乾隆十七年壬申二月十三日死／新垣○親雲上／同二十年乙亥十二月洗骨／○○○年丁卯巳？／七月○○日洗骨／同人妻		新垣		1752	1755, 1759 ?	つまみb
〃 6 〃 6	43号墓	墓室蔵骨器No.12	身	陶製無頸甕形 (焼締) (壺屋)	III 2	33.7 58.8 24.0	5									窯印有。胴部に大きな亀裂が2本。窓庇[0.9cm]③−2 底孔6
第76図 1 PL.21の 1	36号墓	墓室蔵骨器No.6	身	陶製無頸甕形 (焼締) (壺屋)	III 2	29.5 58.9 22.0										窯印有。 窓庇[2.7cm]①−2 底孔6
〃 2 〃 2	32号墓	墓室安置蔵骨器No.4	身	陶製無頸甕形 (焼締) (壺屋)	III 2	32.3 58.1 23.6										窯印有。 窓庇[0.8cm]③−2 底孔6
〃 3 〃 3	32号墓	墓室安置蔵骨器フタNo.2	蓋	陶製無頸甕形 (焼締) (壺屋)	III	— 11.1 28.8	4									この蓋は中型の蓋であり、転用している。
〃 4 〃 4	32号墓	墓室安置蔵骨器No.2	身	陶製無頸甕形 (焼締) (壺屋)	III 3	21.7 37.5 18.0	3									窯印[χ] 窓庇[0.8cm] 底孔5
〃 5 〃 5	36号墓	墓室蔵骨器No.7	身	陶製無頸甕形 (焼締) (壺屋)	III 3	19.0 37.6 16.0										底孔を忘れて穿孔していない。 窓庇[0.5cm]③−1
〃 6 〃 6		01〜25号墓フク土	蓋	陶製無頸甕形 (焼締) (壺屋)	III a	7.8 14.9 29.6		櫛描の波状文		乾隆七年壬戌／八月七日銘苛墓○○○之○○／○○○○／○○政長○○／廿○／二人○／(乾隆四十六年？)辛丑八月○(日)／洗骨／入人○○○／○○○‥／○○○○○／○○○也				1742 1767 〜 1769	1745 〜 1757 1781	つまみa 蓋段[一段]
〃 7 〃 7	37号墓	墓庭蔵骨器集積	蓋	陶製無頸甕形 (焼締) (壺屋)	III a	8.5 12.5 32.0		櫛描の波状文		雍正五年丁未八月二十八日洗(骨)／是者斯／我謝親雲上女子真牛金／平良筑登之親雲上女房母親也／茲○○時 [ふち]‥‥真牛‥‥	新翼	平良	晨		1727	つまみa 蓋段[一段]
〃 8 〃 8	43号墓	墓室安置蔵骨器	蓋	陶製無頸甕形 (焼締) (壺屋)	III b	6.9 9.1 30.0		沈線(二重)		乾隆十七年(壬申)四月廿三日死去新垣○親雲上嫡子苗戸○○／同廿一乙未年十一月十二日／洗骨／	毛	新垣		1752	1756	つまみb 蓋段[一段]
第77図 1 PL.22の 1	10号墓	墓庭フク土	蓋	陶製無頸甕形 (焼締) (壺屋)	III b	10.2 10.4 29.1				乾隆二十四年己卯七月七日‥‥／‥筑登之親雲上安室次男／○○／○○筑登之親雲上○○	(毛)	(内間・安里)	安		1759	つまみb 蓋段[一段]
〃 2 〃 2	43号墓	墓室蔵骨器フタNo.6	蓋	陶製無頸甕形 (焼締) (壺屋)	III b	6.4 11.3 32.0		沈線(二重)		乾隆十九年甲戌十一月十日死／新垣嫡子○○／同廿七日洗○／同人女子○／ ※裏書の△印有	毛	新垣		1754	1754	窯印[△] つまみb 蓋段[一段]

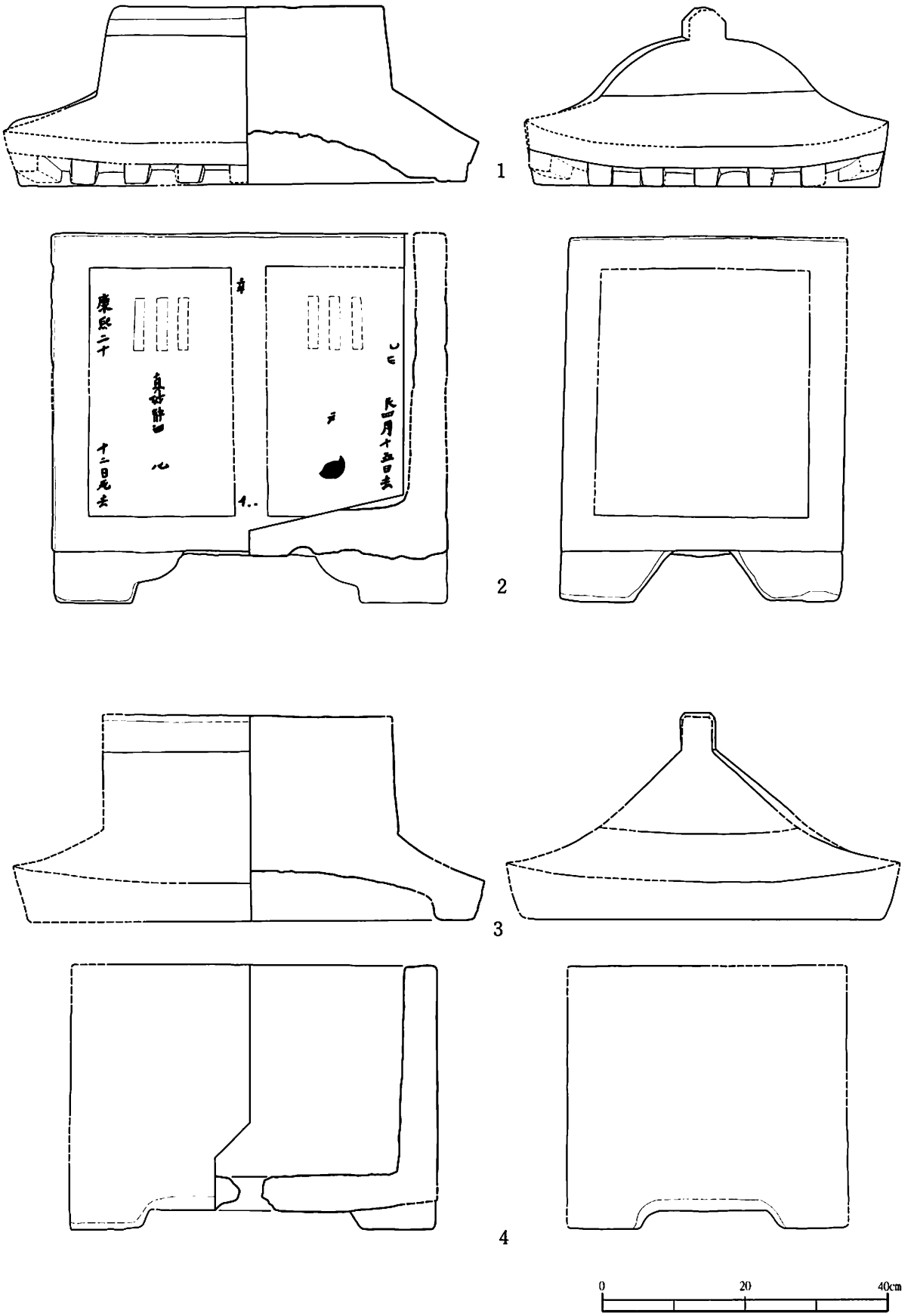
挿図番号 図版番号	墓番号	出土地点	身・蓋	名称又は仮称	形式分類	法量	対No.	文様	施釉	銘書	氏	家名	名乗頭	西暦死去年	西暦洗骨年	備考
第77図 3 PL.22の 3	14号墓	墓庭外フク土	蓋	陶製無頸甕形 (焼締) (壺屋)	III b	− 9.4 32.0				･･･(朝)安婁乾(隆十五年)庚午八月○日洗骨					1750	つまみb
〃 4 〃 4	43号墓	墓室安置蔵骨器No.8	蓋	陶製無頸甕形 (焼締) (壺屋)	III a	− 11.3 30.0										つまみa
〃 5 〃 5	43号墓	墓室蔵骨器フタNo.3	蓋	陶製無頸甕形 (焼締) (壺屋)	III b	− 8.5 25.0		櫛描の波状文								つまみb
〃 6 〃 6	14号墓	墓室	蓋	陶製無頸甕形 (焼締) (壺屋)	III a	− 12.9 30.0				[内面][二箇所消された跡有り]嘉慶拾三年戊辰十月廿○日参代○乾○○○･･･／湧川里之子親○○母／湧川里之子朝膺母[消されていない銘書]／道光二十二年壬寅八月二○･･･死去／同二十七年丁未十一月七日洗滑／泉水里之子朝登／[外面]湧川里之子親雲上朝庸母	向	湧川	朝	1842	1808, 1847	つまみa
〃 7 〃 7	43号墓	墓室蔵骨器No.13	蓋	陶製無頸甕形 (焼締) (壺屋)	III b	− 11.5 29.2				"不鮮明" ････／･･･○月十日死／妻						つまみb
〃 8 〃 8	03号墓	前方フク土	蓋	陶製無頸甕形 (焼締) (壺屋)	III c	9.9 9.0 32.6				乾隆四拾弐年丙(ほんとは丁)酉十月廿日洗骨／童名(樽？)○○				1663 〜 1775	1777	蓋段[一段]
〃 9 〃 9	43号墓	墓室安置蔵骨器フタNo.11	蓋	陶製無頸甕形 (焼締) (壺屋)	III c	8.0 9.2 30.0				乾隆五十六年辛亥八月四日洗骨／新垣仁屋	毛	新垣			1791	
〃 10 〃 10	43号墓	墓室安置蔵骨器フタNo.7	蓋	陶製無頸甕形 (焼締) (壺屋)	III c	7.7 8.9 28.0				乾隆三年･･／･･･○"不鮮明"				1738	1740 〜 1752	
〃 11 〃 11	46号墓	前方フク土	蓋	陶製無頸甕形 (焼締) (壺屋)	III c	9.5 11.7 32.0				嘉慶十四年己巳七月七日洗骨(宮？)平筑登之					1809	
第78図 1 PL.23の 1	20号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形 (壺屋)	IV b	9.4 14.8 26.5	2		マンガン	四男大湾里之子親雲上朝利妻益氏真牛號静閑乾隆三十六年辛卯正月初八日・乾隆四十一年丙申九月二十一日洗骨	向	大湾	朝	1771	1776	蓋段[一段] 「き」高さ[0.2cm]
〃 2 〃 2	20号墓	垣	身	陶製有頸甕形 (壺屋)	IV 2	− − 21.0	1	蓮花貼付・波状沈線	マンガン	四男大湾里之子親雲上朝利妻益氏真牛號静閑乾隆三六年辛卯正月初八日死乾隆四十一年丙申九月二十一日洗骨	向	大湾	朝	1771	1776	中型。 窓庇[0.4cm]③−2 底孔6
〃 3 〃 3	43号墓	墓室安置蔵骨器No.6	蓋	陶製有頸甕形 (壺屋)	IV a	12.5 15.3 30.0	4		マンガン							蓋段[一段] 「き」高さ[1.1cm]
〃 4 〃 4	43号墓	墓室安置蔵骨器No.6	身	陶製有頸甕形 (壺屋)	IV 3	26.7 48.6 23.0	3	蓮花貼付	マンガン							中型。 窓庇[0.6cm]③−2底孔5
〃 5 〃 5	43号墓	墓室蔵骨器No.1	身	陶製有頸甕形 (壺屋)	IV 2	29.8 60.3 23.0		蓮花貼付・波状沈線	マンガン							中型。 窓庇[0.4cm]③−1底孔5

挿図番号 図版番号	墓番号	出土地点	身・蓋	名称又は仮称	形式分類	法量	対No.	文様	施釉	銘書	氏	家名	名乗頭	西暦死去年	西暦洗骨年	備考
第78図 6 PL.23の 6	36号墓	墓室蔵骨器No.4	身	陶製有頸甕形(壺屋)	IV 3	28.0 53.8 23.4		線彫・蓮花と仏像貼付	マンガン	嘉慶十年乙丑八月十七日死去 ○○○○○○○次男○				1805	1807 ～ 1819	中型。 窓庇[0.6cm]③－1底孔7
第79図 1 PL.24の 1	27号墓	墓室安置蔵骨器No.4	蓋	陶製有頸甕形(壺屋)	IV b	9.8 － 28.2	2	沈線	マンガン	道光七年丁亥六月廿五日○亀嶋袋妻骨(洗)／癸卯十二月廿二日うし子		嶋袋		1827	1843	蓋段[二段] 「き」高さ[0.25cm]
〃 2 〃 2	27号墓	墓室安置蔵骨器No.4	身	陶製有頸甕形(壺屋)	IV 3	28.5 51.3 22.6	1	線彫・蓮花貼付・波状沈線	マンガン							中型。裏側にはマンガン釉を施したあとに鳥などの線彫文。窓庇[0.3cm]③－2。底孔4
〃 3 〃 3	20号墓	墓室	身	陶製有頸甕形(壺屋)	IV 3	21.0 35.3 17.0		蓮花貼付・鋸歯線彫	マンガン	[つら]真蒲戸／[左側]大湾里子親(雲上)朝○嘉慶十四年七月七日	向	大湾	朝	1795 ～ 1807	1809	小型。 窓庇[0.4cm]③－2 底孔6
〃 4 〃 4	27号墓	墓室安置蔵骨器No.6	蓋	陶製有頸甕形(壺屋)	IV b	12.0 16.0 32.0	5		マンガン	道光七年丁亥六月六日嫡子嶋袋○也		嶋袋		1827	1829 ～ 1841	蓋段[二段] 「き」高さ[0.1cm]
〃 5 〃 5	27号墓	墓室安置蔵骨器No.6	身	陶製有頸甕形(壺屋)	IV 3	30.0 53.3 22.0	4	蓮花貼付・鋸歯線彫	マンガン							中型。 窓庇[0.3cm]③－2底孔7
〃 6 〃 6	43号墓	墓室安置蔵骨器No.4	身	陶製有頸甕形(壺屋)	IV 3	32.4 63.3 23.4		蓮花貼付・波状沈線	マンガン							大型。 窓庇[0.3cm]③－2
第80図 1 PL.25の 1	27号墓	墓室安置蔵骨器No.2	蓋	陶製有頸甕形(壺屋)	IV c	10.5 15.7 31.0	2		マンガン	同治七年戊辰閏五月十一日うし嶋袋嫡子うめ ※消された銘書部分有→光緒三年		嶋袋			1868	蓋段[二段]
〃 2 〃 2	27号墓	墓室安置蔵骨器No.2	身	陶製有頸甕形(壺屋)	IV 4	36.0 54.6 23.0	1	線彫	マンガン							中型。 窓庇[0.3cm]④ 底孔16
〃 3 〃 3	27号墓	墓室安置蔵骨器No.3	身	陶製有頸甕形(壺屋)	IV 4	29.0 52.8 21.0		線彫	マンガン	咸豊九年(己)未五月十○日うし嶋袋○林丁○○同治四年乙丑一二月四日洗骨		嶋袋		1859	1865	中型。 窓庇[0.3cm] ④ 底孔10
〃 4 〃 4	27号墓	墓室安置蔵骨器No.8	蓋	陶製有頸甕形(壺屋)	IV b	10.4 15.5 30.0	5		マンガン	大清光緒二拾年甲午次男嶋袋／旧四月朔日		嶋袋			1894	蓋段[一段] 「き」高さ[0.1cm] 墨書で印有。
〃 5 〃 5	27号墓	墓室安置蔵骨器No.8	身	陶製有頸甕形(壺屋)	IV 4	28.5 54.6 20.0	4	線彫	マンガン							中型。 窓庇[0.3cm] ④ 底孔28
〃 6 〃 6	32号墓	墓室安置蔵骨器No.1	蓋	陶製有頸甕形(壺屋)	IV a	11.4 15.4 33.0	7		マンガン	"不鮮明"・・・○○○○○洗骨／平良親雲上女子○○○洗骨／		平良				この蓋は古いものであり、転用されている。 蓋段[一段] 「き」高さ[0.5cm]
〃 7 〃 7	32号墓	墓室安置蔵骨器No.1	身	陶製有頸甕形(壺屋)	IV 4	31.8 62.3 23.0	6	線彫	マンガン							大型。 窓庇[0.5cm] ③－2底孔4
第81図 1 PL.26の 1	36号墓	墓室安置蔵骨器No.3	身	陶製有頸甕形(壺屋)	IV 4	28.0 55.5 22.6		線彫	マンガン							中型。窓庇⑤ 底孔6
〃 2 〃 2	51号墓	墓室安置蔵骨器No.2	身	陶製有頸甕形(壺屋)	IV 4	26.0 48.5 20.0		線彫	マンガン							中型。 窓庇[0.3cm] ③－2底孔8
〃 3 〃 3	21号墓	墓室	身	陶製有頸甕形(壺屋)	IV 4	14.1 26.7 9.4		線彫	マンガン	祖慶良通・・・／	祖	祖慶	良			小型。底孔2
〃 4 〃 4	12号墓	墓室	身	陶製有頸甕形(壺屋)	IV 4	19.4 31.3 12.1		線彫	マンガン							小型。窓庇⑤ 底孔4
〃 5 〃 5	37号墓	墓庭蔵骨器集積	身	陶製有頸甕形(壺屋)	IV 4	21.3 36.5 12.0		線彫	マンガン	昭和十五年庚辰三月九日晟寛四男平良太郎洗骨ス		平良	晟		1940	小型。底孔6

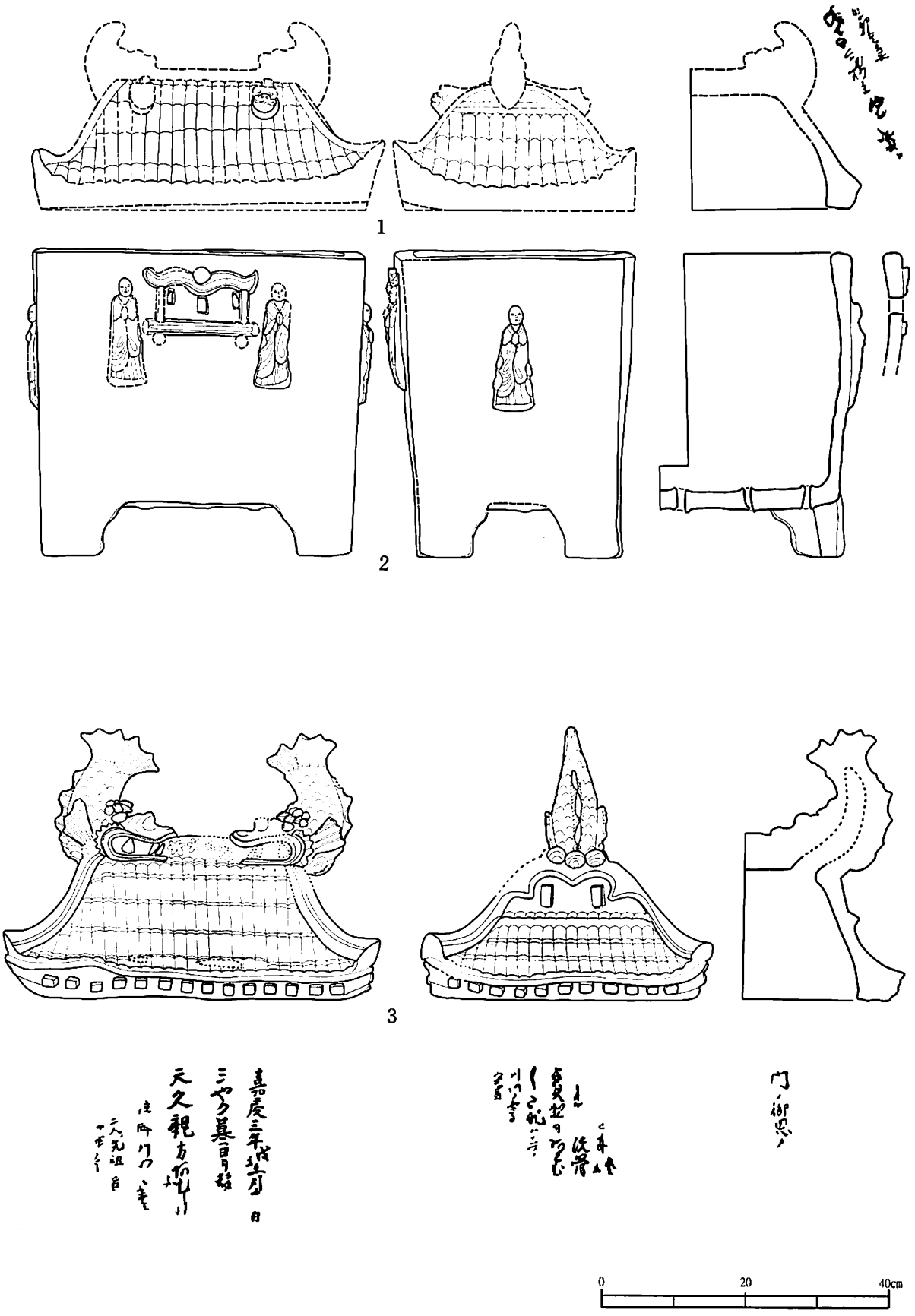
挿図番号 図版番号	墓番号	出土地点	身・蓋	名称又は仮称	形式分類	法量	対No.	文様	施釉	銘書	氏	家名	名乗頭	西暦死去年	西暦洗骨年	備考
第81図6 PL.26の6	16号墓	参道	蓋	陶製有頸甕形 (壺屋)	IV a	10.8 － 30.0		櫛描沈線文・印花花文	マンガン	乾隆五十八年癸丑‥洗？(骨)‥○○○○妻亀					1793	蓋段[二段] 「き」高さ[1.0cm]
〃 7 〃 7	10号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形 (壺屋)	IV a	11.8 13.0 30.0		蓮花貼付	マンガン	乾隆(戊午)三年八月○日西原間切内間境内○／西原間切(内)間里之子親(雲上)○隆居／内間里之子親雲上‥‥	(毛)	内間	(安)		(1738)	蓋段[一段] 「き」高さ[0.5cm]
〃 8 〃 8	29号墓	墓室フク土	蓋	陶製有頸甕形 (壺屋)	IV a	11.0 16.1 30.6			マンガン	乾隆五拾八年癸丑二十三日死名嘉(原)安良童名松金寿六十二／嘉慶二年(丁)巳十月二十日洗骨	毛			1793	1797	蓋段[一段] 「き」高さ[0.5cm]
〃 9 〃 9	13号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形 (壺屋)	IV b	12.1 18.4 30.2			マンガン	嘉慶二十一年丙子九月五日夭馬○親良倫同二十五年庚辰五月十九日洗骨	馬		良	1816	1820	蓋段[一段] 「き」高さ[0.3cm]
〃 10 〃 10	20号墓	墓室	蓋	陶製有頸甕形 (壺屋)	IV a	9.3 9.3 21.0			マンガン	向有臨大湾里之子親雲上朝平娘真牛嘉慶十四年己巳七月七日洗骨	向	大湾	朝		1809	小型の蓋。 蓋段[二段] 「き」高さ[0.4cm]
〃 11 〃 11	43号墓	墓室蔵骨器フタNo.4	蓋	陶製有頸甕形 (壺屋)	IV a	10.7 15.8 31.0			マンガン							蓋段[一段] 「き」高さ[0.5cm]
第82図1 PL.27の1	37号墓	墓庭蔵骨器集積	蓋	陶製有頸甕形 (壺屋)	IV b	7.6 13.3 25.0			マンガン	道光二十五年未(ほんとは乙巳)十二月二十一日嫡子平良親雲上洗骨同妻咸豊二年壬子六月十三日洗骨		平良		1845	1852	蓋段[一段] 「き」高さ[0.3cm]
〃 2 〃 2	12号墓	墓室	蓋	陶製有頸甕形 (壺屋)	IV b	9.9 15.1 31.0			マンガン	道光十五年乙未正月七日死去三男喜久元里之子親雲上洗／御同人御子○○○合洗	(向)	喜久元		1835		蓋段[二段]
〃 3 〃 3	14号墓	墓室	蓋	陶製有頸甕形 (壺屋)	IV b	10.7 17.3 31.0			マンガン	道光七年丁亥十一月廿八日朝文／泉水里子親雲上洗骨○霊○／道光十五年乙未十一月廿日同人妻洗骨右日	向	泉水	(朝)		1827, 1835	蓋段[一段] 「き」高さ[0.3cm]
〃 4 〃 4	51号墓	墓室安置蔵骨器No.2	蓋	陶製有頸甕形 (壺屋)	IV b	10.1 12.1 25.0			マンガン	道光弐拾七年丁未九月十二日宮城筑登之女(可？)那		宮城		1847		蓋段[一段] 「き」高さ[0.3cm]
〃 5 〃 5	37号墓	墓庭蔵骨器集積	蓋	陶製有頸甕形 (壺屋)	IV b	10.3 14.2 28.4			マンガン	道光弐拾五年乙巳七月三十日五男平良筑登之親雲上晟嘉洗滑	新翼	平良	晟		1845	蓋段[一段] 「き」高さ[0.3cm]
〃 6 〃 6	14号墓	墓室	蓋	陶製有頸甕形 (壺屋)	IV b	8.3 18.7 27.5			マンガン	[ふち]咸豊五年甲卯(ほんとは乙卯)九月廿一日洗骨嫡子泉水里之子親雲上妻／[内面]嫡子泉水(里之子)親雲上朝雲妻／	向	泉水	朝		1855	蓋段[一段] 「き」高さ[0.2cm]
〃 7 〃 7	12号墓	墓室安置蔵骨器No.1	蓋	陶製有頸甕形 (壺屋)	IV b	10.4 16.8 27.5			マンガン	咸豊五年乙卯八月廿七日喜久元(ほんとは本)里之子妻洗骨／同治六年丁卯三月廿六日洗骨喜久元(ほんとは本)里之子親雲上	向	喜久元			1867, 1855	蓋段[一段] 「き」高さ[0.25cm]
〃 8 〃 8		19・20号墓庭外フク土	蓋	陶製有頸甕形 (壺屋)	IV b	8.4 14.8 31.0			マンガン	／十一世向廸智大湾里之子親雲上娘賀(数筑登之親雲上)／(同治十一年)壬申八月十六日卒／同治十二年癸酉十二月十五日洗骨／	向	大湾		1872	1873	蓋段[二段] 「き」高さ[0.15cm] ※第6表のNo.128と銘書同文
〃 9 〃 9	37号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形 (壺屋)	IV b	10.2 12.5 28.0			マンガン	光緒三年正月十日卒平良筑登之親雲上女子同十八年壬辰四月十一日洗骨／		平良		1877	1892	蓋段[一段] 「き」高さ[0.15cm]

掃図番号 図版番号	墓番号	出土地点	身・蓋	名称又は仮称	形式分類	法量	対No.	文様	施釉	銘書	氏	家名	名乗頭	西暦死去年	西暦洗骨年	備考
第82図10 PL.27の10	20号墓	墓室	蓋	陶製有頸甕形 (壺屋)	IV c	10.2 12.2 24.0			マンガン	光緒五年己卯正月六日十五世朝規嫡子小樽金忌日／同六年庚辰六月四日同長女真鶴忌日同十二年丙戌十月廿五日同次男真三良忌日同十四年戊子十月十六日三人共洗骨／同廿二日太○○二安葬／	向	(大湾)	朝	1879, 1880, 1886	1888	蓋段[二段] 表に15と墨書有
〃 11 〃 11	42号墓	墓室フク土	蓋	陶製有頸甕形 (壺屋)	IV b	8.6 14.5 28.0			マンガン	[内側]大正参年(甲寅)旧七月廿日吉川興仁洗骨／[ふち]大正○○年旧七月廿日洗(骨)吉川興仁妻(マヅル)(昭和十六年辛巳洗骨年？)○昭和十○八年旧七月三日〈仝月同日〉合葬	毛	吉川	興	1919 ?	1914	蓋段[一段] 「き」高さ[0.05cm]
〃 12 〃 12	13号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形 (壺屋)	IV c	8.5 13.3 28.8			マンガン	･･･○○／屋我良○／○○才／○○○○／････／･･･洗骨／昭和十六年(辛巳)旧十二月二十八日死亡〈享年四十五才〉○屋我良勝、昭和十九年六月十二日旧(○月○日)洗骨	(馬)	屋我	良	1941	1944	蓋段[二段]
〃 13 〃 13		25･26号墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形 (壺屋)	IV c	10.2 8.3 25.8			マンガン	城間太良妻城間カマド洗骨ノ年昭和九年(甲戌)旧十二月十日		城間			1934	蓋段[二段]
〃 14 〃 14	37号墓	墓庭蔵骨器集積	蓋	陶製軒付甕形	V b	— — 34.8		線彫・貼付	マンガン	大正五年(丙)辰八月二十三日洗骨妻カマド織名女子					1916	蓋段[二段]
第83図1 PL.28の1	47号墓	47号中位墓東側蔵骨器(転用)	身	甕形土器 (沖縄)		34.0 39.0 30.0										転用
〃 2 〃 2		38･39号墓間フク土	身	褐釉陶器壺(中国)		38.7 — 19.9		肩部に2本の凸帯文	外面に薄い褐釉							転用。内面に骨海波の押圧文
〃 3 〃 3	43号墓	墓室蔵骨器フタNo.10	蓋	素焼小壺蓋 (壺屋)		— 3.8 7.2	4		無釉							転用。赤褐色
〃 4 〃 4	43号墓	墓室蔵骨器No.10	身	褐釉陶器小壺 (中国)		10.2 16.8 9.4	3		頸部内面から外面の胴部まで薄い褐釉。							転用。使用するときに意図的に胴部穿孔している。
〃 5 〃 5	04号墓	前方フク土	身	褐釉陶器小壺 (中国)		10.0 20.4 12.0			内底から外底際まで薄い褐釉。							転用
〃 6 〃 6	39号墓	墓室フク土	身	緑褐色釉甕 (薩摩)		18.4 32.9 18.0			内・外面に緑褐色釉。口唇と外底は露胎。							転用
〃 7 〃 7	37号墓	墓室フク土	身	小型甕 (焼締) (喜名)		18.7 30.0 17.3		刷毛目波状文と縄目貼付文。								転用。口唇部に枝珊瑚の目跡が5つ見られる。
〃 8 〃 8		01～25号墓フク土	身	大型甕 (焼締) (喜名)		27.0 55.5 19.8		縄目貼付文								転用。口唇部に枝珊瑚の目跡が1つ見られる。焼いた時に胴部に十字の割れあり。底部焼台付着。

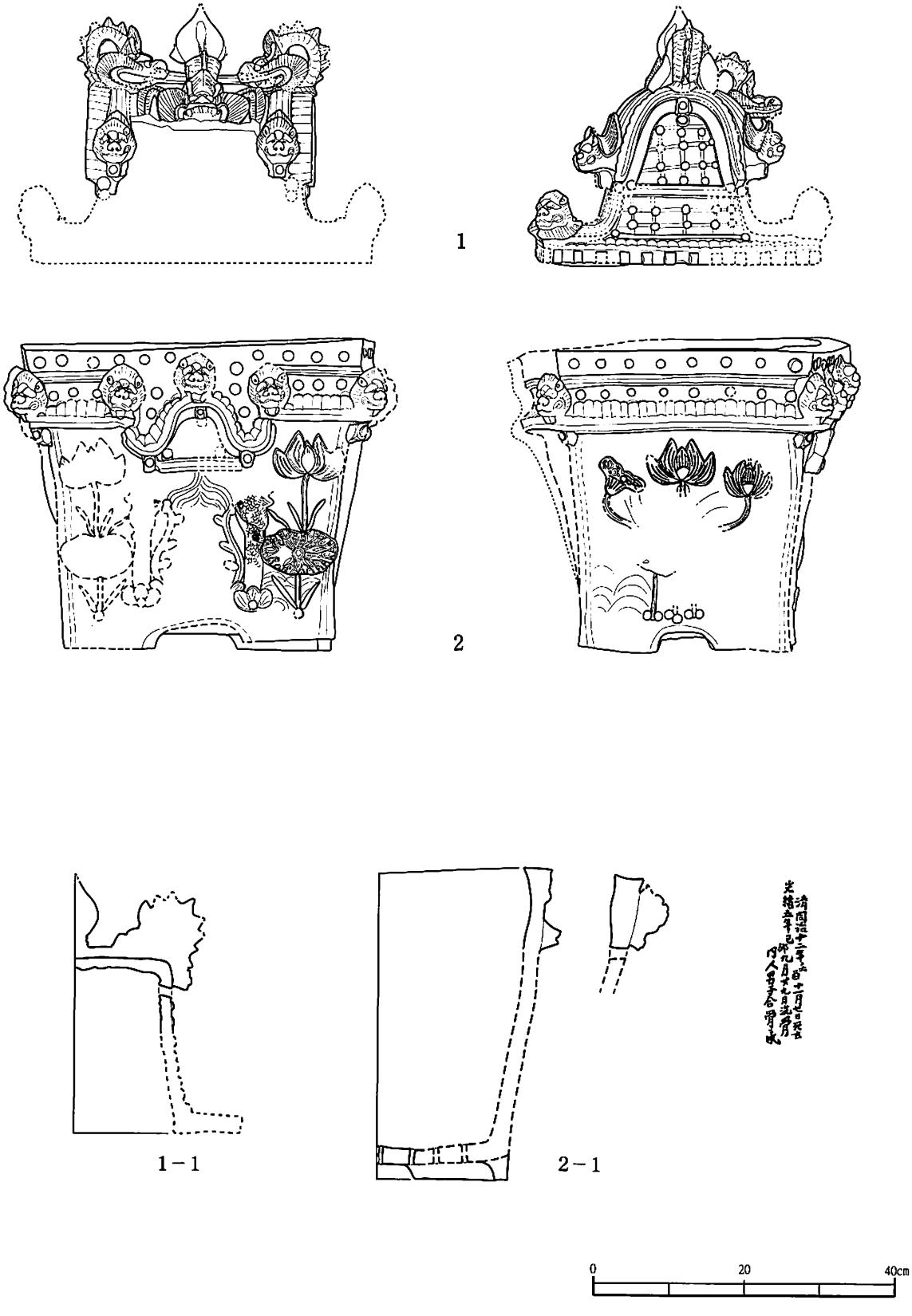
挿図番号 図版番号	墓番号	出土地点	身・蓋	名称又は仮称	形式分類	法量	対No.	文様	施釉	銘書	氏	家名	名乗頭	西暦死去年	西暦洗骨年	備考
第83図 9 PL.28の 9	41号墓	墓室安置蔵骨器No.1	身	三耳壺 (焼締) (喜名)		－ － 17.0										転用。口縁部から胴部上位の一部まで打ち欠いて使用されている。
第84図 1 PL.29の 1	37号墓	墓室蔵骨器No.3	身	三耳壺 (喜名)		16.3 － －										転用。頸部の一部から胴部の一部まで打ち欠いて使用されている。
〃 2 〃 2	42号墓	墓室フク土	身	素焼壺 (不明)		14.5 30.0 16.0		二本の界線の中に刷毛目波状文。波状文に擂座(個数不明)								転用
〃 3 〃 3	20号墓	墓室	身	小型甕 (壺屋)		20.0 31.3 18.0		凸帯文と沈線文の中に擂座(7個)		四男向(健か建)智大湾里之子親雲上朝利娘真嘉戸／乾隆三拾三年戊子七月七日(死去)／同三拾五年庚寅五月〇日・・・／同三拾九年甲午七月七日洗骨	向	大湾	朝	1768	1774	転用
〃 4 〃 4	43号墓	墓室蔵骨器No.9	身	素焼壺 (壺屋)		14.1 33.1 14.0										転用。窯印有。赤褐色。
〃 5 〃 5	20号墓	墓室	身	焼締小壺 (壺屋)		12.2 23.5 9.0				向汝弼大湾里之子、女子真鍋	向	大湾				転用。窯印有。
〃 6 〃 6	37号墓	墓庭フク土	身	焼締小壺 (壺屋)		8.2 11.1 7.3										転用。
〃 7 〃 7	06号墓	墓庭フク土	蓋	施釉皿 (壺屋)		－ 2.7 11.4	8		内面上位から外面腰部まで施釉。	真(香)						転用
〃 8 〃 8	06号墓	墓庭フク土	身	焼締小壺 (壺屋)		10.7 22.3 8.4	7									転用。 外面はアバタ状。
〃 9 〃 9	07号墓	墓庭フク土	蓋	素焼鉢 (壺屋)		13.0 13.0 34.0				座波親方／・・〇月三十日洗骨		座波				転用。赤褐色。
〃 10 〃 10	21号墓	墓室	蓋	施釉蓋 (壺屋)		－ 3.3 8.8		沈線	蓋甲に黒褐色釉。	光緒十四年戊子／四月二十五日三男／祖慶子(＝里之子)良通／男子加那洗骨／同二十年甲午六月十一日／同人男子(思？)次〇／洗骨／［ふち］大清光緒十四年戊子四月(二十五日三男)祖慶子良通男子加那(洗骨)	祖	祖慶	良		1888, 1894	転用
〃 11 〃 11	19号墓	フク土	身	施釉油壺 (壺屋)		7.5 － －			内外面に黒釉。口唇部と高台は露胎。							転用。いわゆる「アンダガーミ」
〃 12 〃 12		25・26号墓庭フク土	身	施釉油壺 (壺屋)		11.6 18.3 10.4			内外面に黒釉。							転用。いわゆる「アンダガーミ」
〃 13 〃 13	18号墓	墓室フク土	身	施釉油壺 (壺屋)		12.2 22.8 12.0			内外面に黒釉。							転用。いわゆる「アンダガーミ」



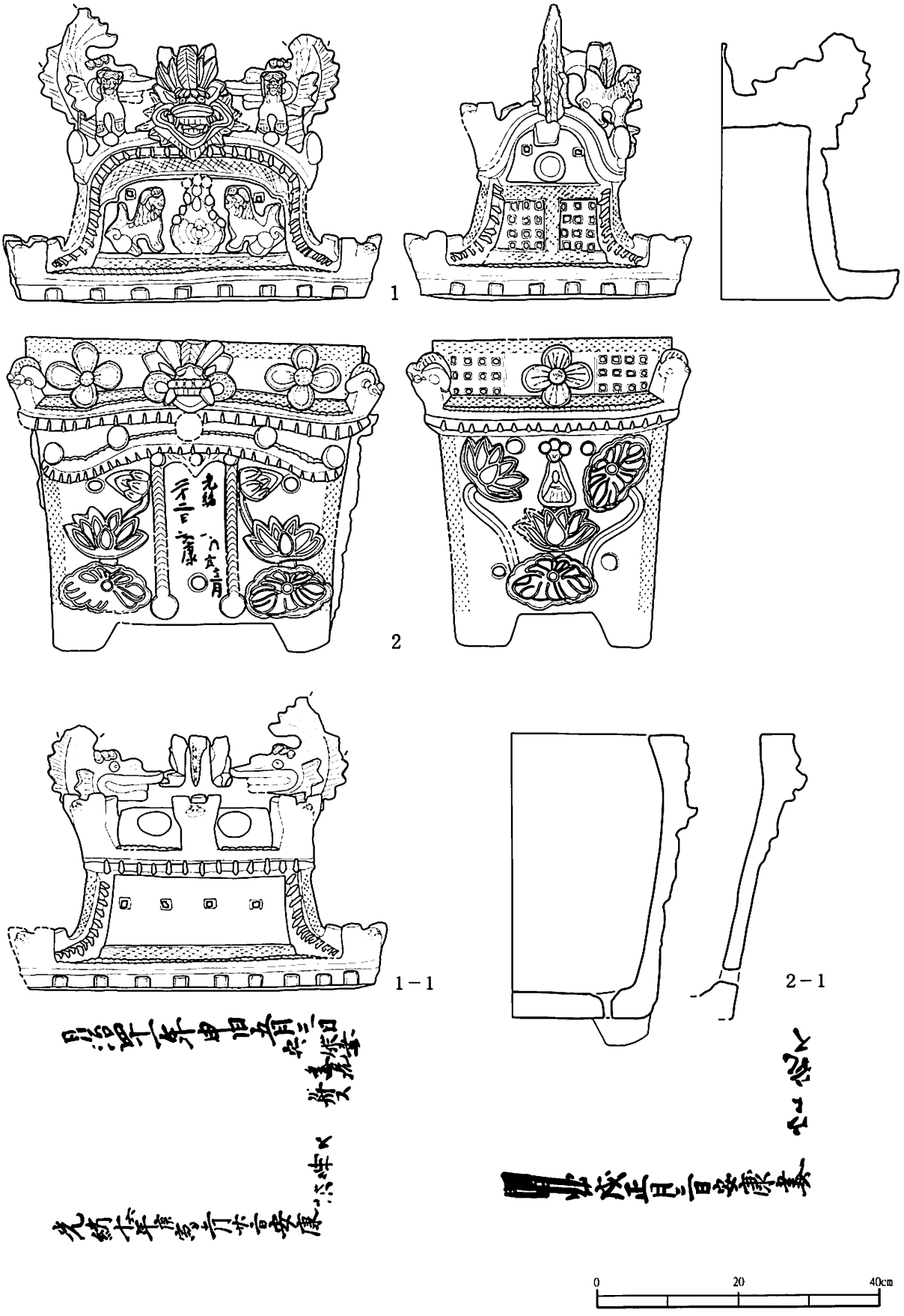
第67図(PL.12)　石製家形蔵骨器〔B地区〕



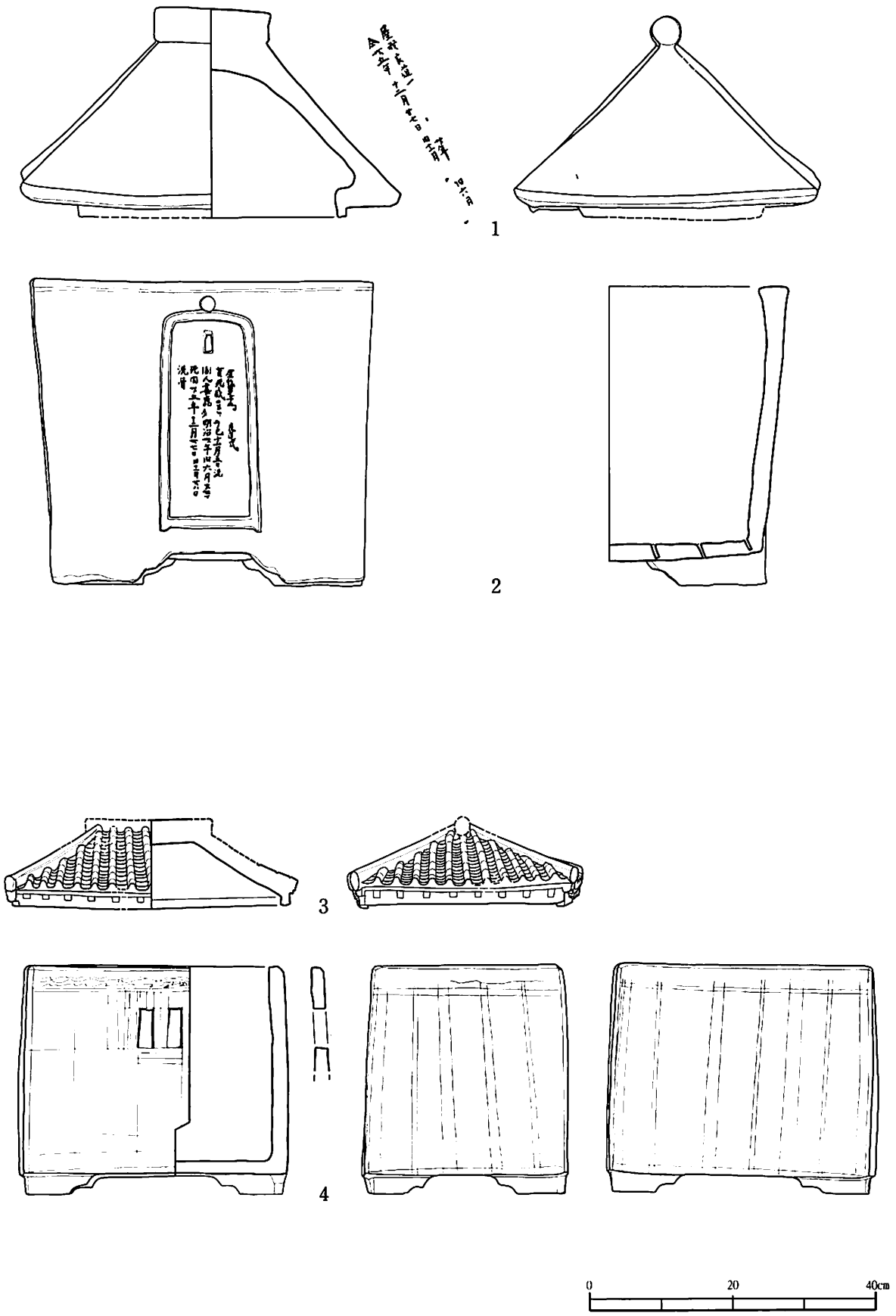
第68図（PL.13）　陶製家形蔵骨器：1・2は素焼（方言でアカムン）、3は焼締〔B地区〕



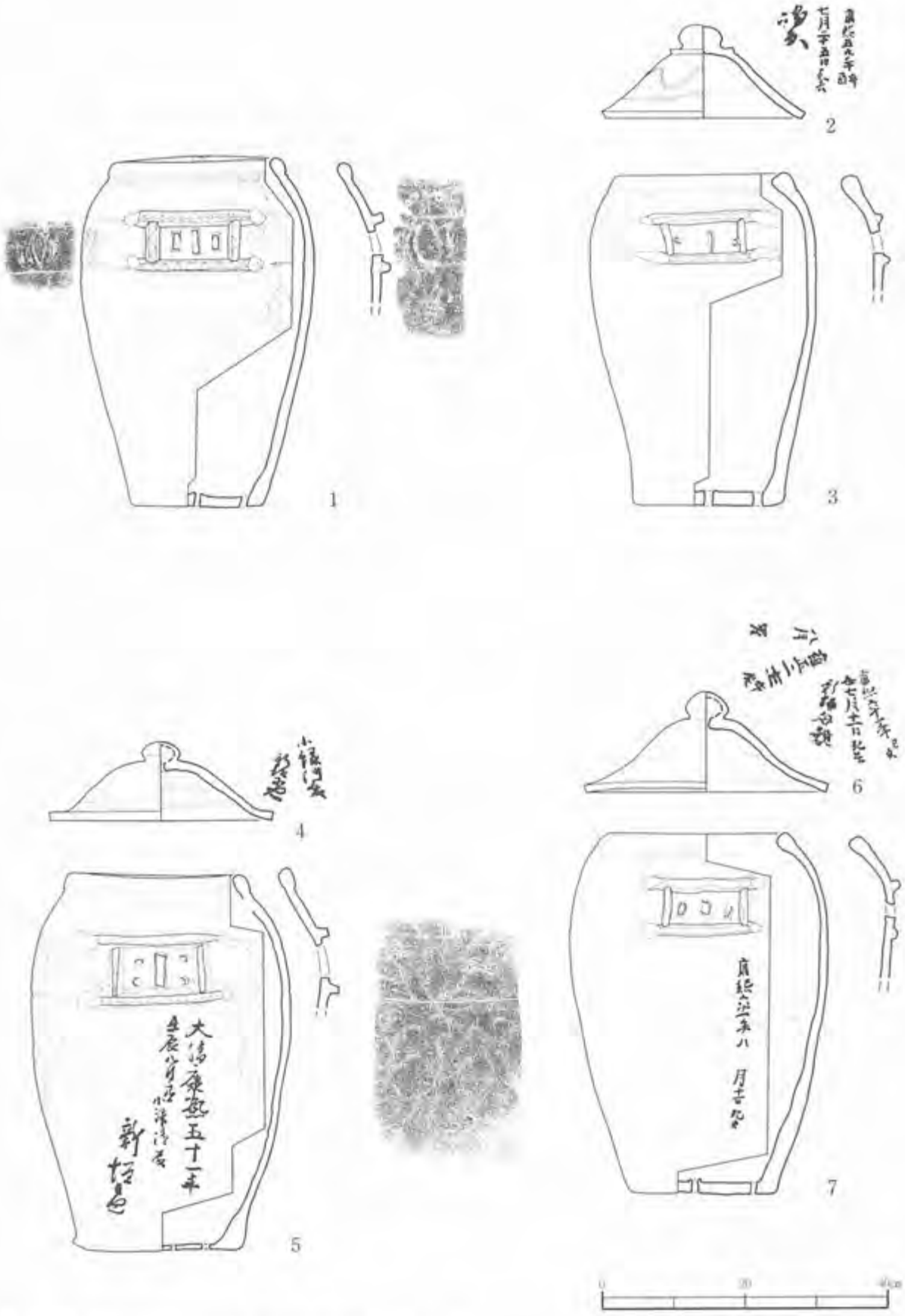
第69図（PL.14）　陶製家形蔵骨器：焼締〔B地区〕



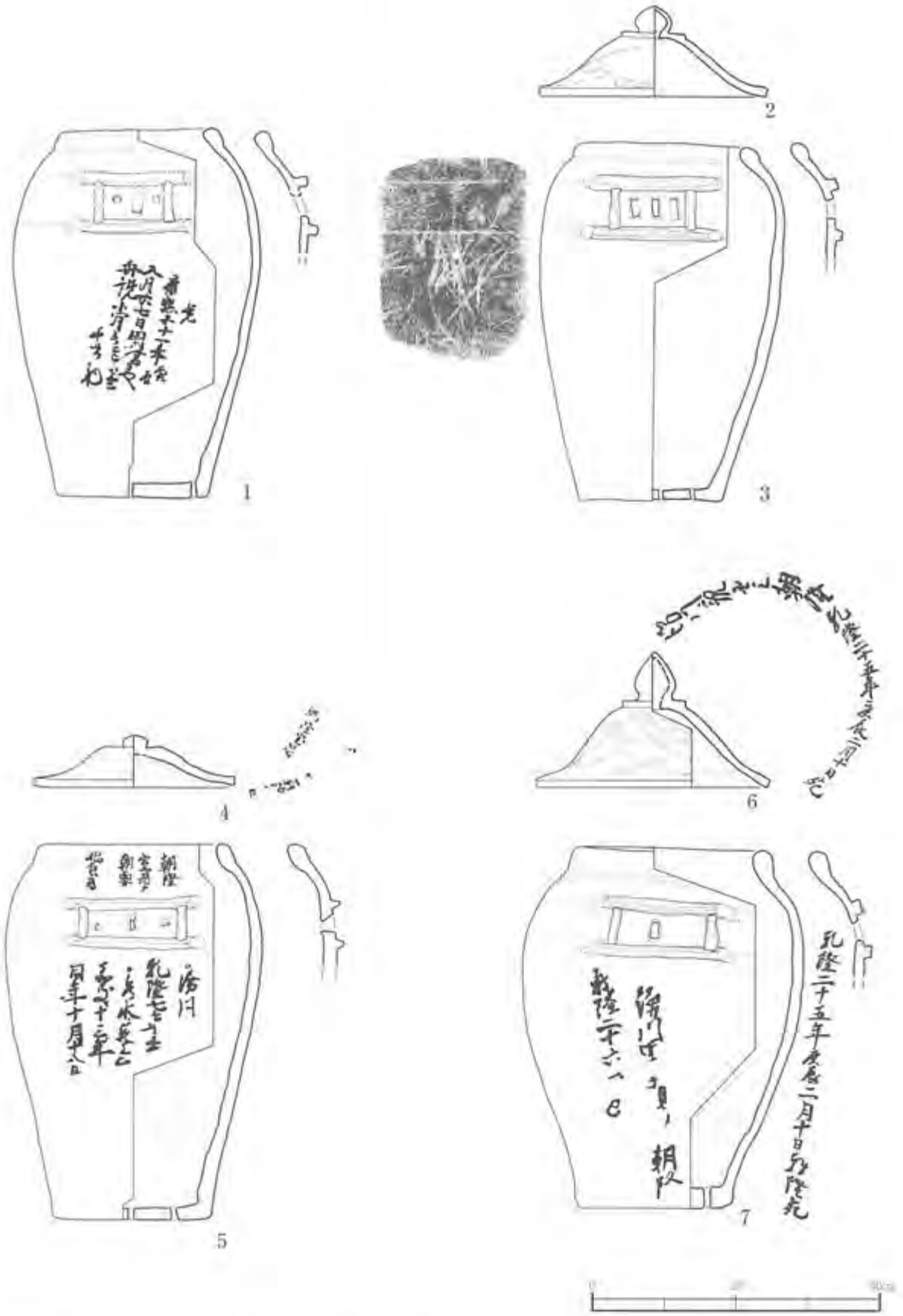
第70図（PL.15）　陶製家形蔵骨器：施釉〔B地区〕



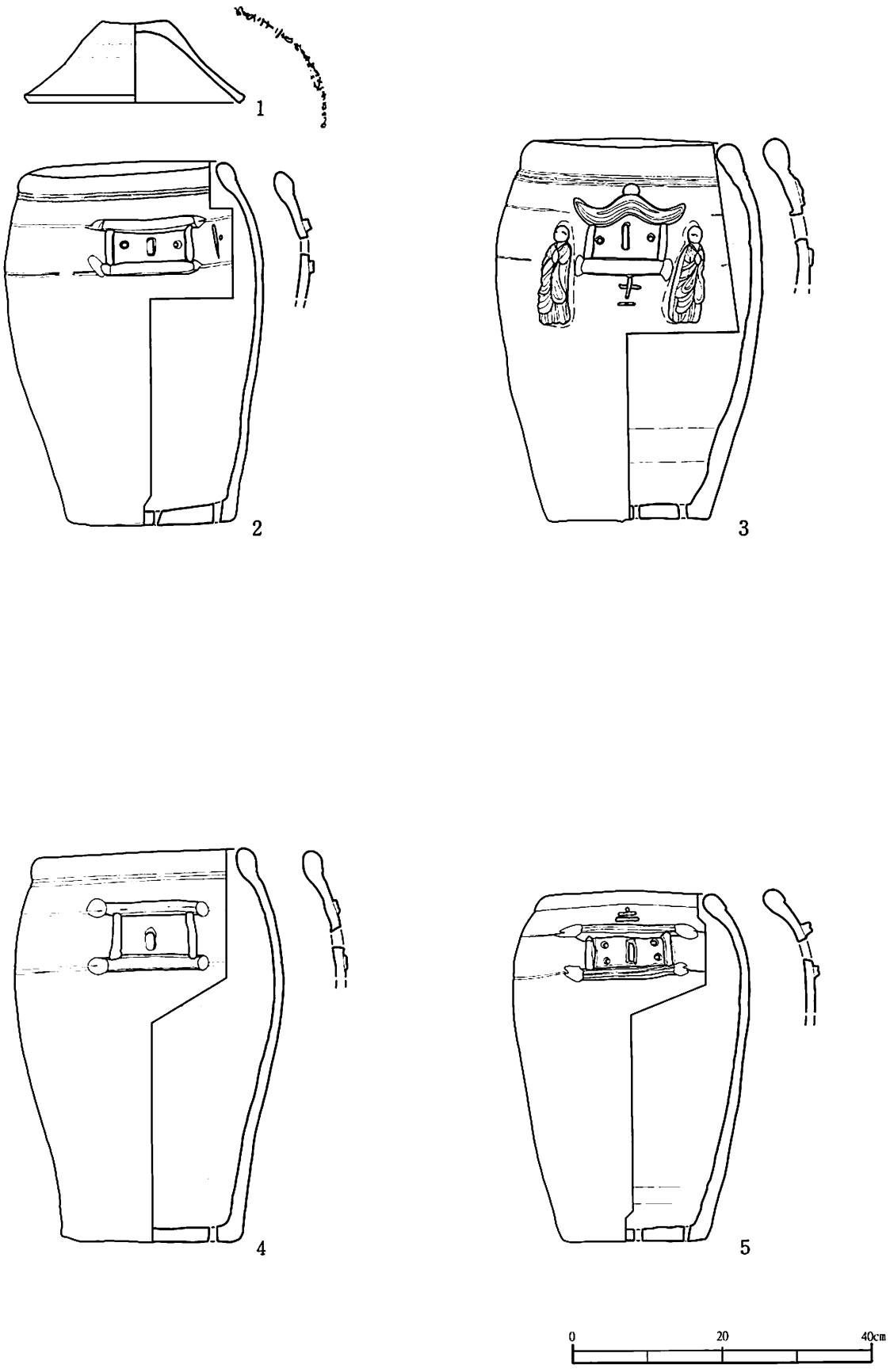
第71図（PL.16）　陶製家形蔵骨器：1・2は施釉、3・4は素焼（瓦質）〔B地区〕



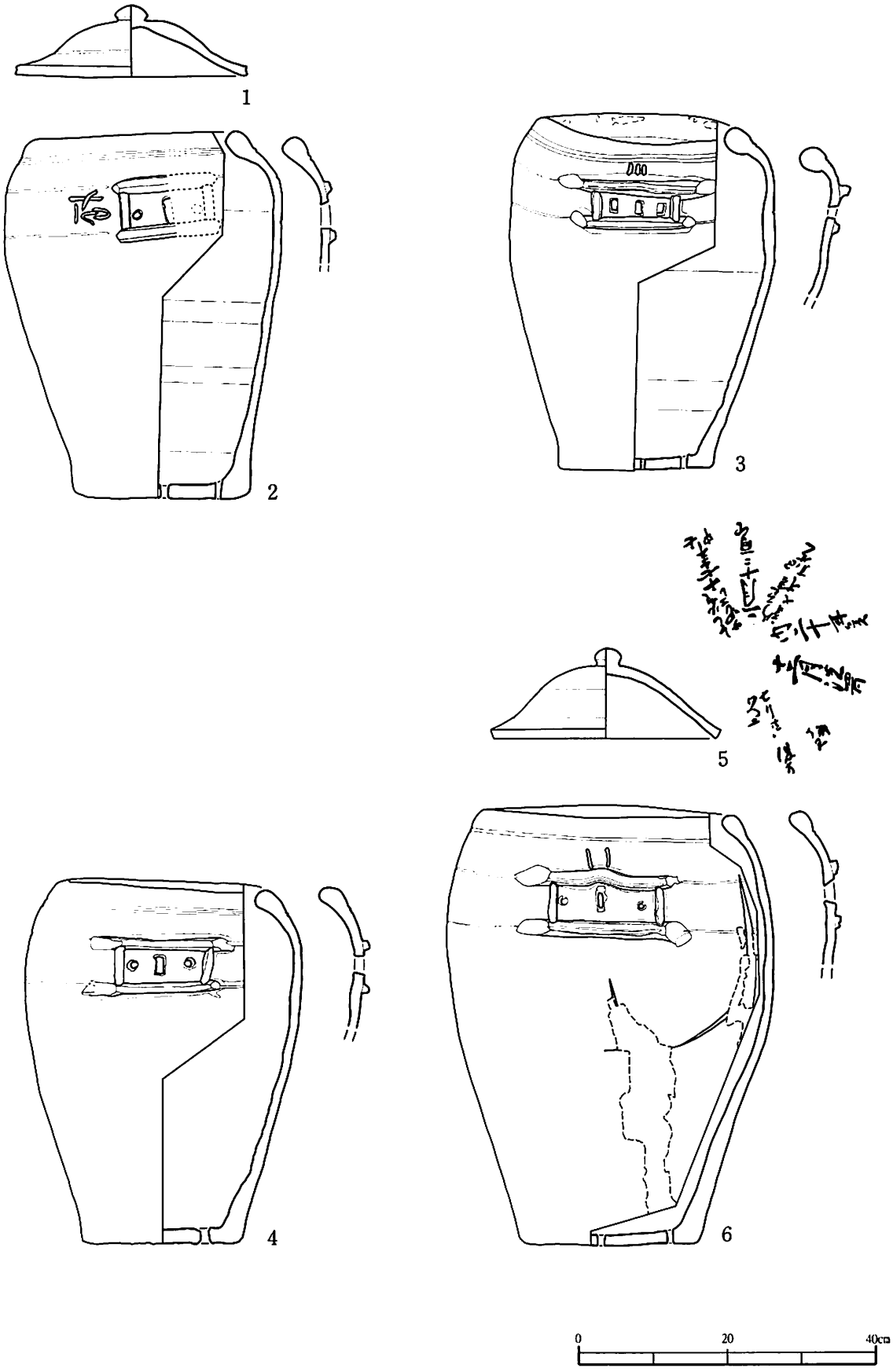
第72図(PL.17)　陶製無頭甕形蔵骨器〔B地区〕
(ボージャー)



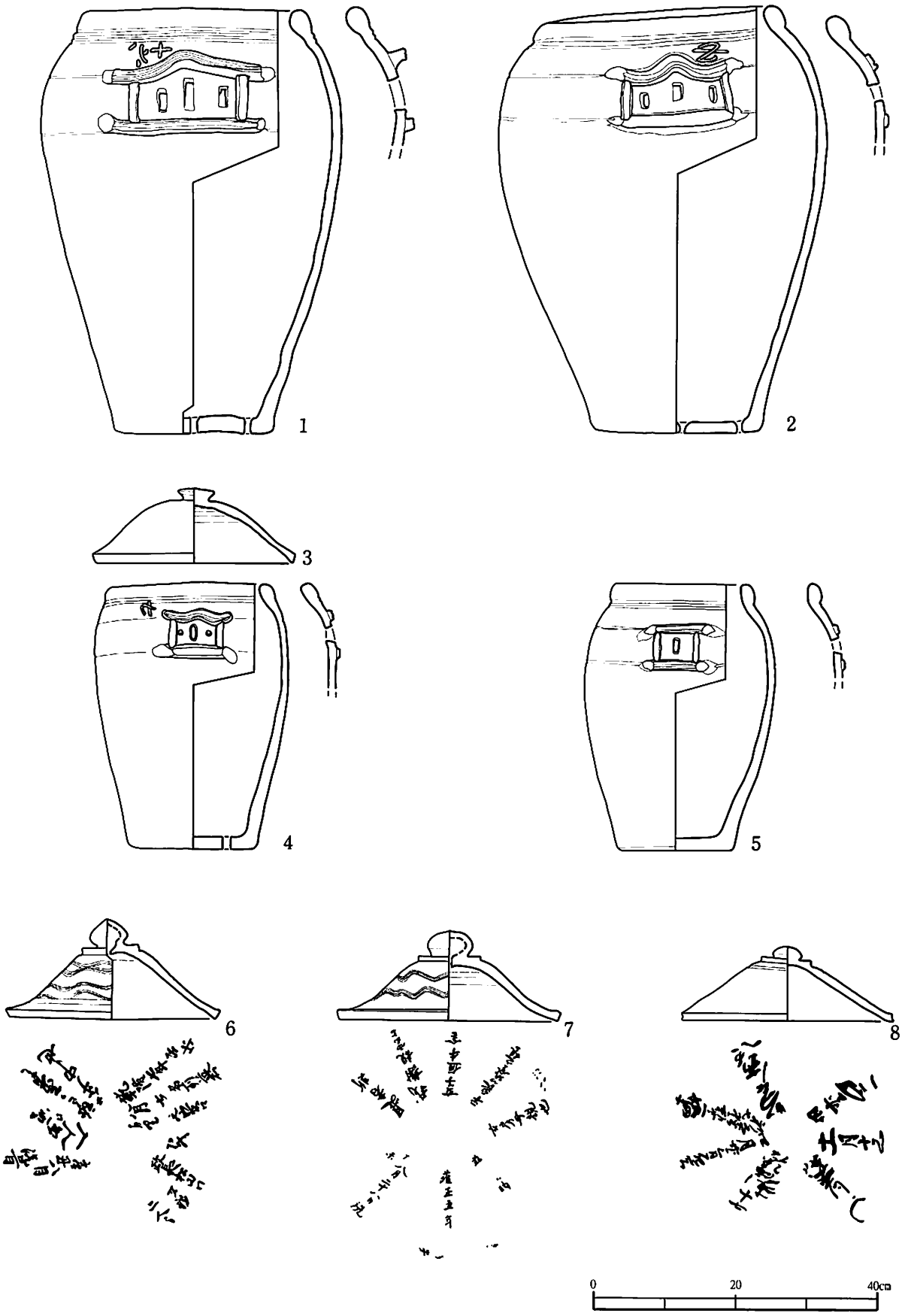
第73図（PL.18）　陶製無頭甕形蔵骨器〔B地区〕
（ポージャー）



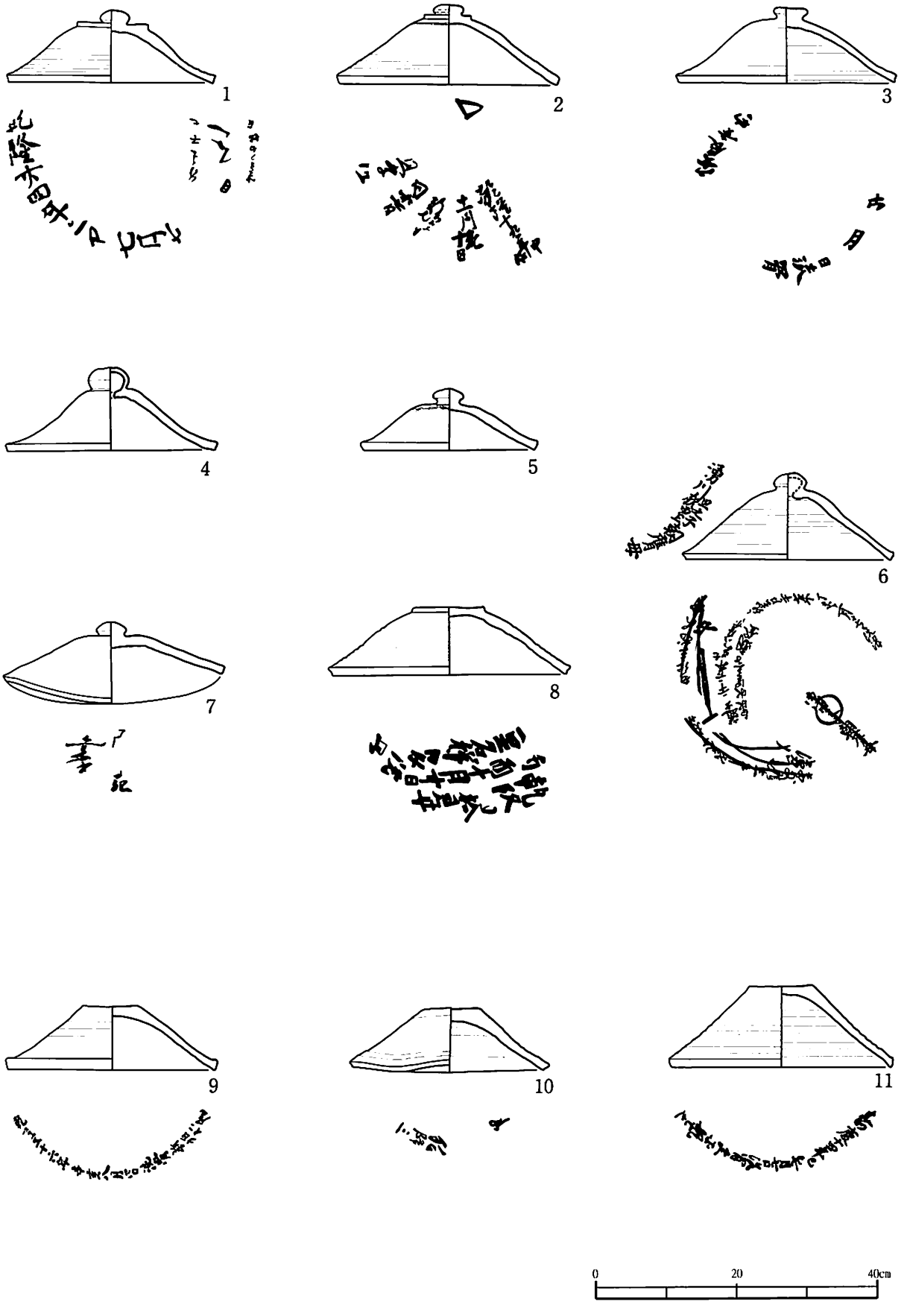
第74図(PL.19)　陶製無頸甕形蔵骨器〔B地区〕
(ボージャー)



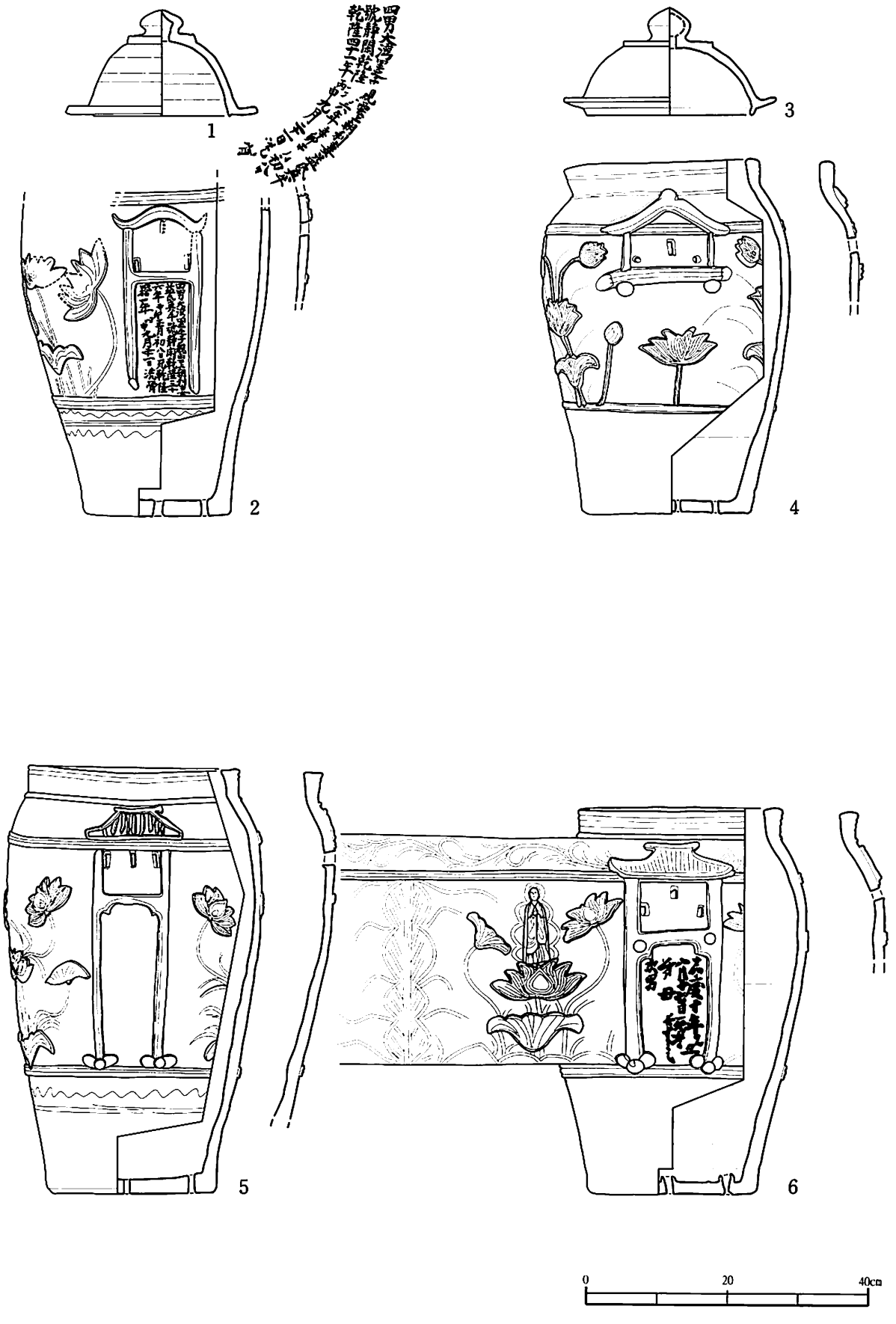
第75図（PL.20）　陶製無頸甕形蔵骨器〔B地区〕
（ボージャー）



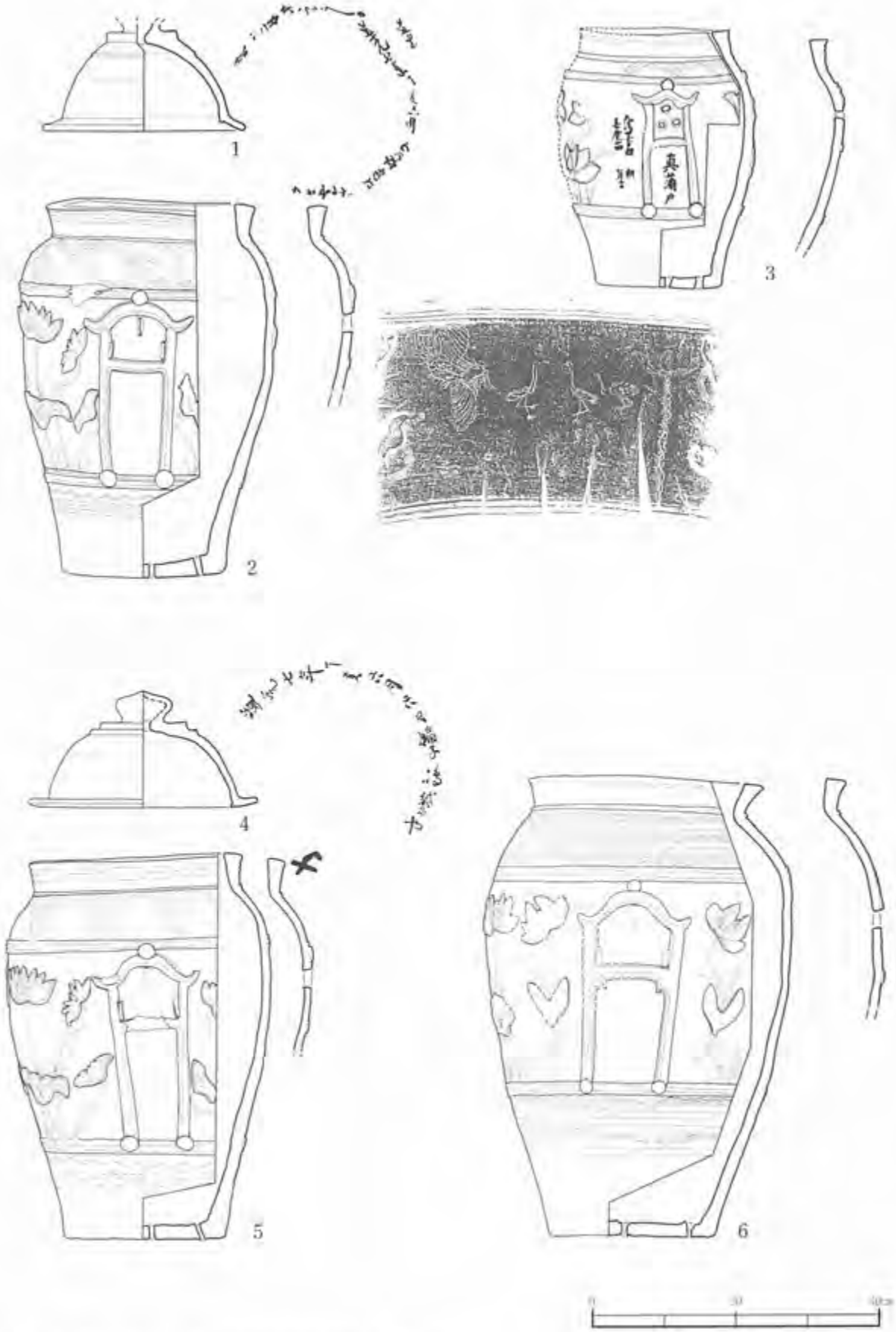
第76図(PL.21)　陶製無頸甕形蔵骨器〔B地区〕
(ボージャー)



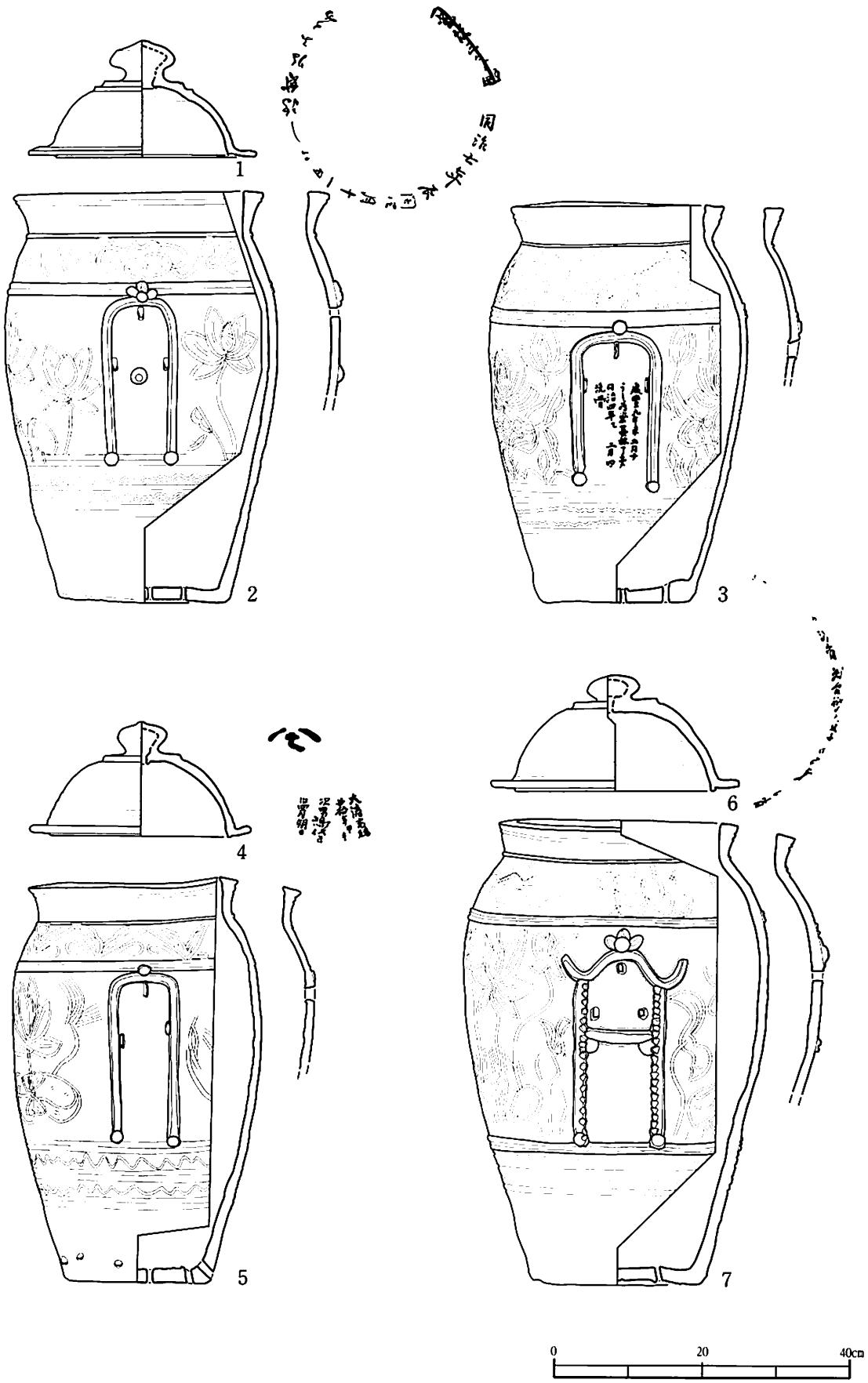
第77図(PL.22)　陶製無頸甕形蔵骨器〔B地区〕
(ボージャー)



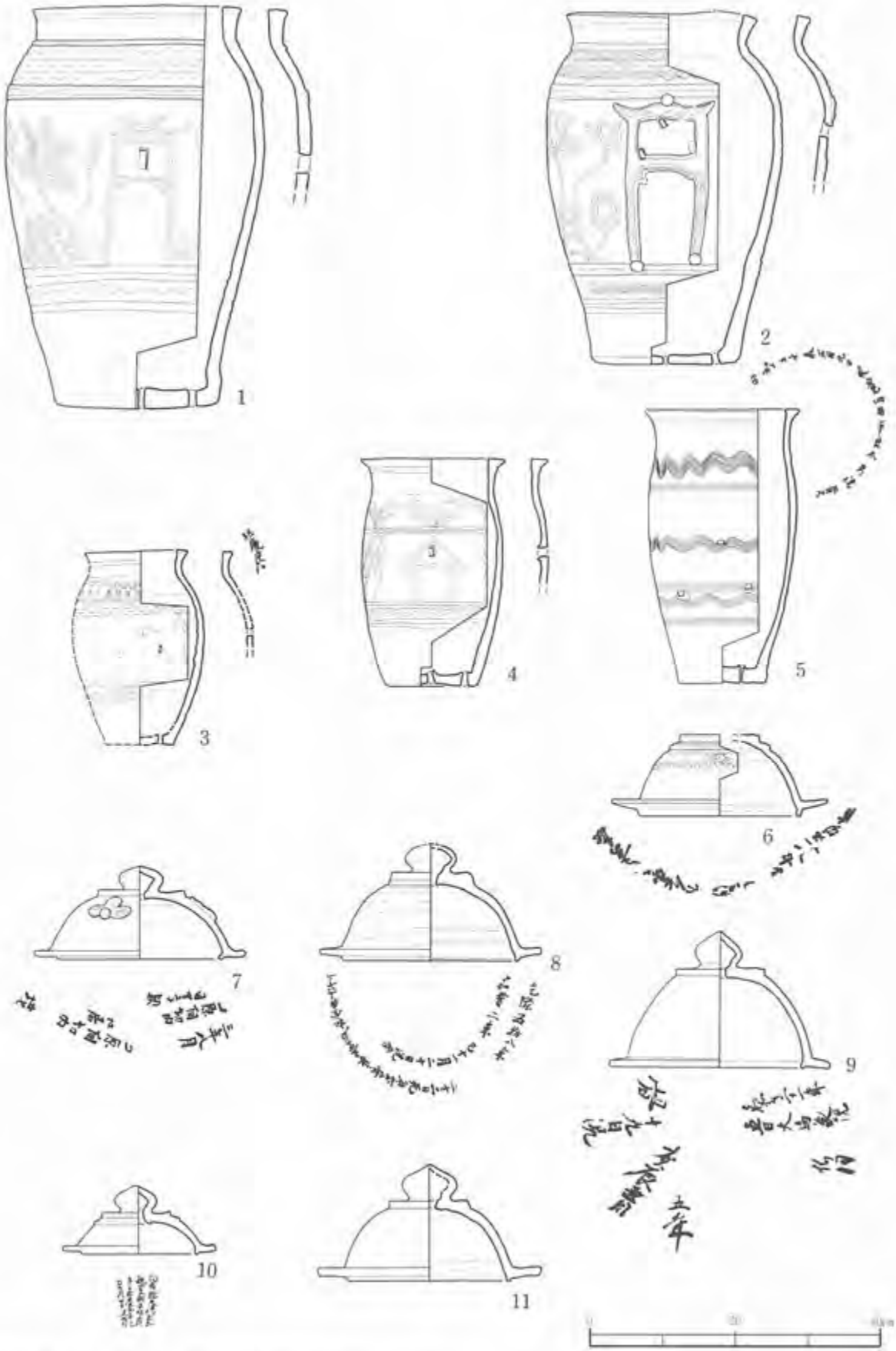
第78図（PL.23）　陶製有頸甕形蔵骨器〔B地区〕



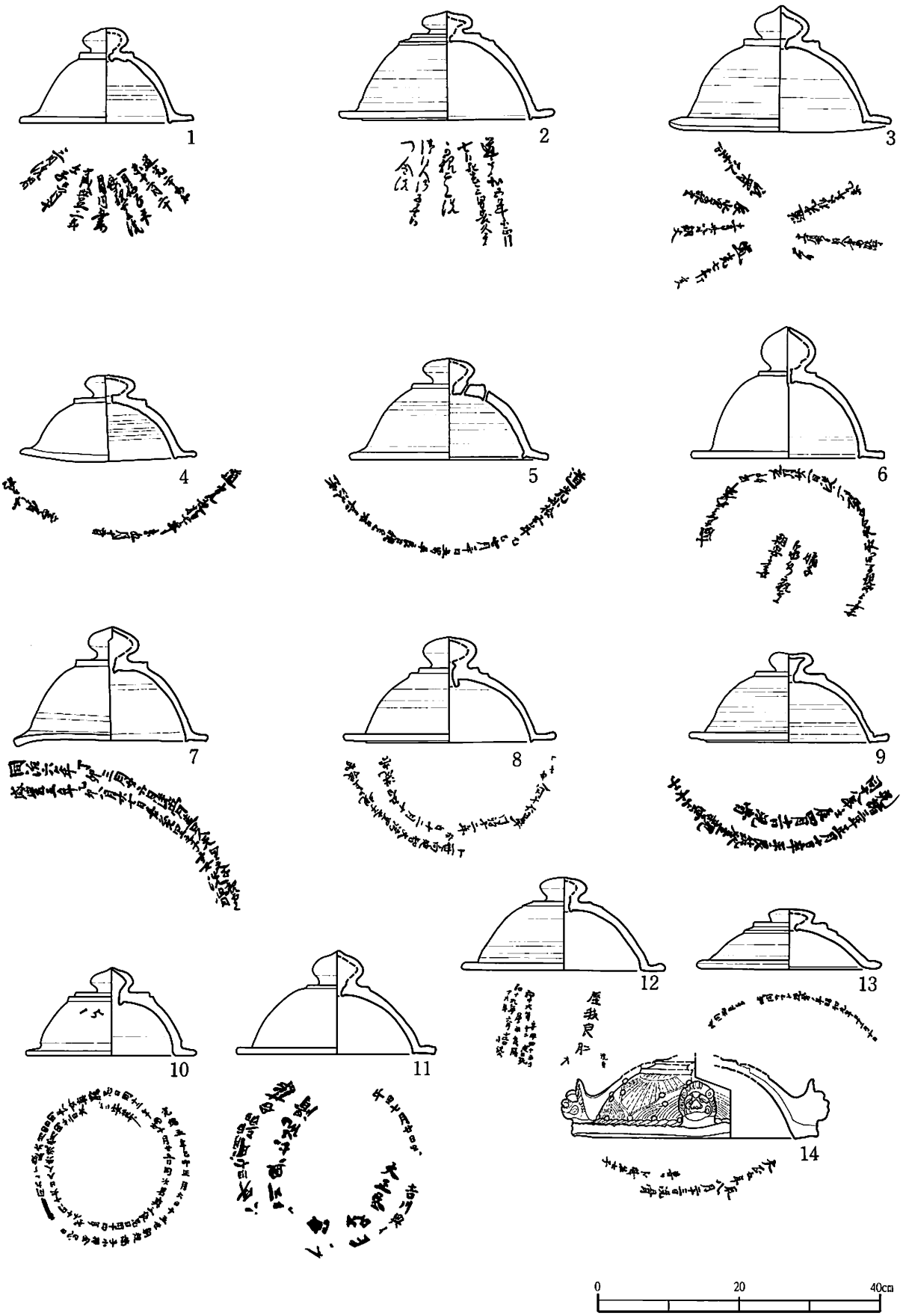
第79図（PL.24）　陶製有頭甕形蔵骨器〔B地区〕



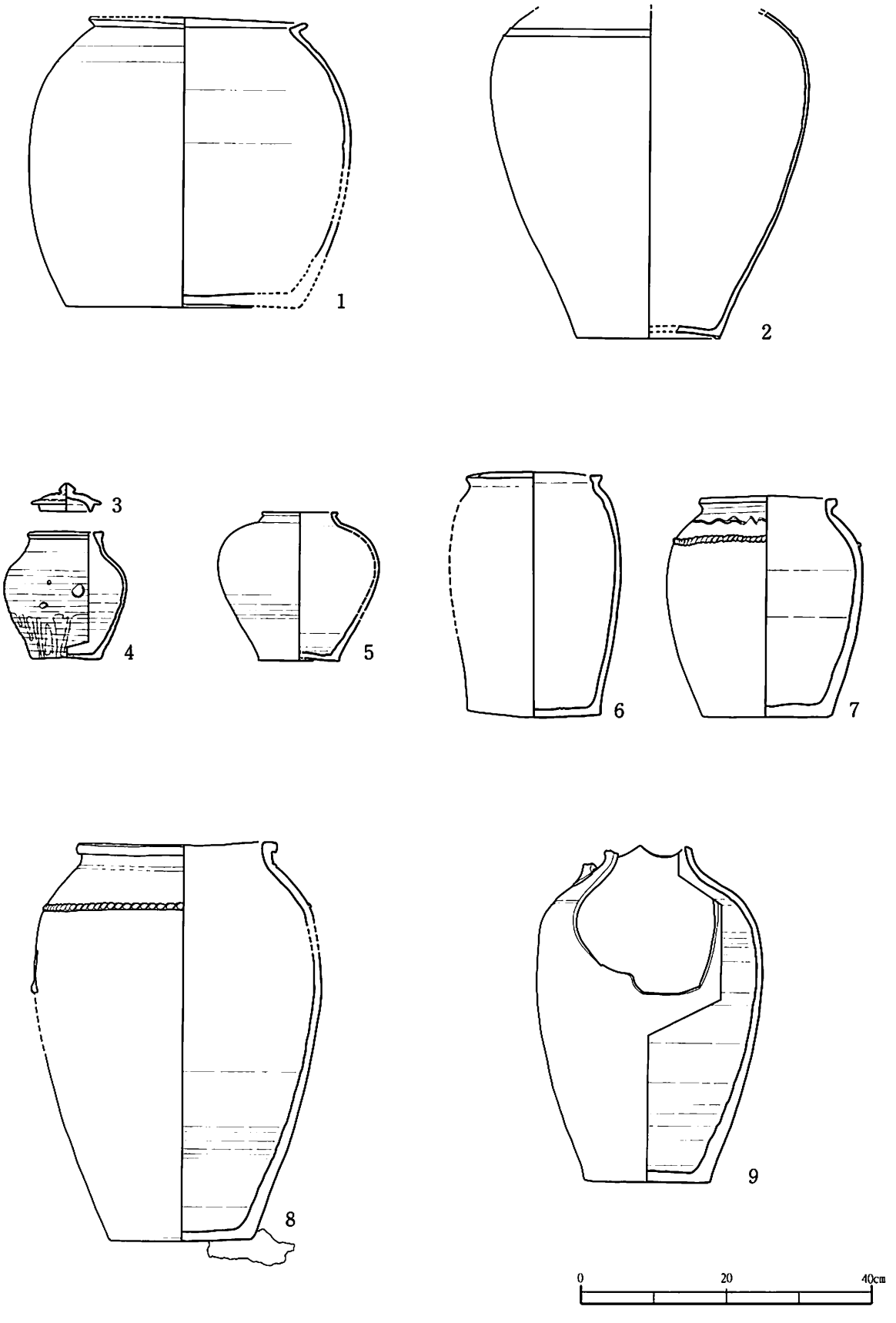
第80図（PL.25）　陶製有頸甕形蔵骨器〔B地区〕



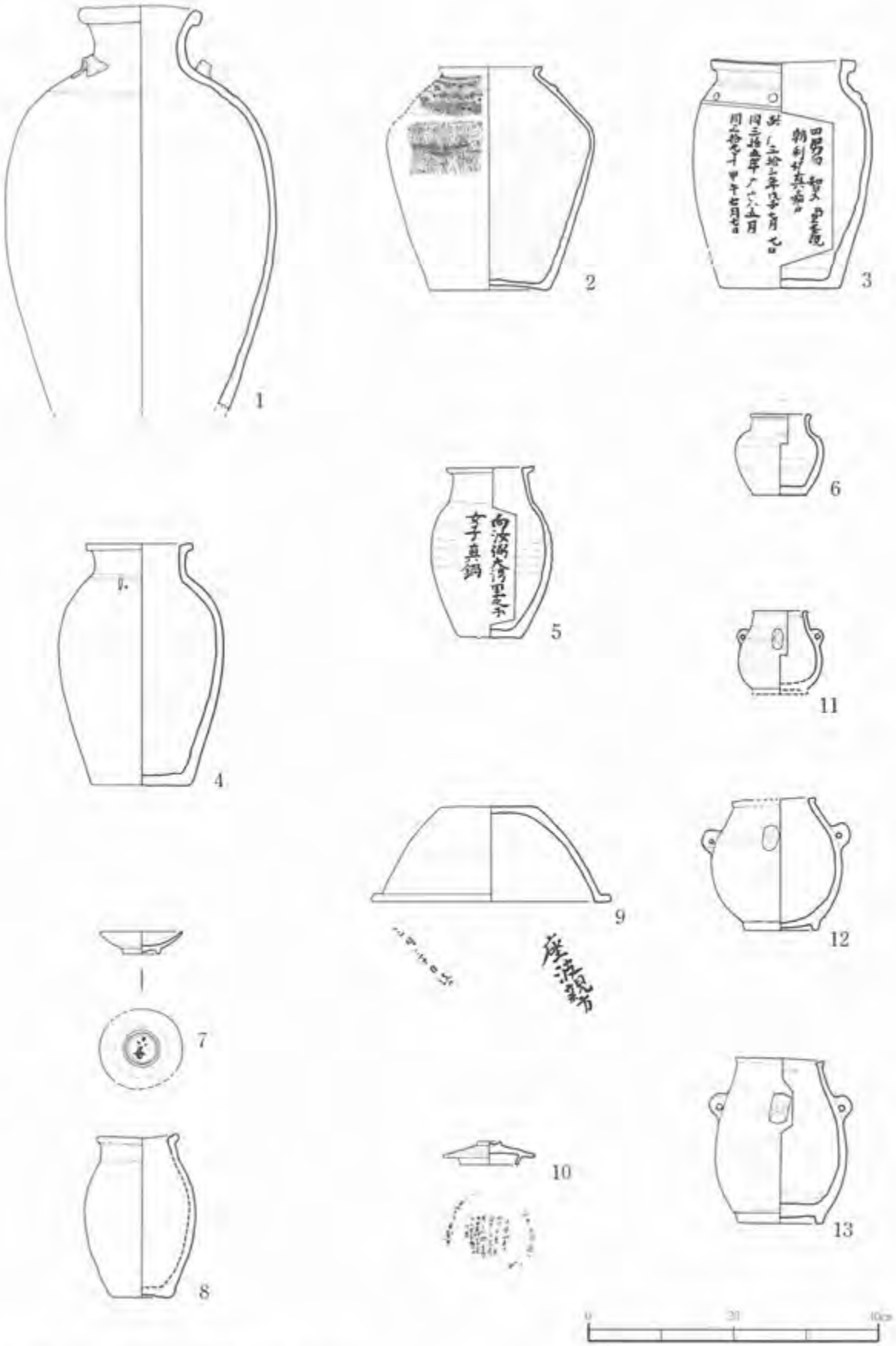
第81図（PL.26）　陶製有頸甕形蔵骨器［B地区］



第82図（PL.27）　陶製有頸甕形蔵骨器（1～13）、陶製軒付甕形蔵骨器（14）〔B地区〕



第83図(PL.28)　転用蔵骨器〔B地区〕



第84図（PL.29）　転用蔵骨器〔B地区〕

第5表　E地区蔵骨器観察一覧

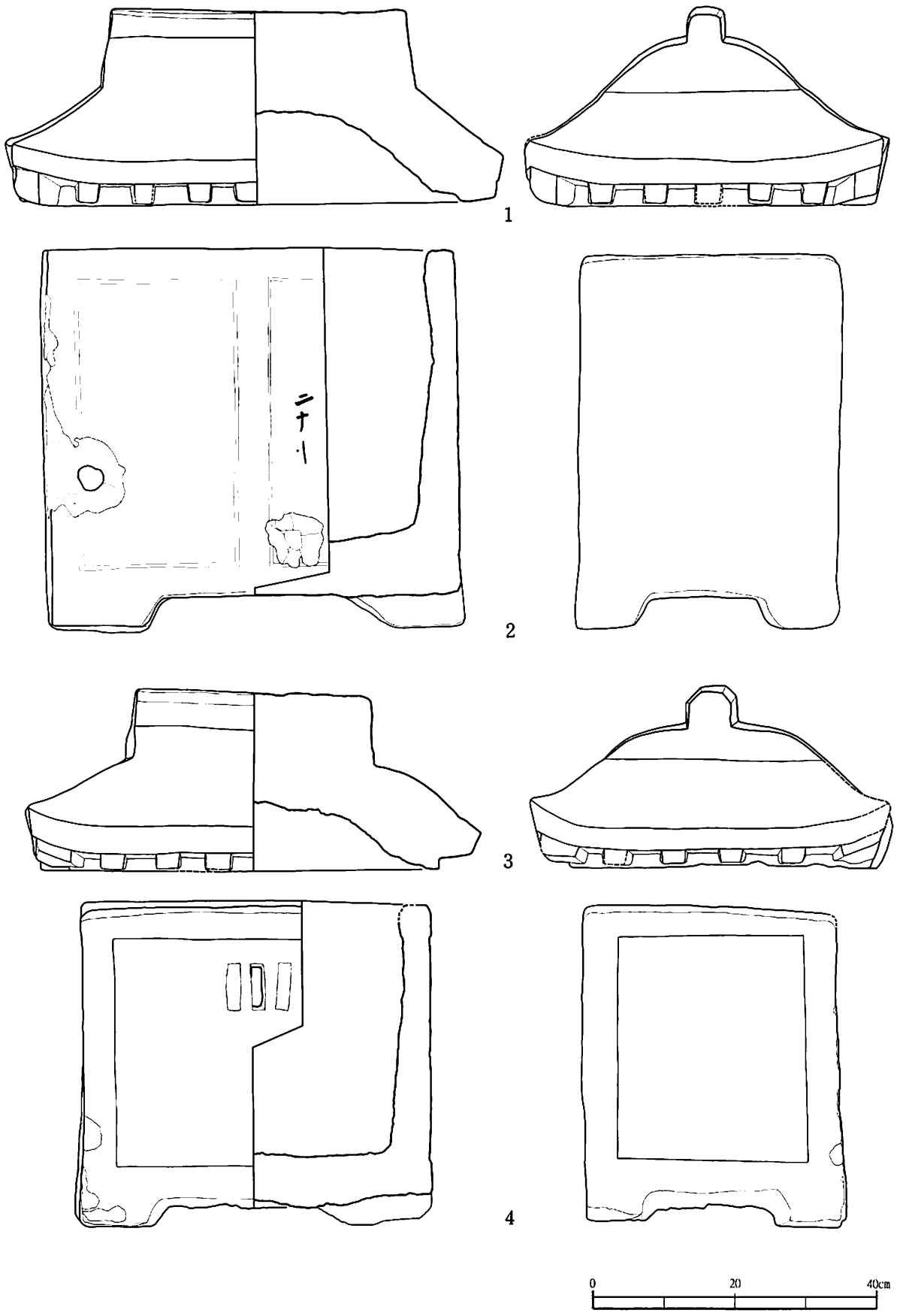
法量　上：上部径　中：器高　下：下部径（cm）

挿図番号 図版番号	墓番号	出土地点	身・蓋	名称又は仮称	形式分類	法量	対No.	文様	施釉	銘書	氏	家名	名乗頭	西暦死去年	西暦洗骨年	備考
第85図1 PL.30の1		23・24号墓間岩陰フク土	蓋	石製家形	I	41.0 28.5 70.0	2							1681	1683 ～ 1695	琉球石灰岩使用。正面と左右の軒には方形の垂木を表示。
〃　2 〃　2		23・24号墓間岩陰フク土	身	石製家形	I	57.5 51.8 57.3	1			"不鮮明"・・・／・・・／(康熙)二十年・・・				1681	1683 ～ 1695	琉球石灰岩使用。正面に窓孔なし。正面に弾痕2カ所。
〃　3 〃　3		23・24号墓間岩陰フク土	蓋	石製家形	I	33.0 23.3 63.0	4									琉球石灰岩使用。正面と左右の軒には方形の垂木を表示。
〃　4 〃　4		23・24号墓間岩陰フク土	身	石製家形	I	49.5 44.0 49.2	3									琉球石灰岩使用。正面に窓孔あり。3つのうち中央の孔のみ貫通。
第86図1 PL.31の1	15号墓	墓庭フク土	蓋	陶製家形 (素焼)	II a	50.7 12.0 50.7	2	蓮花線彫や唐草文		円岑妙白河真諸／武志羅礼棺椁供／焼骨治(久かス)／大清康熙十八年己未／十月二十六日					1679	赤褐色でいわゆる「アカムン」。屋根は切妻。
〃　2 〃　2	13号墓	墓庭フク土	身	陶製家形 (素焼)	II	42.3 37.9 44.5	1			(円岑妙白河真諸)武志(羅礼棺椁供)／・・・(焼)骨(治ス)／(大清康熙十八年己未十月二十六日)／					1679	正面に3つの窓孔。方形で四脚付く。
〃　3 〃　3	13号墓	墓庭左側掘込	蓋	陶製家形 (施釉) (壺屋)	II b	45.0 33.2 50.0	4	貼付	褐色と銅色を配色してから外面に透明釉。	道光拾三年癸巳九月二十日御洗骨田崎親方朝昆／親方朝昆室		田崎	朝		1833	いわゆる「御殿形」
〃　4 〃　4	13号墓	墓庭左側掘込	身	陶製家形 (施釉) (壺屋)	II	44.5 41.5 39.0	3	貼付	褐色と銅色を配色してから外面に透明釉。	[つら](田)崎親方朝(昆)／・・・／		田崎	朝			いわゆる「御殿形」 底孔9
第87図1 PL.32の1	13号墓	墓庭フク土	蓋	陶製無頸甕形 (焼締) (喜名)	III	8.0 15.5 32.0	2	蓮花線彫		花岳良雪女子／思戸／康熙十九年／庚申十二月廿七日死去前澤紙(ほんとは紙)親方妻／真壁親方(室)也／		澤紙 真壁		1680	1682 ～ 1694	蓋段[一段]
〃　2 〃　2	13号墓	墓庭フク土	身	陶製無頸甕形 (焼締) (喜名)	III	21.6 54.1 21.1	1	正面窓の両サイドに蓮花線彫		(花岳良雪女子)思戸金／康熙十九年庚申十二月二十(七日死去前)澤紙(ほんとは紙)親方室／(真壁親方)室也／	毛	澤紙		1680	1682 ～ 1694	窓は家形で庇が長い。口唇部に枝珊瑚の目跡が5個。 底孔6
〃　3 〃　3		23・24号墓間岩陰	身	陶製無頸甕形 (焼締) (壺屋)	III 1	28.0 48.5 20.0										胴部縦のひび割れ。窯印[χ] 窓庇[0.8cm]③－1　底孔12
〃　4 〃　4	23号墓	墓室蔵骨器	身	陶製無頸甕形 (焼締) (壺屋)	III 1	28.0 48.0 22.0										窓庇[0.7cm]③－1 底孔10
〃　5 〃　5	12号墓	墓庭フク土	蓋	陶製無頸甕形 (焼締) (壺屋)	III a	8.6 12.2 30.0				康熙(四拾)九年庚寅八月○○日・・・(死去)／(仝五拾)三年甲午八月廿四日洗骨／○○・・・／毛姓前安謝／親雲上安○／嫡女○○・・／遺骨・・・／	毛			1710	1714	蓋段[一段]

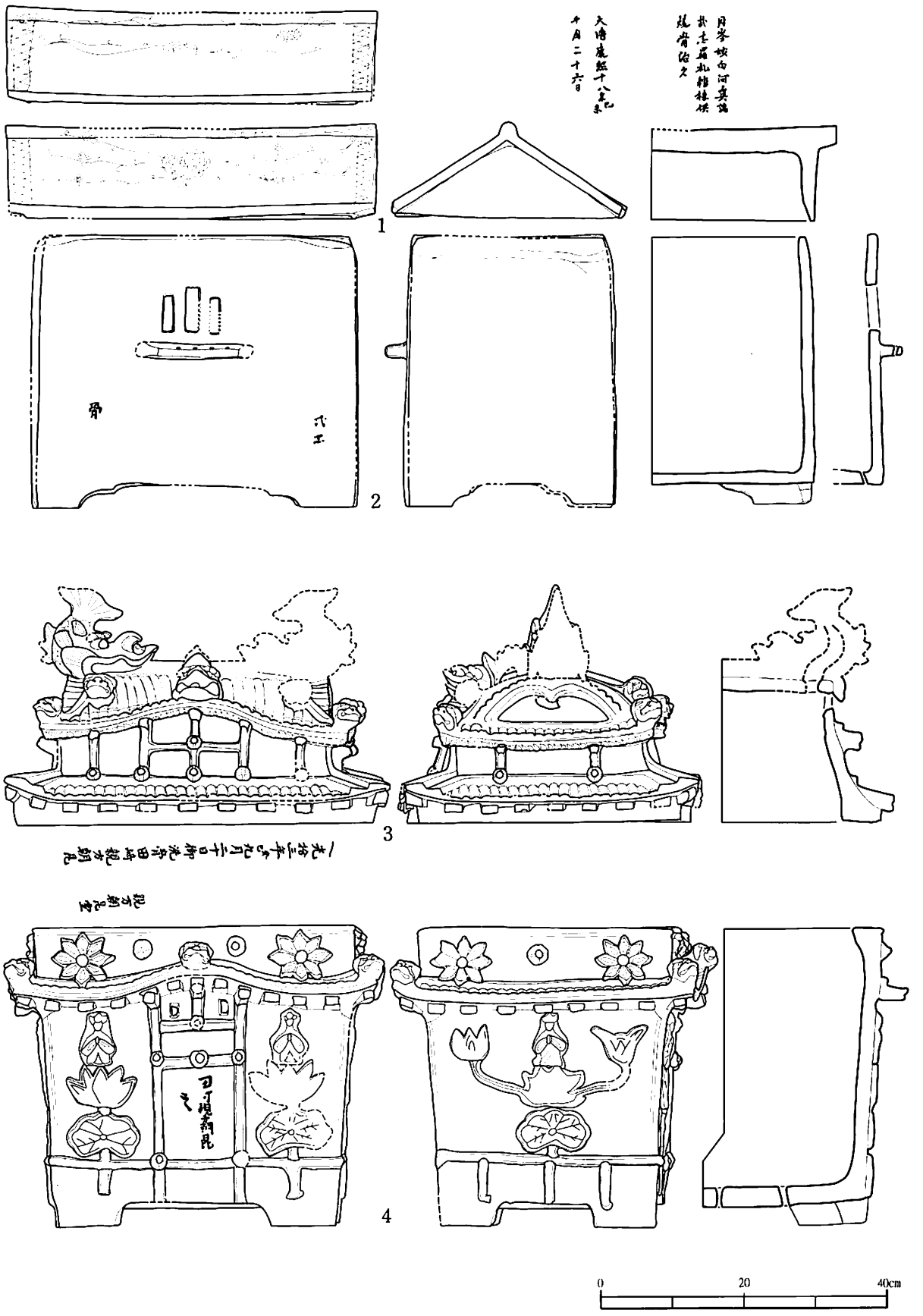
挿図番号 図版番号	墓番号	出土地点	身・蓋	名称又は仮称	形式分類	法量	対No.	文様	施釉	銘書	氏	家名	名乗頭	西暦死去年	西暦洗骨年	備考
第87図 6 PL.32の 6	20号墓	墓庭歳骨器集積	蓋	陶製無頸甕形 (焼締) (壺屋)	III	− − 31.0				乾隆四十六年辛丑八月廿七(日)洗骨／三男崎山(筑登之)親雲上／	(孫)	崎山	(嗣)	1767 〜 1778	1781	
第88図 1 PL.33の 1		23・24号墓間フク土	身	陶製無頸甕形 (焼締) (壺屋)	IV 2	19.8 36.1 19.0		貼付								小型。有頸の焼締。
〃 2 〃 2	13号墓	墓庭左側掘込歳骨器No.8	蓋	陶製有頸甕形 (壺屋)	IV b	8.0 − 22.0	3		マンガン	[消された銘書]柴安男子咸豊(拾年)十年庚申四月(廿九日)二十九日夭亡同治二年癸亥七月七日洗骨／[再利用銘書]・・・○嫡子古堅筑登之親雲上長女柴安思戸／光緒元年乙亥七月十四日夭亡歳二／光緒二年丙子十一月十七日洗骨	(秋)	古堅	柴	1860, 1875	1863, 1876	蓋段[二段] 「き」高さ[0.15cm]
〃 3 〃 3	13号墓	墓庭左側掘込歳骨器No.8	身	陶製有頸甕形 (壺屋)	IV 4	23.5 39.0 18.0	2	線彫	マンガン	[消された銘書]○柴安男子○○／[左側]咸豊十年庚申／・・・(洗)骨／・・・○○／(光緒元年)乙亥○月○日夭亡／歳九○○○○	(秋)		柴	1875 ?	1860	小型。 窓庇[0.2cm]④ 底孔7。
〃 4 〃 4	13号墓	墓庭左側掘込	蓋	陶製有頸甕形 (壺屋)	IV b	12.2 18.2 32.0	5		マンガン	柴安男子咸豊十年庚申四月廿九日夭亡同治二年癸亥七月七日洗骨／九世秋【廷】賓古堅親雲上柴教大清同治三年甲子十月廿七日死去号・(同治九)年庚午三月廿日洗骨／古堅親雲上柴教妻思戸金光緒十年(甲)申四月十六日死去／	秋	古堅	柴	1860, 1864, 1884	1863 (1870)	蓋段[二段] 「き」高さ[0.25cm]
〃 5 〃 5	13号墓	墓庭左側掘込歳骨器No.1	身	陶製有頸甕形 (壺屋)	IV 4	35.5 67.0 24.0	4	線彫	マンガン	・・・親雲上柴教大清同治三年甲子十月廿七日死去号道一同九年・・・洗骨	(秋)		柴	1864, 1870	1863, 1884	大型。 窓庇[0.8cm]③−2 底孔7
〃 6 〃 6	05号墓	墓室歳骨器No.4	身	陶製有頸甕形 (壺屋)	IV 4	22.5 32.0 16.4		線彫	マンガン	明治十八年乙酉旧三月二十二日死久志助保洗骨娘ウシ歳二	(顧)	久志	助	1885		小型。 窓庇[0.3cm]④ 底孔6
〃 7 〃 7	13号墓	墓庭左側掘込歳骨器No.11	身	陶製有頸甕形 (壺屋)	IV 4	20.0 32.3 14.2		線彫	マンガン	大清光緒十八年壬辰六月○日／夭歳三ツ／(吉?)登【榮?】親次女同(世？)三年丙○(七月二三？)・・						小型。窓庇⑤ 底孔6
第89図 1 PL.34の 1	13号墓	墓庭左側掘込歳骨器No.4	身	陶製有頸甕形 (壺屋)	IV 4	28.5 55.5 19.0		線彫	マンガン							中型。三脚付く。 窓庇[0.4cm]④ 底孔21
〃 2 〃 2	15号墓	外参道下石積	蓋	陶製有頸甕形 (壺屋)	IV b	− 9.1 22.0			マンガン	嘉慶十六年(辛)未八月九日洗骨柴慶嫡子亀歳三			柴		1811	
〃 3 〃 3	20号墓	墓室フク土	蓋	陶製有頸甕形 (壺屋)	IV b	9.1 16.5 31.0		沈線 (二重)	マンガン	○○同治二年甲子(ほんとは癸亥)十一月廿日洗骨嫡子崎山筑登之親雲上嗣恩／同治(十三年甲戌)九月十六日洗骨／嗣(恩)・・(筑登之)親雲上妻／同治・・・・嗣政次男(亀) [ふち]同治二年甲子(ほんとは癸亥)・・・洗骨／嫡子崎山筑登之(親雲上)	(孫)	崎山	嗣		1863, 1872 ?	「き」高さ[0.2cm]

挿図番号 図版番号	墓番号	出土地点	身・蓋	名称又は仮称	形式分類	法量	対No.	文様	施釉	銘書	氏	家名	名乗頭	西暦死去年	西暦洗骨年	備考
第89図 4 PL.34の 4	13号墓	墓庭左側掘込蔵骨器No.2	蓋	陶製有頸甕形 (壺屋)	IV c	10.0 14.5 30.0			マンガン	明治四十三年(庚)戌旧十二月廿二日(二十二日)柴安継妻ウシ洗骨	(秋)		柴		1910	蓋段[二段]
〃 5 〃 5	15号墓	外参道	蓋	陶製軒付甕形 (壺屋)	V a	10.0 — 30.0		線彫・貼付降棟に文様なし。	マンガン	道光(二十二)年壬寅六月二十五日洗骨真蒲戸／‥辰五月七日乗(住?)嫡子真山戸骨洗／咸豊七年丁巳正月七日乗住娘真○○男思加那(洗骨)／			乗		1842, 1857	
〃 6 〃 6	05号墓	墓室フク土	蓋	陶製軒付甕形 (壺屋)	V b	8.3 12.8 27.0		沈線・線彫・貼付	マンガン	大正四年五(?)月○○日死亡久志助保／大正拾四年・参月参拾壱日洗骨‥	(顕)	久志	助	1915	1925	蓋段[二段]
〃 7 〃 7	05号墓	墓室フク土	身	陶製軒付甕形 (壺屋)	V 2	28.5 58.1 22.4		貼付	マンガン	顕鳴柱久志子(＝里之子の略)助保室真加戸光緒十五年己丑十二月十八日洗骨	顕	久志	助		1889	中型。 底孔13
第90図 1 PL.35の 1	05号墓	墓室蔵骨器No.2	蓋	陶製軒付甕形 (壺屋)	V b	11.0 15.8 32.2	2	貼付	マンガン	顕鳴時久志子(＝里之子の略)助宜光緒十五年己丑十一月十八日洗骨助法五男助宜妻ウシ大正十四年三月三日乙丑旧三月七日死亡享年五十九／昭和十一年○月○日洗骨／	顕	久志	助	1925	1889, 1936	蓋段[三段]
〃 2 〃 2	05号墓	墓室蔵骨器No.2	身	陶製軒付甕形 (壺屋)	V 2	33.0 66.8 24.6	1	貼付	マンガン	顕鳴時久志子(＝里之子の略)助宜光緒十五(年)己丑十一月十八日洗骨	顕	久志	助		1889	大型。 窓底[1.5cm]②—2 底孔15
〃 3 〃 3	05号墓	墓室蔵骨器No.7	蓋	陶製軒付甕形 (壺屋)	V b	8.5 16.5 28.0	4	貼付	マンガン	顕鳴文久志助法六男顕鳴文久志子(＝里之子の略)助栄／光緒十五年己丑十一月十八日洗骨	顕	久志	助		1889	蓋段[三段] 「き」高さ[0.4cm]
〃 4 〃 4	05号墓	墓室蔵骨器No.7	身	陶製軒付甕形 (壺屋)	V 2	27.3 57.0 23.0	3	貼付	マンガン	顕鳴久志子(＝里之子の略)助栄光緒十五年己丑十一月十八日洗骨	顕	久志	助		1889	中型。 底孔7
〃 5 〃 5	13号墓	墓庭左側掘込蔵骨器No.13	蓋	陶製小型軒付甕形 (施釉) (壺屋)	V	— 6.3 6.0	6	貼付	コバルトで配色してから外面に透明釉。	八世秋文〈煥〉渡慶次筑登之親雲上道光二年壬午十月六日死去号安山	秋	渡慶次			1822	小型。蓋には軒はないが、身は軒付。
〃 6 〃 6	13号墓	墓庭左側掘込蔵骨器No.13	身	陶製小型軒付甕形 (施釉) (壺屋)	V 2	8.7 20.0 9.2	5	貼付	コバルトで配色してから外面に透明釉。	八世秋文〈煥〉渡慶次筑登之親雲上道光二年壬午十月六日死去号安山	秋	渡慶次			1822	小型。窓孔が1個。軒付で獅子の降棟。火葬骨用の可能性もある。
第91図 1 PL.36の 1	23号墓	墓室安置蔵骨器	蓋	素焼鉢 (壺屋)		10.8 15.0 28.0	2									転用。赤褐色。
〃 2 〃 2	23号墓	墓室安置蔵骨器	身	焼締水甕 (壺屋)		32.0 61.7 25.0	1	凸帯文と沈線文の中に擂座(6個)								転用。窯印有。焼く時に胴部に亀裂が入っている。そこを石灰で埋めて使用。
〃 3 〃 3		不明	身	焼締三耳小型壺		11.3 31.0 13.0		肩部に2本の沈線。								転用。窯印[○]喜名焼。
〃 4 〃 4	13号墓	墓入口	蓋	施釉蓋 (薩摩)		— 4.6 12.5	5		蓋甲に緑褐釉。							転用。胴部の一部を打ち欠いて、横にして使用。

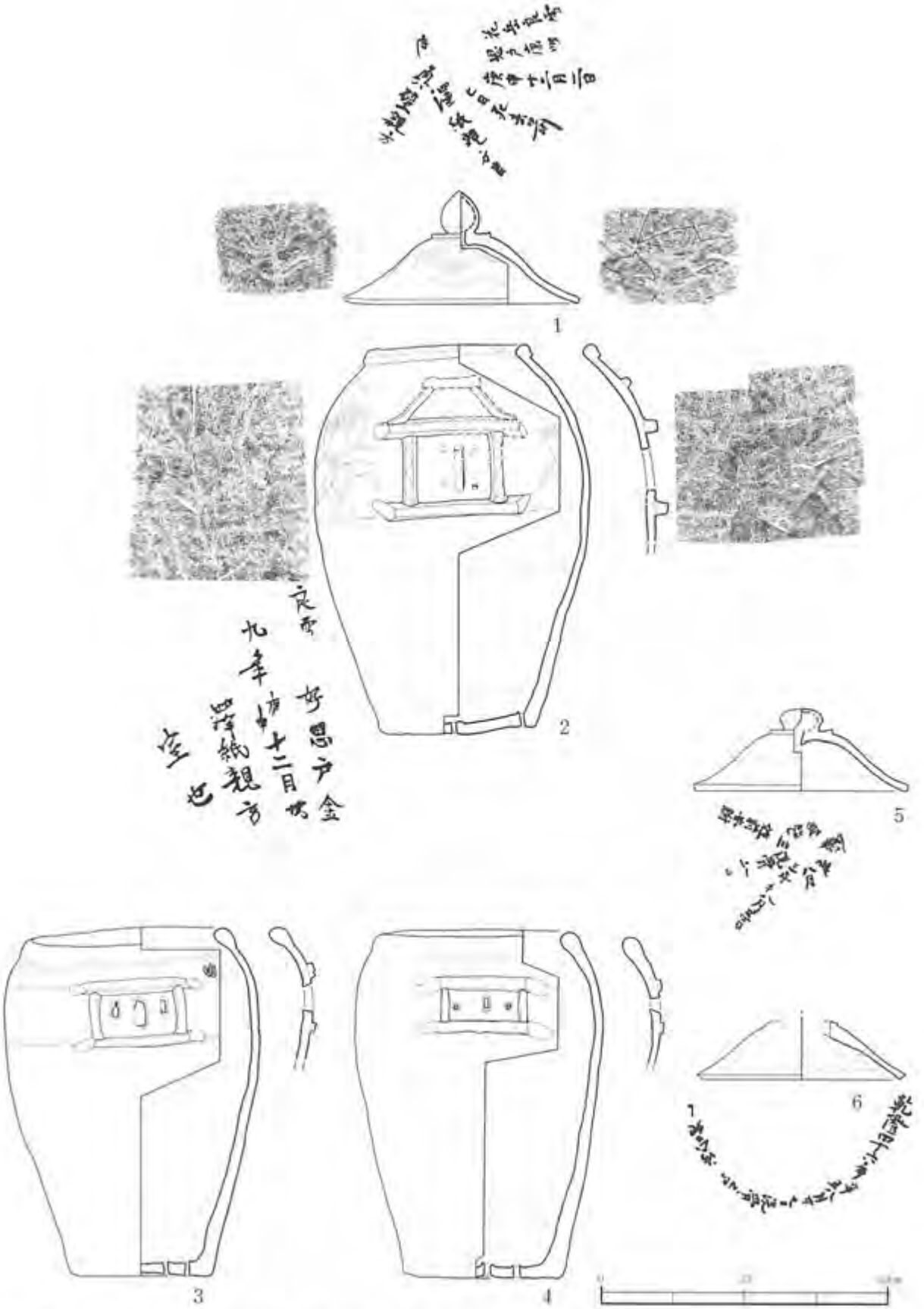
挿図番号 図版番号	墓番号	出土地点	身・蓋	名称又は仮称	形式分類	法量	対No.	文様	施釉	銘書	氏	家名	名乗頭	西暦死去年	西暦洗骨年	備考
第91図 5 PL.36の 5	13号墓	墓庭左側掘込	身	施釉小型壺 (薩摩)		23.1 25.5 13.2	4		内・外面に緑褐釉。外底のみ露胎。							転用
〃 6 〃 6	13号墓	墓庭左側掘込蔵骨器No.5	蓋	施釉蓋 (壺屋)		－ 2.5 8.2	7		蓋甲に黄褐釉。	昭和(二八年癸巳)四月〇日三男(柴)健〇〇洗骨‥‥／	(秋)		(柴)		(1953)	転用
〃 7 〃 7	13号墓	墓庭左側掘込蔵骨器No.5	身	施釉小壺 (壺屋)		10.3 11.6 8.0	6	沈線	内面に灰褐釉、外面に黄褐釉。口唇部と外底は露胎。							転用
〃 8 〃 8	26号墓	右石積内	蓋	素焼蓋 (壺屋)		－ 3.6 15.6	9									転用。赤褐色。
〃 9 〃 9	26号墓	右石積内	身	素焼鉢 (壺屋)		22.0 11.8 11.5	8	沈線と櫛描波状文。								転用。赤褐色。
〃 10 〃 10	27号墓	前方フク土	蓋	焼締蓋 (壺屋)		－ 2.8 8.0	11	とびガンナと沈線		外間カメ／年五才／一九四〇年〇(六か二？)月〇日		外間				転用
〃 11 〃 11	27号墓	左フク土	身	焼締小壺 (壺屋)		10.0 12.4 8.4	10	とびガンナと沈線	内面に黒褐釉。							転用
〃 12 〃 12	15号墓	墓庭フク土	蓋	施釉蓋 (壺屋)		－ 3.8 7.7		沈線	蓋甲に褐釉。	[ふち]光緒八年壬午九月四日自下之江移葬／ [内面]銘書無之／					1882	転用
〃 13 〃 13	24号墓	墓庭フク土	身	施釉油壺 (壺屋)		13.0 18.9 10.0			内・外面に黒釉。口唇部と高台は露胎。							転用。いわゆる「アンダガーミ」



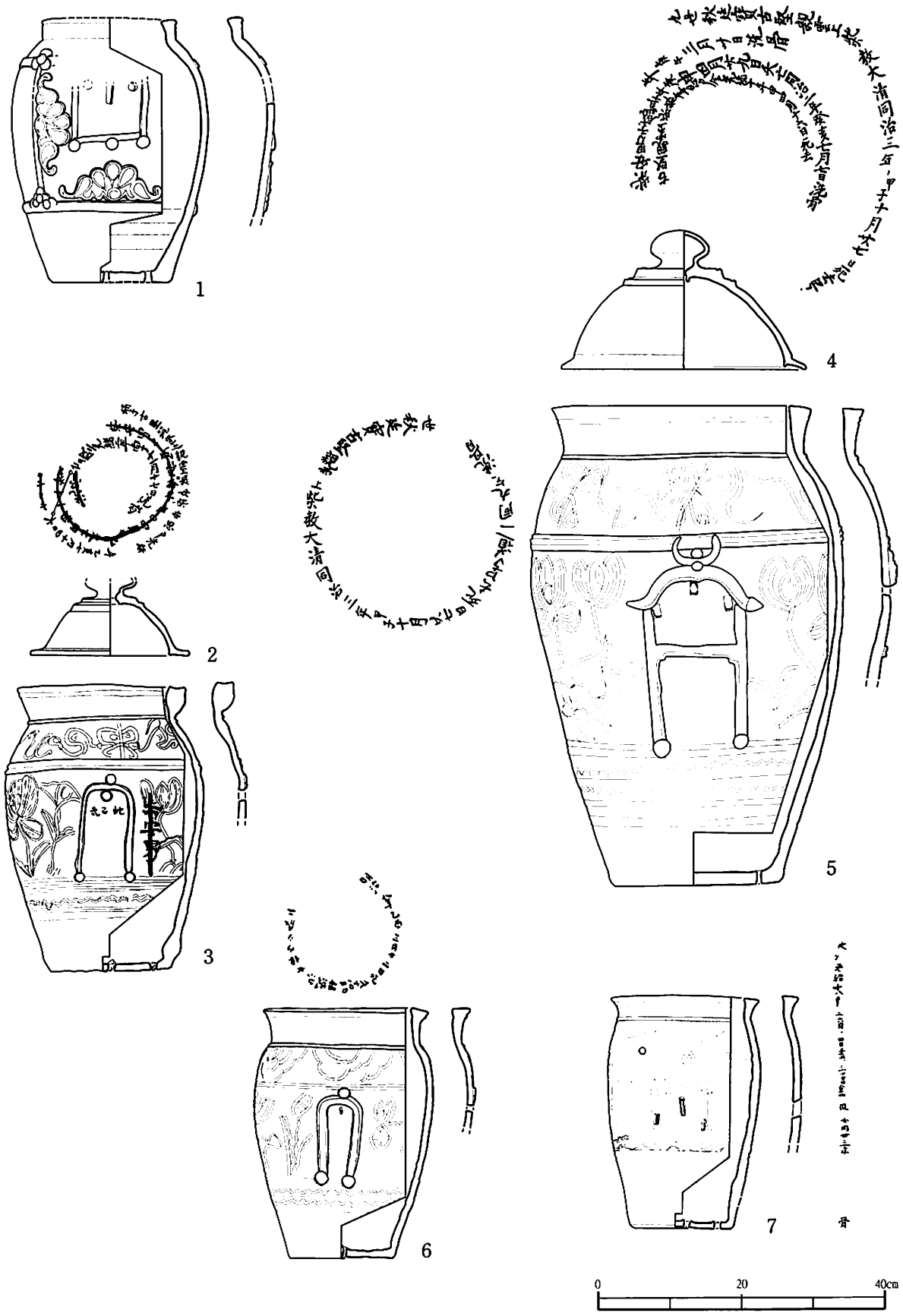
第85図(PL.30)　石製家形蔵骨器〔E地区〕



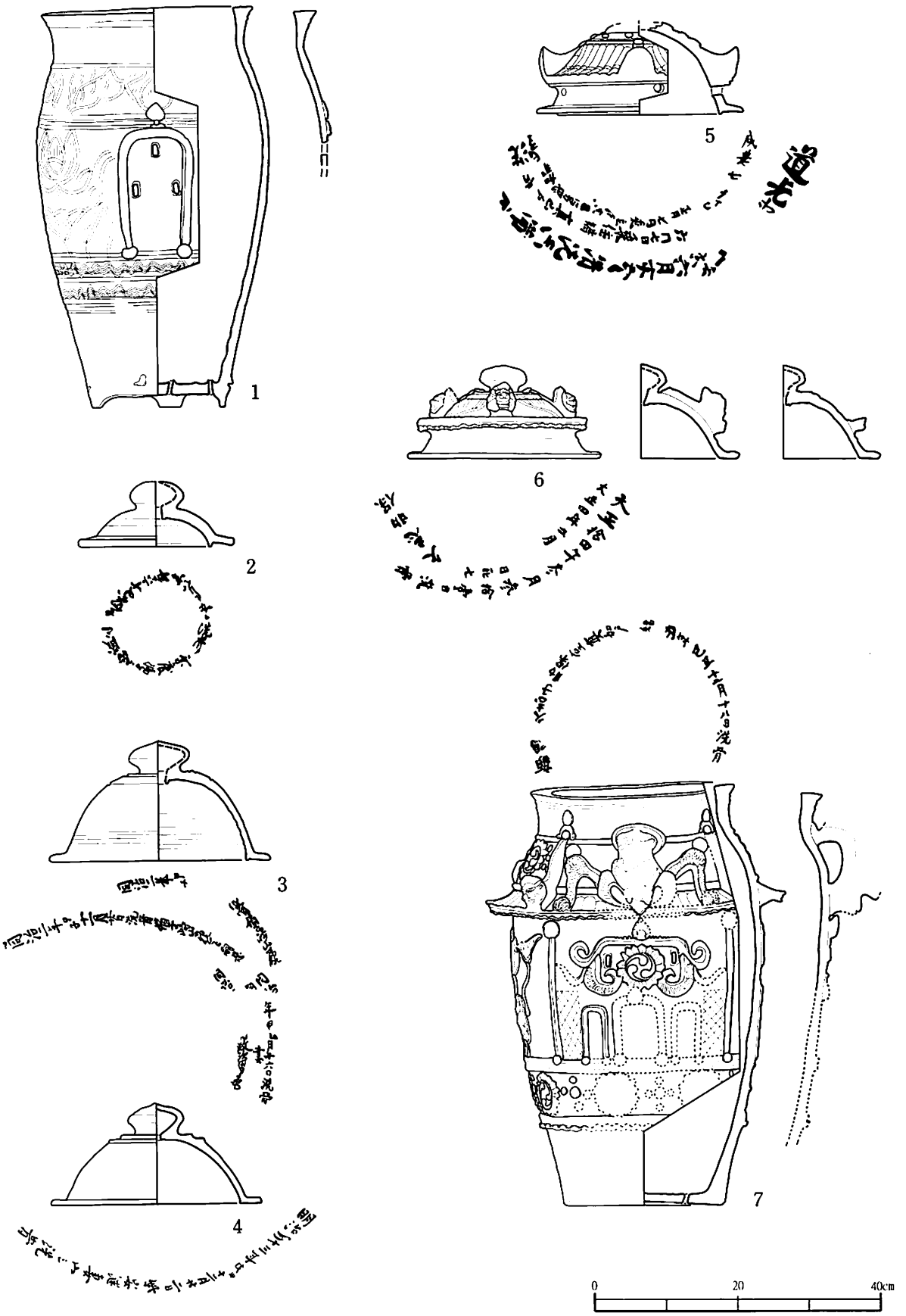
第86図（PL.31）　陶製家形蔵骨器：1・2は素焼（方言でアカムン）、3・4は施釉〔E地区〕



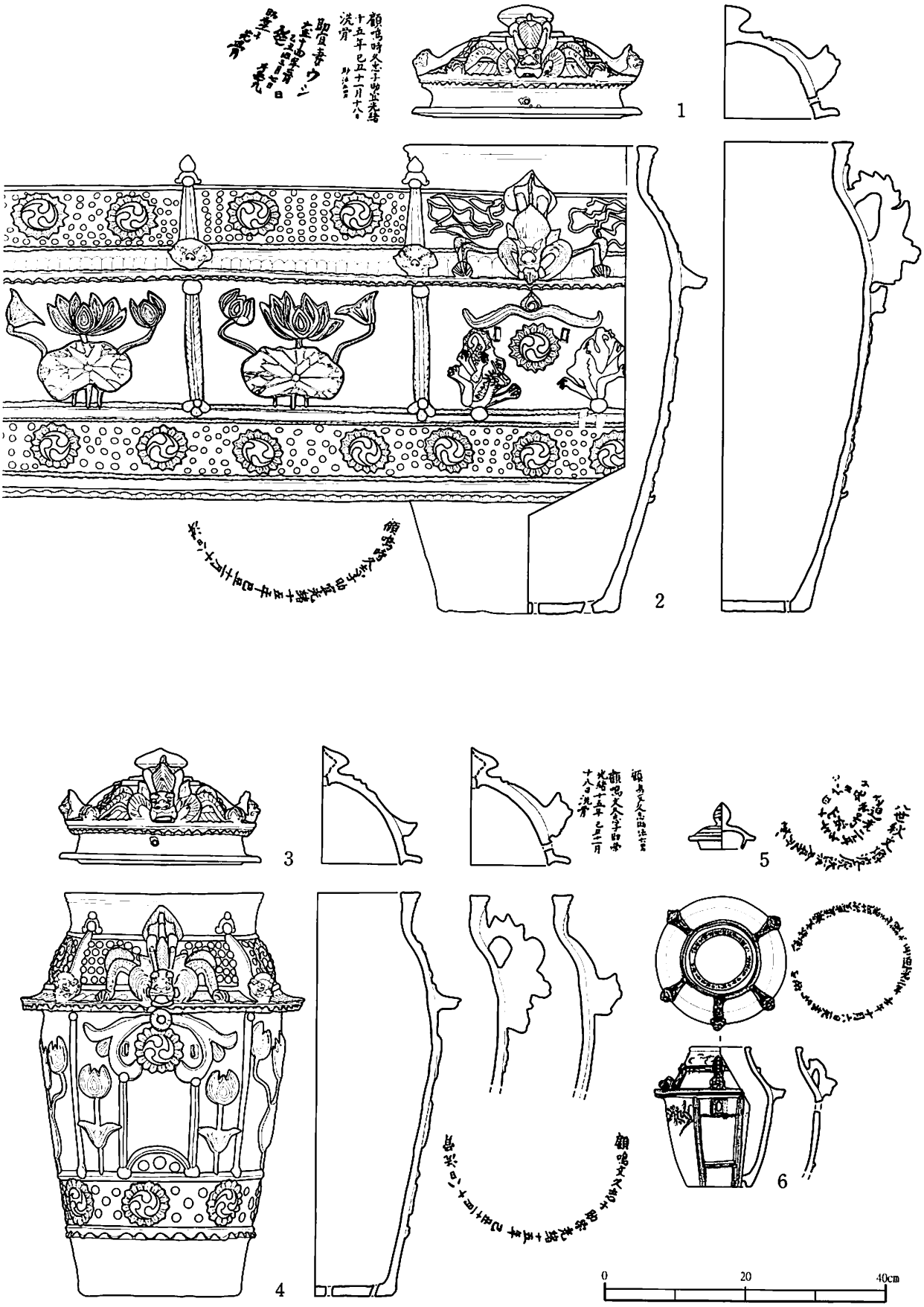
第87図(PL.32)　陶製無頭甕形蔵骨器〔E地区〕
(ボージャー)



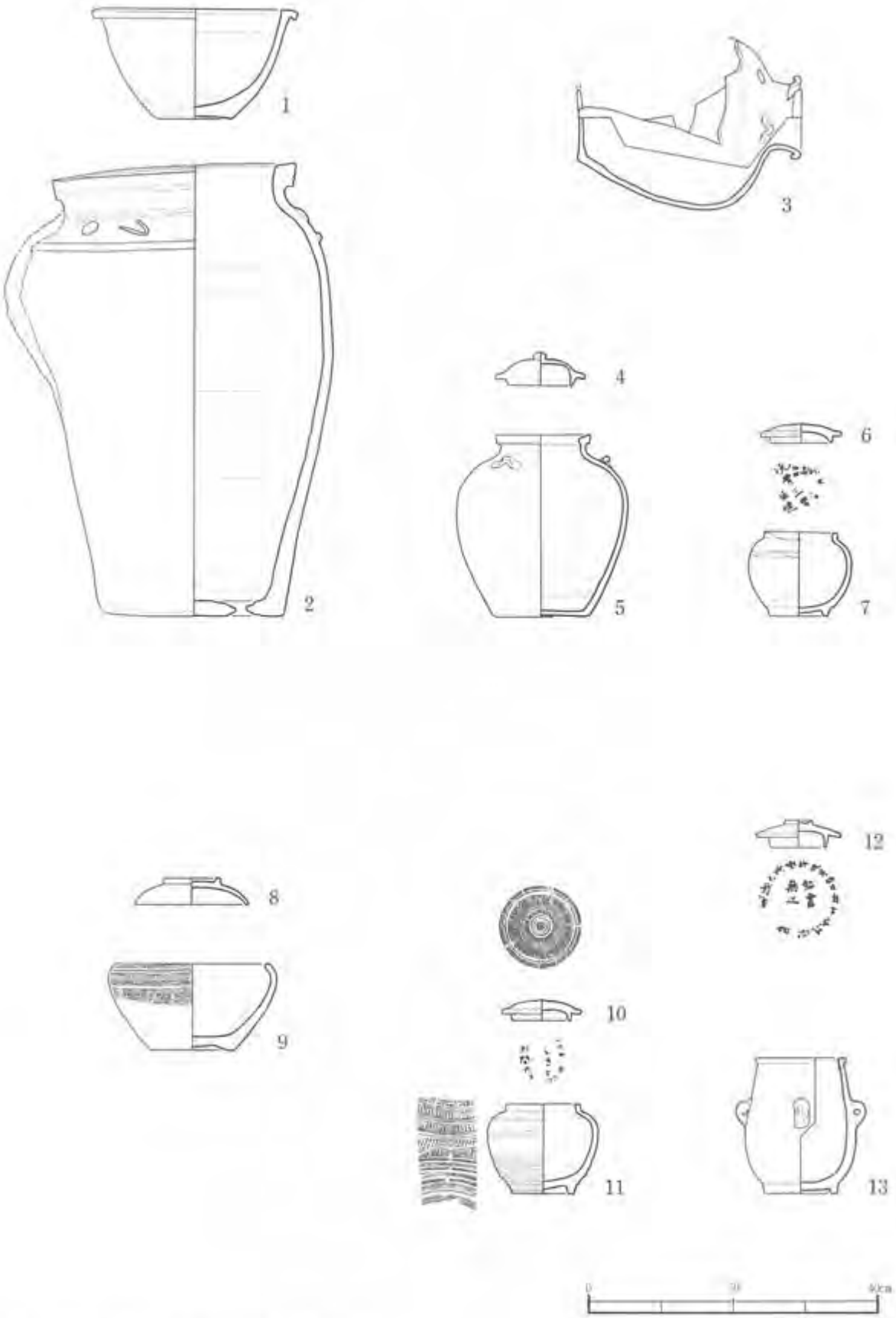
第88図（PL.33）　陶製有頸甕形蔵骨器〔E地区〕



第89図（PL.34）　陶製有頸甕形蔵骨器（1～4）、陶製軒付甕形蔵骨器（5～7）〔E地区〕



第90図（PL.35）　陶製軒付甕形蔵骨（1～4）
陶製小型軒付甕形蔵骨器〈施釉〉（5・6）［銘書は拡大］〔E地区〕



第91図(PL.36)　転用蔵骨器〔E地区〕

第6表　B地区ミガチ（銘書）のある蔵骨器観察一覧　　法量　上：上部径　中：器高　下：下部径（cm）

連番	墓番号	出土地点	身・蓋	名称又は仮称	形式分類	法量	対No.	文様	銘書	氏	家名	名乗頭	西暦死去年	西暦洗骨年	備考
1	01号墓	前方フク土	蓋	陶製無頸甕形	Ⅲc	－ 11.0 36.0			…洗骨○○○○○						
2	01号墓	墓室フク土	蓋	陶製有頸甕形	Ⅳb	12.4 16.0 30.0		沈線（二重）	（嘉慶十）四己巳七月七日洗骨新里筑登之親雲上妻同人又○孫○同人又…	（向）	新里	（朝）	1795～1807	(1809)	蓋段[二段]「き」高さ[0.2cm]
3		01～04号墓前方フク土	蓋	陶製有頸甕形	Ⅳb	12.3 － 30.0			光緒八年壬午…・／（光緒二十八年）壬寅七月○六日洗骨／…○妻				1882	(1902)	蓋段[一段]「き」高さ[0.2cm]
4		01～04号墓前方フク土	蓋	陶製有頸甕形	Ⅳb	10.7 － 32.0		段沈線	光緒三十一年乙巳／○月九日明開候處／…ナリ／…二付／‥○葬…／				1891～1903	1905	蓋段[二段]「き」高さ[0.2cm]
5		01～04号墓前方フク土	蓋	陶製有頸甕形	Ⅳb	－ － 30.0		沈線	大清…						蓋段[一段]「き」高さ[0.35cm]
6		01～04号墓前方フク土	蓋	陶製有頸甕形	Ⅳb	8.7 13.5 28.0	9		三男大（城）里之子親雲上朝祥向世彦次女真鶴	向	大城	朝			蓋段[二段]「き」高さ[0.15cm]
7		01～25号墓フク土	蓋	陶製無頸甕形	Ⅲc	8.3 8.2 28.0		沈線	乾隆三…／（乾隆）三十九年甲午七月…					1774	蓋段[一段]
8		01～25号墓フク土	蓋	陶製無頸甕形	Ⅲc	－ 8.0 30.0			‥年丁巳？…　"不鮮明"読みとれず						
9	03号墓	前方フク土	身	陶製有頸甕形	Ⅳ4	26.0 － 20.0	6	線彫	（三男）大城里之子親雲（上）朝祥（向世）彦次女真（鶴）	向	大城	朝			底孔8
10	03号墓	前方フク土	蓋	陶製無頸甕形	Ⅲ	－ － 37.0		肩部沈線（二重）	乾隆…九日○…／…洗骨					1736～1796	
11	03号墓	前方フク土	蓋	陶製有頸甕形	Ⅳa	7.3 11.5 21.0			咸豊二年壬子○○十五日十四世古堅里之子○○長女真鶴洗骨		古堅	（安）	1838～1850	1852	蓋段[一段]「き」高さ[1.5cm]
12	03号墓	前方フク土	蓋	陶製有頸甕形	Ⅳb	－ － 32.0			（光緒六年）庚辰○月二十七日…（古）堅（里）之子安○／…同年同（月）‥○○／大正十五年…洗骨		（古）堅	安	(1880)	1926	「き」高さ[0.25cm]
13	03号墓	前方フク土	蓋	陶製有頸甕形	Ⅳ	8.5 － 24.0			光緒十三年丁亥四月…／○男真山戸／光緒（二十二年）丙申…○月十六日（洗骨）				1887	(1896)	蓋段[二段]
14	03号墓	前方フク土	蓋	陶製有頸甕形	Ⅳ	－ － 32.0			○○○年癸○○月九日洗骨宮城仁屋		宮城				
15	03号墓	墓庭フク土	蓋	陶製軒付甕形	Ⅴb	10.8 18.3 32.0		段沈線・線彫・貼付	伊波加ま妻マシ巳之人（明治十四年か？）明治四十一年戊申二月（廿）七日洗骨ス／○伊波…‥○日洗骨ス／	（毛）	伊波	（盛）	1894～1906	1908	蓋段[二段]「き」高さ[0.3cm]
16	04号墓	墓庭フク土	蓋	陶製無頸甕形	Ⅲ	－ － 34.0			乾隆四十五年庚子…／					(1780)	
17	05号墓	墓室フク土	身	陶製無頸甕形	Ⅲ	－ － －			嗣常有銘…・／渦　鶴　先○一…／		有銘	嗣			
18	05号墓	墓庭フク土	蓋	陶製無頸甕形	Ⅲ	－ － 34.0		肩部沈線（二重）	○○○年（　）巳八月…／二代嗣春洗骨…／‥○○○○…／…同人…		（有銘）	嗣			
19	05号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形	Ⅳ	5.9 8.9 28.0			"不鮮明"読み取れず						蓋段[一段]
20	06号墓	墓庭フク土	蓋	陶製無頸甕形	Ⅲb	8.4 9.5 28.0		沈線	新垣親雲上（尓也）／乾（隆）…○八…	（毛）	新垣				窯印有。つまみb蓋段[一段]

連番	墓番号	出土地点	身・蓋	名称又は仮称	形式分類	法量	対No.	文様	銘書	氏	家名	名乗頭	西暦死去年	西暦洗骨年	備考
21	06号墓	フク土	身	陶製有頸甕形	IV 4	30.0 － －		線彫	(嫡)子○伊波・・・	(毛)	伊波	(盛)			
22	06号墓	墓庭	蓋	陶製有頸甕形	IV b	10.0 17.2 29.5		沈線	九○・・七月八日洗骨						蓋段[三段] 「き」高さ[0.4cm]
23	07号墓	墓庭フク土	蓋	陶製家形	II b	－ 45.3 47.0		貼付	○○○七年・・・／○○年戊十一月廿七日・・／○○○○○・・／・・・十二月○日洗骨／伊波○・・・／大正五年(丙辰)○月廿七日洗骨／妻カナ／	(毛)	伊波			1916	
24	07号墓	墓庭フク土	蓋	陶製無頸甕形	III	8.5 － 30.0		沈線	"不鮮明"						蓋段[一段]
25	08号墓	墓庭フク土	蓋	陶製無頸甕形	III a	8.4 12.1 27.8		沈線	我如古母親		我如古				つまみa 蓋段[一段]
26	08号墓	墓庭フク土	蓋	陶製無頸甕形	III	－ － 30.0			"不鮮明"						
27	08号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV	－ － －			道光六年(丙戌)八月廿三日洗骨／女子○○／女子真○・・・／・・・[消された文字有]・・・					1826	
28	09号墓	フク土	身	陶製無頸甕形	III 1	23.3 46.0 19.6		線彫 (蓮花)	○十(二か三)日卒／・・・(親)雲上良方／・・・(戊)戌八月二十二日／洗骨／			良			喜名焼。底孔5
29	09号墓	墓庭フク土	蓋	陶製無頸甕形	III b	－ 10.5 30.8			○○○○(乾隆二十年か嘉慶二十年)乙亥八月十七日伊波・・・		伊波			(1755 か 1815)	つまみb
30	09号墓	墓庭フク土	蓋	陶製無頸甕形	III c	－ 10.1 33.0		線彫	"不鮮明"						蓋段[一段]
31	09号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV b	－ － 34.0			光緒十三年丁亥・・・・／・・・光緒・・・○○／・・安・・／・・ヨリ／御骨御四人○○○／			安			蓋段[二段] 「き」高さ[0.3cm]
32	10号墓	墓庭フク土	蓋	陶製無頸甕形	III b	－ － 32.0			乾隆廿四年己卯七月七日洗骨／故作(久？)○也／○妻思戸／次女思戸					1759	つまみb
33	10号墓	墓庭フク土	蓋	陶製無頸甕形	III c	9.4 12.0 31.0			光緒十三年(丁亥)八月十日○○内・・・／・・・境内後原之墓ヨリ移骨／移来時ヨリ銘書○　／移来之時ヨリ銘書○					1887	
34	10号墓	墓口フク土	身	陶製無頸甕形	III	25.0 － －			蘇文明次男・・・／乾隆五十三年戊(申)・・・(死去)／・・○歳／同五十六年(丁酉)・・・洗骨	蘇			1788	1791	
35	10号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV a	10.3 － 26.3			(光)緒・・／○月十七日死／光緒○○○年○月○○○日／・・・／・・日洗骨之／					1875 ～ 1909	蓋段[二段] 「き」高さ[0.5cm]
36	10号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV a	12.5 － 31.0		沈線	咸豊・・・／十月・・・／・・○・・／・・・洗骨／・・○○・・／・・光之○・・・					1851 ～ 1862	蓋段[二段] 「き」高さ[0.75cm]
37	10号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV b	9.4 15.1 28.7		沈線	・・大里／・・・／移○／○／○○○○○○／○父母						蓋段[一段] 「き」高さ[0.2cm] つまみの根元に穴(4個)有。
38	10号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV b	－ － 32.0			(同治)○拾年辛未／○月・十四日當／・・・移／・・里間切／・・○亀／						「き」高さ[0.3cm]
39	10号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV b	－ － 35.0			光緒十(三年)丁亥八月○日名護(？)間切大兼久境内内間屋ヨリ移・・・○骨七世安歳之／嫡孫童名蒲戸内間里之子親雲上(共？)○同人妻真牛○○同月・・・ヨリ／御骨移来也	(毛)	内間	安			蓋段[二段] 「き」高さ[0.3cm]

連番	墓番号	出土地点	身・蓋	名称又は仮称	形式分類	法量	対No.	文様	銘書	氏	家名	名乗頭	西暦死去年	西暦洗骨年	備考
40	10号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV b	9.1 － －		沈線	[ふち]同治五年(丙)寅十二月・・・死同○年・・・・真・・／ [内面]同治五年寅十二月七日嫡子(道?)・・洗骨○・・／・・嫡子○○(死?)子・・／				1866		蓋段[二段] 「き」高さ[0.15cm]
41	10号墓	墓口フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV b	8.5 14.3 29.2		沈線	同治拾年辛未十一月十四日里間功ヌリ當列○移元祖／・童子入加／・コ○○リ					1871	蓋段[二段] 「き」高さ[0.15cm]
42	11号墓	墓庭フク土	身	陶製家形	II	36.5 46.5 32.0		貼付	[正面]伊波蒲／妻カナ／ [上面]伊波筑登之・・・／明治四十二年二月朔日死去／蒲妻カナ		伊波		1909		
43	11号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV a	－ － 33.0		沈線	[ふち]○○○年・・・七日故渡名喜筑登之親雲上元良妻洗骨 [内面]○○○年○亥七月七日故渡名喜筑登之親雲上(元良)妻洗骨		渡名喜	元			蓋段[一段] 「き」高さ[0.5cm]
44	11号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV b	－ － 18.0			昭和拾九年(甲)申八月五日洗骨安扶長男山戸小			安		1944	「き」高さ[0.05cm]
45	11号墓	墓庭フク土	身	陶製有頸甕形	IV 2	－ － 24.0		貼付(蓮花)・波状圏線	"不鮮明"						窓庇[0.25cm]④ 底孔11
46	12号墓	墓室安置蔵骨器No.9	蓋	陶製無頸甕形	III c	9.5 10.5 31.0			嘉慶七年壬戌○月十六日洗骨嫡子喜久元(ほんとは本)里之子朝祥妻／○男朝裕松金同人三男真牛	(向)	喜久元	朝	1788 ～ 1800	1802	
47	12号墓	墓室安置蔵骨器No.2	蓋	陶製有頸甕形	IV b	10.3 15.5 31.0		沈線	道光十九年己亥十月二十六日喜久元里之子(親雲上)／妻洗	(向)	喜久元		1821 ～ 1851	1839	蓋段[二段] 「き」高さ[0.2cm]
48	12号墓	墓室	蓋	陶製有頸甕形	IV c	7.0 10.3 22.0		沈線	大正弐年子(ほんとは癸丑)旧十二月十二日湧川三良二女マカト洗骨	向	湧川			1913	蓋段[一段]
49	13号墓	墓庭フク土	蓋	陶製無頸甕形	III b	－ 5.7 14.1			昭和拾参年(戊寅)旧七月○○日／新新九月拾五(?)日					1938	つまみb
50	13号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV b	7.5 11.3 24.0		沈線	良起○次男樽(金)・・・	(馬)	(屋我)	良			蓋段[一段] 「き」高さ[0.1cm]
51	13号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV b	7.8 － 22.0			戚・・・／屋我里之子親雲上良道三男・・・／	(馬)	屋我	良			蓋段[一段] 「き」高さ[0.25cm]
52	13号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV b	－ － 26.0			・・・馬姓○田・親雲上○○○○馬○○娘思(武?)○○(滑?)／乾隆三十五年(庚寅)・九月○日死亡／同三十七年(壬辰)○月十二日洗骨	馬	(屋我)	良	1770	1772	蓋段[一段] 「き」高さ[0.1cm]
53	13号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV b	8.4 12.6 22.0			○○○○(同治・光緒くらい)丑十二月五日屋我里之子親雲上良道女真牛洗骨	(馬)	屋我	良			蓋段[一段] 「き」高さ[0.2cm]
54	13号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV b	5.2 － 20.0			[ふち]・・・○日死去						蓋段[一段] 「き」高さ[0.1cm]
55	13号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV c	－ － 25.0		沈線	・・・之／・○・屋(我)・・	(馬)	屋我	(良)			蓋段[二段]
56	13号墓	墓庭フク土	身	陶製有頸甕形	IV 3	31.0 － －		線彫・貼付	四代／・(屋我)良(美?)／・・夫人／屋我亀子／○○四年旧十(二月?)・・／○・・／[消されている]旧甲(戊?)・・／日○○子／十一日○／(同?)恵／亀子／大姉／	(馬)	屋我	良			窓庇[0.4cm] 内外両面に銘書有
57	13号墓	墓庭フク土	身	陶製有頸甕形	IV 4	22.0 30.2 10.0		線彫	"不鮮明"						外反タイプ。底孔6

連番	墓番号	出土地点	身・蓋	名称又は仮称	形式分類	法量	対No.	文様	銘書	氏	家名	名乗頭	西暦死去年	西暦洗骨年	備考
58	13号墓	墓庭フク土	身	陶製有頸甕形	IV 4	33.0 70.5 22.4	59	線彫	[内頸部]昭和・・・／昭和十三年(戊寅)旧八月十七日死／昭和十六年旧十二月廿七日／屋我良越／昭和十七年(壬午)・・・／〇〇享年七十二才／昭和十八年旧三月三日死／昭和十九年六月二十二日昭和十九年旧五月二日洗骨／妻屋我ツル／享年七十二才	(馬)	屋我	良	1938, 1943	1944	底孔15
59	13号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV	10.2 — 32.0	58		昭和十三年旧八月(十七日死)屋我良越／享年七十二才／昭和十六年旧十二月廿七日昭和十七年一月二十三日洗骨／昭和十八年旧(三月三日死)／妻(屋我ツル)／享年七・・才／昭和十九年(六)月廿二日昭和十九年旧五月二日洗骨	(馬)	屋我	良	1938, 1943	1942, 1944	蓋段[二段]
60	13号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV	— 5.3 18.0			・・・三才／(昭)和十〇年〇〇〇月〇日死亡／・・・戸〇〇／・・・和〇月〇日・・・〇／葬				1936 ～ 1944		
61	13号墓	墓庭フク土	身	火葬骨器		13.0 8.6 9.0			昭和〇三年五月五日没／〇次越国招／享年十五歳				1928～ 1988？		
62	14号墓	墓室	蓋	石製家形	I	40.0 26.5 66.0			乾隆十〇年／湧(川)(里之？)子洗骨／・・・・／・・・・／	(向)		朝		1746 ～ 1754	
63	14号墓	墓庭外フク土	蓋	陶製無頸甕形	III a	8.2 — 30.0			"不鮮明"読みとれず						つまみa 蓋段[一段]
64	14号墓	墓庭外フク土	蓋	陶製無頸甕形	III c	9.5 8.9 30.0			・・・〇大清乾隆三十五年庚寅八月七日去／同(三十七年)壬辰七月十二日・・・／				1770	(1772)	
65	14号墓	墓室	身	陶製無頸甕形	III	— — 21.0			(乾隆四十)八年癸(卯)八月十七日死朝隆室／〇〇戸／・・・洗骨	向	(湧川・泉水)	朝			底孔5
66	14号墓	墓庭外フク土	身	陶製無頸甕形	III	— — 22.0		線彫	〇〇親方〇(隆？)〇・・・						窓庇[0.6cm]③—1底孔2
67	14号墓	墓室	蓋	陶製有頸甕形	IV a	8.9 17.1 31.3			光緒十一年乙酉七月五日〇〇泉水里之子朝登室死／同十七年辛卯〇月二十八日洗骨	向	泉水	朝	1885	1891	蓋段[二段] 「き」高さ[1.5cm]
68	14号墓	墓室	蓋	陶製有頸甕形	IV a	7.5 12.0 24.6			(光)緒十八年(壬)辰十一月廿一日洗骨ス〇〇／〇〇〇加／・・〇朝昌母也・・・	(向)	(湧川・泉水)	朝		1892	蓋段[二段] 「き」高さ[0.5cm]
69	14号墓	墓室	蓋	陶製有頸甕形	IV b	11.4 13.3 31.0			大正(元)年旧子七月二十五日死去三〇・・・泉水山戸／大(正十三)年旧子十月〇日洗(骨)	(向)	泉水	(朝)	1912	(1924)	蓋段[二段] 「き」高さ[0.2cm]
70	14号墓	墓室	蓋	陶製有頸甕形	IV b	7.8 — 24.0			[ふち](大正)元年卯七月廿六日・・泉水山(戸)〇・・／・・・〇七月・・ [内面](大正)元年卯七月廿(六日)・・・／・・良・・・／	(向)	泉水	(朝)			蓋段[二段] 「き」高さ[0.2cm]
71	14号墓	墓室	蓋	陶製有頸甕形	IV b	— — 23.0	72		嘉慶十一年七月七日骨洗／朝文六(男)〇樽金	(向)		(朝)		1806	「き」高さ[0.45cm]
72	14号墓	墓室	身	陶製有頸甕形	IV 1	19.5 35.0 16.0	71		(朝)文六〇小樽(金)	(向)	(湧川・泉水)	(朝)			ポージャーに近い 底孔19
73	14号墓	墓室	蓋	陶製有頸甕形	IV b	10.5 — —			[内面](大正)元年旧七月廿六日・嫡子泉水松洗肉 [ふち]・・・廿六日／・・・泉水松洗肉	(向)	泉水	(朝)		(1912)	蓋段[三段] 「き」高さ[0.25cm]
74	14号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV b	— — 34.0			光緒十二年丙戌十月二十九日三男泉水里(之)子朝(苗)死(光緒十七)年辛卯十月十九日洗骨／朝苗長女・・・・	(向)	泉水	朝	1886	(1891)	蓋段[三段] 「き」高さ[0.2cm]

連番	墓番号	出土地点	身・蓋	名称又は仮称	形式分類	法量	対No.	文様	銘書	氏	家名	名乗頭	西暦死去年	西暦洗骨年	備考
75	14号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV b	－ － 30.0		沈線 (二重)	…○迪智○…／						蓋段[二段] 「き」高さ[0.2cm]
76	14号墓	墓庭外フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV b	9.1 － 28.0			嫡子屋(我？)○…／光緒…		屋我？				蓋段[一段] 「き」高さ[0.05cm]
77	14号墓	墓室	蓋	陶製有頸甕形	IV c	8.9 － －			昭和拾七年(ほんとは壬午)巳拾壱月○三日死去／仝拾壱年七月○四日旧拾月拾七(日)／仝拾壱月○五日旧拾月拾八日…／朝苗妻‥葬／	(向)	(湧川・泉水)	朝	1942		蓋段[一段]
78	14号墓	墓室	蓋	陶製有頸甕形	IV c	－ － 21.0			昭和拾六年(辛)巳五月拾六日旧四月廿七日死去／昭和拾七年(壬)午拾弐月弐拾○日旧拾月拾八日洗骨／…養子…三男…	(向)	(湧川・泉水)	(朝)	1941	1942	蓋段[一段]
79	14号墓	墓室	蓋	陶製有頸甕形	IV c	9.2 13.2 28.4		沈線	大正元年(壬子)旧七月廿六日次男泉水朝忠洗肉　[ふち]大正元年(壬子)旧七月廿六日次男泉水朝忠洗肉	(向)	泉水	朝		1912	蓋段[二段]
80	14号墓	墓室	身	陶製有頸甕形	IV 2	33.0 62.0 －		貼付	道光○年…／朝○…	(向)	(湧川・泉水)	(朝)		1821 ～ 1851	窓庇[0.4cm]③－2底孔5
81	14号墓	墓室	身	陶製有頸甕形	IV 3	32.0 65.5 23.0		線彫・貼付	…泉水里之子親雲上／	(向)	泉水	(朝)			窓庇[0.6cm]③－2底孔9
82	14号墓	墓室	身	陶製有頸甕形	IV 4	－ － 13.7		線彫	…朝…／	(向)	(湧川・泉水)	朝			
83	14号墓	墓室	蓋	陶製有頸甕形	IV	11.4 － －		段沈線	[内面]癸未二月廿五(日)…(泉水)朝要／大清道光三年癸未二月廿五日…(妻)真鶴／　[ふち]銘書同文有	(向)	(湧川・泉水)	朝		1823	蓋段[二段] 内面に(V)と線彫り有。
84	14号墓	墓室	身	壺		11.3 － －			嫡子…／朝…						転用
85	16号墓	墓庭フク土	蓋	陶製無頸甕形	III c	9.6 － 34.0			乾隆○十○年(○巳？)七月七日…洗骨ス／新垣筑(登之)／(嘉慶二年？)丁巳年…／新垣筑登之妻入加		新垣			1755 ～ 1796	蓋段[一段]
86	16号墓	墓庭フク土	蓋	陶製無頸甕形	III c	8.9 9.6 39.0			…○室／…○子真(加)戸						
87	16号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV b	9.9 16.3 29.0		沈線	道光二十三年(辛)卯十二月十九日／七男泉水里之子親雲上妻洗骨／‥‥六日七男○○里之子親雲上骨洗／名○	(向)	泉水	朝	1821 ～ 1841	1843	蓋段[二段] 「き」高さ[0.4cm]
88	17号墓	袖墓No.2フク土	蓋	陶製家形	II b	－ － 47.5		貼付	光緒拾九年壬辰(ほんとは癸巳)十月六日洗骨／次男吉川朝知子面々之(墓)‥／長男蒲戸次男亀五男‥／長男蒲戸／次男亀／三男○加○／四男蒲／五男○○／合五人		吉川	朝		1893	
89	17号墓	墓左垣フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV b	10.5 － 29.0			…吉川子朝知‥‥／		吉川	朝			蓋段[二段] 「き」高さ[0.1cm]
90	17号墓	袖墓No.2・3フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV b	－ 13.2 28.0			光(緒)二年丙子○月廿日死亡／光緒十三年(丁)亥○月…十八日洗(骨)／…○女真加戸				1876	1887	蓋段[二段] 「き」高さ[0.25cm]
91	17号墓	袖墓No.2フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV b	11.8 － 32.0		沈線	嘉慶十六年辛未○月廿三日四男／泉水里(之)子朝峯妻真○○洗骨／道光七年九月二日朝○○男泉水…／○○(真)(鍋？)…／道光(十一か二十三年)(辛？)卯十二月十八日朝峯四男泉水里(之)子親雲上洗骨	(向)	泉水	朝		1811	蓋段[一段] 「き」高さ[0.2cm] 3人入っている。 祖父母と孫？

連番	墓番号	出土地点	身・蓋	名称又は仮称	形式分類	法量	対No.	文様	銘書	氏	家名	名乗頭	西暦死去年	西暦洗骨年	備考
92	17号墓	柚墓No.2フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV c	－ － 24.0			･･･○巳年旧○月三日･･･／						蓋段[一段]
93	17号墓	墓室フク土蔵骨器No.2	蓋	鉢		15.0 11.4 31.0		沈線	･･･○○妻○ "不鮮明"						転用
94	18号墓	フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV b	－ － 33.0			同治三年(甲子)○月廿三日○････／同人妻･･･洗骨･･･／同治五年丙寅十二月十日洗骨嫡子泉水里之子親雲上朝貫･･･／････／同(光緒)二十一年乙未九月廿七日･･･／	(向)	泉水	朝		1864, 1866, 1895？	蓋段[二段] 「き」高さ[0.3cm]
95	18号墓	フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV b	8.2 － 22.0		沈線	咸豊････／･･月･･･／･･･(男？)泉水･･･／	(向)	泉水	(朝)		1851 ～ 1862	蓋段[一段] 「き」高さ[0.3cm]
96	18号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV b	11.6 16.0 32.0		肩部沈線(二重)	嘉慶二十年乙亥○○十一月五日泉水里之子女子真○(鶴？)／道光十二年壬辰七月七日次男泉水○里之子親雲上朝行洗骨同妻同治十年辛未七月八日洗骨／	(向)	泉水	(朝)	1815	1832, 1871	蓋段[一段] 「き」高さ[0.35cm] 内面に○の墨書有
97	18号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV b	8.5 13.7 22.0		沈線	･･･(洗)骨／ "不鮮明"読みとれず						蓋段[二段] 「き」高さ[0.3cm]
98	18号墓	フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV c	13.3 10.0 29.0		沈線	明治四拾参年(庚)戌旧五月廿三日死亡長男泉水加那	(向)	泉水	(朝)	1910		蓋段[一段]
99	18号墓	墓室フク土	身	陶製有頸甕形	IV	24.0 － －			･･･(死)亡泉水加那長男朝･･･	(向)	泉水	朝			
100	18号墓	墓室フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV	－ 6.4 22.0			(昭和)十五年(庚辰)旧十月一日･･･長男朝理／･死亡場所南洋／･ヤップ島チヤモロ○･･･／	(向)	泉水	朝	1940		
101	18号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV	10.4 11.7 27.4			昭和十九年十月二十日さる旧九月八日					1944	蓋段[一段]
102		19･20号墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV b	8.7 13.5 28.0			光緒○○年(○巳)三月○日死去同年七月十五日洗骨／死○者○／○四人共合骨／○○○朝規三女○○／光緒二十四年･･･(洗骨？)／○○○○月○八日洗骨／朝規○女カメ同年同月十一日死去同日洗骨			朝		1898	蓋段[二段] 「き」高さ[0.4cm] 4人合葬。
103		19･20号墓庭外フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV b	11.6 14.6 32.0			○○○年○卯十二月○日･･･／○○子○･･･／･･･親雲上						蓋段[二段] 「き」高さ[0.2cm]
104		19･20号墓庭外フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV b	9.7 12.4 29.0		沈線	明治三十八年○○○女思戸					1905	蓋段[二段] 「き」高さ[0.3cm]
105		19･20号墓庭外フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV c	－ 8.6 22.6	106		昭和七年三月十一日内間安永長女マサ子洗骨ス	毛	内間	安		1932	蓋段[二段]
106		19･20号墓庭外フク土	身	陶製有頸甕形	IV 4	22.0 － －	105	線彫	昭和七年三月十一日内間安永長女マサ子洗骨		内間	安		1932	
107		19･20号墓庭外フク土	蓋	陶製軒付甕形	V b	9.2 － 32.0		線彫･貼付	"不鮮明" ･･･九月･･･／･･･親雲上／						蓋段[一段] 「き」高さ[0.3cm]

連番	墓番号	出土地点	身・蓋	名称又は仮称	形式分類	法量	対No.	文様	銘書	氏	家名	名乗頭	西暦死去年	西暦洗骨年	備考
108	19号墓	フク土	蓋	陶製有頸褒形	IV c	7.0 9.2 22.0			[ふち]光緒二十三年丁酉安栄三女(洗骨)之 [内面]光緒二十(三)年／丁酉七月十二日／安栄三女思／亀洗骨之／明治卅八年／安栄四女瑞／乙卯(ほんとは巳)九月十七日／洗骨／○之／明治三十八年、安栄(一二三)？女、ウーヒ己卯(ほんとは乙酉)○九月、十七日洗骨○之			安		1897, 1905	
109	19号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸褒形	IV c	10.3 13.1 30.0			昭和十○年○月二日／○世内間安○○妻○･･･／	(毛)	内間	安		1935 ～ 1944	蓋段[二段]
110	19号墓	墓庭フク土	蓋	陶製軒付褒形	V b	10.3 15.0 29.0		線彫・貼付	大正十三年旧十二月十六日死去／○･･･女／○○○没年○○○○富○･･／大正十五年(丙寅)旧十一月廿七日洗骨･･／○･･･／				1924	1926	蓋段[一段]
111	20号墓	墓室	蓋	陶製有頸褒形	IV a	－ － 18.0			大湾三男･･･／･･･二拾七日･･･／	向	大湾				「き」高さ[0.75cm]
112	20号墓	墓室	蓋	陶製有頸褒形	IV b	7.7 － 30.0			･･･男大湾･･･／･･･洗骨	向	大湾				蓋段[二段] 「き」高さ[0.3cm]
113	20号墓	墓室	蓋	陶製有頸褒形	IV b	－ 7.2 15.0			朝義長男幼童朝輝行年五才／昭和十五年庚辰二月二十三日旧一月○十六日午後四時	向		朝	1940		「き」高さ[0.1cm]
114	20号墓	墓室	蓋	陶製有頸褒形	IV b	9.6 － 31.0		沈線	(大)湾里之子親雲上朝房／道光･･･／･･･嫡･･･／･･･廿･･･／	向		朝		1821 ～ 1851	蓋段[一段] 「き」高さ[0.2cm]
115	20号墓	墓室	蓋	陶製有頸褒形	IV b	－ － 22.0		沈線	向有臨大湾里之子親雲上朝平娘真牛(嘉慶)十四年己巳七月○日洗骨／	向	大湾	朝		(1809)	蓋段[二段] 「き」高さ[0.3cm]
116	20号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸褒形	IV b	10.6 17.0 34.0			光緒八年壬午十月十八日十四世嫡子大湾里之子朝睦忌日同十四年戊子十月二十二日洗骨･･具志川間切安慶(名)･境内･の本墓江安葬／光緒十九年癸巳七月十五日忌日同廿年○○甲午三月○○･･･○洗骨	向	大湾	朝	1882, 1893	1888, 1894	蓋段[二段] 「き」高さ[0.3cm] ※No.127同文有
117	20号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸褒形	IV b	11.6 16.0 33.0			光緒三十三年丁未三月十三日十五世朝規室ウト死去(･･)仝三十四年戊申四月十八日洗骨／仝人／宣統四年壬子十二月十三日本墓へ轉骨ス／昭和十一年(丙)子旧十一月十八日合葬／十五世朝規(向克勤)童名三良大正六年丁巳旧正月二十一日死亡／昭和四年(己)巳十月十二日洗骨	向	(大湾)	朝	1907, 1917	1908, 1929	蓋段[二段] 「き」高さ[0.3cm]
118	20号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸褒形	IV b	7.5 11.9 23.0			光緒五年己卯正月六日十五世朝規嫡子樽金忌日同七年庚辰(ほんとは辛巳)六月四日洗骨／･･･真鶴三十一日／同十二年丙戌弐月十五日／同次男真三良戊子同十四年･･･／･･･六○･･･六月･･･(洗骨)･･･○･･･	(向)		朝	1879	1881, 1888	蓋段[二段] 「き」高さ[0.2cm]
119	20号墓	墓室	蓋	陶製有頸褒形	IV c	11.7 12.4 28.6			十五世朝規三女ツル光緒二十四年閏三月二日死去同･･／朝規二女カメ光緒二十四年三月十一日死去同･･／朝規三男思亀光緒十九年(癸)巳三月二十四日死去同････／･死産者女／但四人共合骨／	向			1898, 1893		蓋段[二段]
120	20号墓	墓室	蓋	陶製有頸褒形	IV c	－ － 36.0			十四世朝忠叔母童名真嘉(戸)／(光緒)○年○未二月十○日･･･／･･･筑登之親雲上	向		朝			

連番	墓番号	出土地点	身・蓋	名称又は仮称	形式分類	法量	対No.	文様	銘書	氏	家名	名乗頭	西暦死去年	西暦洗骨年	備考
121	20号墓	墓室	蓋	陶製有頸甕形	IV c	11.0 14.5 30.0			嫡子大湾里之子親雲上朝昌／同治十二年癸酉十二月・・・／・・・○月十二日洗骨寿兵良昌／同日同人室真鍋忌日／同十四年(光緒)戊子十月○日洗骨／	(向)	大湾	朝		(1888)	蓋段[二段]
122	20号墓	墓室	蓋	陶製有頸甕形	IV c	－ 7.0 18.0			朝正二男幼童／故・・・行年一才昭和十四年(己卯)十一月○日／旧十月十七日	(向)		朝	1939		
123	20号墓	墓室	身	陶製有頸甕形	IV 3	22.0 55.0 21.6		線彫・貼付	嫡子向有績大湾里之子親雲上朝房／	向	大湾	朝			窓庇[0.3cm]③－2底孔6
124	20号墓	墓室	蓋	陶製有頸甕形	IV	10.7 11.8 26.0			十六世朝幸長女トミ〈童名〉・・・／大正十五年(丙寅)五月十日死亡昭和十一年(丙)子十一月二八日洗骨本葬	向		朝	1926	1936	蓋段[一段]
125	20号墓	墓室	蓋	陶製有頸甕形	IV	11.9 12.1 30.4			十六世 朝幸妻十七世 朝光 母ナベ〈伊集朝典妹〉／昭和四年(己巳 旧十月十一日死亡／昭和十一年(丙)子 旧十一月十八日洗骨／	向		朝	1929	1936	蓋段[二段]
126	20号墓	墓室	蓋	陶製有頸甕形	IV	12.3 － 32.0		沈線	・・○○○／光緒八年壬午・・・○○世嫡子大湾里之子朝○・・・(死亡)／同十四年戊(子)・・・(童)名・・(洗骨)／・・安・・・／光緒十九年癸巳七月十五日忌日同(二十年)甲午三月十日洗(骨)／光緒・・・・十三日合(葬)	(向)	大湾	朝	1882 1893	1888, 1894	蓋段[二段]
127	20号墓	墓室	身	陶製有頸甕形	IV	24.0 － －			"不鮮明"						内面にスタンプ印有
128	20号墓	墓室	蓋	陶製有頸甕形	IV	－ － 29.0			(十一)世向廸智大湾里之子・・・／・・・娘賀数筑登之親雲上／同治十一年壬申八月十六日卒／同治十二年癸酉十(二)月十五日洗骨／	向	大湾		1872	1873	第4表の82図8と銘書同文。
129	20号墓	墓室	蓋	陶製軒付甕形	V b	－ － －		線彫・貼付	・・・・戊申四・・／・・○年子旧○月十八日・・・／・・・・朝規(向克勤？)／四年巳十月十二・・・／・・・世・朝規室ウト○去／宣統四年壬子十二・・三日○墓へ轉？骨ス／・・・良大正六年・巳旧正月二十一日死亡／・・・○三・・・／昭和・・・・・	(向)		朝	1917		
130	20号墓	墓室	蓋	陶製軒付甕形	V b	9.6 14.7 30.0		線彫・貼付	大湾朝亮四子十一世小宗○廸朝利童名朝隆真亀／嘉慶七年(壬戌)・・・○月十七日卒享年五十一才／	向	大湾	朝	1802		蓋段[一段] 上部に穴5
131	20号墓	墓室	身	壺		14.5 － －			朝義次女米子享年一才昭和二十一年五月十七日死亡／一九四七年八月二十五日旧七月十日納骨	(向)		朝	1946	1947	転用
132	20号墓	墓室	蓋	素焼蓋		4.4 － －			・・・○／・・・(里)之子／・・・鍋／朝・・・／・・・月十八(日)・・・／汝○・・・	(向)		朝			転用
133	21号墓	墓室	蓋	陶製有頸甕形	IV b	10.2 13.5 30.0			光緒○年○月二十三日○・・・／・・・妻ツル洗骨／(光緒十)四年戊子四月二十三日良通妻ツル洗骨／大清・・・	祖	(祖慶)	良		(1888)	蓋段[二段] 「き」高さ[0.1cm]
134	21号墓	墓室	蓋	陶製有頸甕形	IV b	－ － 17.0			光緒廿一年(乙未)・・・(光緒廿六年)庚子・・・(洗骨)祖慶良通(○女)真牛	祖	祖慶	良		(1900)	「き」高さ[0.35cm]
135	21号墓	墓室	蓋	陶製有頸甕形	IV c	－ 6.6 19.0			"不鮮明" ・・・○年・・・／・・・○○						蓋段[一段]
136	21号墓	墓室	蓋	陶製有頸甕形	IV c	9.2 － 28.0			大正七年・・十一月十・・日(戊午)旧十一月○日・・・洗骨ス／	(祖)				1918	蓋段[三段]

連番	墓番号	出土地点	身・蓋	名称又は仮称	形式分類	法量	対No	文様	銘書	氏	家名	名乗頭	西暦死去年	西暦洗骨年	備考
137	21号墓	墓室	身	陶製有頭甕形	IV 4	30.0 － －		線彫	…三男…／…(良)通…	(祖)					窓庇[0.3cm]
138	21号墓	墓室	身	陶製有頭甕形	IV 4	22.0 － －		線彫	光緒十四年戊子四月二十三日…女子ツル洗骨	(祖)				1888	
139	21号墓	墓室	蓋	陶製有頭甕形	IV	－ 10.3 22.0			大清光緒十四年戊子四月二十三日三男／…(嫡)子良通女子真鶴洗骨／(大清光緒)十四年(戊子)二十三日三男‥／(同文つづく)	(祖)	(祖慶)	良		1888	蓋段[二段] 段の部分に複数穴有
140	22号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頭甕形	IV b	－ － 30.0			…○月十三日死○…						「き」高さ[0.1cm]
141		25・26号墓庭フク土	蓋	陶製有頭甕形	IV b	－ － 28.0			…三男上間里之子安揚喜筑(登之)…		上間				蓋段[三段] 「き」高さ[0.3cm]
142		25・26号墓庭フク土	身	陶製有頭甕形	IV 4	28.0 52.4 22.0		線彫・波状圏線	咸豊拾一年辛酉四月‥‥／五代上間親(雲上)		上間			1861	窓庇④ 底孔5
143		25・26号墓庭フク土	身	壺		17.8 － －			○○…／五日○…／久米島…／○○○年丁○八月…／○○						転用
144		25・26号墓庭フク土	身	陶製有頭甕形	IV 3	26.5 51.4 19.8	145	線彫・貼付	鳴袋○○…／		鳴袋				窓庇[0.4cm] ③－1底孔5
145		25～27号墓庭フク土	蓋	陶製有頭甕形	IV a	－ － 26.0	144		道光十五年乙未五月十一日(嫡子?)／鳴袋○○○…		鳴袋			1835	「き」高さ[0.7cm]
146	25号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頭甕形	IV a	8.7 12.4 27.0			嘉慶弐拾年乙亥十一月十四日死去／○○・妻／嘉慶…(洗骨)／				1815		蓋段[一段] 「き」高さ[0.65cm]
147	25号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頭甕形	IV b	－ － 17.0			光緒二十・○月廿二日洗骨／○…					1894 ～ 1903	蓋段[二段] 「き」高さ[0.2cm]
148	25号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頭甕形	IV b	－ － 18.0			光緒二十(九)年(癸)卯八月十七日／嫡子○子洗骨○○／					(1903)	蓋段[一段] 「き」高さ[0.3cm]
149	25号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頭甕形	IV c	－ 5.1 17.0			死亡年昭和六年五月九日／城間松洗骨の年昭和九年旧十二月十日		城間		1931	1934	
150	25号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頭甕形	IV c	9.5 － 28.0			昭和八年旧十二月十日死亡／昭和十六年(辛巳)旧十二月十日洗骨／城間太良		城間		1933	1941	
151	26号墓	墓室	身	陶製無頭甕形	III 1	27.7 51.0 23.0			"不鮮明"						窯印[十] 窓庇[0.5cm] ③－1底孔4
152	26号墓	墓室	蓋	陶製無頭甕形	III	－ － 30.0			…真○死同○○○○日…(移では?)／‥‥‥／(北)前ヨリ大正…						
153	26号墓	墓室	蓋	陶製有頭甕形	IV	10.8 － －			○同人‥‥‥男光‥						
154	26号墓	墓室	蓋	陶製有頭甕形	V	－ － 26.0		線彫	光緒…／…年／…六月／…洗／…○城間／…○○○／					1875 ～ 1909	「き」高さ[0.4cm]
155	27号墓	墓室安置歳骨器No.1	蓋	陶製有頭甕形	IV b	9.7 18.2 30.6			同治七年(戊)辰閏四月十一日洗(骨)／					1868	蓋段[二段] 「き」高さ[0.25cm]
156	27号墓	墓室安置歳骨器	蓋	陶製有頭甕形	IV b	－ － 28.0			咸豊九年(己)未五月十八日死うし／鳴袋(夏?)林了勇信士／同治四年…(洗)骨／光緒(三十年)辰七月七日洗骨濟鳴袋牛女		鳴袋		1859	1865	蓋段[二段] 「き」高さ[0.2cm]
157	29号墓	墓室フク土	蓋	陶製有頭甕形	IV a	－ － 29.0			‥三代小波津親雲上(嘉慶十四年?)己巳十二月十九日死亡…／…○唐名名東○／		小波津		(1809)		「き」高さ[0.6cm]

連番	墓番号	出土地点	身・蓋	名称又は仮称	形式分類	法量	対No.	文様	銘書	氏	家名	名乗頭	西暦死去年	西暦洗骨年	備考
158	29号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV b	10.7 － 28.8		沈線	道光十三年甲巳(ほんとは癸巳)十二月四日嫡子由宇江城○○○安恒／死去同弐拾六年丙午洗骨	毛		安	1833	1846	蓋段[一段] 「き」高さ[0.2cm]
159	31号墓	屋根フク土	蓋	擂鉢		11.3 13.5 31.0			"不鮮明"						転用。
160		37・38号墓間フク土	蓋	陶製無頸甕形	III b	－ 11.3 31.0		櫛描	松田筑(登之)・・・		松田				つまみb
161		37・38号墓間フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV b	－ － 28.0			光緒拾三年丁亥七月六日洗骨／平良筑登之親雲上實母		平良			1887	蓋段[一段] 「き」高さ[0.3cm]
162	37号墓	墓庭蔵骨器集積	蓋	陶製家形	II	－ － 40.7		貼付	・・・死亡諸見里カマド／旧明治二十三年庚(寅)六月二十九？日／		諸見里				
163	37号墓	墓庭蔵骨器集積	蓋	陶製無頸甕形	III c	8.5 6.0 21.6			○晟○平良○女子真加戸		平良				
164	37号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV a	－ － 30.5		沈線 (二重)	道光・・・筑登之女子名思？晟員平良親雲上次男○妻？		平良	晟	1821 ～ 1851		「き」高さ[0.5cm]
165	37号墓	墓庭蔵骨器集積	蓋	陶製有頸甕形	IV a	11.9 － 32.0		沈線 (二重)	嘉慶十年乙丑八月十七日洗骨／長堂筑登之母並び長堂親雲上二男牛		長堂			1805	蓋段[二段] 「き」高さ[0.85cm]
166	37号墓	墓庭蔵骨器集積	蓋	陶製有頸甕形	IV b	9.1 11.0 23.0			晟致四男○子○亀			晟			蓋段[一段] 「き」高さ[0.15cm]
167	37号墓	墓庭蔵骨器集積	蓋	陶製有頸甕形	IV b	10.5 14.0 28.0			平良筑登之親雲上嫡子真三良歳十七／(同治十二年庚)酉十二月廿七日死／光緒三年(丁丑)正月廿六日洗骨／[※同文消された文字有](光緒三年丑)		平良		(1873)	1877	蓋段[二段] 「き」高さ[0.25cm]
168	37号墓	墓庭蔵骨器集積	蓋	陶製有頸甕形	IV c	9.4 10.6 28.3			昭和拾五年(庚)辰三月九日晟寛妻平良ウト洗骨ス	新翼	平良	晟		1940	蓋段[二段]
169	37号墓	墓庭蔵骨器集積	身	陶製有頸甕形	IV 4	27.0 52.8 18.0		線彫	(昭和)十五年(庚)辰三月九日晟寛妻			晟		(1940)	窓庇⑤ 底孔6
170	37号墓	墓庭蔵骨器集積	蓋	陶製有頸甕形	IV c	8.8 17.7 30.0			同治七年戊辰九月五日平良(筑登之)親雲上女子真○へ洗骨		平良			1868	蓋段[二段]
171	37号墓	墓庭蔵骨器集積	蓋	陶製有頸甕形	IV c	－ － 14.0			昭和五年庚午旧五月二十六日洗骨ス晟寛／長女オト		平良	晟		1930	
172	37号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV	7.8 7.4 20.0			[ふち](昭和)・・・月九日晟寛妻四男平良太郎洗骨ス／　[内面]四男	新翼	平良	晟			蓋段[一段]
173	37号墓	墓庭蔵骨器集積	蓋	陶製有頸甕形	IV	9.7 13.5 26.0			大清光緒十八年壬辰晟珍平良親雲上嫡子平良子(→里之子？)妻四月十一日死／同十九年癸巳二月○六日洗骨／[小さい字]光緒○年二月十七日死去／○○○年○月○日／旧十一月十三日洗骨／翼氏平良晟戸長女カマト	新翼	平良	晟	1892	1893	蓋段[一段]
174	37号墓	墓庭蔵骨器集積	蓋	陶製有頸甕形	IV	9.5 － 24.0			平良晟友女子ツル昭和五年庚午五月弐拾六日洗骨ス		平良	晟		1930	蓋段[一段]
175	37号墓	墓庭蔵骨器集積	蓋	蓋		－ － 35.0			[内面]○(大正？)(十年)○月○日・・・／平良次良　[ふち]不鮮明		平良				転用。
176		38・39号墓間フク土	蓋	陶製無頸甕形	III b	8.6 10.2 31.0		沈線/線彫 (波線)	○○松田筑登之親雲上○○○○○○洗骨／○同(嘉慶七年？)壬戌八月廿七日・・・／同筑登之親雲上祖父		松田				つまみb 蓋段[一段]

連番	墓番号	出土地点	身・蓋	名称又は仮称	形式分類	法量	対No.	文様	銘書	氏	家名	名乗頭	西暦死去年	西暦洗骨年	備考
177		38・39号墓間フク土	蓋	陶製無頸甕形	III b	10.5 — 30.0		沈線(二重)	"不鮮明" ・・・・/・・・七月○日/○○○						つまみb
178		38・39号墓間フク土	蓋	陶製無頸甕形	III	— — 25.0			[内面]・・・○○/ [外面]・・(亀?)/						内外面に銘書有。
179		38・39号墓間フク土	蓋	鉢		12.4 14.7 32.0			不知父/高江洲○○/中頭郡具志川村字高江洲ヨリ御(移)○・・・/						転用
180		38・46号墓間フク土	蓋	陶製無頸甕形	III c	8.7 9.0 30.0			"不鮮明"読めず						
181	38号墓	墓室フク土	蓋	陶製無頸甕形	III b	— — 28.0			"不鮮明" ○○○/○姉/						つまみb
182	38号墓	墓庭フク土	蓋	陶製無頸甕形	III b	— 9.5 33.0		線彫(櫛描・波線)	(乾隆)拾六年辛未(○月○)日野里里之(子親霊上)○○死(去)同二・・・(年)七月○日洗骨/嫡子・・・/				1751	1755	つまみb
183	38号墓	墓庭フク土	蓋	陶製無頸甕形	III	— — 27.0			多?○○○○○/子○○○○/						
184	38号墓	墓庭フク土	蓋	陶製無頸甕形	III	— 9.8 31.5			"不鮮明" ・・・多戸○/妻/						
185	38号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV b	9.7 16.6 33.0			咸豊二年(壬)子二月十三日洗骨/同治六年(丁卯)十二月○日新垣・・・	(毛)	新垣			1852	蓋段[三段] 「き」高さ[0.2cm] 「十一と墨書有り」窯印か
186	38号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV b	10.4 — 26.0		沈線(二重)	"不鮮明" ・・・(乗?)○○新(垣)・・						蓋段[一段] 「き」高さ[0.4cm]
187	38号墓	墓室フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV c	— — —			・・・拾一日○○号・・・						蓋段[一段]
188	38号墓	墓室フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV	9.5 — —			光緒○年○月十四日死亡/同十四年二月朔日洗骨/昭和十一年旧十一月十八日本葬				1875 ~ 1888	1888	蓋段[二段]
189		39・40・50号墓前方フク土	蓋	陶製無頸甕形	III b	— 11.4 33.0			乾隆二十六年/辛巳九月五日/思戸					1761	つまみb
190		39・40・50号墓前方フク土	蓋	陶製無頸甕形	III c	11.2 9.1 32.1			"不鮮明" ・・・・/妻・・・・/						蓋段[一段]
191	39号墓	墓室フク土	蓋	陶製無頸甕形	III c	— 7.3 29.0			乾隆三十九年(甲午)七月八日洗(骨)/○○○同人/嫡子亀/骨入加/(乾隆三)十二(年)丁亥・・/○・・/・・ニテ○・○○/○也					1774	蓋段[一段]
192	42号墓	墓庭外フク土	身	陶製無頸甕形	III	22.0 — 22.0			乾隆四拾四年己亥○月拾○日(洗骨)/○○○也/					1779	底孔3
193	42号墓	墓室フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV b	11.6 — 35.2		沈線	明治四拾○年/○○/旧三月十四日洗骨吉川宣文長男妻真○・・・	(毛)	吉川	宣		1907 ~ 1912	蓋段[二段] 「き」高さ[0.1cm]
194	42号墓	墓室フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV b	9.2 — 24.8	195		吉川文宣?/(室)満津(子?)/毛氏(同○)六(年)○辰(ほんとは丁卯)十月○一日卒	毛	吉川				蓋段[二段] 「き」高さ[0.3cm]
195	42号墓	墓室フク土	身	陶製有頸甕形	IV 4	26.0 — —	194	線彫	[正面]吉川文宣室 [内面]吉川文宣室/満津(子?)/毛氏(同治)六(年)辰十月有一日卒	毛	吉川	文	1867		窓底[0.4cm]
196	42号墓	墓室フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV c	9.1 13.5 29.7			[内側]昭和十六辛酉年洗骨吉川興仁妻マツル [外側]真思嘉慶(十九)年甲戌七月○日洗骨	(毛)	吉川	興		1814, 1941	

連番	墓番号	出土地点	身・蓋	名称又は仮称	形式分類	法量	対No.	文様	銘書	氏	家名	名乗頭	西暦死去年	西暦洗骨年	備考
197	42号墓	墓室フク土	身	陶製有頸甕形	IV 3	28.0 － －		線彫・貼付	八世以德二女真鶴／光緒十年甲申九月十有三日卒	(毛)			1884		底孔8
198	42号墓	墓室フク土	身	陶製有頸甕形	IV 4	31.0 － －		線彫・波状圏線	○○…○○…妻マツル	(毛)					内頸部に丸いスタンプ有
199	42号墓	墓室フク土	身	陶製有頸甕形	IV 4	38.0 － －		線彫・波状圏線	明治四拾○年三月十○日洗骨 吉川○○(妻？)真牛合葬／長男／(梁？)氏真牛	(毛)	吉川			1908 ～ 1912	
200	42号墓	墓室フク土	身	陶製有頸甕形	IV 4	28.0 57.8 19.0		線彫	昭和十六辛巳年洗骨吉川興仁？三女(モ)ウシ	(毛)	吉川	興		1941	窓庇[0.2cm]④ 底孔10
201	42号墓	墓室フク土	身	陶製有頸甕形	IV 4	30.0 － 19.0		線彫・波状圏線	[胴]○○年旧七(月)三日○／…妻マツル [つら]吉川興仁洗骨 [口縁]…旧七月廿日吉川興仁洗骨	(毛)	吉川	興			窓庇[0.2cm]④ 三脚。底孔6。内頸部に墨書で印有。
202	42号墓	墓室フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV	9.4 － 30.0			昭和十六辛巳年洗骨吉川興仁○…	毛	吉川	興		1941	蓋段[二段]
203	43号墓	墓室フク土	蓋	陶製無頸甕形	III	－ － 26.0			…松田○筑(登之)‥／…○月十四日死(去)	(毛)	松田				
204	43号墓	墓庭フク土	蓋	陶製無頸甕形	III	－ － 29.6			多戸新○／親父						
205	44号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV b	－ － 31.0		沈線	"不鮮明"読めず						蓋段[三段] 「き」高さ[0.35cm]
206	45号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV c	－ － 28.0			一九四年(一九○四では？)旧六月						蓋段[二段]
207	46号墓	墓室フク土	蓋	陶製無頸甕形	III	－ － 30.0			"不鮮明" …六月…						
208	46号墓	左垣蔵骨器集積	蓋	陶製有頸甕形	IV a	10.0 11.0 27.0			新里筑登之親雲上		新里				蓋段[一段] 「き」高さ[0.8cm]
209	46号墓	フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV b	－ － 30.0			(道光二)十七年丁未三月二十九日洗骨					(1847)	「き」高さ[0.35cm]
210	49号墓	墓室フク土	蓋	陶製無頸甕形	III	－ － 29.0			…七年…						
211	51号墓	墓室安置蔵骨器No.1	蓋	陶製有頸甕形	IV b	9.7 16.7 28.0		沈線(二重)	"不鮮明" 嘉慶？……○○母						蓋段[二段] 「き」高さ[0.3cm]

第7表　E地区ミガチ（銘書）のある蔵骨器観察一覧

法量　上：上部径　中：器高　下：下部径（cm）

連番	墓番号	出土地点	身・蓋	名称又は仮称	形式分類	法量	対No.	文様	銘書	氏	家名	名乗頭	西暦死去年	西暦洗骨年	備考
1	01号墓	墓室フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV c	7.0 8.8 21.0			昭和十三年享年○○(子供)／○月二十一日洗骨安祥四男安信之洗骨			安		1938	蓋段[一段]
2	03号墓	墓庭外蔵骨器集積	蓋	陶製無頸甕形	III	10.0 8.0 30.4			"不鮮明"　○○筑登之・・・						
3	03号墓	墓庭外蔵骨器集積	蓋	陶製無頸甕形	III	－ － 28.0			"不鮮明"						
4	05号墓	墓室蔵骨器No.5	蓋	陶製家形	II	－ 42.5 47.0	5	貼付	號貞室妙順／室マツル明治参拾参年庚子五月十○日旧四月十七日洗骨／號仲嶽院／顧國柱久志助法明治四十参年庚戌十壱月貳十貳日洗骨／	顧	久志	助		1900, 1910	獅子付
5	05号墓	墓室蔵骨器No.5	身	陶製家形	II	46.0 44.0 36.0	4	貼付	顧國柱久志助法號仲嶽院(顧國柱久志)／助法／室マツル號貞室(妙)順	顧	久志	助			底孔4
6	05号墓	墓庭フク土	蓋	陶製無頸甕形	III	10.0 11.0 33.0			・・・八月・・・／○栄・・・／						
7	05号墓	墓室フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV b	9.0 14.8 27.8	8		顧国柱久志里之子親雲上嫡子顧鳴盛／(ヨコに)助敦／光緒十一年乙酉二月二十七日洗骨／	顧	久志	助		1885	蓋段[三段] 「き」高さ[0.35cm]
8	05号墓	墓室蔵骨器No.3	身	陶製有頸甕形	IV 4	28.0 54.5 20.0	7	線彫	顧国柱久志里之子親雲上嫡子顧鳴盛／光緒十一年乙酉二月二十七日洗骨	顧	久志			1885	窓庇[0.3cm]④ 底孔8
9	05号墓	墓室蔵骨器	蓋	陶製有頸甕形	IV b	7.5 － 22.0	10		同治二年／癸亥二月／廿一日洗骨／顧国柱翁長里之子★次男真蒲戸三男松金、(久志助法事→★)、※矢印は★のところに向いている	顧	翁長			1863	蓋段[三段] 「き」高さ[0.1cm]
10	05号墓	墓室蔵骨器No.6	身	陶製有頸甕形	IV 4	23.0 41.0 17.0	9	線彫・波状圏線	国柱次男真蒲戸／三男松金／	顧					窓庇[0.3cm]④ 底孔22
11	05号墓	墓室蔵骨器No.8	身	陶製有頸甕形	IV 4	22.5 41.5 16.0		線彫	顧鳴治久志子(＝里之子)長男思加那／光緒十五年己丑十一月十八日洗骨	顧	久志			1889	窓庇[0.4cm]④ 底孔8
12	05号墓	墓室フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV	8.0 11.0 21.2			同治拾年辛未二月六日洗骨顧国柱翁長里之子親雲上助○女真鶴洗骨	顧	翁長	助		1871	蓋段[一段]
13	07号墓	墓庭外フク土	蓋	陶製家形	II	－ － －		線彫・貼付	・・・○年○九月・・・						ひさし付。獅子付。
14	11号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV	－ － 29.6			一九四七年丁亥一月(廿)二十九日逝去／新城敏子享年二十三才		新城		1947		
15	12号墓	墓庭フク土	蓋	陶製無頸甕形	III a	－ 12.0 30.4			"不鮮明"○○○○・・・						つまみa
16	12号墓	墓庭フク土	蓋	陶製無頸甕形	III b	－ 10.0 34.0			・・・・・十七日洗骨						つまみb
17	12号墓	墓庭フク土	蓋	陶製無頸甕形	III b	－ － －		櫛描文	"不鮮明"・・・○・・						つまみb
18	12号墓	墓庭フク土	身	陶製無頸甕形	III 1	33.0 46.7 22.0			・・・(親雲上)安○○○／・・・六月○日死亡／・・・○○／十月三日洗骨						窯印[二] 底孔13
19	12号墓	墓庭フク土	身	陶製無頸甕形	III 1	23.0 49.0 20.0			・・月八日○／・・・八月・・・						底孔9
20	12号墓	墓庭フク土	蓋	陶製無頸甕形	III	－ － 34.0			乾隆三十二年・・・					1767	

連番	墓番号	出土地点	身・蓋	名称又は仮称	形式分類	法量	対No.	文様	銘書	氏	家名	名乗頭	西暦死去年	西暦洗骨年	備考
21	12号墓	墓庭フク土	蓋	陶製無頸甕形	III	－ － 31.6		線彫	…丁(寅？)閏七○…／・○○・・						
22	12号墓	墓庭フク土	身	陶製無頸甕形	III	－ － 19.0			○○拾弐年…／…／						底孔5
23	12号墓	墓庭フク土	身	陶製無頸甕形	III	－ － 25.6			…十月十三日洗骨嫡子／○…／						底孔5
24	12号墓	墓庭外フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV a	13.2 11.0 32.0			[ふち]○○拾年乙亥九月二日新(城？)親雲上○○○洗(骨)…						蓋段[一段] 「き」高さ[0.7cm]
25	12号墓	墓庭外フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV c	－ － 22.6			"不鮮明"・・○○…○・						
26	13号墓	墓庭左側掘込	身	陶製家形	II	45.0 42.0 －			・・○○・・／・・○○七月○						
27	13号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV a	12.0 17.8 30.0	28	沈線	毛邦傑新城里之子安郁／嘉慶十三年(戊)辰五月八日死享年三十号智勇／嘉慶十六年未／二月廿七日洗骨	毛	新城	安	1808	1811	蓋段[三段] 「き」高さ[0.7cm]
28	13号墓	墓庭フク土	身	陶製有頸甕形	IV 3	30.0 － －	27	線彫・貼付	○新城里之子／嘉慶十三年…(戊辰)／年三十号智勇 [内頸部]毛邦傑新城里之子…○智勇嘉慶(十三年戊辰)…二月二十七日洗骨	毛	新城				
29	13号墓	墓庭外表採	蓋	陶製有頸甕形	IV a	－ － －			…洗骨／…○○○／…						「き」高さ[0.5cm]
30	13号墓	墓庭左側掘込	蓋	陶製有頸甕形	IV a	－ － －			…洗骨／……八年○午七月／…親雲上／…／						「き」高さ[0.5cm]
31	13号墓	右垣フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV b	10.7 15.2 29.5			十二世新城(朝)親雲上／安保次女真○／咸豊(元)年辛亥十月四日夭亡／同治(四)年乙丑十一月廿八日洗骨／		新城	安	(1851)	(1865)	「き」高さ[0.3cm]
32	13号墓	墓庭左側掘込	蓋	陶製有頸甕形	IV b	－ － 29.0			…三日死去同…／……合骨						「き」高さ[0.25cm]
33	13号墓	墓庭左側掘込	蓋	陶製有頸甕形	IV b	－ － 30.0			道光十八……／御洗(骨？)・・					1838	「き」高さ[0.2cm]
34	13号墓	墓庭左側掘込	蓋	陶製有頸甕形	IV b	－ － 22.0			…○／十世秋潤徳…／	秋					「き」高さ[0.2cm]
35	13号墓	墓庭左側掘込	蓋	陶製有頸甕形	IV b	9.5 15.0 30.8			[内面、横書き]○光緒二年丙子…三日洗骨／田崎親雲上朝○次女(真加)戸／		田崎	朝		1876	蓋段[二段] 「き」高さ[0.1cm]
36	13号墓	墓庭左側掘込蔵骨器	蓋	陶製有頸甕形	IV b	－ － 24.0			光緒二十五年己亥十一月…／…十二月廿日…／					1899	「き」高さ[0.1cm]
37	13号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV c	8.9 8.6 24.0			…拾弐月弐拾五日洗骨						蓋段[二段]
38	13号墓	墓庭左側掘込	蓋	陶製有頸甕形	IV c	10.5 10.0 29.0			大正九年／六月(弐？)○…					1920	蓋段[一段]
39	13号墓	墓庭左側掘込	蓋	陶製有頸甕形	IV c	－ － －			大正九年(庚申)五月…／…五代○臣室…／昭和八年旧三(月)…／						
40	13号墓	墓庭左側掘込	蓋	陶製有頸甕形	IV c	－ － －			[ふち](二？)女○……／ [内面]…朝…／昭和八年(癸酉)…／…英長…					1933	蓋段[一段]

連番	墓番号	出土地点	身・蓋	名称又は仮称	形式分類	法量	対No.	文様	銘書	氏	家名	名乗頭	西暦死去年	西暦洗骨年	備考
41	13号墓	墓庭左側掘込	蓋	陶製有頸甕形	IV c	7.8 13.0 25.6			[消された銘書]二代朝臣四女ムウシ／大正八年(己未)二月拾○日洗骨／旧正月拾○日・／ [内面]昭和十九年九月二十四日朝真継室真牛／ [ふち]昭和拾九年九月貳拾四日洗骨／			朝		1919, 1944	蓋段[二段]
42	13号墓	墓庭左側掘込	蓋	陶製有頸甕形	IV c	9.3 15.0 28.5			五代(田)崎朝(直か真)・・・		(田)崎	朝			
43	13号墓	墓庭左側掘込	蓋	陶製有頸甕形	IV c	9.6 9.0 23.5			昭和十七年二月八日／長男柴健／二女ミツ子／・・・十二月二十二日洗骨	(秋)		柴		1942	
44	13号墓	墓庭左側掘込 蔵骨器No.7	蓋	陶製有頸甕形	IV c	6.9 11.5 23.0	45		柴康参男柴覧／昭和拾年(乙亥)旧五月拾参日洗骨／	(秋)		柴		1935	蓋段[二段]
45	13号墓	墓庭左側掘込 蔵骨器No.7	身	陶製有頸甕形	IV 4	21.4 35.1 13.4	44	線彫	[内頸部]洗骨昭和拾年旧五月拾参日／死亡之時昭和七年旧六月廿七日／柴康三男柴覧	(秋)		柴	1932	1935	窓庇④。底孔14
46	13号墓	墓庭左側掘込 蔵骨器No.8	蓋	陶製有頸甕形	IV c	10.0 12.4 26.0			[消された銘書]明治四十○年・・旧・・・・／[内面]・・・○○○○卅○／マカト○・・・／					1908 ～ 1912	蓋段[一段]
47	13号墓	墓庭左側掘込 蔵骨器No.12	蓋	陶製有頸甕形	IV c	10.8 13.0 27.0		沈線	[内面 消された銘書]・・・年○○六月八日死亡／柴○記／・・・年○月○日死○○／柴安／ [縁]・・・／・・・日死亡○年・・・／○○○年・・・			柴			蓋段[一段]
48	13号墓	墓庭左側掘込	身	陶製有頸甕形	IV 2	— — 20.0		貼付	"不鮮明"読み取れず						底孔11
49	13号墓	墓庭左側掘込 蔵骨器No.2	身	陶製有頸甕形	IV 3	26.4 58.0 22.0		線彫・貼付	道光十八年(戊戌)○○七月(四?)日洗骨次男渡慶次筑登之親雲上秋文焕妻真○奴	秋	渡慶次			1838	窓庇[0.2cm]④ 底孔8
50	13号墓	墓庭左側掘込	身	陶製有頸甕形	IV 4	23.0 41.0 15.5		線彫	・・・洗骨柴健・・・子	(秋)		柴			底孔7
51	13号墓	墓庭左側掘込	身	陶製有頸甕形	IV 4	28.8 — —		線彫	光緒二十五年・・・・					1899	
52	13号墓	墓庭左側掘込	身	陶製有頸甕形	IV 4	27.2 — —		線彫	五大朝○／○○四十弐・・・／						
53	13号墓	墓庭左側掘込	身	陶製有頸甕形	IV 4	26.3 — —		線彫	(光?)・・・八月○一日洗骨／						米と墨書きで家紋?有
54	13号墓	墓庭左側掘込	身	陶製有頸甕形	IV 4	26.6 — —		線彫	・・・洗骨／朝直妻・・・／			朝			
55	13号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV	10.2 17.2 30.0			光緒八年壬午・・・○致洗骨自○○○／・・・移葬○○新城／里之子安○・・／妻浦戸／明治四拾参年(庚戌)拾壱月四日洗骨／・・○・・／同人女真鶴／合葬／	(毛)	新城	安		1882, 1910	「き」高さ[0.43cm]
56	13号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV	— — —			・・・新城／・・・○規						
57	13号墓	墓庭外表採	蓋	陶製有頸甕形	IV	12.3 — —			・・・朝・・・／						蓋段[一段]
58	13号墓	墓庭左側掘込	蓋	陶製有頸甕形	IV	9.2 13.0 27.0			・・・・／○年旧・月十(五?)日(死?)／田崎朝法／		田崎	朝			蓋段[一段]

連番	墓番号	出土地点	身・蓋	名称又は仮称	形式分類	法量	対No.	文様	銘書	氏	家名	名乗頭	西暦死去年	西暦洗骨年	備考
59	13号墓	墓庭左側掘込	蓋	陶製有頸甕形	IV	8.0 － －			明治三・二〇→(三十二年？)・・・／朝・妻／〇戸			朝			蓋段[二段]
60	13号墓	墓庭左側掘込	蓋	陶製有頸甕形	IV	8.6 16.2 29.0			明治四十三年(庚戌)旧十二月二十二日柴記洗骨、妻ナベ、先骨〇昭和拾年(乙亥)旧五月十三日			柴		1910, 1935	蓋段[二段]
61	13号墓	墓庭左側掘込	蓋	陶製有頸甕形	IV	7.5 11.0 24.0			光緒辛巳七年八月廿一日死亡／				1881		蓋段[一段]
62	13号墓	墓庭左側掘込 蔵骨器No.3	蓋	陶製有頸甕形	IV	－ 7.5 17.0			柴〇／三男鶴千代	(秋)		柴			
63	13号墓	墓庭左側掘込 蔵骨器No.11	蓋	陶製有頸甕形	IV	7.2 － 20.5			"不鮮明" ・・・柴〇〇／〇〇次女／マカ(ト)						蓋段[一段]
64	13号墓	墓庭左側掘込 蔵骨器No.2	蓋	陶製有頸甕形	IV	9.0 － 28.5			・・・・親雲上秋文〇妻〇〇奴道光拾年丑十一月道光拾・・・／・・・／道光拾八年戊戌〇七月〇日洗骨／親〇秋文〇妻〇〇／九世秋廷佑次男渡慶次筑登之親雲上柴布長女思戸	秋	渡慶次	柴	1830	1832 ～ 1844 1838	蓋段[一段]
65	13号墓	墓庭左側掘込	身	陶製有頸甕形	IV	－ － －			田崎朝〇・・・		田崎	朝			窓庇④
66	13号墓	墓庭左側掘込	身	陶製有頸甕形	IV	－ － －			・・・思戸／						
67	13号墓	墓庭フク土	蓋	陶製軒付甕形	V b	11.2 14.0 30.0		線彫・貼付	[たて]十五世／新城(朝)・・・／昭和十二年・・・／仝十九年・・・／[消された文字]・・〇三女〇〇／明治二年／十一月四日洗(骨)	(毛)	新城	(安)	1937	1869, 1944	蓋段[二段] 「き」高さ[0.2cm]
68	13号墓	墓庭左側掘込	蓋	陶製軒付甕形	V b	9.9 8.5 27.0			・・・二月十九日向〇嗣田崎里之子親雲上〇〇妻御洗骨／		田崎				蓋段[二段] 「き」高さ[0.4cm]
69	13号墓	墓庭左側掘込	蓋	陶製軒付甕形	V b	9.9 19.2 33.0			同治六年丁卯十二月廿三日田崎親雲上朝〇娘／思〇洗骨／・・・(同治？)拾(弐)年／癸酉九月拾弐(日)・・／・・田崎・・年／・・・・／・・・／・・朝日田崎／(親雲上)朝〇・・／・・・洗骨／		田崎	朝		1867	蓋段[一段] 「き」高さ[0.7cm]
70	13号墓	墓庭左側掘込	蓋	陶製軒付甕形	V	－ － －			道光・・・・					1821 ～ 1851	
71	13号墓	墓庭左側掘込	身	陶製軒付甕形	V 2	32.0 － －		線彫・貼付	同治拾弐年(癸酉)・・・／田崎親雲上朝〇・・・・・／		田崎	朝		1873	
72	14号墓	墓庭フク土	蓋	陶製無頸甕形	III a	8.7 13.0 32.5			"不鮮明" (嘉慶？)・・・・／・・・〇〇〇／						つまみa 蓋段[一段]
73	14号墓	墓庭外フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV b	－ － －			・・普久原・・／〇〇〇〇・・		普久原				蓋段[二段] 「き」高さ[0.15cm]
74	14号墓	墓庭外フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV c	－ 6.0 15.4			柴康・・・／・・・〇四月拾二日死亡／・・・洗骨			柴			
75	14号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV	11.0 － －			・・・崎・・・／						蓋段[一段]
76	14号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV	－ － －			田・・・・						

連番	墓番号	出土地点	身・蓋	名称又は仮称	形式分類	法量	対No.	文様	銘書	氏	家名	名乗頭	西暦死去年	西暦洗骨年	備考
77	14号墓	墓庭外フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV	10.8 － －			明治・・・／○六日・・・／三○・・・／					1868 ～ 1912	蓋段[二段]
78	15号墓	外参道	蓋	陶製家形	II	－ － －	79	貼付	[縦書き](大正○年)四月卅日卒〔寿〕八十年／仝五年辰旧八月八日／洗骨也　[横書き]・・・○寄右仝人・・・／						二色(白呉須)
79	15号墓	外参道	身	陶製家形	II	45.6 46.0 －	78	貼付	喜瀬筑登之親雲上・・・・・		喜瀬				二色(白呉須)
80	15号墓	外参道	蓋	陶製有頸甕形	IV b	6.4 11.6 21.2			光緒十九年癸巳三月十一日洗骨次男喜瀬里之子乗玄長女真嘉戸／○洗骨		喜瀬	乗		1893	蓋段[一段] 「き」高さ[0.3cm]
81	15号墓	外参道	蓋	陶製有頸甕形	IV b	10.0 15.0 30.0		沈線	嘉慶二年(丁巳)・・・○十日・・／(渡慶次)親雲上乗春骨洗／道光拾四年(甲午)・・・乗春妻洗骨／			乗		1797, 1834	蓋段[一段] 「き」高さ[0.3cm]
82	15号墓	外参道	蓋	陶製有頸甕形	IV b	－ － 23.0			[内面]乗成長女真牛／光緒二十一年(乙未)・・・／(光緒二十三年丁)酉／九月十二日洗骨			乗	1895	1897	蓋段[二段] 「き」高さ[0.2cm]
83	15号墓	外参道	蓋	陶製有頸甕形	IV b	6.5 9.5 19.7			"不鮮明"						蓋段[二段] 「き」高さ[0.15cm]
84	15号墓	外参道	蓋	陶製有頸甕形	IV b	－ － 22.0			・・・・(英？)長女ツル／光・・・・／明・・・・						蓋段[一段] 「き」高さ[0.1cm]
85	15号墓	外参道	蓋	陶製有頸甕形	IV b	－ － 30.5			・・・・／・・・(同？)人つま(真？)加戸						蓋段[二段] 「き」高さ[0.2cm]
86	15号墓	墓外参道上石積	蓋	陶製有頸甕形	IV b	10.0 17.7 30.0			・・・・・十月二日洗骨／○建及七同・・・						蓋段[二段] 「き」高さ[0.2cm]
87	15号墓	墓外参道上石積	蓋	陶製有頸甕形	IV b	－ － 28.0			[内面]・・・十月八日嫡子(喜瀬？)○(筑登之の略)親雲上○・・・／・・・(嫡？)子○○・・・／						「き」高さ[0.3cm]
88	15号墓	墓外参道上石積	蓋	陶製有頸甕形	IV b	－ － －			・・・年○○三月・・・○日／・・・義山・・・／・・○嫡○・・・／・・・乗・・・／						「き」高さ[0.1cm]
89	15号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV b	8.3 － －			"不鮮明"						蓋段[一段] 「き」高さ[0.05cm]
90	15号墓	外参道	蓋	陶製有頸甕形	IV c	5.5 － 15.0			・・・拾四日○代朝			朝			蓋段[一段]
91	15号墓	外参道	蓋	陶製有頸甕形	IV c	10.5 15.0 32.0			(道光？)二十七年・・・○・嫡子喜・・・乗(觀？)洗骨／・・・年乙丑○・・七・乗(觀妻？)・・			乗		(1847)	蓋段[二段]
92	15号墓	外参道	蓋	陶製有頸甕形	IV c	－ － 30.0			[ふち]嫡子・・・						蓋段[二段]
93	15号墓	墓外参道上石積	蓋	陶製有頸甕形	IV c	－ － 30.0			[ふち]筑登之洗骨(号？)二十八・・・／　[内面]・・・真ゴセ洗骨・・・／						
94	15号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV c	－ － －			・・・・・／朝○・・・／室洗骨／						
95	15号墓	外参道	蓋	陶製有頸甕形	IV	－ 5.1 16.2			一九五一年旧七月七日洗骨ス乗一ノ長男			乗		1951	
96	15号墓	外参道	蓋	陶製有頸甕形	IV	11.0 13.0 27.0			○○拾六年旧五・・・八日洗骨[小さい文字]6月・・・／						蓋段[二段]
97	15号墓	外参道	蓋	陶製有頸甕形	IV	－ － －			(大)正五年・・・					(1916)	

連番	墓番号	出土地点	身・蓋	名称又は仮称	形式分類	法量	対No.	文様	銘書	氏	家名	名乗頭	西暦死去年	西暦洗骨年	備考
98	15号墓	外参道上石積	蓋	陶製有頸甕形	IV	9.3 － －			"不鮮明"						蓋段[二段]
99	15号墓	外参道	蓋	陶製軒付甕形	V a	13.1 16.5 31.0		線彫	嘉慶(二拾四)年己卯八月○日／○○(喜)瀬(筑登之)親雲上骨洗／一有／…○喜瀬筑登之親雲上骨洗…		(喜)瀬			(1819)	蓋段[二段] 「き」高さ[0.6cm]
100	15号墓	外参道	蓋	陶製軒付甕形	V a	－ － 30.0		線彫・貼付	道光五年(乙酉)…洗骨／喜瀬筑登之親雲上妹／…女子		喜瀬			1825	「き」高さ[0.7cm]
101	16号墓	上部フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV c	－ 7.0 16.0			○代明(治？)…／…洗骨						
102	16号墓	上部フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV	－ － －			大正十四(年)…					1925	蓋段[一段]
103	17号墓	墓室フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV a	9.6 15.2 28.4		沈線	嘉慶八年癸亥七月○日…／○○○…／…○○／	(秋)	(渡)知	(柴)		1803	蓋段[三段] 「き」高さ[0.7cm]
104	18号墓	墓室安置蔵骨器No.2	身	陶製有頸甕形	IV 4	25.7 55.4 20.0		線彫・波状圏線	柴教大清同治三年甲子十月二十七日	(秋)		柴	1864	1866 ～ 1878	窓庇[0.2cm]④ 底孔18
105	19号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV	－ － 22.0		線彫	"不鮮明"						「き」高さ[1.2cm]
106	20号墓	墓室フク土	蓋	陶製無頸甕形	III	11.9 12.0 30.0		沈線	崎山喜春妻崎山筑登之嫡子(○○)七月八日…／	(孫)	崎山	喜			
107	20号墓	墓室フク土	蓋	陶製無頸甕形	III	－ － 28.4		沈線	康熙○○年十一月廿九(二十九)日死去／…／雍正三年乙巳四月…(日)…(洗)骨 [消された銘書有]"不鮮明"	(孫)	(崎山)	(嗣)	1716 ～ 1722	1725	二次使用
108	20号墓	墓庭フク土	蓋	陶製無頸甕形	III	－ 11.0 27.8			乾隆四年己未○○○○洗(骨)					1739	
109	20号墓	墓庭蔵骨器集積	蓋	陶製無頸甕形	III	10.5 9.6 31.0			○○／崎山{里之子}親雲上七月八日／	(孫)	崎山	(嗣)			赤レンガ色
110	20号墓	墓庭蔵骨器集積	身	陶製無頸甕形	III	26.7 － －			乾隆五拾○年…／…洗骨／○○…／○○…／					1786 ～ 1794	窯印有。 窓庇[0.5cm]③－1
111	20号墓	墓庭蔵骨器集積	蓋	陶製有頸甕形	IV b	10.7 11.7 32.0			光緒四年(戊寅)正月十五(日)嫡子崎山親雲上嗣政洗骨	(孫)	崎山	嗣		1878	蓋段[二段] 「き」高さ[0.3cm]
112	20号墓	墓庭蔵骨器集積	蓋	陶製有頸甕形	IV b	7.0 10.0 23.0			[ふち]可？山嗣長二女蒲戸？ [内側]嗣長二女蒲	(孫)	崎山	嗣			蓋段[二段] 「き」高さ[0.1cm]
113	20号墓	墓庭蔵骨器集積	蓋	陶製有頸甕形	IV b	6.8 9.1 19.7		沈線	明治三十年(戊)戌七月十八日死亡崎山嗣長次男三良	(孫)	崎山	嗣	1897		蓋段[一段] 「き」高さ[0.1cm]
114	20号墓	墓庭蔵骨器集積	蓋	陶製有頸甕形	IV c	－ － 25.6			大清…						
115	20号墓	墓庭蔵骨器集積	蓋	陶製有頸甕形	IV c	7.5 9.4 19.5			明治四十二年旧三月四日卒寄山嗣珍男子仁…	(孫)	寄山	嗣	1909		蓋段[一段]
116	20号墓	墓庭蔵骨器集積	身	陶製有頸甕形	IV 4	19.0 － －		線彫	[胴部]明治四十一年(戊申)旧三月七日…／○○…／					1908	窓庇⑤
117	20号墓	墓庭蔵骨器集積	身	陶製有頸甕形	IV 4	16.0 23.0 －		線彫	[ふち]明治三拾一年戊戌七月廿八日(死)亡崎山…／	(孫)	崎山	(嗣)	1898		窓庇⑤
118	20号墓	墓庭蔵骨器集積	身	陶製有頸甕形	IV 4	31.0 － －		線彫	○○○○○○○○○洗骨						

連番	墓番号	出土地点	身・蓋	名称又は仮称	形式分類	法量	対No.	文様	銘書	氏	家名	名乗頭	西暦死去年	西暦洗骨年	備考
119	20号墓	墓庭蔵骨器集積	身	陶製有頸甕形	IV 4	26.0 － －		線彫	･･･年七月二十六日洗骨						外反タイプ
120	21号墓	墓庭フク土	身	陶製無頸甕形	III	－ － 22.0			････洗骨						
121	22号墓	ソデ垣フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV b	－ － 29.0			明治三十八年III十月七日卒不嵜山嗣長		嵜山	嗣	1905		蓋段[一段] 「き」高さ[0.1cm]
122	22号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV c	11.7 12.0 30.0			･･･年十二月三日洗骨／崎山嗣･･･／		崎山	嗣			
123	22号墓	墓庭フク土	身	陶製有頸甕形	IV 4	28.0 55.0 21.0		線彫	[内頸部]光緒五年己卯正月十五日死嗣政嗣室真･･(死)／(光緒十五年)己丑九月廿四日･･(洗骨)			嗣	1879	1889	窓庇[0.25cm]④
124		23･24号墓間フク土	身	陶製無頸甕形	III 1	26.0 51.0 22.0			嘉慶(七？)年九月十日･･／					1802	窓庇[1.0cm] 底孔9
125		23･24号墓間フク土	蓋	陶製無頸甕形	III	－ 9.0 29.4			"不鮮明" 乾隆拾〇年〇月〇日･･･／･･･思戸／･･･同人妻					1745 ～ 1796	
126		23･24号墓間フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV a	－ － 30.0			嘉慶二十年乙(亥)･･･／道光十？･･･				1815		「き」高さ[0.6cm]
127	23号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV c	－ － 26.0			光(緒〇年)･･･／珍言･･･／						
128	27号墓	前方蔵骨器集積	蓋	陶製有頸甕形	IV a	10.8 15.7 30.0		沈線	道光(？)元年庚(ほんとは辛)巳十二月十七日晨新平良･･･／		平良			1821	蓋段[二段] 「き」高さ[0.6cm]
129	27号墓	前方蔵骨器集積	蓋	陶製有頸甕形	IV b	9.8 13.0 27.0			光緒二十三年丁酉〇〇月七日三男外間子洗骨		外間			1897	蓋段[二段] 「き」高さ[0.15cm]
130	27号墓	前方蔵骨器集積	蓋	陶製有頸甕形	IV b	11.4 15.7 33.0			嫡子外間子活同治四年辛丑七月四日死去同十三年〇十一月･･･		外間		1865		蓋段[二段] 「き」高さ[0.2cm]
131	27号墓	前方蔵骨器集積	蓋	陶製有頸甕形	IV b	－ － 30.0			[たて]同治四年(乙丑)七月四日･･･／･･等融洗骨／ [よこ]思亀／同･･(乙)丑七月四日死／同十三年(甲)戌十一月(洗骨)／･･･〇等融妻同人次男／････／				1865	1874	「き」高さ[0.15cm]
132	27号墓	前方蔵骨器集積	蓋	陶製軒付甕形	V a	10.7 11.5 28.6		線彫・貼付	[内面]大正二年(癸)丑正月六日／長男外間樽(骨？)〇洗骨／[ふち]大正二年正月六日(外？)間樽〇ウシ		外間			1913	蓋段[二段] 「き」高さ[0.1cm]
133	28号墓	前方フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV b	－ － 28.0			(同治)拾年辛未〇月七日洗骨／八男･･･／					(1871)	「き」高さ[0.1cm]
134	28号墓	墓室フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV c	7.1 9.0 20.0			明治四十四年(辛)／亥年十二月･･･／･･･九日･･･／洗骨／				1896 ～ 1908	1911	
135	28号墓	墓室フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV c	－ 8.1 18.0			大正十三年／旧十一月十三日／〇･････／長････／(洗？)･･･					1924	
136	28号墓	墓室フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV c	－ 7.3 20.0			泉水朝･･･〇／昭和拾(壱？)〇･･･洗骨／		泉水	朝		(1936)	
137		29･30号墓間小穴	蓋	陶製有頸甕形	IV c	7.5 6.8 18.3			･･･旧五月〇(日)･･･						蓋段[一段]
138	29号墓	前方蔵骨器集積	蓋	陶製有頸甕形	IV b	10.7 15.8 31.0			咸豊／嗣思次男嗣法崎山子／		崎山	嗣	1851 ～ 1862		蓋段[一段] 「き」高さ[0.2cm]
139	29号墓	前方フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV c	－ － －			(光緒二十一年)乙未十〇月〇日･･･／･･･妻･･･／						蓋段[三段]

連番	墓番号	出土地点	身・蓋	名称又は仮称	形式分類	法量	対No.	文様	銘書	氏	家名	名乗頭	西暦死去年	西暦洗骨年	備考
140	29号墓	墓室フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV c	－ － 13.0			‥‥／同二十二年‥‥洗骨／						
141	29号墓	墓室フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV c	－ － 14.0			○‥‥／昭和十三年(戊)寅旧‥‥／(泉水)朝秀長女○‥‥／			朝		1938	
142	29号墓	前方フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV c	5.0 7.0 14.0			昭和‥‥○月十日‥‥／湧川ツル／		湧川			1926 ～ 1989	
143	29号墓	前方フク土	蓋	陶製有頸甕形	IV c	－ － 28.0			湧川山戸／旧巳‥‥／‥‥七日洗骨／‥‥拾‥‥／		湧川				蓋段[二段]
144	30号墓	前方フク土	蓋	陶製無頸甕形	III	－ 9.0 34.0			"不鮮明" [消された銘書]‥‥／‥‥二月‥‥／‥‥洗骨						

第２節　沖縄産施釉陶器

１．Ｂ地区の施釉陶器

銘苅古墓群南地区から出土する施釉陶器は10,000点余と本土産磁器に次いで多い。地区別では墓の基数や規模に比例しＡ、Ｂ、Ｅ、Ｄ、Ｃ、Ｆの順となる。種類では碗が圧倒的多数を占め、小碗、瓶、水注が続く。これらの器種・器形分類基準については、Ｂ・Ｅ地区を統一的に行った。したがってＢ地区では確認されていないタイプもあることをことわっておく。

碗（第92図～第94図３）

器形は二種に大別される。これらは施される釉薬の組合わせ、さらに文様の有無やその種類から下記のように分類した。

Ｉ類：高台脇から斜めへ直線的に立ち上がり、そのまま口縁部へ至る。これらは殆ど無文であるが、絵付けが施されたものもある。施釉には“フイガキー”と呼ばれる漬け掛け法を用いており、腰部以下は露胎となっている。

Ａ：無文。釉薬には灰釉と鉄釉の二種類がある。

①灰釉（第92図１）。

②鉄釉。明確なものはＢ地区には見られなかった。

Ｂ：有文。灰釉の碗に簡素な鉄絵を施す（第92図２）。

II類：高台脇からやや丸みを帯びて立ち上がり、口縁部は直口あるいは僅かに外反する。無文と有文があり、それぞれにバラエティがある。II類の殆どが高台畳付けを除いて総釉で、見込みには重ね焼のために蛇の目釉剥ぎする。他方後述の無文鉄釉の大部分も、同様に漬け掛けするが、この場合同鉄釉で見込み内に丸を、さらにその周辺に帯状の線を筆で描くものが見受けられる。おそらく蛇の目釉剥ぎと同様の効果を狙ったものであろう。

Ａ：無文。一色だけ施釉されたものと、外内面が異色の掛け分けされたものとがある。

ａ：単掛け。

①灰釉。Ｂ地区には見られなかった。

②鉄釉（第92図３・４）。

③白化粧して透明釉。白一色の器面（第92図５）。

ｂ：掛け分け

①白＋鉄釉。内面は白化粧して透明釉をかける。外面は鉄釉を施す。Ｂ地区には無い。

②灰釉＋鉄釉。内面は灰釉を、外面は鉄釉を施す（第92図６）。

③白＋灰釉。内面は白化粧して透明釉を、外面は灰釉を施す。Ｂ地区には無い。

Ｂ：有文。素地と下地となる釉薬の違いからａ、ｂに分けた。

ａ：素地は有文２に比べ白っぽく、白い器面に絵付けを施すもの。

①巴文（第92図７）。

②菊花文（第93図１・２）。

③縁取り（第93図３）。

④呉須・飴釉の二色で絵付けする。印花文（第93図４）。

⑤その他（第93図５・６、第94図１・２）。

b：素地は暗灰色で、濃緑色の灰釉を掛け絵付けを施すもの。いわゆるイッチンで、このタイプの資料は少ない。

①白絵付け（第94図３）。

②青い絵付け。小破片の出土でしかもＡ地区に限られている。

小碗（第94図４～15第95図１～９）

口径が10cm以下の小さい碗である。器形や釉色等から次の様にまとめた。

Ⅰ類：曲線的な腰部と直口または外反する口縁は碗II類と同様の器形である。また全て蛇の目釉剥ぎが施されている。

Ａ：器面を丸く成形したもの。

ａ：無文。釉種による分類ができる。

①白一色。白化粧をして透明釉をかける（第94図４・５）。

②白＋鉄釉。内面は白化粧して透明釉をかける。外面は鉄釉を施す（第94図６）。

③灰釉＋鉄釉。内面は灰釉を、外面は鉄釉を施す（第94図７）。

④白＋灰釉。内面は白化粧して透明釉を、外面は灰釉を施す（第94図８）。

ｂ：有文。白い器面に絵付けを施す。

①巴文（第94図９）。

②菊花文（第94図10～14）

③印花文（第94図15～第95図１・２）

Ｂ：器面を多面形に成形したもの。いわゆる面取り小碗。全て無文である。

II類：器形は高台脇より曲線的に立ち上がるが、腰部から直立、口縁部へ至る筒型の器形である。口唇部は舌状である。また腰部の器厚はⅠ類より厚手で、口唇部へかけて漸次薄くなる。

Ａ：無文。

①灰釉。

②白一色。白化粧後透明釉をかける。

Ｂ：有文。白い器面に呉須で文字を書くもの。

蓋付碗（第95図10～12）

蓋を伴う小碗で、口縁部内面から口唇部は釉剥ぎされる。高台はⅠ・II類よりも低い。器形は高台脇から丸く立ち上がり、口縁は直口もしくはやや内彎する、球形に近い形である。今回本地区では１セットと蓋１点が得られた。この蓋は形状から碗に伴うものと判断しこの項に含めた。

皿（第96図１～３）

器形や文様の有無によって分類した。

Ⅰ類：高台から斜めに開き、口縁部は直口、もしくは微弱な内彎を示す。

Ａ：無文

B：有文

II類：高台から膨らみながら立ち上がり、口縁部は外反する。

A：無文

B：有文

鉢（第96図４）

胴部は高台から曲線的に立ち上がり、口縁部で大きく外反して鍔をつくる大型の器である。このタイプも重ね焼をするため、見込みを蛇の目釉剥ぎする。内面は白化粧して透明釉、外面は鉄釉を掛け分けし、文様は施さない。高台を穿孔した標品も希に見られる。沖縄の方言で“ワンブー”と呼ばれる。

水鉢（第96図５）

鉢（ワンブー）同様、胴部は底部から斜めに彎曲しながら膨らみ口唇内縁で内彎する。この器種は陶質土器で多く見られるもので、施釉陶器での出土量は少ない。

瓶（第97図～第100図１～３）

有頸で胴部が袋状に膨らむものを瓶とした。身の膨らみが一箇所のものと二箇所のものがあり、次の様に分類した。

Ｉ類：肩部付近から下が一箇所だけ膨らみ、最大径を胴部に持つ。また断面の形状はＡ、Ｂ、Ｃ、Ｄ、Ｅ、Ｆの６種に分けられた。

Ａ：底部より腰部はやや丸味をもって立ち上がり、肩部で次第に窄まる。頸は細く、断面形はしゃもじ状を呈する。口縁部や底部の特徴から以下のように細分した。

ａ：口縁部は直口するもの。底部は削り出し高台

①底部は削り出し高台

②底部は台状の付け高台

ｂ：口縁部は外反するもの。

①底部は削り出し高台

②底部は台状の付け高台

Ｂ：底部より腰部は丸く立ち上がり、肩部で急激に窄まり、頸は直線的に長く延びる細頸である。断面形はフラスコ状を呈する。口縁部は直口。

Ｃ：底部より直線的に立ち上がり、肩部付近で緩やかに窄まり、頸は直線的に延びる。口縁部は外反。

Ｄ：底部からの立ち上がりは曲線的なものが多い。頸部は短く、最大径を胴部に持つものである。これらの大半が“古典焼き”と呼ばれる、掻落とし技法によるエキゾチックな文様を施す。

Ｅ：底部より胴部は丸く立ち上がり、次第に窄まる。口縁部は強く外反し、上面を平坦に造る。底部の特徴には次のものが認められた。

①底部は台状の付け高台

②底部は袴状の付け高台

F：底部より丸く立ち上がり、肩部で「く」の字に屈曲する。頸部は太く直線的に延び、口縁部はラッパ状に開く。この種は一般に縦形の把手を持つ。

①底部は削り出し高台

②底部は台状の付け高台

II類：肩部と腰部の二箇所で膨らみ、胴部にくびれを持つ徳利型の瓶である。口縁部は外反する。

A・Bタイプの瓶は沖縄では“嘉瓶（ユシビン）”、Cタイプは“渡名喜瓶（トナキビン）”。

A：肩部と腰部は双方とも丸みを帯びている（第100図1）。

B：肩部は丸みを帯びるが、腰部はくの字状に折れ曲がる（第100図2）。

C：肩部はくの字状に折れ曲がるが腰部は丸みを帯びる（第100図3）。

酒注（第100図4～7）

沖縄方言で“カラカラ”と呼ばれる、注口を持つ有頸の容器である。頸部は幅広の肩部から窄まる細頸で、口縁部は外反する。底部は低く、幅広の削り出し高台だが、畳付けの形状は内縁へかけて斜めにせり上がるという特徴を持つ。これらは胴部の形態で二種に大分される。

I類：胴部が楕円状に彎曲するもの。

II類：胴上部がくの字状または稜を持って折れ曲がるもの。

水注（第101図）

ここでは注口と把手を持つ、円形あるいは楕円形に胴が膨らみ、幅広の口縁に蓋を伴う容器を水注として扱った。把手の形態は弦をうける有孔の突起や弦そのものが陶製の二種類ある。後者は沖縄では“アンビン”と呼ばれる大型の水注であるが、前者に比べ出土量が少なく、南地区では全形のわかる資料は唯一C地区から出ている。前者について細分した。

I類：把手が有孔の突起。弦は陶器以外の素材が使われる。

A：三つの脚付き

a：無文（第101図1～3）

b：有文（第101図4）

B：脚はなく削り出しで底を成形。B地区では出土していない。

II類：弦そのものが陶製。底部は削り出し高台（第101図6～8）。

火入れ（第102図1・2）

方言で“ヒートゥイ”と呼ばれる煙草の火種入れである。胴部がストレートに延びる円筒型の器形を基本とするが、高台から腰部にかけての造りで二種に分類した。

I類：高台からまっすぐに立ち上がる（第102図1）。

II類：高台から斜めに立ち上がり、腰部で鋭角に折れ、口縁部はやや内彎する。内面は無釉、外面はこの腰折れの角から口縁部まで施釉される（第102図2）。

鍋（第102図3・4）

口縁部が「く」の字状に折れ、その直下に把手を持つ。底部は丸底で脚三足が付く。蓋を伴う。

火炉（第102図５）

全形のわかるものは得られていない。しかし口縁部資料より、器形は円筒型で、口唇部は平坦に仕上げ、火窓を有する。内面に器物を乗せる五徳状の突起を持つ。外面には獅子と思われる獣面の把手を付ける。

灯明具（第102図６）

胴部は丸く、口縁部は内彎し、口唇部を丸く成形する脚付きの秉燭である。見込み中央には灯芯を支える突起が付く。突起は円筒形で、片方は切れ込みを有する。出土数は１点である。

香炉（第102図７・８）

胴部は丸く、上部で急に窄まり、頸部にいたる。口縁部をきつく外反することで口唇は平坦となる。底面に丸底で脚を三足付ける。

小壺（第103図１・２）

本地区での出土は２点のみである。胴部は底部から斜めに立ち上がり、口縁部は双方とも欠損しているが、類例資料より外反するものと思われる。

方言で“アンダチブ（油壺）”と呼ばれる髪付け油容器、あるいは、死者への副葬品として酒器と見られる。後者の場合死者の着物の懐に入れてあの世に持たすところから、“フチュクルグフィン”あるいは“フチクルビン”（いずれも懐瓶の意）などと呼ばれる。

猪口（第103図３～９）

器形は高台脇からやや丸みを帯びて立ち上がり外反する。飲酒用の極小の容器で、中には口径が2.8cm、器高が1.6cm、底径が1.8cmのものもある。二種に大別した。

Ⅰ類：無文。釉薬でさらに二種に細分される。

①透明釉

②鉄釉

Ⅱ類：有文。文様から二分することができた。

①呉須や鉄釉などを筆で施文するもの。

②彫刻し、加えて色付けするもの。これは１点のみの出土である。

煙管（第103図10～13）

雁首・吸口共特徴は大きく二種類ある。

Ⅰ類：胴が太いタイプ。

雁首：火皿より胴部が極端に太い、胴部の側面がふくらむタイプである。

吸口：吸口部分より胴部が極端に太い、雁首同様、胴部の側面がふくらむ。

Ⅱ類：胴が細いタイプ

雁首：火皿と胴部の差があまりない。胴部の側面が方形に面取りされるタイプである。

吸口：吸口部分から胴部へ緩やかに太くなる。胴部の側面は三角形である。

第８表　Ｂ地区　沖縄産施釉陶器観察一覧

挿図番号 ＰＬ番号	器種	分　類	口径 器高 底径	素　地	釉　種	施釉範囲	特　　徴	出土地
第92図１ PL.37の１	碗	Ｉ類 Ａ ①	13.4 5.8 7.0	乳白色 細粒子	灰釉	腰部まで	ほぼ完形品の資料である。口縁部直下に稜をもって外反する。 フイガキーによる施釉法。見込みに約1.5cmの円い文様を施す。外面に鉄釉で約１cmの圏線を巡らす。	38・46号墓庭フク土
〃　２ 〃　２	碗	Ｉ類 Ｂ	13.2 5.6 7.2	黄白色 細粒子	灰釉 鉄釉	胴中央部まで	半欠品。口縁部は直口する。高台の造りは曖昧である。 フイガキーによる施釉法。筆で鉄絵を施す。胴中央部と高台脇に指痕が着く。 見込みに目砂粒が残る。	10号墓庭フク土
〃　３ 〃　３	碗	II類 Ａ ａ ②	13.0 5.6 6.4	黄白色 細粒子	鉄釉	外：腰部まで 内：見込み付近	半欠資料。口縁部はやや外反。 フイガキーによる施釉法だが、見込みに鉄釉による直径約５cmの円い文様を筆描きする。釉の発色は内外面とも不良。 畳付けに白土が残る。	13号墓フク土
〃　４ 〃　４	碗	II類 Ａａ ②	13.8 5.9 6.4	橙白色 細粒子	白化粧＋ 鉄釉	総釉	ほぼ完形資料。口縁部は外反する。 口縁部付近と胴中央部、そして高台脇にそれぞれ２条の沈線を横位に巡らす。 蛇の目釉剥ぎ部分に重ね焼の付着物と畳付けに白土が見られる。	27号墓庭フク土
〃　５ 〃　５	碗	II類 Ａａ ③	14.0 6.7 6.3	黄白色 細粒子	白化粧＋ 透明釉	総釉	ほぼ完形の資料である。口縁部は外反する。 見込みの蛇の目釉剥ぎ部分と内面胴部に白土が残る。 外面は口縁直下に２条、胴中央に３条、腰部に２条の線彫りを横位に巡らす。	31号墓屋根フク土
〃　６ 〃　６	碗	II類 Ａｂ ②	13.2 6.4 6.2	黄白色 細粒子	外：鉄釉 内：灰釉	外：腰部まで 内：全施釉	ほぼ完形品。口縁部は外反する。 見込みの蛇の目釉剥ぎ部分と畳付けに白土が残る。	39号墓庭フク土
〃　７ 〃　７	碗	II類Ｂ 有文１ ａ①	13.6 6.8 6.4	灰白色 粗粒子	白化粧＋ 透明釉、 呉須	総釉	ほぼ完形の資料である。口縁部はやや外反。呉須で外面に巴文、口縁部内面に花文らしき文様を施す。 見込みの蛇の目釉剥ぎ部分に白土と付着物が、畳付けに白土が残る。	19号墓屋根フク土
第93図１ PL.38の１	碗	II類Ｂ 有文１ ａ②	13.6 5.8 5.6	灰白色 粗粒子	白化粧＋ 透明釉、 呉須	総釉	ほぼ完形の資料である。口縁部は外反。 呉須で外面に菊花の文様を施す。 見込みの蛇の目釉剥ぎ部分と畳付けに白土が残る。	31号墓屋根フク土
〃　２ 〃　２	碗	II類Ｂ 有文１ ａ②	13.8 6.3 6.8	灰白色 粗粒子	白化粧＋ 透明釉、 呉須	総釉	ほぼ完形の資料である。口縁部は外反。 呉須で外面に菊花の文様を施す。口縁部内面の周縁を菊の花弁と１本の圏線が、見込み付近に二重円が巡らされる。 見込みの蛇の目釉剥ぎ部分と畳付けに白土が残る。また畳付けが焼成後削られている。	22号墓庭フク土
〃　３ 〃　３	碗	II類Ｂ 有文１ ａ③	12.8 6.0 5.0	灰褐色 微粒子	白化粧＋ 透明釉、 呉須	総釉	ほぼ完形資料。口縁部は直口する。 口縁の内外面ともおよそ等間隔に３個所、呉須で半円を施す。釉の発色は不良。 蛇の目釉剥ぎ部分と畳付けに白土が残る。	31号墓屋根フク土
〃　４ 〃　４	碗	II類Ｂ 有文１ ｂ	12.9 6.3 5.7	橙白色 粗粒子	白化粧＋ 透明釉、 呉須、 飴釉	総釉	ほぼ完形の資料である。口縁部は外反。 呉須と飴釉で外面に花の文様を４箇所施す。内面には重ね焼きの際についた同文様の痕が１箇所薄く見られる。 見込みの蛇の目釉剥ぎ部分と畳付けに白土が残る。	24号墓庭外フク土
〃　５ 〃　５	碗	II類Ｂ 有文１ ｃ	12.6 5.9 6.0	黄白色 細粒子	白化粧＋ 透明釉、 呉須	総釉	ほぼ完形資料。口縁部は外反。 外面の文様構成は、沈線の二重円を呉須で上塗りし、その中に「の」に似た文字を施すもので、ほぼ等間隔に３個所ある。内面には重ね焼の際についた同文様の痕が見られる。 蛇の目釉剥ぎの部分と畳付けに白土が残る。	40号墓庭フク土
〃　６ 〃　６	碗	II類Ｂ 有文１ ｃ	13.4 6.5 5.6	黄白色 細粒子	白化粧＋ 透明釉、 深緑色の 釉	総釉	ほぼ完形の資料である。口縁部は外反。 外面に深緑色の釉で菊花と樹木(？)の文様を施す。同釉で見込み付近に二重円と口唇部に色を施す。深緑色の釉は未発色の呉須かは不明。 見込みの蛇の目釉剥ぎ部分と畳付けに白土が残る。	14号墓庭フク土
第94図１ PL.39の１	碗	II類Ｂ 有文１ ｃ	13.0 5.8 5.4	黄白色 細粒子	白化粧＋ 透明釉、 呉須	総釉	半欠の資料。口縁部は直口。 外面に呉須でツル科の植物の文様を施す。釉の発色は不良。 高台脇に２本の指痕が着く。畳付けに白土が残る。	14号墓庭フク土

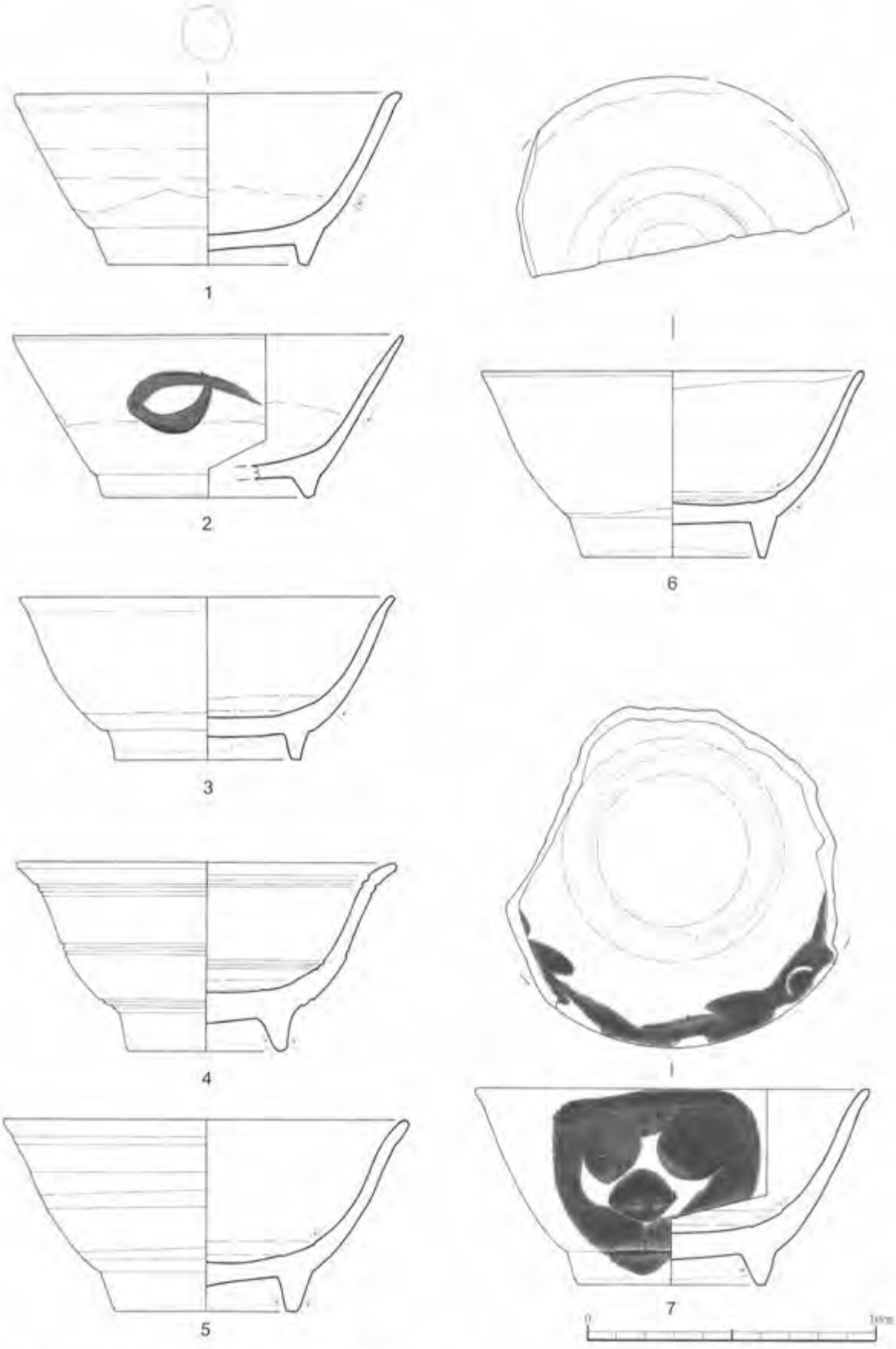
挿図番号 ＰＬ番号	器種	分　類	口径 器高 底径	素　地	釉　種	施釉範囲	特　　徴	出土地
第94図２ PL.39の２	碗	II類Ｂ 有文１ c	13.4 —— ——	黄白色 粗粒子	白化粧＋ 透明釉、 呉須	全施釉	口縁部資料。直口する。 口唇部を呉須で縁取られている。また外面にはスタンプによる草花文が施される。 ヒヤジョー毛遺跡出土の碗と合致した。	１～25号墓間フク土
〃　３ 〃　３	碗	II類Ｂ 有文２ a	12.3 —— ——	赤褐色 細粒子	深緑色釉、 白釉	全施釉	口縁部の破片。直口する。 外面には白釉で菊花の文様が施される。	６号墓フク土
〃　４ 〃　４	小碗	Ｉ類 Ａａ ①	8.8 4.5 3.7	灰白色 粗粒子	白化粧＋ 透明釉	総釉	完形資料。口縁部は直口する。 高台内には白土が掛らず、灰褐色を呈する。 高台脇に指痕が着く。見込みの蛇の目釉剥ぎ部分と畳付けに白土が残る。	22号墓庭フク土
〃　５ 〃　５	小碗	Ｉ類 Ａａ ①	8.7 4.3 3.7	黄白色 粗粒子	白化粧＋ 透明釉	総釉	ほぼ完形資料。口縁部は外反する。 見込みの蛇の目釉剥ぎ部分と畳付けに白土が残る。	４号墓庭フク土
〃　６ 〃　６	小碗	Ｉ類 Ａａ ②	9.0 4.8 3.5	黄白色 粗粒子	外：鉄釉 内：白化粧 ＋透明釉	総釉	ほぼ完形資料。口縁部は稜をもって外反する。 釉境は外面に見られるため、内面施釉後に外面を施釉したと考えられる。見込みの蛇の目釉剥ぎ部分と畳付けに白土が残る。	46号墓フク土
〃　７ 〃　７	小碗	Ｉ類 Ａａ ③	—— —— 3.8	黄白色 粗粒子	外：鉄釉 内：灰釉	外：腰部まで 内：全施釉	底部の破片。 見込みの蛇の目釉剥ぎの部分と畳付けに白土が残る。	12号墓庭
〃　８ 〃　８	小碗	Ｉ類 Ａａ ④	7.6 3.6 3.6	黄白色 細粒子	外：透明釉 内：白化粧 ＋透明釉	総釉	完形資料。口縁部は直口する。 外面には白化粧せず透明釉を掛け、素地の色をそのまま生かす。畳付けに白土が残る。	27号墓庭フク土
〃　９ 〃　９	小碗	Ｉ類 Ａｂ ①	7.9 —— ——	乳白色 微粒子	白化粧＋ 透明釉、 呉須	全施釉	口縁部の破片。微弱に外反する。 外面に呉須で寿文を施す。 表面には細かいアバタが若干見られる。	１号墓庭前方フク土
〃　10 〃　10	小碗	Ｉ類 Ａｂ ②	9.0 4.6 4.0	黄白色 粗粒子	白化粧＋ 透明釉、 呉須	総釉	完形資料。口縁部は外反する。 外面に呉須で菊花の文様を施す。口縁部内面も呉須を塗る。 見込みの蛇の目釉剥ぎ部分と畳付けに白土が残る。	29号墓庭フク土
〃　11 〃　11	小碗	Ｉ類 Ａｂ ②	—— —— 3.5	黄白色 粗粒子	白化粧＋ 透明釉、 呉須	総釉	底部の資料。口縁部は若干欠けているが、外反するものである。 外面に呉須で菊花の文様を描く。口縁部内面に草(？)を巡らし、見込みに圏線及び草花文(？)を施す。 蛇の目釉剥ぎはされていないが、畳付けに白土が残る。	25号墓庭フク土
〃　12 〃　12	小碗	Ｉ類 Ａｂ ②	8.6 4.3 3.6	黄白色 粗粒子	白化粧＋ 透明釉、 呉須	総釉	半欠の資料。口縁部は外反する。 外面に呉須で菊花を、口縁部内面も草(？)の文様を施す。高台脇に指痕がある。 畳付けに白土が残る。	31号墓屋根フク土
〃　13 〃　13	小碗	Ｉ類 Ａｂ ②	8.8 4.2 3.8	黄白色 粗粒子	白化粧＋ 透明釉、 呉須	総釉	半欠の資料。口縁部は外反する。 外面に呉須で菊花を、口縁部内面と見込みにも草(？)の文様を施す。高台脇に指痕がある。 蛇の目釉剥ぎ部分と畳付けに白土が残る。	31号墓屋根フク土
〃　14 〃　14	小碗	Ｉ類 Ａｂ ②	8.5 4.1 3.9	黄白色 粗粒子	白化粧＋ 透明釉、 呉須	総釉	ほぼ完形資料。口縁部は外反する。 外面に菊花の文様を描き、口縁部内面も呉須を塗るが、釉垂れがひどく文様が不明瞭。 高台に指の痕がある。見込みの蛇の目釉剥ぎ部分と畳付けに白土が残る。	16・17号墓間参道
〃　15 〃　15	小碗	Ｉ類 Ａｂ ③	8.5 3.8 4.5	黄白色 粗粒子	白化粧＋ 透明釉、 呉須、 飴釉	総釉	ほぼ完形資料。口縁部は直口する。 外面に呉須と飴釉で印花文を３箇所に施す。 畳付けに白土が残る。	18号墓右垣フク土
第95図１ PL.40の１	小碗	Ｉ類 Ａｂ ③	8.3 3.9 3.4	灰褐色 細粒子	白化粧＋ 透明釉、 呉須、 飴釉	総釉	ほぼ完形資料。口縁部は外反する。 外面に呉須と飴釉で印花文を４箇所に施す。 口縁部内面に重ね焼きの際に着いた呉須が薄く見られる。 蛇の目釉剥ぎ部分と畳付けに白土が残る。	40号墓庭フク土
〃　２ 〃　２	小碗	Ｉ類 Ａｂ ③	8.3 3.9 4.4	灰白色 細粒子	白化粧＋ 透明釉、 呉須	総釉	完形資料。口縁部は直口する。 外面に呉須で印花文を３箇所に施す。飴釉は忘れたのか使用されていない。 蛇の目釉剥ぎ部分と畳付けに白土が残る。	31号墓屋根フク土
〃　３ 〃　３	小碗	Ｉ類 Ａｂ ④	—— —— 3.6	橙白色 粗粒子	白化粧＋ 透明釉、 呉須	総釉	底部破片。 見込みに呉須で花文を施す。その上に付着物。 畳付けに白土が残る。施釉時の指の痕が高台外面に２個所、高台脇に１個所見られる。	19号墓屋根フク土

挿図番号 ＰＬ番号	器種	分類	口径 器高 底径	素地	釉種	施釉範囲	特徴	出土地
第95図 4 PL.40の 4	小碗	Ⅰ類 Ａｂ ④	8.2 —— ——	乳白色 微粒子	白化粧＋ 透明釉、 呉須	全施釉	口縁部の破片。微弱に外反する。 外面に呉須で「比嘉」の名字を施す。 表面には細かいアバタが若干見られる。	6号墓フク土
〃 5 〃 5	小碗	Ⅰ類 Ｂ	8.1 4.3 3.9	黄白色 粗粒子	白化粧＋ 透明釉	総釉	ほぼ完形資料。口縁部は外反する。 外面の面取りは幅1.5cm以上の箆で削っており全部で17の面が形成されている。 蛇の目釉剥ぎ部分に重ね焼時の付着物と白土が、畳付けには白土が見られる。	18号墓庭フク土
〃 6 〃 6	小碗	Ⅰ類 Ｂ	8.3 4.3 3.6	黄褐色 粗粒子	白化粧＋ 透明釉	総釉	ほぼ完形資料。口縁部は外反する。 外面の面取りは幅1.5cm以上の箆で削っており全部で16の面が形成されている。 蛇の目釉剥ぎ部分と畳付けに白土が残る。	4号墓フク土
〃 7 〃 7	小碗	Ⅱ類 Ｂ	8.2 4.6 3.7	乳白色 微粒子	白化粧＋ 透明釉、 呉須	総釉	ほぼ完形資料。口縁部は直口する。 外面に呉須で“銘苅□”の３文字を等間隔に、見込みには“記念”の文字を施す。 蛇の目釉剥ぎは無し。畳付けを丁寧に削っている。	19号墓屋根フク土
〃 8 〃 8	小碗	Ⅱ類 Ｂ	7.9 4.0 4.0	乳白色 微粒子	白化粧＋ 透明釉、 呉須	総釉	ほぼ完形資料。口縁部は直口する。 外面に呉須で“清選”の２文字を対局する位置に施す。 蛇の目釉剥ぎは無し。畳付けを丁寧に削っている。	47号墓庭フク土
〃 9 〃 9	小碗	不明	—— —— 3.9	灰色 細粒子	深緑色釉、 白釉	総釉	底部の破片。 外面には白釉で菊花の文様が施される。 蛇の目釉剥ぎ部分は白土が塗られている。	31号墓庭フク土
〃 10 〃 10	蓋付き碗	蓋	8.6 3.6 7.2	黄褐色 粗粒子	白化粧＋ 透明釉、 呉須	外：全施釉 内：白化粧のみ	ほぼ完形資料。甲部は丸味を帯びる。鍔は短い。ツマミは2.2cm、円柱状で頂部中央が窪む。脚高は0.4cm、脚高と甲部までの比率は18.2％で脚はかなり低い。 呉須でツマミを彩色し、甲部を３条巡らす。	6号墓庭フク土
〃 11 〃 11	蓋付き碗	蓋	7.4 —— ——	灰褐色 粗粒子	白化粧＋ 透明釉、 呉須	外：全施釉 内：白化粧のみ	蓋の破片。甲部はやや丸味を帯びる。鍔は短い。ツマミは欠損。脚高は0.6cm、脚高と甲部までの比率は27.2％で脚は低い。 呉須で甲部に菊花の文様を施す。	不明
〃 12 〃 12	蓋付き碗	身	9.0 6.15 5.4	灰褐色 粗粒子	白化粧＋ 透明釉、 呉須	総釉	ほぼ完形資料。口縁部は直口し、口唇部を平坦に造る。畳付けを斜めに成形。 外面に呉須で菊花の文様を施す。 口唇部の釉だけを剥ぎ、白土を露出させる。 蛇の目釉剥ぎ部分に別の器物が付着し、畳付けに白土が残る。	不明
第96図 1 PL.41の 1	皿	Ⅰ類 Ａ	20.8 6.95 9.4	黄褐色 粗粒子	黒色の釉	外：腰部と高台内 内：胴部と見込み	半欠の資料。口縁部は直口し、口唇部を平坦に造る。 フイガキーによる施釉法だが、内面では見込みに鉄釉で丸文を筆描きし、さらに施釉末端を円になるよう修復して、蛇の目釉剥ぎを真似ている。外面畳も高台内に筆で鉄釉を施す。 畳付けに白土が残る。	42号墓庭外フク土
〃 2 〃 2	皿	Ⅰ類 Ｂ	10.0 3.0 4.9	黄褐色 粗粒子	白化粧＋ 透明釉、 呉須	総釉	はぼ完形資料。口縁部は直口する。口縁部の側面を指で内側に押し、波状に成形する。 内面を呉須で花弁文様を描く。	42号墓庭外フク土
〃 3 〃 3	皿	Ⅱ類 Ｂ	20.1 —— ——	黄白色 粗粒子	白化粧＋ 透明釉、 呉須	総釉	半欠の資料。口縁部は外反する。高台部分の殆どが欠損する。 内面を呉須で菊花の文様を描く。	25号墓庭フク土
〃 4 〃 4	鉢	―	30.2 13.4 10.6	灰白色 細粒子	外：鉄釉 内：白化粧 ＋透明釉	総釉	はぼ完形資料。口縁部は大きく外反する。 見込みの蛇の目釉剥ぎ部分に白土が残る。	42号墓庭外フク土
〃 5 〃 5	水鉢	―	26.3 12.0 12.0	黄白色 細粒子	外：鉄釉 内：白化粧 ＋透明釉	総釉	はぼ完形資料。口縁部は内溝する。 見込みの蛇の目釉剥ぎ部分に白土が残る。	42号墓庭外フク土
第97図 1 PL.42の 1	瓶	Ⅰ類 Ａａ ①	2.0 12.8 5.0	橙褐色 粗粒子	鉄釉	口縁部内面～腰部までと高台内	完形資料。口縁部は直口。高台は削り出し。 釉の発色はやや不良。 腰部に指跡が4つ見られる。	20号墓垣フク土
〃 2 〃 2	瓶	Ⅰ類 Ａａ ①	2.1 10.7 4.3	褐色 細粒子 砂粒混入	濃緑色の釉	口縁内面～高台脇まで	完形資料。口縁部は直口。頸部は肩部への移行部分が最もくびれる。高台は削り出し。	13号墓庭フク土
〃 3 〃 3	瓶	Ⅰ類 Ａａ ②	1.9 17.2 6.5	橙褐色 粗粒子	白化粧＋ 透明釉、 鉄釉、 呉須	口縁内面～高台まで	完形資料。口縁部は直口する。高台は台状の付け高台。 胴上部は白、下部は鉄釉で掛け分ける。白の部分に呉須で草文様を２箇所に描かれる。 畳付けは施釉後、斜めに削って成形している。 高台内は露胎。	6号墓庭フク土

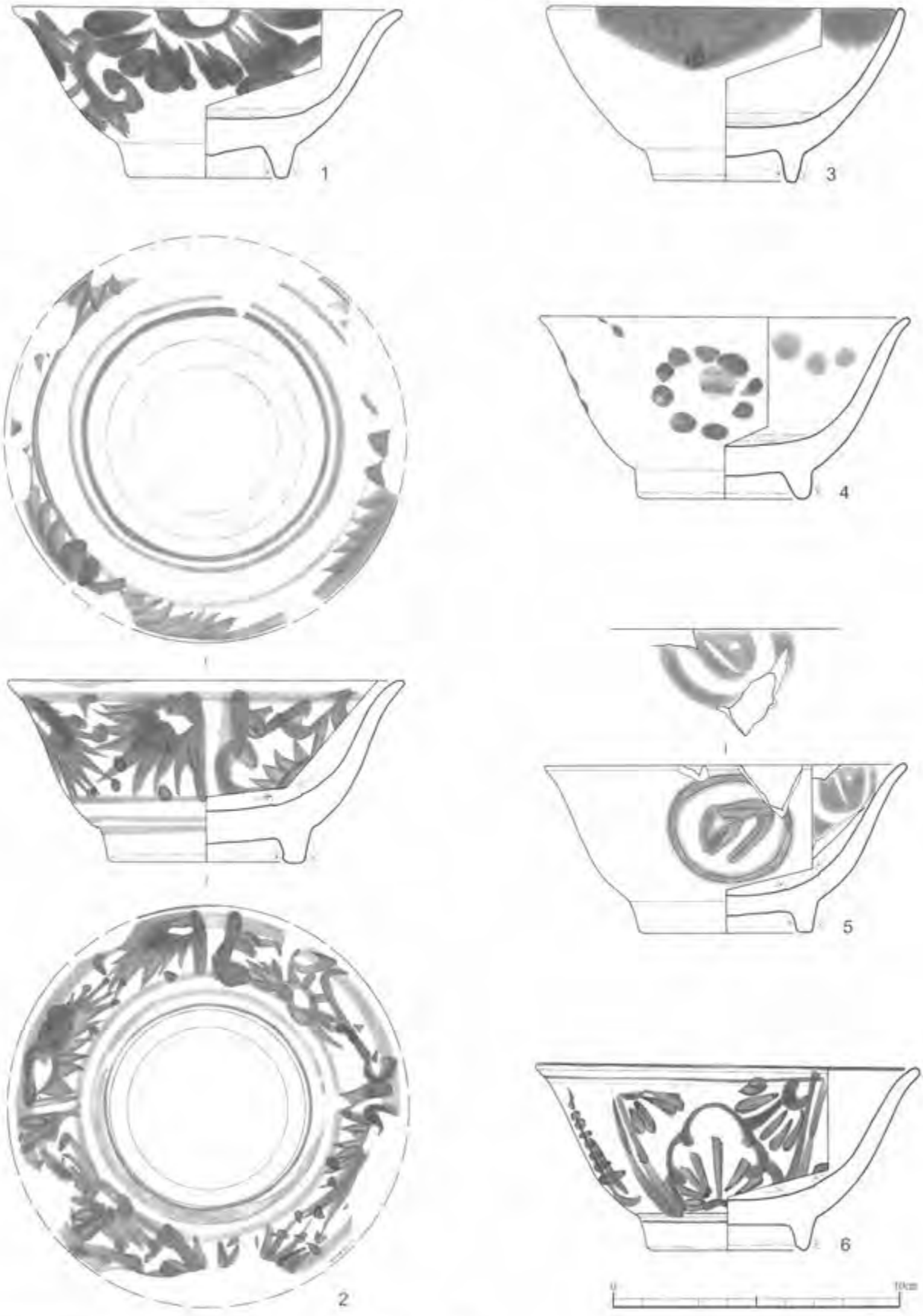
挿図番号 ＰＬ番号	器種	分　類	口径 器高 底径	素　地	釉　種	施釉範囲	特　　徴	出土地
第97図 4 PL.42の 4	瓶	Ⅰ類 Ａｂ ①	3.2 15.9 5.3	乳白色 細粒子	白化粧＋ 透明釉 緑色の釉	外面全施釉	完形資料。口縁部は大きく外反。高台は削り出し。 口縁～頸部は緑色の釉、頸部以下は白化粧＋透明釉を施す。緑色の釉は発色不良。 頸部以下は細かい貫入が有る。	21号墓庭 フク土
〃　5 〃　5	瓶	Ⅰ類 Ａｂ ①	3.4 19.4 6.8	黄白色 粗粒子	鉄釉	外面全施釉	完形資料。口縁部は外反。高台は削り出し。 肩部に１本の沈線を螺旋状に４巻き施す。 口縁部付近の釉が焼成時に剥れて捲れている。 高台脇に指の跡が３つ見られる。 畳付けに付着物がある。	24号墓左 袖墓後方 フク土
〃　6 〃　6	瓶	Ⅰ類 Ａｂ ①	3.0 13.4 5.4	黄白色 粗粒子	白化粧＋ 透明釉、 鉄釉	口縁内面～高台まで	完形資料。口縁部は玉縁状に外反する。 胴上部は白、下部は鉄釉で掛け分ける。白い釉の部分は焼成不良のためアバタ状の器面となる。畳付けは施釉後に釉剥ぎされ、焼成後に削られている。高台内は露胎。	不明
〃　7 〃　7	瓶	Ⅰ類 Ａｂ ②	3.1 12.0 6.0	灰褐色 細粒子	黒色の釉	外面全施釉	完形資料。口縁部は玉縁状の外反である。肩部が張出す。胴部に比べて頸部は細い。底部は台状の付け高台。Ⅰ類Ｆとの中間タイプ 畳付けは施釉後、斜めに削って成形している。	13号墓庭 フク土
〃　8 〃　8	瓶	Ⅰ類 Ａｂ ①	2.7 15.3 5.4	赤褐色 細粒子	白化粧＋ 透明釉 鉄釉 青緑の釉	外面全施釉	完形資料。口縁部は外反。高台は削り出し。頸部は１箇所、団子状に膨らむ。 口縁～膨張部まで青緑色の釉を、それ以下は白い器面である。胴部は無作為に鉄釉と青緑色の釉を施す。	38号墓庭 フク土
第98図 1 PL.43の 1	瓶	Ⅰ類 Ｂ	2.7 11.9 5.7	不明	白化粧＋ 透明釉 青緑の釉	外面全施釉	完形資料。口縁部は直口。腰部が張出す。削り出し高台。 頸部以下に青緑色のゆうを施す。釉垂れがひどく、高台脇で固まりになっている。 畳付けは白土の処理が雑である。	30号墓室 フク土
〃　2 〃　2	瓶	Ⅰ類 Ｂ	2.0 10.1 5.6	黄白色 粗粒子	白化粧＋ 透明釉、 呉須	外面全施釉	完形資料。口縁部は直口。腰部が張出す。削り出し高台。外面に呉須で草文様１箇所を施す。 焼成後、畳付けを雑に削る。高台に部分的に白土が残る。	42号墓庭 フク土
〃　3 〃　3	瓶	Ⅰ類 Ｂ	2.3 9.6 4.5	橙白色 粗粒子	白化粧＋ 透明釉、 呉須、 飴釉	口縁内面～高台脇まで 高台内は白化粧のみ	完形資料。口縁部は直口。腰部が張出す。削り出し高台。 外面に呉須と飴釉を交互に巡らす。 高台脇に指の痕が３箇所見られる。	表採
〃　4 〃　4	瓶	Ⅰ類 Ｂ	2.1 13.4 5.4	黄褐色 細粒子	白化粧＋ 透明釉、 呉須、 飴釉	外面全施釉	完形資料。口縁部は直口。頸部より口縁部の径が大きい。腰部はあまり膨らまない。削り出し高台。 外面に呉須を６条、胴中央部に飴釉を１条巡らす。高台内に砂粒(？)が付着。	37号墓庭 外フク土
〃　5 〃　5	瓶	Ⅰ類 Ｃ	3.0 10.9 5.4	橙白色 細粒子	鉄釉	口縁内面～高台まで	完形資料。口縁部は外反する。肩部はやや丸味を帯びる。底部は削り出し。 釉の発色は不良でかさついている。 底部に指の痕が２箇所着いている。	30号墓庭 フク土
〃　6 〃　6	瓶	Ⅰ類 Ｃ	2.9 12.5 5.4	橙褐色 細粒子	鉄釉	外面全施釉	完形資料。口縁部は外反する。肩部はやや曖昧になる。底部は削り出し。 肩部に3条の沈線がある。釉の発色は不良でかさついている。	18号墓庭 フク土
〃　7 〃　7	瓶	Ⅰ類 Ｃ	3.6 11.4 6.0	橙白色 細粒子	白化粧＋ 透明釉 鉄釉	外面全施釉	完形資料。口縁部は受け口状の外反する。底部は削り出し。 肩部より上が白、以下は鉄釉の掛け分け。 高台内に砂粒が残る。	表採
〃　8 〃　8	瓶	Ⅰ類 Ｄ	3.2 12.0 5.0	赤褐色 細粒子	白化粧＋ 鉄釉	外面全施釉	完形資料。口縁部は外反する。底部は削り出し。頸部は短い。 外面は掻落とし技法で、船と魚の文様を施す。 畳付けは削られて露胎となる。	37号墓庭 蔵骨器集積
第99図 1 PL.44の 1	瓶	Ⅰ類 Ｅ ①	4.6 16.4 6.9	不明	白化粧＋ 透明釉 呉須、 飴釉	口縁内面～高台脇まで 高台内は白化粧のみ	完形資料。口縁部は大きく外反する。高台は高さのある台状の付け高台。 外面は呉須と飴釉を巡らす。 口縁部に若干付着物が、胴中央部に気泡によって剥がれた部分と砂粒が見られる。	28号墓庭 フク土
〃　2 〃　2	瓶	Ⅰ類 Ｅ ②	4.6 17.8 7.8	黄白色 粗粒子	白化粧＋ 透明釉 呉須	口縁内面～高台まで	ほぼ完形資料。口縁部は大きく外反する。高台は袴状の付け高台。 外面は呉須で四つ葉の文様と対局する面に“大”の字が施される。 口縁部に若干付着物が見られる。	24号墓庭 外フク土
〃　3 〃　3	瓶	Ⅰ類 Ｅ ①	—— —— 7.0	黄白色 粗粒子	白化粧＋ 透明釉 呉須、 飴釉	口縁内面～高台脇まで 高台内は白化粧のみ	底部資料。高台は台状の付け高台。 外面に６本の沈線とその間に無作為な短斜線を施し、呉須と飴釉を上から交互に施釉する。	22号墓庭 フク土

挿図番号 ＰＬ番号	器種	分類	口径 器高 底径	素地	釉種	施釉範囲	特徴	出土地
第99図 4 PL.44の 4	瓶	Ⅰ類 F ①	6.1 12.9 5.6	灰白色 微粒子	透明釉	口縁内面～腰部まで	ほぼ完形資料。口縁部は大きく外反する。頸部は太い。削り出し高台。頸部に耳が２個付くが、１個は欠損。 頸部から肩部に至る部分に段を持つ。内面の轆轤痕は明瞭。外面の器面調整は丁寧である。	43号墓室内
〃 5 〃 5	瓶	Ⅰ類 F ①	—— —— 5.2	橙白色 粗粒子	白化粧＋透明釉 青緑の釉		底部資料。削り出し高台。 頸部～胴中央部まで青緑の釉を、以下は白化粧＋透明釉を掛け分けする。高台内は露胎。	42号墓庭外フク土
〃 6 〃 6	瓶	Ⅰ類 F ①	7.0 16.1 6.9	赤褐色 細粒子	白化粧＋透明釉 鉄釉、 青緑の釉	外面全施釉	ほぼ完形資料。口縁部は大きく外反する。頸部は太い。台状の付け高台。頸部に耳が２個付くが、１個は欠損。 底部～胴中央まで鉄釉を、それより上は白化粧＋透明釉を掛け、さらに青緑の釉を施す。	30号墓庭フク土
第100図 1 PL.45の 1	瓶	Ⅱ類 A	4.9 20.5 7.6	赤褐色 細粒子	鉄釉	外面全施釉	完形資料。大型で甕算型を呈する。口縁部は外反する。肩部に比べ頸部は太く、全体的にズングリしている。底部は削り出し。 釉の発色は不良で腰部以下が斑になる。	21号墓庭フク土
〃 2 〃 2	瓶	Ⅱ類 B	3.3 20.0 6.4	橙白色 粗粒子	鉄釉	外面全施釉	完形資料。口縁部は外反。口縁部～頸部は斜めにひずんでいる。底部は削り出し。 胴中央部に２条の沈線を施す。 釉の発色は一部不良。	14号墓庭フク土
〃 3 〃 3	瓶	Ⅱ類 C	—— —— 5.3	乳白色 細粒子	白化粧＋透明釉	外面全施釉	底部資料。削り出し高台。肩部から上は欠損するが、肩部は屈曲するものと思われる。 胴部には白化粧されず、細刻の格子文様と１条の圏線を施す。腰部に１本螺旋状の沈線。 高台内に砂粒が付着。	38号墓庭フク土
〃 4 〃 4	酒注	Ⅰ類	3.8 8.8 7.1	灰白色 細粒子	鉄釉	外面全施釉	ほぼ完形資料。口縁部はやや受け口状の外反。畳付けを斜めに成形する。注口の先端は破損。 畳付けに砂粒が付着。	38号墓庭フク土
〃 5 〃 5	酒注	Ⅰ類 有文	—— —— 8.0	灰白色 微粒子	白化粧＋透明釉、 呉須、 鉄釉	底部以外全て	ほぼ完形資料。口縁部～頸部と注口の先端は欠損する。 呉須と鉄釉を縦位へ交互に塗り分ける。	19号墓屋根フク土
〃 6 〃 6	酒注	Ⅱ類 無文	2.6 11.35 5.7	灰白色 微粒子	薄い鉄釉	底部以外全て	ほぼ完形資料。胴部の３分の１を欠損する。口縁部は端部が折れ曲がる。底部は削り出し輪高台。器壁は薄い。底部に砂が付着している。	37号墓庭外フク土
〃 7 〃 7	酒注	Ⅱ類	3.8 8.8 7.1	灰色 微粒子	白化粧＋透明釉	外面全施釉	完形資料。口縁部は受け口状の外反。畳付けを斜めに成形する。 胴部の殆どに縦位の刻文を施すが、注口と対局する面に草の文様施文する。	38号墓庭フク土
第101図 1 PL.46の 1	水注		7.4 11.9 8.6	黄白色 粗粒子	鉄釉	外：底部以外全て 内：白化粧のみ	ほぼ完形資料。大型で脚付き。 身と注口の注ぎ口の接続部は３孔穿つ。 口縁部は釉剥ぎされる。釉の発色は不良。	20号墓庭フク土
〃 2 〃 2	水注	蓋	4.2 2.4 ——	黄白色 粗粒子	白化粧＋透明釉、 呉須、 薄い鉄釉	外：全て 内：白化粧のみ	完形資料。ツマミは円柱型。甲部の形状は直線的。 鈕付近に１本の圏線と線彫りによる文様を施した後、呉須や鉄釉で色をつける。ツマミの横に１孔穿つ。	19号墓庭フク土
〃 3 〃 3	水注	身	5.1 7.5 ——	黄白色 粗粒子	白化粧＋透明釉、 呉須、 薄い鉄釉	外：底部以外全て 内：白化粧のみ	ほぼ完形資料。口縁部はほぼ垂直に立ち上がる。３つの脚付き。把手は三角形状。 外面は線彫りの上に呉須と飴釉を施す。 口唇及び口縁内面は釉剥ぎされている。	19号墓庭フク土
〃 4 〃 4	水注	蓋	4.0 2.95 ——	黄白色 粗粒子	白化粧＋透明釉	外：全て 内：白化粧のみ	完形資料。ツマミは円柱型。ツマミの横に１孔穿つ。	16号墓参道
〃 5 〃 5	水注		5.0 6.9 8.0	黄白色 粗粒子	白化粧＋透明釉、 白化粧＋呉須	外：底部以外白化粧＋呉須 内：白化粧＋透明釉	半欠だが全形が窺える資料。胴上部で折れ曲がり、肩部を造る。口縁部は受け口状。把手は三角形状。脚付きだが２足を失う。 把手に重ね焼時の別容器が付着している。 蓋の受け部は釉剥ぎされている。	25・26号墓庭フク土
〃 6 〃 6	水注		—— —— ——	灰白色 細粒子	黒褐色の釉	全施釉	沖縄方言で“アンビン”と呼ばれる大型水注の弦の資料である。 断面形は三日月形である。 釉の発色は良好である。	43号墓庭フク土
〃 7 〃 7	水注		10.0 —— ——	灰白色 細粒子	黒褐色の釉	全施釉	沖縄方言で“アンビン”と呼ばれる大型水注の口縁部資料である。口縁部は垂直に立ち上がる。 口唇部の釉は剥ぎ取られている。釉の発色は良好である。	１～４号墓前方フク土
〃 8 〃 8	水注		—— —— ——	灰白色 細粒子	黒褐色の釉	全施釉	沖縄方言で“アンビン”と呼ばれる大型水注の注口部分である。先端は欠けている。 釉の発色は良好である。	19号墓屋根フク土

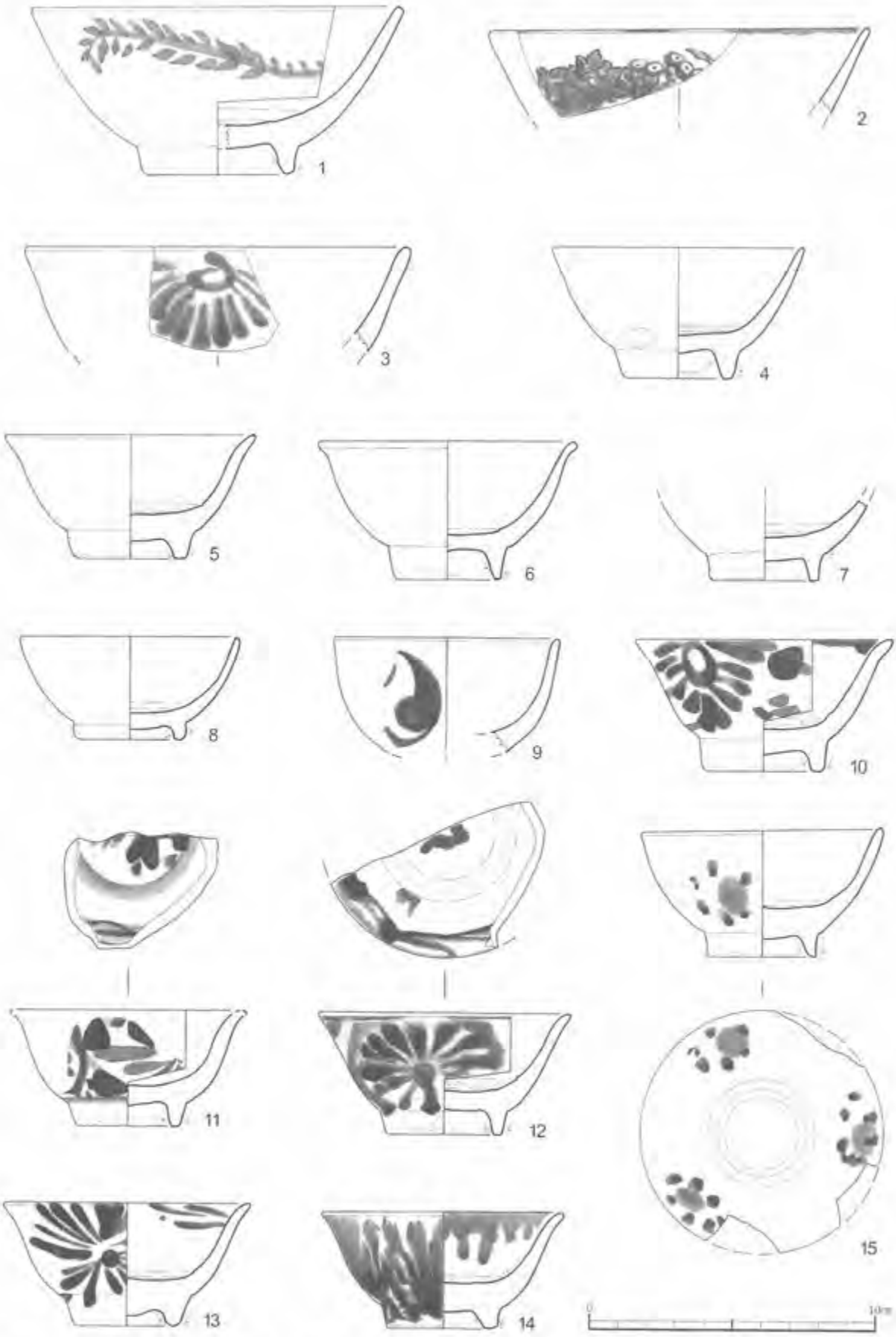
挿図番号 ＰＬ番号	器種	分類	口径 器高 底径	素地	釉種	施釉範囲	特徴	出土地
第102図 1 PL.47の 1	火入れ	Ⅰ類	—— —— 7.8	橙褐色 粗粒子	鉄釉	外:底部以外全て 内:胴上部のみ、以下露胎。	口縁部を欠く資料。高台は低い。高台脇から直に立ち上がる筒型。 高台内に焼成時のヒビが見られる。 釉の発色は不良で、カサ付いている。	43号墓フク土
〃 2 〃 2	火入れ	Ⅱ類	9.0 8.2 6.5	灰白色 細粒子	白化粧＋透明釉、呉須	外：腰部まで 内：白化粧のみ	完形資料。口縁部は内溝する。腰折れ型。 口縁部外面を呉須で縁取る。 口唇部と畳付けに白土が残る。また畳付けには付着物を削り取った痕が見られる。	14号墓室
〃 3 〃 3	鍋の蓋		6.6 3.8 13.8	橙褐色 粗粒子	鉄釉	外：口縁部から ツマミ付近まで 内：口縁部周辺	全形の分かる資料。甲部は曲線的である。 内面に目砂痕が僅かに残る。釉の発色は不良。	29号墓庭フク土
〃 4 〃 4	鍋		14.0 —— ——	灰白色 粗粒子 黒色鉱物混入	鉄釉	外：口唇部から 胴上部まで 内：胴部以下	口縁部資料。口縁部はくの字状に折れ曲がる。 口縁部直下に把手の一部が残る。 蓋の受け口部は釉が剥ぎ取られている。内面は轆轤痕が明瞭に残る。	31号墓庭フク土
〃 5 〃 5	火炉		13.3 —— ——	橙褐色 粗粒子	鉄釉	外：全施釉 内：口縁部のみ	口縁部資料。口唇部は平坦。火窓の一部分が見られる。口縁部内面には先端のせり上がった突起が付く。外面には獣面の把手が付く。 口唇部の釉を剥ぎ取り、白土を塗る。釉の発色は不良。	27号墓庭フク土
〃 6 〃 6	灯明具	無文	5.4 5.15 3.0	黄白色 粗粒子	白化粧＋透明釉、呉須	底部以外全施釉	ほぼ完形資料。口縁部は内溝。 外底面に１孔と糸切り痕が明瞭に残る。 口唇部を呉須で縁取る	27号墓庭フク土
〃 7 〃 7	香炉		11.4 6.8 9.0	黄白色 細粒子	緑色の釉	口縁内面～腰部まで	ほぼ完形資料。 底部は丸く、足を３足を付ける。短足のため外底中央が地につき、不安定である。 足の裏に若干白土が付着。	27号墓庭フク土
〃 8 〃 8	香炉		17.05 10.0 10.5	黄白色 細粒子	灰釉	口縁内面～高台脇まで	ほぼ完形資料。 高台に足を３足を付けるものと思われる。 釉は細かい貫入がある。 内面に若干の付着物有り。	２号墓前方フク土
第103図 1 PL.48の 1	小壺	無文	—— —— 3.1	灰色 細粒子	黒褐色の釉	底部付近までと底部中央	口縁部を欠く資料。胴中央がくの字状に折れる。底部は碁笥底である。 胴下半部から底部まで付着物が多く見られる。	19号墓屋根フク土
〃 2 〃 2	小壺	無文	—— —— 4.0	灰白色 微粒子	飴色の鉄釉	外：腰部まで 内：無釉	底部～頸部付近の資料。胴中央が大きく膨らむ。外底の造りは中央へやや斜めにせり上がる形状である。内面は轆轤痕が明瞭である。	46号墓フク土
〃 3 〃 3	猪口	無文	4.2 2.5 2.1	灰白色 微粒子	透明釉	外：腰部まで 内：全施釉	完形資料。口縁部はやや外反する。 内面に気泡による膨張部が、外面には付着物が僅かにある。	18号墓庭フク土
〃 4 〃 4	猪口	無文	3.7 1.9 1.8	灰白色 微粒子	透明釉	総釉	完形資料。口縁部は稜をもって外反する。 施釉後に畳付けを釉剥ぎする。 畳付けに付着物が僅かに見られる。	28号墓庭フク土
〃 5 〃 5	猪口	無文	3.5 1.9 1.6	灰白色 微粒子	透明釉か灰釉	外：腰部まで 内：全施釉	完形資料。口縁部は外反する。 釉の発色が悪く、色調は淡褐色を呈する。	38号墓庭フク土
〃 6 〃 6	猪口	有文	3.7 1.9 1.8	乳白色 細粒子	透明釉	外：腰部まで 内：全施釉	完形資料。口縁部はやや外反する。 口縁部内面～口唇部に呉須を施す。	27号墓庭フク土
〃 7 〃 7	猪口	有文	3.4 1.9 1.6	灰白色 微粒子	透明釉 鉄釉	外：腰部まで 内：全施釉	完形資料。口縁部は外反する。 外面に鉄釉で水玉模様を描く。	38号墓庭フク土
〃 8 〃 8	猪口	有文	3.1 1.7 1.7	乳白色 微粒子	透明釉 呉須	外：腰部まで 内：全施釉	完形資料。口縁部は外反する。 外面に呉須で斜めの縞模様を描く。	25号墓庭フク土
〃 9 〃 9	猪口	有文	4.8 2.9 2.3	灰褐色 細粒子	白化粧＋透明釉、呉須、茶色の釉	総釉	完形資料。口縁部は外反する。 外面を彫刻刀などで削り、３魚文を浮き立たせ、呉須や茶色の釉で色付けをしている。 見込みに付着物がある。	25・26号墓庭フク土



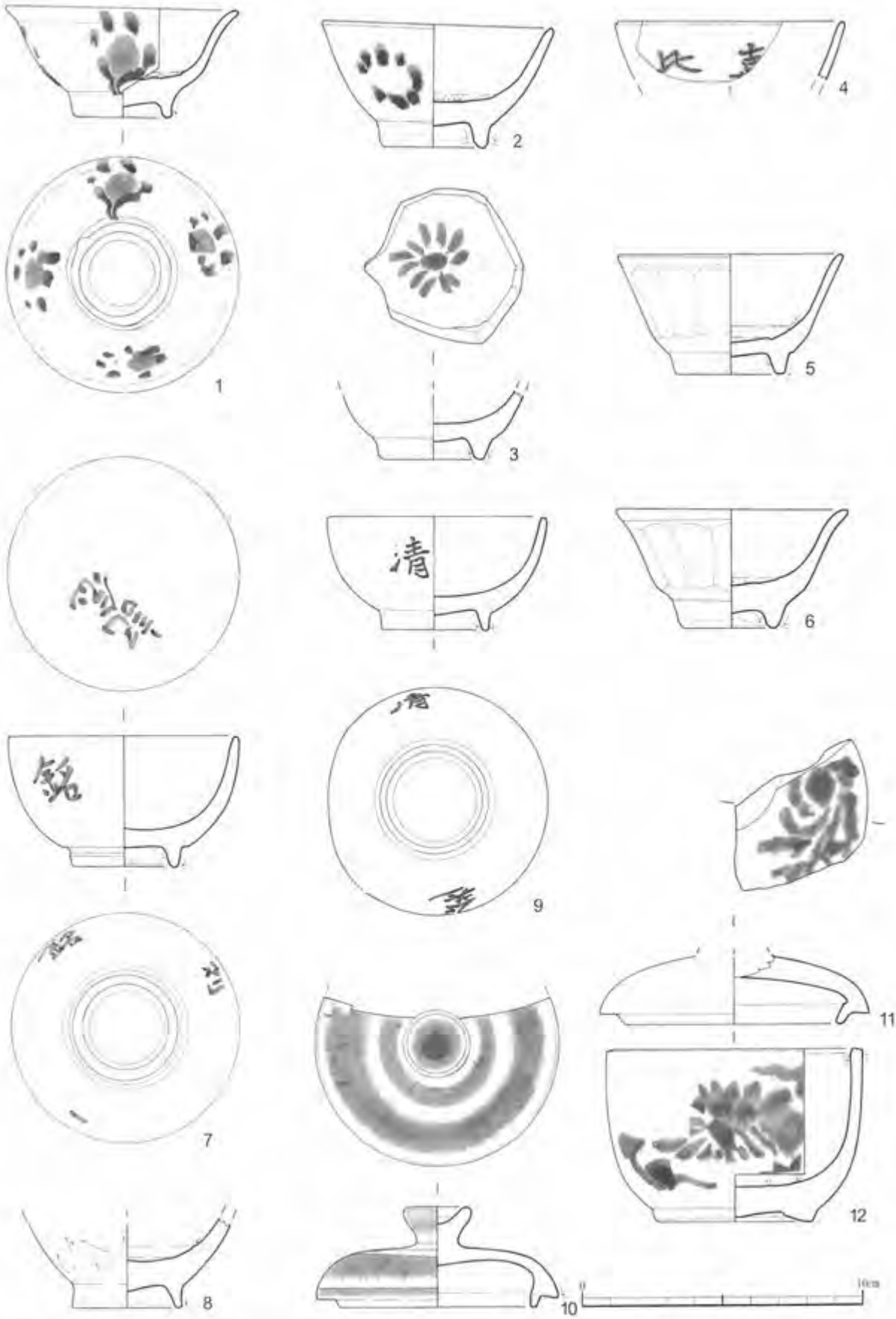
第92図(PL.37)　沖縄産施釉陶器〔B地区〕：碗



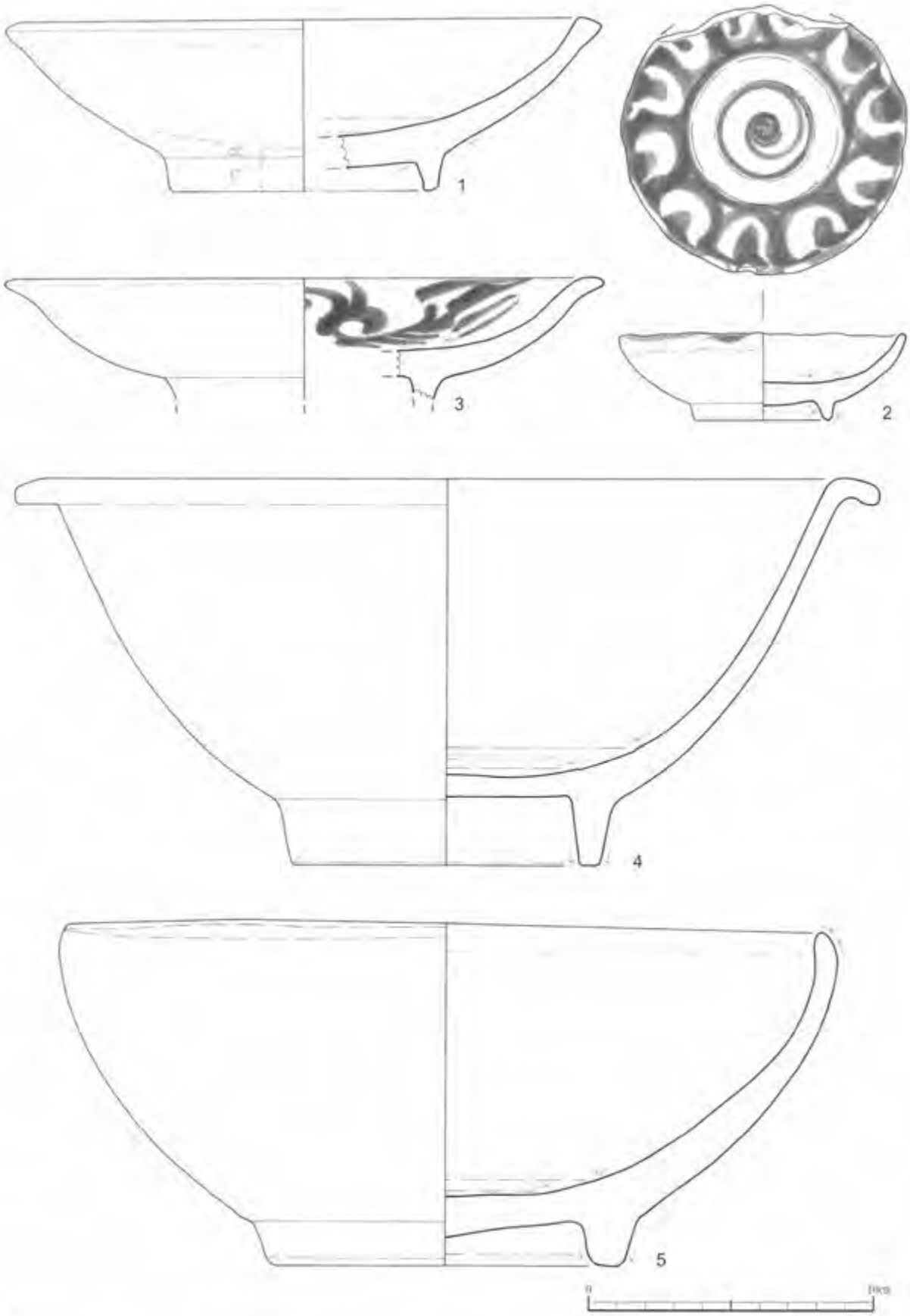
第93図(PL.38)　沖縄産施釉陶器〔B地区〕：碗



第94図(PL.39)　沖縄産施釉陶器〔B地区〕：碗(1～3)、小碗(4～15)

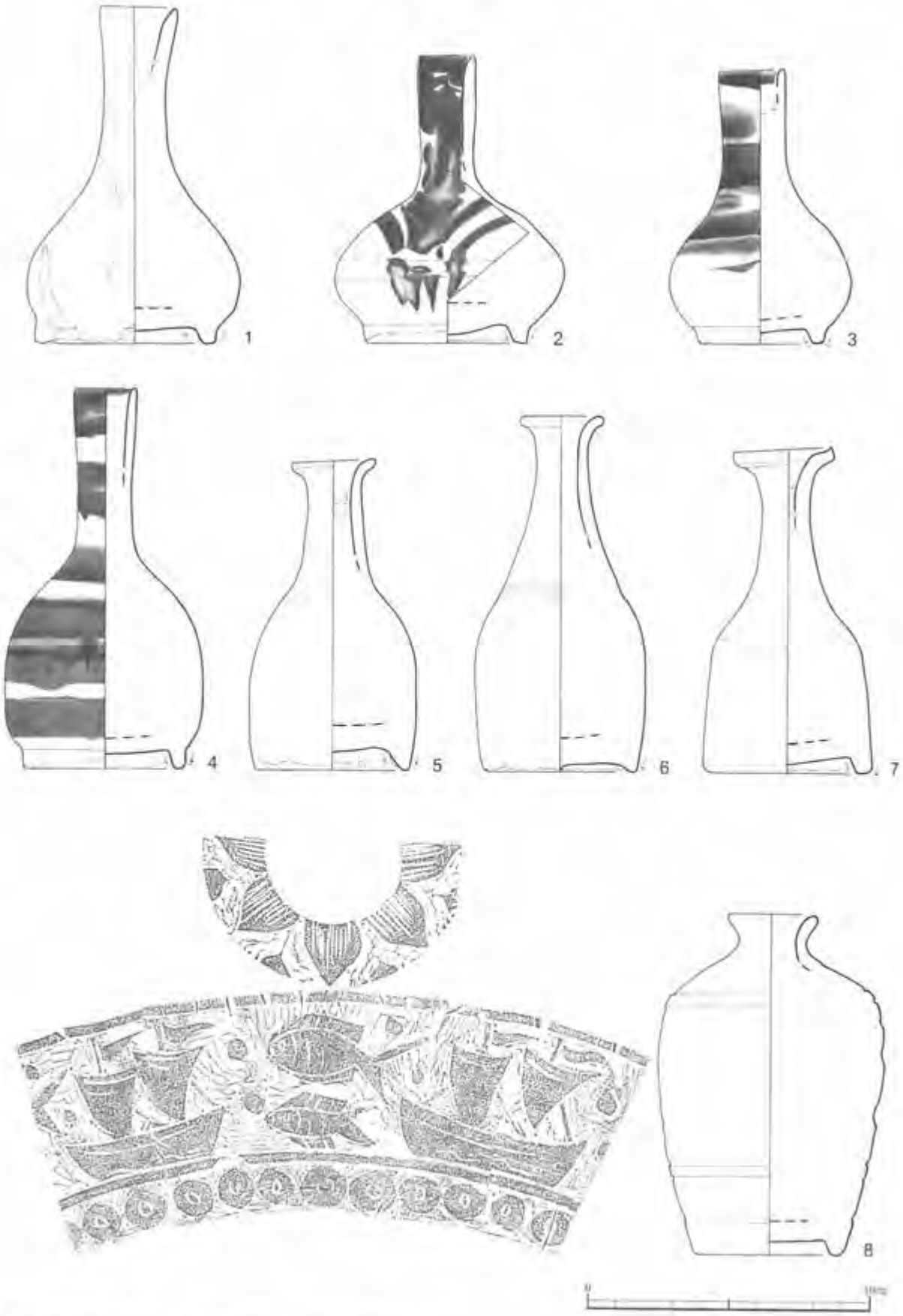


第95図(PL.40)　沖縄産施釉陶器〔B地区〕：小碗(1～9)、蓋付碗(10～12)

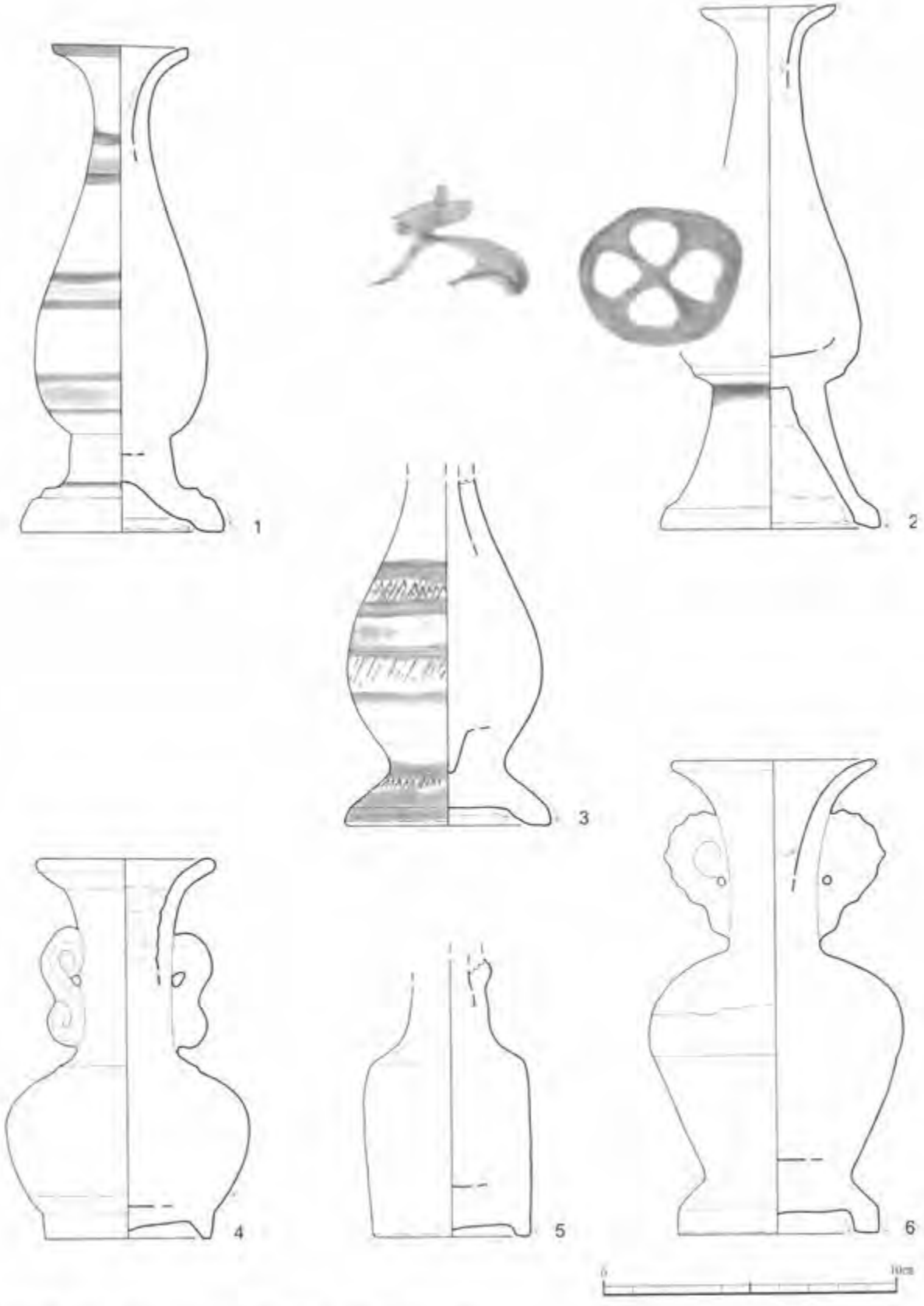


第96図(PL.41)　沖縄産施釉陶器〔B地区〕：皿(1～3)、鉢(4)、水鉢(5)

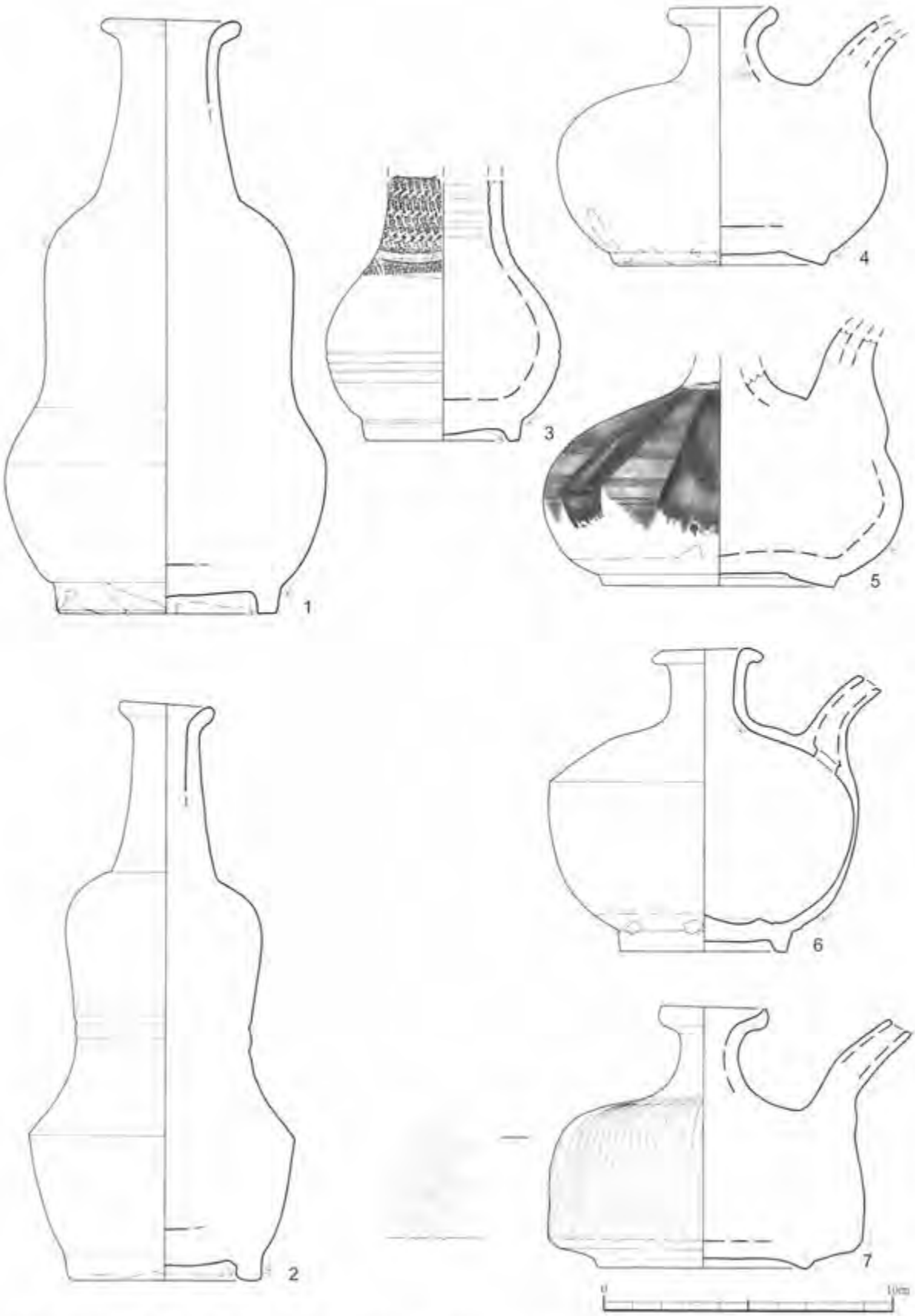
第97図(PL.42)　沖縄産施釉陶器〔B地区〕：瓶



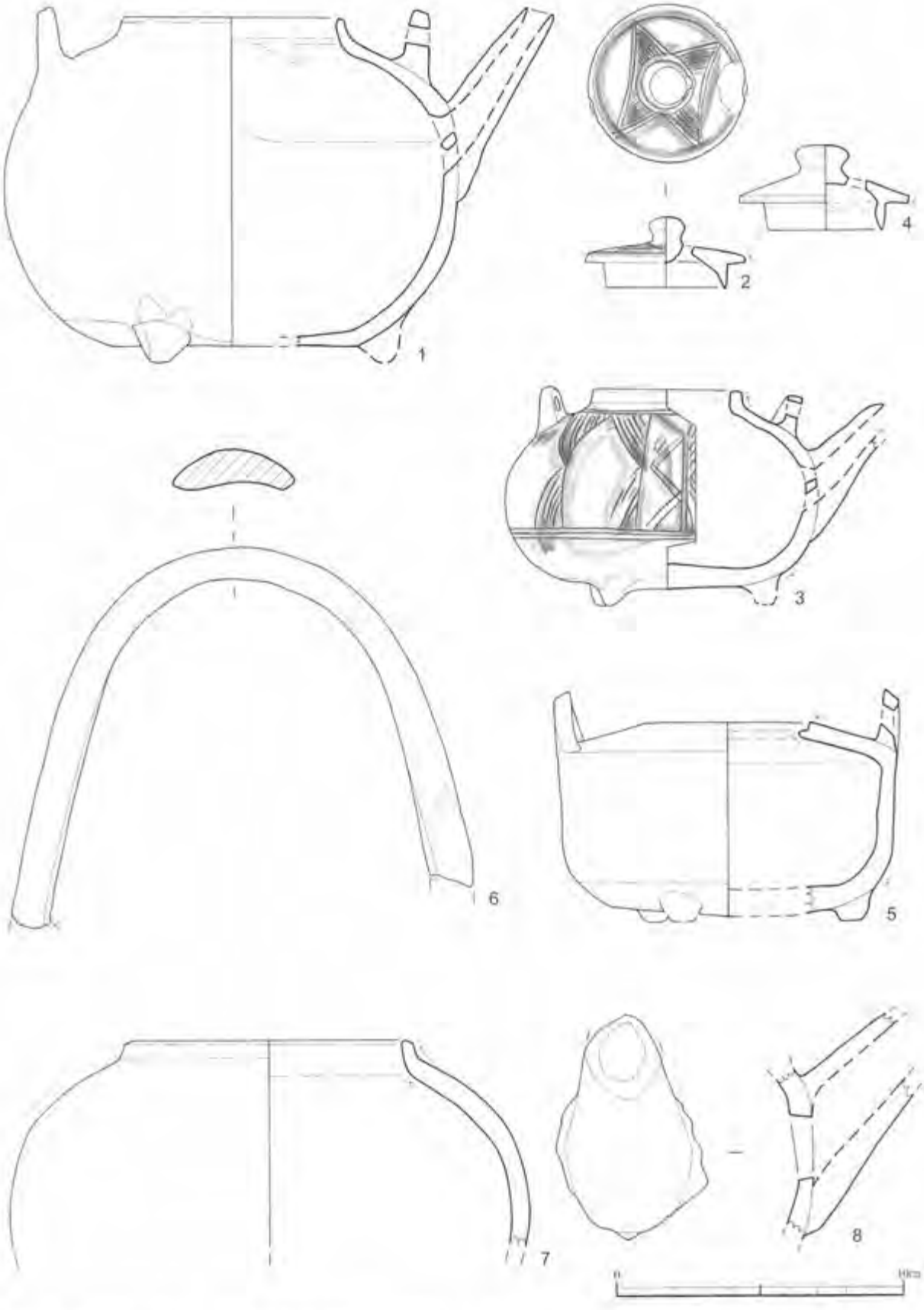
第98図(PL.43)　沖縄産施釉陶器〔B地区〕：瓶



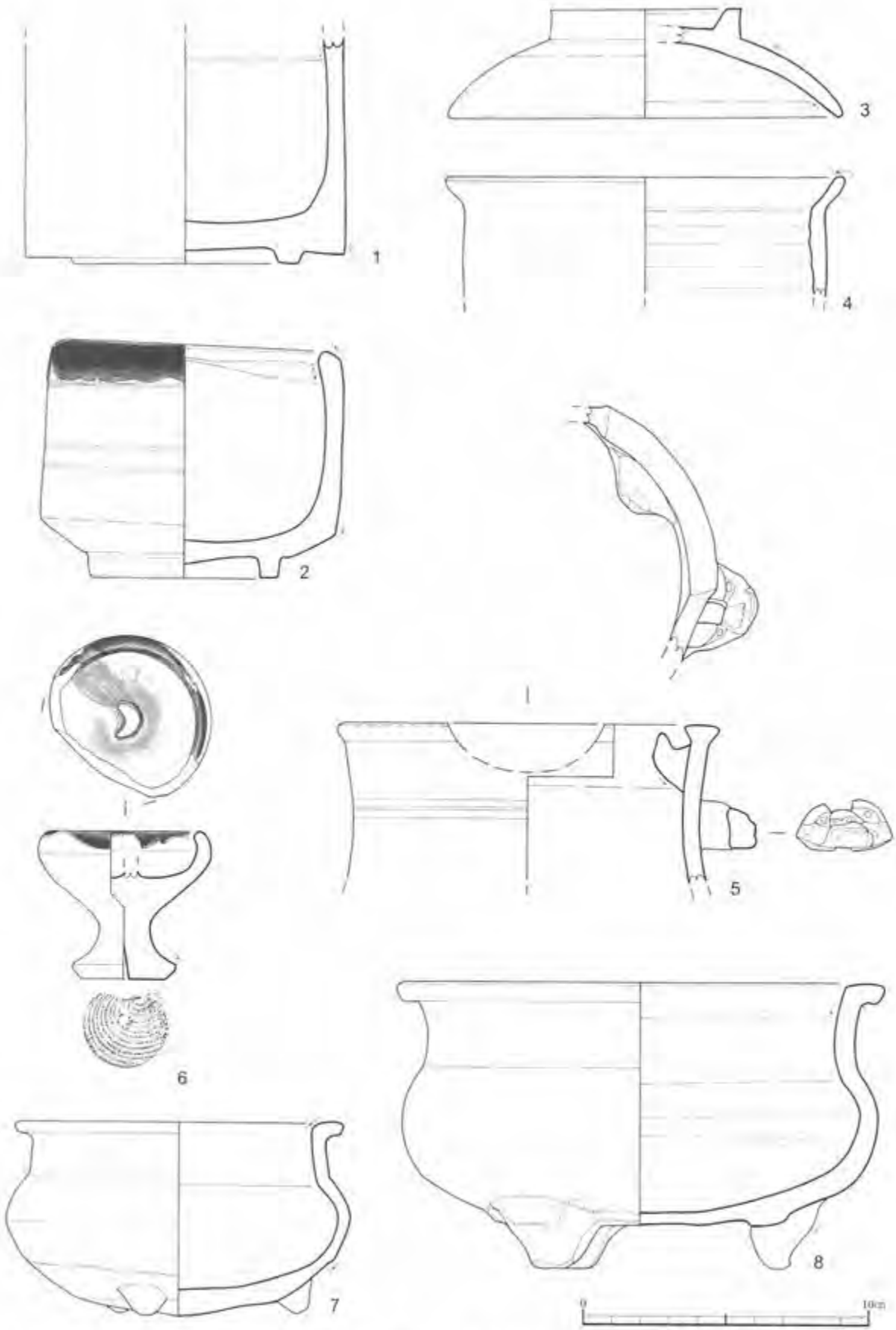
第99図(PL.44)　沖縄産施釉陶器〔B地区〕：瓶



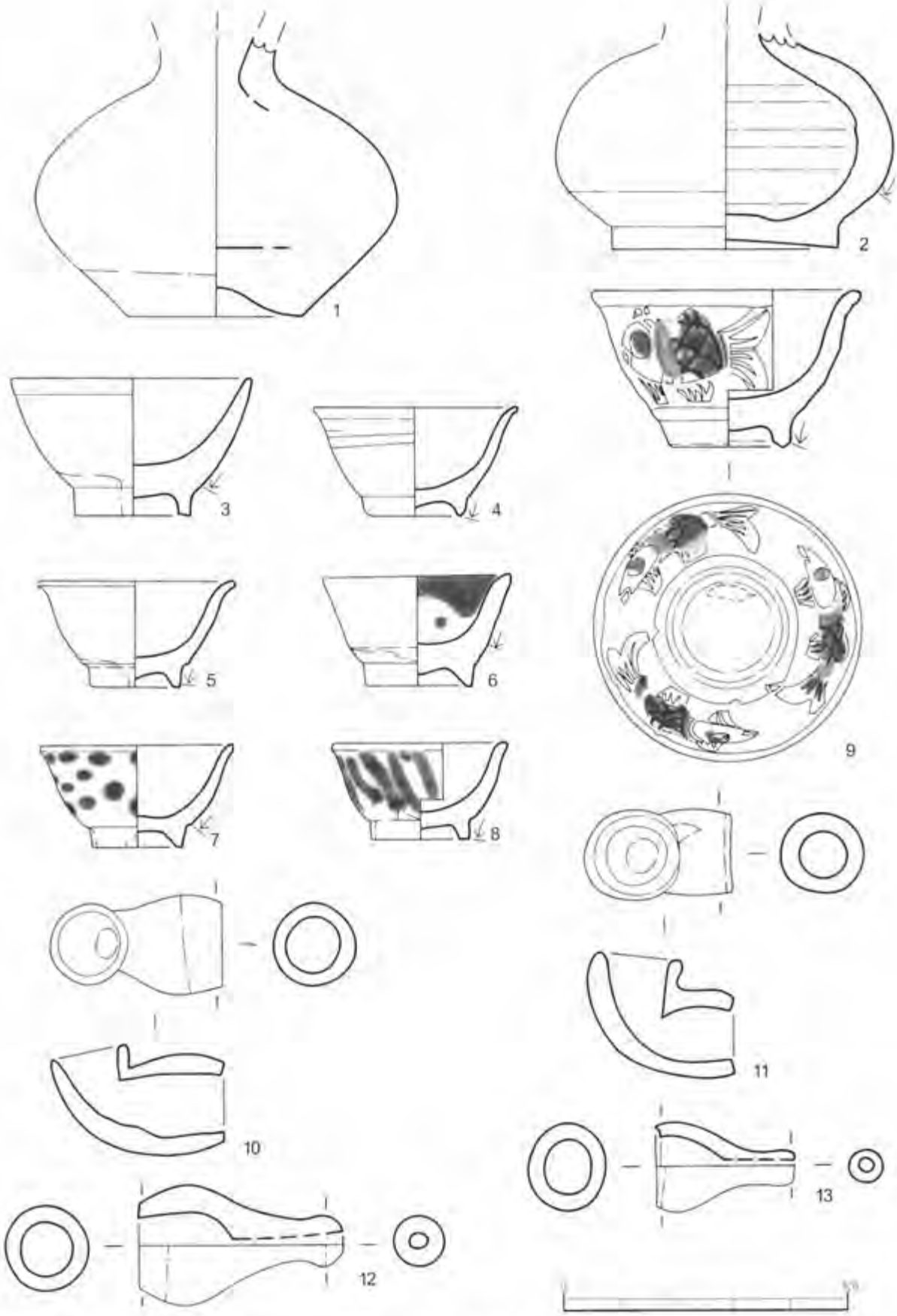
第100図(PL.45)　沖縄産施釉陶器〔B地区〕：瓶(1～3)、酒注(4～7)



第101図(PL.46)　沖縄産施釉陶器〔B地区〕：水注(1～5)，あんびん(6～8)



第102図(PL.47)　沖縄産施釉陶器〔B地区〕：火入れ(1・2)、鍋(3・4)、火炉(5)
灯明具(6)、香炉(7・8)



第103図(PL.48)　沖縄産施釉陶器〔B地区〕；小壺(1・2)、猪口(3～9)、壁管(10～13)

2．E地区の施釉陶器

本地区出土遺物の総数は800点余で、B地区同様、碗、小碗、瓶の順に多い（第9表）。これらの器形的特徴や分類基準についての詳細はB地区での項に譲ることとし、本項では主に出土状況について記述する。

碗（第104図～第105図1～5）

I類はA①の灰釉碗のみが出土している。

II類A無文タイプでは白い器面のものが多かった。しかし、B地区にはない蛇の目釉剝ぎの施された標品も1点検出された。この種の灰釉碗は報告例が少ない。掛け分けされた資料は白＋鉄釉が数点あるのみである。

II類Bの有文1は殆ど出揃うが、巴文碗の明確な資料は少なかった。有文2は得られていない。その他の文様については四種類が確認されたので、全て抜き出し図化した。

小碗（第105図6～10第106図1～4）

小碗は白い器面のものが多くを占める。I類Aでは白のほかに白＋鉄釉の掛け分けと印花文様の資料が僅かながら見られる。またI類Bの面取り小碗は、唯一外面を鉄釉に掛け分けされた資料が本地区で得られた。II類も無文が1点出土した。

蓋付碗（第106図5～10）

出土数は遺跡全体から見てもかなり少ない。しかし、本地区では17号墓庭の左側遺物集積から身と蓋がセットで二対、20号墓庭で一対が出土している。前者は二対とも白化粧して透明釉を施すものである。湯飲み茶碗と思われるが、同図9は焼成中に生じた亀裂があり、液体を入れるには適さない。儀礼的な性格を感じさせる標品である。

皿（第106図11・12）

図示した無文皿のみが完形品で、他は全て破片であった。殆どI類であるが、II類も僅かながら見られる。

鉢（第106図13）

“ワンブー”と呼ばれるものである。穿孔された高台を持つものが希に見られる。本地区では1点確認された。

瓶（第107図～第110図1～4）

I・II類とも全て出揃う。しかしI類Fの太頸タイプが他種に比べ少ない傾向にある。II類Bは、肩部は丸く、腰部が角張る。本種には象嵌手法を用いたもの（第110図3）も1点であった。

酒注（第110図５～７）

全形の窺える資料は図に示した３点のみで、この内II類は本品だけである。

水注（第111図１～８）

Ｉ類Ａの脚付き、Ｂの脚無しの両方が得られた。Ｂについては蓋付きである。これも17号墓庭左側遺物集積の中からの出土であり、白い器色であることから、先述の蓋付き碗とセットの可能性がある。

“アンビン”の出土は無かった。

火入れ（第111図９・10）

Ｉ類ストレートタイプ、II類腰折れタイプの完形品が、13号墓庭左側溝遺構からそれぞれ１点ずつ出土した。

火炉（第112図１）

全形は分からないものの、口縁部～胴部までの復元可能な資料が１個体得られた。口縁形態はＢ地区のものと同様、口唇部は平坦で、火窓と内面に五徳状の突起を有するものである。しかし口縁部以下は直線的に延び、胴中央部より急激に膨らんで、下半部へと至る。香炉に似た形である。また胎土は灰白色の微粒子で、器壁が厚く重い。このような施釉の火炉は珍しく例がない。今後の類例資料を俟ちたい。

香炉（第112図２）

本地区での出土点数は少なく、２点のみであった。双方脚付きである。

猪口（第113図１～10）

10点得られた。皆無文である。全て実測図に示した。

煙管（第113図11～14）

雁首と吸口がそれぞれ２点ずつ検出されたが、セットとなるものはなかった。いずれもそれぞれＩ・II類の範疇に含まれる。

第９表　Ｅ地区　沖縄産施釉陶器観察一覧

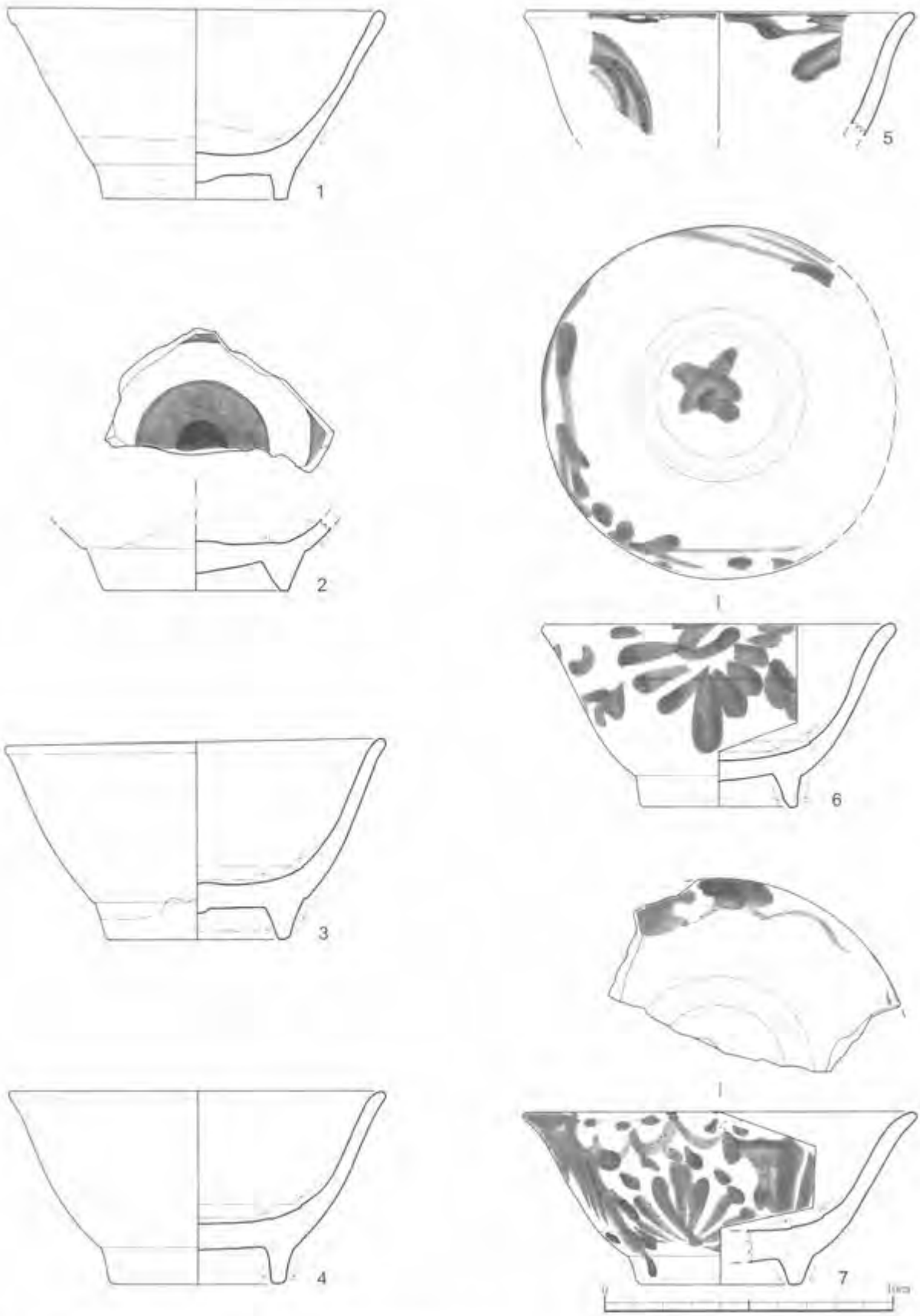
挿図番号 ＰＬ番号	器種	分　類	口径 器高 底径	素　地	釉　種	施　釉　範　囲	特　　徴	出土地
第104図 1 PL.49の 1	碗	Ⅰ類 Ａ①	14.6 6.1 6.6	灰色 細粒子	灰釉	腰部近くまで	ほぼ完形資料。口縁部は直口する。 口縁直下を幅約1.5cmの帯状に削りを入れる。 釉の発色は不良。 見込みと畳付けに目砂が残る。	19号墓庭 フク土
〃　2 〃　2	碗	Ⅱ類 Ａａ ③	12.8 6.7 6.0	灰白色 細粒子	透明釉	総釉	ほぼ完形資料。口縁部は微弱に外反する。蛇の目釉剥ぎの部分と畳付けに白土が残る。口唇部と胴部に若干呉須が付着する。	15号墓外 参道
〃　3 〃　3	碗	Ⅱ類 Ａｂ ①	13.2 7.0 6.2	橙白色 粗粒子	外:鉄釉 内:白化粧 ＋透明釉	総釉	ほぼ完形資料。口縁部は外反する。 内面は釉の発色が不良で、表面はカサつき黒ずんでいる。指の痕が高台脇に２個所見られる。 畳付けに白土が残る。	15号墓外 参道
〃　4 〃　4	碗	Ⅱ類 Ａｂ ②	—— —— 6.6	赤褐色 細粒子	外:鉄釉 内:灰釉	外：腰部まで 内：全施釉	底部の破片。 外面はフイガキーによる施釉法だが、内面は全施釉し蛇の目釉剥ぎを行なう。	15号墓外 参道
〃　5 〃　5	碗	Ⅱ類 Ｂａ ①	12.6 —— ——	赤褐色 細粒子	白化粧＋ 透明釉 呉須？	全施釉	口縁部資料。口縁部は外反する。 外面に巴文と内面に草文の一部が見られる。	１号墓庭 フク土
〃　6 〃　6	碗	Ⅱ類 Ｂａ ②	12.2 5.4 6.3	赤褐色 細粒子	白化粧＋ 透明釉 呉須？	総釉	ほぼ完形資料。口縁部は外反する。 外面に菊花の文様、口縁部内面と見込みに草文を施す。文様の釉は淡緑色を呈するが、呉須の発色不良のためなのかは不明。蛇の目釉剥ぎ部分と畳付けに白土が残る。	15号墓庭 左側遺物 集積
〃　7 〃　7	碗	Ⅱ類 Ｂａ ②	13.2 6.0 6.3	黄白色 粗粒子	白化粧＋ 透明釉 呉須	総釉	半欠の資料。口縁部は外反する。 呉須で外面に菊花の文様、口縁部内面に草文を施す。 蛇の目釉剥ぎ部分と畳付けに白土が残る。	23・24号 墓フク土
第105図 1 PL.50の 1	碗	Ⅱ類 Ｂａ ②	14.0 6.4 6.5	黄白色 粗粒子	白化粧＋ 透明釉 呉須	総釉	ほぼ完形資料。口縁部は外反する。 外面は呉須で菊の花を２個所に施す。細筆による絵付け。 蛇の目釉剥ぎ部分と畳付けに白土が残る。	19号墓庭 フク土
〃　2 〃　2	碗	Ⅱ類 Ｂａ ④	13.2 6.0 6.3	灰白色 細粒子	白化粧＋ 透明釉 呉須、 飴釉	総釉	ほぼ完形資料。口縁部はやや外反する。 外面に呉須と飴釉で印花文を施す。内面にも文様の一部が見られる。 蛇の目釉剥ぎ部分と畳付けに白土が残る。	15号墓外 参道上石 積
〃　3 〃　3	碗	Ⅱ類 Ｂａ ⑤	—— ——	黄白色 粗粒子	白化粧＋ 透明釉 呉須	総釉	口縁部資料。口縁部は外反する。 外面に4つ葉と思われる文様一部が見られる。	20号墓庭 フク土
〃　4 〃　4	碗	Ⅱ類 Ｂａ ⑤	—— —— 5.8	橙白色 粗粒子	白化粧＋ 透明釉、 紺色釉、 緑色釉	総釉	底部の破片。 焼成温度の低い紺や緑の釉を用い二度焼きしている。緑の釉を高台～高台脇に塗り、その上部に紺の絵を、見込みには蛇の目釉剥ぎ跡に紺の釉を施す。 畳付けに白土が残る。	５号墓庭 フク土
〃　5 〃　5	碗	Ⅱ類 Ｂａ ⑤	—— —— 6.4	灰白色 細粒子	外:鉄釉 内:白化粧 ＋透明釉、 鉄釉	総釉	底部の破片。 見込みに鉄釉で花文を施す。 畳付けに白土が残る。	９号墓庭 フク土
〃　6 〃　6	小碗	Ⅰ類 Ａａ ①	9.6 4.4 3.9	乳白色 微粒子	透明釉	外：高台脇まで 内：全施釉	半欠の資料。口縁部は外反する。 器色は素地の色をそのまま生かす。 見込みに付着物が若干見られる。	８号墓庭 フク土
〃　7 〃　7	小碗	Ⅰ類 Ａａ ①	7.6 3.4 4.0	橙褐色 細粒子	白化粧＋ 透明釉	総釉	完形資料。口縁部は直口する。 口縁部付近で一部白化粧が剥げている。 高台脇に指の痕が２箇所ある。 畳付けに白土が残る。	13号墓庭 左側掘込
〃　8 〃　8	小碗	Ⅰ類 Ａａ ①	8.1 4.3 3.7	灰白色 微粒子	白化粧＋ 透明釉	総釉	完形資料。口縁部は直口する。 蛇の目釉剥ぎ部分と高台内に砂粒が、畳付けに白土が残る。	13号墓庭 左側掘込
〃　9 〃　9	小碗	Ⅰ類 Ａａ ②	—— —— 4.2	黄白色 細粒子	外:鉄釉 内:白化粧 ＋透明釉	外：腰部まで 内：全施釉	底部の破片。高台脇に段をもって立ち上がる。 蛇の目釉剥ぎ部分に別の器物片が付着し、畳付けに白土が残る。	15号墓外 参道上石 積
〃　10 〃　10	小碗	Ⅰ類 Ａｂ ③	—— —— 3.7	灰褐色 粗粒子	白化粧＋ 透明釉、 呉須、 飴釉	総釉	底部の破片。 外面は３個の印花文が見られるが、残存するその位置から推定で４個になると思われる。内面には重ね焼の際に付いた呉須が見られる。蛇の目釉剥ぎ跡と畳付けに白土が見られる。	１号墓庭
第106図 1 PL.51の 1	小碗	Ⅰ類 Ｂ	6.8 4.2 3.6	黄白色 粗粒子	白化粧＋ 透明釉	総釉	ほぼ完形資料。口縁部は外反する。 外面の面取りは幅約1.5cm以上の篦で削っており、全部で16の面が形成されている。 細かい貫入がある。 畳付けには白土が見られる。	15号墓外 参道

挿図番号 PL番号	器種	分類	口径 器高 底径	素地	釉種	施釉範囲	特徴	出土地
第106図 2 PL.51の 2	小碗	I類 B	8.4 4.3 3.5	灰色 細粒子	白化粧＋ 透明釉	総釉	完形資料。口縁部は外反する。 外面の面取りは幅約1.7cm以上の箆で削っており、全部で16の面が形成されている。 蛇の目釉剥ぎ部分に重ね焼の付着物が、畳付けには白土が見られる。	21号墓庭 フク土
〃 3 〃 3	小碗	I類 B	9.2 5.3 3.8	灰色 微粒子	外:鉄釉 内:白化粧 ＋透明釉	総釉	ほぼ完形資料。口縁部は外反する。 外面の面取りは幅約2.0cmで15面削り、さらに腰部を約1.5cmの推定15面削っている。 蛇の目釉剥ぎは無し。畳付けに白土が残る。	3・4号 墓間垣フク土
〃 4 〃 4	小碗	不明	7.9 4.0 3.8	黄白色 粗粒子	赤褐色と 白い釉の 斑	総釉	ほぼ完形資料。口縁部は直口する。 胴中央に横位の稜が見られるが、沈線か轆轤目かは不明。 釉の発色は不良。 畳付けに白土が残る。	13・14号 墓境の石積
〃 5 〃 5	蓋付 き碗	蓋	7.2 2.7 5.6	灰白色 細粒子	白化粧＋ 透明釉	外：全施釉 内：白化粧のみ	完形資料。甲部は丸味を帯びる。鈕は短い。鈕付近で段を持つ。ツマミ径は1.4cm、円柱状で頂部中央が窪む。脚高は0.6cm、脚高と甲部までの比率は30.0%で脚はやや低い。	13号墓庭 左側掘込
〃 6 〃 6	蓋付 き碗	身	7.1 4.0 3.8	灰白色 細粒子	白化粧＋ 透明釉	総釉	完形資料。口縁部は直口。口唇部は平坦。 口唇～口縁内面の釉を剥ぎ、白土を塗る。 胴部に縦位の亀裂が入る。 蛇の目釉剥ぎ部分に別の器物が付着し、畳付けに白土が残る。	13号墓庭 左側掘込
〃 7 〃 7	蓋付 き碗	蓋	7.1 2.2 5.6	黄白色 細粒子	白化粧＋ 透明釉	外：全施釉 内：白化粧のみ	完形資料。甲部はやや丸味を帯びる。鈕は短い。鈕付近で段を持つ。ツマミ径は1.4cm、円柱状で頂部中央が窪む。脚高は0.7cm、脚高と甲部までの比率は50.0%で脚は高い。 細かい貫入が入る。	13号墓庭 左側掘込
〃 8 〃 8	蓋付 き碗	身	7.1 4.8 4.2	黄白色 細粒子	白化粧＋ 透明釉	総釉	完形資料。口縁部は直口。口唇部は平坦。 口唇～口縁内面の釉を剥ぎ、白土を塗る。 細かい貫入が入る。 蛇の目釉剥ぎ部分に別の器物が付着し、畳付けに白土が残る。	13号墓庭 左側掘込
〃 9 〃 9	蓋付 き碗	蓋	8.0 2.7 6.6	黄白色 粗粒子	白化粧＋ 透明釉、 呉須、 鉄釉	外：全施釉 内：白化粧のみ	完形資料。甲部はやや丸味を帯びる。鈕は短い。鈕近くに段を有する。ツマミ径は1.6cm、円柱状で中央が窪む。脚高は0.7cm、脚高と甲部までの比率は35.0%で、やや低い。 有文。呉須で4本の圏線、鉄釉で放射状に直線を施す。	20号墓庭 フク土
〃 10 〃 10	蓋付 き碗	身	7.9 4.0 3.8	黄白色 粗粒子	白化粧＋ 透明釉、 呉須	総釉	残存部が5分の1の資料。 外面の口縁部直下に色の薄い呉須で3条の圏線(?)と縦位の短線を施す。 口唇部と口縁部内面は釉剥ぎされる。 見込みに砂粒などの付着物が見られ、畳付けには白土が若干残る。	20号墓庭 フク土
〃 11 〃 11	皿	I類 A	12.5 4.4 5.3	乳白色 細粒子	白化粧＋ 透明釉	総釉	ほぼ完形資料。口縁部はやや内溝する。 畳付けに白土が残る。	23・24号 墓間フク土
〃 12 〃 12	皿	I類 B	—— —— 6.3	橙褐色 粗粒子	白化粧＋ 透明釉、 呉須	総釉	底部資料。胴部は高台から開いて立ち上がる。 見込みに二重円とその中及び周辺には呉須で文様を施す。 蛇の目釉剥ぎ跡と畳付けに白土が僅か残る。	21号墓庭
〃 13 〃 13	鉢	—	25.85 12.4 9.5	赤褐色 細粒子	外:鉄釉 内:白化粧 ＋透明釉	総釉	ほぼ完形資料。底部が有孔の鉢。高台は施釉前に1箇所、外から中への方向で穿孔する。 内面の釉は発色が不良。 見込みの蛇の目釉剥ぎ部分と畳付けに白土が残る。	13号墓庭 左側掘込
第107図 1 PL.52の 1	瓶	I類 A	—— —— 5.0	灰色 微粒子	灰釉	高台脇まで	底部資料。腰部は膨らみ、胴部から緩やかに頸部へと移行する。 器面調整が丁寧。底部付近に指痕が4箇所ある。無文。	23・24号 墓間フク土
〃 2 〃 2	瓶	I類 A	—— —— 4.1	赤褐色 微粒子	黒色の鉄 釉	高台脇まで	底部資料。頸部は長く、細い。残存部の状況から直口になると思われる。 腰部に指の痕が3個所見られる。無文。	20号墓室 フク土
〃 3 〃 3	瓶	I類 A	—— —— 6.1	灰白色 微粒子	白化粧＋ 透明釉、 呉須	外面全施釉	底部資料。胴部やや直線的になる。I類Cと中間タイプ。 呉須で頸部に2条、肩部に1条、底部付近に1条の圏線と笹を上下2段に3個所ずつ、交互に描く。	15号墓庭 フク土
〃 4 〃 4	瓶	I類 Aa ①	2.1 10.1 4.8	黄白色 粗粒子	白化粧＋ 透明釉	外面全施釉	完形資料。口縁部は直口。頸はやや短い、小型の瓶。底部は削り出し高台。 所々に貫入が入る。	13号墓庭 左側掘込

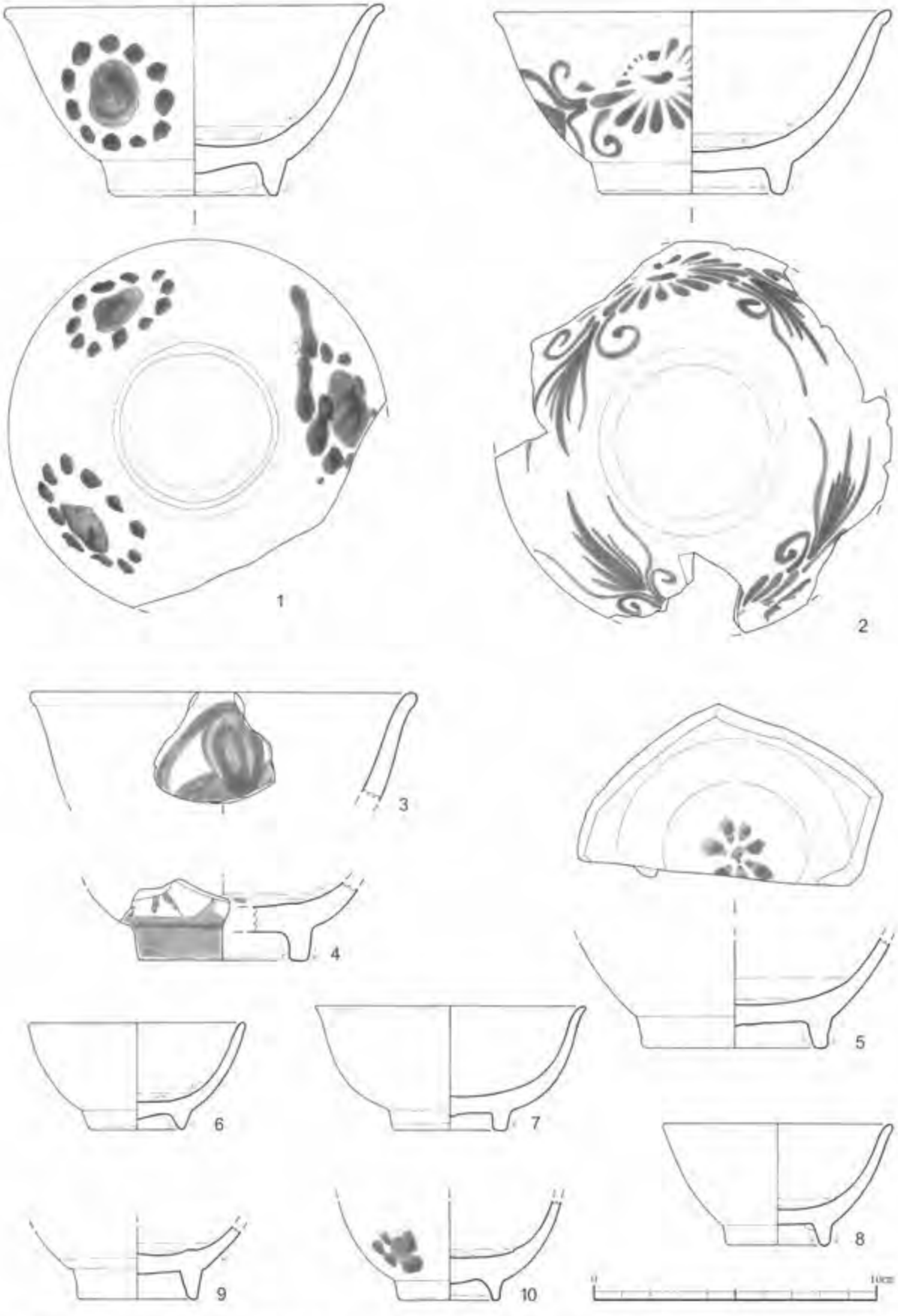
挿図番号 ＰＬ番号	器種	分　類	口径 器高 底径	素　地	釉　種	施釉範囲	特　　徴	出土地
第107図 5 PL.52の 5	瓶	Ⅰ類 Ａａ ①	2.6 10.3 4.7	褐色 細粒子	濃緑色の釉	口縁部～高台脇まで	完形資料。口縁部は直口。胴部は丸く膨らむ。頸はやや短い、小型の瓶。削り出し高台。 高台に指痕が４箇所ある。	５号墓庭フク土
〃　6 〃　6	瓶	Ⅰ類 Ａ	—— —— 4.7	灰白色 細粒子	鉄釉	腰部まで	底部資料。胴部は丸く膨らむ。削り出し高台。 頸部付近に３条の沈線、及び胴中央に螺旋状の沈線(？)を巡らす。 胴下半部に砂が付着する。	20号墓庭フク土
〃　7 〃　7	瓶	瓶 Ⅰ類 Ａｂ ①	3.6 13.4 5.8	灰白色 細粒子	鉄釉	外面全施釉	完形資料。口縁部は外反。高台は削り出し。 外面に掻落とし技法による雀とバナナの文様を胴部に、鋸歯文を肩部に施す。 胴部上下２箇所に抉られた痕が見られる。	５号墓庭フク土
第108図 1 PL.53の 1	瓶	Ⅰ類 Ｂ	2.1 10.2 5.0	橙褐色 細粒子	白化粧＋透明釉、呉須、飴釉	外面全施釉	完形資料。口縁部は直口。胴部が丸く膨らむ。削り出し高台。 外面に呉須と飴釉を交互に巡らす。釉の発色は不良でかさついている。 畳付けに白土が僅かに残る。	９号墓庭フク土
〃　2 〃　2	瓶	Ⅰ類 Ｂ	2.3 12.6 5.3	黄白色 粗粒子	白化粧＋透明釉、呉須	外面全施釉	完形資料。口縁部は直口。腰部が張出す。削り出し高台。 外面に呉須を４条巡らす。細かい貫入が入る。 胴部の一部に砂粒などが付着する。畳付けに白土が僅かに残る。	16号墓庭フク土
〃　3 〃　3	瓶	Ⅰ類 Ｂ	2.0 11.7 6.3	橙褐色 粗粒子	白化粧＋透明釉、呉須、飴釉	外面全施釉	完形資料。口縁部は直口。腰部が強く張出し、三角形を呈する。削り出し高台。 外面に呉須と飴釉を交互に６条巡らす。細かい貫入が入る。 胴部の一部に砂粒などが付着する。畳付けに白土が残る。	16号墓庭フク土
〃　4 〃　4	瓶	Ⅰ類 Ｂ	2.1 14.9 4.7	黄白色 粗粒子	白化粧＋透明釉、呉須、飴釉	外面全施釉	完形資料。口縁部は直口。腰部はあまり膨らまない。削り出し高台。 外面に呉須６条、胴中央部に飴釉１条巡らす。 高台内に砂粒が付着し、畳付けに白土が残る。	９号墓庭フク土
〃　5 〃　5	瓶	Ⅰ類 Ｃ	3.0 10.7 4.1	灰色 細粒子	黒色の鉄釉	高台脇までと高台内	ほぼ完形資料。口縁部は受け口状に成形。削り出し高台。 胴下半部に雑な斜めの線彫りを巡らす。 高台内や畳付け及び腰部には砂粒や熔着物などが付着している。	15号墓庭フク土
〃　6 〃　6	瓶	Ⅰ類 Ｃ	2.6 13.2 7.2	灰色 細粒子	黒色の鉄釉	高台脇まで	ほぼ完形資料。口縁部は玉縁状に外反。肩部は曖昧で、そのまま頸部へ移行する。側面形は円錐状である。削り出し高台。 腰部に砂粒や熔着物などが付着している。	22号墓庭フク土
〃　7 〃　7	瓶	Ⅰ類 Ｄ	—— —— 5.0	橙白色 粗粒子	黒色の鉄釉	外面全施釉	口縁部を欠く資料。残存部の状況から短頸で、口縁部は外反する器形になると推測できる。 掻落とし手法。文様構成は１匹のゾウと５人の人間である。 畳付けに砂粒などが若干付着する。	15号墓外参道
第109図 1 PL.54の 1	瓶	Ⅰ類 Ｄ	3.0 10.7 4.6	灰色 細粒子	白化粧＋透明釉、鉄釉、濃緑色釉	外面全施釉	完形資料。口縁部は外反する。 掻落とし手法でヤシの文様を描き、その上から鉄釉と濃緑色釉を施す。	13号墓庭左側掘込
〃　2 〃　2	瓶	Ⅰ類 Ｅ②	—— —— 8.0	灰褐色 粗粒子	鉄釉、青緑の釉	外面全施釉	ほぼ完形資料。口縁部の先端を欠くが外反する。袴状の付け高台。 高台～肩部までが鉄釉、頸部～口縁は青緑の釉を施す。鉄釉は艶が無く、青緑の釉も発色不良である。	23・24号墓間フク土
〃　3 〃　3	瓶	Ⅰ類 Ｅ②	6.1 19.2 8.1	黄白色 粗粒子	白化粧＋透明釉、呉須	外面全施釉	ほぼ完形資料。口縁部はきつい外反。袴状の付け高台。 外面に呉須でブドウの文様を描く。釉の発色は不良である。	８号墓庭フク土
〃　4 〃　4	瓶	Ⅰ類 Ｅ②	5.2 —— ——	黄白色 粗粒子	白化粧＋透明釉、呉須	外面全施釉	底部を欠損する資料。口縁部はきつい外反。底部の割れ口から、袴状付け高台と推測。 口唇部と注水口を呉須で色付けする。また胴部に菊と思われる花の文様を１個所だけ施す。	１号墓庭外フク土
〃　5 〃　5	瓶	Ⅰ類 Ｅ②	—— —— 4.8	黄白色 粗粒子	白化粧＋透明釉	外面全施釉	底部を欠損する資料。口縁部はきつい外反。底部の割れ口から、袴状付け高台と推測。 無文。胴下半部の白化粧を上部より厚く施す。 高台内は白化粧しない。	８号墓庭フク土
〃　6 〃　6	瓶	Ⅰ類 Ｅ②	—— —— ——	灰色 微粒子	白化粧＋呉須＋透明釉、鉄釉	底部付近まで	胴部資料。割れ口より口縁部はきつい外反、底部は袴状の付け高台と推測。 無文。高台内は鉄釉を施す。	23・24号墓間フク土

挿図番号 ＰＬ番号	器種	分　類	口径 器高 底径	素　地	釉　種	施釉範囲	特　　徴	出土地
第109図 7 PL.54の 7	瓶	Ｉ類 Ｆ②	4.4 10.6 5.2	黄白色 粗粒子	白化粧＋ 透明釉、 鉄釉	外面全施釉	完形資料。口縁部は外反。台状の付け高台。歪みのため、左に傾いている。 頸部に丸い耳を対局する２個所に貼り付ける。 高台～胴中央部まで鉄釉、口縁部までが白化粧＋透明釉を施す。 高台内に大粒の砂や炭などが付着している。	８号墓庭 フク土
第110図 1 PL.55の 1	瓶	II類 A	—— —— 9.2	橙褐色	鉄 釉	口縁部～高台脇まで	口縁部を欠損する資料。大型で甕算型を呈する。削り出し高台。 内面は轆轤痕が明瞭に残る。 釉の発色は不良。	12号墓庭 フク土
〃　2 〃　2	瓶	II類 B	3.6 18.7 6.7	橙褐色	鉄 釉	口縁部～高台脇までと高台内にも施釉	完形資料。口縁部は受け口状を呈する。 腰部に１条、胴部に２条の沈線を巡らしている。	11号墓庭 外土留石 積フク土
〃　3 〃　3	瓶	II類 B	3.1 18.5 6.4	灰色 粗粒子	灰釉、 白土	口縁部～高台脇まで	完形資料。口縁部は外反する。 腰部に２条、胴部に７条、肩部に１条の沈線、その間に短斜線を放射状に巡らす文様で、象嵌手法を用いる。	３号墓庭 外蔵骨器 集積
〃　4 〃　4	瓶	II類 C	2.8 13.8 5.8	灰白色 細粒子	灰釉、 鉄釉	外面は胴部以外全施釉	完形資料。口縁部は外反する。頸部が歪んで左に傾いている。 腰部に灰釉、肩～口縁部に鉄釉を施す。胴部は露胎だが、鉄釉で不明の文様を描く。	10号墓右 正面石積 内
〃　5 〃　5	酒注	Ｉ類	3.0 8.9 7.8	灰白色 細粒子	鉄釉	腰部まで	完形資料。口縁部は三角状に肥厚し、外反する。畳付けの幅は狭い。 器表面はカサ付いている。	13号墓庭 左側掘込
〃　6 〃　6	酒注	Ｉ類	3.6 7.5 7.8	灰白色 細粒子	鉄釉	腰部まで	完形資料。口縁部はやや肥厚し、外反する。畳付けの幅は広い。 器表面はややカサ付いている。	16号墓庭 フク土
〃　7 〃　7	酒注	II類	4.0 9.9 7.6	橙白色 粗粒子	白化粧＋ 透明釉、 呉須、 飴釉	外面全施釉、内面は露胎。	ほぼ完形資料。口縁部受け口状を呈する。畳付けの幅は狭い。注口部分を欠く。 外面は線彫りの上に呉須と飴釉を塗る。	６号墓庭 外フク土
第111図 1 PL.56の 1	水注	Ｉ類 Ａａ	5.8 6.5 5.9	黄白色 細粒子	外：透明釉 内：鉄釉	外面は底部以外全施釉。 内面は胴部から内底まで。	ほぼ完形の資料。口縁部は垂直に立ち上がり、口唇部を平坦に成形。注口は直角に折れ曲がる。把手の形状は三角形。 身と注口の接続部は孔を１つ穿つ。 口唇部は釉剥ぎされている。	12・13号 墓フク土
〃　2 〃　2	水注	Ｉ類 Ａａ	4.8 8.2 8.0	灰褐色 粗粒子	白化粧＋ 透明釉	底部以外、内外面とも施釉	ほぼ完形の資料。ちゅうこうを欠損。把手の形状は三角形を呈する。 口唇及び口縁内面は釉剥ぎされている。	20号墓フ ク土
〃　3 〃　3	水注	Ｉ類 Ａａ	—— —— 10.4	灰白色 細粒子	鉄釉	外：腰部まで 内：胴部以下	底部資料。大型の水注。 表面はややカサ付いている。 底部に砂粒が若干付着。 底部に指痕が数箇所付着。	15号墓外 参道下石 積
〃　4 〃　4	水注	II類 蓋	5.1 2.9 3.5	乳白色 細粒子	白化粧＋ 透明釉	外：全施釉 内：白化粧のみ	完形資料。甲部は直線的。鍔はやや短い。ツマミは1.1cmで球形。脚高は1.1cm、脚高と甲部までの比率は55％で脚は高い。 ツマミの横に１孔穿つ。	13号墓庭 左側掘込
〃　5 〃　5	水注	II類 身	4.2 7.5 5.6	乳白色 細粒子	白化粧＋ 透明釉	外：底部以外全施釉 内：全施釉	完形資料。口縁部はほぼ垂直に立ち上がる。把手は三角形状。 無文。胴下半部は白化粧されず、透明釉のみが施されている。 口唇部は釉剥ぎされている。 畳付けは斜めに成形される。	13号墓庭 左側掘込
〃　6 〃　6	水注	Ｉ類 Ｂ	8.0 —— ——	灰白色 細粒子	白化粧＋ 透明釉、 呉須、 飴釉	外：全施釉 内：白化粧、釉は口縁部付近のみ	口縁部資料。口縁部はほぼ垂直に立ち上がる。 把手は三角形状。 外面は線彫りの上に呉須と飴釉を施す。 口唇部は釉剥ぎされている。	18号墓庭 フク土
〃　7 〃　7	水注	蓋	4.3 2.7 2.2	乳白色 細粒子	白化粧＋ 透明釉	外：全施釉 内：白化粧のみ	完形資料。甲部は直線的。鍔はやや短い。ツマミは1.1cmで球形。脚高は0.9cm、脚高と甲部までの比率は72.5％で脚は高い。 ツマミの横に孔は無し。	13号墓庭 左側掘込
〃　8 〃　8	水注	蓋	6.0 —— 4.7	灰色 細粒子	鉄釉	外：全施釉 内：露胎	甲部の資料。甲部は直線的。鍔はやや短い。ツマミは欠損。脚高は0.6cm、脚高と甲部までの比率は42.9％で脚は高い。 ツマミの横に１孔穿つ。	20号墓フ ク土
〃　9 〃　9	火入れ	Ｉ類	10.3 8.5 10.2	灰褐色 細粒子	白化粧＋ 透明釉	外：全施釉 内：白化粧のみ	ほぼ完形の資料。口縁部は直口。口唇部は平坦で斜めに形成される。 口縁直下を呉須で色塗りされる。 畳付けと口唇部は釉剥ぎされている。	13号墓庭 左側掘込
〃　10 〃　10	火入れ	II類	10.6 8.0 6.0	黒褐色 細粒子	白化粧＋ 黄褐色の 鉄釉	外：口縁部から腰部まで 内：白化粧のみ	完形資料。口縁部は内溝する。 胴上部に１本、下部に２本横位の沈線をもつが３本とも輪にならず途切れている。 口唇部は釉剥ぎされ、白土が若干付着。畳付けも白土が付着する。	13号墓庭 左側掘込

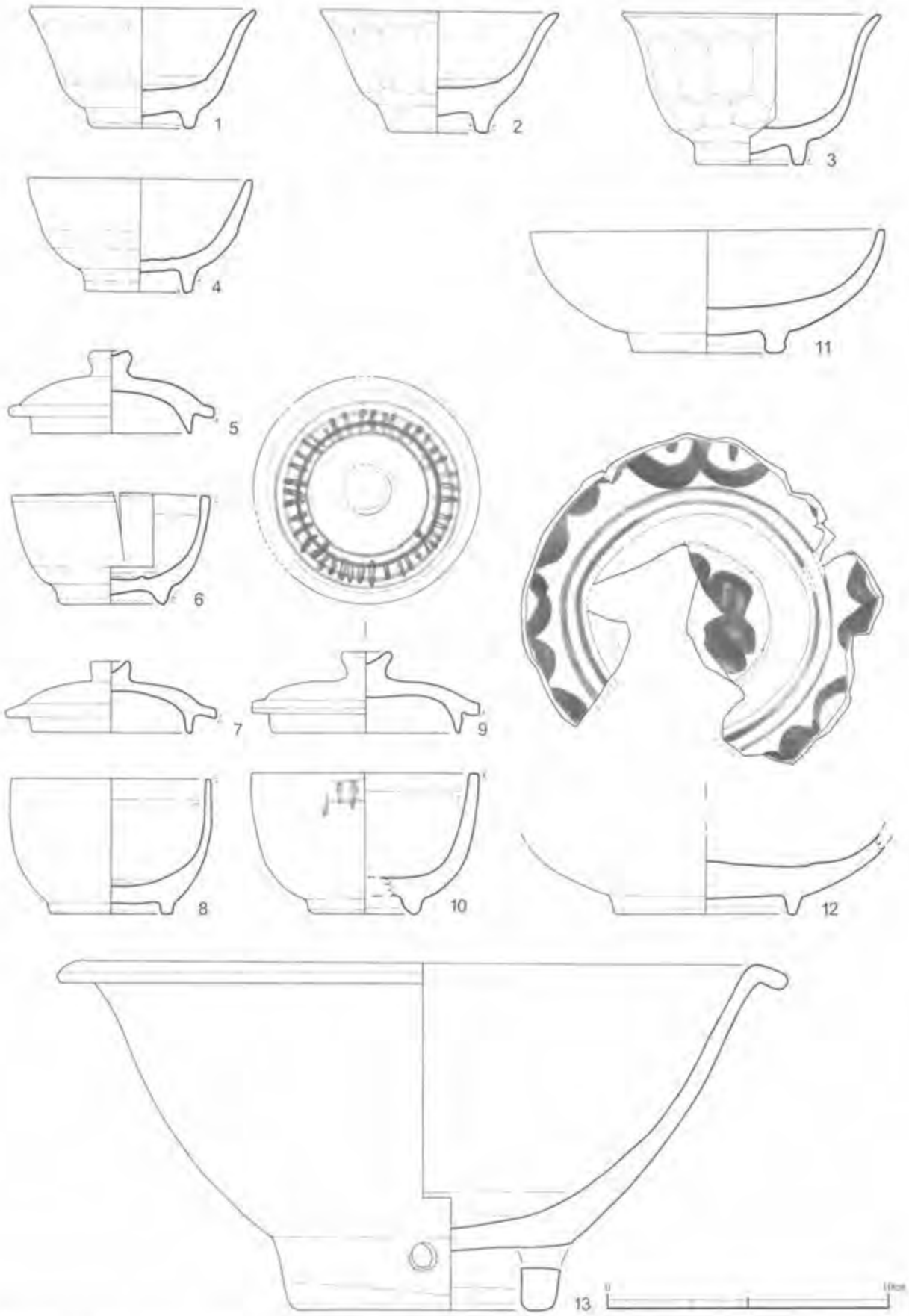
挿図番号 ＰＬ番号	器種	分　類	口径 器高 底径	素　地	釉　種	施釉範囲	特　　徴	出土地
第112図 1 PL.57の 1	火炉	－	33.4 ―― ――	灰白色 微粒子	灰釉	外：全施釉 内：露胎	口縁部と胴部の資料。口縁部は逆Ｌ字状に肥厚する。火窓の一部が残る。香炉のように胴部は膨らみ、頸部でやや窄まる器形である。 外面は２本の圏線を６条とその間に笹の葉文様を彫って施す。	20号墓庭 フク土
〃　2 〃　2	香炉	－	14.5 8.9 9.5	灰白色 細粒子	呉須	外：腰部まで 内：口縁部以下は露胎	ほぼ完形資料。脚は３足とも欠損。 底部に重ね焼時別の器物の痕が見られる。 内底に付着。	29号墓庭 フク土
第113図 1 PL.58の 1	猪口	Ｉ類 ①	5.0 2.9 2.4	乳白色 微粒子	透明釉	外：口縁部から腰部まで 内：全施釉	ほぼ完形資料。口縁部は外反する。 貫入有り。轆轤痕が明瞭に残る。	６号墓庭 外フク土
〃　2 〃　2	猪口	Ｉ類 ①	5.2 2.5 2.3	灰白色 微粒子	透明釉	外：口縁部から高台脇まで 内：全施釉	ほぼ完形資料。口縁部は外反する。 貫入有り。 畳付けに白土が残る。	19号墓庭 フク土
〃　3 〃　3	猪口	Ｉ類 ①	3.5 1.8 1.9	灰白色 微粒子	透明釉	外：口縁部から高台脇まで 内：全施釉	完形資料。口縁部は外反する。 貫入有り。	27号墓前 方蔵骨器 集積
〃　4 〃　4	猪口	Ｉ類 ①	3.5 1.5 1.5	乳白色 微粒子	透明釉	外：口縁部から腰部まで 内：全施釉	ほぼ完形資料。口縁部は外反する。 貫入有り。 畳付けに白土残る。	20号墓庭 フク土
〃　5 〃　5	猪口	Ｉ類 ①	3.7 1.9 1.8	灰白色 微粒子	透明釉	外：口縁部から腰部まで 内：全施釉	ほぼ完形資料。口縁部は微弱外反する。 口縁部直下１条の削れがある。 高台脇に段を有する。	９号墓庭 フク土
〃　6 〃　6	猪口	Ｉ類 ①	3.5 2.2 2.2	黄白色 細粒子	赤褐色と白い釉の斑	外：口縁部から腰部まで 内：全施釉	ほぼ完形資料。口縁部は外反する。 口縁部直下１条の削れがある。 高台脇に段を有する。	９号墓庭 フク土
〃　7 〃　7	猪口	Ｉ類 ①	3.1 1.7 1.7	灰白色 微粒子	透明釉	外：口縁部から腰部まで 内：全施釉	ほぼ完形資料。口縁部は外反する。 高台脇に段を有する。	15号墓庭 フク土
〃　8 〃　8	猪口	Ｉ類 ①	3.2 1.8 1.7	灰白色 微粒子	透明釉	外：口縁部から腰部まで 内：全施釉	完形資料。口縁部は外反する。 貫入有り。	12号墓庭 フク土
〃　9 〃　9	猪口	Ｉ類 ①	3.4 2.05 1.7	乳白色 細粒子	透明釉	外：口縁部から腰部まで 内：全施釉	ほぼ完形資料。口縁部は外反する。 貫入有り。	22号墓フ ク土
〃　10 〃　10	猪口	Ｉ類 ②	3.5 2.1 1.8	灰色 細粒子	黒褐色の釉	外：口縁部から高台脇まで 内：全施釉	ほぼ完形資料。口縁部は外反する。 釉の発色は不良で艶は無い。	15号墓外 参道上石 積



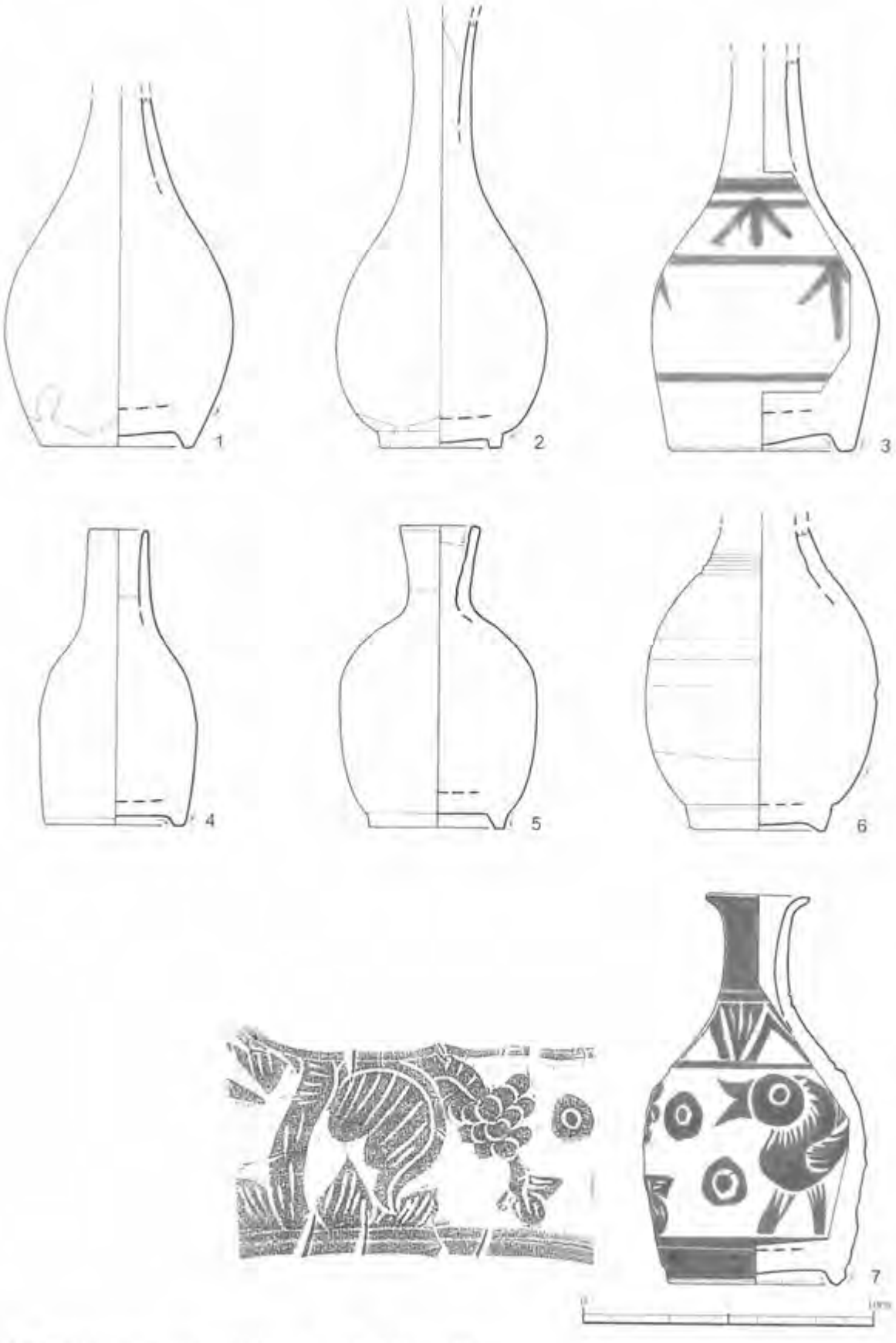
第104図(PL.49)　沖縄産施釉陶器〔E地区〕：碗



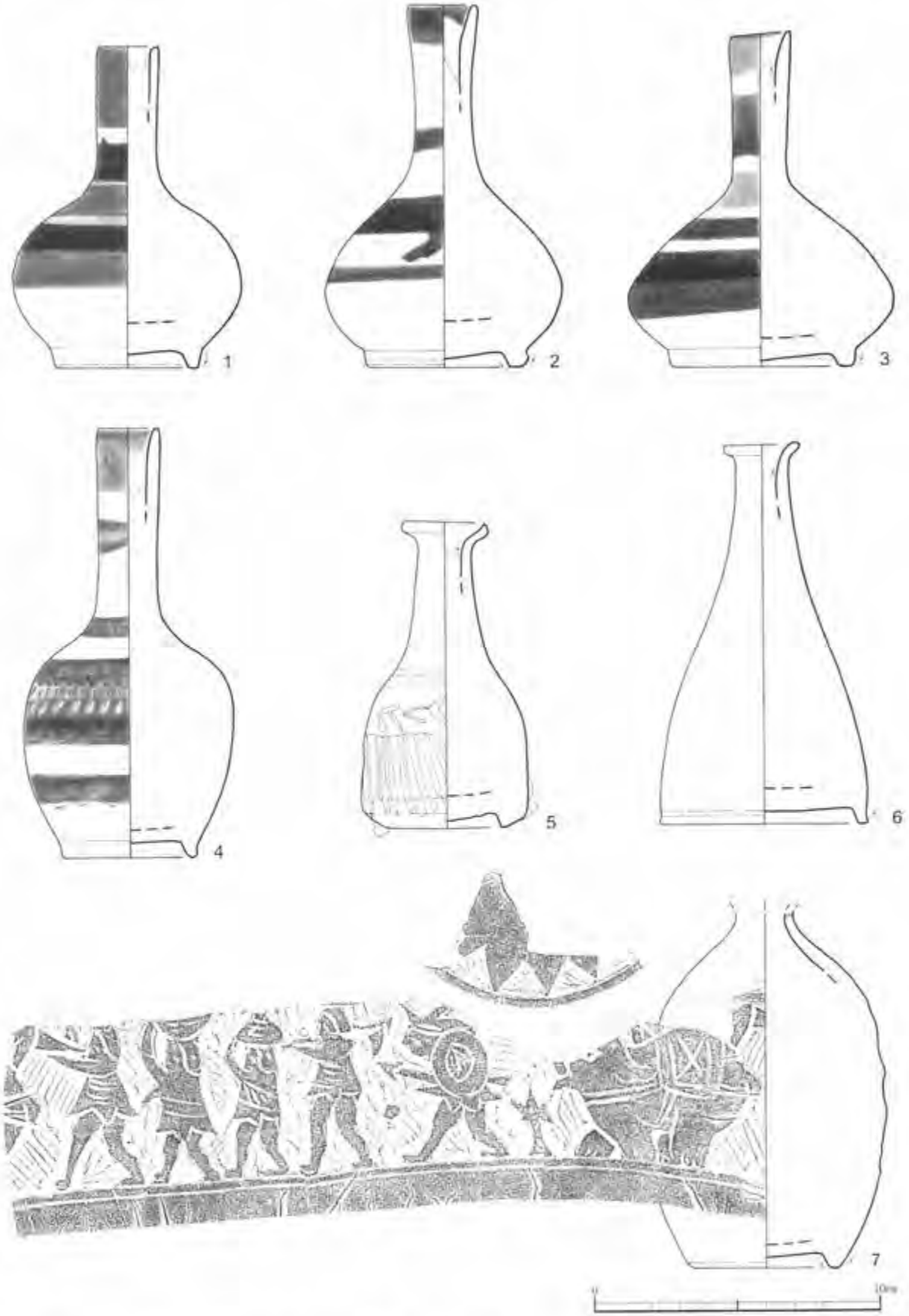
第105図(PL.50)　沖縄産施釉陶器〔E地区〕：碗(1～5)、小碗(6～10)



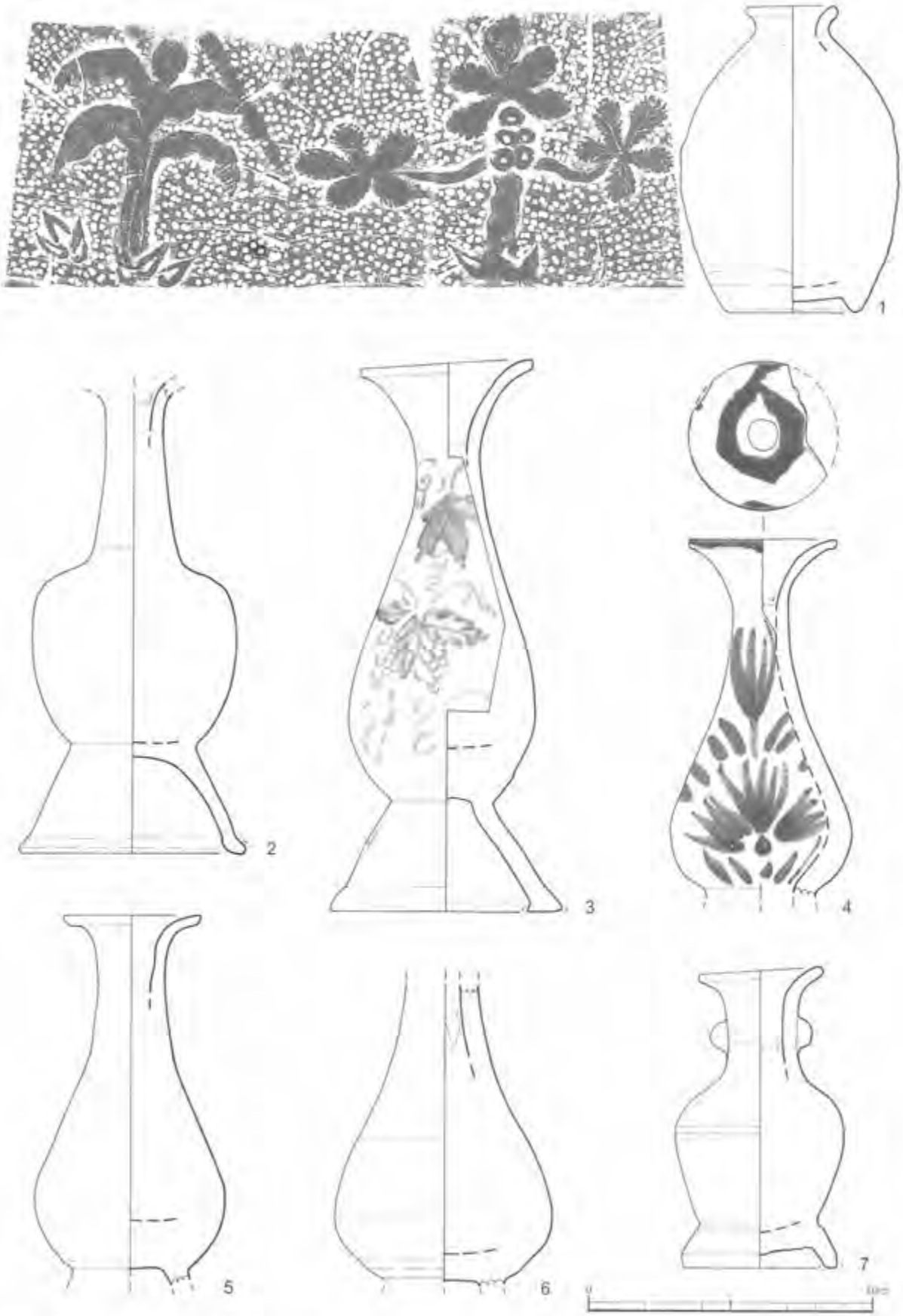
第106図(PL.51)　沖縄産施釉陶器［E地区］：小碗(1～4)，蓋付碗(5～10)，皿(11・12)
鉢(13)



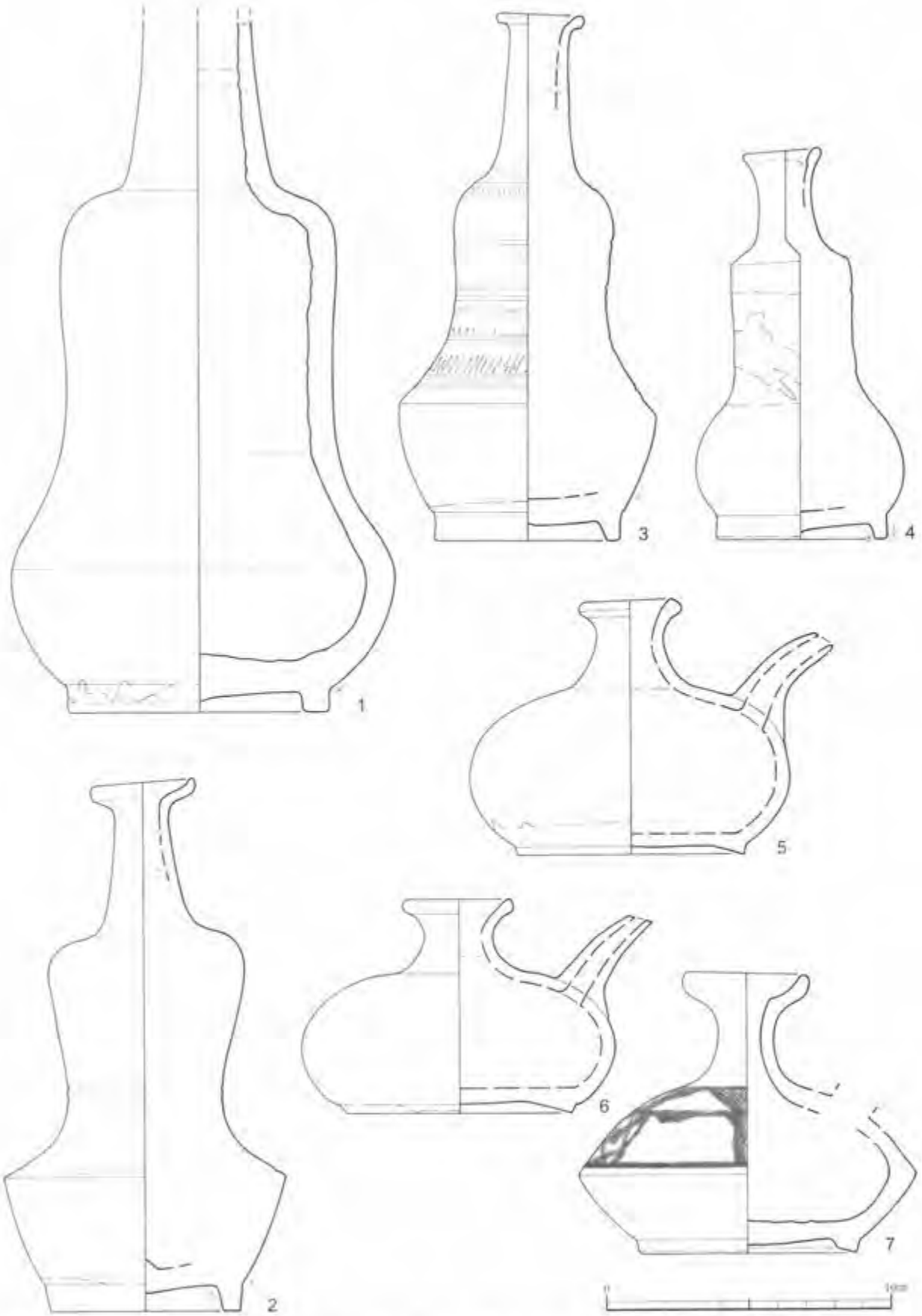
第107図(PL.,52)　沖縄産施釉陶器〔E地区〕：瓶



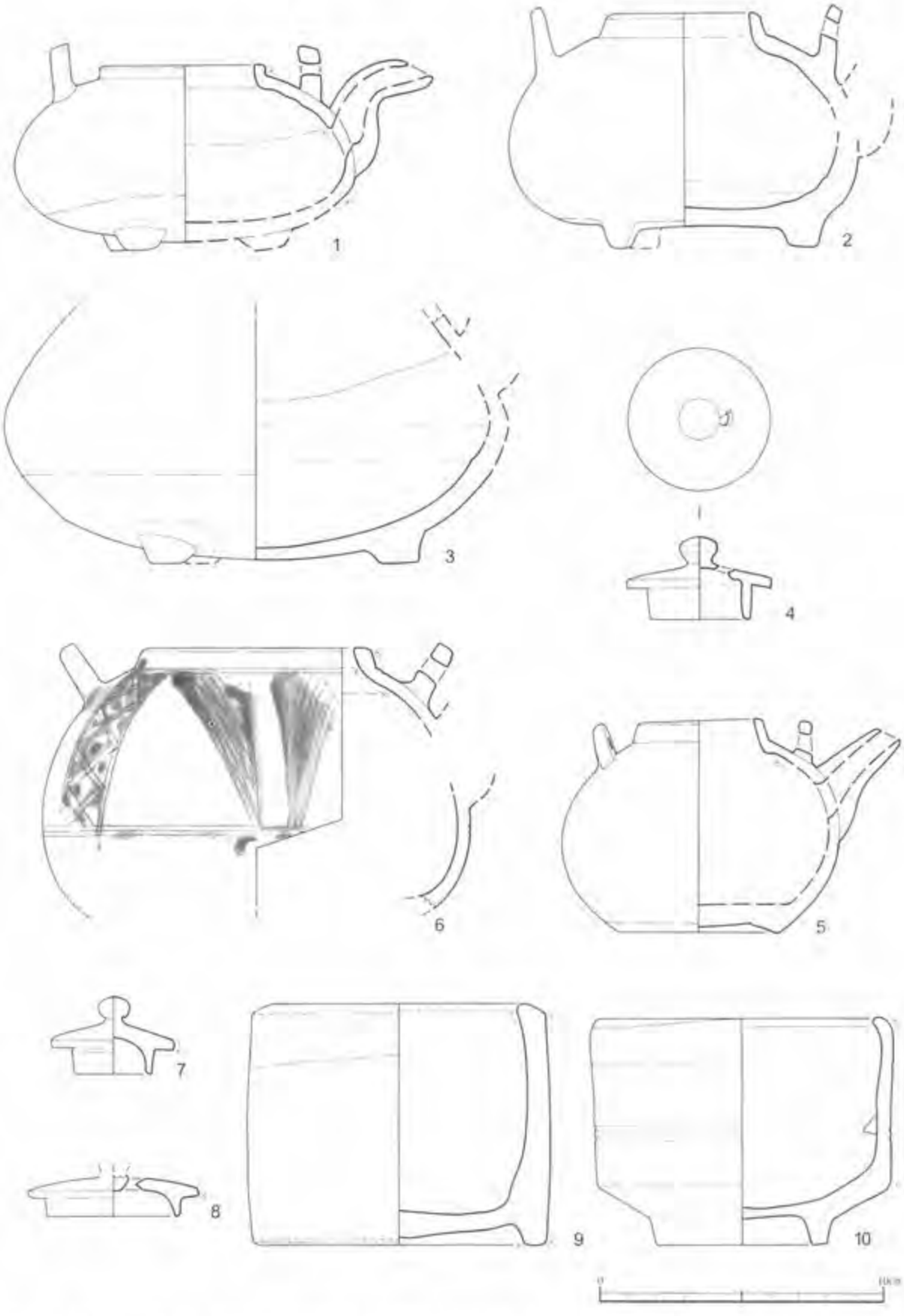
第108図(PL.53)　沖縄産施釉陶器〔E地区〕：瓶



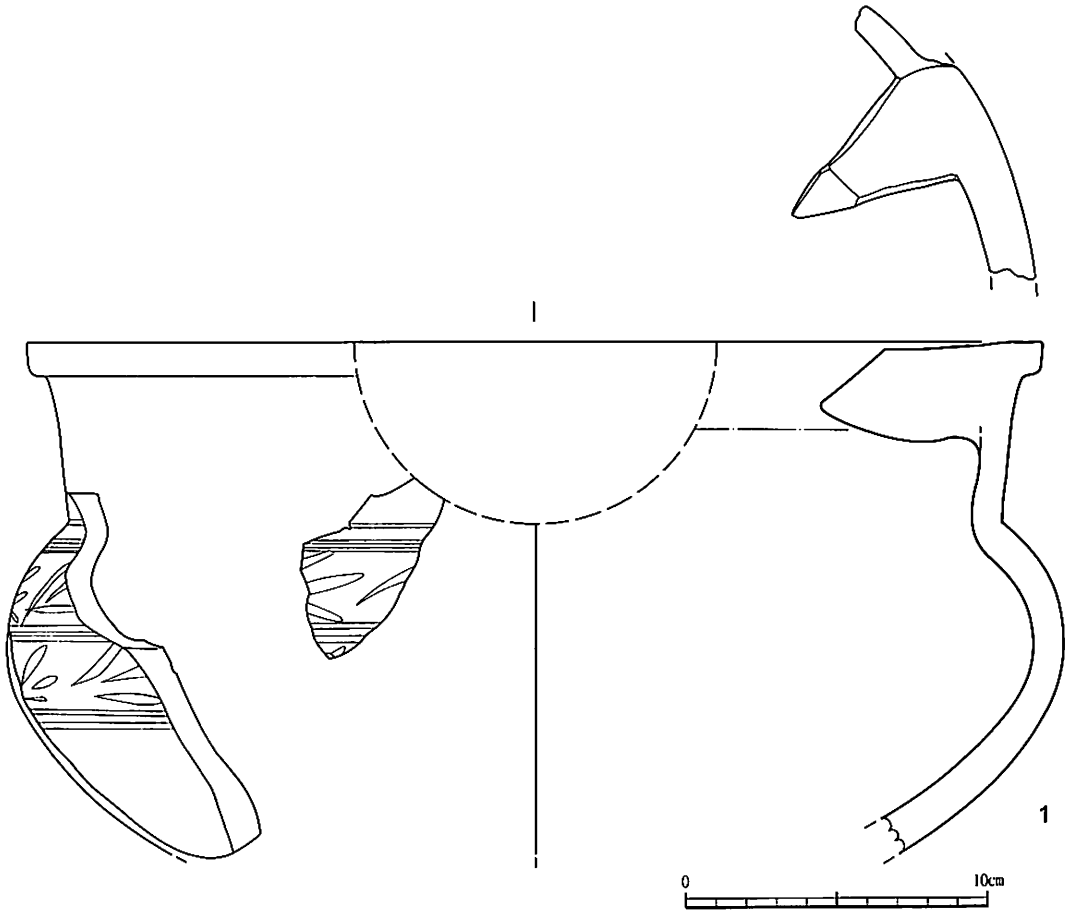
第109図(PL.54)　沖縄産施釉陶器(E地区)：瓶

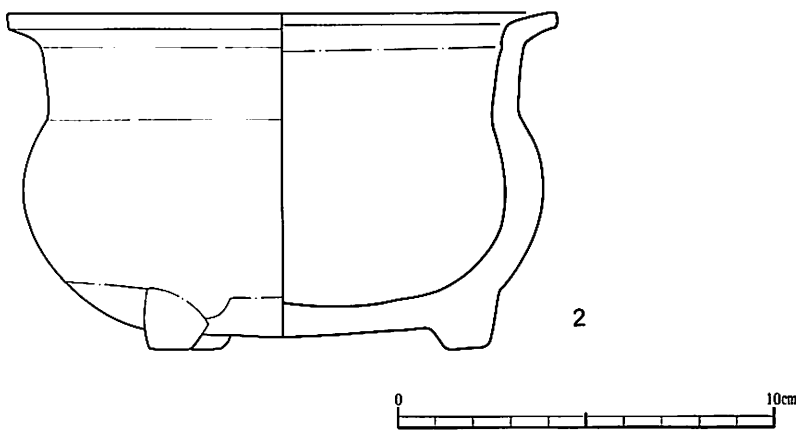


第110図(PL.55)　沖縄産施釉陶器（E地区）：瓶(1～4)、酒注(5～7)

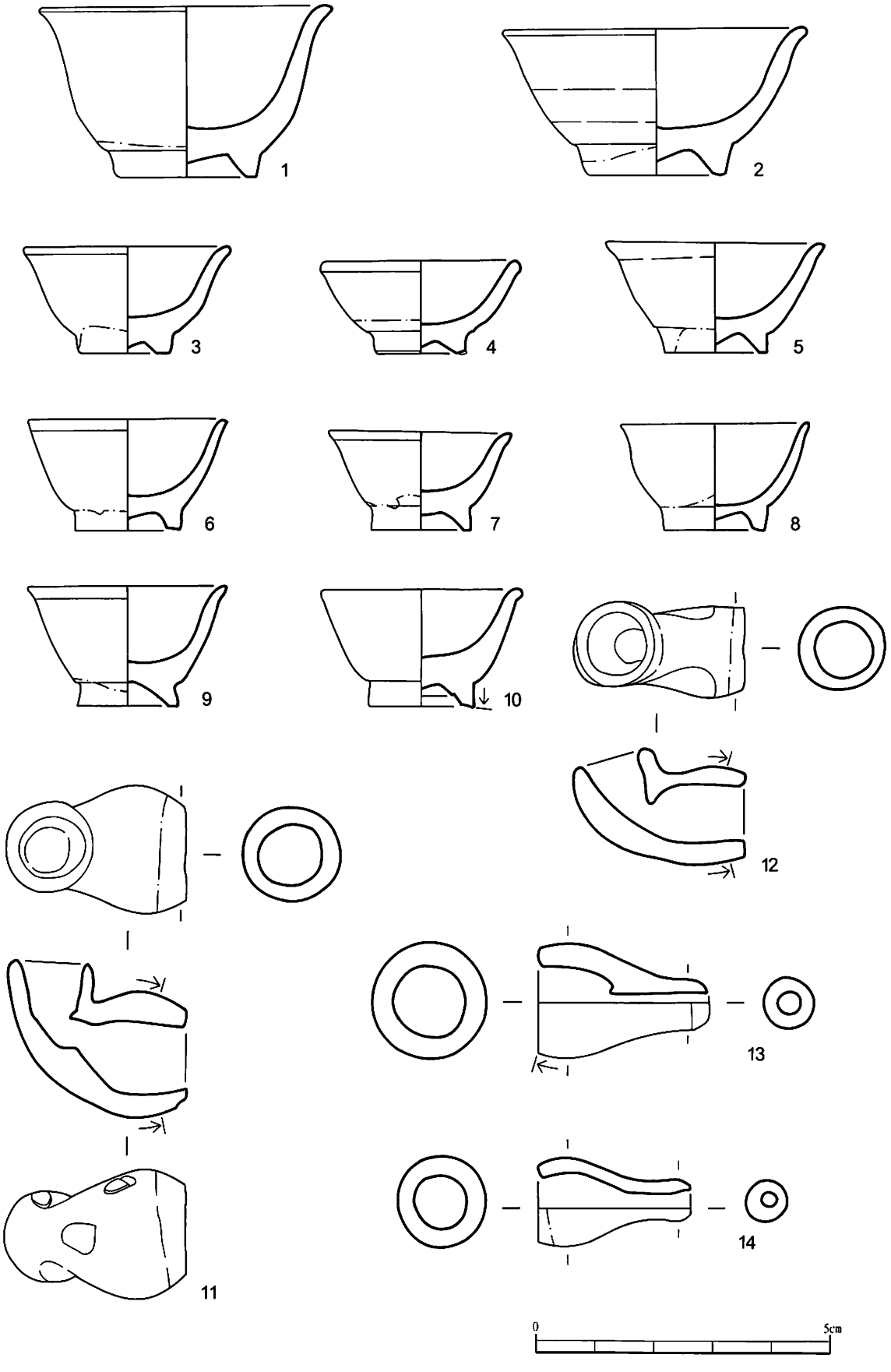


第111図(PL.56)　沖縄産施釉陶器〔E地区〕：水注(1～8)、火入れ(9・10)





第112図(PL.57)　沖縄産施釉陶器〔E地区〕：火炉(1)、香炉(2)



第113図(PL.58)　沖縄産施釉陶器〔E地区〕：猪口(1～10)、煙管(11～14)

第３節　沖縄産無釉陶器

１．Ｂ地区の無釉陶器

釉薬を掛けずに焼き締めた無釉の沖縄産陶器である。本地区で得られた器種は、蓋・火入れ・火炉・小皿・瓶・溲瓶・水鉢・鉢・大鉢・擂鉢・徳利・壺・甕・煙管などである。これらの中で今回は紙面の都合により、蓋・火入れ・火炉・小皿・瓶・溲瓶・徳利・煙管を図示した。なお、各資料の詳細はそれぞれ観察表にまとめたので参照されたい。

蓋

第114図１・２に示したものである。１は頂部に摘みを設けるものである。上面がドーム状に緩やかなカーブを描き、端部は水平な鍔状に作る。下部はほぼ垂直に立ち上がる高台状。急須の蓋と考えられる。２は頂部に段を設け上面が緩やかなカーブを描いて傾斜する蓋で、浅い小皿を伏せたような形状を呈す。

小皿

第114図３～５に示したものである。二つの器形が見られる。３と４は「壺屋古窯群Ⅰ」[注1]において分類されている「ｂ：口縁部の立ち上がりが内彎ぎみのもの」に相当すると考えられる。両資料とも口唇部に煤が付着していることから、灯明皿として使用されたものと考えられる。５は胴部から丸味を持ちながら口縁部へ立ち上がる器形を呈する。

火入れ

第114図６に示したものである。腰部が腰折れとなり、胴部から口縁部へかけて斜めにほぼストレートに立ち上がる器形を呈す。口縁部がやや肥厚し口唇は平坦である。

火炉

第114図７に示したものである。胴部から肩部にかけて「く」の字状に屈曲した器形を呈す。肩部に火窓を設けた部分の資料である。

瓶

第114図８・９に示したものである。８は胴部が丸味を持ち、肩部から口縁部へ細くストレートに立ち上がる器形を呈す。底部は削り出しによる高台を作る。９は沖縄の方言でビンシー（瓶子）と称される酒器である。「ハ」の字状に開く高台を持つ。胴部は下位が膨らむ洋ナシ状を呈す。肩部から頸部へ窄まりながら立ち上がり口縁部が外反する。

溲瓶

第114図10に示したものである。頂部に宝珠状？の把っ手を、胴部にストレートで斜めに立ち上がる注ぎ口を設ける。全体の形は釣鐘状で、一見すると急須のような器形を呈す。内部に石灰状の物質が大量に付着している。

第10表　蓋・小皿・火入れ・火炉・瓶・溲瓶観察一覧

挿図番号 図版番号	出土地点	器種	法量(cm)			素地	色調		観察事項
			口径	器高	底径		外面	内面	
第114図1 PL59の1	4号墓前方フク土	蓋	11.3	4.0	9.0	暗褐色　微粒子 白・黒色細粒子含む。	暗赤褐色	暗赤褐色	頂部摘みの根元を囲むように一条の稜線を廻す。上面中央付近に二条の沈線を廻す。
〃　2 〃　2	10号墓	〃	−	−	11.4	赤褐色　微粒子 白色細粒子含む。	淡褐色	淡褐色	内外面共に丁寧な器面調整。
〃　3 〃　3	6号墓庭フク土	小皿	9.8	2.25	4.4	赤褐色　微粒子 白・黒色細粒子含む。	赤褐色	赤褐色	外底面に明瞭な糸切り痕。底部がベタ底のやや高台状を呈す。口唇部に煤が付着。 『壺屋古窯群Ⅰ』分類の小皿bに該当。
〃　4 〃　4	38号墓庭フク土	〃	10.95	2.5	5.0	赤褐色　微粒子 白・赤・黒色細粒子含む。	〃	〃	外底面に篦削り痕。内外面にロクロ成形痕。口唇部に煤が付着。 『壺屋古窯群Ⅰ』分類の小皿bに該当。
〃　5 〃　5	43号墓庭フク土	〃	10.1	2.45	7.6	〃	赤褐色 暗灰色	赤褐色 暗灰色	外底面に篦削り痕。底部脇が若干括れて高台状を呈す。
〃　6 〃　6	3号墓前方フク土	火入れ	10.2	6.1	4.4	暗赤褐色　微粒子 白色細粒子含む。	黒褐色 (光沢)	黒褐色 緑黄色	外底面に篦削り痕。内底面にロクロ成形痕。腰部に浅い一条の沈線を廻す。内外面が部分的に釉化し光沢を帯びる。
〃　7 〃　7	47号墓前方フク土	火炉	−	−	−	赤褐色　微粒子 白・赤・黒色細粒子含む。	褐　色 黒　色	褐　色	肩部に弧状に抉られた火窓の一部が認められる。同直下に二条の沈線を廻す。
〃　8 〃　8	42号墓庭内西側遺物溜り	瓶	1.2	13.65	4.5	赤褐色　微粒子	黒褐色	黒褐色	器面全体に泥釉？高台を削り出して成形。
〃　9 〃　9	18号墓庭フク土	〃	4.8	18.6	8.6	橙色　微粒子 白・黒色細粒子・雲母粒子含む。	茶褐色	茶褐色	器面全体に泥釉？一部光沢を帯びる。高台は付高台。
〃　10 〃　10	31号墓屋根フク土	溲瓶	−	−	16.6	赤褐色　微粒子 白・黒色細粒子含む。	淡褐色 赤褐色	赤褐色	注ぎ口の口唇部が玉縁状に肥厚。内底面に渦巻状のロクロ成形痕。内部のほぼ全面に白色物質（石灰質）が付着。

徳利

図上復元により徳利としての器形が窺える資料を第115図に８点示した。本資料は器形から大きく二つに分類されるが、その基準は「壺屋古窯群Ⅰ」(註1)においてなされている分類概念を参考にした。それによると、徳利は下記の四つの型に分類されている。

Ⅰ型：最大径を底部近くに持ち、ほぼナス形を呈するもの。

Ⅱ型：最大径を胴部に持ち、ほぼ丸形を呈するもの。

Ⅲ型：　〃　ほぼ胴長を呈するもの。

Ⅳ型：　〃　ほぼ砲弾形を呈するもの。

この分類によると、本地区より得られた資料はⅠ型（第115図２・３）・Ⅱ型（同図１・４～６）・Ⅲ型（同図７・８）とそれぞれ三つの型に該当するものと考えられる。各資料の詳細を第11表にまとめた。

註１　島　弘・内間　靖・玉城安明・島袋春美『壺屋古窯群Ⅰ』　那覇市教育委員会　1992

第11表　徳利観察一覧

挿図番号 図版番号	出土地点	分類	法量(cm)			素地	色調		観察事項
			口径	器高	底径		外面	内面	
第115図1 PL 60の1	17号墓庭フク土	Ⅱ	4.6	11.5	4.6	暗褐色 微粒子 白・黒色の細粒子含む。	暗褐色 黒色	暗褐色	肩部に一条の細い沈線を廻す。外底面に多数の砂が溶着。表面の一部釉化して光沢を帯びる。
〃 2 〃 2	25・26号墓庭フク土 47号墓前方フク土	Ⅰ	－	－	6.4	暗茶褐色 微粒子 白・赤・黒色の細粒子含む。	暗褐色 暗橙色	暗灰色	肩部に一条の沈線を廻す。内底面に左回転による渦巻状のロクロ成形痕。外底面はほぼ平坦であるがアバタ状。
〃 3 〃 3	42号墓庭内西側遺物溜り	〃	5.4	12.4	7.2	暗褐色 微粒子 白色の細粒子含む。	緑黄色 淡黒色 明褐色	緑黄色 明褐色	肩部に二条の沈線を廻す。全体に器面調整が雑。細かい溶着物が表面に付着。外底面に篦削り痕。器壁が厚く小振りにしては重量感がある。表面の数カ所に自然釉が緑黄色に発色している。
〃 4 〃 4	〃	Ⅱ	5.15	14.1	8.3	〃	淡紫色 暗褐色 暗茶褐色	淡緑黄色 暗褐色	肩部に数条の渦巻文を廻す。器面の調整は比較的丁寧。細かい溶着物が表面に付着。外底面に篦削りによる微かな円形の線が数本見られる。表面の数カ所に自然釉が淡緑黄色に発色している。
〃 5 〃 5	10号墓	〃	－	－	9.0	〃	緑黄色 淡褐色	暗褐色	肩部に数条の渦巻文を廻す。器面の調整は比較的丁寧。外面底部から腰部にかけて自然釉が緑黄色に発色している。外底面は３に類似。
〃 6 〃 6	42号墓室フク土	〃	－	－	10.8	茶褐色 微粒子 白・黒色の細粒子含む。	淡緑黄色 茶褐色	茶褐色	肩部に数条の渦巻文を廻す。内面にロクロ成形痕。外面に多数の細かい穴。外面底部から腰部にかけて自然釉が淡緑黄色に発色している。外底面は３に類似。
〃 7 〃 7	13号墓庭フク土 14号墓庭外フク土	Ⅲ	8.4	36.4	12.8	暗茶褐色 微粒子 白・黒色細粒子含む。	淡褐色 淡茶褐色	淡黒色	肩部に数条の渦巻文とその下位に間をあけて一条の沈線を廻す。内面にロクロ成形痕。
〃 8 〃 8	25・26号墓庭フク土	〃	－	－	8.0	暗褐色 微粒子 白・赤・黒色の細粒子含む。	緑黄色 暗褐色	黒褐色	内底面に左回転による渦巻状のロクロ成形痕。外面凹凸が激しく器面調整が雑。外面底部から腰部にかけて自然釉が緑黄色に発色している。

煙管

煙管は７点の資料を第116図に示した。すべて雁首である。個々大きさは様々であるが、火皿とラウ接続部の孔径については、５を除き一定の大きさが認められる。本資料は外観から大きく二つの形態に分けられる。各資料の詳細は第12表にまとめた。

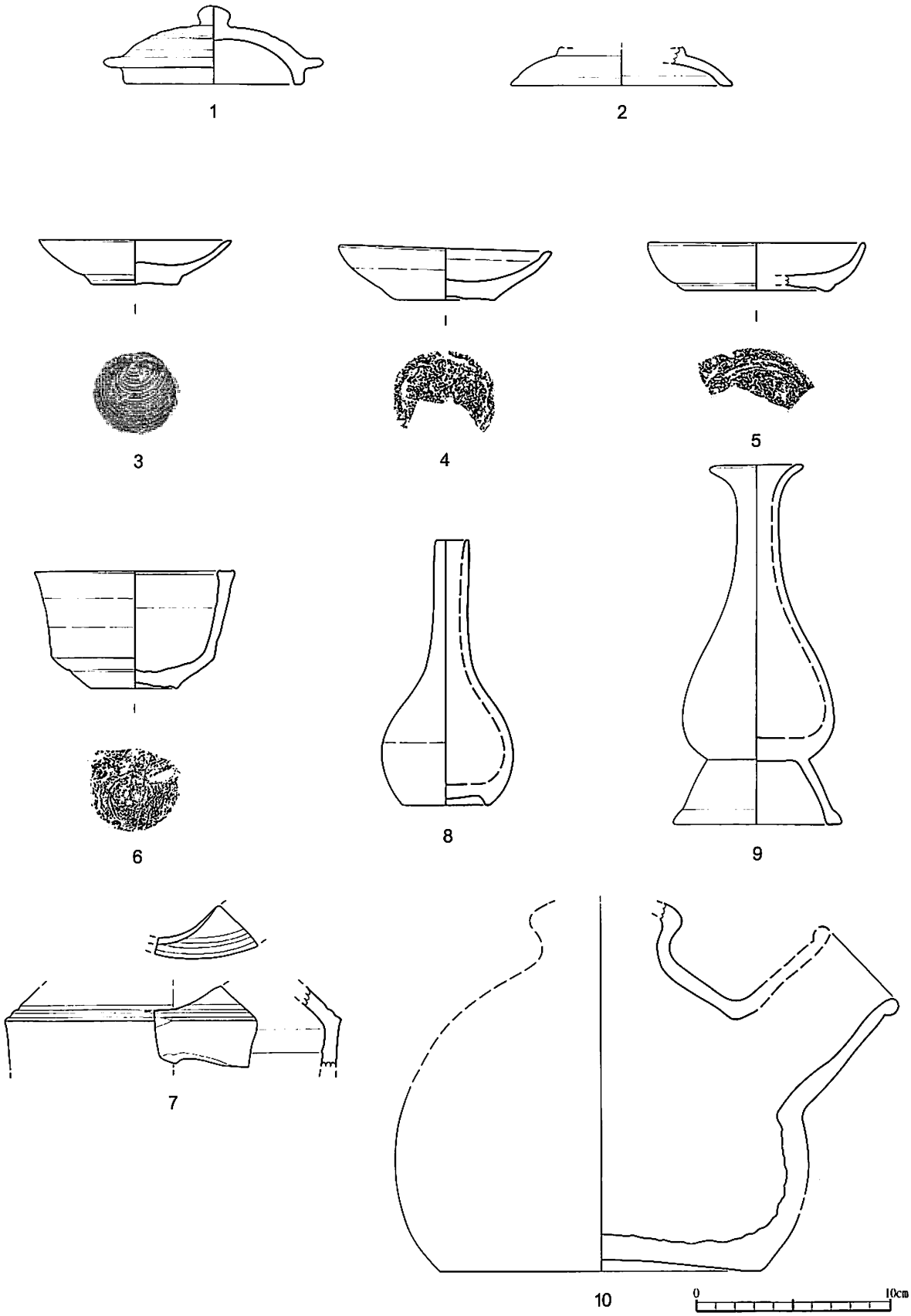
Ⅰ：火皿およびラウ接続部の断面形がほぼ円形を呈するもの（第116図１～４）。

Ⅱ：火皿およびラウ接続部の断面形がほぼ八角形を呈するもの（第116図５～７）。

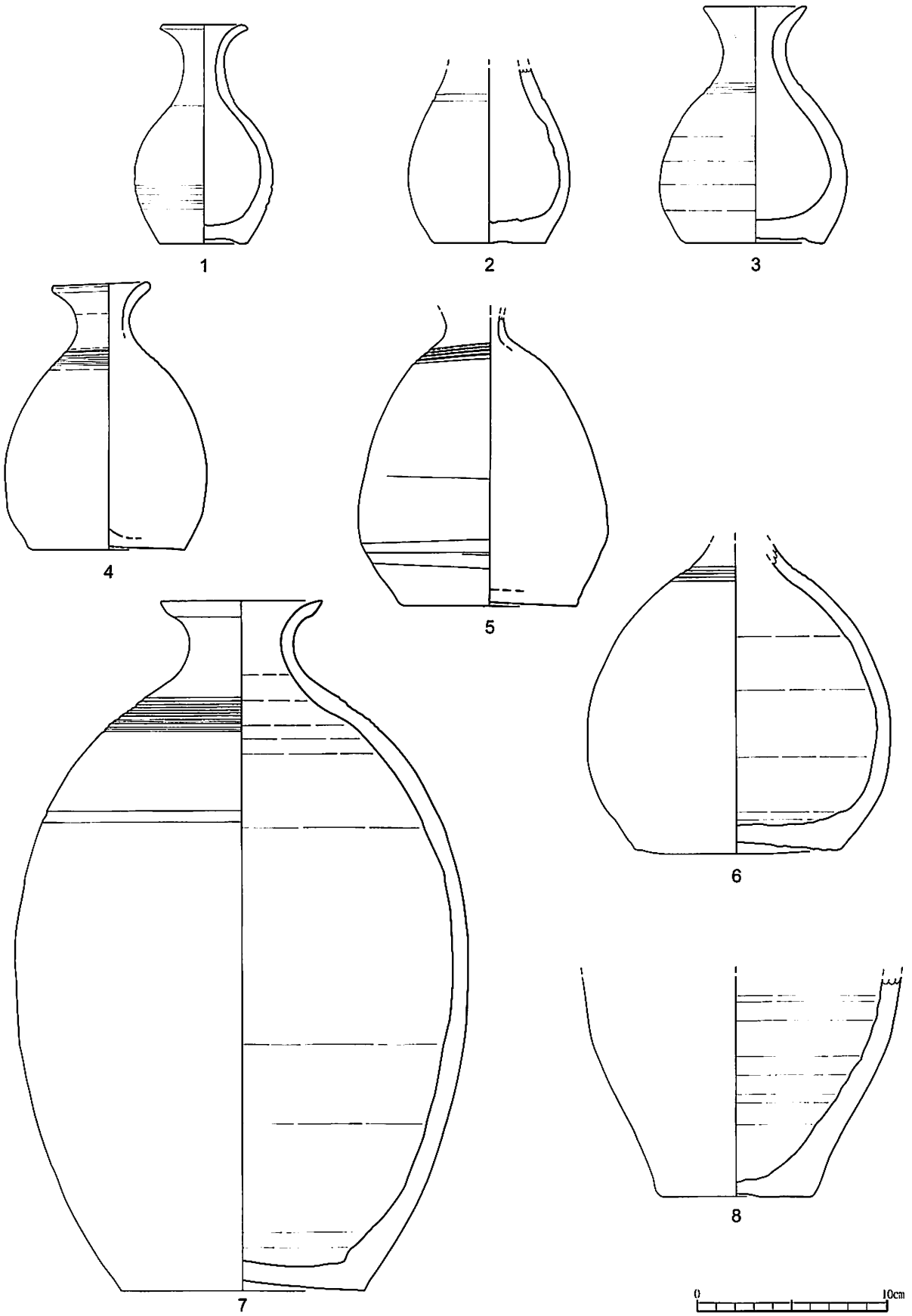
第12表　煙管観察一覧

挿図番号 図版番号	出土地点	分類	全長 (cm)	孔径 (cm) 火皿部	孔径 (cm) ラウ接続部	深さ (cm) 火皿部	素　地	観　察　事　項
第116図１ PL 61 の１	16号墓庭フク土	Ⅰ	2.8	1.1	0.9	0.95	茶褐色　微粒子 白色細粒子含む。	器面に箆状工具によるやや幅のある筋状の調整痕。ラウ接続の孔は火皿方向までほぼ円筒状。
〃　２ 〃　２	１号墓前方フク土	〃	(3.4)	(1.1)	〃	1.0	橙色　微粒子 白・赤・黒色の細粒子含む。	火皿部１／２欠損。器面に箆状工具によるやや幅のある筋状の調整痕が微かに認められる。ラウ接続の孔は火皿へ向けて次第に狭くなる。
〃　３ 〃　３	38号墓庭フク土	〃	3.6	1.1	〃	0.8	暗茶褐色　微粒子 白色細粒子含む。	焼成が良好で堅緻。器面に箆状工具によるやや幅のある筋状の調整痕。ラウ接続の孔は火皿へ向けて次第に狭くなる。
〃　４ 〃　４	１号墓前方フク土	〃	(3.9)	－	〃	1.1	茶褐色　微粒子 白・赤・黒色の細粒子含む。	火皿部欠損。器面に箆状工具によるやや幅のある筋状の調整痕が明瞭に認められる。ラウ接続の孔は火皿へ向けて若干狭くなる。
〃　５ 〃　５	47号墓室フク土	Ⅱ	3.8	1.5	1.0	0.9	暗茶褐色　微粒子 石英粒子、白・赤・黒色の細粒子含む。	火皿が全体的に大きい。成形がやや雑。ラウ接続の孔は火皿へ向けて次第に狭くなる。
〃　６ 〃　６	49号墓前方フク土	〃	3.9	1.1	0.9	1.0	黒褐色　微粒子 白色細粒子含む。	器面全体に細かいアバタ状の穴。釉化して器面の一部が光沢を帯びる。ラウ接続の孔は火皿へ向けて次第に狭くなる。
〃　７ 〃　７	16号墓庭フク土	〃	4.8	〃	〃	〃	黒褐色　微粒子	釉化して器面全体が光沢を帯びる。火皿口唇部に溶着痕。ラウ接続の孔は火皿へ向けて若干狭くなる。

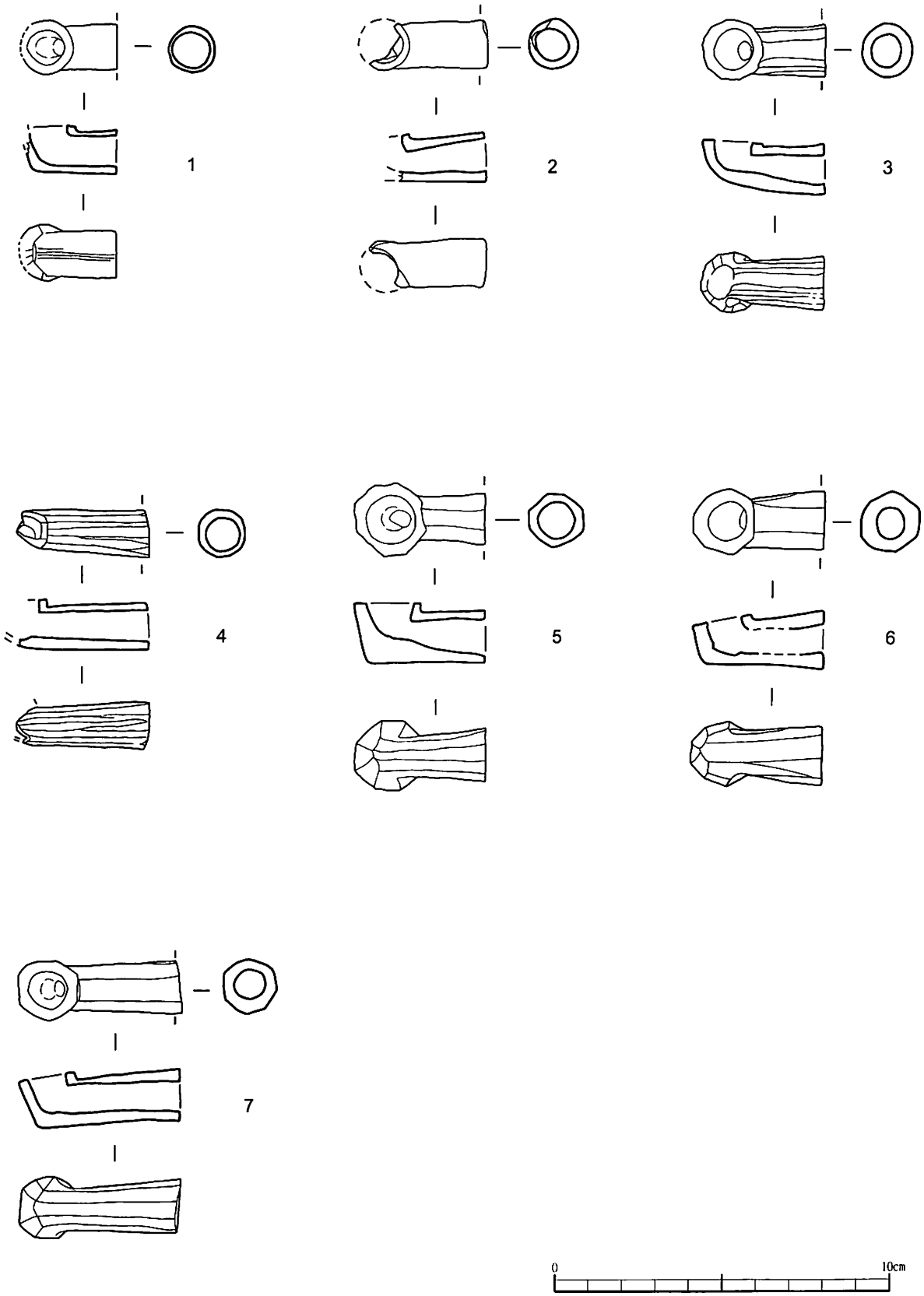
※（　　）内は欠損により現存する部分での数値である。



第114図(PL.59)　沖縄産無釉陶器〔B地区〕：蓋(1・2)、小皿(3～5)、火入れ(6)、火炉(7)
瓶(8・9)、溲瓶(10)



第115図(PL.60)　沖縄産無釉陶器〔B地区〕：徳利



第116図(PL.61)　沖縄産無釉陶器〔B地区〕：煙管

第４節　瓦証文、墓誌、中国陶磁器、陶質土器ほか

１．Ｂ地区の瓦証文、窯道具、中国陶磁器、陶質土器、円盤状製品、陶製品

瓦証文

第117図１に示したもので、淡い橙褐色を呈する。素地には籾殻とガラス質の鉱物を混入する。アカモノの焼物である。項部は一部破損しているが全体に塔形を呈する資料で、両面の縁には１条の沈線を巡らす。表面に「右者・・・」の文字が５行線彫りされている。証文の解読は那覇市歴史資料室のみなさんによる。以下に示す。

右者墓所之儀桃原村三男泉水
筑登之親雲上より買取仕候間子十二月久米村
祖慶筑登之親雲上仕直置候
子十二月
祖慶筑登之親雲上

現存長軸が29.3cm、短軸16.5cm、厚さ2.7cm、重さ2.050ｇを測る。Ｂ地区21号墓室フク土より出土。

窯道具

南地区より第13表に示したとおり窯道具が10点出土している。施釉陶器用が４点、無釉陶器用が５点、施釉＋無釉陶器用が１点である。

第117図２は無釉陶器用で壺等の口縁部に被せて用いるものである。壺屋で「グゥチャー」と呼ばれている。素地は赤褐色を呈し石灰質砂粒と赤色粒を含む。Ｂ地区18号墓庭フク土より出土。

第13表　窯道具出土一覧

	施　釉	無　釉	施釉＋無釉	合　計
Ａ地区		4	1	5
Ｂ地区		1		1
Ｃ地区	2			2
Ｄ地区				0
Ｅ地区	2			2
合　計	4	5	1	１０

中国陶磁器

青磁

第118図１に示したもので、口折皿の完形品である。口縁部を逆「L」字に折り曲げ、外面に細叉状工具による連弁文を描くものである。見込みには２重の圏線と双魚文が見られる。釉色は淡緑青色を呈し貫入は見られない。畳付けは露胎である。43号墓室安置蔵骨器№８より出土。14C前半。

青花

第118図２～５に示した。碗・皿・壺などが得られた。いずれも18C以降のものである。

同図２・３は外反碗で、２が外面に草花文と高台脇にくずれた寿字文を描くものである。３は外面に寿字文と日雲をモチーフとした区画文を交互に配した文様を描くものである。高台脇にくずれた寿字文を巡らすものでもある。２が20号墓庭フク土、３は11号墓庭フク土の出土である。同図４は内器面に２と同じような草花文を描く皿で27号墓庭フク土より出土。

同図５は短頸の壺で、口縁部と高台脇と畳付けは露胎のものである。外面に草花文と唐草文を施す。１～４号墓前方フク土より出土。

色絵

第118図６に示したもので２次焼成を受けたものである。外反口縁碗で薄手の高台を高く成形したものである。外面の縁部～高台脇までの範囲に草花文と丸文（？）を４等分に割り付けた文様を描く。色調は加熱を受けているため判然としないが、現状では青緑に発色を呈する。全面に釉薬を施すが畳付けは露胎である。素地は灰白色の微粒子で、高台脇に顕著に貫入が観察される。20号墓庭フク土より出土。

天目

本地区より破片で４点得られた。すべて墓室外からのものである。その中より実測に耐えきれる２点を第119図に示した。同図１は削り出し高台で、外底面は浅く削り出す。内面には黒釉を厚く施し、素地との境に白土が観察される。素地は灰白色で粗粒子である。

同図２は高台脇の資料で、内外面に渋柿釉を施したものである。素地は淡乳白色で粉状の粗粒子である。２点とも13号墓庭フク土より出土。

褐釉陶器

第119図３～７に示したもので、すべて壺形の資料である。同図３～５は淡い黄緑色釉を薄く内外面に施したものである。器面は手触りがザラザラして釉薬の剥離が著しい。器形は縁部で窄まり口縁部断面を方形状に成形するものである。素地は同図３が灰褐色で粗粒子。同図４は淡灰褐色で粗粒子、混入物として２点とも石灰質砂粒が観察できる。同図５は底部資料であるが、断面芯部が灰褐色で周辺を橙褐色のサンドイッチ状を呈している。素地は粗粒子で石灰質砂粒や黒色粒等が見られる。口縁部が19号墓屋根フク土、底部が19号墓庭フク土からの出土である。

同図６は黒褐色釉を施したもので、口縁部を逆L状に折り曲げるものである。口唇部に焼成の際の目痕が２個所観察できる。素地は淡紫色で微粒子である。石灰質砂粒が散見される。46号墓室フク土

より出土。

同図7は内外面が暗茶褐色を呈した底部資料である。素地は灰褐色で粗粒子である。混入物に黒色粒や角レキなど鉱物を含む。34号墓庭フク土より出土。

陶質土器

ろくろ成形の淡橙褐色系の土器群である。土鍋・土瓶等の煮沸用と火鉢・炉等の非煮沸用に大別される。壺屋で「アカムン」と呼ばれている日常雑器である。個々の分類概念は「壺屋古窯群Ⅰ」(註1)を概ね踏襲し、新たに確認された器種については追加した。以下、確認された器種についての分類概念を記す。その後、B地区、E地区の標品について記述する。

土鍋

器形は口縁部を「く」の字に折り曲げ、そこから緩やかに膨らみながら丸底の底部に至る。最大径は胴下半部にある。全体にろくろ成形によって仕上げられ、器壁を0.3～0.5㎜と薄く仕上げられ、胴下半部より底面にかけては篦削りが顕著に観察される。折れ曲がった口縁部の内側は受け皿状に成形する。その受け皿状の口縁部に被せる蓋は、全体に「ハ」の字状に開く皿形を伏せた器形を呈する。摘み部は高台状に成形を施し、外面の口縁部には篦削り痕が残る。分類は下記のとおりに分けた。

器体部

口縁部端部の形状によって

a：方形に呈するもの

b：舌状に呈するもの

蓋

口径と摘み径の大きさによって

a：口径12.0cm、底径4.5cm前後に納まる小型のもの。

b：口径15.1cm、底径6.1cm前後に納まる中型のもの。

c：口径17.1cm、底径6.8cm前後に納まる大型のもの。

土瓶

器形は口縁部を僅かに立ち上げ胴部を丸形もしくは屈曲するものが2種見られる。底面は丸底を呈し、器壁は約0.3㎜前後に仕上げられかなり薄手の標品である。

器体部

口縁部と胴部の形状によって

A：口縁部を立ち上げ、胴部が球状のもの。

B：口縁部をAより僅かに立ち上げ、胴部が屈曲するもの。

蓋

庇の傾きによって

a：庇部がやや水平なもの。

b：底部がやや下がるもの。

c：底部が弧状に下がるもの。

灯明皿

器のサイズはほぼ規格性を持ち、厚手のものと薄手のものが知られている。口縁部にスス痕が付着したものである。

炉

器形・肩部の形状によって

Ⅰ群　：肩部を「く」の字に折り曲げ、そこからストレートに底部に至る器形である。折れ曲がった肩部には方形の把手を一対貼り付ける。口唇部は平坦幅広に成形され、縁部には階段状に沈線を巡らす。平底の底面には回転糸切り痕を残す。

Ⅱ群－a：口縁部を内彎状に立ち上げ、そこから緩やかにカーブを描きながら底部に至る器形である。底部は高台に成形する。内彎状の肩部には把手を一対貼り付ける。口唇部は舌状に成形し、半月状の火窓を設ける。内面には突起を3ヶ取り付ける。器面には白化粧土による横線を文様として巡らす。施文範囲としては口唇部～高台脇まで施す。希に高台外面に施すものも見られる。

Ⅱ群－b：器形が円筒形のもので、その他の特徴はaに同じ。

Ⅱ群－c：器形が大型の円筒形のもので、その他の特徴はaに同じ。

Ⅲ群　：ほぼ円筒形で口縁部の内面に逆「L」字状の突起を貼り付けるもの。

Ⅳ群　：長頸の口縁部をやや外反ぎみに立ち上げ、胴部の張るものである。器面にはⅡ群と同じように横線を巡らす。

以下、B地区の土鍋より略述する。個々の観察は第14表に示した。

鍋

第120図に蓋と身を示した。身は口縁部を「く」の字に折り曲げ、胴下半部を丸く膨らます器形を呈する。口縁部外面には把手を一対施し、内面は受け皿状に成形する。蓋は皿を伏せた形で、高台から「ハ」の字状に立ち上げた器形を呈する。沖縄で「サークーナーベー」と通称されているものである。

土瓶

第121図1～4に示した。1は底部を弧状に下げる蓋cで、2は口縁部を立ち上げ胴部を弧状にするAタイプのものである。1と2はセット関係が確認されている。4は胴下半部で屈曲するBタイプのものである。

灯明皿

同図5は底面を厚手に成形し、やや内彎ぎみに立ち上げるものである。口唇部にスス痕が見られる。底面はヘラ起こしでやや上げ底状を呈する。色調は赤褐色、胎土に微粒子を混入。口径11.4cm、器高3.1cm、底径3.9cmを測る。B地区7号墓庭フク土より出土。

炉

第121図6～10に示した。肩部を「く」の字に折り曲げるⅠ群（同図6～8）に属するものと口縁部を内彎させるⅡ群（同図9）が主に見られた。同図10の標品は新たな資料で、口縁部はやや外反ぎみに立ち上げ胴部で張る器形を呈するものである。外面に白化粧土による横線を数条巡らし、その特徴よりⅡ群に近いグループかと思われるが、Ⅳ群として新たにグルーピング可能の土器群である。

第14表　陶質土器観察一覧

挿図番号 図版番号	器　種	口径 器高 底径 (cm)	素　地	色　調	特　　徴	出土地点
第120図1 PL.65の1	土鍋の蓋	5.4 — —	淡橙褐色 微粒子	淡橙褐色	畳付けにろくろ痕が残る。 焼成甘い茶色粒が散見。	B－46号墓前方フク土
〃　2 〃　2	〃	5.4 — —	〃	〃	畳付けにろくろ痕が残る。 高台脇ヘラ削り。見込み深い。	B－19号墓屋根フク土
〃　3 〃　3	〃	— — 17.0	〃	〃	高台脇ヘラ削り。 内外面に細いろくろ痕残る。	B－46号墓フク土
〃　4 〃　4	〃	— — 18.0	〃	〃	〃	B－28号墓室フク土
〃　5 〃　5	〃	6.5 6.0 21.1	〃	〃	口唇部を外反ぎみに成形。口唇内面部より外面にかけて灰色釉薬？	25・26号墓庭フク土
〃　6 〃　6	土鍋	20.8 — —	〃	〃	内部に細かいろくろ痕が残る。 手ざわりザラザラ。	25・26号墓庭フク土
〃　7 〃　7	〃	23.2 — —	〃	〃	〃 外面スス痕付着。	B－30号墓室フク土
第121図1 PL.66の1	土瓶の蓋	— — 6.2	淡桃褐色 微粒子	淡桃褐色	厚手のつくりで、庇部がやや下がるものである。	B－14号墓室
〃　2 〃　2	土鍋	8.4 — —	〃	〃	ガラス質鉱物黒色粒を混入。 胴部が球状のものと思われる。	B－24号墓庭外フク土
〃　3 〃　3	土鍋の把手	— — —	淡釉褐色 微粒子	淡釉褐色	把手部にスス痕が残る。 焼成良好。	B－19号墓庭外フク土
〃　4 〃　4	土鍋の注口	— — —	〃	〃	ガラス質鉱物。胴下部に屈曲あるものと思われる。	11号墓口フク土
〃　5 〃　5	皿	11.4 3.1 3.9	赤褐色 微粒子	赤褐色	ヘラおこし。口唇部にスス痕、焼成良好で厚手。	7号墓庭フク土
〃　6 〃　6	火炉	11.6 — —	淡赤褐色 微粒子	淡赤褐色	口唇部平坦に成形。 縁部凹線2条巡らす。	B－16号墓庭フク土
〃　7 〃　7	〃	16.2 — —	淡橙褐色 微粒子	外淡橙褐色 内淡赤褐色	口唇部丸みに成形。 縁部下位凹線1条巡らす。	B－27号墓庭フク土
〃　8 〃　8	〃	13.0 — —	〃	〃	〃	B－42号墓庭外フク土
〃　9 〃　9	〃	15.4 9.4 7.6	〃	淡橙褐色	全形をうかがえる資料。従来知られているものよりはやや底平。内面にスス痕がみられる。	42号墓庭フク土
〃　10 〃　10	〃	16.0 — —	淡橙褐色 微粒子	〃	縁部を立ち上げ口唇部をT字状に成形するもので外面白化粧土による横線を描くものと同じものである。手ざわりザラザラする。	号墓不明

円盤状製品

碗・皿・甕などの日常品を円形に打割した製品である。第15表に示したとおり各地区全体で144点が確認されている。出土量はA・B地区の123点が卓越しており、次いでE地区の14点が目を引く。その他の地区は希少である。その殆どが墓庭より得られたもので、希に墓室内より出土したものもある。

本標品の南地区全体の傾向としては、材質は磁器・沖縄産の施釉・無釉陶器の3種が圧倒的に用いられ、大きさは2～8cm台の範囲にほぼ収まり、4cm台に集中して見られる。

以下、B地区の標品について述べる。

本地区では70点が得られた。全体からすると 48.6%と約半数近く出土しており、最も多く出土した地区でもある。その内、特徴的なものを第122図に示した。また、個々の計測や出土地点などは第17表に示した参考にされたし。

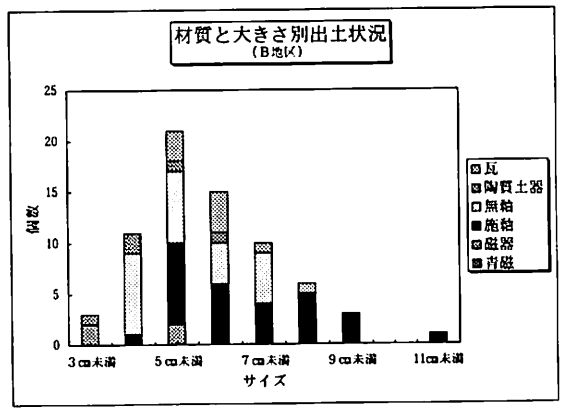
用いられている材質としては、殆どが沖縄産の施釉・無釉陶器の2種で全体の75%を占める。大きさは3～6cm台に集中して見られる。その範囲で材質においても幅が見られる。

第15表　円盤状製品出土一覧

種類／地区名	青　磁	磁　器	施　釉	無　釉	陶質土器	瓦	合　計
A地区	1	12	28	11	1		53
B地区		4	28	24	5	9	70
C地区		1	2				3
D地区		1		2			3
E地区	1	1	3	8	1		14
F地区				1			1
合　計	2	19	61	46	7	9	144

第16表　B地区円盤状製品種類・大きさ別出土状況

種類／サイズ	青磁	磁器	施釉	無釉	陶質土器	瓦	合計
3cm未満		2			1		3
4cm未満			1	8	2		11
5cm未満		2	8	7	1	3	21
6cm未満			6	4	1	4	15
7cm未満			4	5		1	10
8cm未満			5			1	6
9cm未満			3				3
10cm未満							0
11cm未満			1				1
合　計	0	4	28	24	5	9	70



第17表　B地区円盤状製品計測一覧　　法量単位：cm、g

挿図番号 図版番号	出土地	種類	器種	部位	完／破	最大径	最小径	厚さ	重さ	産地
第 122 図 1 PL. 67の 1	30号墓 庭外フク土	陶質土器	不明	胴部	完形	2.40	1.90	0.5	2.8	沖縄産
〃 2 〃 2	43号墓 フク土	染付	碗	胴部	完形	2.90	2.80	0.4	4.9	外国産
〃 3 〃 3	42号墓 庭外フク土	無釉	擂鉢	胴部	完形	3.20	3.10	0.9	12.2	沖縄産
〃 4 〃 4	6号墓 庭フク土	施釉	壺	胴部	完形	3.60	3.60	0.8	12.6	〃
〃 5 〃 5	20号墓 垣フク土	磁器	小碗	底部	完形	4.05	3.90	1.1	18.3	本土産
〃 6 〃 6	5号墓 室フク土	無釉	壺	胴部	完形	4.50	4.10	0.8	23.3	沖縄産
〃 7 〃 7	44号墓 庭フク土	赤瓦	平瓦	縁	完形	5.30	5.10	1.1	38.1	〃
〃 8 〃 8	30号墓 室フク土	陶質土器	不明	胴部	完形	5.35	5.15	1.2	36.7	〃
〃 9 〃 9	42号墓 庭外フク土	無釉	壺	胴部	完形	6.00	5.50	2.1	100.6	〃
〃 10 〃 10	39・40・50号墓 前方フク土	無釉	不明	胴部	完形	6.00	5.60	1.6	67.2	〃
〃 11 〃 11	46号墓 前方フク土	灰色瓦	平瓦	胴部	完形	6.00	5.70	1.7	72.8	〃
〃 12 〃 12	5号墓 室フク土	施釉	碗	底部	完形	8.70	8.00	2.3	108.5	〃

第21表　E地区円盤状製品計測一覧　　法量単位：cm、g

挿図番号 図版番号	出土地	種類	器種	部位	完／破	最大径	最小径	厚さ	重さ	産地
第 127 図 1 PL. 72の 1	3・4号墓 間垣フク土	無釉	不明	胴部	完形	3.75	3.70	0.80	13.9	沖縄産
〃 2 〃 2	15号墓庭外 フク土	磁器	小碗	底部	完形	3.90	3.80	0.85	13.2	本土産
〃 3 〃 3	15号墓外参道	無釉	不明	胴部	完形	4.15	3.95	0.65	17.2	沖縄産
〃 4 〃 4	9号墓庭フク 土	施釉	小碗	底部	破損	4.55	4.40	1.45	21.7	〃
〃 5 〃 5	14号墓庭フク 土	施釉	小碗	底部	完形	4.80	4.50	1.60	30.9	〃
〃 6 〃 6	28号墓室フク 土	無釉	不明	胴部	完形	4.80	4.50	1.25	35.8	〃
〃 7 〃 7	24号墓前方 フク土	無釉	擂鉢(?)	胴部	破損	5.90	4.90	0.90	32.9	〃
〃 8 〃 8	9号墓庭フク 土	青磁	碗	底部	完形	6.00	5.90	2.80	111.6	外国産
〃 9 〃 9	19号墓庭フク 土	無釉	不明	胴部	完形	6.20	5.50	1.35	75.1	沖縄産
〃 10 〃 10	23・24号墓間 フク土	無釉	不明	胴部	破損	6.70	4.50	0.70	36.0	〃
〃 11 〃 11	19号墓庭フク 土	陶質土器	不明	胴部	完形	7.20	7.00	1.10	73.8	〃

陶製品

ここで陶製品として扱う資料は、土鈴と人形の２種である。以下、土鈴より記述する。

土鈴

第123図１に示したもので完形品である。形状はやや略方形の有孔の柄に球状の身からなる。身には胴下半部より１条溝を施し、その始点・中間点にそれぞれ孔が見られる。また、内部には標品を鳴らすために長楕円形の土玉１ヶを配する。素土は「陶質土器」と同じで、色調は淡い橙褐色を呈する。本標品は壺屋古窯群Ｉのｂタイプに属するものである。４号Ａ墓室内フク土よりの出土。本標品は、Ｄ地区でも１ヶ検出されている。

人形

第123図２～６に示したものである。人形は磁器製・陶製・土製の３種が得られ、ヒト・獣形・魚形等が見られた。また、それらを組み合わせたものもある。以下、下記のとおりに分けた。個々の観察は第18表を参照されたし。

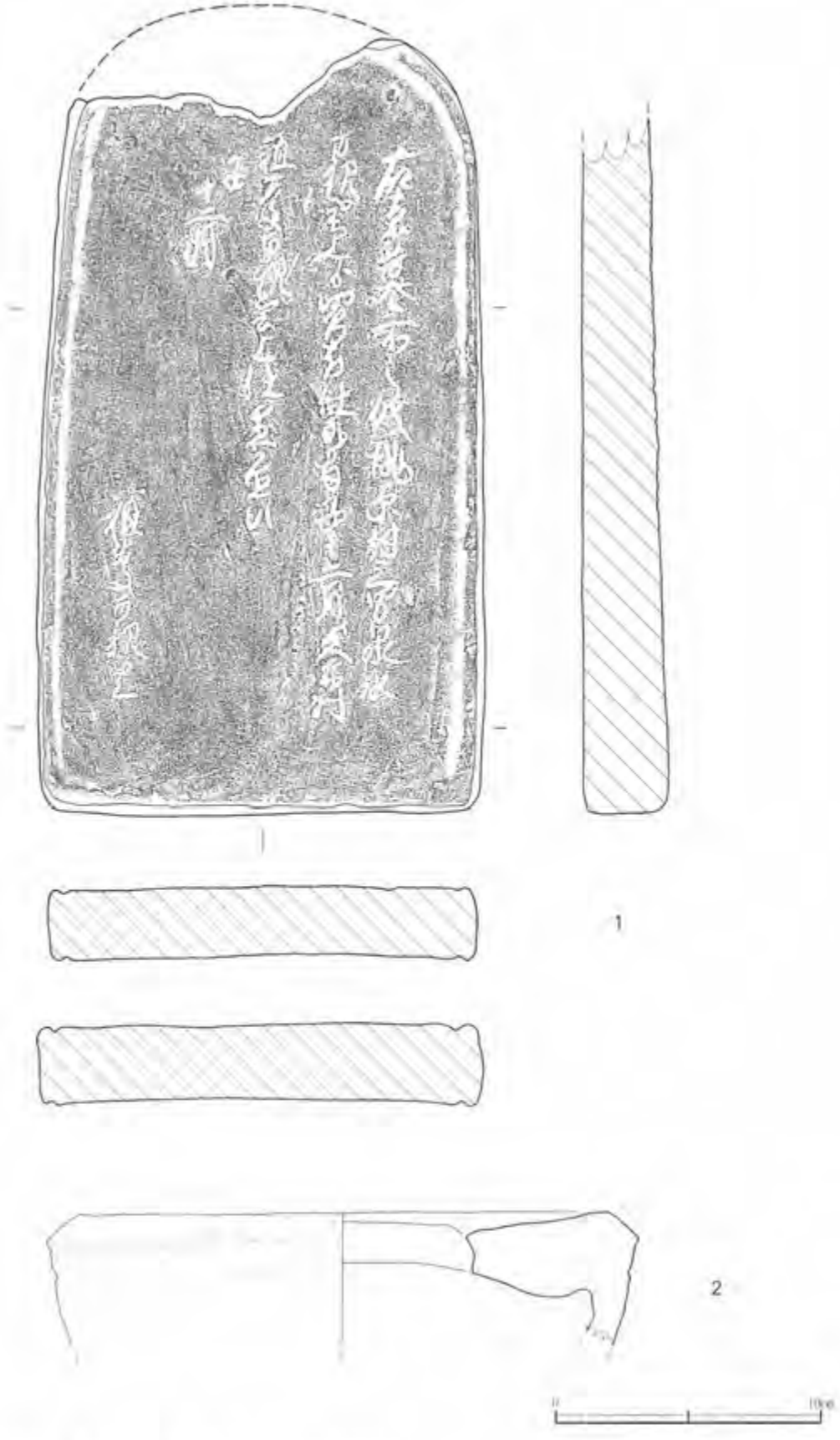
Ｉ．ヒト形　：ヒト形をモチーフにしたもの
II．獣形　　：猫・馬等をモチーフにしたもの
III．魚形　　：魚等をモチーフにしたもの
IV．松かさ形：松かさ状のもの

IV類については、本古墓群では確認されていないが、壺屋古窯群Ｉ(註2)で得られている資料である。

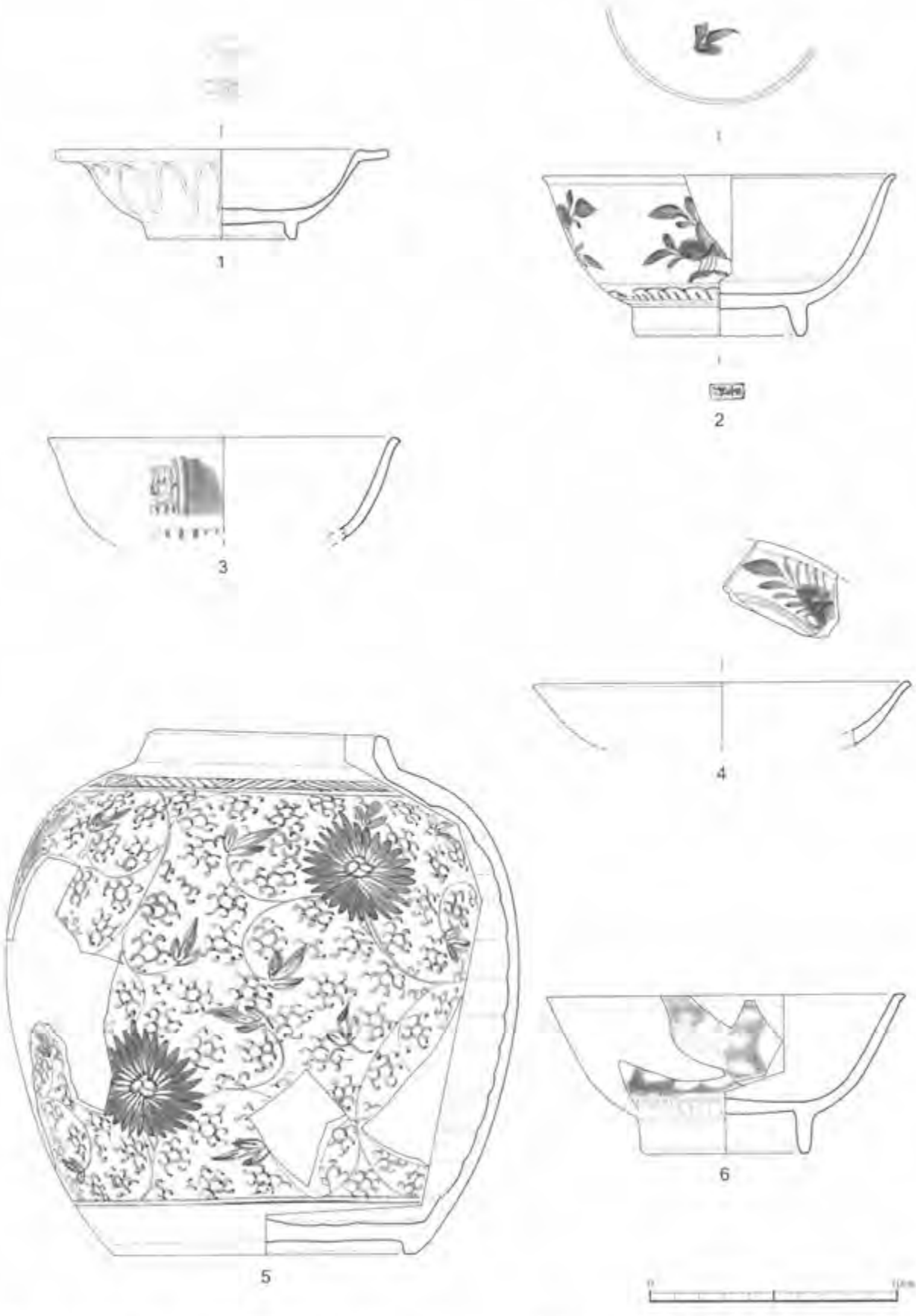
第18表　人形観察一覧

挿図番号 図版番号	分類	胎土	釉	観　　察	出土地点
第 123 図２ ＰＬ．68の２	Ｉ	磁器質	全面に薄い透明釉を施す。 底面は露胎	型作りのダルマの人形で、側面に前後の貼り付け痕が観察される。 内面は布目痕が残り、底面には同じ素地が錘として、雑に張り付けられている。俗に「起き上がり小法師」と呼ばれている。	40号墓庭外フク土
〃　３ 〃　３	Ｉ	〃	〃	型作りの女性の立像人形、側面に前後の貼り付け痕が見られる。内面には布目痕が残る。また、底面には約２㎜の孔が観察される。	31号墓庭フク土
〃　４ 〃　４	II	〃	〃	型作りのまねき猫の人形。側面には前後に貼り付け痕が見られる。内面には布目痕が残る。	13号墓庭フク土
〃　５ 〃　５	II	〃	〃	型作り。胴部は破損しているが、軍靴とサーベルが観察され軍人の人形のようである。その足部には朱泥が施されていたようで彩色された人形でもある。 上記のものとは異なり、中心に貼り付け痕が残る。	42号墓庭外フク土
〃　６ 〃　６	II	陶器質	〃	型作り。ニワトリの人形かと思われる。表面に赤色・黒色・緑色の彩色が成されている。底面の両面には布目痕が残る。本品は少なくとも３つ以上の型で製作されたものと思われる。	14号墓庭フク土

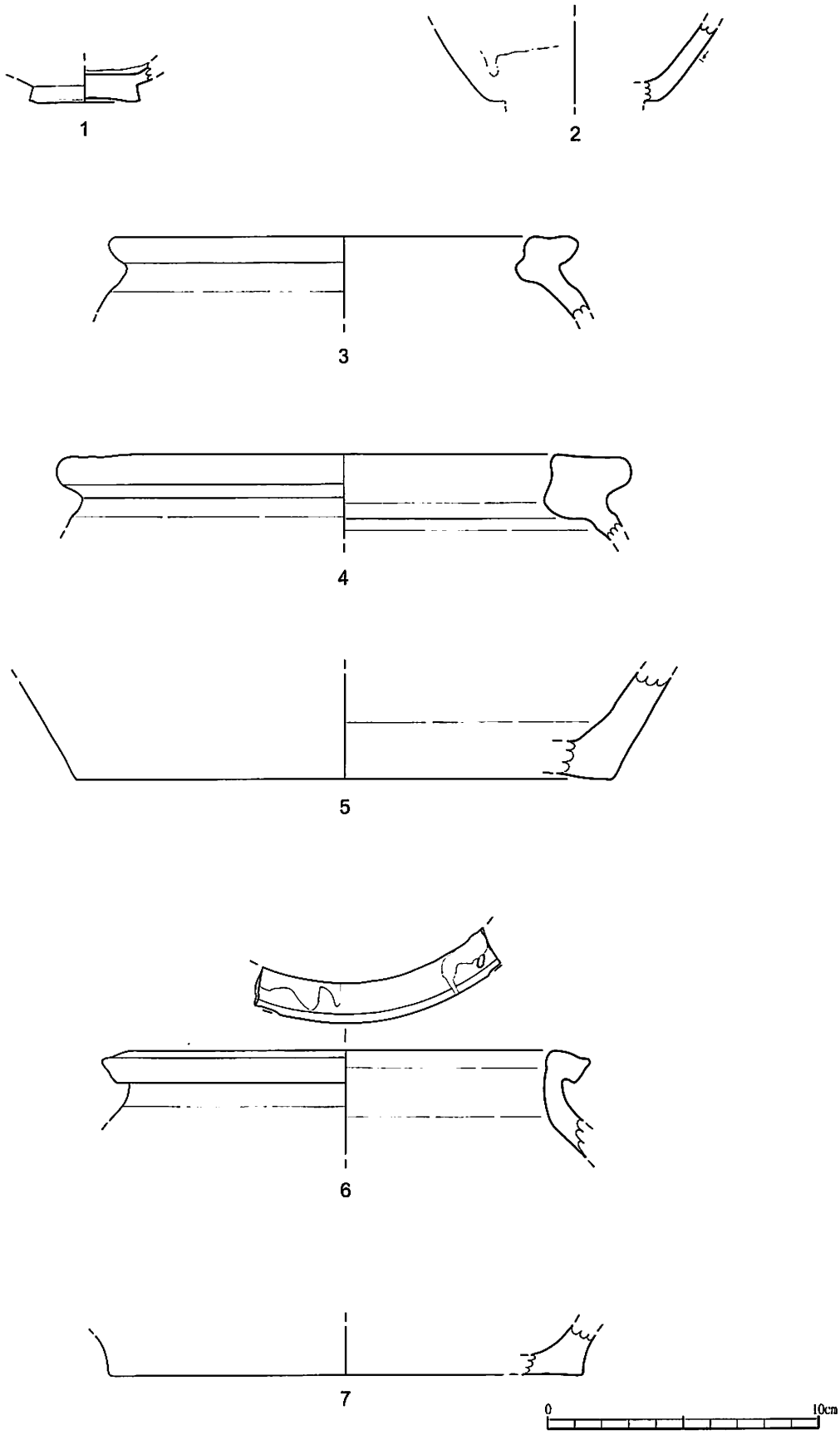
註１・２：島弘・内間靖・玉城安明他『壺屋古窯群Ｉ』那覇市教育委員会1992年



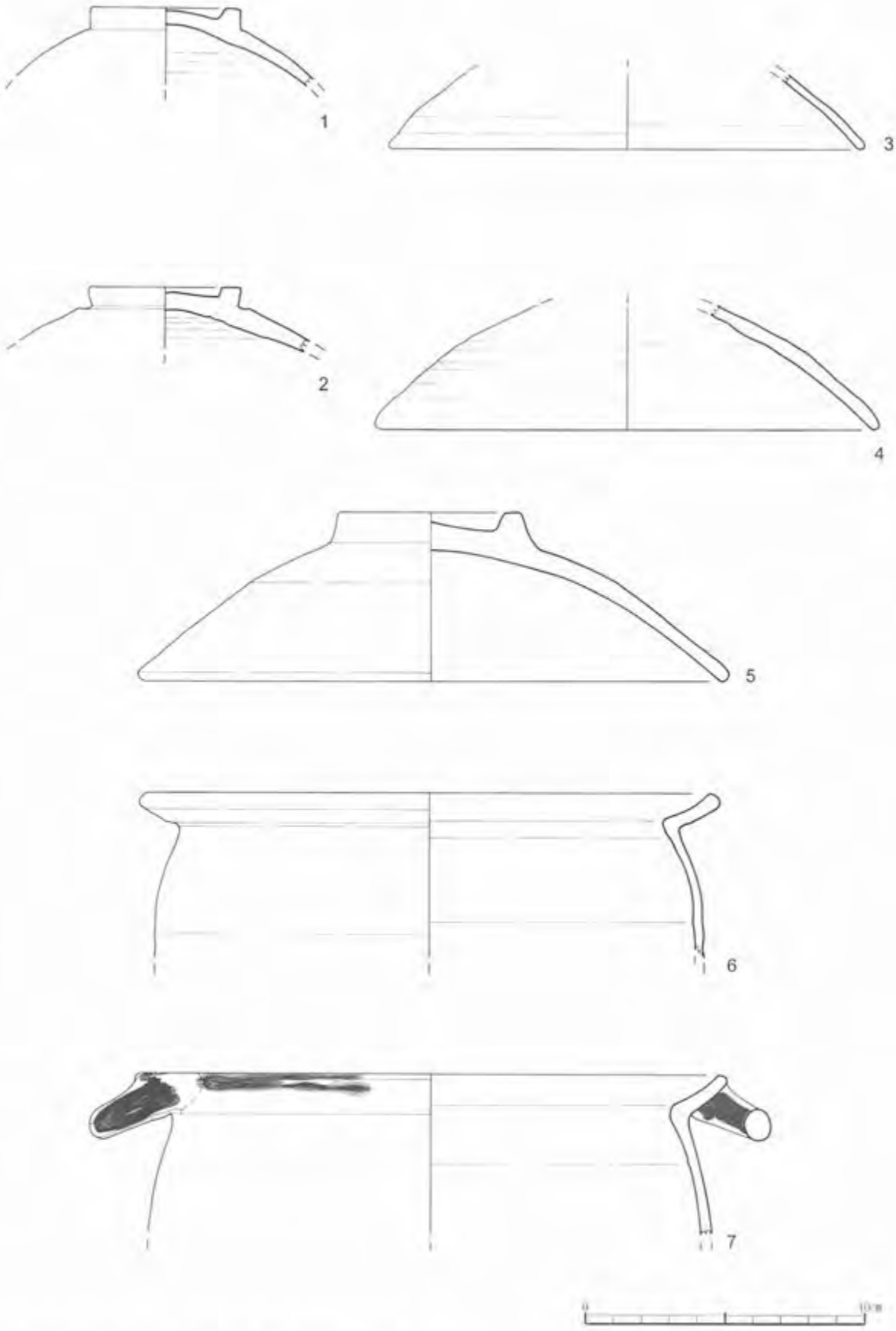
第117図(PL.62)　瓦証文(1)・窯道具(2)〔B地区〕



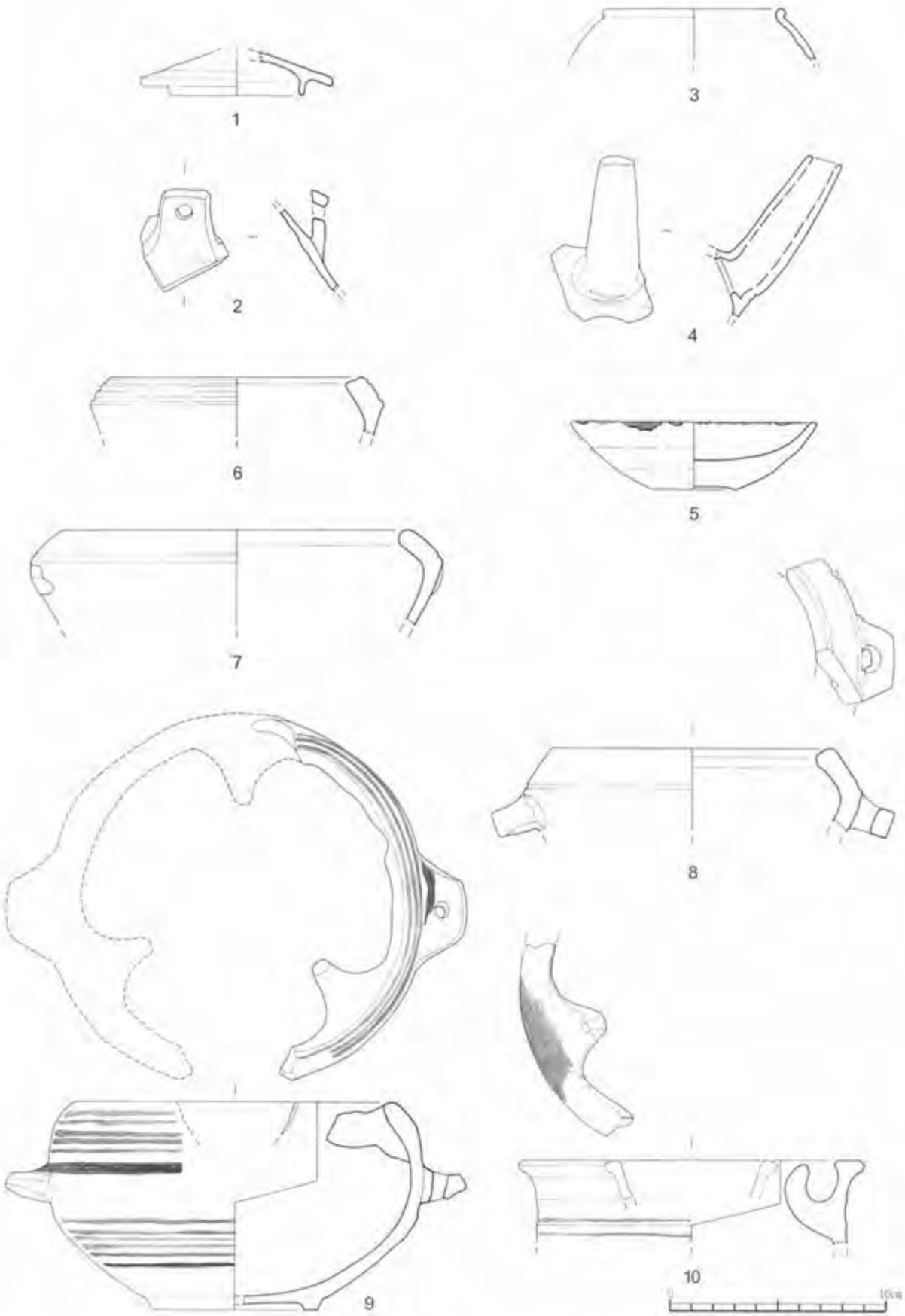
第118図(PL.63)　中国陶磁器〔B地区〕：青磁(1)、青花(2～5)、色絵(6)



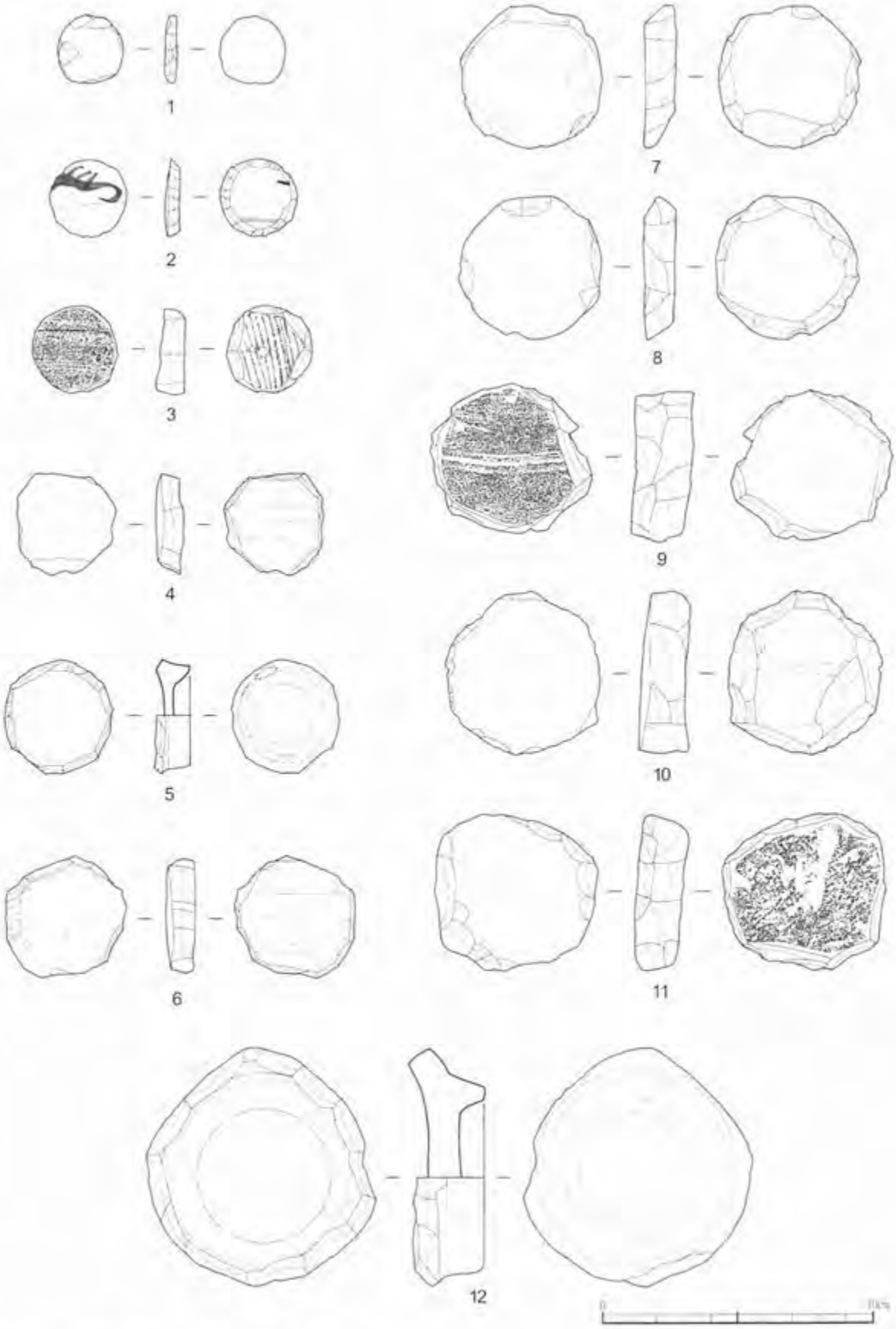
第119図(PL.64)　中国陶磁器〔B地区〕：天目(1・2)、褐釉陶器(3～7)



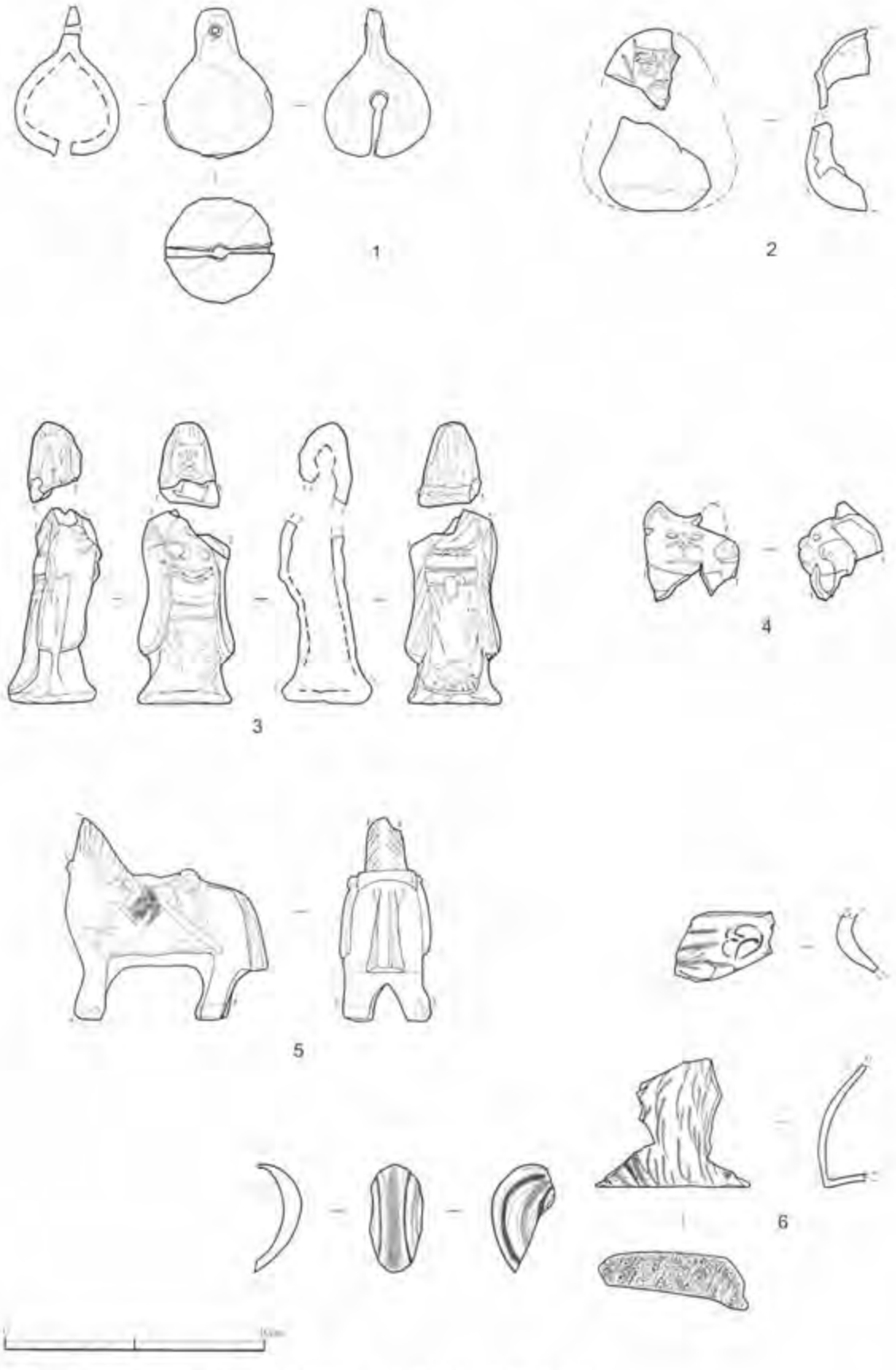
第120図(PL.65)　陶質土器〔B地区〕：鍋



第121図(PL.66)　陶質土器〔B地区〕：土瓶(1～4)，灯明皿(5)，炉(6～10)



第122図(PL.67)　円盤状製品〔B地区〕



第123図(PL.68)　陶製品［B地区］：土鈴(1)、人形(2～6)

2．E地区の墓誌、窯道具、中国陶磁器、陶質土器、円盤状製品

墓誌

赤色の平瓦の表面に墨書された資料が3点確認された。いずれもE地区第15号墓庭フク土から出土したものである。また、3点とも墨書きされた所有者名と思われる箇所が意識的に削られた痕が観察された。以下、個々の資料について記述する。

第124図1は破損しているが、楷書による縦書きの4行が見られる。判読可能な文字を以下に示した。

戦後・・・・　合葬之
前・・・・・　呈今・・
昭和二十二年十一月五日
　　新城・・移送之

新城「・・」移送・・についての「・・」は削られたものと思われる。
現存長17.4cm、短軸9cm、厚さ1.3cm、重さ250g。

同図2も同様に破損しているが、縦書きの5行が見られる。判読可能な文字は以下のとおりである。

大東亜戦時兵出庭之・・・
・不能識別
　　合葬之
昭和二十一年十一月十六日
　　新城・・

本資料も同図1と同じように新城「・・」の「・・」は削られているようである。
現存長17.6cm、短軸12.6cm、厚さ1.3cm、重さ420g。

同図3も平瓦の半欠品で、5行の縦書きが読みとれる。以下に示す。

新城女房
仝嫁延子・・・合葬之
昭和二・・・・
　　高嶺村與座・・杉・
昭和二・・・　　右
　　三男・

本資料も同図1・2と同様に三男「・」の「・」の箇所が削られている。
現存長24.9cm、短軸11.8cm、厚さ1.2cm、重さ650g。

窯道具

第124図４・５ともに施釉陶器用で、前者がトチンで後者がサヤの蓋と思われるものである。前者は全体に赤褐色を呈し、素地には白いスジ状の土が顕著に観察される。底面に凝固した砂粒が見られ、内面には白土の付着が観察される。Ｅ地区６号墓庭フク土より出土。

後者はサヤの蓋と思われるもので円盤状を呈する。素地は灰色を呈し暗茶褐色粒子を含む。Ｅ地区14号墓庭フク土より出土。

中国産陶磁器

白磁

第125図１・２に碗・皿を図示した。同図１は見込みと高台が露胎の資料である。僅かに高台脇に釉薬が観察される。また、高台脇にはカンナ痕が残り、素地は灰褐色で微粒子である。15号墓外参道。

２は口禿の皿で、ベタ底からやや内彎ぎみに立ち上がる器形を呈する。口唇部は釉薬を施釉後に剝ぎ取り舌状に成形。素地は淡黄褐色で微粒子である。11・12号墓間フク土。

青磁

同図３に示したもので高台内が露胎の資料である。釉薬は厚手で淡黄緑色を呈し、外面に貫入が見られる。素地は淡黄白色で微粒子である。13号墓庭外表採。

青花

同図４～８の碗・皿を示した。いずれも18ｃ以降のものである。同図４～７は外反の碗で畳付けは露胎のものである。同図４は寿字文と日雲をモチーフとした区画文を組み合わせたものである。15号墓外参道出土。同図５～７は草花文を描くもので、同図６の標品は呉須の発色が悪い。同図５は11号墓庭フク土、６が15号墓外参道、７が23・24号墓間フク土よりそれぞれが出土。同図８は見込みに２重の圏線と草花文、外面には「七」の間延びしたような模様を描き、縁部と高台脇に圏線を巡らす皿である。表採品である。

人形

第125図９に示したもので、椅子か何かに腰掛けている女性の足の破片である。白色の磁器質のもので、外面には透明釉が施されているが内面は露胎である。膝下の釉薬が融けており何らかのものが付着していたものと思われる。６号墓庭フク土より出土。

陶質土器

Ｅ地区では、土鍋・灯明皿・炉等が検出された。その中で特徴的なものを図示した。分類概念はＢ地区の概念を用いる。以下、個々について略述する。

土鍋

第126図１に示した。器形等はＢ地区で紹介した鍋形と同類のものである。口縁部の内外面周辺にスス痕の付着が顕著でかなり使用されたものである。

灯明皿

同図２に示した。かなり薄手の標品で底面に糸切り痕を残す。

炉

同図３・４に示した。３がＩ群、４がII群に属するものである。両者ともススの付着が著しい。

第19表　陶質土器観察一覧

挿図番号 図版番号	器種	口径 器高 底径 (cm)	素　地	色　調	特　　徴	出土地点
第 126 図１ PL. 71の１	土鍋	20.8 － －	淡橙褐色 微粒子	淡橙褐色	口縁部にスス痕が残る。 内外面にろくろ痕が観察される。	19号墓庭フク土
〃　２ 〃　２	皿	－ － 5.8	淡赤褐色 微粒子	淡赤褐色	底面に糸切り痕あり。 薄手の標品。	15号墓外 参道上石積
〃　３ 〃　３	火炉	15.6 － －	〃	〃	口唇部平坦。 縁部に凹線を２条巡らす。	22号墓フク土
〃　４ 〃　４	〃	15.0 10.6 8.6	淡橙褐色 微粒子	淡橙褐色	口唇部内面スス痕が残る。 器表面の剥離が著しい。	23・24号墓間フク土

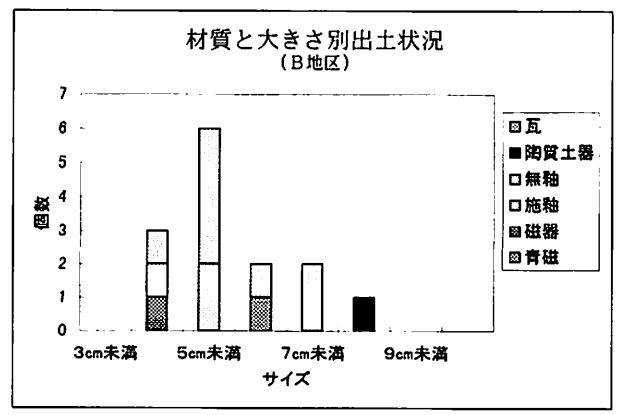
円盤状製品

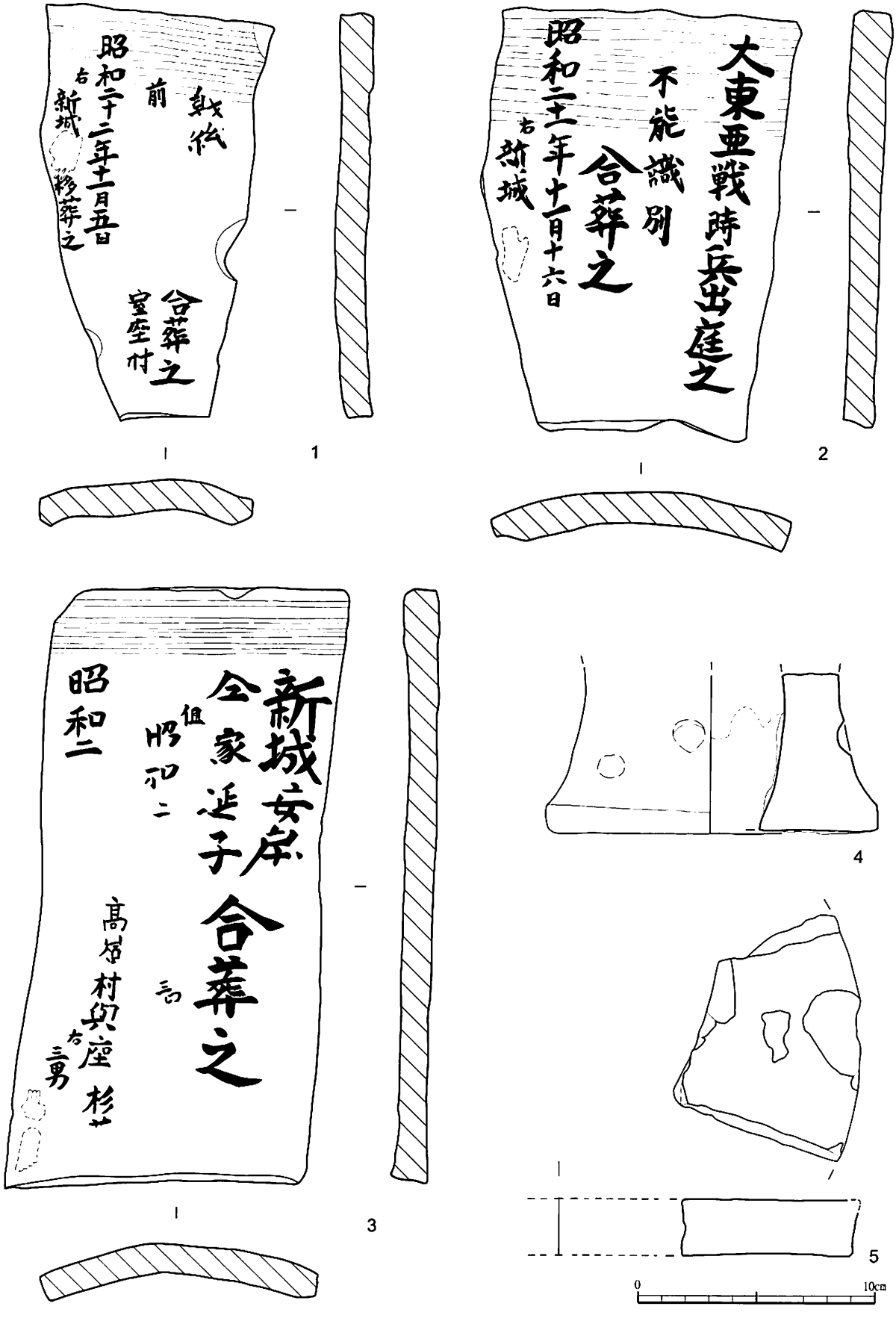
本地区では第20表に示したとおり総数14点が得られた。全体の約10%程の出土量である。その中で、特徴的なものを抜き出し第127図に示した。計測・出土地点については、第21表に示した参考されたし。

材質はＢ地区とほぼ同じ傾向が見られ、沖縄産陶器を主に用いているようだ。大きさ２cmと７cm台は得られてなく、３～４cm台に集中して見られる傾向がある。

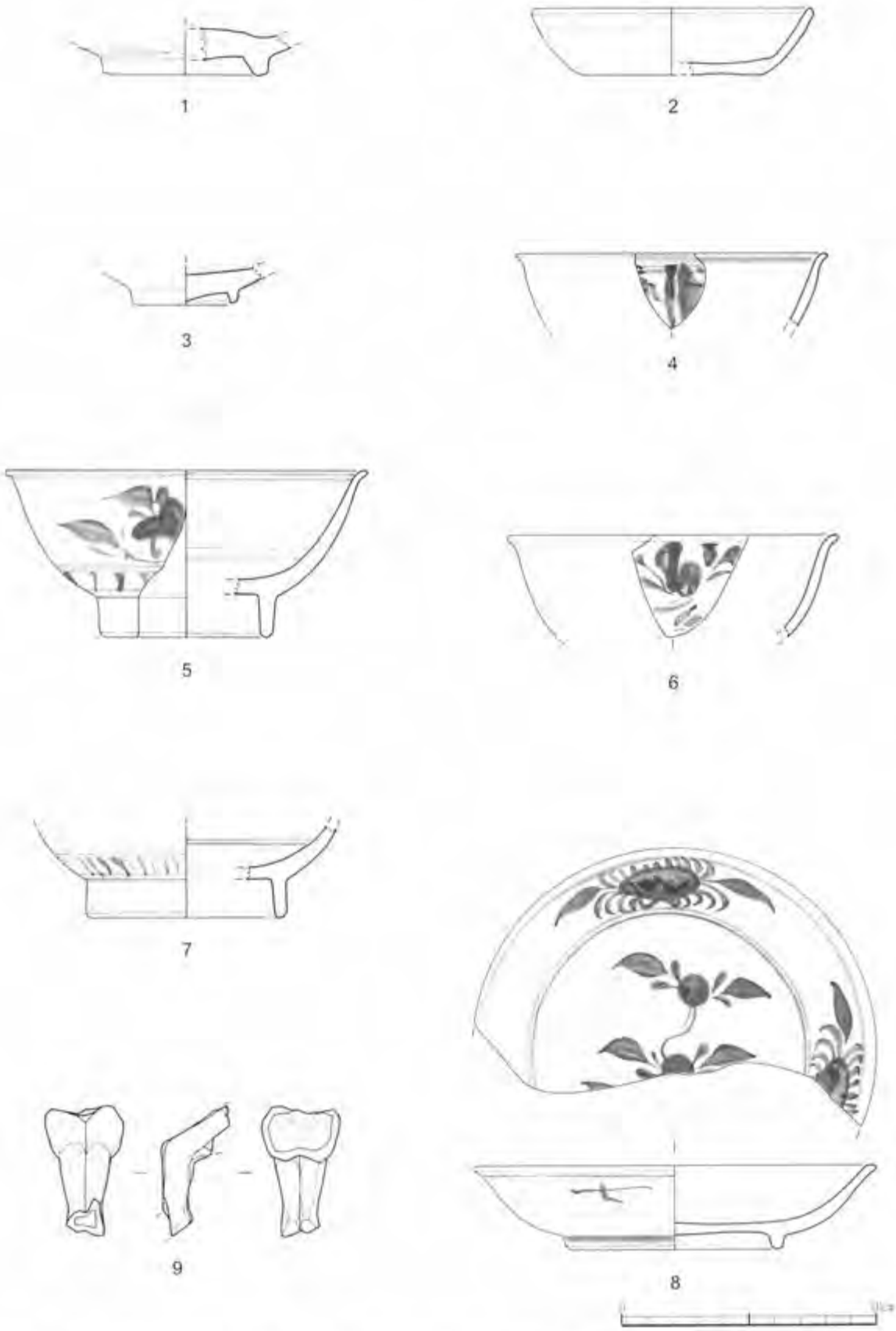
第20表　Ｅ地区円盤状製品種類・大きさ別出土状況

種類 サイズ	青磁	磁器	施釉	無釉	陶質土器	瓦	合計
3 cm未満							0
4 cm未満		1	1	1			3
5 cm未満			2	4			6
6 cm未満	1			1			2
7 cm未満				2			2
8 cm未満					1		1
9 cm未満							0
10cm未満							0
合　計	1	1	3	8	1	0	14

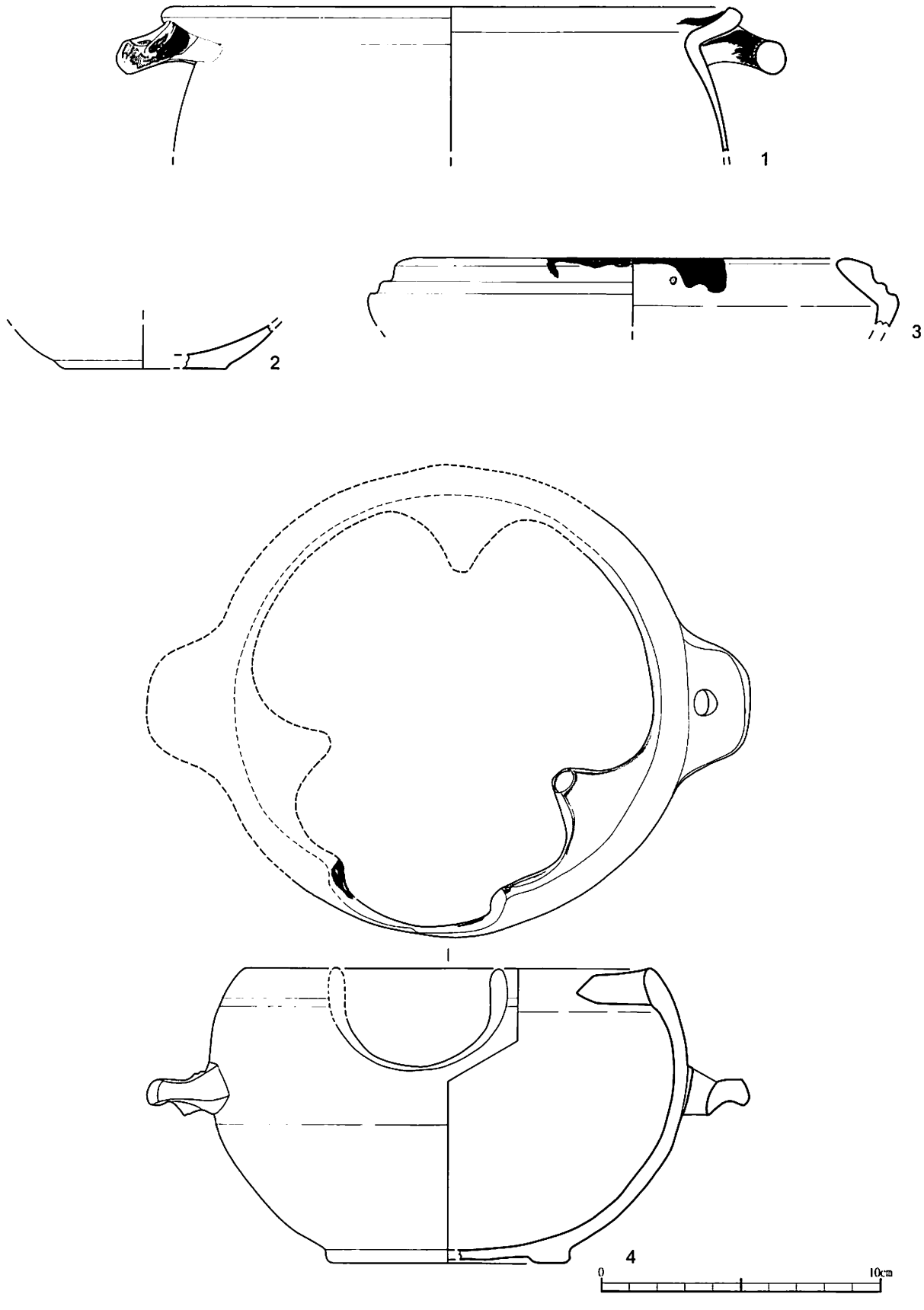




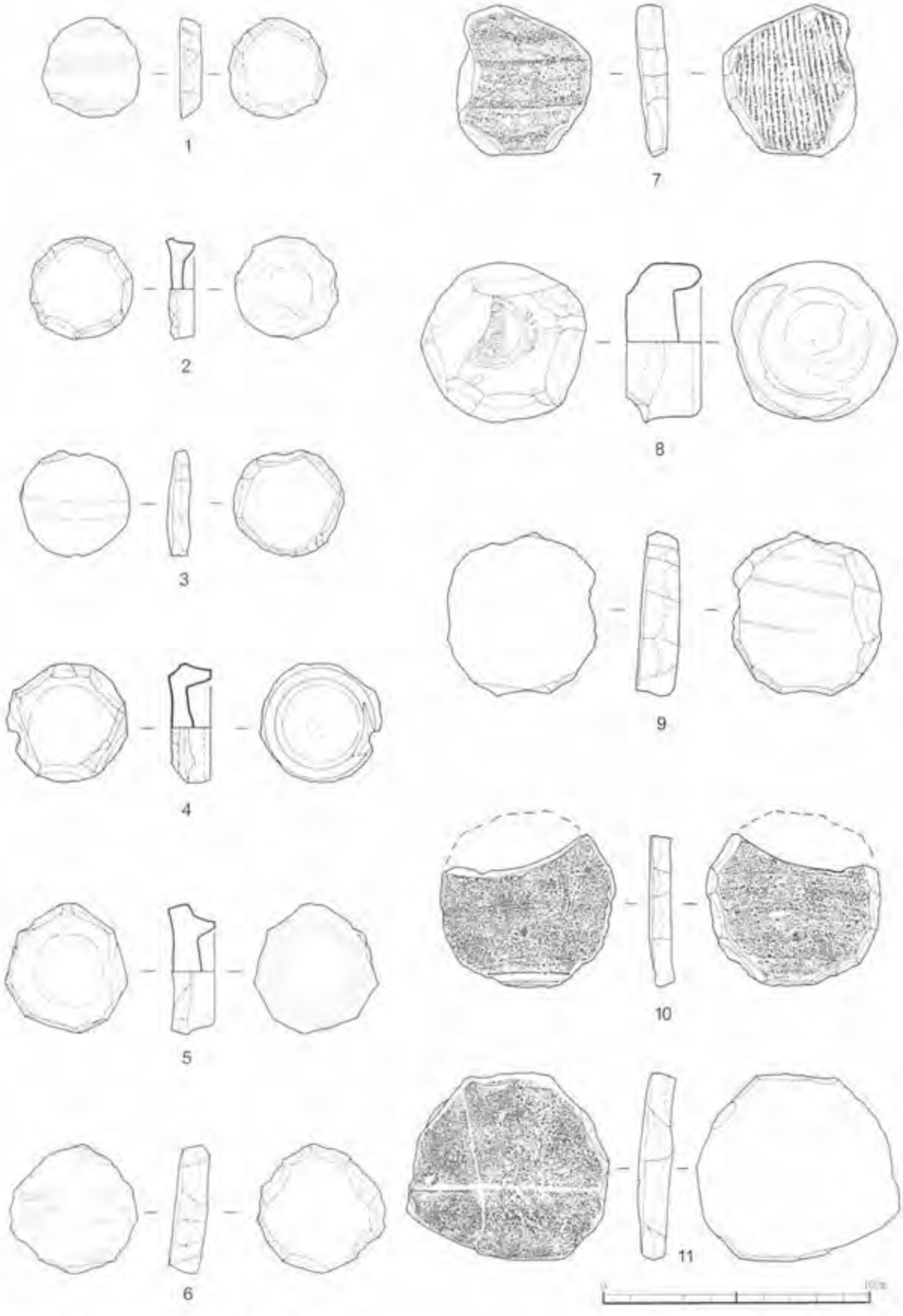
第124図(PL.69)　墓誌(1～3)、窯道具(4・5)〔E地区〕



第125図(PL.70)　中国陶磁器〔E地区〕：白磁(1・2)、青磁(3)、青花(4～8)、人形(9)



第126図(PL.71)　陶質土器〔E地区〕：鍋(1)、灯明皿(2)、炉(3・4)



第127図(PL.72)　円盤状製品〔E地区〕

第5節　銭　貨

1．B地区の銭貨

本地区の銭貨は、号墓不明のものを除き古墓26基の29地点より出土している。出土総数は132点、種類は不明を除くと10種認められる。これらは寛永通寶を始めとして近代の十銭から五厘、さらに米国の5セント等多種多様である。出土点数の最も多いものは寛永通寶の54点、次いで一銭の43点、五銭の11点となっている。出土地点では14号墓庭フク土からの43点が最も多く、次いで4号A墓正面右石積中での12点となっている。なお、寛永通寶については種別として古寛永と新寛永に、十銭以下の近・現代の銭貨は時代別に分けそれぞれの出土数を第22表に示した。また、寛永通寶・乾隆通寶・無文銭は出土したすべての拓影を第128～131図 PL.73～76に、十銭以下の銭貨については代表的なものを第132・133図 PL.77・78に掲げた。それぞれの詳細については第23～25表の観察表を参照されたい。

参考文献

＊陸原　保「改訂版　東洋古銭価格図譜　全　志庵蔵版」　万国貨幣洋行　1970

＊中橋掬泉「新撰古銭大鑑」　大文館書店　1973復刻

＊港区芝公園1丁目遺跡調査団「芝公園一丁目増上寺子院群　光学院・貞松院跡 源興院跡」　東京都港区教育委員会　1988

＊島袋　洋・金城亀信他「湧田古窯群（II）」　沖縄県教育委員会　1995

＊玉口時雄他「汐留遺跡」　汐留地区遺跡調査会　1996

＊島　弘・渡久地政嗣・城間千栄子「識名シーマ御嶽遺跡」　那覇市教育委員会　1997

第22表　B地区出土銭貨集計一覧

No.	出土地点	銭貨名（A）						(A)計	銭貨名（B）										(B)計	(A)+(B)合計	銭貨名（B）に刻まれた年代
		寛永通寶 種別			乾隆通寶	無文銭	不明		十銭	五銭		一銭			半銭	五厘	5セント	1セント			
		古	新	不明					種別												
									S	M	S	M	T	S	M	T	1936	1937			
1	1号墓前方フク土		1					1												1	
2	2号墓室フク土													2				1	3	3	昭和十四・十七年：1937(米国又はフィリピン硬貨?)
3	4号墓前方フク土					1		1						1					1	2	昭和十八年
4	4号墓室	1	4					5												5	
5	4号A墓正面右石積中	3	9					12												12	
6	5号墓室フク土		1					1						1					1	2	昭和九年
7	6号墓庭外フク土						7	7												7	
8	7号墓室フク土								1		1			2			1		5	5	昭和十三・十四・十六・十七：1936(米国硬貨)
9	8号墓庭フク土													1					1	1	昭和十七年
10	13号墓庭フク土			1				1				1							1	2	明治十八年
11	14号墓庭フク土	1			2			3	4		8		1	18					31	34	大正十一年：昭和十四～十九・□年
12	18号墓庭フク土	1						1												1	
13	19号墓庭フク土														1				1	1	明治二十一年
14	20号墓庭フク土									1									1	1	明治三十一年
15	20号墓室												3	3					6	6	大正八・十・十一年：昭和十・十一年
16	20号墓左土留石積												1						1	1	大正十年
17	25号墓垣下	1	7					8												8	
18	25・26号墓庭フク土														1				1	1	明治□年
19	31号墓庭フク土		2	1				3								1			1	4	大正六年
20	33号墓前方フク土	1						1						1					1	2	昭和□年
21	37号墓庭フク土					1		1												1	
22	38号墓庭フク土		1					1												1	
23	39・40・50号墓前方フク土		3					3					1						1	4	大正九年
24	41号墓庭フク土													1					1	1	昭和十五年
25	41号墓室フク土									1			2	1					4	4	明治□十七年：大正十三・□年：昭和□年
26	42号墓室フク土								1				1						2	2	大正十一年：昭和十九年
27	46号墓前方フク土		1					1												1	
28	47号墓前方フク土	2	2			1		5												5	
29	47号墓室フク土													1					1	1	昭和□年
30	号墓不明	3	7	1				11						1	1				2	13	明治十八年：昭和十六年
計		13	38	3	2	3	7	66	6	2	9	1	9	33	3	1	1	1	66	132	※古：古寛永　新：新寛永
各銭貨の合計		54			2	3	7		6	11			43		3	1	1	1			※M：明治　T：大正　S：昭和

第23表　B地区出土銭貨観察一覧

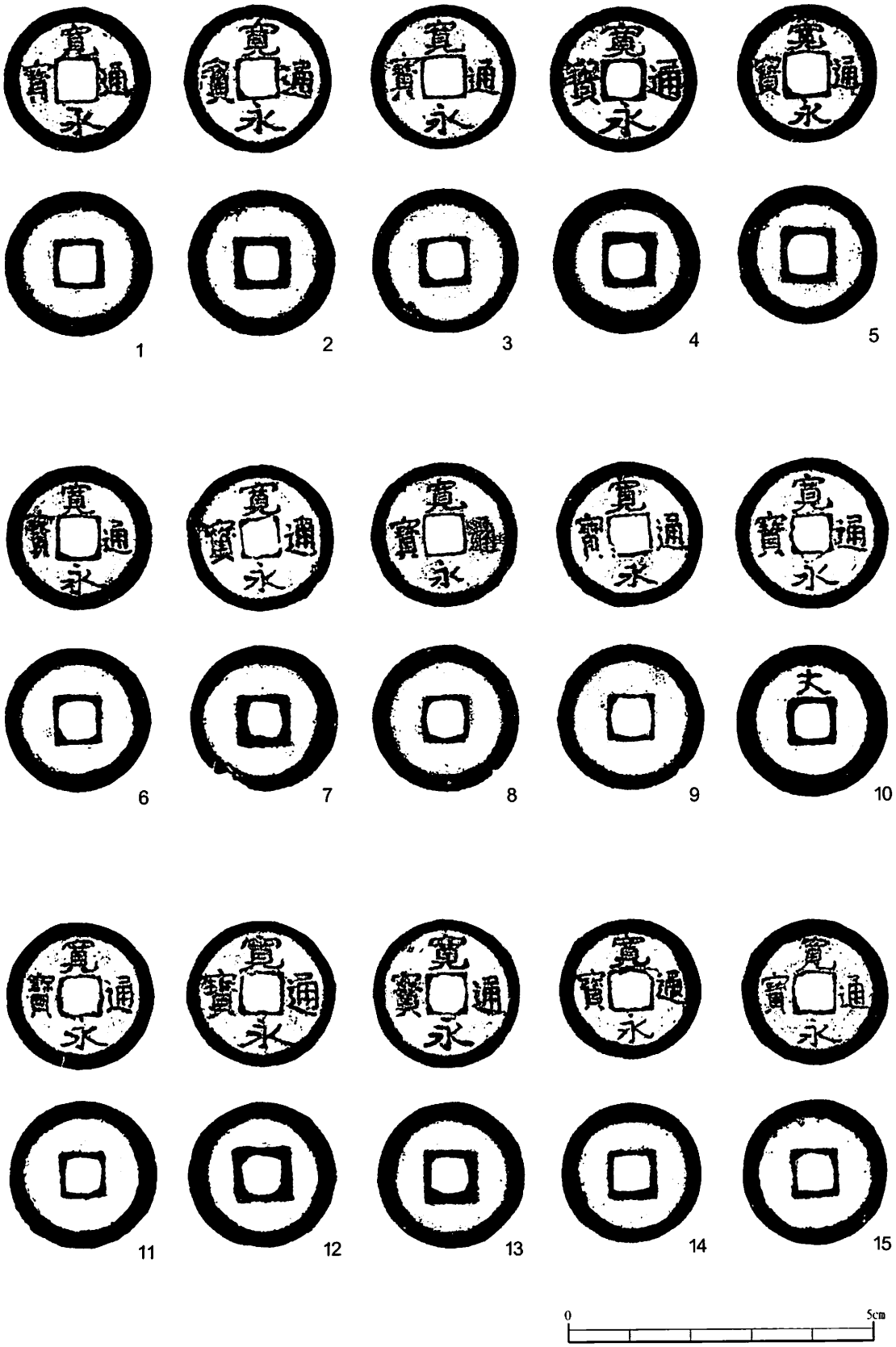
挿図番号 図版番号	出土地点	銭貨名	種別	背文	法量（cm・g）				備考
					外径	孔径	厚さ	重量	
第128図1 PL73の1	1号墓前方フク土	寛永通寶	新寛永	なし	2.4	0.65	0.1	3.0	
〃 2 〃 2	4号墓室	〃	〃	〃	2.45	0.55	0.15	4.1	
〃 3 〃 3	〃	〃	〃	〃	2.4	0.6	0.1	3.2	
〃 4 〃 4	〃	〃	古寛永	〃	〃	〃	〃	2.7	
〃 5 〃 5	〃	〃	新寛永	〃	2.3	〃	〃	2.3	
〃 6 〃 6	〃	〃	〃	〃	2.4	〃	〃	2.8	
〃 7 〃 7	4号A墓正面右石積中	〃	古寛永	〃	〃	〃	〃	3.3	
〃 8 〃 8	〃	〃	新寛永	〃	〃	〃	〃	2.8	
〃 9 〃 9	〃	〃	古寛永	〃	〃	〃	0.15	4.3	
〃 10 〃 10	〃	〃	新寛永	文	2.5	〃	0.1	3.7	鋳造地江戸亀戸？
〃 11 〃 11	〃	〃	〃	なし	2.45	〃	〃	3.3	
〃 12 〃 12	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	3.4	
〃 13 〃 13	〃	〃	古寛永	〃	〃	〃	〃	3.1	
〃 14 〃 14	〃	〃	新寛永	〃	2.3	〃	〃	3.0	
〃 15 〃 15	〃	〃	〃	〃	2.4	〃	〃	3.2	
第129図16 PL74の16	〃	〃	古寛永	〃	2.5	〃	〃	3.4	裏面に他の銭貨と重なっていた跡あり。
〃 17 〃 17	〃	〃	新寛永	〃	2.3	0.65	〃	2.5	〃
〃 18 〃 18	〃	〃	〃	〃	2.4	0.6	〃	2.6	
〃 19 〃 19	5号墓室フク土	〃	〃	〃	〃	〃	〃	2.4	
〃 20 〃 20	13号墓庭フク土	〃	不明	〃	2.3	0.65	〃	2.5	
〃 21 〃 21	14号墓庭フク土	〃	古寛永	〃	2.5	0.6	〃	3.4	
〃 22 〃 22	18号墓庭フク土	〃	〃	〃	2.4	〃	〃	2.4	
〃 23 〃 23	25号墓垣下	〃	新寛永	元	2.2	〃	〃	2.1	鋳造地大阪高津新地？
〃 24 〃 24	〃	〃	〃	なし	2.25	0.7	〃	2.4	
〃 25 〃 25	〃	〃	〃	〃	2.45	0.6	〃	2.8	
〃 26 〃 26	〃	〃	古寛永	〃	2.5	0.5	〃	3.6	
〃 27 〃 27	〃	〃	新寛永	〃	2.45	0.65	0.15	4.2	
〃 28 〃 28	〃	〃	〃	〃	2.15	0.6	0.1	2.3	
〃 29 〃 29	〃	〃	〃	〃	2.3	0.65	〃	2.5	

第24表　B地区出土銭貨観察一覧

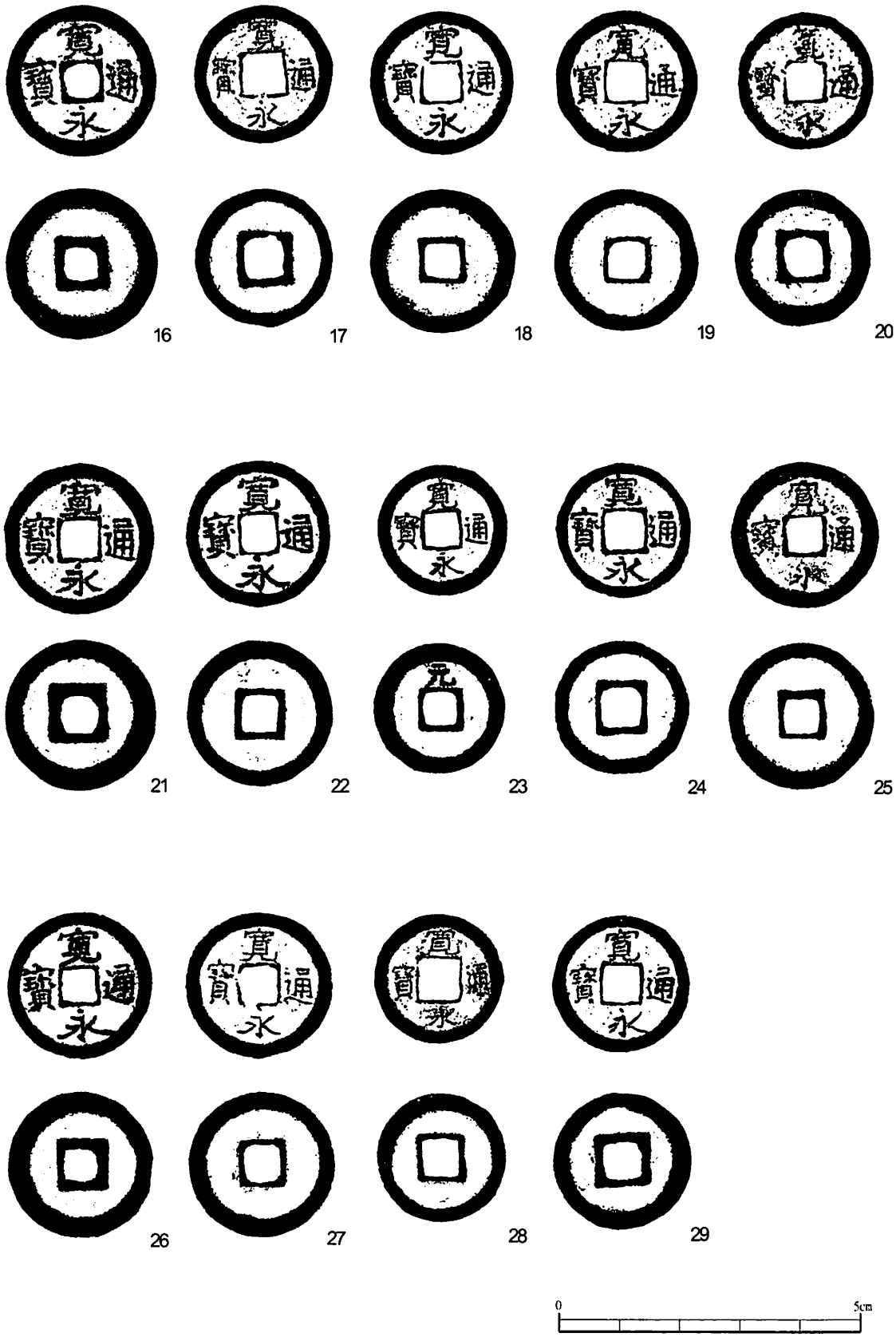
挿図番号 図版番号	出土地点	銭貨名	種別	背文	法量（cm・g）				備考
					外径	孔径	厚さ	重量	
第130図 1 PL75の 1	25号墓垣下	寛永通寶	新寛永	なし	2.2	0.7	0.1	2.0	
〃 2 〃 2	31号墓庭フク土	〃	〃	小	2.3	〃	〃	2.4	鋳造地本所小梅？
〃 3 〃 3	〃	〃	不明	なし	〃	0.65	〃	2.3	
〃 4 〃 4	〃	〃	新寛永	〃	〃	0.6	〃	2.6	
〃 5 〃 5	33号墓前方フク土	〃	古寛永	〃	2.4	〃	〃	2.7	
〃 6 〃 6	38号墓庭フク土	〃	新寛永	〃	2.45	〃	〃	3.0	
〃 7 〃 7	39・40・50号墓 前方フク土	〃	〃	〃	2.3	0.65	〃	1.4	1／3欠損
〃 8 〃 8	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	2.3	
〃 9 〃 9	〃	〃	〃	〃	2.35	〃	〃	2.8	
〃 10 〃 10	46号墓前方フク土	〃	〃	〃	2.4	〃	〃	3.4	
〃 11 〃 11	47号墓前方フク土	〃	〃	〃	2.5	〃	0.15	3.5	鉄銭　仙台銭？
〃 12 〃 12	〃	〃	古寛永	〃	2.4	〃	〃	3.0	〃　〃
〃 13 〃 13	〃	〃	〃	〃	2.5	0.5	〃	3.7	
〃 14 〃 14	〃	〃	新寛永	文	2.55	〃	〃	3.5	鋳造地江戸亀戸？
〃 15 〃 15	号墓不明	〃	〃	なし	2.3	0.7	〃	2.5	
第131図16 PL76の16	〃	〃	古寛永	〃	2.45	0.65	〃	3.9	
〃 17 〃 17	〃	〃	新寛永	〃	2.35	〃	〃	3.6	
〃 18 〃 18	〃	〃	〃	〃	2.3	〃	〃	2.9	
〃 19 〃 19	〃	〃	〃	〃	2.35	0.6	〃	3.2	
〃 20 〃 20	〃	〃	〃	〃	2.3	0.65	〃	2.8	
〃 21 〃 21	〃	〃	〃	〃	2.4	0.6	〃	3.2	
〃 22 〃 22	〃	〃	〃	〃	2.2	0.7	〃	1.9	
〃 23 〃 23	〃	〃	不明	〃	2.3	〃	〃	2.7	
〃 24 〃 24	〃	〃	新寛永	〃	〃	0.65	〃	2.3	
〃 25 〃 25	〃	〃	〃	文	2.5	0.6	〃	4.0	鋳造地江戸亀戸？
〃 26 〃 26	14号墓庭フク土	乾隆通寶	―	左右に 満州文字	2.45	〃	〃	3.7	
〃 27 〃 27	〃	〃	―	〃	2.4	0.5	〃	2.4	
〃 28 〃 28	47号墓前方フク土	無文銭	―	なし	2.0	0.8	〃	1.4	

第25表　B地区出土銭貨観察表一覧

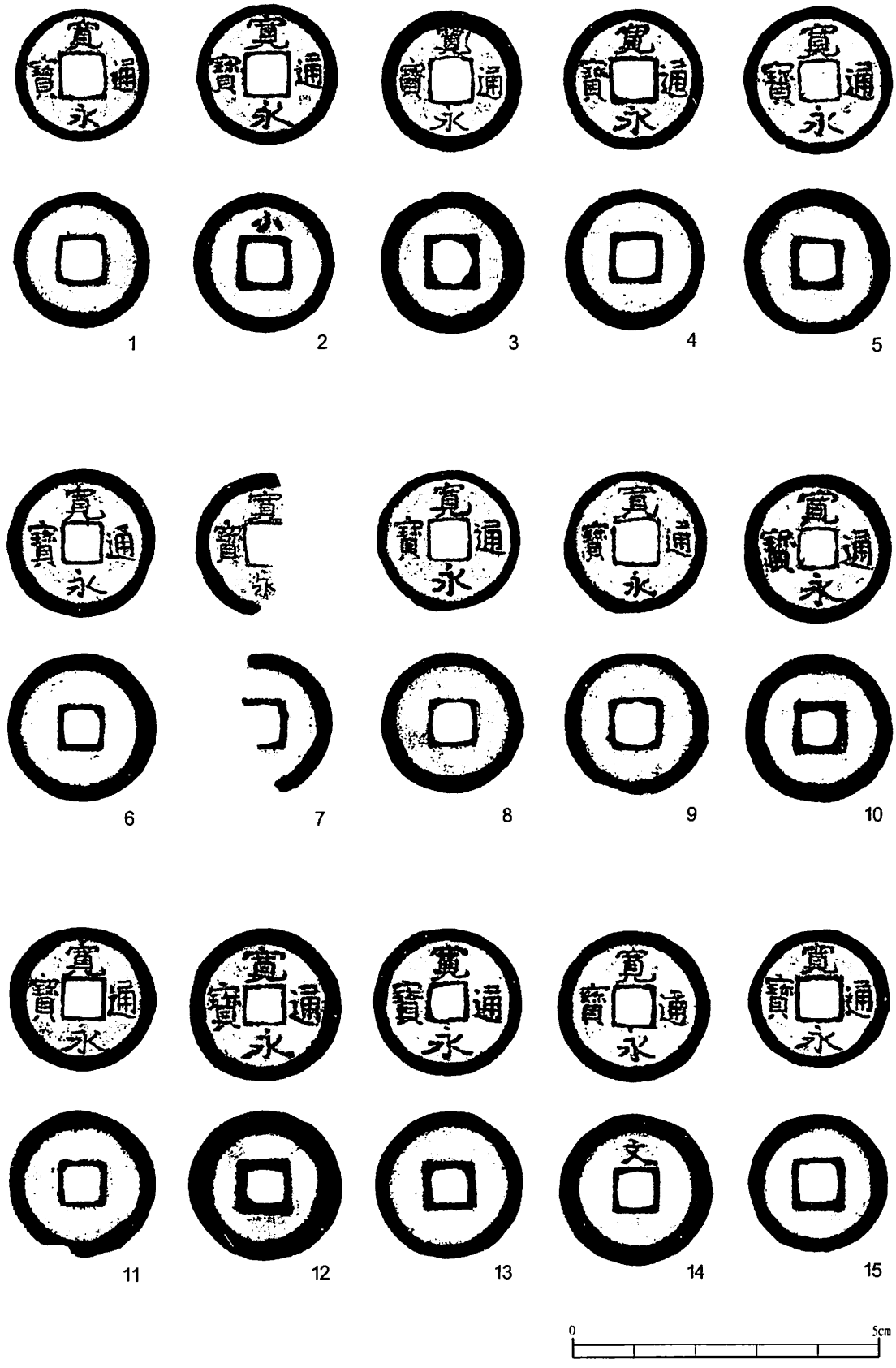
挿図番号 図版番号	出土地点	銭貨名	法量(cm・g)				文字・文様等		備考
			外径	孔径	厚さ	重量	表	裏	
第132図1 PL77の1	41号墓庭フク土	十銭	2.1	—	0.15	1.5	中央に二重の桜花文、その外輪に・大日本・昭和十五年を配す。輪郭内側に点の圏線。	中央に菊花文、その外輪に・十銭・桐葉文様を配す。輪郭内側は表と同じ。	縁刻み
〃 2 〃 2	14号墓庭フク土	〃	〃	—	〃	〃	昭和十六年の文字以外1と同じ。	〃	〃
〃 3 〃 3	〃	〃	〃	—	〃	1.2	昭和十七年　〃	〃	〃
〃 4 〃 4	42号墓室フク土	〃	1.9	0.5	0.2	2.4	円孔の外輪に・大日本・昭和十九年を配す。輪郭内側に点の圏線。	中央に円孔。外輪は上に菊花文、右に十、左に銭、下に桐葉文を配す。輪郭内側は表と同じ。	
〃 5 〃 5	20号墓庭フク土	五銭	2.05	—	〃	4.5	中央に圏線で囲まれた太陽文。外輪は・大日本・明治三十一年・5SENを配す輪郭内側は表と同じ。	中央に五銭の文字、その外輪に根元を束ねた草文(稲穂?)を配す。輪郭内側に点の圏線を廻す。	
〃 6 〃 6	41号墓室フク土	〃	2.3	—	〃	〃	中央に点の圏線で囲まれた五の文字。外輪は・大日本・明治□十七年を配す。輪郭内側が歯車状の圏線。	中央に菊花文、その外輪に・五銭・5SENを配す。輪郭内側は表と同じ。	
〃 7 〃 7	7号墓室フク土	〃	1.9	0.4	0.15	2.7	円孔の外輪に大日本昭和十三年、左右に半彫の桜花文を配す。輪郭内側に点の圏線。	中央に円孔。外輪を四つに区画し上に菊花文、右に五、左に銭、下に桐葉文を配す。輪郭内側は表と同じ。	
〃 8 〃 8	14号墓庭フク土	〃	1.8	—	0.2	1.2	中央に放射状の線を背景に羽を広げる鳥(鳩?)。外輪に□□本□和十五年を配す。輪郭内側に点の圏線。	中央に雲を背景に菊花文、その上下に五と銭の文字を配す輪郭内側は表と同じ。	縁刻み
〃 9 〃 9	〃	〃	〃	—	〃	〃	大□□昭和十六年の文字以外8と同じ。	〃	〃
〃 10 〃 10	〃	〃	〃	—	〃	〃	大日本昭和十七年　〃	〃	〃
〃 11 〃 11	13号墓庭フク土	一銭	2.75	—	0.15	6.6	中央に点の圏線で囲まれた龍文。外輪は・大日本・明治十八年・1SENを配す輪郭内側は6と同じ。	中央に一銭の文字。外輪は上に菊花文、その右に以百枚、左に換一圏の小さな文字。下に根元で束ねた桐と菊を配す輪郭内側は表と同じ。	
〃 12 〃 12	20号墓室	〃	2.3	—	〃	3.8	中央に桐葉文。外輪は大日本と大正八年の文字間に小さな桜花文を各1個づつ配す。輪郭内側に点の圏線。	中央に二重の圏線で囲まれた一銭の文字。外輪は錆のため不明。輪郭内側は表と同じ。	
〃 13 〃 13	39・40・50号墓前方フク土	〃	〃	—	0.1	3.6	大正九年の文字以外12と同じ。	中央と輪郭内側12と同じ。外輪は唐草状の草花文を配す。	
〃 14 〃 14	20号墓左土留石積	〃	〃	—	〃	〃	大正十年　〃	〃	
〃 15 〃 15	14号墓庭フク土	〃	〃	—	0.15	〃	大正十一年　〃	〃	
第133図16 PL78の16	41号墓室フク土	〃	〃	—	0.1	3.7	大正十三年　〃	〃	
〃 17 〃 17	5号墓室フク土	〃	〃	—	〃	3.6	大正九年　〃	〃	
〃 18 〃 18	20号墓室	〃	〃	—	0.15	3.8	大正十年　〃	〃	
〃 19 〃 19	〃	〃	〃	—	〃	〃	大正十一年　〃	〃	
〃 20 〃 20	14号墓庭フク土	〃	1.75	—	〃	0.9	中央に雲を背景に羽ばたく鳥(鳩?)。外輪は大日本と昭和十四年の文字間に桜花文を各1個づつ配す。輪郭内側に点の圏線。	中央に6枚の花弁文に囲まれて一銭の文字。外輪は上に菊花文、下に桐葉文を配し、空間に波模様を充填する。輪郭内側は表と同じ。	
〃 21 〃 21	〃	〃	〃	—	〃	1.0	昭和十五年の文字以外20と同じ。	〃	
〃 22 〃 22	〃	〃	1.6	—	〃	0.6	中央に大きく一の文字。上に大日本、下に昭和十六年の文字を配す。輪郭内側に点の圏線。	中央に雲上の山(富士山?)。上に菊花文、下に一銭の文字を配す。輪郭内側は表と同じ。	
〃 23 〃 23	8号墓庭フク土	〃	〃	—	〃	〃	昭和十七年の文字以外22と同じ。	〃	
〃 24 〃 24	4号墓前方フク土	〃	〃	—	0.1	0.5	大正十八年　〃	〃	
〃 25 〃 25	号墓不明	半銭	2.2	—	〃	3.4	明治十八年と1／2SENの文字以外11と同じ。	中央に半銭、外輪菊花文の右に二百枚、左に□□の小さな文字以外11と同じ。	
〃 26	19号墓庭フク土	〃	〃	—	〃	〃	明治二十一年の文字以外11と同じ。	〃	
〃 27 〃 27	31号墓庭フク土	五厘	1.9	—	〃	2.1	大正六年の文字以外12と同じ。	五厘の文字以外13と同じ。	
〃 28 〃 28	7号墓室フク土	5セント	2.1	—	0.2	4.9	中央にインディアンの顔。外輪は右上にLIBERTY、左下に1936の文字を配す。	中央にバッファローと右肩にPLU□□BUSUNU□の小さな文字。外輪は上にUNITED・STATES・OF・AMERICA、下にFIVECENTSの文字を配す。	米国硬貨
〃 29 〃 29	2号墓室フク土	1セント?	2.5	—	0.15	5.0	中央に羽を広げる鷲と星等を配した勲章状の文様。外輪はUNITED STATES OF AMERICAと1937の文字を配す。	中央に火山を背景にハンマーを持ち腰掛ける人物。外輪は上にONECENTAVO、下にFILIPINASの文字を配す。輪郭内側を鋸歯状に刻んで廻す。	フィリピン又は米国硬貨



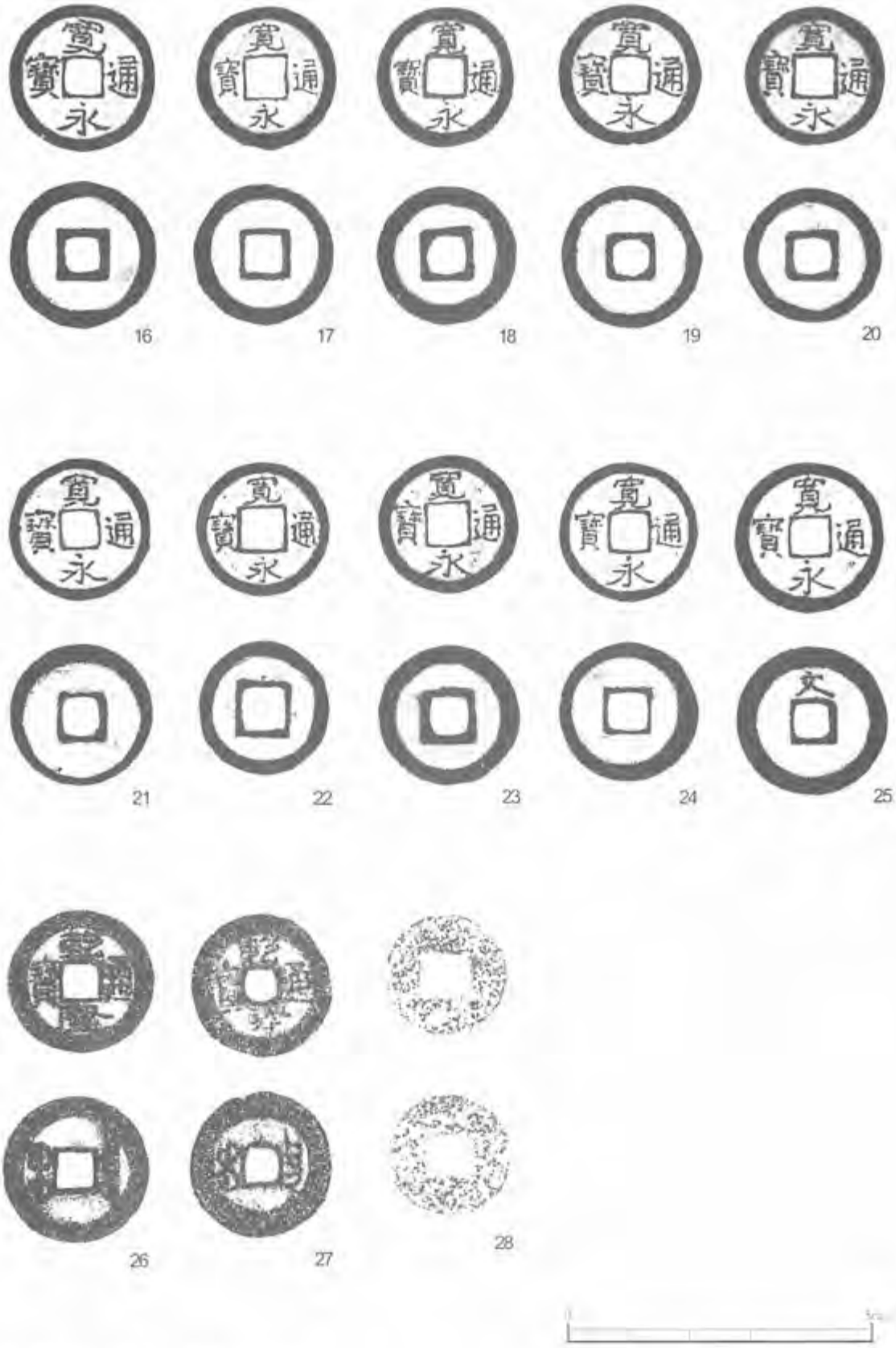
第128図(PL.73)　銭貨〔B地区〕



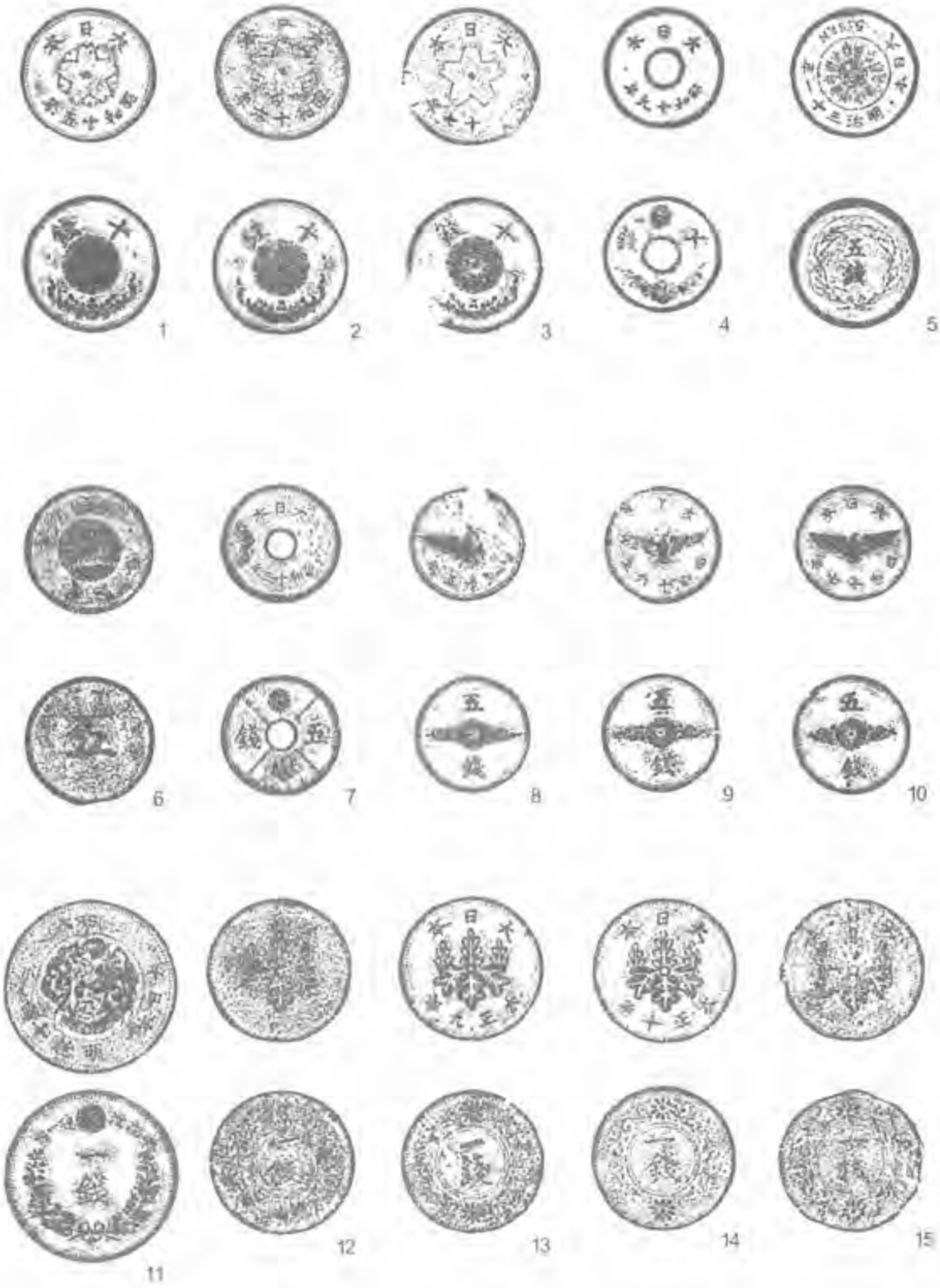
第129図(PL.74)　銭貨〔B地区〕



第130図(PL.75)　銭貨〔B地区〕



第131図(PL.76)　銭貨(B地区)



第132図(Pl.77)　銭貨(B地区)

第133図(PL.78)　銭貨(B地区)

2．E地区の銭貨

本地区の銭貨は、古墓11基の12地点より出土している。出土総数は28点、種類は不明を除くと4種認められる。これらは寛永通寶、近代の十錢・五錢・一錢である。出土点数の最も多いものは寛永通寶の9点である。出土地点では3号墓室フク土からの13点が最も多く、他は2点以下である。なお、寛永通寶についてはB地区と異なり文字の確認できたものは新寛永のみである。それぞれの銭貨および種別の出土数については第26表に示した。また、銭貨名不明の5点を除き出土したすべての拓影を第134・135図 PL.79・80に掲げた。詳細については第27・28表の観察表を参照されたい。

参考文献

＊陸原　保「改訂版　東洋古錢価格図譜　全　志庵蔵版」　万国貨幣洋行　1970

＊中橋掬泉「新撰古錢大鑑」　大文館書店　1973復刻

＊港区芝公園1丁目遺跡調査団「芝公園一丁目増上寺子院群　光学院・貞松院跡 源興院跡」　東京都港区教育委員会　1988

＊島袋　洋・金城亀信他「湧田古窯群（II）」　沖縄県教育委員会　1995

＊玉口時雄他「汐留遺跡」　汐留地区遺跡調査会　1996

第26表　E地区出土銭貨集計一覧

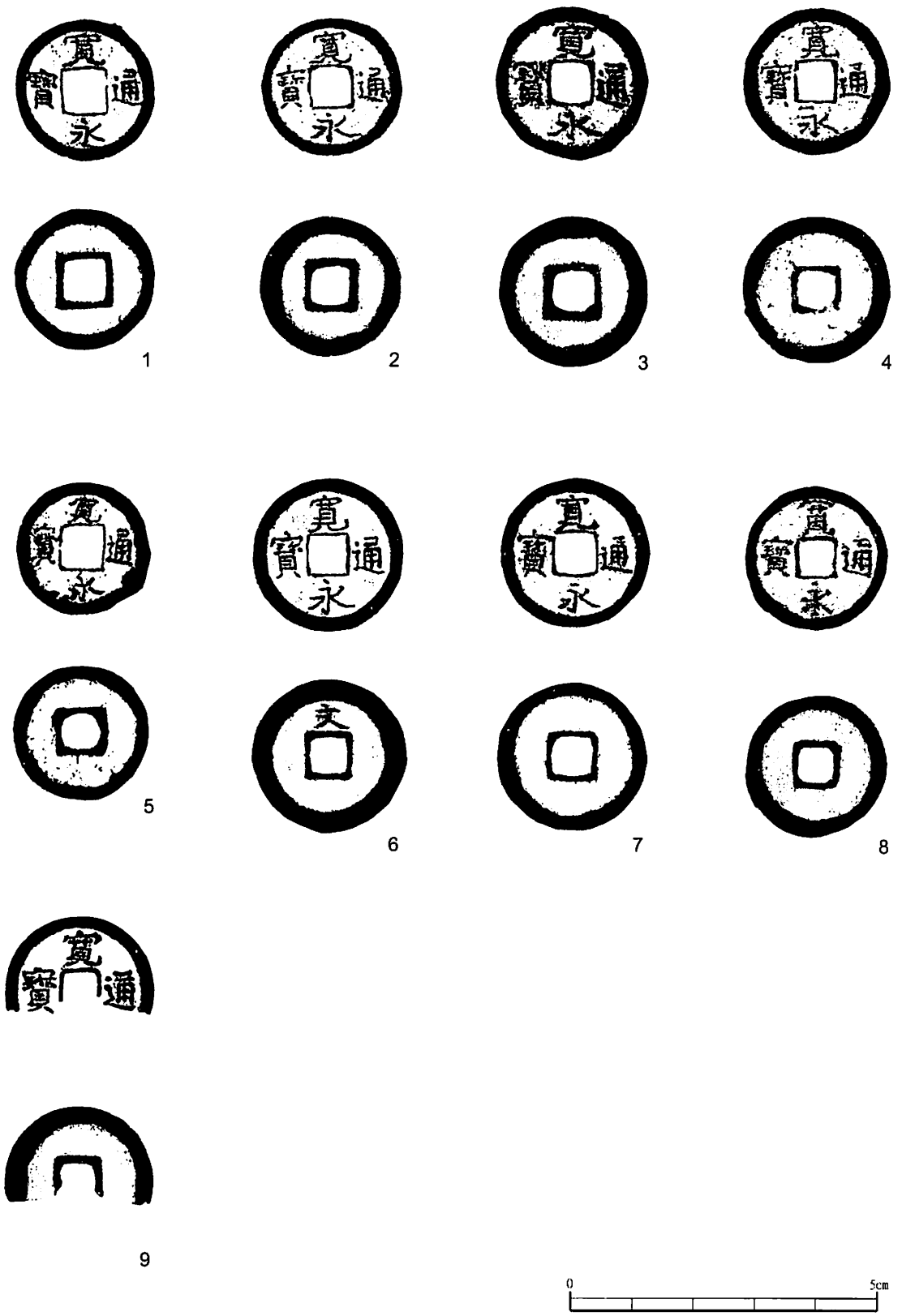
No.	出土地点	銭貨名（A） 寛永通寶 種別 古	新	不明	不明	(A)計	銭貨名（B） 十錢 種別 T	S	五錢 T	S	一錢 T	S	(B)計	(A)+(B)合計	銭貨名（B）に刻まれた年代
1	1号墓垣フク土		1			1								1	
2	2号墓庭外フク土											1	1	1	昭和十六年
3	3号墓室フク土		1	2	5	8			1	2	2		5	13	大正九・十・十□年：昭和十二・十四年
4	5号墓庭フク土						2						2	2	大正九・十年
5	7号墓庭フク土									2			2	2	昭和十五・十七年
6	13号墓庭フク土		1			1								1	
7	15号墓庭フク土										1	1	2	2	大正九年：昭和十七年
8	15号墓室フク土		1			1								1	
9	16号墓庭フク土		1			1		1					1	2	昭和十七年
10	19号墓庭フク土			1		1								1	
11	21号墓庭フク土											1	1	1	昭和十五年
12	28号墓前方フク土		1			1								1	
計			6	3	5	14	2	1	1	4	3	3	14	28	※古：古寛永　新：新寛永 ※T：大正　S：昭和
各銭貨の合計		9			5		3		5		6				

第27表　E地区出土銭貨観察一覧

挿図番号 図版番号	出土地点	銭貨名	種別	背文	法量（cm・g） 外径	孔径	厚さ	重量	備考
第134図 1 PL79の 1	1号墓垣フク土	寛永通寶	新寛永	小	2.3	0.7	0.1	1.8	鋳造地本所小梅？
〃 2 〃 2	3号墓室フク土	〃	〃	なし	〃	0.6	〃	2.9	
〃 3 〃 3	〃	〃	不明	〃	2.45	0.65	〃	3.1	表面鉄銹が著しい
〃 4 〃 4	〃	〃	〃	〃	2.4	0.6	〃	2.9	
〃 5 〃 5	13号墓庭フク土	〃	新寛永	〃	2.2	0.7	0.15	3.4	鉄銹あり
〃 6 〃 6	15号墓室フク土	〃	〃	文	2.5	0.6	0.1	4.2	鋳造地江戸亀戸？
〃 7 〃 7	16号墓庭フク土	〃	〃	なし	2.45	0.65	〃	2.3	
〃 8 〃 8	19号墓庭フク土	〃	不明	〃	2.35	0.6	〃	3.0	
〃 9 〃 9	28号墓前方フク土	〃	新寛永	〃	2.45	0.55	〃	2.3	1／3欠損

第28表　E地区出土銭貨観察一覧

挿図番号 図版番号	出土地点	銭貨名	法量(cm・g)				文字・文様等		備考
			外径	孔径	厚さ	重量	表	裏	
第135図1 PL80の1	5号墓庭フク土	十銭	2.2	0.4	0.15	3.6	中央の円孔を8枚の花弁文が囲む。外輪は波紋を充填し・大日本・大正九年を配す。輪郭内側に点の圏線。	中央に円孔。外輪は上に菊花文、右に十、左に銭、下に桐葉文を廻す。輪郭内側は表と同じ。	
〃 2 〃 2	〃	〃	〃	〃	〃	3.7	大正十年の文字以外10と同じ。	〃	
〃 3 〃 3	16号墓庭フク土	〃	〃	−	〃	1.2	中央に二重の桜花文、その外輪に・大日本・昭和十七年を配す。輪郭内側に点の圏線。	中央に菊花文、その外輪に・十銭・桐葉文を配す。輪郭内側は表と同じ。	縁刻み
〃 4 〃 4	3号墓室フク土	五銭	1.9	0.4	〃	2.6	10と同じ。	五の文字以外10と同じ。	
〃 5 〃 5	〃	〃	〃	0.5	〃	2.8	中央の円孔を8個の勾玉文と点が囲む。外輪は大日本と昭和十二年の文字間に桜花文を各1個づつ配す。輪郭内側に点の圏線。	中央に円孔。外輪は下から上に放射状に広がる15本の線を背景に、上に菊花文、右に五、左に銭、下に羽を広げる鳥(鷹?)を配す。輪郭内側は表と同じ。	
〃 6 〃 6	〃	〃	〃	0.4	〃	〃	円孔の外輪に大日本昭和十四年、左右に半影の桜花文を配す。輪郭内側に点の圏線。	中央に円孔。外輪を四つに区画し上に菊花文、右に五、左に銭、下に桐葉文を配す。輪郭内側は表と同じ。	
〃 7 〃 7	7号墓庭フク土	〃	〃	−	0.2	1.2	中央に放射状の線を背景に羽を広げる鳥（鳩?）。外輪に大日本昭和十五年を配す。輪郭内側に点の圏線。	中央に雲を背景に菊花文、その上下に五と銭の文字を配す。輪郭内側は表と同じ。	縁刻み
〃 8 〃 8	〃	〃	〃	−	0.15	1.0	昭和十七年の文字以外16と同じ。	〃	〃
〃 9 〃 9	15号墓庭フク土	一銭	2.3	−	0.1	3.6	中央に桐葉文。外輪は大日本と大正九年の文字間に小さな桜花文を各1個づつ配す。輪郭内側に点の圏線。	中央に二重の圏線で囲まれた一銭の文字。外輪は唐草状の草花文を配す。輪郭内側は表と同じ。	
〃 10 〃 10	3号墓室フク土	〃	〃	−	0.15	3.7	大正十年の文字以外18と同じ。	〃	
〃 11 〃 11	〃	〃	〃	−	〃	〃	大正十□年　〃	〃	
〃 12 〃 12	21号墓庭フク土	〃	1.75	−	〃	1.0	中央に雲を背景に羽ばたく鳥（鳩?）。外輪は大日本と昭和十五年の文字間に桜花文を各1個ずつ配す。輪郭内側に点の圏線。	中央に6枚の花弁文に囲まれて一銭の文字。外輪は上に菊花文、下に桐葉文を配し、空間に波紋様を充填する。輪郭内側は表と同じ。	
〃 13 〃 13	2号墓庭外フク土	〃	1.6	−	〃	0.6	中央に大きく一の文字。上に大日本、下に昭和十六年の文字を配す。輪郭内側に点の圏線。	中央に雲上の山（富士山?）。上に菊花文、下に一銭の文字を配す。輪郭内側は表と同じ。	
〃 14 〃 14	15号墓庭フク土	〃	〃	−	〃	0.7	昭和十七年の文字以外22と同じ。	〃	



第134図(PL.79)　銭貨〔E地区〕

第135図(PL.80)　銭貨〔E地区〕

第6節　金属製品

1．B地区の金属製品

ここでは副葬品と見られる種類を中心に図示する。煙管（31点）、簪（27点）、指輪（9点）、釘（50点）などが得られている（第29表）。以下、煙管から概述する。個々の資料の特徴は第30表に示す。

A　煙管（第136図1～3　PL.81　1～3）

雁首15点、吸口14点が得られた。また、雁首と吸口が一体となったもの（延べ煙管[註1]）が2点得られた。

B　簪（第136図4～9　PL.81　4～9）

形状は、星形（9点）耳かき形（6点）・匙形（12点）の三種に大別できる。簪は、その形状・材質などから男女の差・身分の差があったようである[註2]。4・7は同じ蔵骨器内から得られている。

C　指輪（第136図10～14　PL.81　10～14）

墓室内から得られたものは14に示した1点であった。また、巴文を施した資料が出土している。

D　釘（第136図15～20　PL.81　15～20）

基部の形状により、角釘（40点）と丸釘（10点）に大別できる。そのほとんどが鉄製であった。墓室内から多数得られており、木製の棺が安置された可能性が示唆される。他に、15に示した銅製の角釘が同じ地点からまとまった数（14個）が出土している。同資料には規格性が窺える。その特徴から特定の用途に使用される釘と推察される。

註1　『江戸の考古学』昭和62年　小泉弘

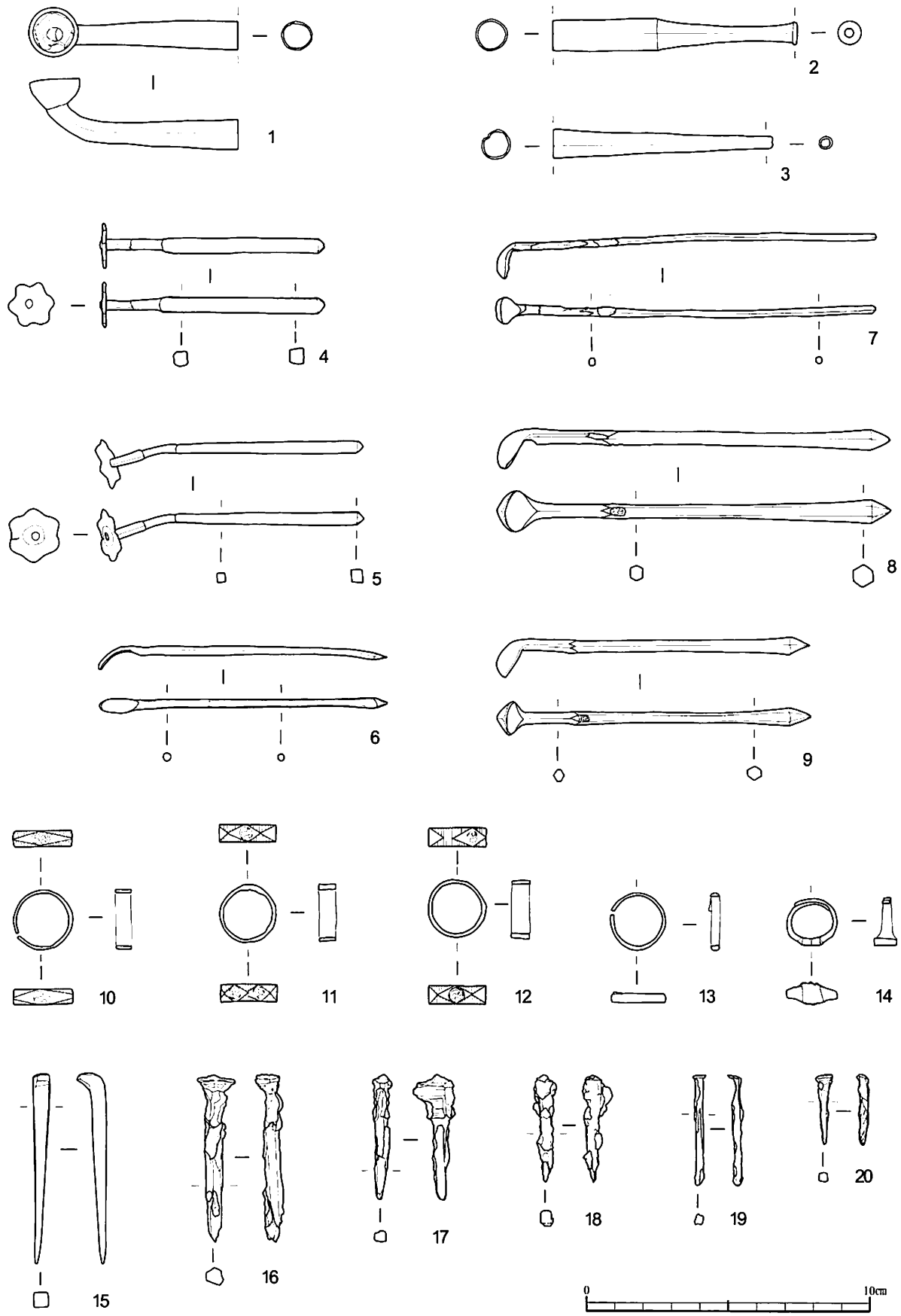
註2　『琉球風俗絵図』昭和57年

第29表　B地区金属製品集計一覧

墓壙 ＼ 種類	2号墓	3号墓	5号墓	6号墓	7号墓	8号墓	10号墓	11号墓	12号墓	13号墓	14号墓	16号墓	18号墓	21号墓	22号墓	26号墓	27号墓	28号墓	29号墓	30号墓	32号墓	36号墓	38号墓	39号墓	40号墓	42号墓	43号墓	49号墓	52号墓	合計
煙管	3		2	1			1		1		2		2	3	1		1	1				1	1	1	1	6			3	31
簪	1		2			1				1			1	2		1		1		2	3	1	2	1		5	1	1	1	27
指輪	2				1			1			3	1														1				9
釘	30	3		2	1											1			1			8	1	2			1			50
合計	36	3	4	3	2	1	1	1	1	1	5	1	3	5	1	2	1	2	1	2	3	10	4	4	1	12	2	1	4	117

第30表　B地区金属製品観察一覧

挿図番号 図版番号	出土地点	種類・形状	観　察　事　項
第136図　1 PL. 81の1	6号墓室タナ	煙管・雁首	長さ7.35cm。火皿の径1.75cm。重量10.7g。継ぎ目は左側。青錆が付着。墓室内の人骨に伴う。
〃　2 〃　2	39号墓室フク土	煙管・吸口	長さ8.6cm。吸口側の径0.8cm、ラウ接合部の径1.1cm。重量14.9g。肩が造り出される。青錆が付着。
〃　3 〃　3	18号墓室フク土	煙管・吸口	長さ7.7cm。吸口側の径0.45cm。ラウ接合部の径1.0cm。重量5.6g。青錆が付着。
〃　4 〃　4	32号墓室 安置蔵骨器No.4	簪・星形	長さ7.9cm。重量10.3g。首部は六角形。竿部は四角形。青錆が付着。同じ蔵骨器から7と一緒に検出。
〃　5 〃　5	49号墓室内	簪・星形	長さ9.4cm。重量9.1g。首部は六角形。竿部は四角形。青錆が付着。星形飾りの止め部が破損。
〃　6 〃　6	38号墓庭フク土	簪・耳かき形	長さ10.15cm。重量4.4g。竿部は六角形。青錆付着。
〃　7 〃　7	32号墓室 安置蔵骨器No.4	簪・匙形	長さ13.3cm。重量4.8g。竿部は六角形。青錆がかなり付着。同じ蔵骨器から4と一緒に検出。
〃　8 〃　8	30号墓室フク土	簪・匙形	長さ13.9cm。重量8.0g。首・竿部ともに六角形。首部に巴文が見られる。材質はジュラルミン。
〃　9 〃　9	42号墓室フク土	簪・匙形	長さ11.0cm。重量13.5g。首・竿部とも六角形。首部に巴文が見られる。青錆がはがれた一部に銀色の部分が観察できる。
〃　10 〃　10	7号墓庭フク土	指輪	直径2.1cm。重量1.9g。菱形の区画の中に三つの巴文（右回り）が見られる。青錆が付着。一部切れる。
〃　11 〃　11	14号墓庭フク土	指輪	直径2.0cm。重量2.2g。連続する菱形の区画の中に三つの巴文（左回り）が見られる。青錆が付着。
〃　12 〃　12	〃	指輪	直径2.0cm。重量2.3g。11と同じ巴文の配置。青錆が付着。
〃　13 〃　13	〃	指輪	直径1.9cm。重量0.8g。青錆が付着。一部切れる。
〃　14 〃　14	11号墓庭フク土	指輪	直径1.8cm。重量1.8g。山形の突起が付いた飾り部が見られる。青錆が剝れた一部に金と銀色の部分が見られる。
〃　15 〃　15	2号墓前方フク土	釘・角釘	長さ6.7cm。重量7.8g。頭部を基部に対してほぼ直角に折り曲げる。基部は断面四角形、脚部は楔状に整形されている。ほぼ同サイズの個体が同地点から14個まとまって検出された。銅製。
〃　16 〃　16	36号墓室フク土	釘・角釘	長さ5.9cm。重量3.6g。赤錆、木片がかなり付着。鉄製。
〃　17 〃　17	43号墓室 安置蔵骨器No.1	釘・角釘	長さ4.4cm。重量2.5g。赤錆、木片がかなり付着。鉄製。
〃　18 〃　18	26号墓室フク土	釘・角釘	長さ3.8cm。重量2.3g。赤錆、木片がかなり付着。鉄製。
〃　19 〃　19	38号墓室フク土	釘・丸釘	長さ3.9cm。重量1.1g。赤錆、木片がかなり付着。鉄製。
〃　20 〃　20	29号墓室フク土	釘・角釘	長さ2.5cm。重量0.5g。赤錆、木片がかなり付着。鉄製。集骨の土の中から検出。



第136図(PL.81)　金属製品〔B地区〕：煙管(1～3)、簪(4～9)、指輪(10～14)、釘(15～20)

2．E地区の金属製品

煙管（16点）、簪（10点）、指輪（3点）、釘（38点）、鏡（2点）などが得られている（第31表）。B地区同様に資料を選び図示する。以下、煙管から概述する。なお、個々の資料の特徴は第32表に示す。

A　煙管（第137図1～9　PL.82　1～9）

雁首8点、吸口6点が得られている。組み合わせが分かる資料は図示した1～8である。延べ煙管が2点得られた。

B　簪（第137図4～9　PL.82　4～9）

耳かき形（4点）と匙形（6点）の二種が得られている。

C　指輪（第137図10～14　PL.82　10～14）

3点が出土している。その内、巴文を施した資料が1点（同図14）確認された。

D　釘（第137図15～20　PL.82　15～20）

角釘21点、丸釘17点が得られている。材質はすべて鉄製である。

E　銅鏡（第138図1・2　PL.83　1・2）

円形の鏡部分に柄を取り付けた資料が2点得られた。鏡背には両資料とも文様が施されている。近世以降、「天下一」の下に人名を加えた銘が見られるようになるが、17世紀後半には「天下一」の銘が禁止される。そのため、天下一の字体を変えたり、領名をつけたりするようになると言われている。(註1) 本資料は、銘の字体がくずれ、特に天下一が読みづらくなっている。上述した時代背景の影響であろうか。

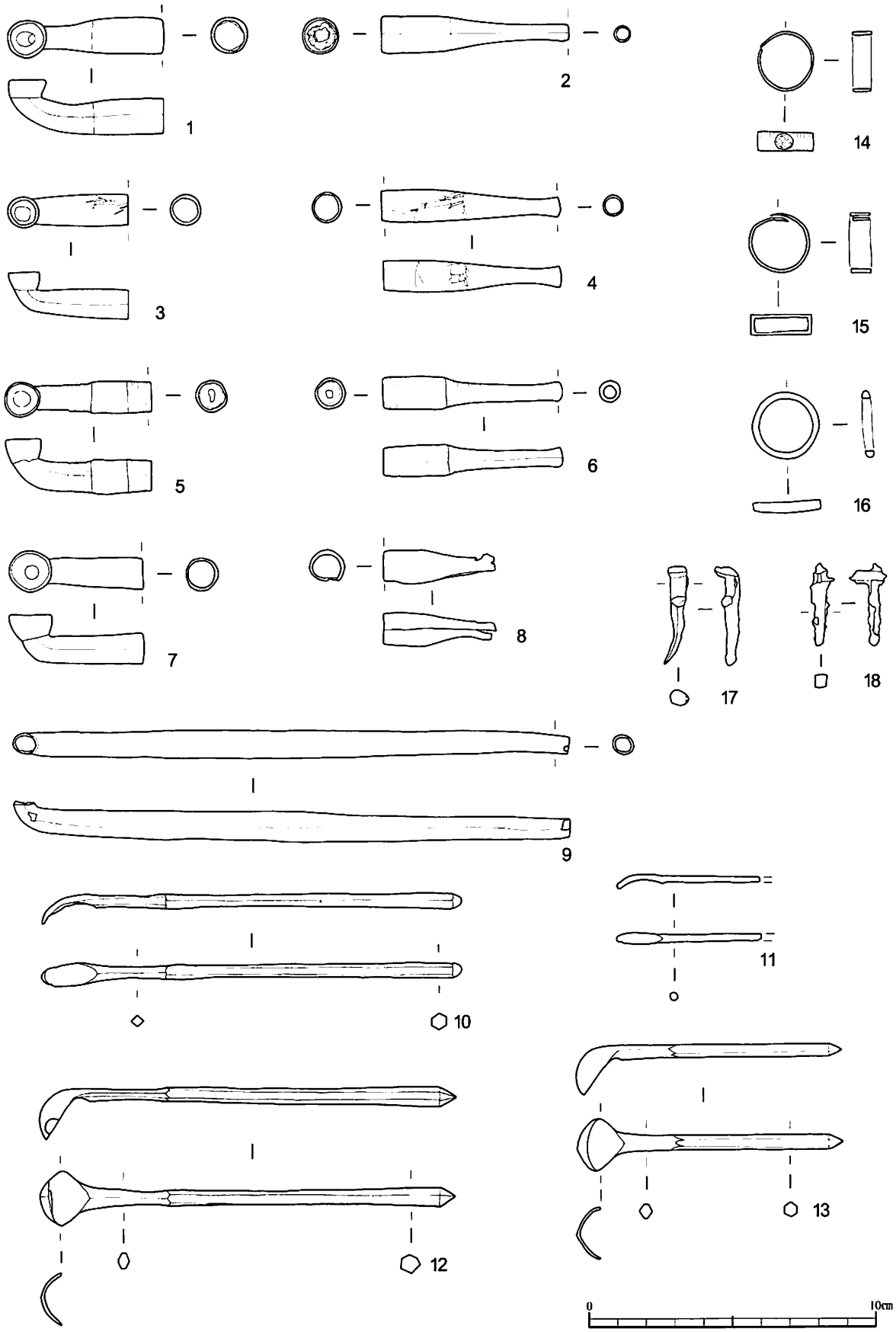
註1　香取忠彦「日本の鏡」『特別展　日本の鏡』昭和55年1月1日～2月4日の期間、熱田神宮特別展の図録より

第31表　E地区金属製品集計一覧

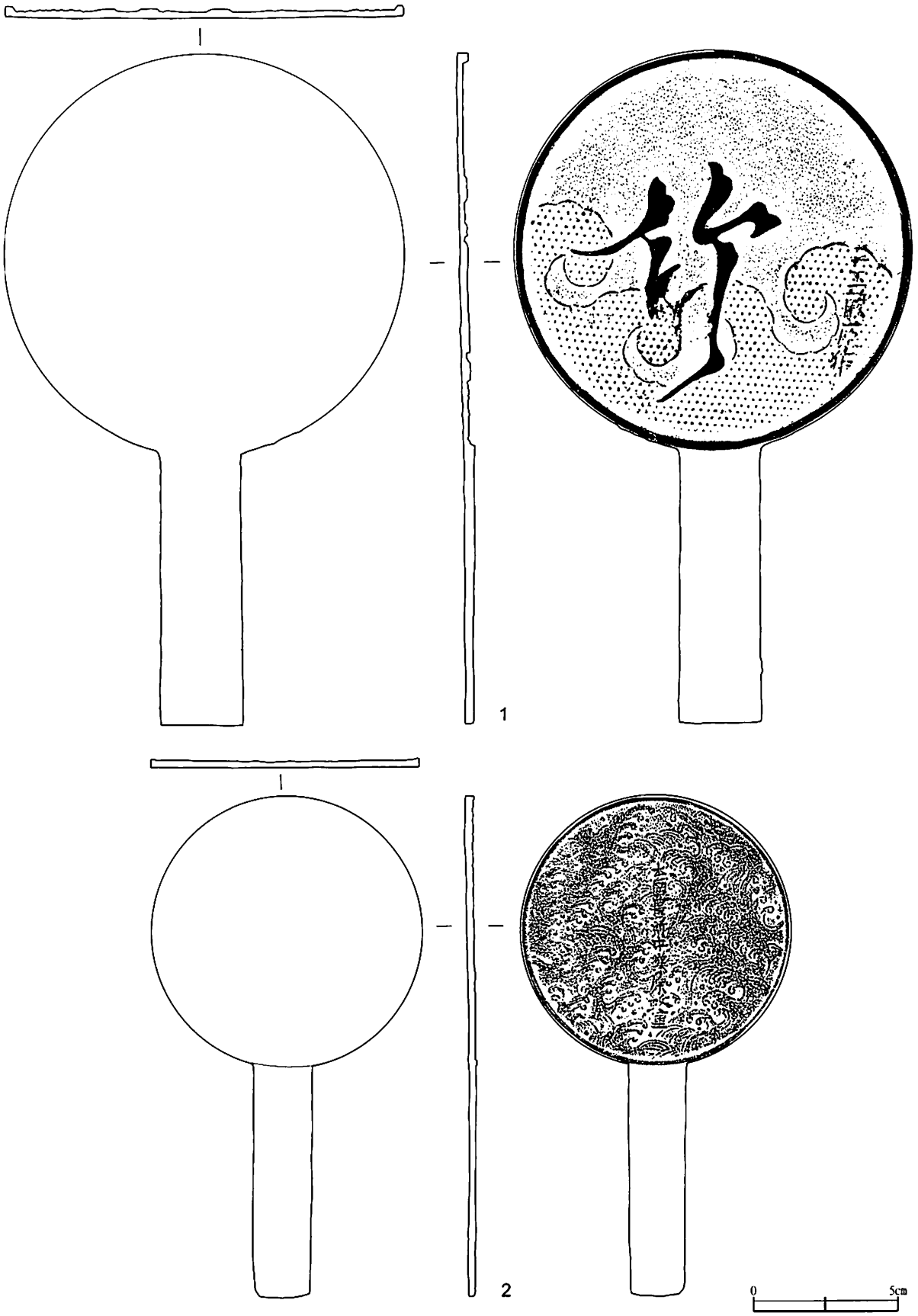
種類＼出土地点	1号墓	4号墓	5号墓	7号墓	8号墓	9号墓	11号墓	13号墓	14号墓	15号墓	17号墓	20号墓	23号墓	27号墓	28号墓	29号墓	30号墓	38号墓	43号墓	合計
煙管	1		2			1			3	4	2	1					2			16
簪		1				1		2	1				1			1	1	1	1	10
指輪		2												1						3
釘			1	1	2	3	1	10				5			4		11			38
鏡								1			1									2
合計	1	3	3	1	2	5	1	13	4	4	3	6	1	1	4	1	14	1	1	69

第32表　E地区金属製品観察一覧

挿図番号 図版番号	出土地点	種類・形状	観　察　事　項
第137図　1 PL. 82の 1	17号墓室フク土	煙管・雁首	長さ5.5cm。火皿の径1.3cm。重量15.5g。肩部あり。継ぎ目は左側。青錆付着。墓室奥のタナ右隅から検出。2と対。
〃　2 〃　2	〃	煙管・吸口	長さ6.5cm。吸口側の径0.55cm、ラウ接合部の径1.2cm。重量12.2g。ラウの一部が中に残る。1と対。
〃　3 〃　3	30号墓前方フク土	煙管・雁首	長さ4.2cm。火皿の径0.6cm。重量6.0g。継ぎ目は左側。竹文様が見られる。青錆が付着（真鍮性か）。4と対。
〃　4 〃　4	〃	煙管・吸口	長さ6.15cm。吸口側の径0.6cm、ラウ接合部の径1.0cm。重量7.7g。竹の文様を施す。青錆が付着（真鍮性か）。3と対。
〃　5 〃　5	15号墓庭フク土	煙管・雁首	長さ5.1cm。火皿の径1.2cm。重量11.8g。肩部あり。継ぎ目は左側。ラウが中に残る。青錆が付着。6と対。
〃　6 〃　6	〃	煙管・吸口	長さ6.2cm。吸口側の径0.7cm、ラウ接合部の径1.1cm。重量9.3g。肩部あり。ラウが中に残る。青錆が付着。5と対。
〃　7 〃　7	14号墓庭フク土	煙管・雁首	長さ4.7cm。火皿の径1.5cm。重量6.4g。継ぎ目は左。青錆が付着（真鍮製か）。8と対。
〃　8 〃　8	〃	煙管・吸口	長さ3.9cm。ラウ接合部の径1.2cm。重量3.4g。青錆が付着（真鍮製か）。7と対。
〃　9 〃　9	14号墓庭フク土	煙管・一体形	長さ19.3cm。火皿の径0.8cm。重量34.4g。継ぎ目は左。青錆・赤錆が付着。雁首と吸口が一体となる「延べ煙管」
〃　10 〃　10	29号墓前方フク	簪・耳かき形	長さ14.5cm。重量15g。首部・竿部とも六角形。青錆が付着。
〃　11 〃　11	4号墓庭フク土	簪・耳かき形	長さ5.0cm。重量.5g。首部は六角形。青錆が付着。
〃　12 〃　12	13号墓庭フク土	簪・匙形	長さ14.4cm。重量22.5g。首部・竿部とも六角形。青錆付着。
〃　13 〃　13	9号墓庭フク土	簪・匙形	長さ9.2cm。重量12.2g。首部・竿部とも六角形。青錆付着。
〃　14 〃　14	4号墓庭フク土	指輪	直径1.95cm。重量1.5g。三つの巴文（左回り）が連続して施される摩耗が著しい。青錆・赤錆が付着。
〃　15 〃　15	4号墓庭フク土	指輪	直径2.1cm。重量2.3g。長方形の区画がみられる。青・赤錆。
〃　16 〃　16	27号墓前方フク	指輪	直径2.3cm。重量1.8g。赤錆が付着。素地は銀色を呈す。
〃　17 〃　17	20号墓室フク土	釘・角釘	長さ3.4cm。重量1.4g。赤錆、木片がかなり付着。鉄製。
〃　18 〃　18	13号墓庭フク土	釘・角釘	長さ2.9cm。重量0.8g。赤錆、木片がかなり付着。鉄製。
第138図　1 PL. 83の 1	13号墓庭フク土	鏡・柄鏡	全長23.3cm。鏡部分の径13.9cm。柄の部分の長さ9.3cm。重量270.2g。青錆・石灰分が付着。鏡背の文様は、四つの波を背景に「竹」の字を中央に配置。右下に「天下一藤原作」の銘が見られる。字体はややくずれる。
〃　2 〃　2	17号墓室蔵骨器	鏡・柄鏡	全長17.35cm。鏡部分の径9.3cm。柄の部分の長さ8.05cm。重量143.4g。青錆・石灰分が付着。鏡背の文様は、波を背景に「○○○豊前守藤原政重」の銘を配置。字体はくずれる。



第137図(PL.82)　金属製品〔E地区〕：煙管(1～9)、簪(10～13)、指輪(14～16)
釘(17・18)



第138図(PL.83)　金属製品〔E地区〕：鏡

第７節　本土産陶磁器

１．Ｂ地区の本土産陶磁器

Ｂ地区で得られた本土産陶磁器は約2,000点である。[註1] 産地は瀬戸・美濃系が大部分を占めており、時期的には近・現代のものが中心である。器種は碗・小碗・水注などがあり、この中でも小碗が半数近くを占めている。また、碗の器種の中でも沖縄で一般的に「スンカンマカイ」と呼称される碗が半数近くあり、これらは型紙染付けによって文様を施しているが、その文様の違いによって数種類に分類される。以下、瀬戸・美濃系より概述する。

(1)　瀬戸・美濃系

①　碗

外面に型紙染付や銅版刷り・手書き・印判によるものなど、様々な技法によって種々の文様が施されたものが数多くみられる。また、外底面には「岐99」「瀬424」などの文字がみられるものも多数ある。

②　小碗

小碗は本地区出土の本土産陶磁器において約半数を占めており、器種としては最も多い。これらにも様々な技法による文様がみられる。なお、碗と同様に外底面に文字がある資料もみられ、「領山特製」や「岐392」といった文字がみられる。

③　小杯

小杯は数量的には多くを占めていないが、その形態にはかなりのバリエーションがみられる。高台部を花形に作り出したものや、胴部を窪ませたものなど、非常に装飾性に富んだものが多い。

④　皿

皿は碗・小碗に次いで多い器種で、本土産陶磁器全体の約２割を占めている。内底面に「昭和人造肥料株式會社」の文字とその会社のシンボルマークと思われる「Ｓ」の文字がみられるものなどがある。

上記の器種の他に水注・蓋・鉢・花生・香炉・火鉢などの様々な遺物がある。

(2)　肥前系

肥前系と判断され、かつ器種が判別されるものとしては瓶子が２点、皿が１点得られている。

瓶子はいずれもほぼ完形である。１点は口径3.1cm、底径4.8cm、器高12.9cmを計り、もう１点は口径3.7cm、底径4.4cm、器高13.3cmを計る。頸部に鋸歯状の文様と２条の圏線を巡らし、胴部に草文を描いている。畳付け部は無釉で、内面は頸部までの施釉と考えられる。

皿もほぼ完形で得られており、口径14.0cm、底径7.2cm、器高3.3cmを計る。内面に２重線でＸ状に文様を描き、２条の圏線を隔てて蛇の目釉剝ぎされているものである。内底部にも何らかの文様があるものの、何を表現したものかは判然としない。重ね焼きの痕跡も認められる。

(3)　型紙染付

この項で取り上げるのは、沖縄では一般に「スンカンマカイ」と呼称されているものである。本地区では碗の器種の中でもこのスンカンマカイが約半数を占めており、数量的に非常に多いものであった。

型紙染付の製品としては碗の他にも皿や香炉・小鉢といったものも得られているが、今回は碗のみ取り扱うことにする。

① 碗（第139図１～４　PL.84１～４　第140図５～８　PL.85　５～８）

型紙染付の技法によって文様を巡らしているが、かなりのバリエーションがみられた。大別すると10種ほどになると思われるが、今回はその内の８種の碗を取り上げることとする。

１は外面と内面口縁部に点文と松竹梅をモチーフにしたとみられる文様がある。内底面には圏線を巡らした中に円形状に文様を配しており、重ね焼きの痕跡もみられ、畳付け部以外は総釉である。

２は外面に短斜線の文様と鶴丸文、竹文などを巡らしている。内面には口縁部に「寿」と「福」の字を交互に配し、内底面には１条の圏線の中に花文がある。

３は外面に点文と短線で囲んだ中に「福寿福」とみられる吉祥文字と、花を表現したと思われるような文様がある。内面は口縁部に松竹梅をモチーフにした文様を、内底面には１条の圏線の中に鶴丸文を配している。

４は斜位に四角形状の文様を巡らし、さらに円文の中に「寿」の文字をデザイン化したものと、花文がある。内面は口縁部には外面と同様の文様を帯状に巡らし、内底面には１条の圏線の中に円形状に文様を配している。内底部には重ね焼きの痕跡がある。

５は外面に花文を巡らしている。内面は口縁部と、内底部にも１条の圏線の中に文様を配している。

６は外面に大柄な草花文を施している。内面口縁部、内底面にも１条の圏線の中に文様を配している。

７は外面に細かい点文と目玉状の文様を配している。内面は口縁部に鋸状に文様を配し、内底面には１条の圏線の中に円文を配している。内外面の文様は潰れて滲んでおり、各文様が判然としない。

８は外面に波状文が巡らされ、部分的に縦の帯状に区切られた中に円形の文様がある。内面口縁部には鋸歯状の文様が巡らされ、内底面には１条の圏線の中に円形状に文様がある。重ね焼きの痕跡も認められる。

○小結

Ｂ地区の本土産陶磁器は総数約2,000点[(註1)]を数える。時期的には近・現代のものが大部分を占めている。産地別では圧倒的に瀬戸・美濃系のものが多く、他に肥前系のものなどが得られている。この他に産地不明の製品もあるが、今回は割愛させていただいた。

器種は碗をはじめとして小碗・皿・水注などがみられたが、小碗は本土産陶磁器の中でも約半数近くを占めている。また、沖縄で一般的に「スンカンマカイ」と呼称されているものが、碗の中で約半数を占めていることが特徴的であった。これらは、碗の内外面に型紙染付で施された文様によって約40種類ほどに細分が可能かとみられるが、大別すると約10種類にまとめられると考えられ、今回はその中の８種類の碗のみ図示することとした。

また、小碗や小杯などの中には墓に伴った遺物と、先の戦争中に避難壕として利用されていた時期に使用されそのあと廃棄された遺物が混在していると思われるが、殆どの遺物が覆土から得られたも

のであり、判別することは困難であった。

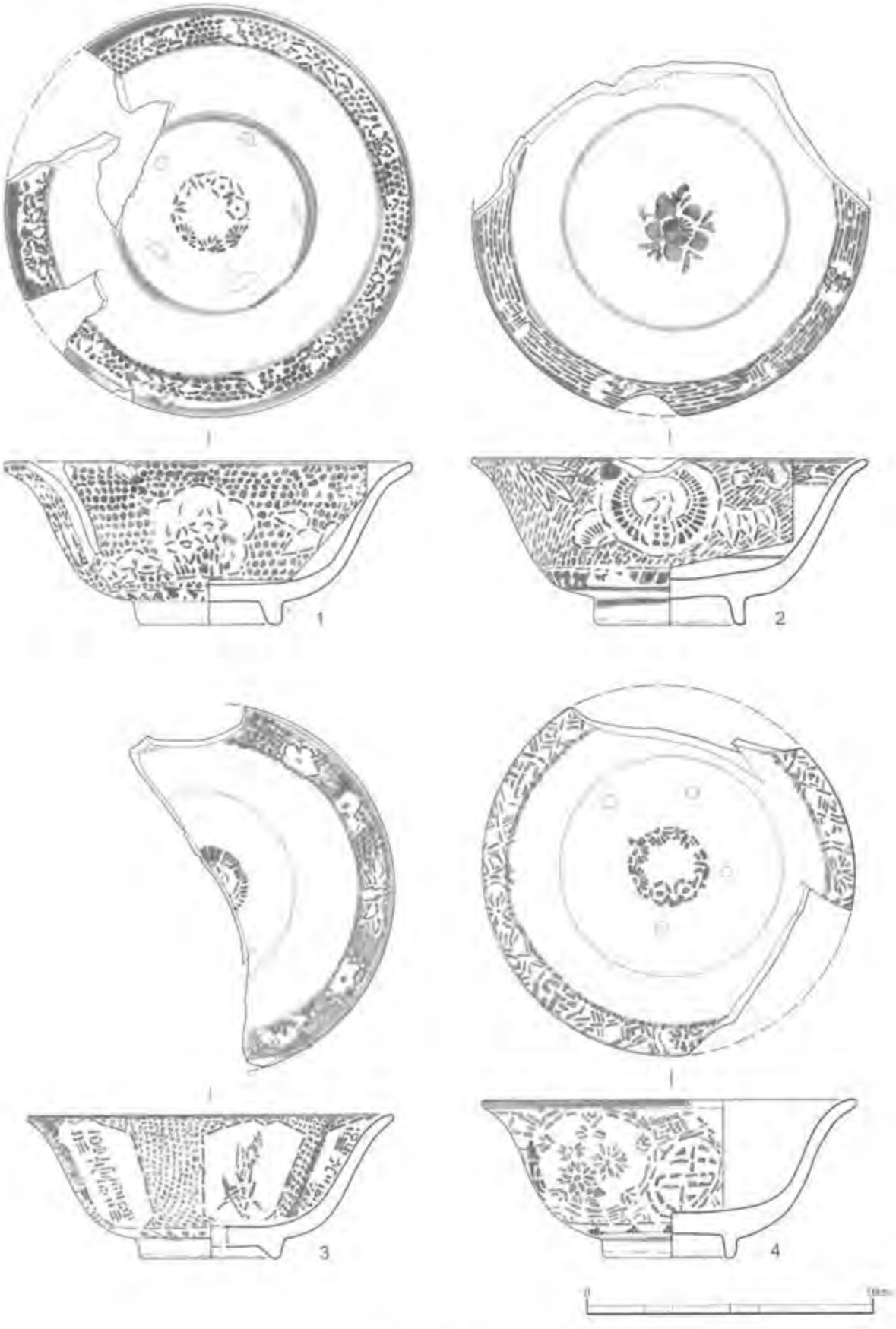
註１遺物の総数とは完形品の数と、口縁部と底部のうちの数量の多い方とを足して数えている。

参考文献

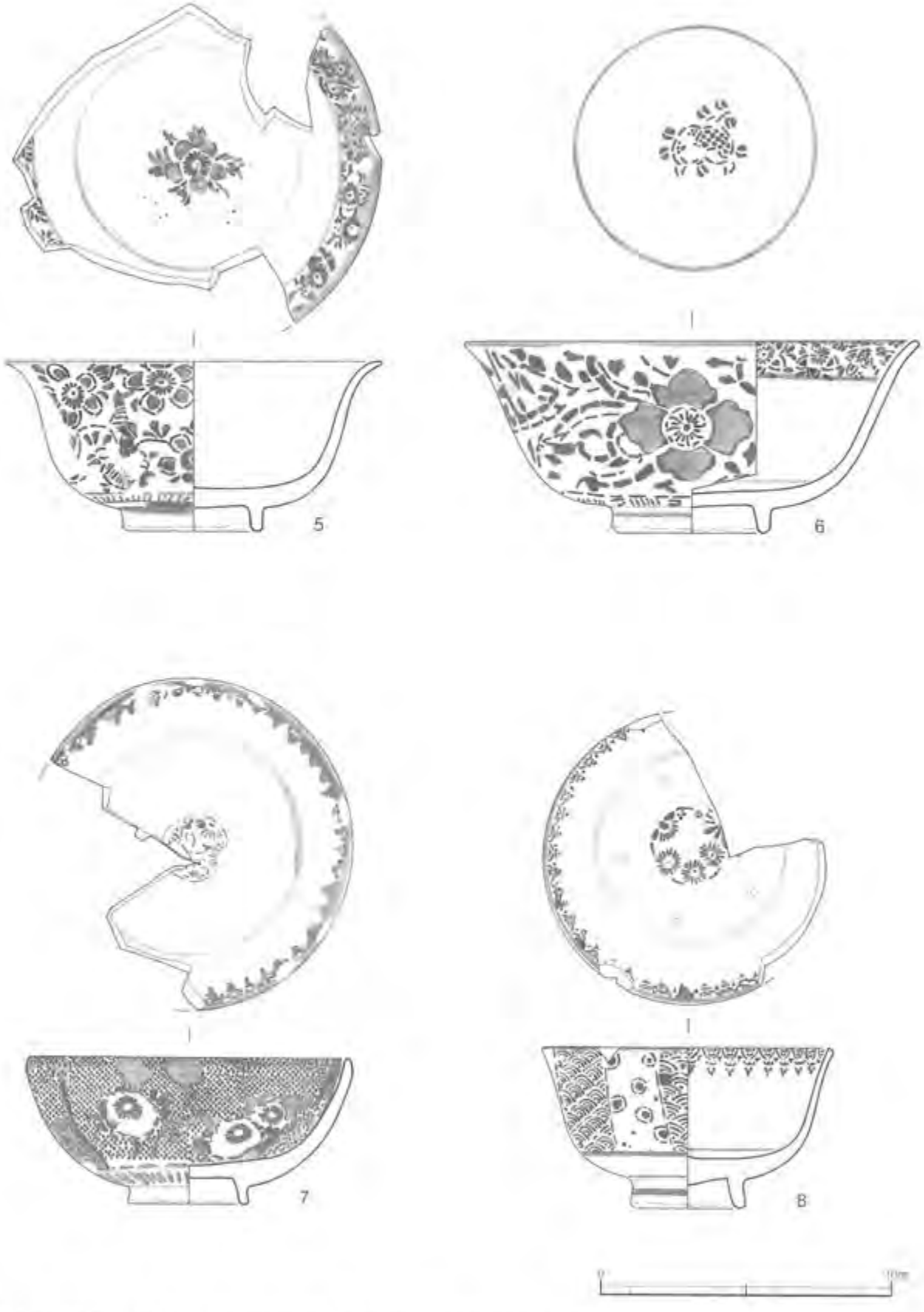
金城亀信・島袋洋　他	『阿波根古島遺跡』	沖縄県教育委員会	1990
金武正紀・島弘　他	『御細工所跡』	那覇市教育委員会	1991
下地安広・松川章　他	『城間遺跡』	浦添市教育委員会	1992
島弘・内間靖　他	『壺屋古窯群Ⅰ』	那覇市教育委員会	1992
金城亀信・島袋洋　他	『湧田古窯跡（Ⅰ）』	沖縄県教育委員会	1993
知名定順　他	『漢那福地川水田遺跡報告書』	宜野座村教育委員会	1993
下地安広	「沖縄の遺跡から出土する近代磁器－浦添の遺跡を中心に－」		
	『南島考古』No.14	沖縄考古学会	1994
金武正紀・城間千栄子	『ヒヤジョー毛遺跡』	那覇市教育委員会	1994
金城亀信　他	『伊波城跡北西遺跡』	沖縄県・石川市教育委員会	1996

第33表　Ｂ地区本土産陶磁器観察一覧（型紙染付）　　法量：①口径②底径③器高（cm）

挿図番号 図版番号	器種	法量	素地	施釉範囲	備考	出土地点
第139図　1 PL84の　1	碗	①14.2 ② 5.1 ③ 5.7	白色 微粒子	畳付け部以外は総釉	外面に点文と松竹梅をモチーフとした文様を巡らしている。内底部には円状に文様を配し、重ね焼きの痕跡もみられる。	28号墓庭フク土
〃　2 〃　2	碗	①13.8 ② 5.1 ③ 5.7	白色 微粒子	畳付け部以外は総釉	外面には短斜線の文様と松竹文、鶴丸文を配している。内面は口縁部に帯状に「寿」と「福」の文字を配し、内底部には１条の圏線と花文を配している。	31号墓屋根フク土
〃　3 〃　3	碗	①12.8 ② 4.8 ③ 5.0	白色 微粒子	畳付け部以外は総釉	外面には点文で囲繞した中に吉祥文字と花(?)文がある。内面は口縁部には帯状に文様を配し底面には１条の圏線の中に鶴丸文を配している。また、重ね焼きの痕跡も認められる。	号墓不明
〃　4 〃　4	碗	①13.0 ② 4.8 ③ 5.5	白色 微粒子	畳付け部以外は総釉	外面には斜位に四角形状の文様を巡らし、部分的に「寿」の文字と花の文様がある。内面は口縁部に外面と同様の文様を帯状に配し、内底部には１条の圏線と花文がある。重ね焼きの痕跡も認められる。	19号墓屋根フク土
第140図　5 PL85の　5	碗	①12.8 ② 4.8 ③ 5.8	白色 微粒子	畳付け部以外は総釉	外面には花文を配している。内面には口縁部に帯状に文様を、内底部には１条の圏線を巡らした中に花文を配している。	28号墓庭フク土
〃　6 〃　6	碗	①15.6 ② 5.7 ③ 6.5	白色 微粒子	畳付け部以外は総釉	外面には大柄な花文を配している。 内面にも同様な文様がある。	42号墓庭外フク土
〃　7 〃　7	碗	①11.0 ② 4.1 ③ 5.0	白色 微粒子	畳付け部以外は総釉	外面には点文と目玉状の文様を配している。内面には口縁部に鋸歯状の文様と、内底面には１条の圏線の中に円形状に文様を配している。全体的に文様が潰れており、形が判然としない。	19号墓屋根フク土
〃　8 〃　8	碗	①10.0 ② 3.9 ③ 5.5	白色 微粒子	畳付け部以外は総釉	外面には波状文を巡らした中に帯状に点々と円形状の文様を配している。内面は口縁部に鋸歯状の文様を配し、底部には１条の圏線の中に円形状に文様を配している。	42号墓庭外フク土



第139図(PL.84)　本土産陶磁器〔B地区〕（型紙染付）：碗



第140図(PL.85)　本十産陶磁器〔B地区〕(型紙染付)：碗

2．E地区の本土産陶磁器

E地区で得られた本土産陶磁器は約1,500点近(注1)くあり、器種は碗をはじめとして小碗・皿・水注・鉢・香炉などさまざまなものがみられる。時期は近・現代のものが中心で、産地としては瀬戸・美濃系のものがその殆どを占めている。以下、瀬戸・美濃系より各器種について概述していく。なお、今回は図版を割愛させていただいた。

(1) 瀬戸・美濃系

① 碗

碗は、本地区出土の本土産陶磁器の中で約3割近くを占めている。型紙染付や銅版刷り・印判によるものなど様々な技法による種々の文様がみられる。外底面に「岐48」「印11」などの文字があるものもみられる。

② 小碗

小碗も碗と同様に様々な技法による文様がみられる。また、外底面に「岐206」、「カマヤ白陶」、「菊水」などの銘があるものがみられる。

③ 小杯

小杯はB地区と同様に数量的にはさほど多くはないものの、高台部分を花形に作り出すなど非常に装飾性に富んだ製品がみられる。

④ 皿

皿は、碗・小碗と並んで本土産陶磁器の中でも多くを占めているものである。碗や小碗のように外底面に文字がある資料は殆どみられないものの、中には「許27277」の判のある資料もある。

以上の器種の他、水注・蓋・鉢・花生・香炉・徳利・火鉢などが得られている。水注の中には「瀬251」の文字があるものもみられる。

(2) 肥前系

今回、E地区で肥前系と判断されるものは非常に数が少なく、瀬戸・美濃系と比較すると遺物総数の1割にも満たない。器種は碗・小杯・瓶子などがある。特に、小杯や瓶子などは墓に伴う遺物である可能性があるものの、いずれも覆土からの出土であり、その遺物の有する性格などは判然としなかった。なお、以下にあげている資料は、器種が判別されるものに関してのみ記述している。

① 碗

2点得られている。いずれも口縁部から胴部にかけての残存で、口縁部が外反する形態を呈している。内面は無文であるが、胴部外面に濃青色の釉で文様が描かれている。残存部分は総釉である。

② 小杯

全体的に2分の1ほど残存した資料が1点得られている。口径4.2cm、底径2.0cm、器高2.2cmを計る。胴下部にやや膨らみが認められるものの、そこから口縁部にかけてはほぼストレートに開く形態である。内面は無文であるが、外面には手書きによる花（？）を表現したと見られる文様がある。畳付け部以外は総釉である。

③ 瓶子

胴部のみ残存した資料と、底部のみ残存した資料が各1点ずつあり、いずれも内面は無文であるが外面に文様が描かれている。また、口縁部が一部欠けているのみでほぼ完形品に近い資料が

1点得られている。これは口径3.9cm、底径5.2cm、器高が15.1cmを計り、外面に条線のみで文様を描いている。頸部にやや太く条線を巡らし、そこから底部に向かって5本の条線を施している。色調はややくすんだ緑灰色を呈している。胴部が膨らみ、口縁部が外反した器形である。畳付け部は無釉であり、内面は頸部までの施釉と考えられる。

(3) 型紙染付

B地区では、型紙染付の資料の中でも特に「スンカンマカイ」がかなりの数量を占めていたが、E地区では碗の中で約2割ほどを占めているのみである。

以上の他、産地が判然としない資料もあった。

○小結

E地区より得られた本土産陶磁器は、約1,500点(註1)である。器種には様々なものがあり碗・小碗・皿・水注・花生・香炉・徳利・火鉢などがみられ、B地区よりもやや多様な器種が得られている。また、これらの中でも碗・小碗・皿の3器種で約8割を占めている。なお、B地区で数多くみられ沖縄で一般的に「スンカンマカイ」と呼称される碗は、本地区では碗の中では約2割を占めているのみである。このスンカンマカイは戦前の沖縄において広く流布していたもので、愛媛県の砥部焼との関連が指摘されている。

産地はB地区と同様に瀬戸・美濃系が大部分を占めており、他に肥前系のものがある。年代的には近・現代の製品が中心である。

外底面に「岐」や「瀬」などの文字と番号があるものが何点か得られているが、これは戦時統制下において生産された製品につけられた番号(註2)のようである。

また本地区においても、小碗や小杯・瓶子などの中には墓に伴う遺物が含まれると考えられるが、その殆どが覆土から得られた遺物であり、先の戦争中において使用され、廃棄された遺物との判別が困難であった。

註1　遺物総数とは完形品の数と、口縁部もしくは底部のうち数量的に多い方とを足したものである。

註2　天内克史 1988 「統制経済下における陶磁器生産の一様相」『村上徹君追悼論文集』より

参考文献

金城亀信・島袋洋　他	『阿波根古島遺跡』	沖縄県教育委員会	1990
金武正紀・島弘　他	『御細工所跡』	那覇市教育委員会	1991
下地安広・松川章　他	『城間遺跡』	浦添市教育委員会	1992
島弘・内間靖　他	『壺屋古窯群Ⅰ』	那覇市教育委員会	1992
金城亀信・島袋洋　他	『湧田古窯跡（Ⅰ）』	沖縄県教育委員会	1993
知名定順　他	『漢那福地川水田遺跡報告書』	宜野座村教育委員会	1993
下地安広	「沖縄の遺跡から出土する近代磁器－浦添の遺跡を中心に－」		
	『南島考古』No.14	沖縄考古学会	1994
金武正紀・城間千栄子	『ヒヤジョー毛遺跡』	那覇市教育委員会	1994
金城亀信　他	『伊波城跡北西遺跡』	沖縄県・石川市教育委員会	1996

第VI章　那覇市銘苅古墓群南(B・E)地区出土の人骨

琉球大学医学部解剖学第1講座
土肥直美・北條真子

1．はじめに

銘苅古墓群は那覇市の「天久解放区」内で発見された古墓群で、1990年から1995年にかけて那覇市教育委員会によって発掘調査が行われた。今回、報告する人骨は南B・E地区より出土した近世人骨である。

2．出土人骨

銘苅古墓群南B・E地区から検出された人骨について、鑑定結果の要約を第34表に示す。全体的に保存状態が悪く、大部分は小さな骨片であったため、性判定の困難なものが多かった。

3．人骨所見

以下に、各々の墓について、人骨所見の概要を記す。

B－14号墓　墓庭フク土出土人骨（成人男性1）

残存部位は頭蓋骨片、寛骨片、下肢骨など、ほぼ1体分である。残存する下肢骨は頑丈でサイズも大きいことから、本人骨は成人男性のものと思われるが、骨の保存状態が悪く、年齢の詳細は不明である。

B－21号墓　墓室出土人骨（成人男性1）

残存部位は顔面部を欠く頭蓋骨、右鎖骨、肋骨片、右上腕骨、右橈骨、左尺骨、頸椎片、胸椎片、腰椎片、寛骨片、仙骨、趾骨など、ほぼ1体分である。頭蓋骨の形状および寛骨の形態から、性別は男性と推定される。寛骨と仙骨が癒着し、腰椎体もかなりつぶれている。

B－36号墓　墓庭フク土出土人骨（成人男性2、成人女性2、若年1、幼児1）

大腿骨が4対（男性2・女性2）、脛骨が右4・左1（男性1・女性3？）、踵骨が右1・左2、頭蓋骨が3体分である。これらの骨から、少なくとも男性2体、女性2体、女性？1体の計5体の成人が葬られていると考えられるが、歯根の形成が不完全な第3大臼歯（上下各1本）があることから、これらの中には若年の個体が含まれている可能性がある。この他、幼児の頭蓋骨片、下顎骨片、椎骨片、上腕骨片、右橈骨、大腿骨片、腓骨片などが1体分確認できた。乳歯と未萌出永久歯の混合で歯根の形成状況から5才前後と思われる。

B－39・40・50号墓　前方フク土出土人骨（成年女性1）

残存部位は頭蓋骨片、左右上腕骨、右橈骨・尺骨、寛骨片、左右大腿骨、左右脛骨片、左距骨、左右の足の舟状骨、趾骨などほぼ1体分である。四肢骨が華奢であることから、性別は女性、年齢は永久歯の咬耗度（Brocaの1度）から成年と推定される。

B－39・40・50号墓　前方フク土出土人骨（成人男性1）

残存部位は左右大腿骨片、右脛骨片のみであるが、骨質が頑丈でサイズもかなり大きく、男性の特徴を示している。

B－43号墓　墓室安置蔵骨器No.1出土人骨（老年女性1）

第34表　銘苅古墓群南（B・E地区）出土人骨の構成

地区	号墓		男性	女性	性別不明					合計
					成人	若年	小児	幼児	胎～乳児	
B	14	墓庭フク土	1							1
	21	墓室	1							1
	36	墓庭フク土	2	2		1		1		6
		39・40・50号墓前方フク土		1						1
		39・40・50号墓前方フク土	1							1
	43	墓室安置蔵骨器No. 1		1						1
		墓室安置蔵骨器No. 4	1	1	1			1	1	5
		墓室安置蔵骨器No. 5			1				1	2
		墓室安置蔵骨器No. 7			1					1
		墓室安置蔵骨器No. 8			1	1				2
		墓室安置蔵骨器No. 9			1					1
E	5	墓室蔵骨器No. 1	1							1
		墓室蔵骨器No. 2		2						2
		墓室	1	2						3
		墓室蔵骨器No. 6						1	1	2
		墓室蔵骨器No. 8						1		1
	12	墓						1		1
		墓庭外フク土			1				1	2
		墓庭フク土			1			1		2
		墓庭外フク土	1	1			1			3
	13	墓室石棺内			1					1
		墓庭フク土			1			1		2
		墓庭フク土	1		1			1	1	4
		墓庭左側掘込	2	3					1	6
		墓庭左側掘込			1					1
		墓庭左側掘込蔵骨器No. 6	1	1						2
	15	墓庭外フク土			1					1
		墓外参道	1	1						2
		墓外参道	2				1			3
		墓石列前面	2					1	1	4
	17	墓室蔵骨器	1							1
		墓室フク土	1	2						3
		墓室蔵骨器No. 3	1	1						2
	20	墓庭蔵骨器集積	1	1			1		1	4
	21	墓室	1							1
	23	墓庭フク土	1				1			2
		墓室			1					1
		墓室蔵骨器	1		1		1		1	4
		墓室蔵骨器（転用）		1						1
	24	墓室安置蔵骨器		2						2
計			25	22	14	2	5	9	9	86

ほぼ全身の骨が残っている。頭蓋骨は後頭骨と左右の側頭骨のみである。寛骨の形態から性別は女性と推定され、年齢は下顎骨のほとんどの歯が死亡前に脱落し、歯槽骨の吸収も顕著であることから、老年に達していたと思われる。

B－43号墓　安置蔵骨器No.4 出土人骨（成人男性1、成人女性1、性別不明成人1、幼児1、乳児1）

左右距骨が各2個、左踵骨2個、右踵骨が3個あることから、少なくとも3体が葬られている。さらに、残存する寛骨片に前耳状溝が見られることから女性が1体、頑丈な下肢骨が見られることから男性も1体含まれていると推定される。この他、乳歯の歯根の様子から6才未満の幼児と未萌出乳歯のサイズから6ヶ月未満の乳児がいると思われ、乳児は少量の頭蓋骨・椎骨・右鎖骨・左大腿骨の骨片が確認できた。

B－43号墓　安置蔵骨器No.5 出土人骨（性別不明成人1、乳児1）

残存部位は、下顎骨片、永久歯、肋骨片、胸骨片、上腕骨片、橈骨片、椎骨片、肩甲骨片、寛骨片、指骨、立方骨などである。乳児骨はごく少量の頭蓋骨片、胸骨、椎骨片、四肢骨片などが1体分。未萌出乳歯と未萌出永久歯があり、その大きさと歯根の形成状況から1歳前後と思われる。

B－43号墓　安置蔵骨器No.7 出土人骨（少なくとも性別不明成人1）

やや風化した細片のみで詳細は不明。

B－43号墓　安置蔵骨器No.8 出土人骨（性別不明成人1、若年1）

風化した小片のみで成人骨と未成人骨が混っている。詳細は不明。

B－43号墓　安置蔵骨器No.9 出土人骨（少なくとも性別不明成人1）

保存不良の焼骨。小片のみで詳細は不明である。

E－5号墓　墓室蔵骨器No.1 出土人骨（成年男性1）

ほぼ1体分である。頭蓋骨の眼窩上隆起、外後頭隆起が発達しており、性別は男性、年齢は歯の咬耗度（Brocaの1～2度）から成年と推定される。

E－5号墓　墓室蔵骨器No.2 出土人骨（成年女性2）

ほぼ全身の骨が2体分確認できた。頭蓋骨、寛骨の形態から性別はいずれも女性、年齢についても、歯の咬耗度から、いずれも成年と推定される。

E－5号墓　墓室出土人骨（成人男性1・成人女性2）

2体分の下肢骨と3体分の上腕骨が確認できた。四肢骨のサイズや寛骨の形態から、3体の構成は男性1・女性2である。個体識別は出来なかったが、3体の年齢構成は、ほとんどの歯が死亡前に脱落し、歯槽骨の吸収も進んだ下顎骨と、いずれも咬耗は弱いがサイズの違う歯が残存することから、老年、成年、成年と推定される。

E－5号墓　墓室蔵骨器No.6 出土人骨（幼児1、乳児1）

保存不良の細片である。乳児下顎骨片、乳児骨片、幼児骨片が確認でき、乳歯と未萌出永久歯の様子から幼児は3～4才と思われる。

E－5号墓　墓室蔵骨器No.8 出土人骨（幼児1）

ごくわずかの小片のみ。歯根の形成が不完全な下顎第2乳臼歯が1本あるので、幼児が含まれていると思われる。詳細は不明。

E－12号墓　墓出土人骨（幼児1）

乳歯と未萌出永久歯のみで5才程度と思われる。

E－12号墓　墓庭外フク土出土人骨（性別不明成人１、胎児～新生児１）

成人骨小片（頭蓋骨、肩甲骨、椎骨、肋骨、手足の基節骨、外側楔状骨（左）、手足の指骨）と胎児～新生児の骨が少量確認できたが、詳細は不明。

E－12号墓　墓庭フク土出土人骨（性別不明成人１、幼児～乳児１）

少量の成人骨小片と、幼児～乳児の左右鎖骨・上腕骨・頭骨、左脛骨・腓骨、椎弓片、肋骨片が確認できた。少量の焼骨片が含まれている。

E－12号墓　墓庭外フク土出土人骨（成人女性１、成人男性１、小児１）

量は少ないが、２体分の成人骨が残存している。比較的保存良好な頭蓋骨は乳様突起の発達が弱く、女性と思われる。この他、男性のものと思われる比較的頑丈な四肢骨片がある。年齢については、下顎骨と上顎骨が２体分あり、歯の咬耗度から１体は成年、もう１体はやや年齢の進んだ（歯の咬耗度は Broca の２～３度）熟年と思われる。これらの他に、小児の頭蓋骨片、上腕骨片、脛骨片も確認できた。

E－13号墓　墓室石棺内出土人骨（性別不明成人１）

ごく少量の成人骨小片で詳細は不明。

E－13号墓　墓庭フク土出土人骨（性別不明成年１、幼児１）

少量の細片と２体分の歯が検出された。歯には上顎乳犬歯と歯根の形成不完全な永久歯が含まれているので、１体は混合歯列を持つ幼児～小児と推定される。他の１体も歯の咬耗度が弱いことから、成年のものと思われる。

E－13号墓　墓庭フク土出土人骨（熟年男性１、性別不明成人１、幼児１、胎児～新生児１）

保存状態はあまり良くないが、成人男性のほぼ全身骨とこれよりもサイズの小さい踵骨片が確認できた。頭蓋骨は下顎骨片のみである。残りの歯は少ないが焼かれたものが多い。幼児骨、胎児～新生児骨もそれぞれ完全ではないが１体分ずつ確認できた。乳歯の歯根と未萌出永久歯の様子から幼児は２～４才と思われる。焼骨が少量混っている。

E－13号墓　墓庭左側掘込出土人骨（成人男性２、成人女性３、乳児１）

大腿骨が５体分ある（男性２、女性３）。２体分のほぼ完全な頭蓋骨（女性）もある。乳児骨は側頭骨のみである。

E－13号墓　墓庭左側掘込出土人骨（少なくとも性別不明成人１）

少量の成人骨片で詳細は不明。

E－13号墓　墓庭左側掘込蔵骨器№６出土人骨（成年女性１、成人男性１）

ほぼ完全な成人骨１体分が確認できた。頭蓋骨は女性の特徴を持ち、四肢骨の形態からも性別は女性、年齢は歯の咬耗度（Broca の１度）から成年と思われる。また、その形態から明らかに男性と思われる大腿骨（左）と上腕骨（右）が含まれている。

E－15号墓　墓庭外フク土出土人骨（性別不明成人１）

四肢骨片と頭蓋骨片がごく少量で、詳細は不明。

E－15号墓　墓外参道出土人骨（成年女性１、成人男性１）

ほぼ１体分の成人骨が確認できた。乳様突起の発達が弱いことや寛骨の形態から、この人骨は女性である。また、歯の咬耗度は Broca の１度でほとんどすり減っていないこと、腸骨の骨端線がまだ消えていないことから、年齢は20代前半くらいと思われる。かすかに前耳状溝が確認できる。

この他に、男性と思われる左大腿骨片がある。

E－15号墓　墓外参道出土人骨（成人男性２、小～幼児１）

残存部位は下顎骨片、寛骨片、下肢骨片などである。大腿骨（左）が２本あり、どちらも太い。また一つの寛骨は男性の特徴を示している。小児～幼児の上腕骨片も確認できた。

E－15号墓　墓石列前面出土人骨（成人男性２、幼児１、乳児１）

残存部位は右上腕骨片２、肋骨片、寛骨片、大腿骨片、脛骨片、腓骨片、趾骨片などである。筋付着部の発達した上腕骨が２体分あるので、少なくとも２体の男性が葬られていたと思われる。その他、幼児の四肢骨片と椎骨片、乳児の四肢骨片、椎骨片、肋骨片が検出された。

E－17号墓　墓室蔵骨器出土人骨（成年男性１）

大腿骨と腓骨以外のほぼ全身の成人骨が確認できた。頭蓋骨は男性の特徴を持ち寛骨も男性の特徴を示している。歯の咬耗度はBrocaの１～２度である。

E－17号墓　墓室フク土出土人骨（成人男性１、成人女性２）

立方骨（右）３、大腿骨（右）３が確認できたので最低３体が葬られている。性別は大腿骨の特徴から、男性１体、女性２体と思われる。

E－17号墓　墓室蔵骨器№３出土人骨（成人男性１、成人女性１）

ほとんどが四肢骨片である。骨質やサイズから大部分は男性のものと思われるが、女性のものと推定される華奢な上腕骨片もある。

E－20号墓　墓庭蔵骨器集積出土人骨（成人男性１、成人女性１、小児１、乳児１）

成人の大腿骨が２体分、脛骨も２体分あるが、骨質やサイズから性別は男女であると思われる。この他、乳児と思われる側頭骨片（乳歯から0.5～１才）、10才程度の小児と思われる未萌出永久歯と寛骨が確認できた。

E－21号墓　墓室出土人骨（熟年男性１）

ほぼ１体分の成人骨が確認できた。眼窩上隆起や乳様突起の発達が著しいこと、また、寛骨の特徴から、本人骨は男性と推定される。歯の咬耗度（Brocaの２度）から、年齢は熟年に達していたと思われる。

E－23号墓　墓庭フク土出土人骨（成年男性１、若年～小児１）

頭蓋骨片、四肢骨片のみ。乳様突起の発達が著しいこと、大腿骨が頑丈であることから、性別は男性、頭蓋骨の縫合は解離しており、咬耗の弱い上顎左第１大臼歯がある。

また、若年～小児と思われる胸骨片、肋骨片、大腿骨片、脛骨片も確認できた。

E－23号墓　墓室出土人骨（性別不明成人１）

少量の細片と手の舟状骨１と下顎側切歯１（咬耗度はBrocaの１度）のみで詳細は不明。

E－23号墓　墓室蔵骨器出土人骨（成人男性１、性別不明成人１、小児１、乳～胎児１）

保存不良の骨片である。距骨（右）が２個あることから少なくとも２体の成人が葬られていたと思われる。大腿骨片、上腕骨片は頑丈で、これらに男性が含まれていることを示している。歯は未萌出乳歯（誕生前後）、乳歯と永久歯の混合歯列（未萌出の永久歯あり）（６～７才）、咬耗度がBrocaの１～２度の永久歯が確認できた。

E－23号墓　墓室蔵骨器（転用）出土人骨（成年女性１）

ほぼ１体分の成人骨が確認できた。寛骨に前耳状溝が見られることから、性別は女性と思われる。

歯の咬耗は弱い。左右橈骨、脛骨、腓骨に骨膜炎の痕跡が認められる。

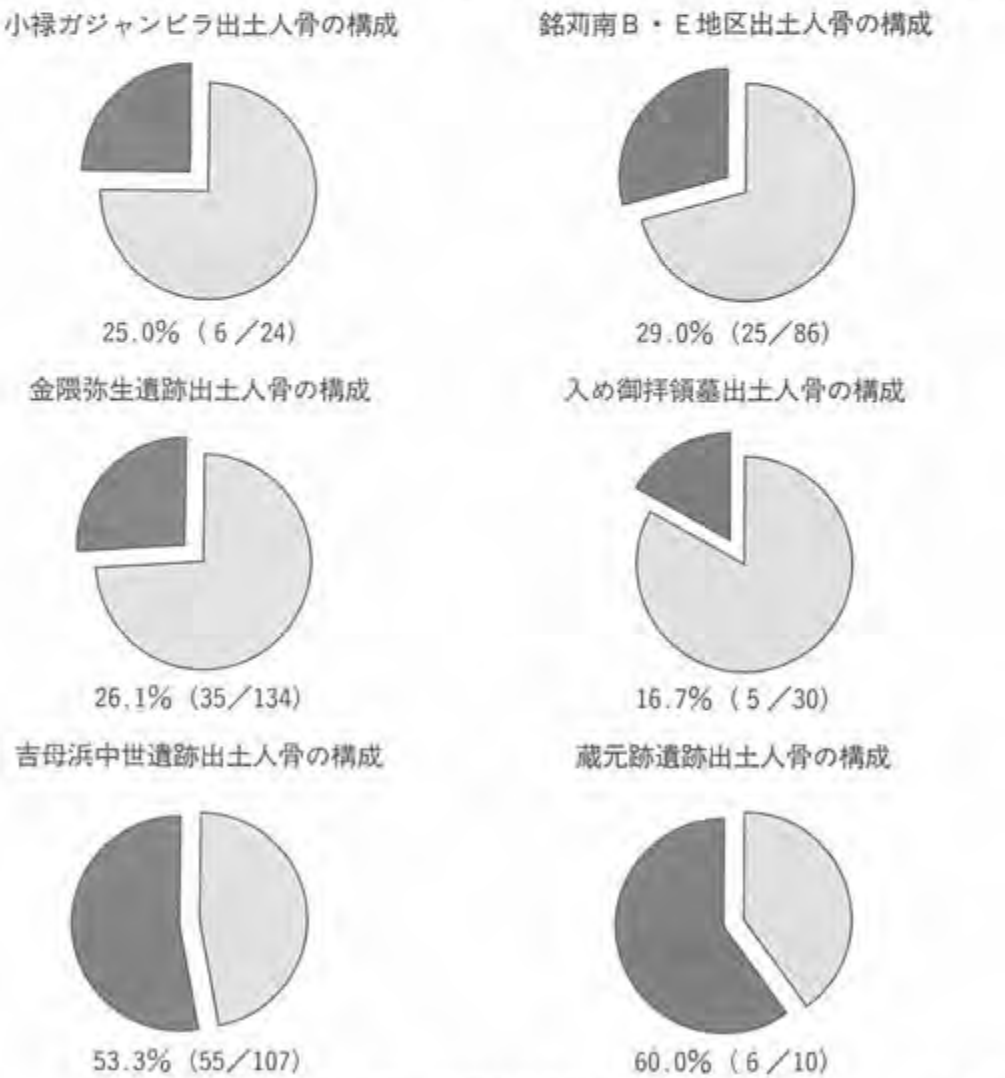
E－24号墓　墓室安置蔵骨器出土人骨（成年女性２）

保存状態の比較的良好な成人骨が２体分確認できた。いずれの骨も華奢で、女性のものと思われる。歯の咬耗も弱く、寛骨に前耳状溝は認められない。右腓骨に骨膜炎の痕跡が認められる。

４．未成人骨

沖縄では、一般的に、異常死者や子供は墓に入れないと言われることが多い。しかしながら、筆者等のこれまでの調査例では、ほとんどの近世墓から子供の骨が検出されている。さらに、聞き取りによると、子供が死亡した場合には、一旦は仮墓に葬るが、その後、墓が開けられた時に、近親者の甕に納めると言われるなど、未成人の扱いについては不明な点が多い。埋葬習俗を知るためには人骨からの情報が不可欠と思われるが、未成人骨がどの程度の割合で出土するかというような、具体的な報告例もほとんどないのが現状である。そこで、十分な資料とは言えないが、一つの具体例として本遺跡の未成人骨を概観しておきたい。

第141図は未成人骨の占める割合を、いろいろな時代・地域の遺跡について比較したものである。



第141図　未成人骨の割合

先史・古代人の寿命について詳細な分析を行った中橋[1]によれば、第141図の山口県吉母浜中世遺跡の未成人骨の割合は、当時の未成人死亡数の実状に近いと考えられている。それに対して、福岡の弥生時代甕棺墓遺跡である金隈の未成人骨の割合は、小児棺の比率（60%）から推定される実状とは、かなりかけ離れた数字になっているという。これは、脆弱な未成人骨が土壌の腐食作用などによって消失したことなどによると思われるが、いずれにしても、先史・古代・中世の埋葬遺跡においては、未成人骨の割合は50%を超えるものと推定されるている。また、明治以降の人口統計によれば、未成人死亡率は時代とともに減少し、明治では約40%であったものが1977年度には1.69%になっているという[1]。沖縄の古墓は近世を主体としているので、すべての人が葬られ、保存の条件も良好であったとすれば、未成人骨の割合は半数を超えることが期待される。

そこで、本遺跡の未成人骨の割合を見てみると、第141図に示すように、全体の29.0%（第34表より計算）であった。今回報告する銘苅南B・E地区が遺跡全体の状況を反映していないという危険性がないわけではないが、同じ那覇市の小禄ガジャンビラ遺跡出土人骨の構成がほとんど同じ位の比率を示しているので、ある程度の実状は反映されていると考えても良いのではないかと思われる。また、沖縄の場合、人骨は軟部が腐朽した後に洗骨され、骨の状態で厨子甕に納められるので、保存条件としては恵まれているように思われる。実際、筆者等が調査した浦添市の入め御拝領墓では、ほとんどの厨子甕の蓋に銘書が記されていたが、銘書と中の人骨の構成はかなり良く一致していた[2]。このような状況から考えると、沖縄の古墓に納められている未成人骨の割合は実際の死亡数よりもかなり低く、何らかの人為的な要因が働いていたことが示唆される。

第141図で未成人骨の比率が最も高いのは石垣市の蔵元跡遺跡（グスク時代）の60%である。蔵元跡遺跡は砂丘の埋葬遺跡であり、人為的な洗骨を伴う古墓とは性格がまったく異なるものである。同じく砂丘遺跡の山口県吉母浜中世遺跡の例に近い状況を示している点が興味深いが、全体の資料数が少ないので現時点では参考資料としておきたい。

5．形質の特徴

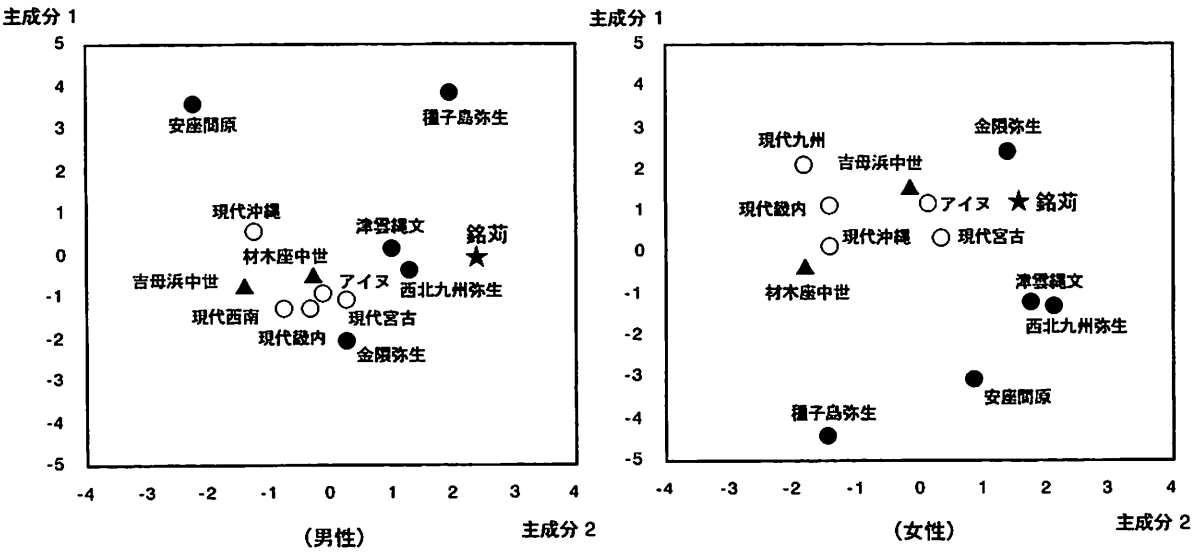
骨の保存状態が悪く、十分なデータは得られなかったが、参考までに頭蓋骨と四肢骨の特徴を概観する。

【頭蓋骨】

頭蓋主要計測値を第35表に示す。男性頭蓋の保存が特に悪く、計測できたのはほとんど1例だけである。男女ともに上顔高が低く、頭形が短頭傾向を示している。十分な資料ではないが、銘苅人骨の特徴を知るために、頭蓋計測値を他の集団と比較した結果を示す（第142図）。比較に使った集団は近現代沖縄人[3]、現代西南日本人[4][5]、現代畿内人[6]、近現代宮古人[7]、吉母浜中世人[8]、材木座中世人[9]、種子島弥生人[10]、安座間原貝塚人[11]、金隈弥生人[10]、西北九州弥生人[11]、津雲縄文人[12]である。第142図は男女で縦軸の位置関係が逆転しているが、基本的には同じ特徴が抽出されている。すなわち、縦軸には主にサイズと頭形が抽出され、横軸には幅径が抽出されている。銘苅人骨は極端な短頭傾向を示す南西諸島の先史時代人とは異なり、他の日本人集団に近い位置にある。

第35表　頭蓋主要計測値

	(男性)						(女性)								
	B-36	E-05	E-17	E-21	N	M	E-05	E-13	E-13	E-17	E-23	E-24	N	M	S.D.
1 頭蓋最大長			184		1	184	173		175		176		3	174.7	1.53
8 頭骨最大幅	156		151		2	154			140	149			2	144.5	
9 最小前頭幅		89	105		2	97			97		94		2	95.5	
17 バジオン・ブレグマ高									134		132		2	133.0	
40 顔長									93		92		2	92.5	
45 頬骨弓幅									131				1	131	
46 中顔幅							96		94		99	96	4	96.3	2.06
48 上顔高			65		1	65	64	60	67		70		4	65.3	4.27
51r眼窩幅(右)			43	44	2	44	37		40				2	38.5	
51l眼窩幅(左)											44	39	2	41.5	
52r眼窩高(右)			35	35	2	35			37				1	37	
52l眼窩高(左)							33				35	35	3	34.3	1.15
54 鼻幅			27		1	27	27		25		27	25	4	26.0	1.15
55 鼻高			50		1	50	51		50		51	47	4	49.8	1.89
8/1 頭蓋長幅示数			82.1		1	82.1			80.0				1	80.0	
17/1 頭蓋長高示数									76.6		75.0		2	75.8	
17/8 頭蓋幅高示数									95.7				1	95.7	
48/45 上顔示数									51.1				1	51.1	
52/51 眼窩示数(右)			81.4	79.5	2	80.5			92.5				1	92.5	
眼窩示数(左)											79.5	89.7	2	84.6	
54/55 鼻示数			54.0		1	54.0	52.9		50.0		52.9	52.8	4	52.2	1.43
顔面平坦度															
Frontal chord			99.2		1	99.2					98.9	96.6	2	97.8	
subtense			18.0		1	18.0					12.5	15.7	2	14.1	
index			18.1		1	18.1					12.6	16.3	2	14.5	
Simotic chord			10.9	6.8	2	8.9	11.3		11.9		8.5	8.0	4	9.9	1.96
subtense			3.4	3.3	2	3.3	2.4		1.3		3.1	1.3	4	2.0	0.90
index			30.8	48.7	2	39.8	21.5		11.3		37.0	16.0	4	21.4	11.18
Zygomaxillry chord									93.1		95.1	97.1	3	95.1	2.00
subtense									18.4		18.1	19.3	3	18.6	0.61
index									19.7		19.1	19.9	3	19.6	0.43



第142図　銘苅南B・E地区人骨と周辺集団の比較

★　銘苅南B・E地区人骨　●先史時代　▲　中世　○　現代

【四肢骨】

上肢骨の計測値を第36～41表に、下肢骨の計測値を第42～45表に示す。全体に華奢で、筋付着部の発達も良くない印象を受けるが、計測値の平均はほぼ現代日本人の平均値に近い。

第36表　上腕骨計測値（男性）

計測項目		B-21	B-36	E-5	E-13	E-13	E-13	E-17	E-20	E-21	N	M	S.D.
1 上腕骨最大幅	r							285			1	285	
	l							285		296	2	290.5	
2 上腕骨全長	r							281			1	281	
	l							280		293	2	286.5	
5 中央最大径	r	24	23	22	21	23	22	22	22	24	9	22.6	1.01
	l				21		21	21		23	4	21.5	1.00
6 中央最小径	r	18	17	17	17	18	17	18	16	17	9	17.2	0.67
	l				16		17	18		16	4	16.8	0.96
7 骨体最小周	r	68	61	60	60	64	60	64	59	63	9	62.1	2.89
	l				59		59	60		62	4	60.0	1.41
7 a 中央周	r	70	66	63	62	66	62	65	65	68	9	65.2	2.68
	l				61		61	62		65	4	62.3	1.89
6／5 骨体断面示数	r	75.0	73.9	77.3	81	78.3	77.3	81.8	72.7	70.8	9	76.5	3.69
	l				76.2		81.0	85.7		69.6	4	78.1	6.88
7／1 長厚示数	r							22.5			1	22.5	
	l							21.1		20.9	2	21.0	

第37表　上腕骨計測値（女性）

計測項目		B-40	B-43	E-5	E-5	E-5	E-13	E-15	E-17	E-23	E-24	E-24	N	M	S.D.
1 上腕骨最大幅	r						257						1	257	
	l											252	1	252	
2 上腕骨全長	r						253						1	253	
	l											251	1	251	
5 中央最大径	r	20	20		19	20	19	19	21	19	17	17	10	19.1	1.29
	l	20	20	21	19		18	19	20	18	17	16	10	18.8	1.55
6 中央最小径	r	16	17		15	13	14	13	17	15	13	12	10	14.5	1.78
	l	17	17	16	15		14	13	17	16	13	11	10	14.9	2.08
7 骨体最小周	r	56	59		52	50	52	48	57	55	48	45	10	52.2	4.52
	l	57	58		52		50	47	57	53	49	44	9	51.9	4.86
7 a 中央周	r	60	61		55	54	54	52	61	57	51	48	10	55.3	4.42
	l	60	60	60	54		53	52	61	56	51	46	10	55.3	4.97
6／5 骨体断面示数	r	80.0	85.0		78.9	65.0	73.7	68.4	81.0	78.9	76.5	70.6	10	75.8	6.25
	l	85.0	85.0	76.2	78.9		77.8	68.4	85.0	88.9	76.5	68.8	10	79.1	6.98
7／1 長厚示数	r						20.2						1	20.2	
	l											17.5	1	17.5	

第38表　尺骨計測値（男性）

計測項目		B-21	B-36	E-12	E-13	E-17	E-17	E-21	N	M	S.D.
3 最小周	r					38			1	38	
11 尺骨矢状径	r		14		12	15	12	14	5	13.4	1.34
	l	14		13	12	13		13	5	13.0	0.71
12 尺骨横径	r		16		14	18	17	17	5	16.4	1.52
	l	17		20	15	17		16	5	17.0	1.87
11／12 骨体断面示数	r		87.5		85.7	83.3	70.6	82.4	5	81.9	6.63
	l	82.4		65.0	80.0	76.5		81.3	5	77.0	7.09

第39表　尺骨計測値（女性）

計測項目		B-43	E-5	E-5	E-13	E-13	E-17	E-23	E-24	E-24	N	M	S.D.
1 最大長	l					210					1	210	
2 機能長	r							187			1	187	
	l				174	184					2	179.0	
3 最小周	r				33			35	31	30	4	32.3	2.22
	l				34	30		34			3	32.7	2.31
11 尺骨矢状径	r	12		11	13			11	12	10	6	11.5	1.05
	l	12	10	11	11	9	10	11	11	10	9	10.6	0.88
12 尺骨横径	r	14		14	15			17	13	12	6	14.2	1.72
	l	14	15	14	14	12	14	16	13	11	9	13.7	1.50
3／2 長厚示数	r							18.7			1	18.7	
	l				19.5	16.3					2	17.9	2.26
11／12 骨体断面示数	r	85.7		78.6	86.7			64.7	92.3	83.3	6	81.9	9.53
	l	85.7	66.7	78.6	78.6	75.0	71.4	68.8	84.6	90.9	9	77.8	8.17

第40表　橈骨計測値（男性）

計測項目		B－21	E－13	E－17	N	M	S.D.
1 最大長	r			220	1	220	
	l			221	1	221	
2 機能長	r			209	1	209	
	l			210	1	210	
3 最小周	r	42	38	43	3	41.0	2.65
	l			41	1	41	
4 骨体横径	r	17	14	17	3	16.0	1.73
	l			17	1	17	
5 骨体矢状径	r	13	12	12	3	12.3	0.58
	l			12	1	12	
3／2 長厚示数	r			20.6	1	20.6	
	l			19.5	1	19.5	
5／4 骨体断面示数	r	76.5	85.7	70.6	3	77.6	7.61
	l			70.6	1	70.6	

第41表　橈骨計測値（女性）

計測項目		B-43	E-5-2	5墓室	E-13-6	E-15	E-17	E-23	E-24	E-24	N	M	S.D.
1 最大長	r	224						200			2	212.0	
	l					194					1	194	
2 機能長	r	214						194			2	204.0	
	l					186					1	186	
3 最小周	r	37	34			31		36	33	30	6	33.5	2.74
	l	34	34			31		36	32	30	6	32.8	2.23
4 骨体横径	r	15	14		13	12		16	12	12	7	13.4	1.62
	l	15	14	13	13	13	14	15	13	12	9	13.6	1.01
5 骨体矢状径	r	10	9		9	9		10	9	8	7	9.1	0.69
	l	10	9	9	10	9	9	11	9	9	9	9.4	0.73
3／2 長厚示数	r							18.6			1	18.6	
	l					16.7					1	16.7	
5／4 骨体断面示数	r	66.7	64.3		69.2	75.0		62.5	75.0	66.7	7	68.5	4.92
	l	66.7	64.3	69.2	76.9	69.2	64.3	73.3	69.2	75.0	9	69.8	4.48

第42表　大腿骨計測値（男性）

計測項目		B-36	B-40	E-12	E-13	E-13	E-13	E-13	E-15	E-15	E-17	E-17	E-20	E-21	E-23	N	M	S.D
1 最大長	l													430		1	430	
2 自然位全長	l													425		1	425	
6 骨体中央矢状径	r	29	26		25		25		26			24		29	26	8	26.3	1.83
	l	31	26	26	26	27	25	28	27	27	26	25	25	28	25	14	26.6	1.65
7 骨体中央横径	r	26	25		24		26		26			25		28	23	8	25.4	1.51
	l	24	26	24	24	25	25	27	25	26	27	26	25	30	24	14	25.6	1.65
8 骨体中央周	r	89	80		78		81		81			79		88	79	8	81.9	4.22
	l	89	81	81	80		79	87	81	85	81	80	78	89	78	13	82.2	3.92
9 骨体上横径	r	32			30		31		31			29		33	29	7	30.7	1.50
	l	29		28	29	29	30			31	29	30	29	35	32	11	30.1	1.97
10 骨体上矢状径	r	24			22		21		24			21		25	21	7	22.6	1.72
	l	26		24	22	24	20			23	24	21	20	27	22	11	23.0	2.28
8／2 長厚示数	l													20.9		1	20.9	
6／7 骨体中央断面示数	r	111.5	104.0		104.2		96.2		100.0			96.0		103.6		7	102.2	5.40
	l	129.2	100.0	108.3	108.3	108.0	100.0	103.7	108.0		96.3	96.2	100.0	93.3		12	104.3	9.47
10／9 上骨体断面示数	r	75.0			73.3		67.7		77.4			72.4		75.8		6	73.6	3.39
	l	89.7		85.7	75.9	82.8	66.7			74.2	82.8	70.0	69.0	77.1		10	77.4	7.68

第43表　大腿骨計測値（女性）

計測項目		B-36	B-36	B-43	E-5	E-5	E-13	E-13	E-13	E-15	E-17	E-17	E-20	E-23	E-24	E-24	N	M	S.D.
1 最大長	r			415													1	415	
	l							374									1	374	
2 自然位全長	r			412													1	412	
	l							370									1	370	
6 骨体中央矢状径	r	22		28	23	24	23	22	23		21	22		20	19	22	12	22.4	2.23
	l	21	25	27	23	25	23	22	24	23	21		23	23	20	21	14	22.9	1.90
7 骨体中央横径	r	24		26	23	22	24	22	23		25	23		27	20	23	12	23.5	1.88
	l	24	25	25	23	21	24	22	24	23	23		24	27	21	24	14	23.6	1.60
8 骨体中央周	r	72		85	72	72	75	71	74		71	72		74	62	70	12	72.5	5.13
	l	71	77	82	73	72	74	71	77	72	70		75	78	63	70	14	73.2	4.56
9 骨体上横径	r	26		27	26	25	27	26	27	27	28	28		30	25	27	13	26.8	1.34
	l	26	29		26	26	28	27	27	28	27		26	29	26	27	13	27.1	1.12
10 骨体上矢状径	r	20		24	21	19	20	21	22	20	19	20		19	17	18	13	20.0	1.78
	l	20	23		22	19	19	21	22	19	19		20	22	18	18	13	20.2	1.68
8／2 長厚示数	r			20.6													1	20.6	
	l							19.2									1	19.2	
6／7 骨体中央断面示数	r	91.7		107.7	100.0	109.1	95.8	100.0	100.0		84.0	95.7		74.1	95.0	95.7	12	95.7	9.53
	l	87.5	100.0	108.0	100.0	119.0	95.8	100.0	100.0	100.0	91.3		95.8	85.2	95.2	87.5	14	97.5	8.79
10／9 上骨体断面示数	r	76.9		88.9	80.8	76.0	74.1	80.8	81.5	74.1	67.9	71.4		63.3	68.0	66.7	13	74.6	7.22
	l	76.9	79.3		84.6	73.1	67.9	77.8	81.5	67.9	70.4		76.9	75.9	69.2	66.7	13	74.5	5.72

第44表　脛骨計測値（男性）

計測項目		B-14	B-36	E-12	E-13	E-13	E-15	E-17	E-17	E-20	E-21	N	M	S.D.
1　脛骨全長	r							323				1	323	
1a 脛骨最大長	r							328				1	328	
8a 栄養孔位最大径	r	34			31		36	31		30		5	32.4	2.51
	l		36		31	32		31		30	35	6	32.5	2.43
9a 栄養孔位横径	r	24			21		23	24		21		5	22.6	1.52
	l		27		21	21		24		22	24	6	23.2	2.32
10a 栄養孔位周	r	92			85		93	87				4	89.3	3.86
	l				84	86		88		80	95	5	86.6	5.55
10b 最小周	r	75			71	70		70	75	69		6	71.7	2.66
	l	76	76		72		77	71		67	75	7	73.4	3.60
9a/8a 栄養孔位断面示数	r	70.6			67.7		63.9	77.4		70.0		5	69.9	4.94
	l		75.0		67.7	65.6		77.4		73.3	68.6	6	71.3	4.64
10b/1 長厚示数	r							21.7				1	21.7	

第45表　脛骨計測値（女性）

計測項目		B-36	B-43	E-5	E-5	E-5	E-13	E-13	E-13	E-15	E-17	E-17	E-24	E-24	N	M	S.D.
8a 栄養孔位最大径	r	27	32		26	28	30	26			24	29	27	28	10	27.7	2.26
	l		32	27			29	26	28	27	24	29	28	26	10	27.6	2.17
9a 栄養孔位横径	r	20	22		20	20	22	19			20	23	20	17	10	20.3	1.70
	l		23	20			21	19	18	20	20	21	19	17	10	19.8	1.69
10a 栄養孔位周	r	77	85		73	76	82	74			71	80	74	72	10	76.4	4.60
	l		87	76			80	77	77	77	72	79	76	70	10	77.1	4.58
10b 最小周	r	64	70		63	62	66			61	59	65	61	63	10	63.4	3.10
	l		73	63		62	66	62		60	60	63	62	59	10	63.0	4.03
9a／8a 栄養孔位断面示数	r	74.1	68.8		76.9	71.4	73.3	73.1			83.3	79.3	74.1	60.7	10	73.5	6.08
	l		71.9	74.1			72.4	73.1	64.3	74.1	83.3	72.4	67.9	65.4	10	71.9	5.35

【身長の推定】

ピアソンの式を用いて求めた推定身長を第46表に示す。四肢骨の保存状態が悪く、身長が推定できる個体は少なかったが、男性で156.6cmと162.2cm、女性で153.6cm、145.6cm、140.9cmであった。これらは浦添市御拝領墓人骨の推定身長（男性平均　155.2cm、女性平均　143.8cm）[2)] と大差ないが、やや変異が大きいように思われる。

第46表　推定身長（ピアソンの式より）

男性		
E－17	脛骨最大長より推定	156.6
E－21	大腿骨最大長より推定	162.2
女性		
B－43	大腿骨最大長より推定	153.6
E－13	大腿骨最大長より推定	145.6
E－24	上腕骨最大長より推定	140.9

(cm)

6．まとめ

那覇市銘苅南Ｂ・Ｅ地区から近世人骨86体（男性25体、女性 22体、性別不明成人14体、若年２体、小児５体、幼児９体、新生児～乳児９体）が出土した。保存状態が悪く、人骨の詳細な分析はできなかったが、概要をまとめると以下のようになる。

1）頭蓋骨

全体的に低顔で、短頭傾向が見られた。周辺集団と比較した結果は、南西諸島先史時代人とは異なり、他の日本人集団に近い特徴を持っているようである。

2）四肢骨

全体的に華奢であるが、現代日本人の平均値とそれほど大きな違いは見られない。推定身長も同じ沖縄県浦添市の近世人骨の結果と大差ないようである。

3）未成人骨

出土人骨の中で未成人骨の占める割合は29.0%であった。この割合は、一般的に期待される未成人の死亡数に比べてかなり低いものである。おそらく沖縄の古墓に納められる未成人骨の割合は実際の死亡数よりもかなり低く、何らかの社会的・人為的な要因が働いていたことが示唆される。

謝辞

銘苅南地区出土人骨の調査の機会を与えていただいた、那覇市教育委員会の皆さまに心からの謝意を表します。

参考文献

1）中橋孝博、1989：４．寿命、金関・佐原編「弥生文化の研究Ｉ」、雄山閣出版、pp. 76－95.

2）浦添市教育委員会編、1996：「伊祖の入め御拝領墓」浦添市文化財調査報告書第24集、浦添市教育委員会.

3）許　鴻梁、1948：琉球人頭骨の人類学的研究、国立台湾大学解剖学研究室論文集２：227－330.

4）平田直行、1957：頭蓋骨の性差に関する研究、人類学研究　4（１－４）：142－179.

5）原田忠昭、1954：西南日本人頭骨の人類学的研究、人類学研究　1（１－２）：　1－51.

6）宮本博人、1924：現代日本人人骨の人類学的研究、第１部　頭蓋骨の研究、人類学雑誌　39（10－12）.

7）池田次郎、1974：沖縄・宮古島現代人頭骨の計測、人類学雑誌　82（２）：150－160.

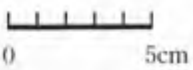
8）中橋孝博・永井昌文、1985：山口県吉母浜遺跡出土人骨　「吉母浜遺跡」、下関市教育委員会.

9）九州大学医学部解剖学第２講座編、1988：日本民族・文化の生成、２．九州大学医学部解剖学第二講座所蔵古人骨資料集成、六興出版.

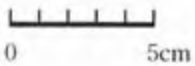
10）松下孝幸、1993：沖縄県具志川島遺跡群出土の古人骨、伊是名村教育委員会編「具志川島遺跡群」伊是名村文化財調査報告書第9集、伊是名村教育委員会、215－244.

11）内藤芳篤、1971：西北九州出土の弥生時代人骨、人類学雑誌　79（３）：236－246.

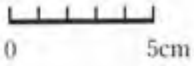
12）清野謙次・宮本博人、1926：津雲貝塚人人骨の人類学的研究　第２部　頭蓋骨の研究、人類学雑誌　41.



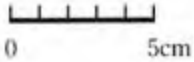
第143図　E地区5号墓　墓室内蔵骨器No.2出土人骨（女性・成年）



第144図　E地区13号墓　墓庭左側堀込蔵骨器No.6出土人骨（女性・成年）



第145図　E地区17号墓　墓室蔵骨器（男性・成年）



第146図　E地区23号墓　墓室内蔵骨器（転用）出土人骨（女性・成年）

第Ⅶ章　総　括

銘苅古墓群は南地区と北地区に大別される。南地区は銘苅原を流れる銘苅川（メカルガーラ）と名護松尾原を流れる大湾川（オオワンガーラ）の両岸を挟む琉球石灰岩の崖下に立地している。南地区には約200基の古墓が発掘されたが、今回は銘苅川を挟むＢ地区（52基）とＥ地区（33基）についての報告である。

墓の種類は囲込岩陰墓、掘込墓、亀甲墓である。囲込岩陰墓はＢ地区に３基あり、この墓はＢ地区の崖上にあるヒヤジョー毛遺跡（集落遺跡）に住んでいた人々の共同墓ということで、1994年３月に発刊された『ヒヤジョー毛遺跡』（那覇市文化財調査報告書第26集）に報告済である。亀甲墓は２基で、残りはすべて掘込墓である。亀甲墓はかなり財力のある家の墓と考えられるが、掘込墓でも規模の大・中・小があり、財力と関係したと考えられる。Ｂ地区には囲込岩陰墓、掘込墓、亀甲墓など墓の種類も多く、また、ヒヤジョー毛遺跡の共同墓が囲込岩陰墓であることなどから市民からの保存の声が高くなり、那覇市は1994年に地権者と地域振興整備公団の同意を得てＢ地区の24号墓から49号墓までの28基を現地保存することを決定し、現在現地保存されている。

出土遺物で最も注目されるのは蔵骨器（方言でジーシ）である。蔵骨器にはいろいろな種類がある。その中には高価な値が付いたと考えられるのも多いが、胴部に亀裂の入っているものや変形しているものなど、まったくの不良品も使用されている。さらに転用蔵骨器が多いのも注目される。蔵骨器にも墓と同じように財力の差を見ることができる。

蔵骨器に墨書されたミガチ（銘書）は最も大きな成果である。蔵骨器の身や蓋には洗骨の時に氏名、死亡年月日、洗骨年月日、家族関係などが墨書で記されている。親方、親雲上、筑登之、里之子など首里王府の位階が記されているのが多く、また、氏、名乗頭なども記されているのも多い。これらのことからＢ・Ｅ地区の墓は主に首里系、那覇系士族の墓だったと考えられる。さらにミガチ（銘書）で注目されるのは死亡年月日や洗骨年月日である。洗骨のときに蔵骨器を入手する場合がほとんどである。よって、その蔵骨器の製作年がほぼ理解できる。これによって蔵骨器の編年ができる。ただ中には古いミガチを消して新しく使用したものや、古いミガチが消えたと考えられる新しい年号などがあり、蔵骨器の型式を見ないとミガチだけでは決められないのもある。ミガチ（銘書）によって蔵骨された人の構成も理解できる。夫婦、祖父母と孫、兄弟姉妹などいろいろな蔵骨方法がとられている。

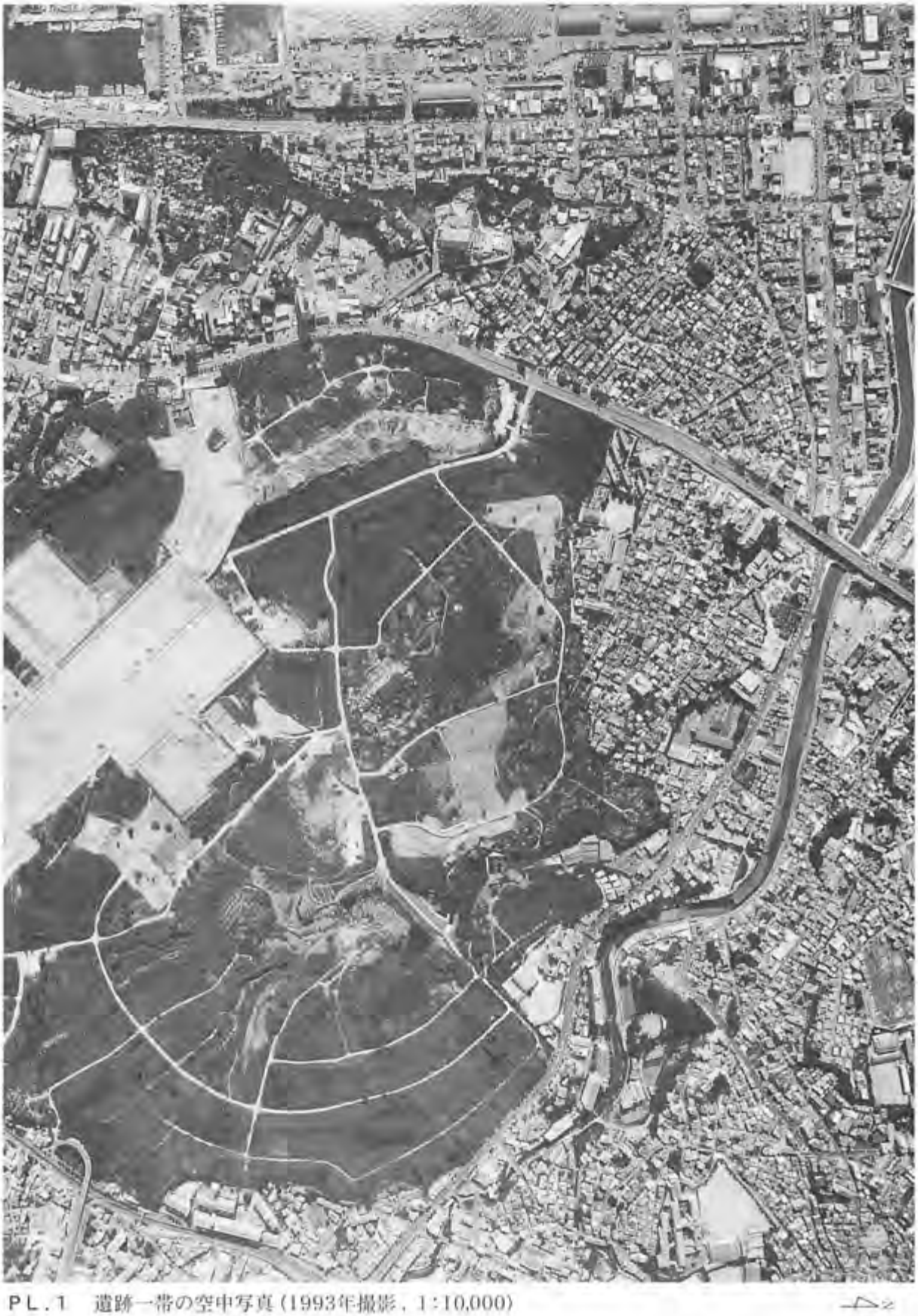
副葬品としては酒器としてのカラカラ・徳利・猪口、花生用の花瓶、食器の碗・皿などが特に多い。ほかには香炉、キセル、銅鏡、銭貨などがある。着葬品としてはカンザシ、指輪などが検出されている。

本遺跡の掘込墓や亀甲墓の年代は陶製家形蔵骨器（切妻のアカムン）の「康熙18年（1679年）」や喜名焼ボージャーの「康熙19年（1680年）」などのミガチから上限は17世紀で、下限は20世紀（1950年代の米軍基地建設前）と考えられる。なお、囲込岩陰墓は15～16世紀と考えられる。

1951年頃、墓の所有者は米軍から移転補償を受けて、墓室内の骨や蔵骨器などを移転したという。所有者不明の墓や時間的に余裕のなかった人の墓などはほとんどそのままの状態で埋められたようである。そのために盗掘されてなく、蔵骨器や副葬品などが大量に検出された。

图　　版

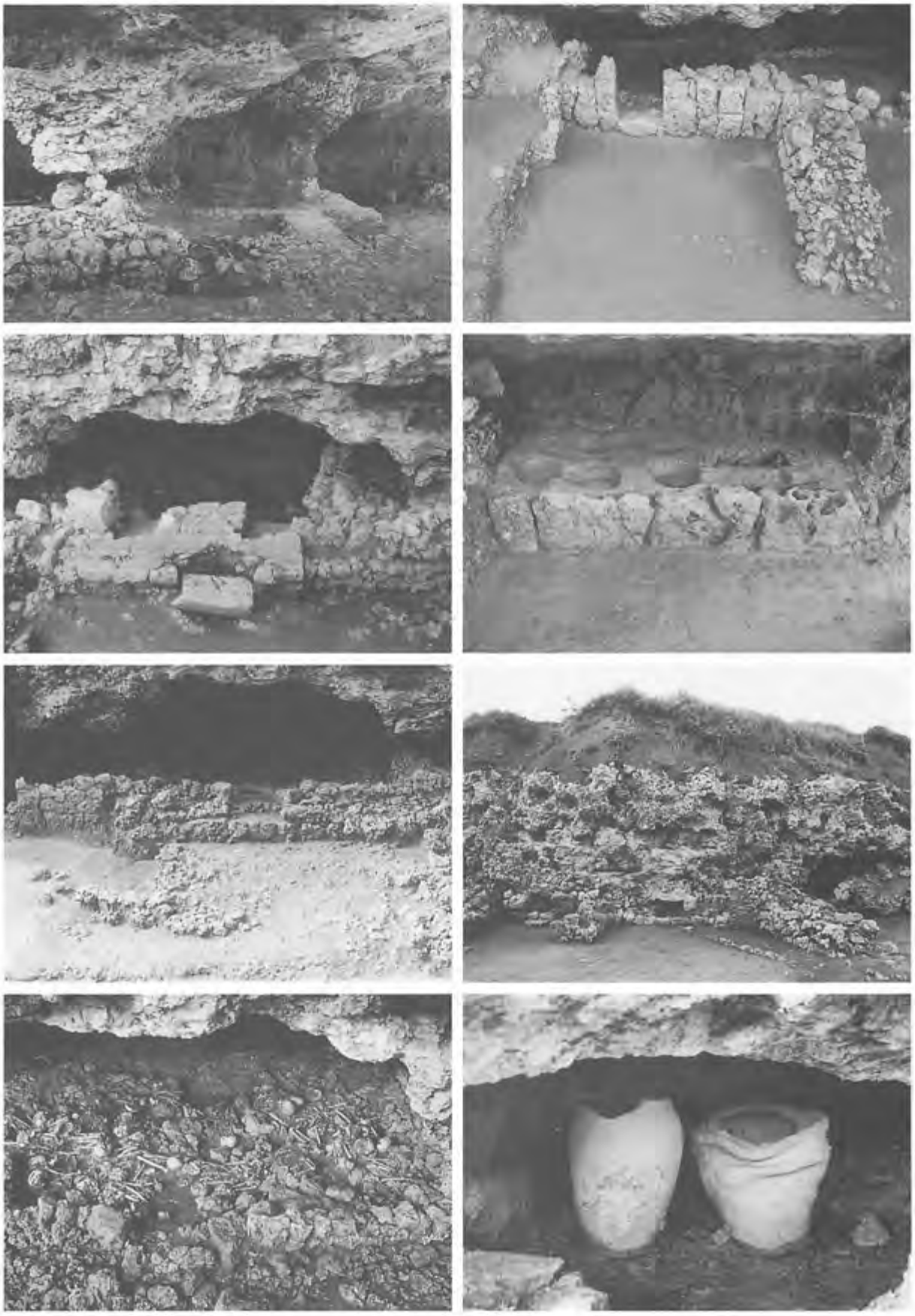
国道58号
西原古墓群
ナーチュー毛古墓群
安謝川
県道82号線
安謝前東原遺跡
銘苅古墓群（北）
F
D
A
銘苅古墓群（南）
E
B
C
銘苅原遺跡
ヒヤジョー毛遺跡
国道330号



PL.1　遺跡一帯の空中写真（1993年撮影，1:10,000）

PL.2　銘苅古墓群遠景　上：B・E地区（Bは右、Eは左）（南から）
中：B・E地区（Bは左、Eは右）（北から）
下：B地区（西から）

PL.3　銘苅古墓群遠景　上：E地区の南側〈15～9号墓〉（東から）
中：E地区の中央〈12～9号墓〉（　〃　）
下：E地区の北側〈19～30号墓〉（　〃　）



PL.4　B地区の古墓

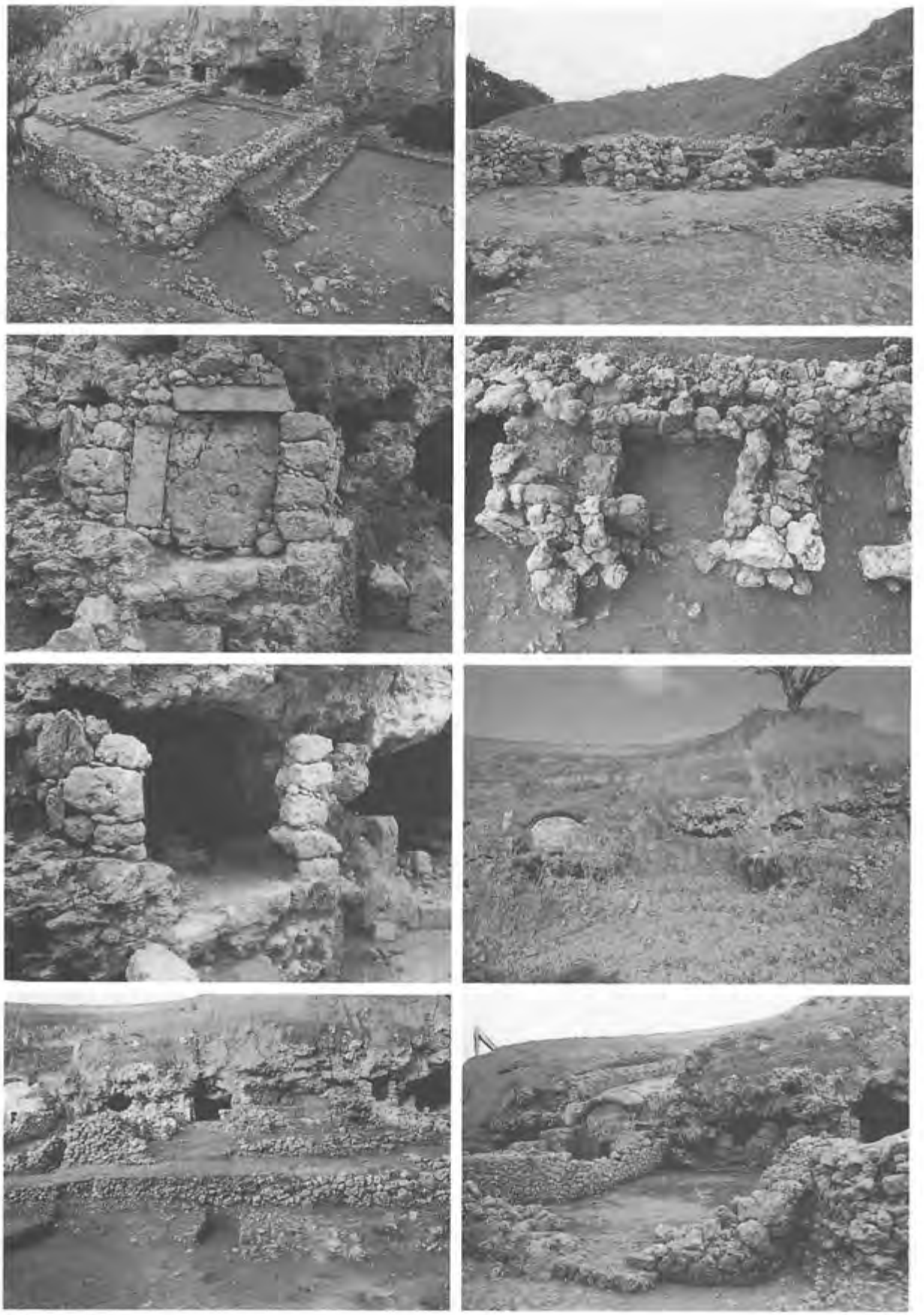
1段左：1・2・3・4号墓（右から）
2段左：4号上位墓
3段左：4号下位墓
4段左：4号下位墓の人骨

1段右：6号墓
2段右：6号墓室内
3段右：9・10・11号墓（右から）
4段右：9号墓室内の蔵骨器

PL.5　B地区の古墓

1段左：9・10・11・12号墓（右から）
2段左：10・11・12号墓（〃）
3段左：10・11・12号墓（〃）
4段左：12・13号墓（〃）

1段右：12号墓
2段右：12号墓室内の蔵骨器
3段右：12・13・14号墓（右から）
4段右：13・14・15・16号墓（〃）



PL.6　B地区の古墓

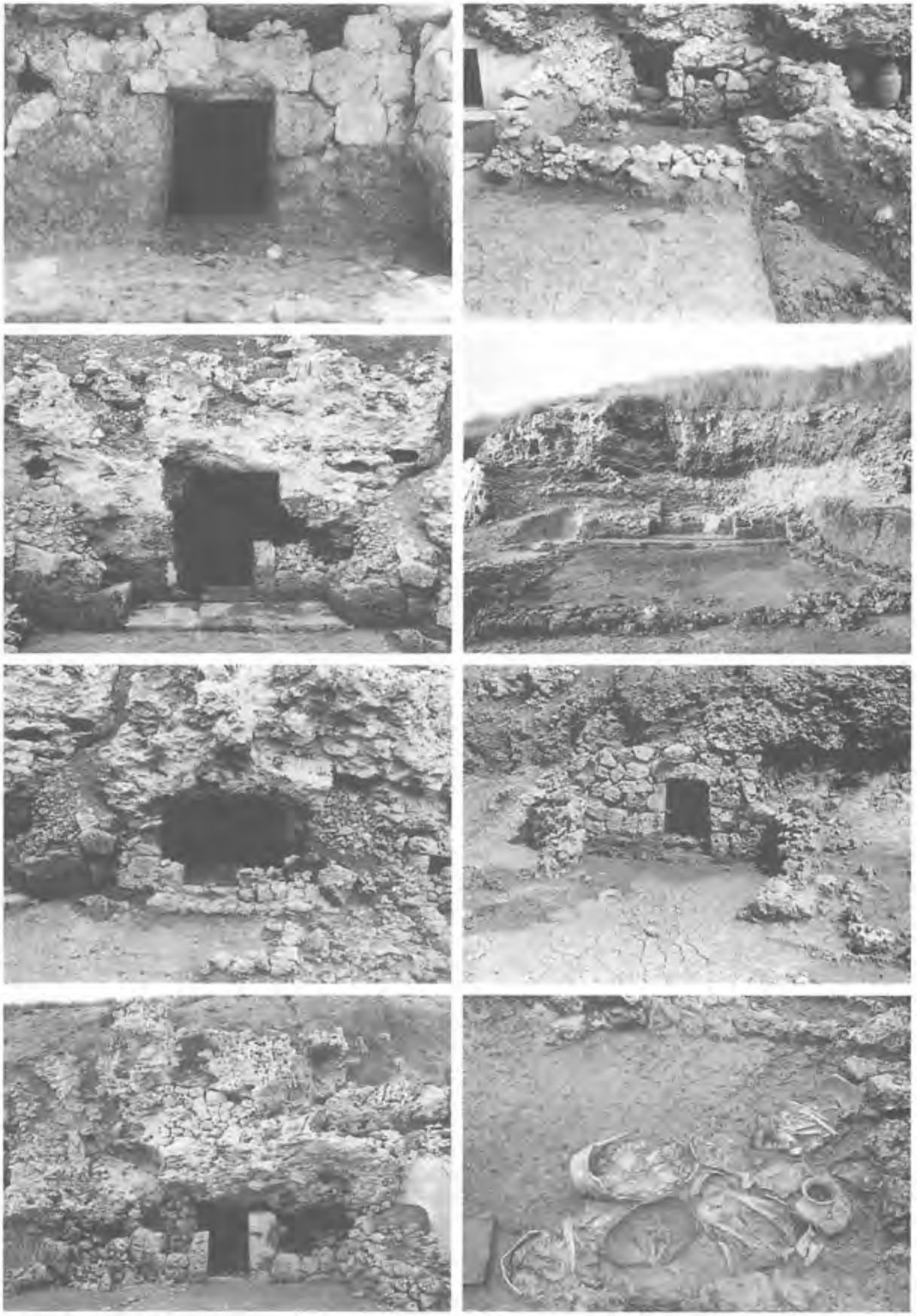
1段左：13～17号墓（右から）
2段左：15号墓（発掘前）
3段左：15号墓（発掘後）
4段左：14～19号墓（右から）

1段右：17号墓の袖墓
2段右：17号墓の袖墓
3段右：17・18・19号墓（発掘前）
4段右：17・18・19号墓（発掘後）

PL.7　B地区の古墓

1段左：19・20号墓の発掘開始
2段左：19号墓の発掘
3段左：19号墓の発掘後（西から）
4段左：19号墓の発掘

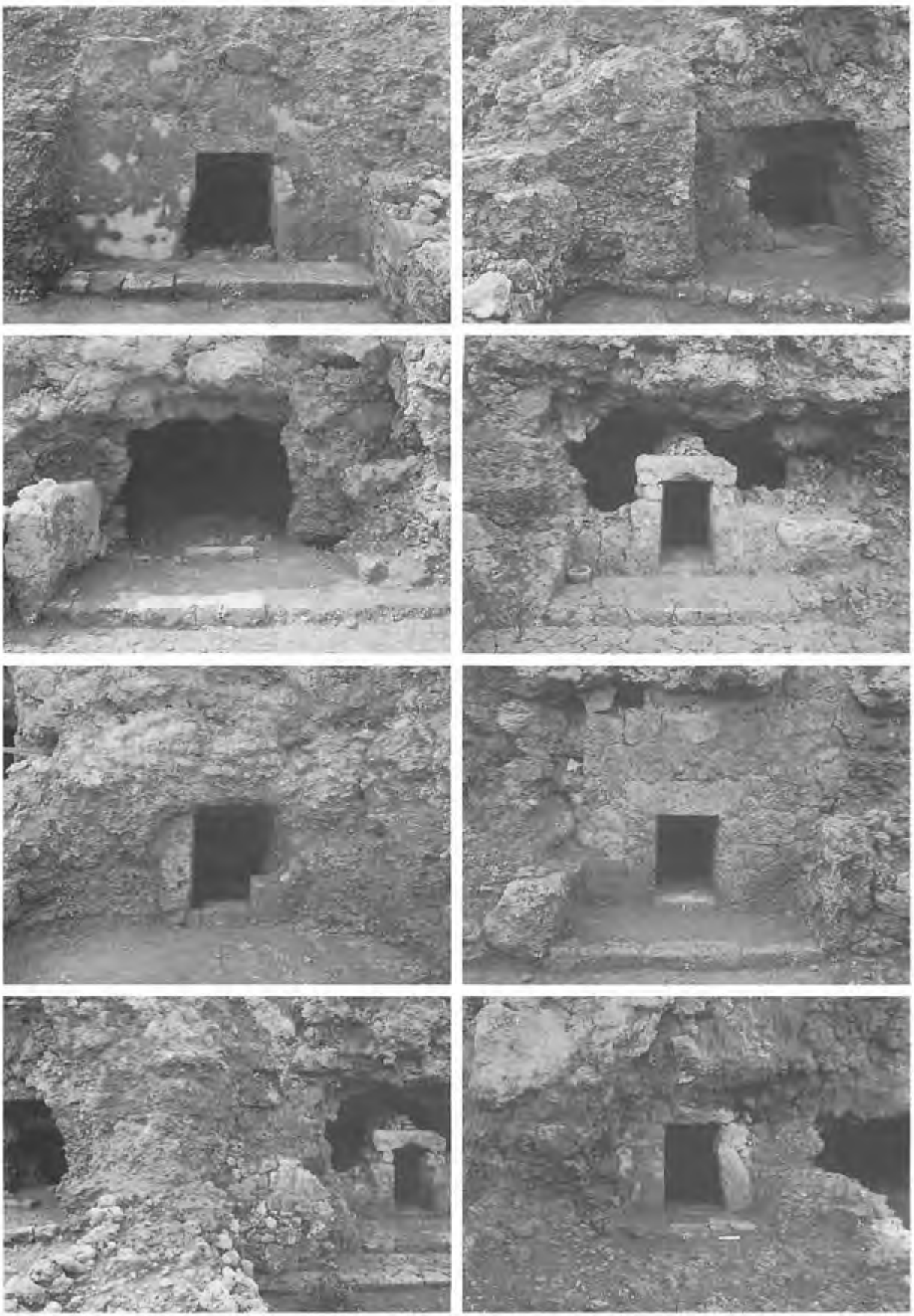
1段右：19号墓の発掘後（東から）
2段右：19号墓室内
3段右：21号墓
4段右：22号墓



PL.8　B地区の古墓

1段左：23号墓
2段左：25号墓
3段左：26号墓
4段左：29号墓

1段右：32号墓
2段右：42号墓
3段右：43号墓
4段右：47号墓室内（中位墓）



PL.9　E地区の古墓

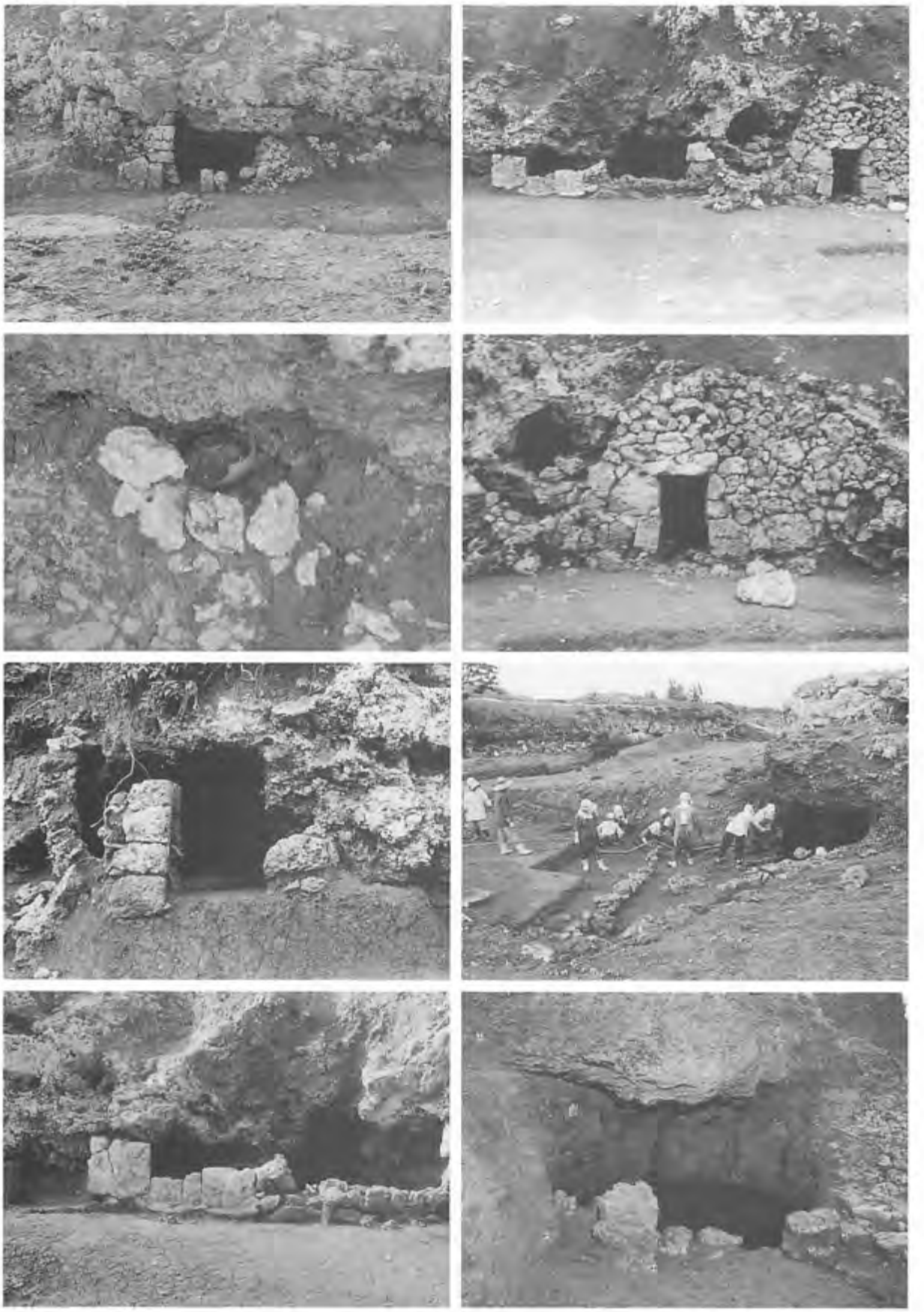
1段左：1号墓
2段左：2号墓
3段左：3号墓
4段左：4・5号墓（左から）

1段右：4号墓
2段右：5号墓
3段右：6号墓
4段右：7号墓

PL. 10　E地区の古墓

1段左：8号墓
2段左：9号墓
3段左：13号墓
4段左：13号墓庭に埋められた蔵骨器

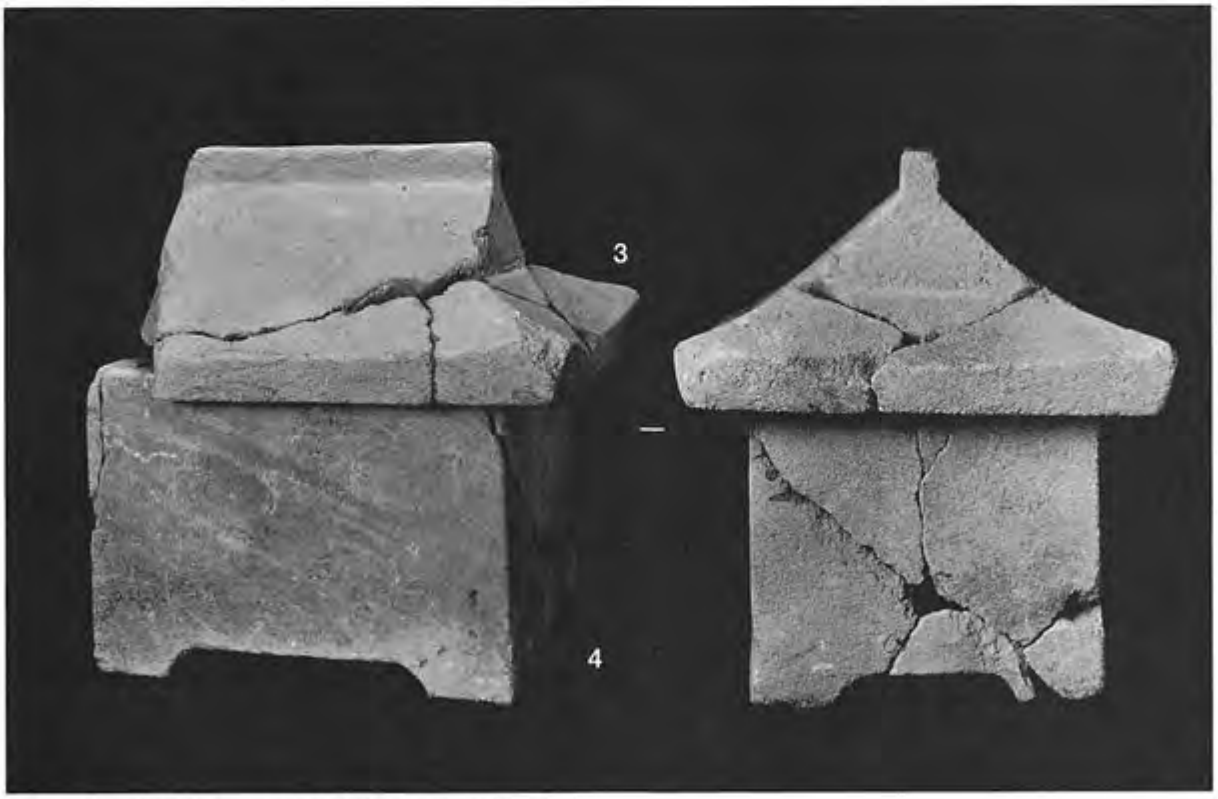
1段右：13・墳・14号墓（右から）
2段右：14・15号墓（　〃　）
3段右：15号墓室内
4段右：18号墓



PL.11　E地区の古墓

1段左：26号墓と袖墓
2段左：26号袖墓室内
3段左：27号墓
4段左：28号墓

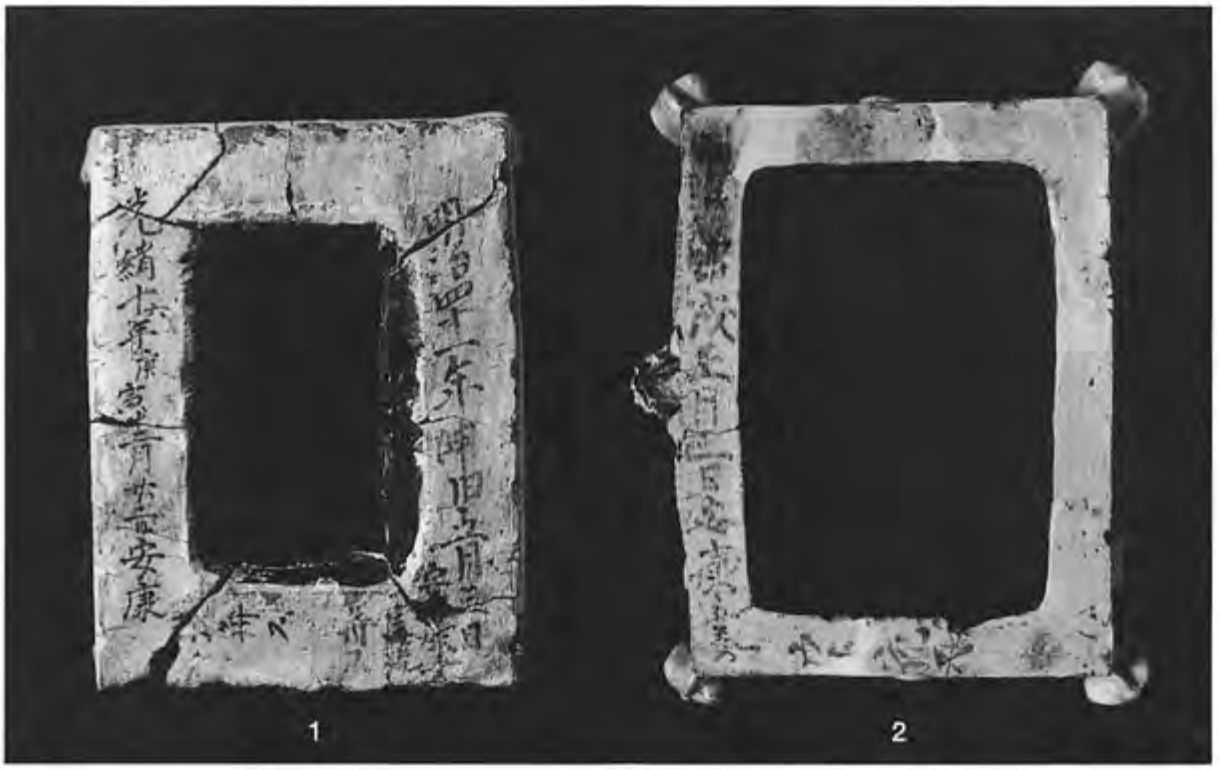
1段右：28・29・30号墓（左から）
2段右：30号墓
3段右：クシヌカー（井戸）の発掘
4段右：クシヌカー（井戸）の発掘後



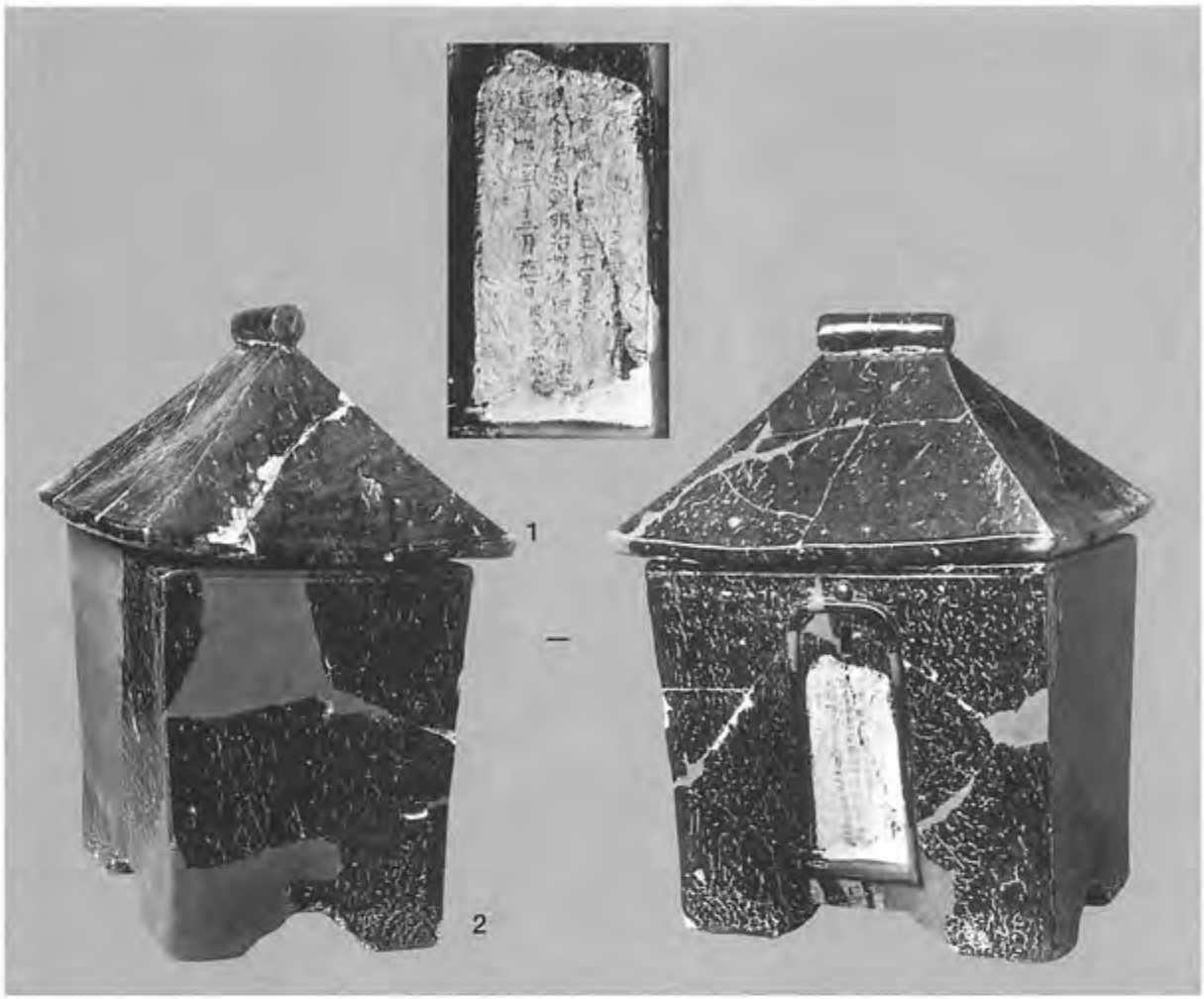
PL．12（第67図）　石製家形蔵骨器〔B地区〕

PL. 13（第68図） 陶製家形蔵骨器〔B地区〕：1・2は素焼（方言でアカムン）、3は焼締

PL.14（第69図）　陶製家形蔵骨器〔B地区〕：焼締



PL.15（第70図）　陶製家形蔵骨器〔B地区〕：施釉



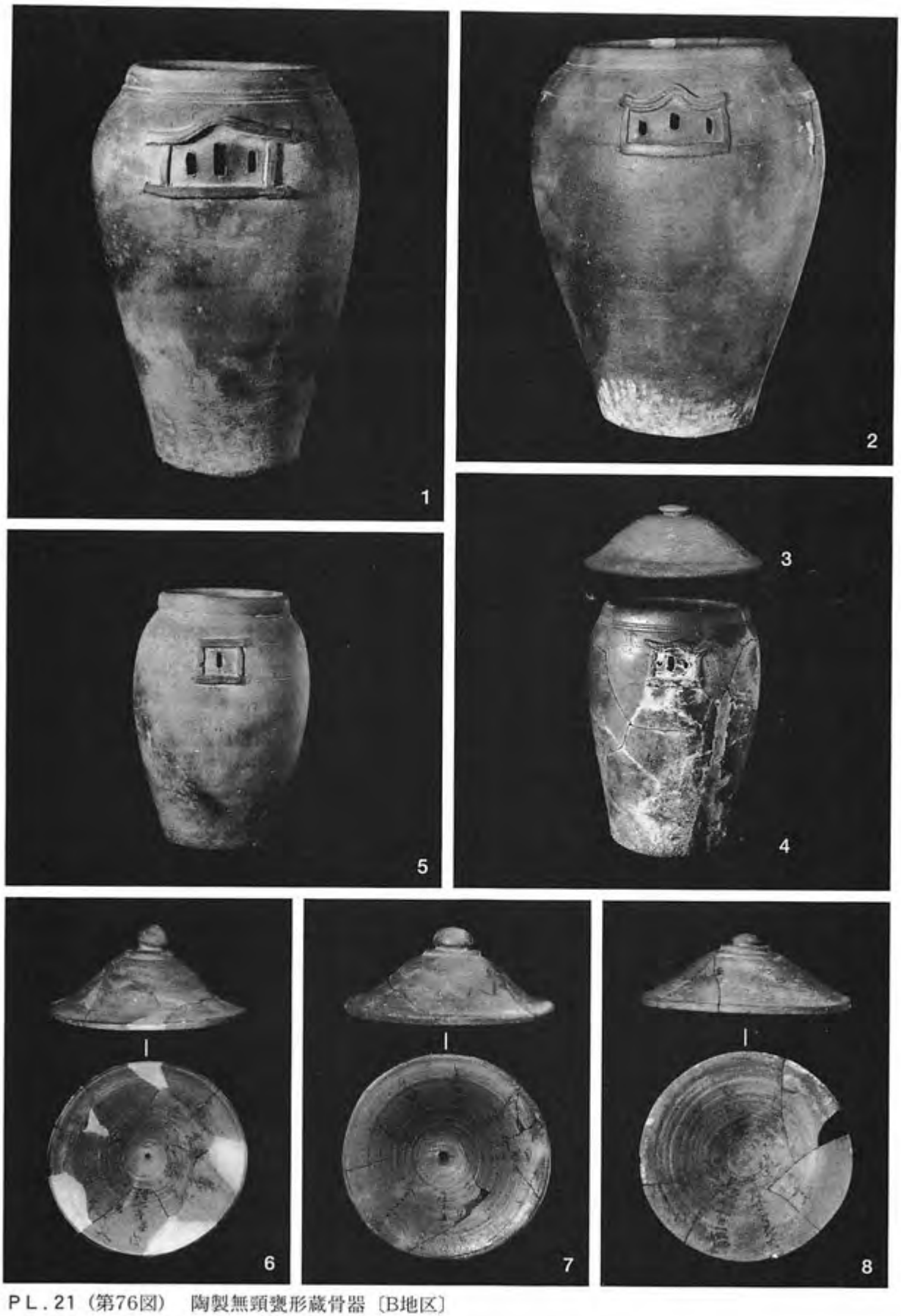
PL. 16（第71図）　陶製家形蔵骨器〔B地区〕：1・2は施釉、3・4は素焼（瓦質）

PL. 17（第72図）　陶製無頸甕形蔵骨器〔B地区〕
（ボージャー）

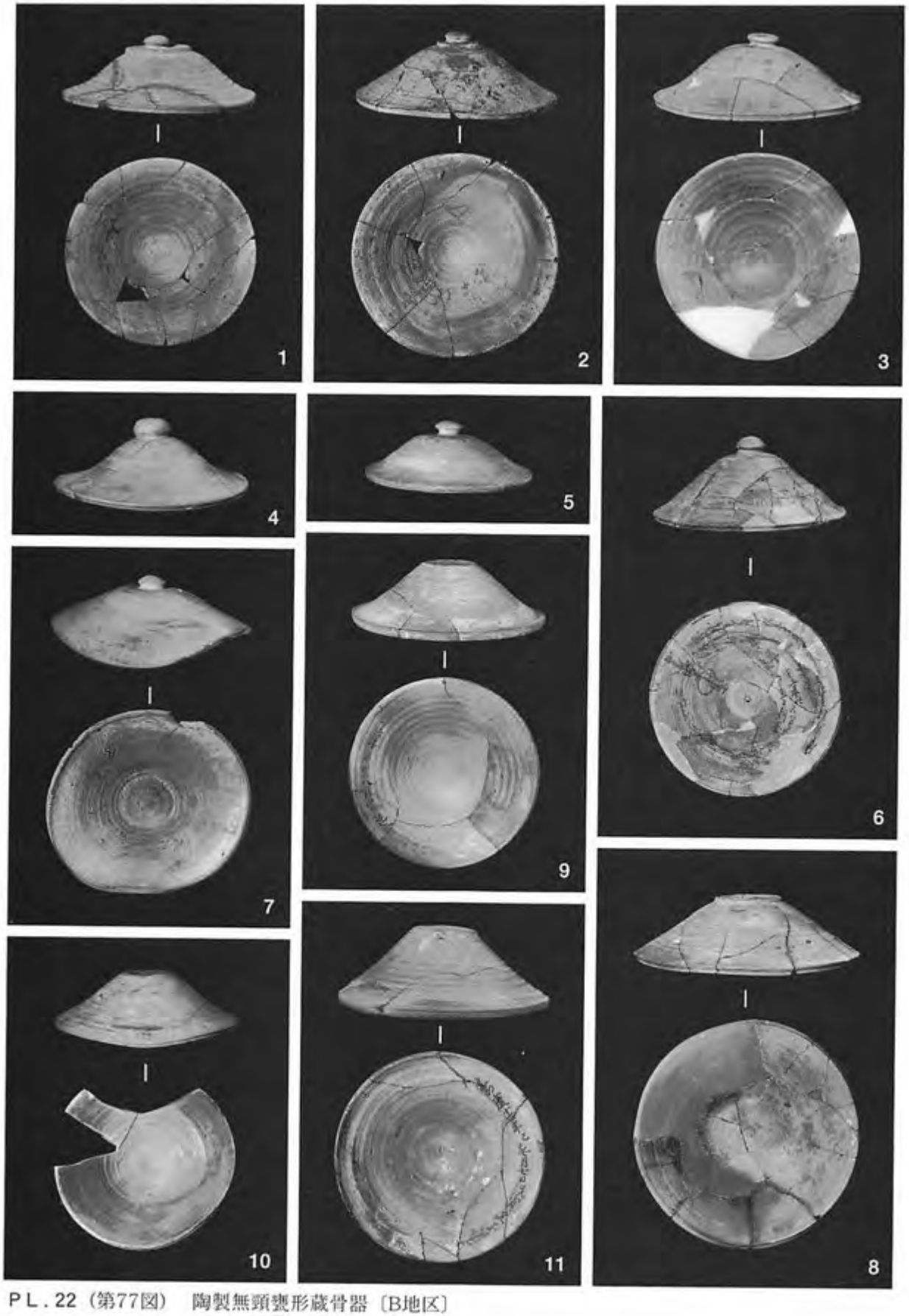
PL．18（第73図）　陶製無頭甕形蔵骨器〔B地区〕
（ボージャー）

PL. 19（第74図） 陶製無頸甕形蔵骨器〔B地区〕
（ボージャー）

PL.20（第75図）　陶製無頸甕形蔵骨器〔B地区〕
（ボージャー）



PL.21（第76図）　陶製無頸甕形蔵骨器〔B地区〕
（ボージャー）

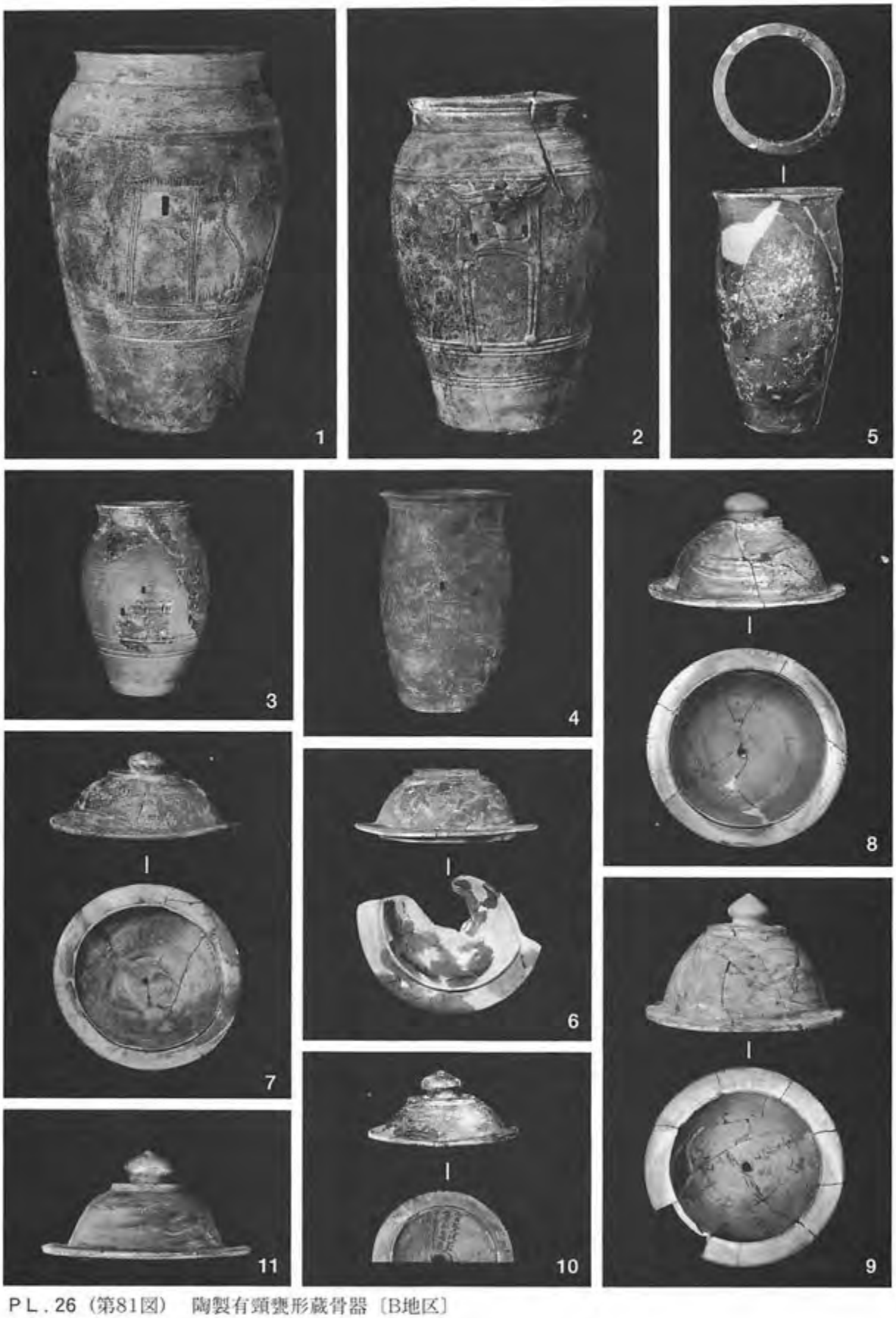


PL.22（第77図）　陶製無頸甕形蔵骨器〔B地区〕
（ボージャー）

PL.23（第78図） 陶製有頸甕形蔵骨器〔B地区〕

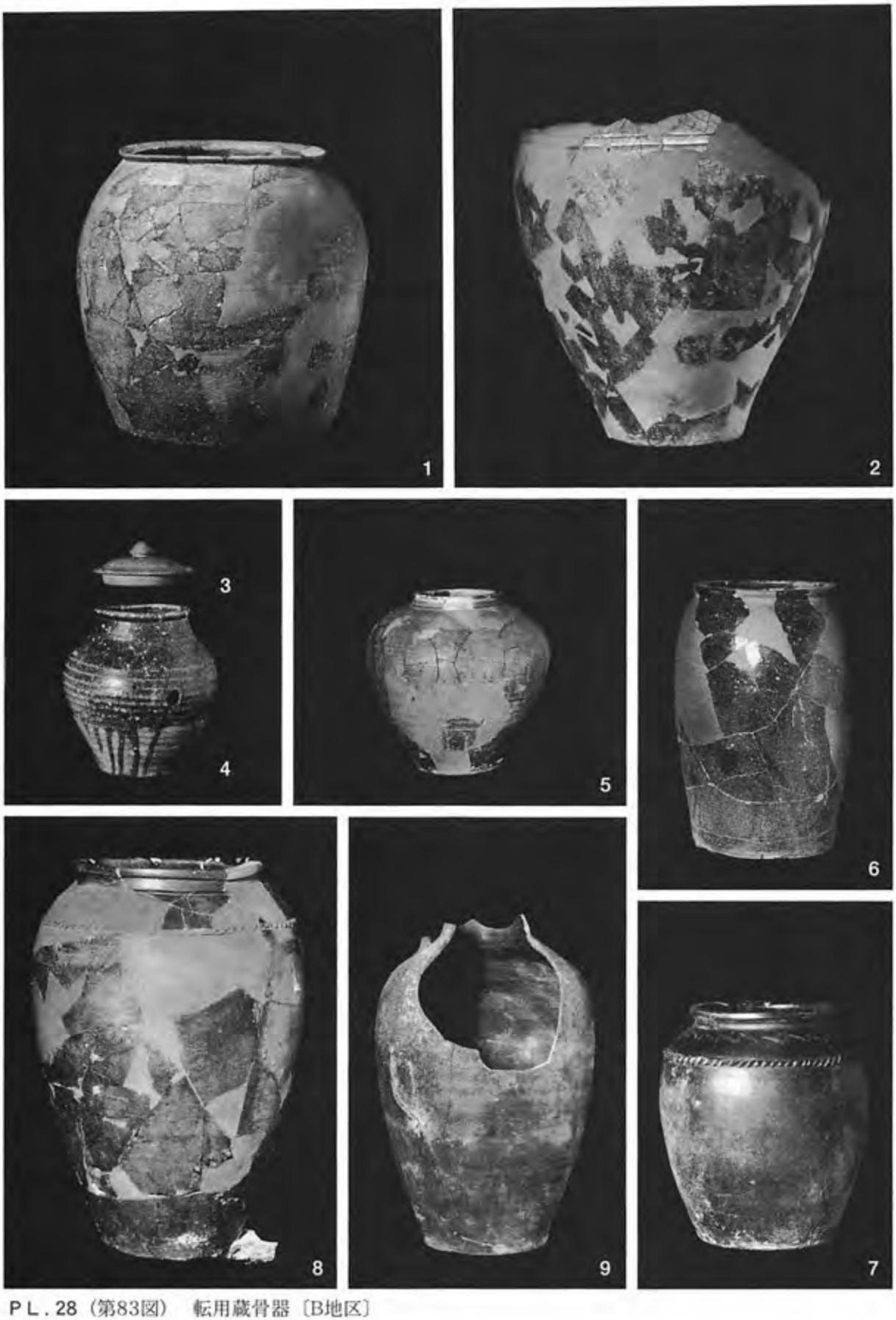
PL.24（第79図） 陶製有頸甕形蔵骨器〔B地区〕

PL.25（第80図）　陶製有頸甕形蔵骨器〔B地区〕

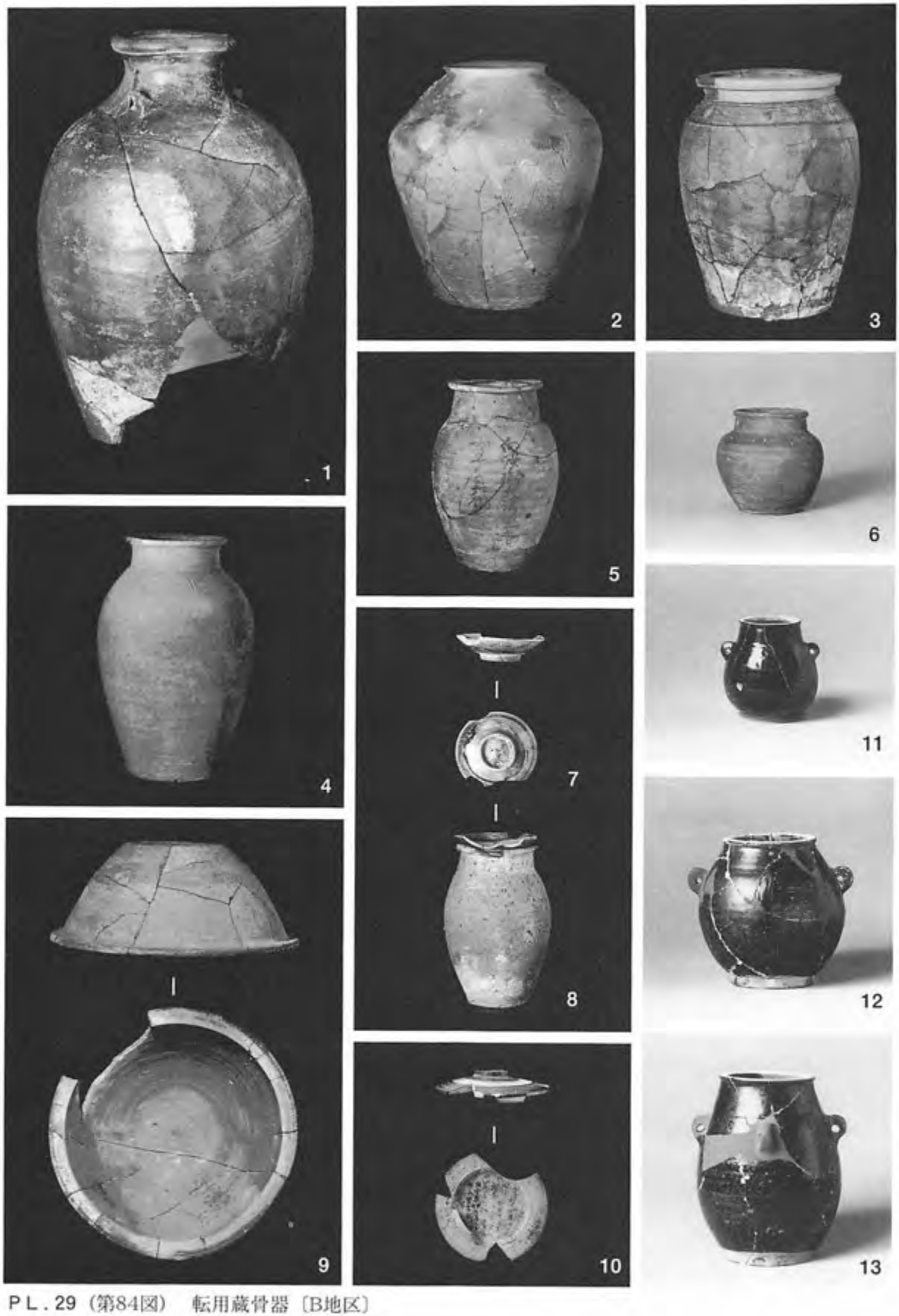


PL.26（第81図）　陶製有頸甕形蔵骨器〔B地区〕

PL.27（第82図） 陶製有頸甕形蔵骨器（1～13）、陶製軒付甕形蔵骨器（14）〔B地区〕

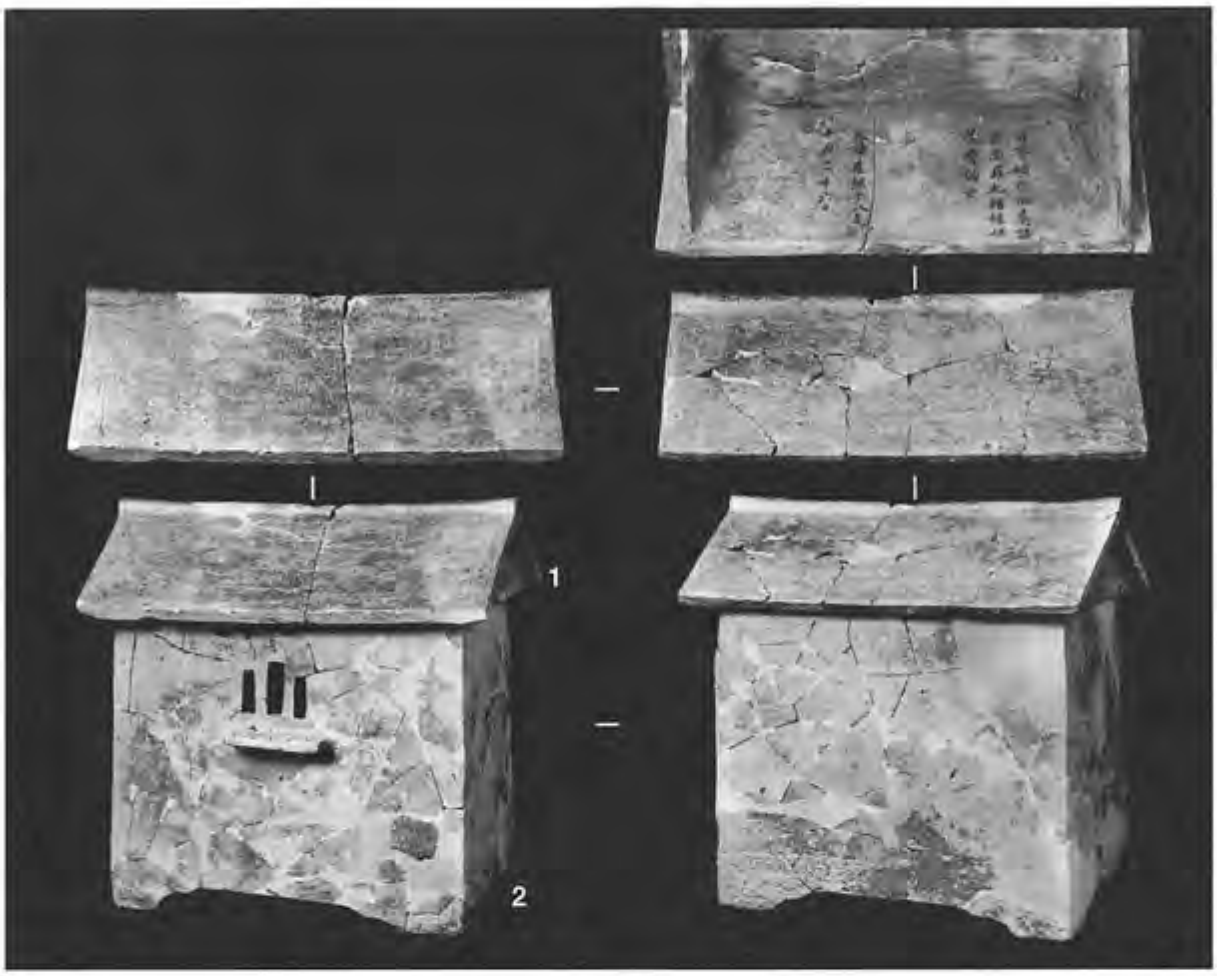


PL.28（第83図） 転用蔵骨器〔B地区〕



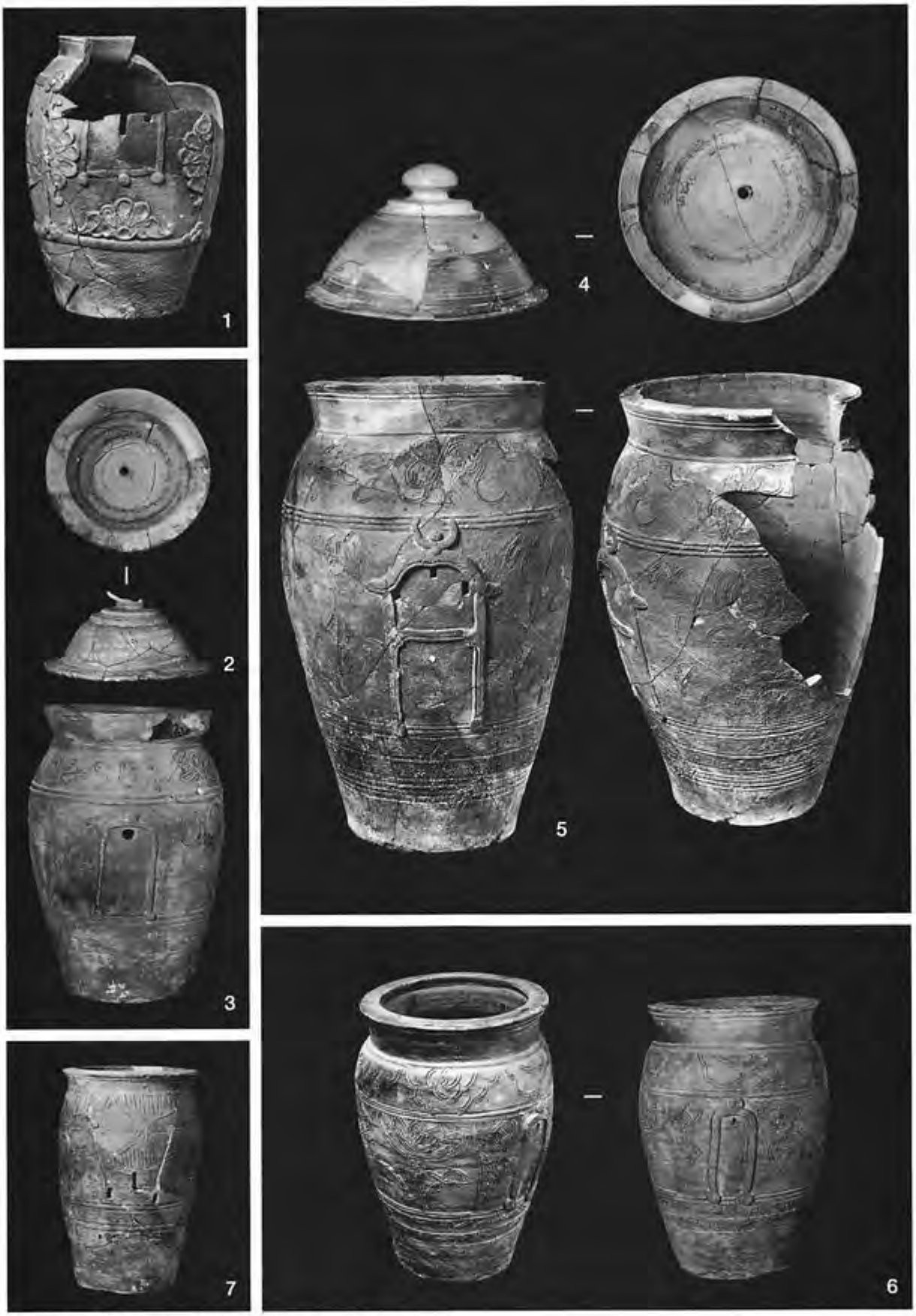
PL.29（第84図） 転用蔵骨器〔B地区〕

PL.30（第85図） 石製家形蔵骨器〔E地区〕

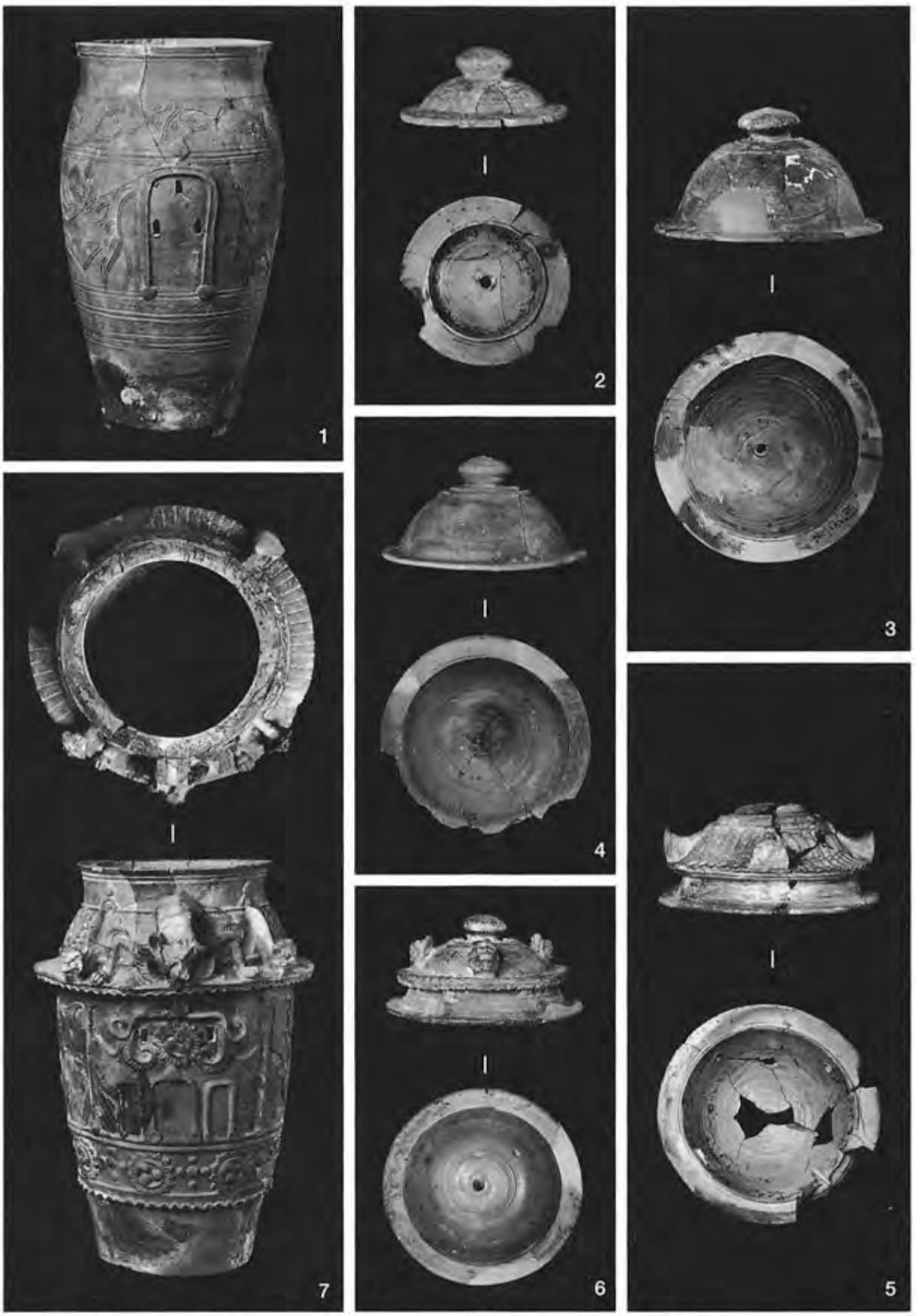


PL.31（第86図）　陶製家形蔵骨器〔E地区〕：1・2は素焼（方言でアカムン）、3・4は施釉

PL.32（第87図）　陶製無頸甕形蔵骨器〔E地区〕
（ボージャー）

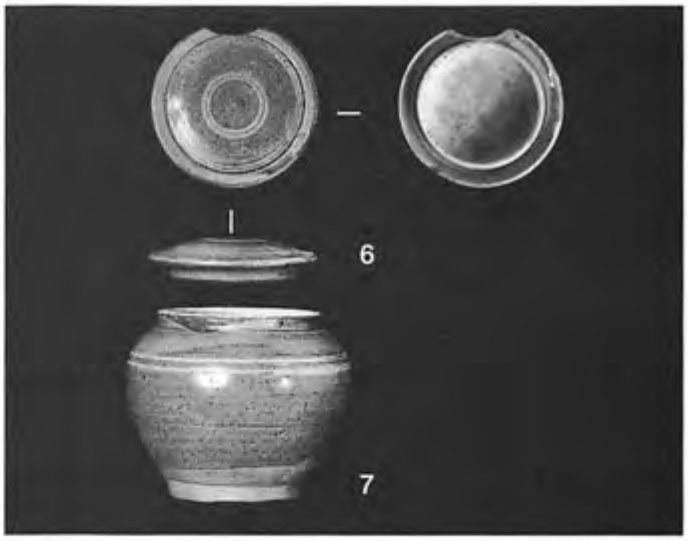


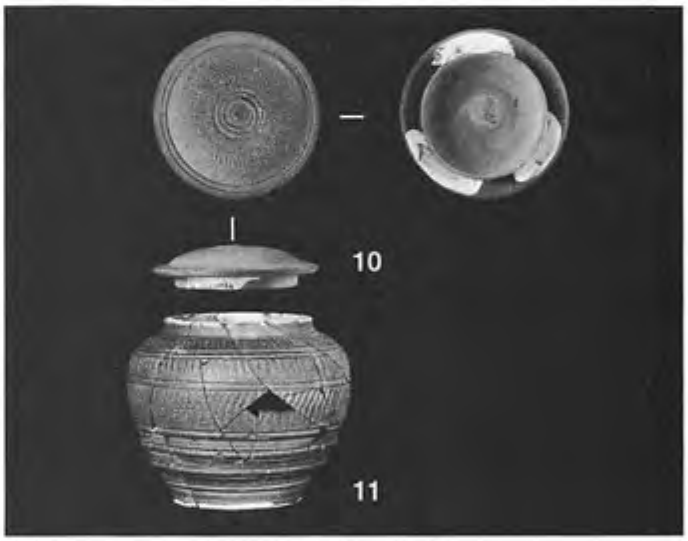
PL.33（第88図） 陶製有頸甕形蔵骨器〔E地区〕



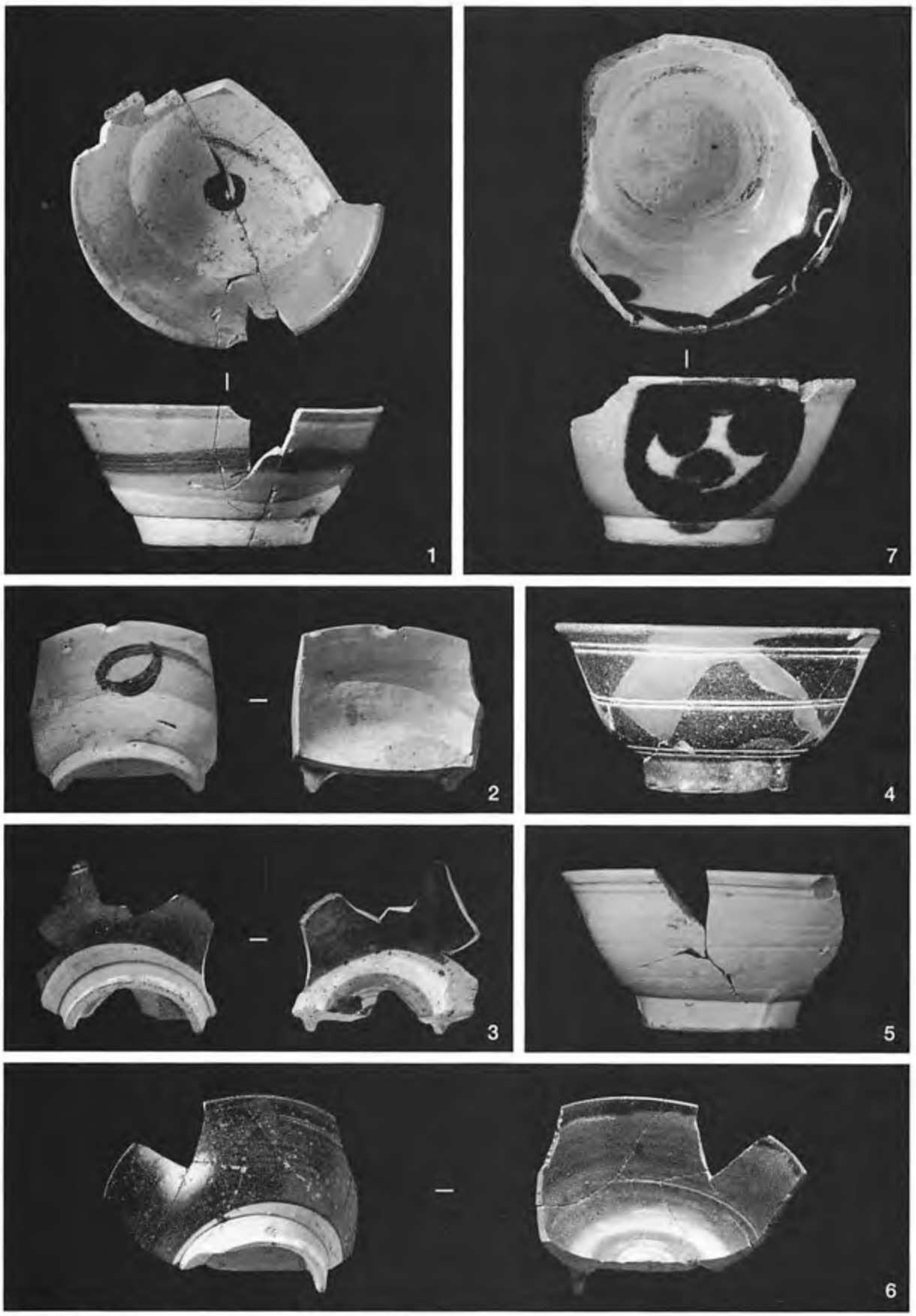
PL.34（第89図）　陶製有頸甕形蔵骨器（1～4）、陶製軒付甕形蔵骨器（5～7）〔E地区〕

PL.35（第90図） 陶製軒付甕形蔵骨器（1～4）、陶製小型軒付甕形蔵骨器〈施釉〉（5・6）〔E地区〕



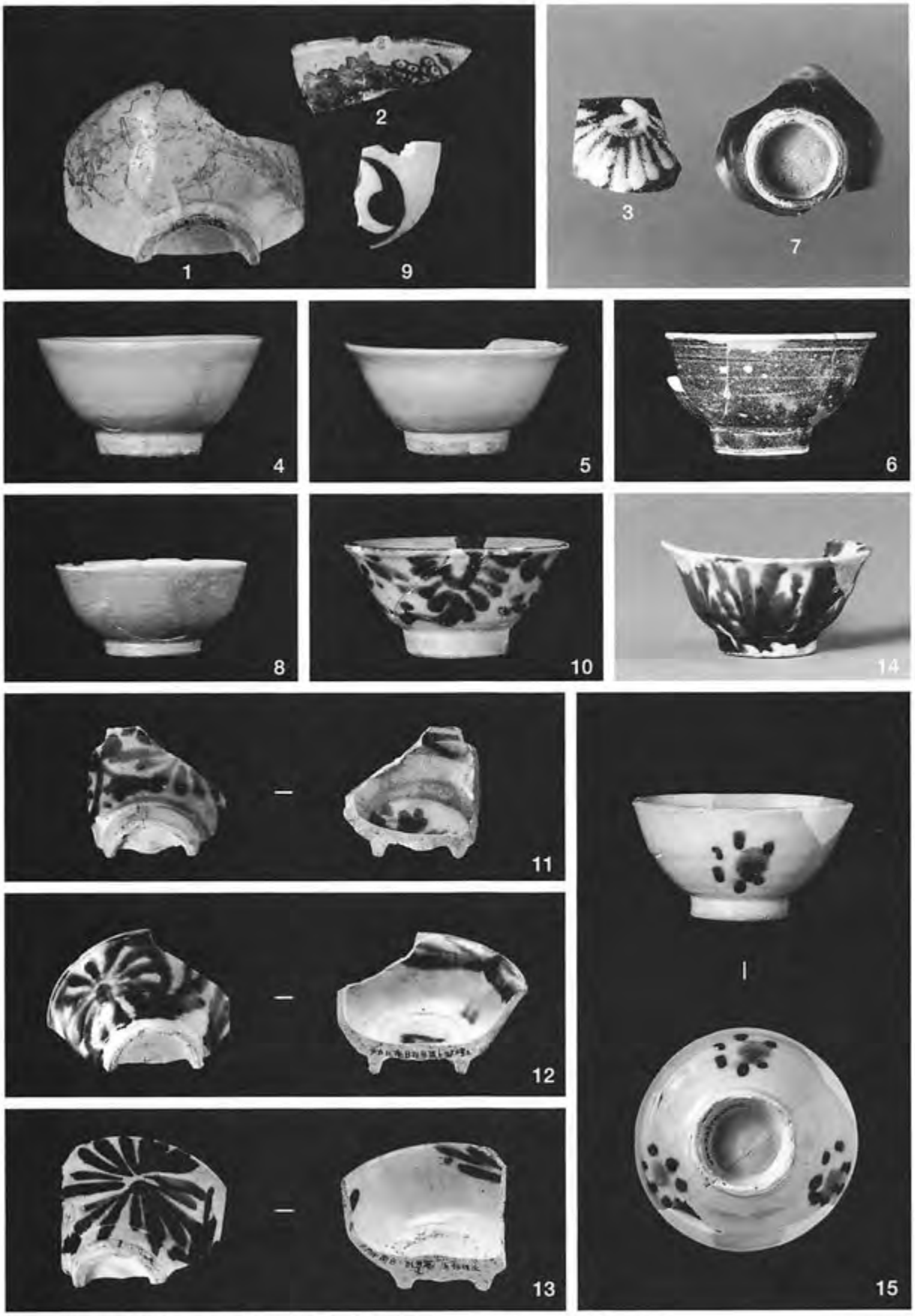


PL.36（第91図）　転用蔵骨器〔E地区〕

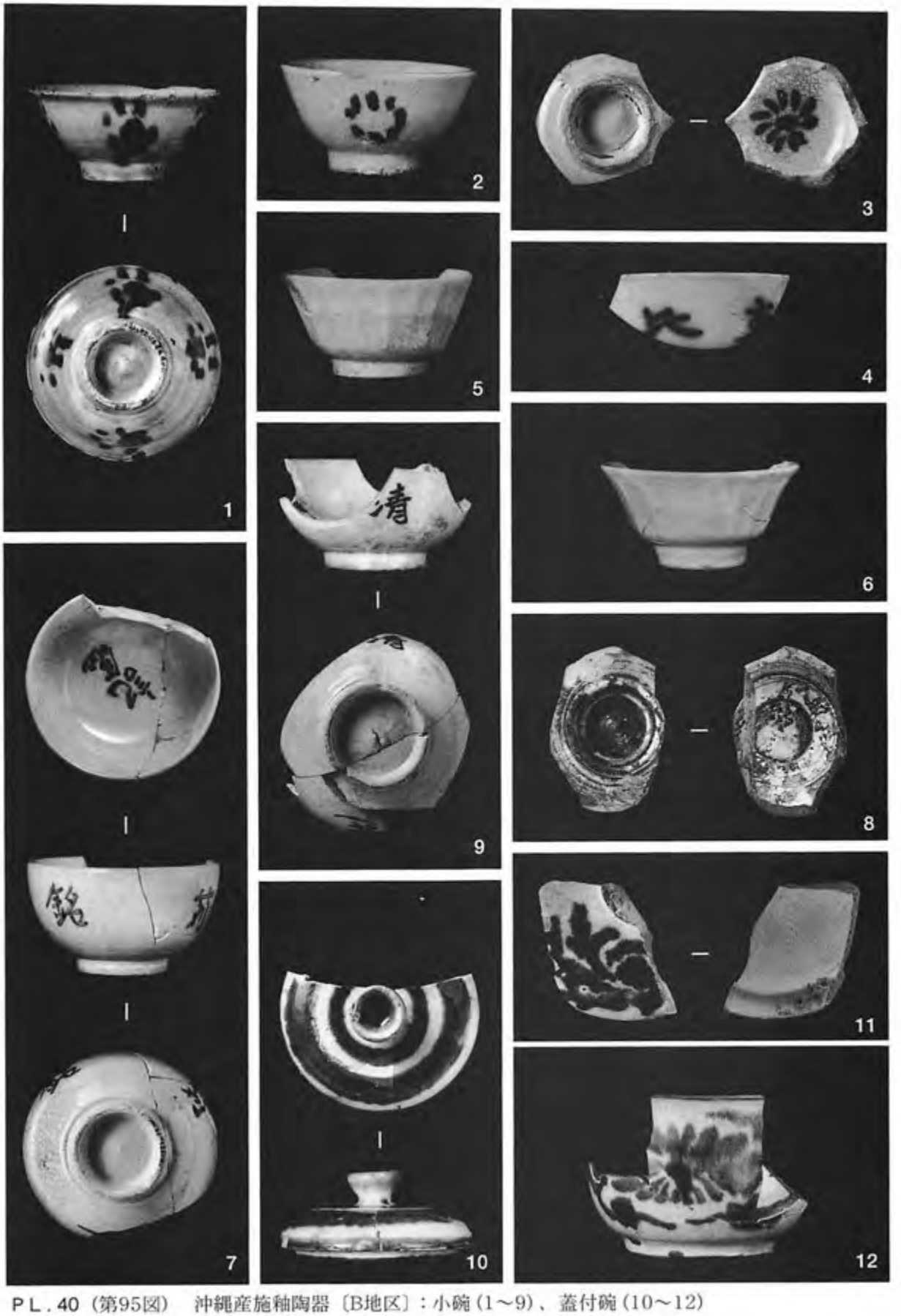


PL.37（第92図）　沖縄産施釉陶器〔B地区〕：碗

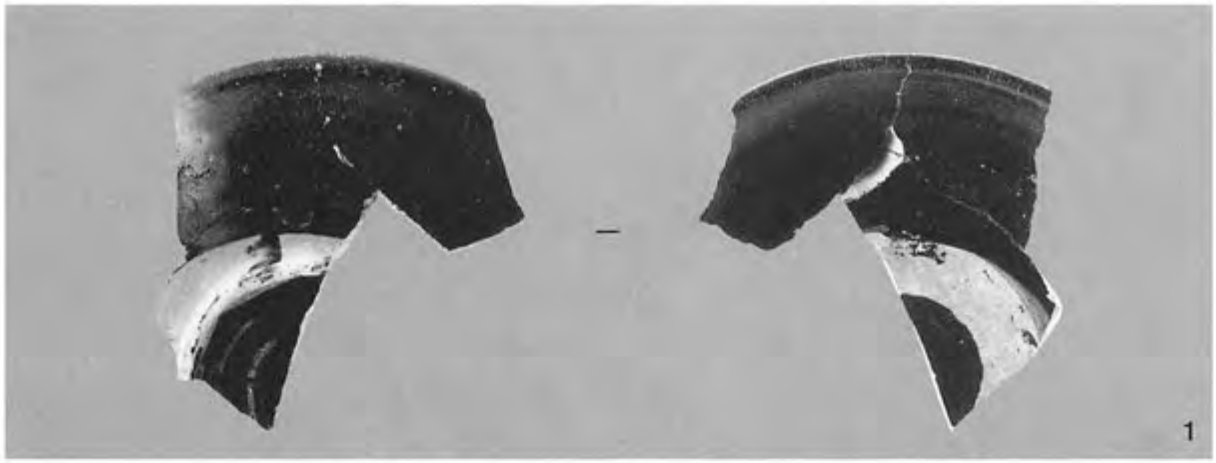
PL.38（第93図） 沖縄産施釉陶器〔B地区〕：碗



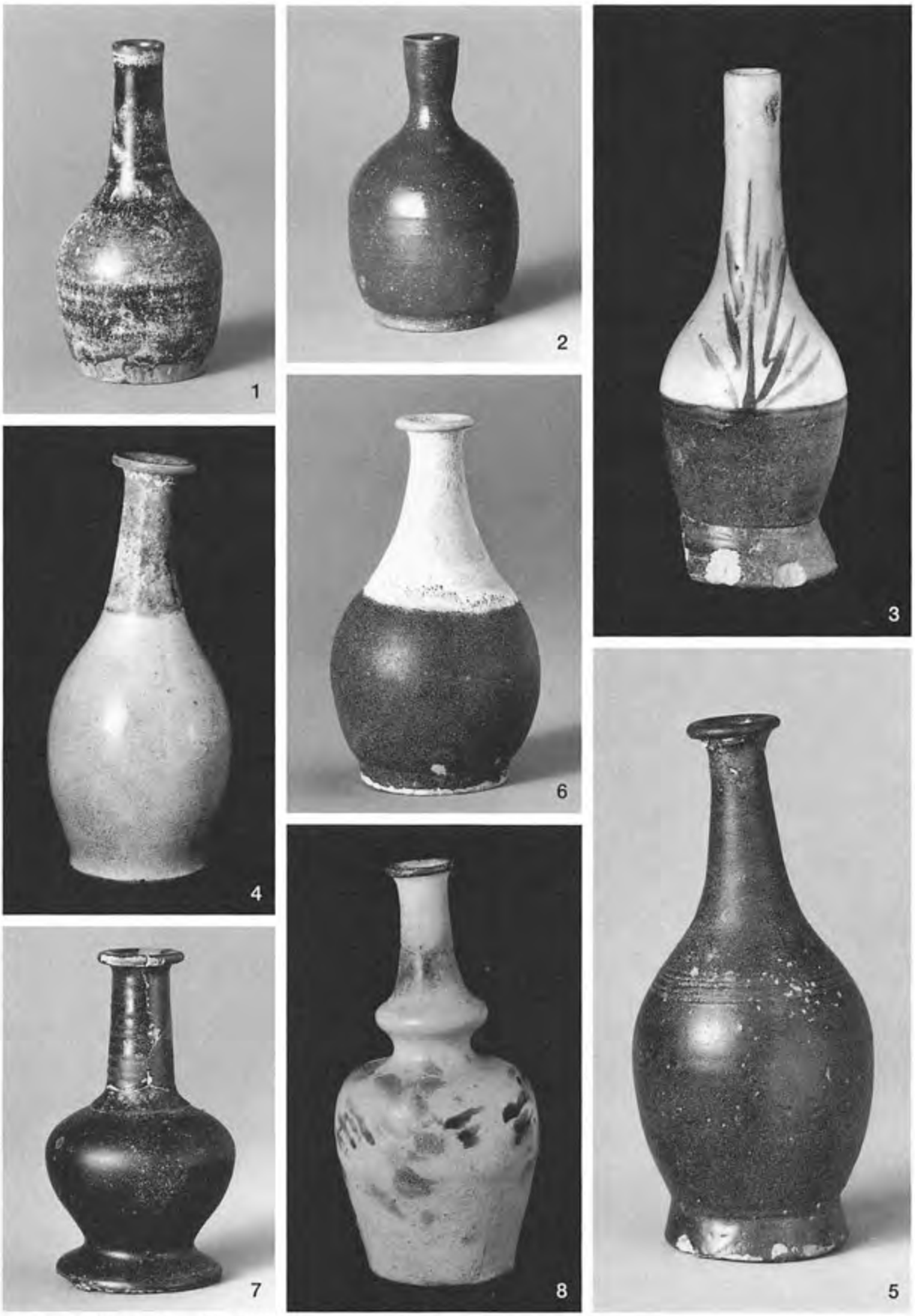
PL.39（第94図）　沖縄産施釉陶器〔B地区〕：碗（1～3）、小碗（4～15）



PL.40（第95図）　沖縄産施釉陶器〔B地区〕：小碗（1～9）、蓋付碗（10～12）



PL.41（第96図）　沖縄産施釉陶器〔B地区〕：皿（1～3）、鉢（4）、水鉢（5）



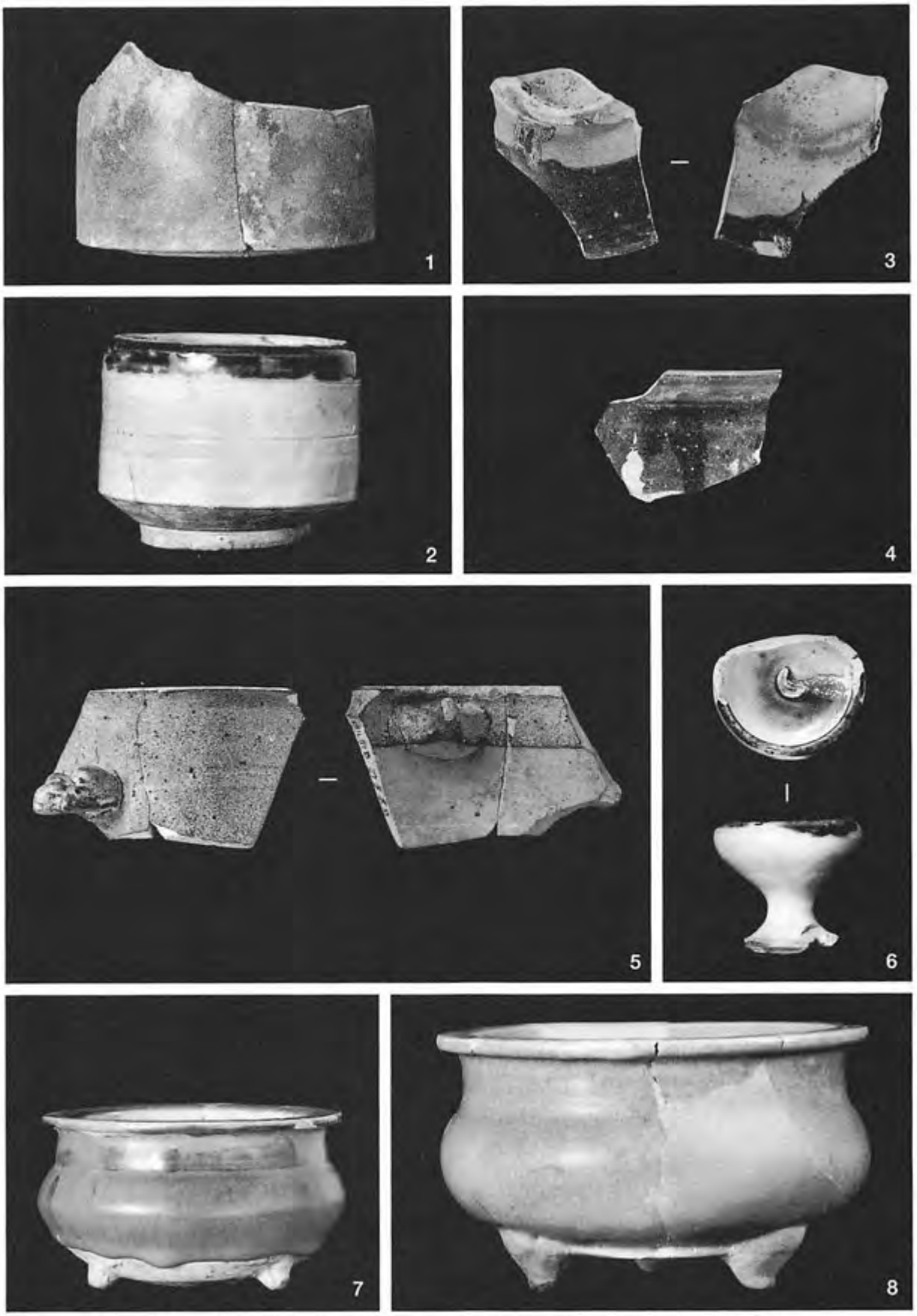
PL.42（第97図）　沖縄産施釉陶器〔B地区〕：瓶

PL.43（第98図）　沖縄産施釉陶器〔B地区〕：瓶

PL.44（第99図）　沖縄産施釉陶器〔B地区〕：瓶

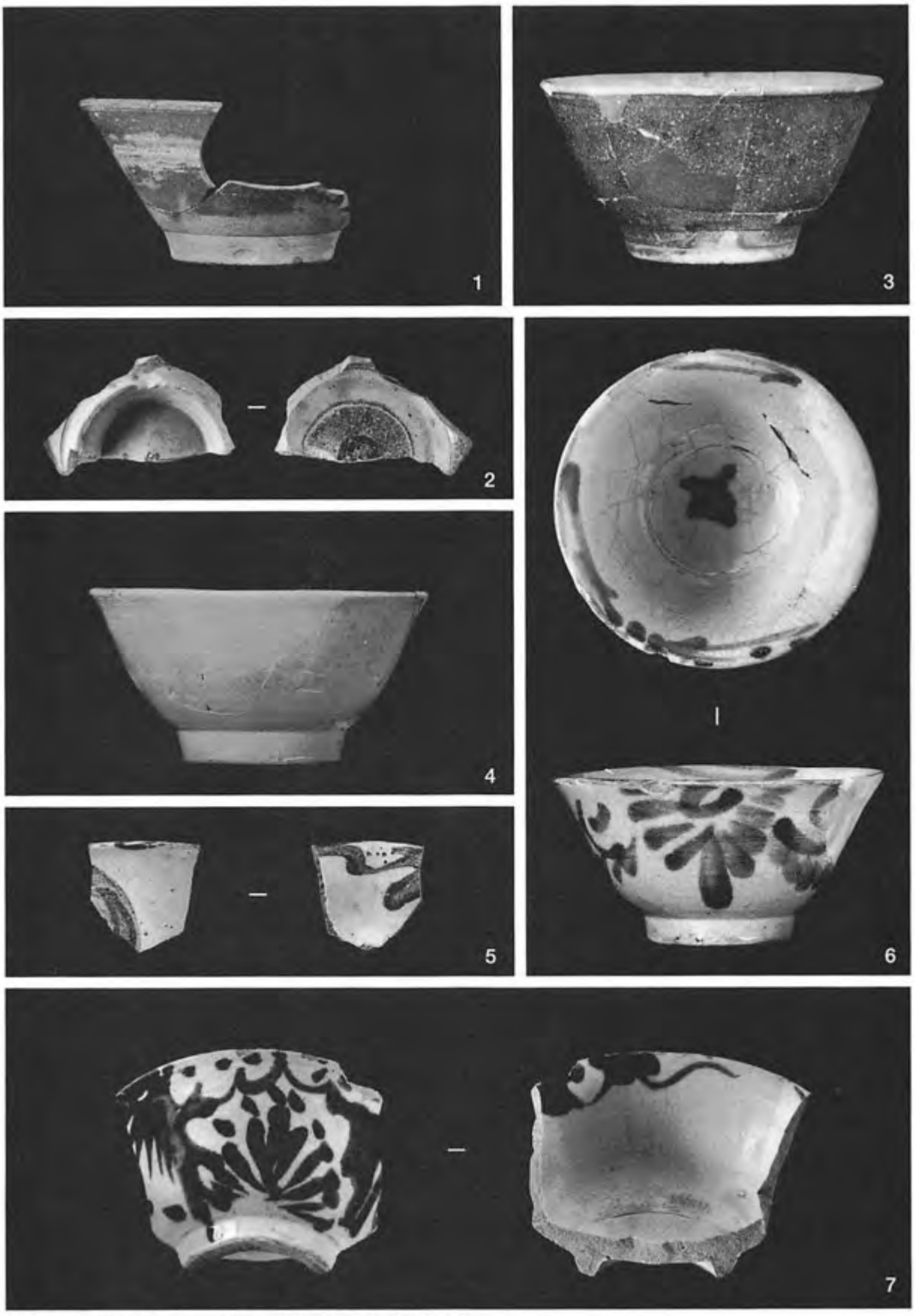
PL.45（第100図）　沖縄産施釉陶器〔B地区〕：瓶（1～3）、酒注（4～7）

PL.46（第101図）　沖縄産施釉陶器〔B地区〕：水注（1～5）、あんびん（6～8）

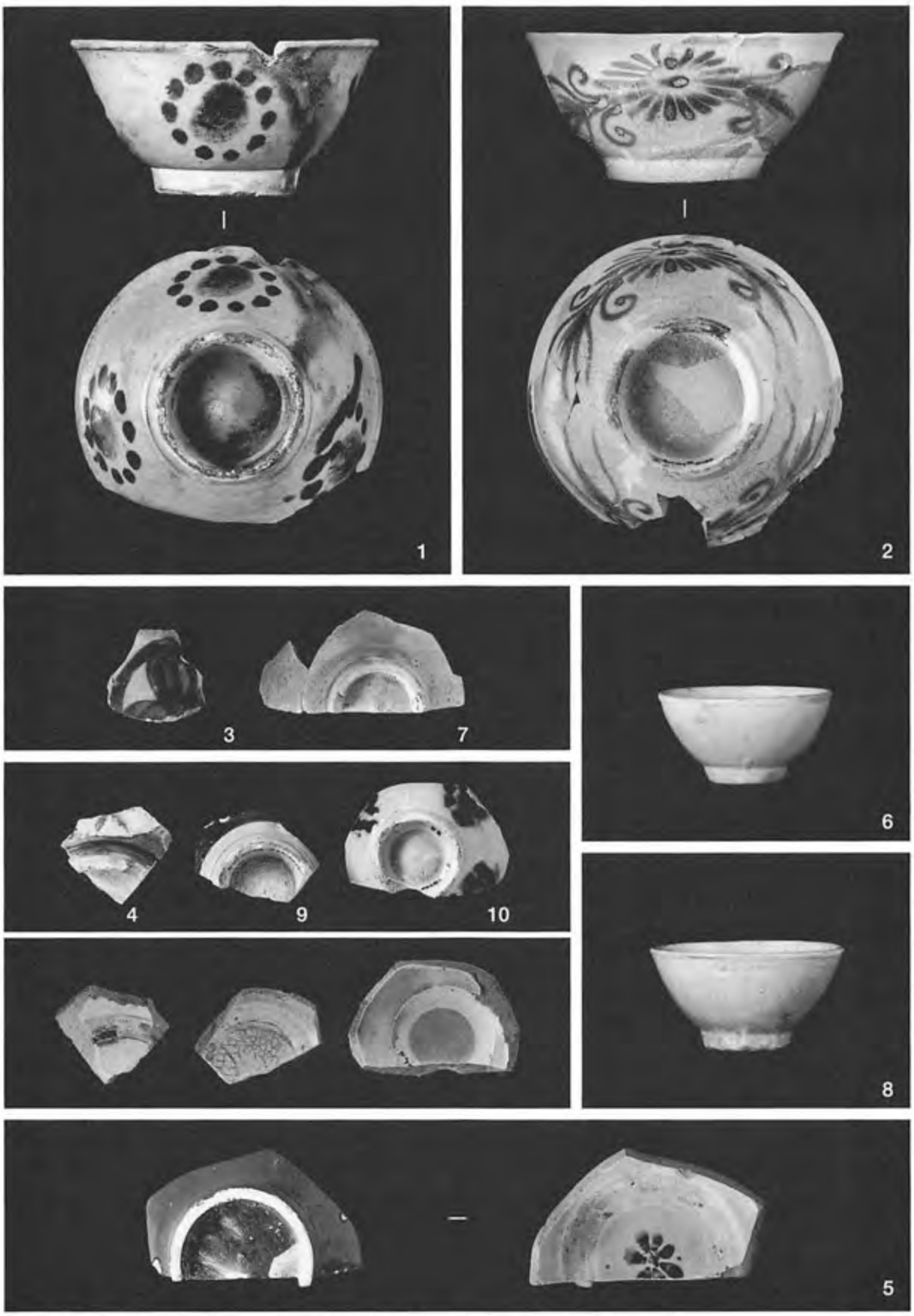


PL.47（第102図）　沖縄産施釉陶器〔B地区〕：火入れ（1・2）、鍋（3・4）、火炉（5）
灯明具（6）、香炉（7・8）

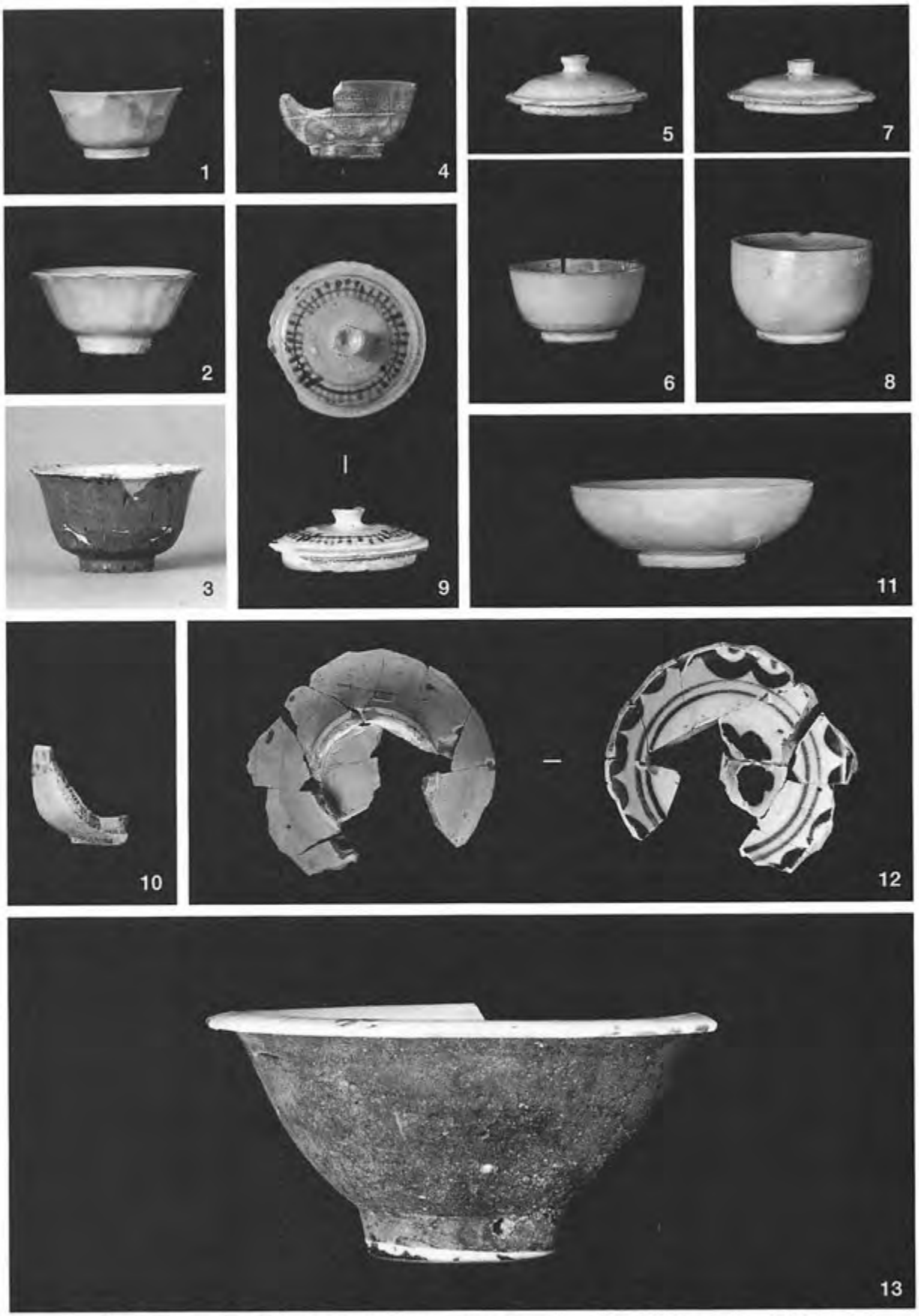
PL.48（第103図）　沖縄産施釉陶器〔B地区〕：小壺（1・2）、猪口（3～9）、煙管（10～13）



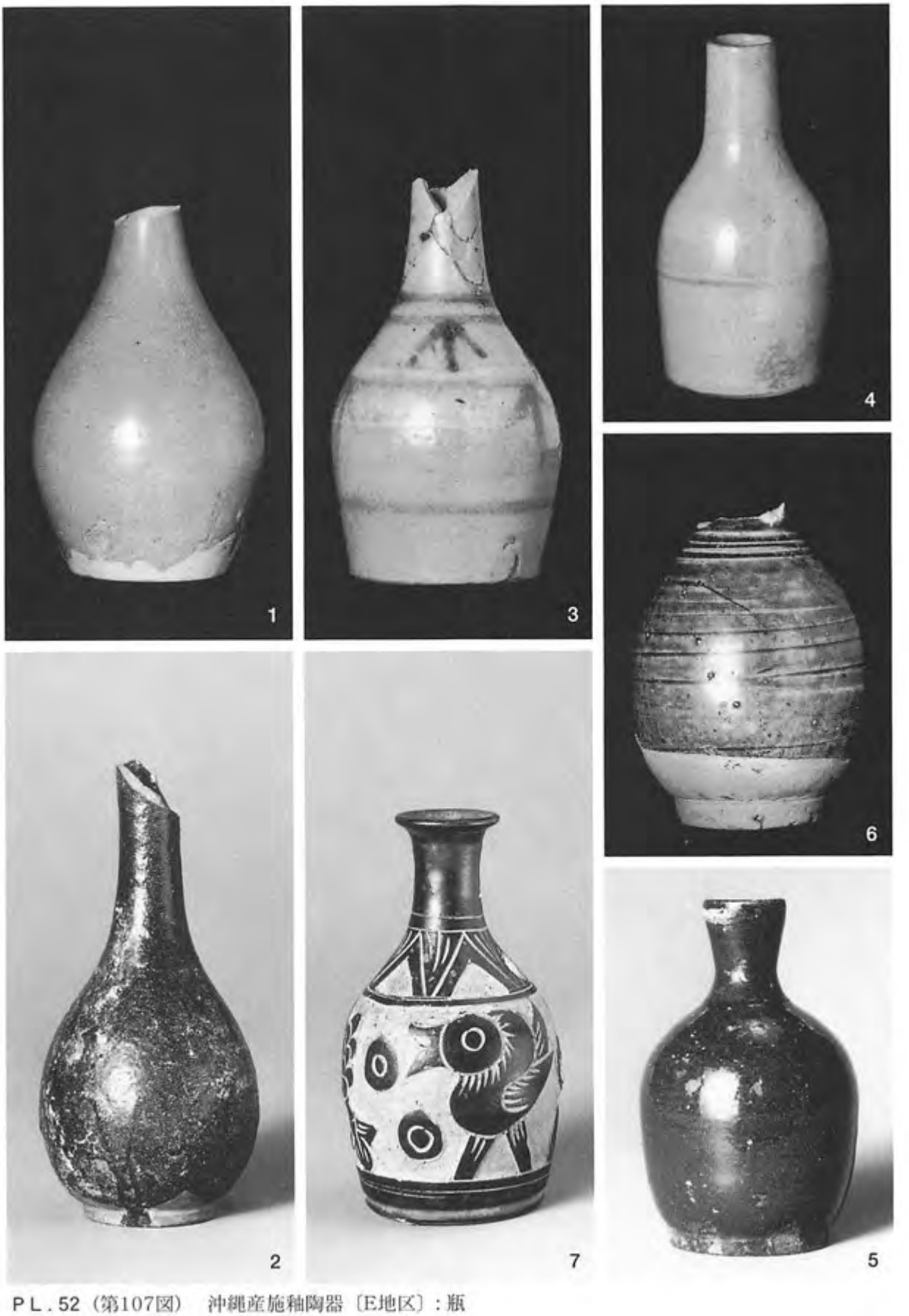
PL.49（第104図）　沖縄産施釉陶器〔E地区〕：碗



PL.50（第105図）　沖縄産施釉陶器〔E地区〕：碗（1～5）、小碗（6～10）

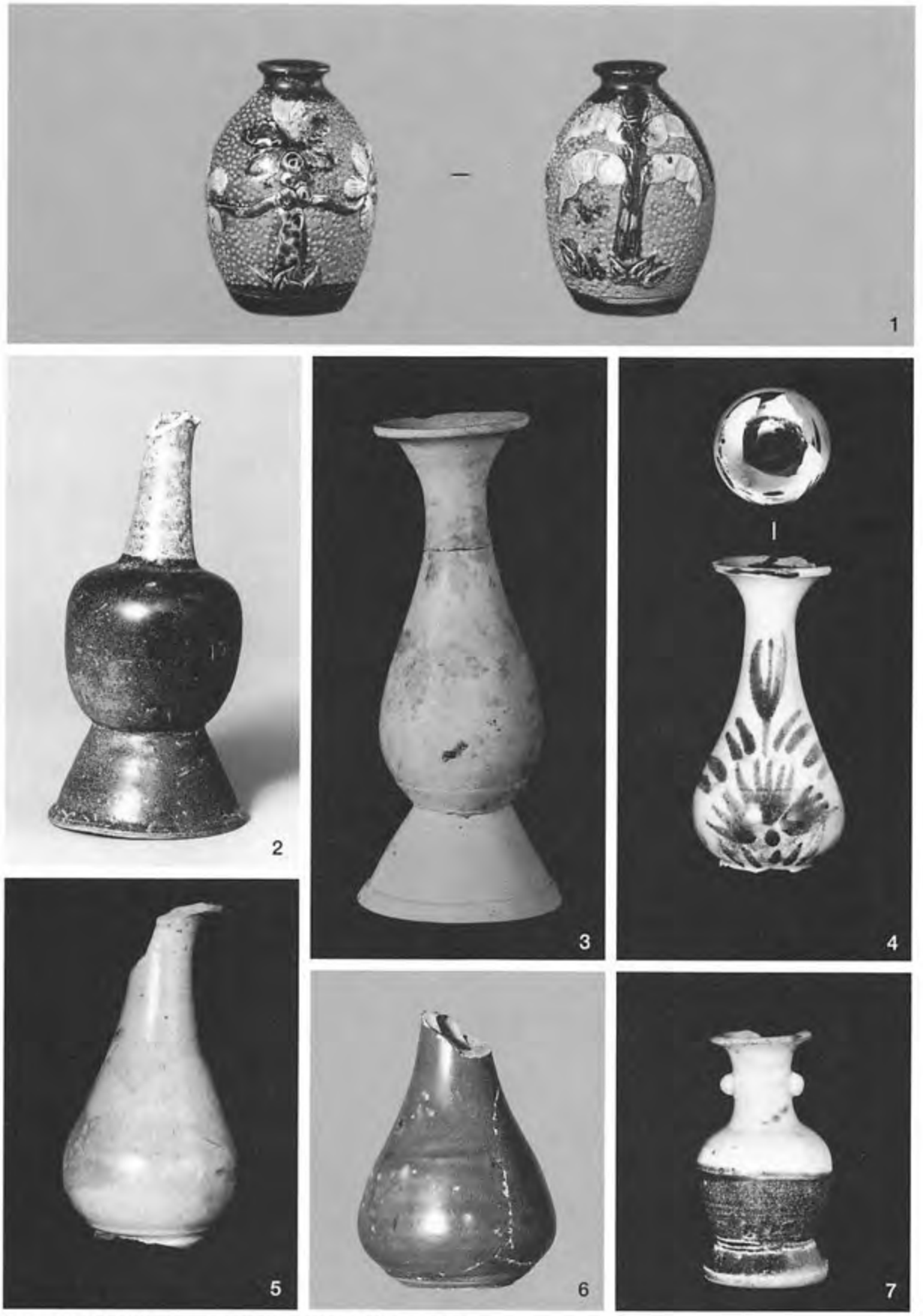


PL.51（第106図）　沖縄産施釉陶器〔E地区〕：小碗（1～4）、蓋付小碗（5～10）、皿（11・12）
鉢（13）



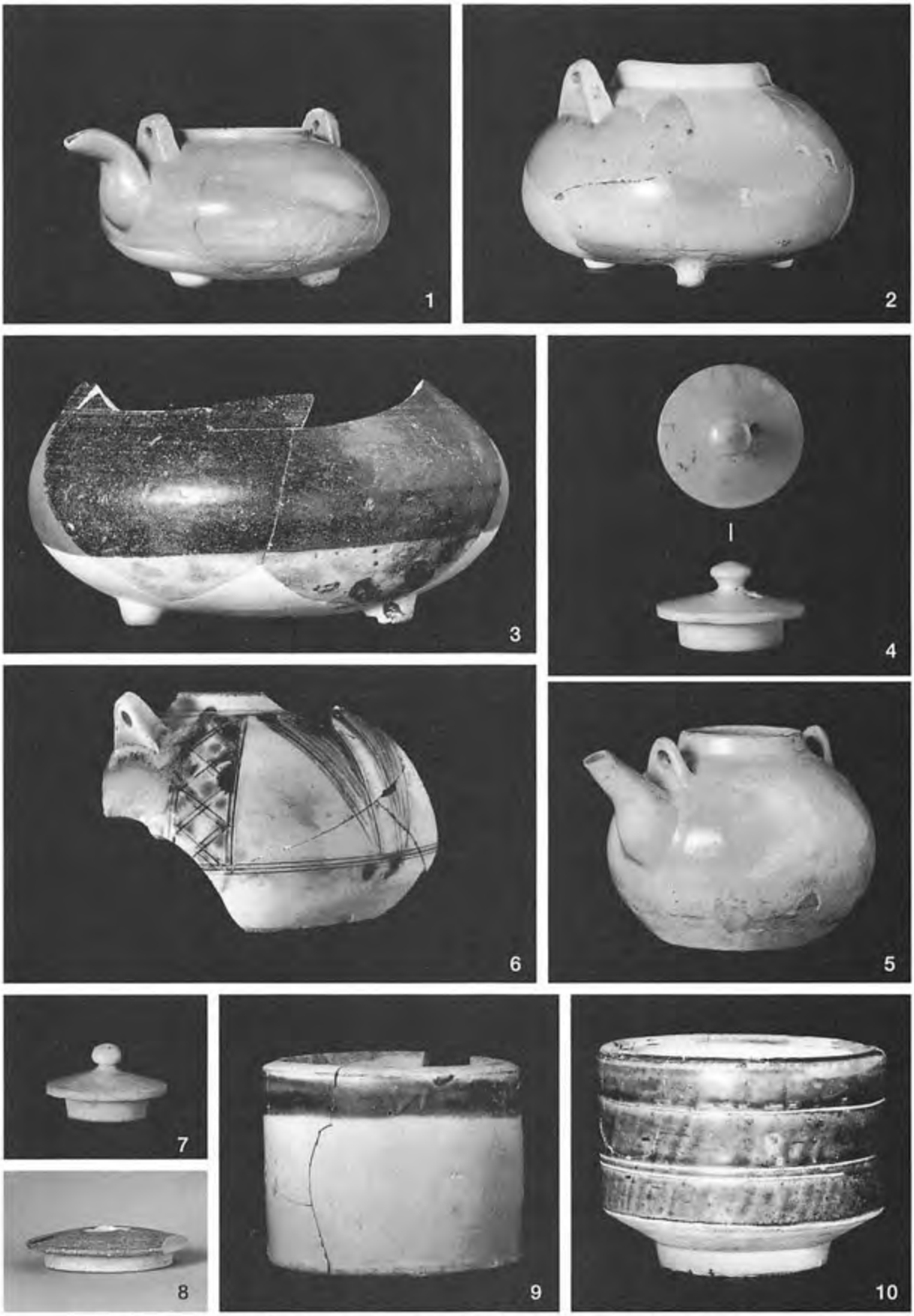
PL.52（第107図）　沖縄産施釉陶器〔E地区〕：瓶

PL.53（第108図）　沖縄産施釉陶器〔E地区〕：瓶

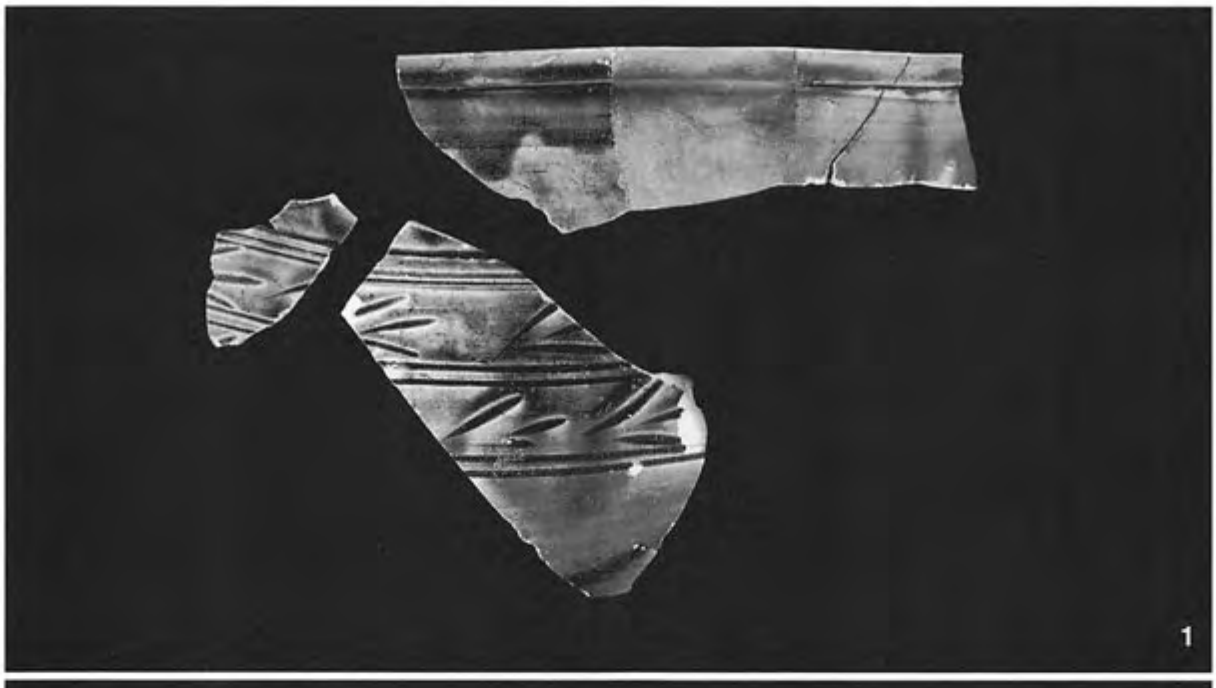


PL.54（第109図）　沖縄産施釉陶器〔E地区〕：瓶

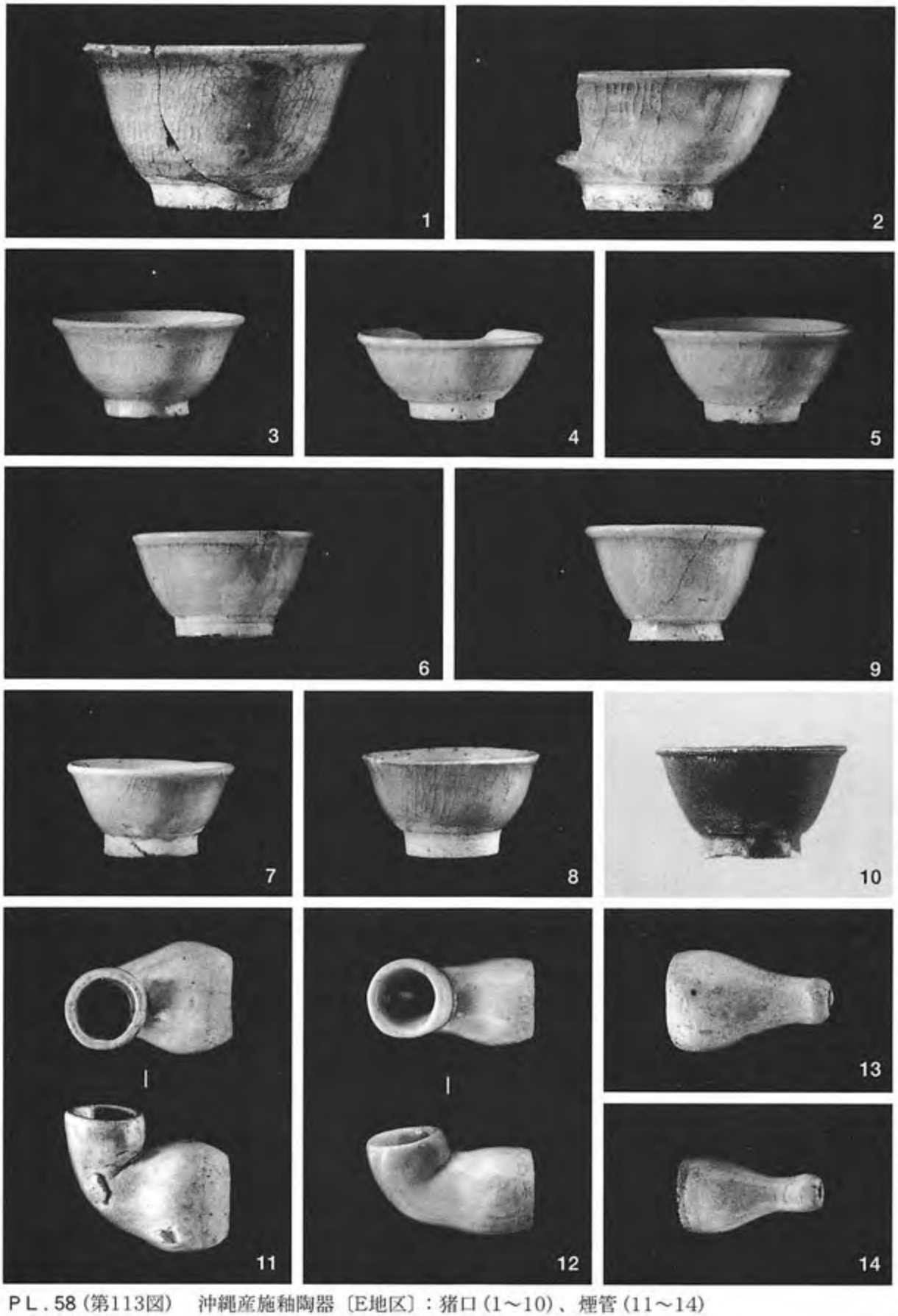
PL.55（第110図）　沖縄産施釉陶器〔E地区〕：瓶（1～4）、酒注（5～7）



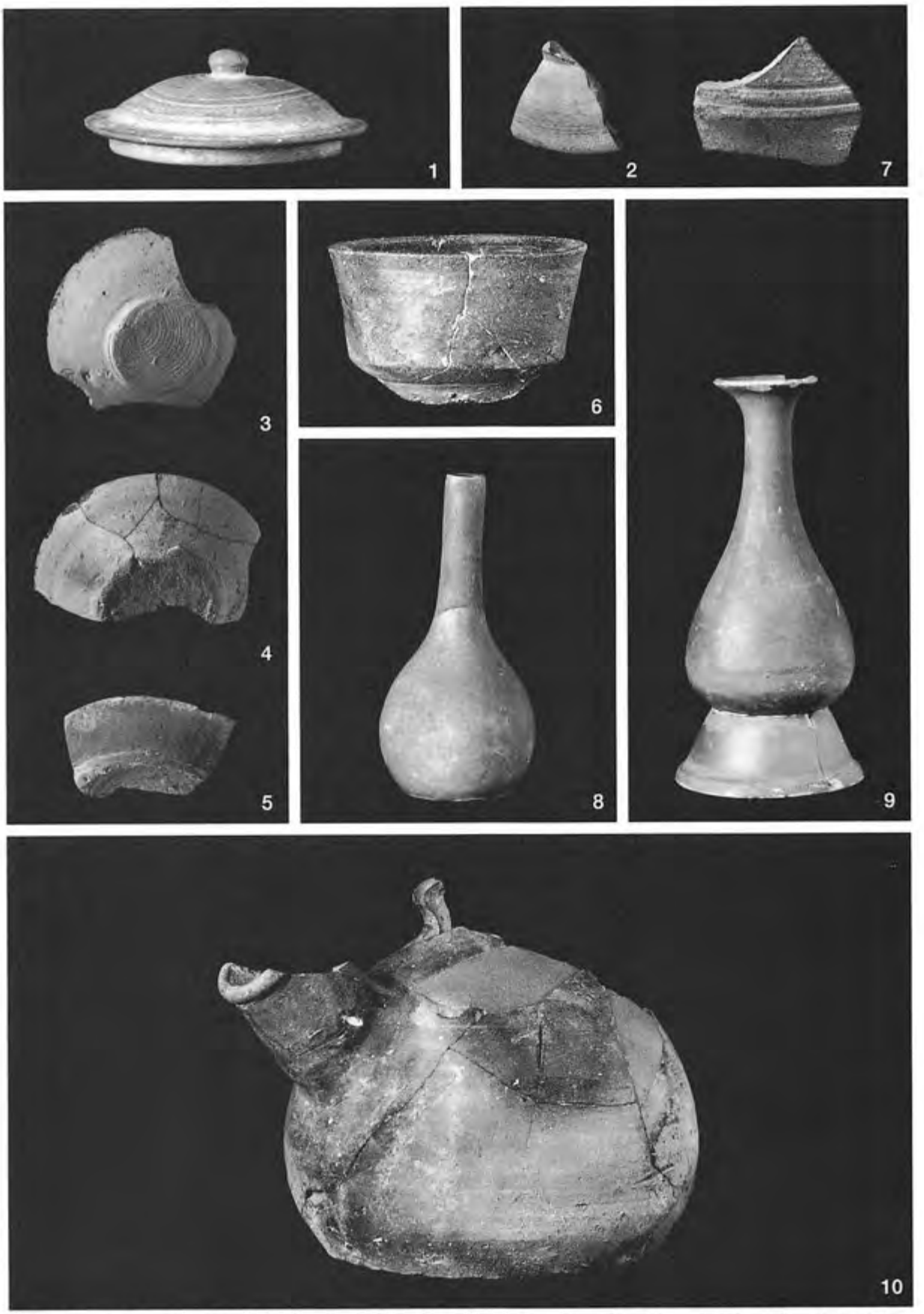
PL.56（第111図）　沖縄産施釉陶器〔E地区〕：水注（1～8）、火入れ（9・10）



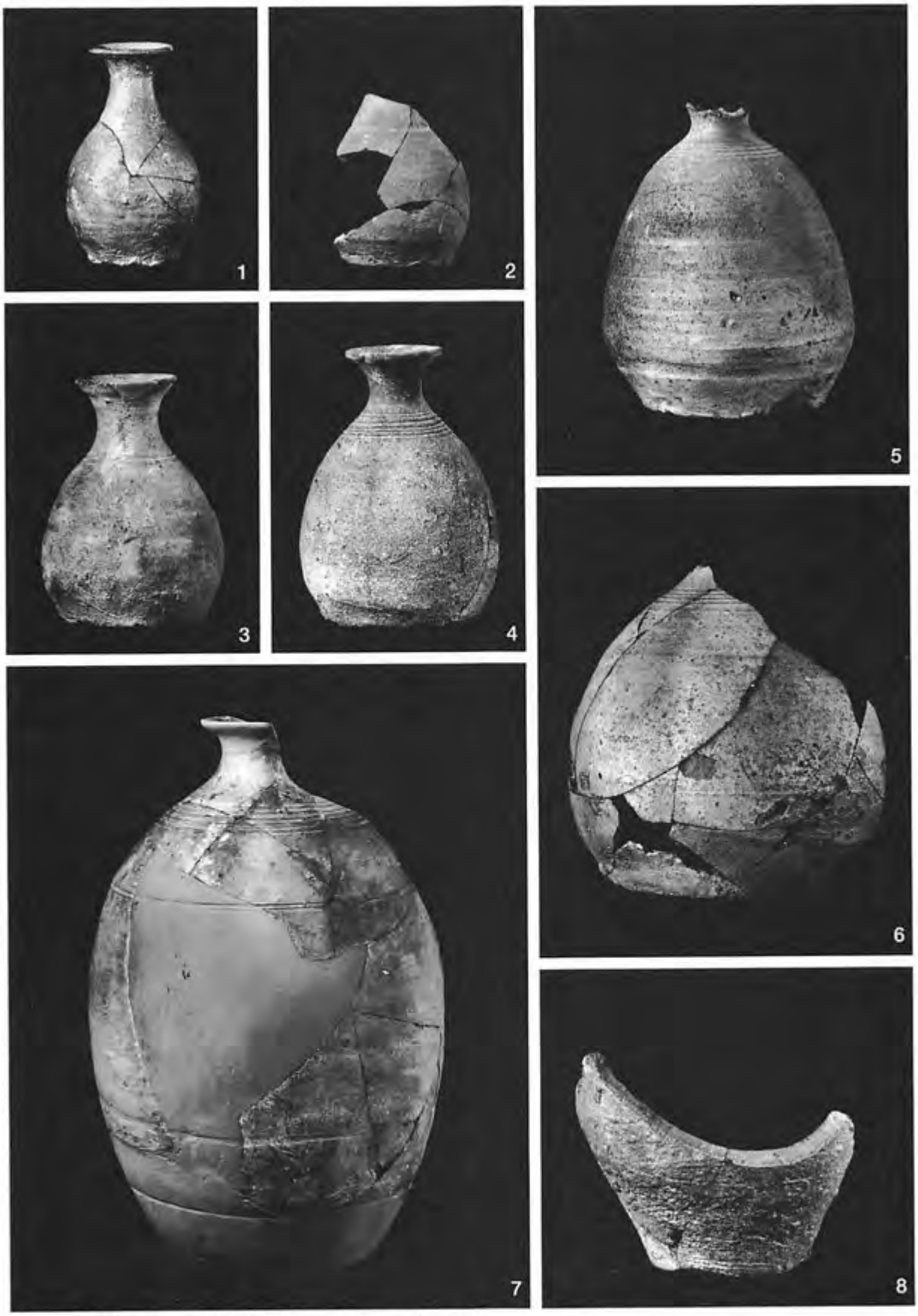
PL.57（第112図）　沖縄産施釉陶器〔E地区〕：火炉（1）、香炉（2）



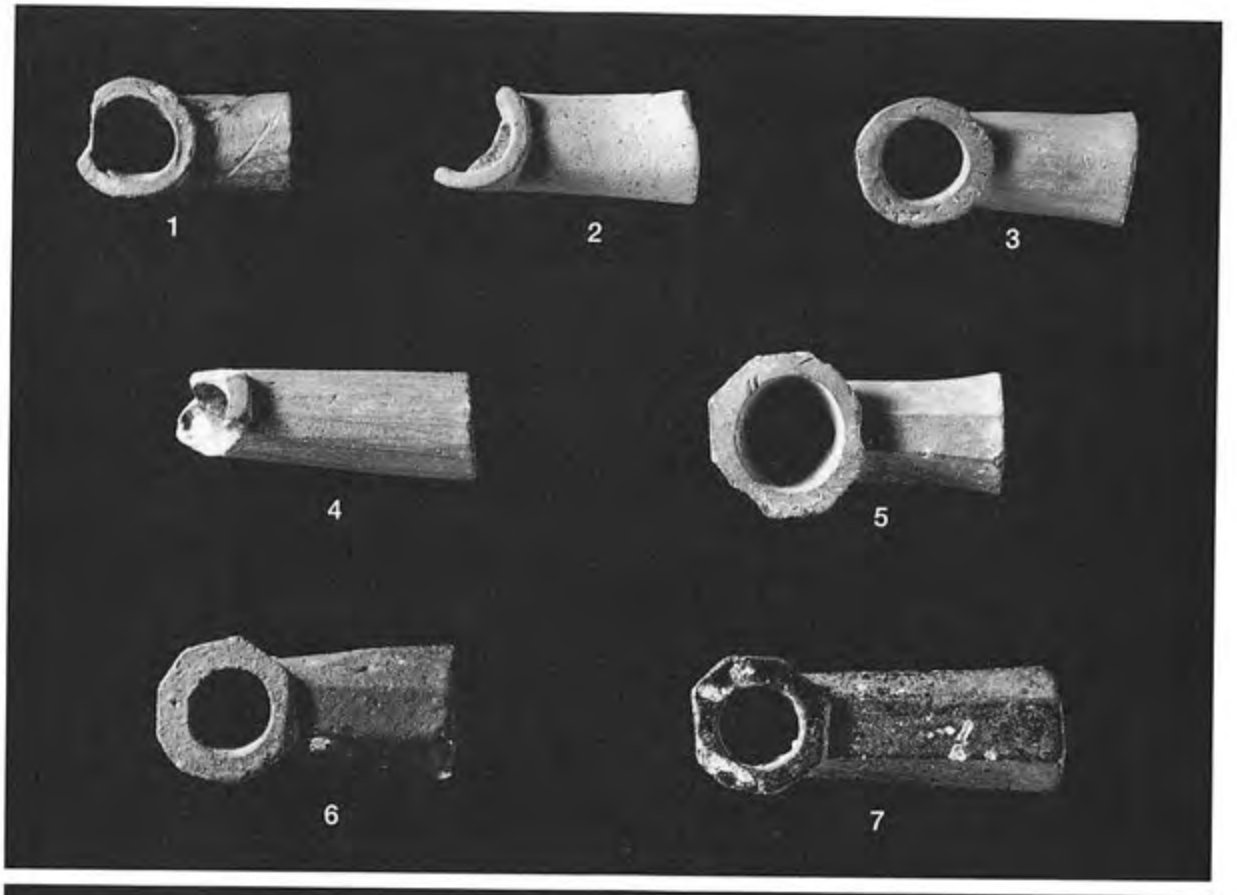
PL.58（第113図）　沖縄産施釉陶器〔E地区〕：猪口（1～10）、煙管（11～14）

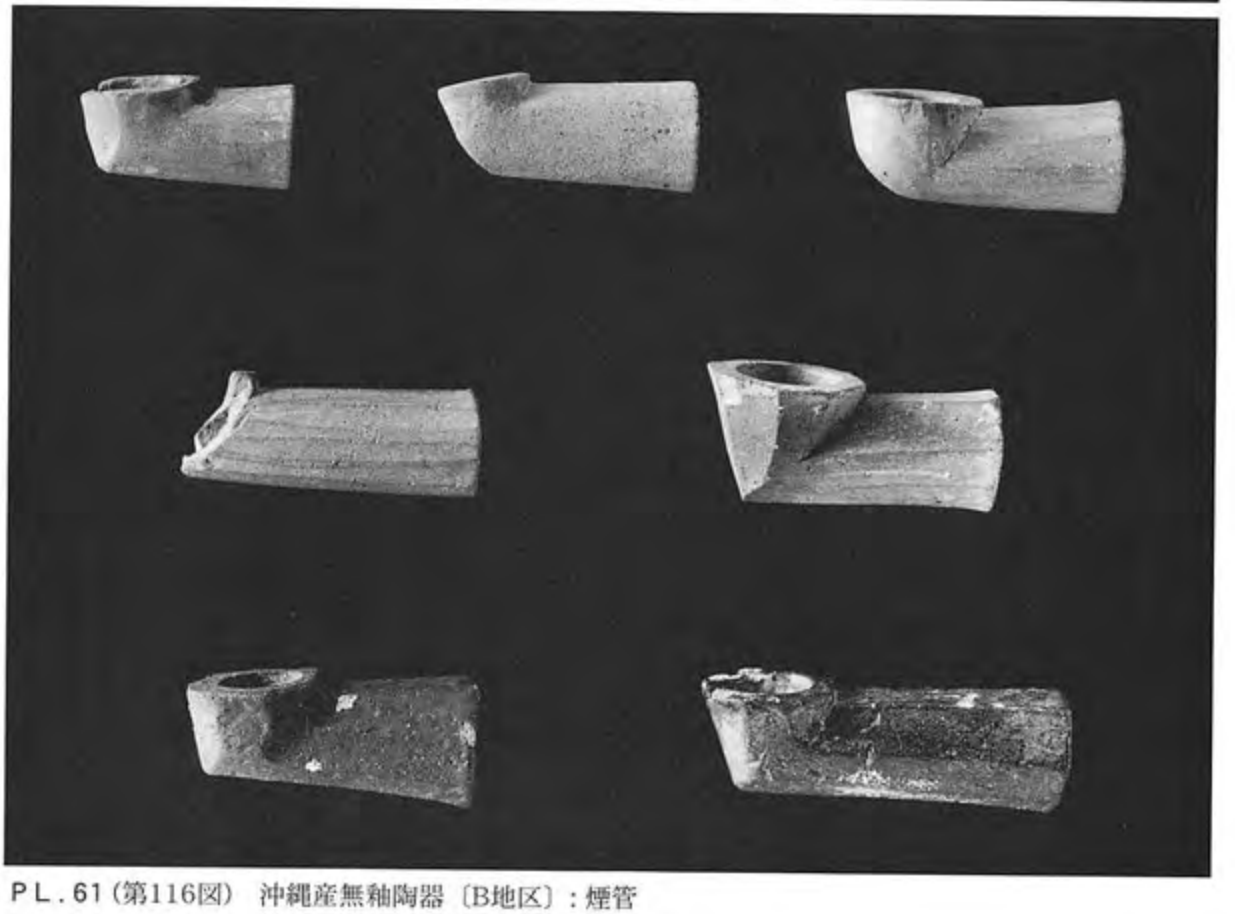


PL.59（第114図） 沖縄産無釉陶器〔B地区〕：蓋（1・2）、小皿（3～5）、火入れ（6）、火炉（7）
瓶（8・9）、溲瓶（10）

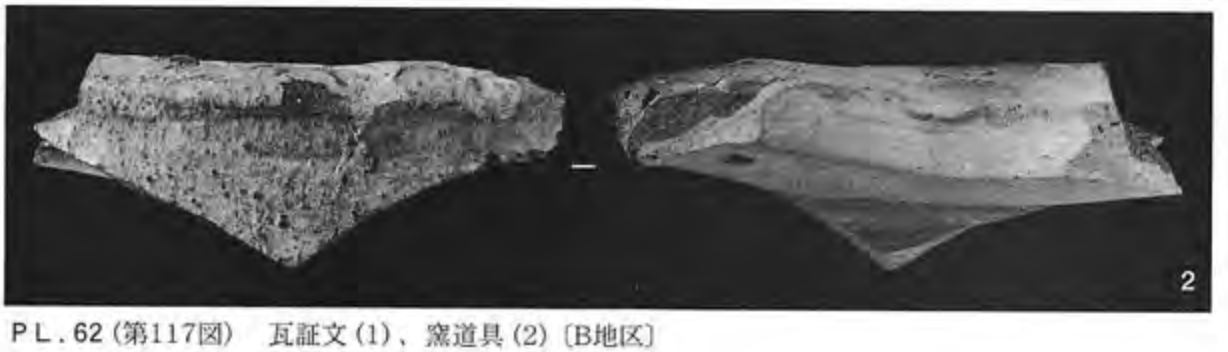


PL.60（第115図） 沖縄産無釉陶器〔B地区〕：徳利



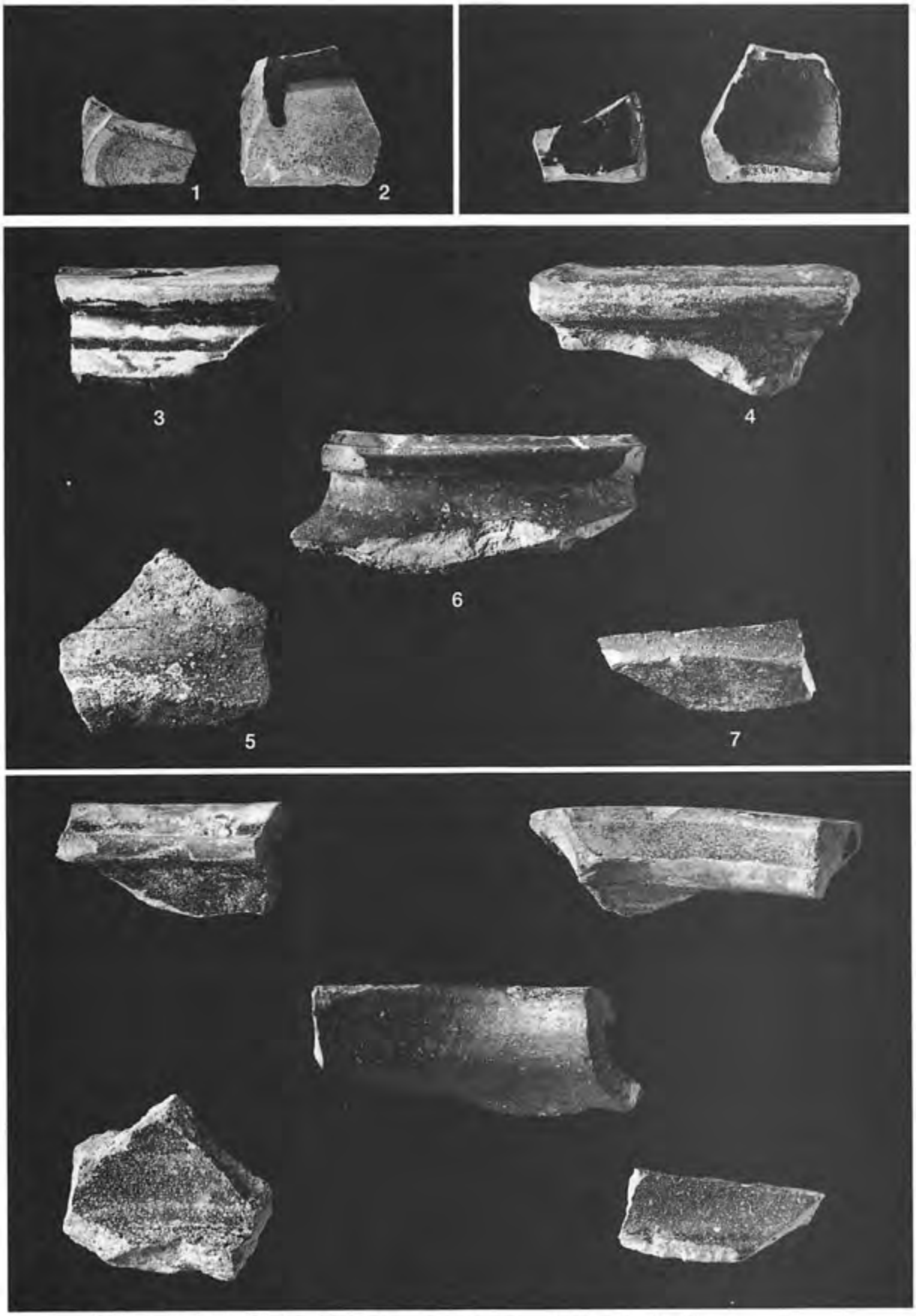


PL.61（第116図） 沖縄産無釉陶器〔B地区〕：煙管

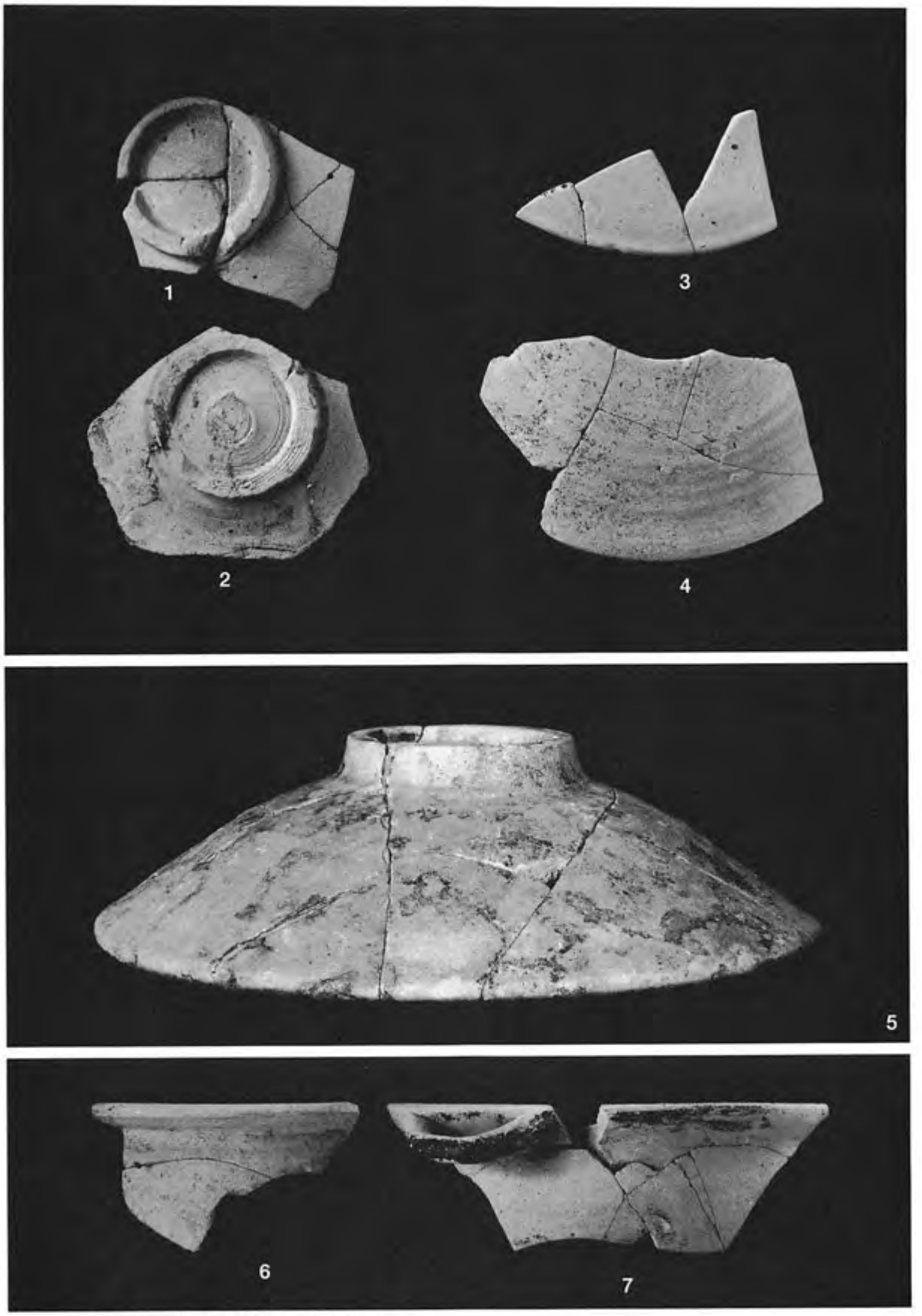


PL.62（第117図）　瓦証文（1）、窯道具（2）〔B地区〕

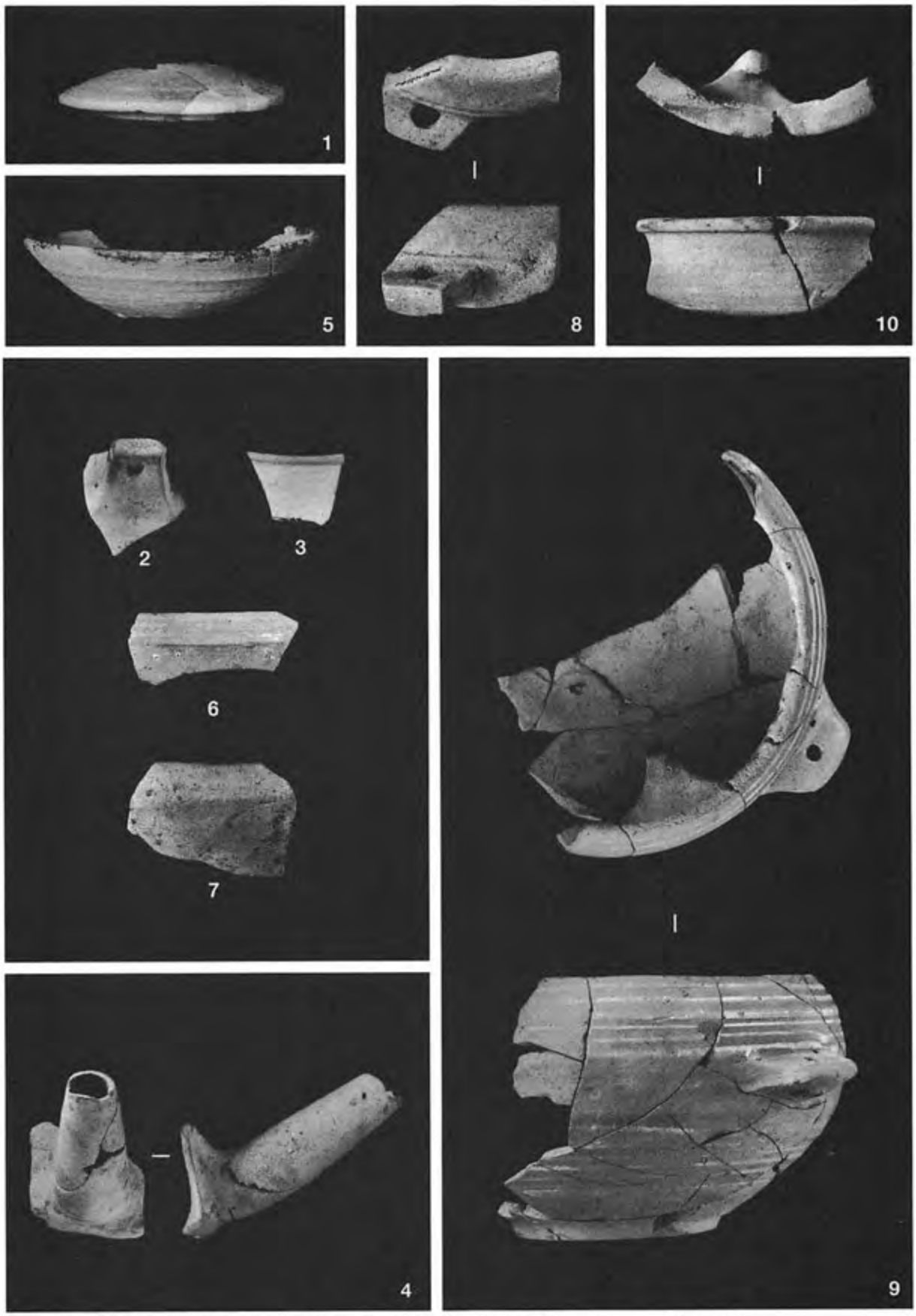
PL.63（第118図）　中国陶磁器〔B地区〕：青磁（1）、青花（2～5）、色絵（6）



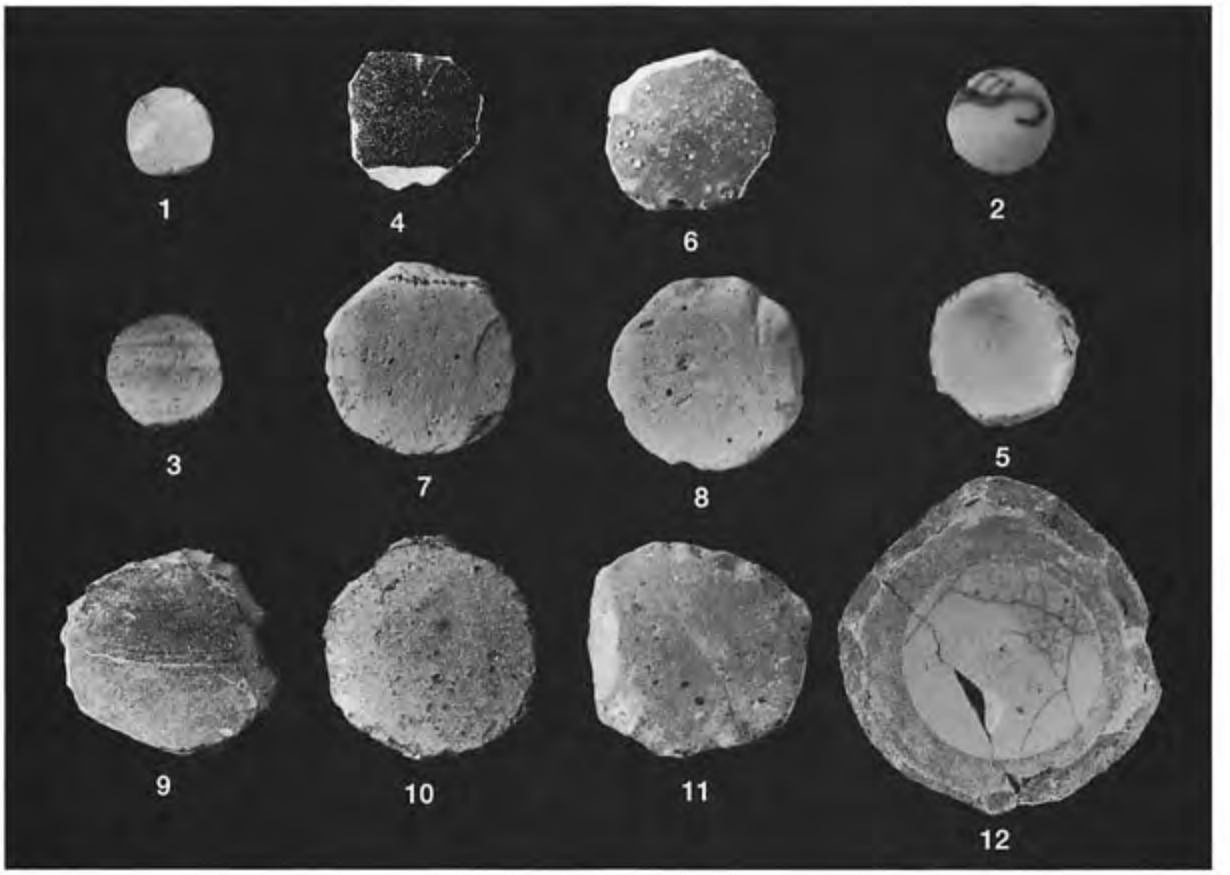
PL.64（第119図）　中国陶磁器〔B地区〕：天目（1・2）、褐釉陶器（3～7）

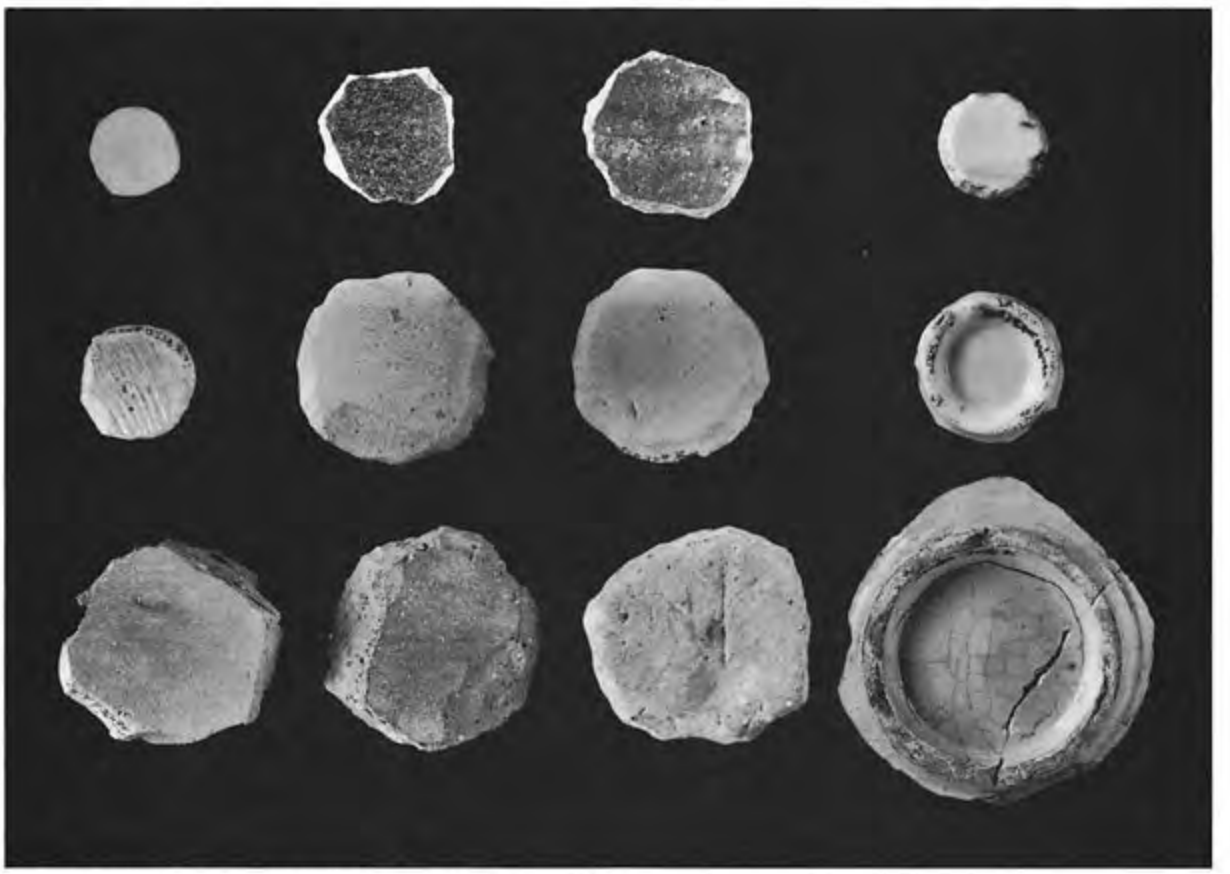


PL.65（第120図）　陶質土器〔B地区〕：鍋

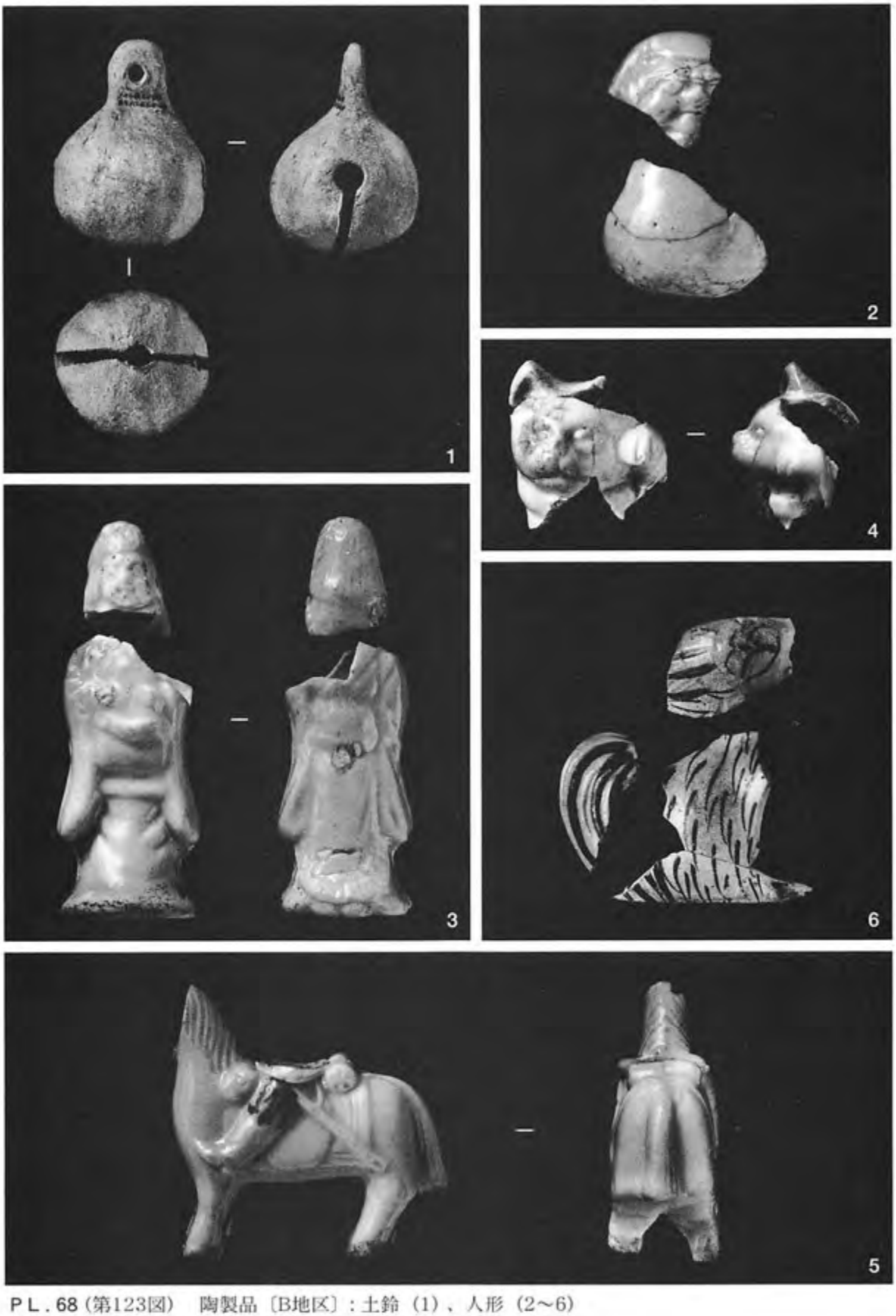


PL.66（第121図）　陶質土器〔B地区〕：土瓶（1～4）、灯明皿（5）、炉（6～10）

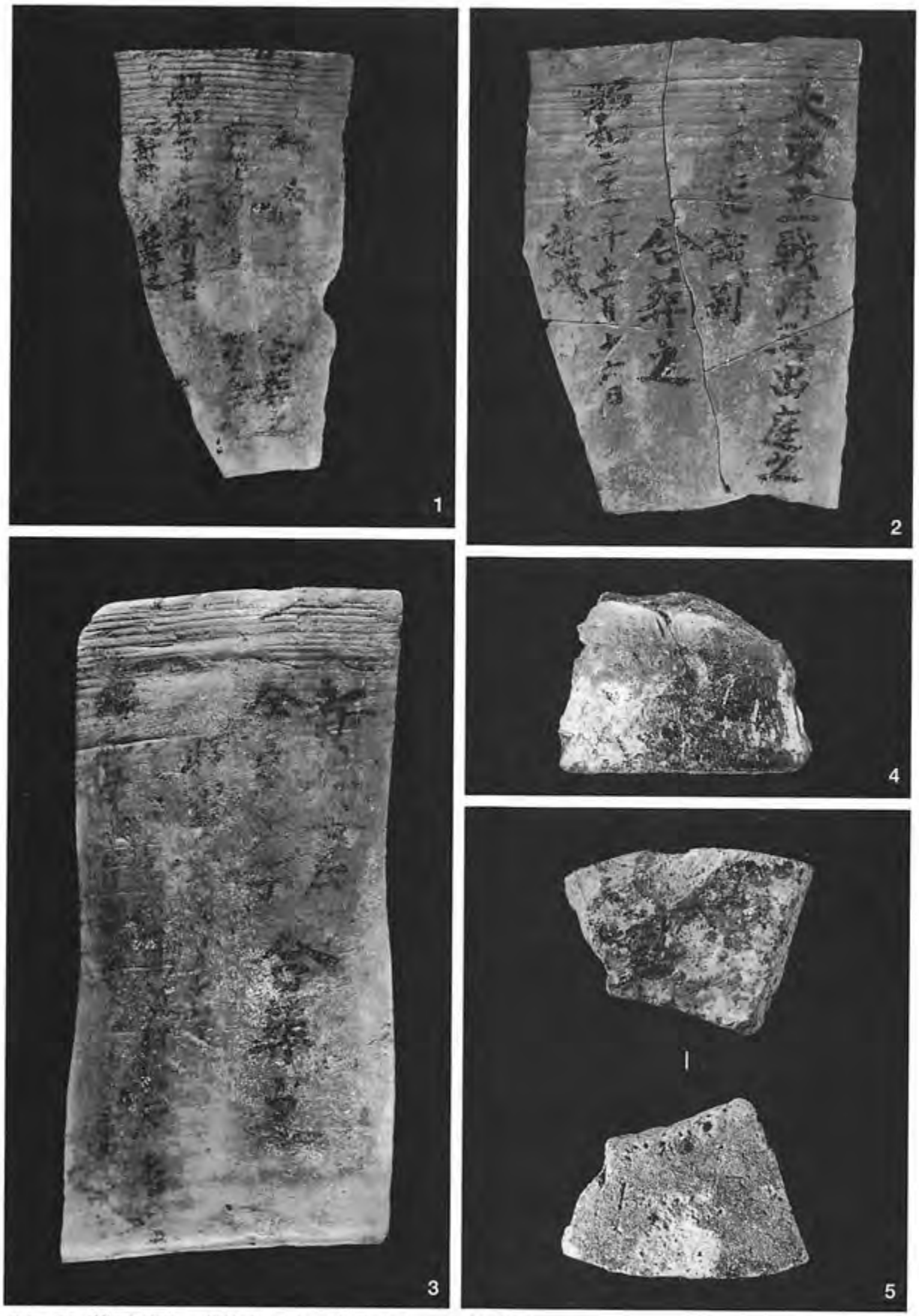




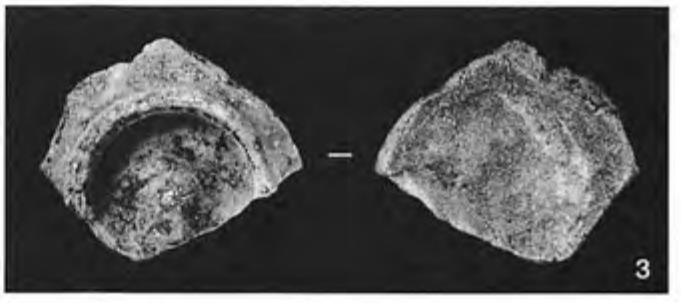
PL.67（第122図）　円盤状製品〔B地区〕



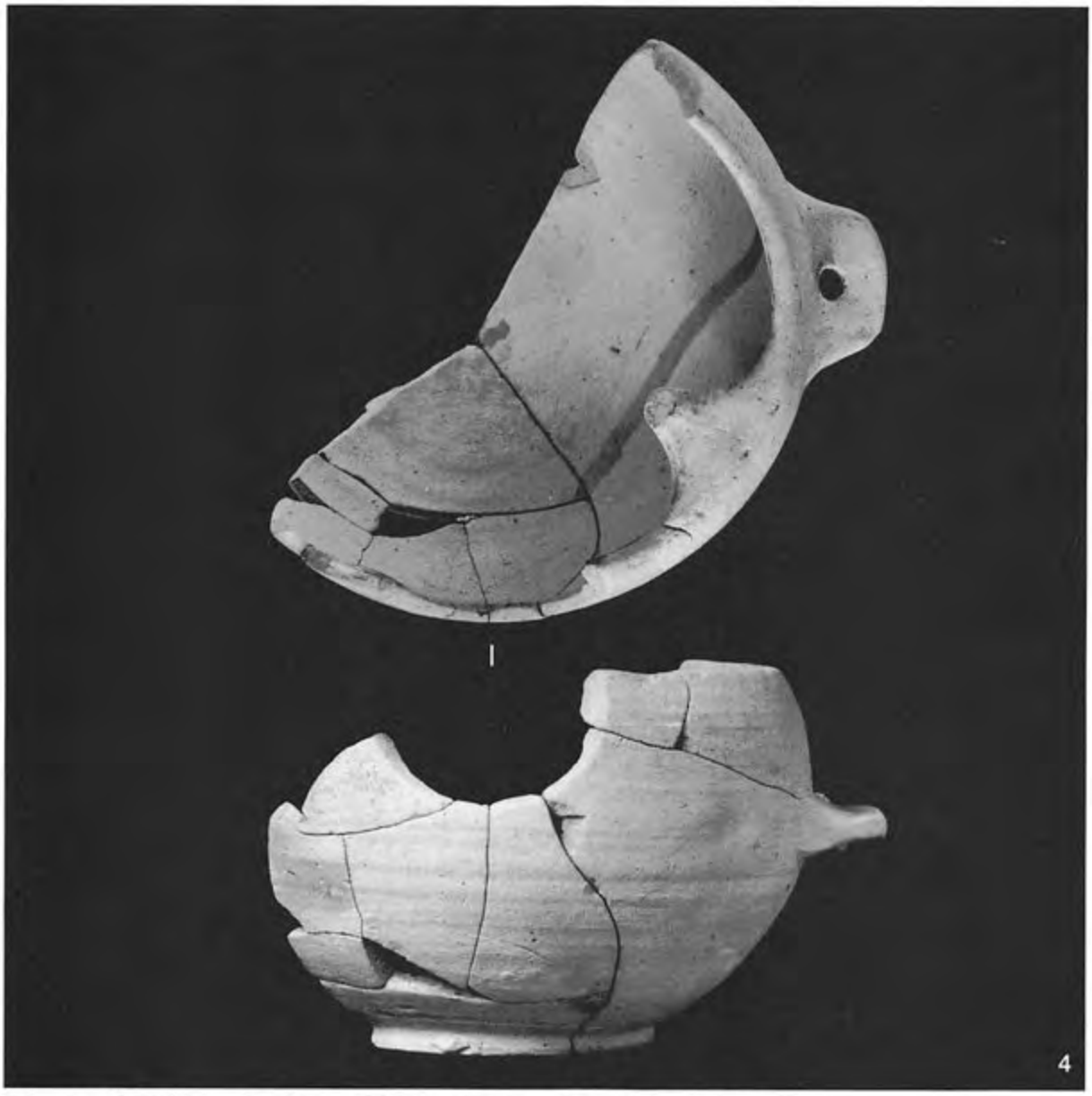
PL.68（第123図）　陶製品〔B地区〕：土鈴（1）、人形（2～6）



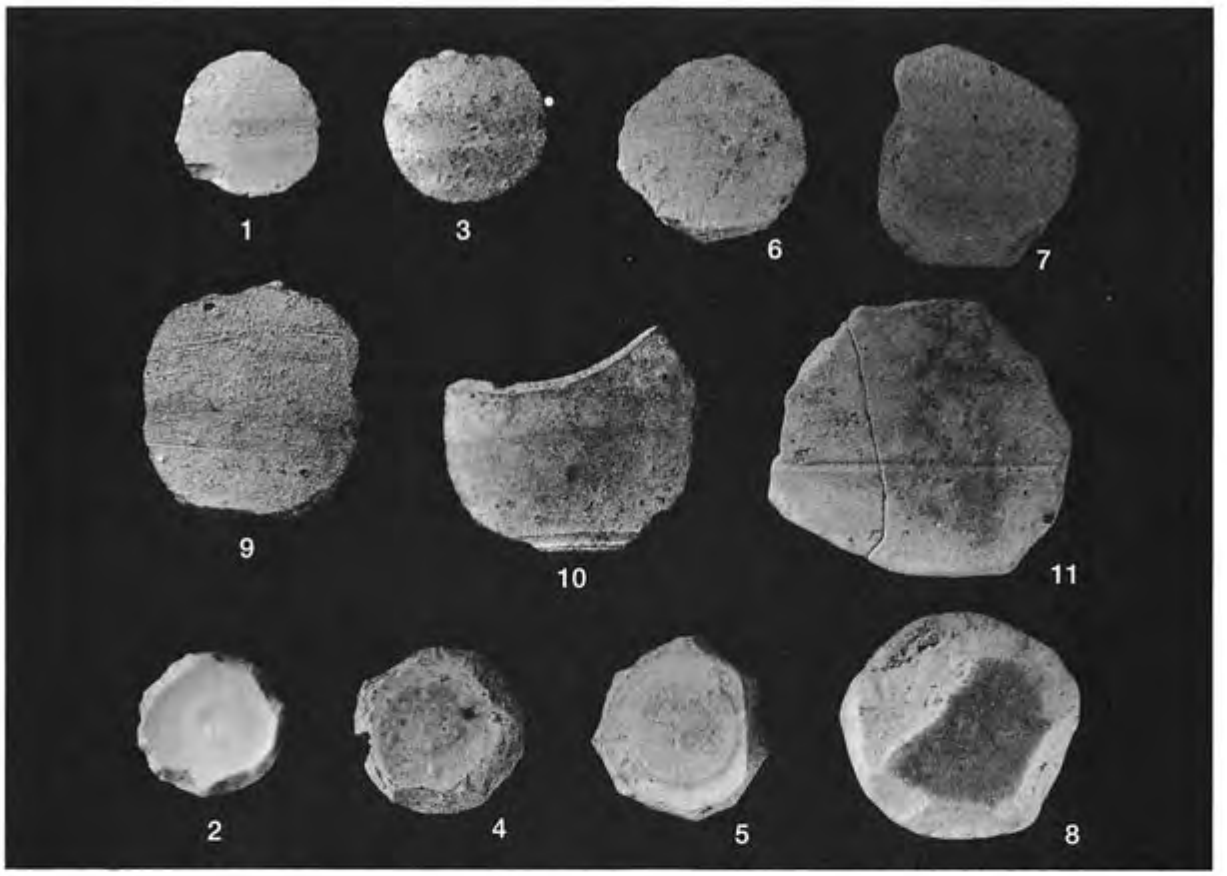
PL.69（第124図）　墓誌（1～3）、窯道具（4・5）〔E地区〕

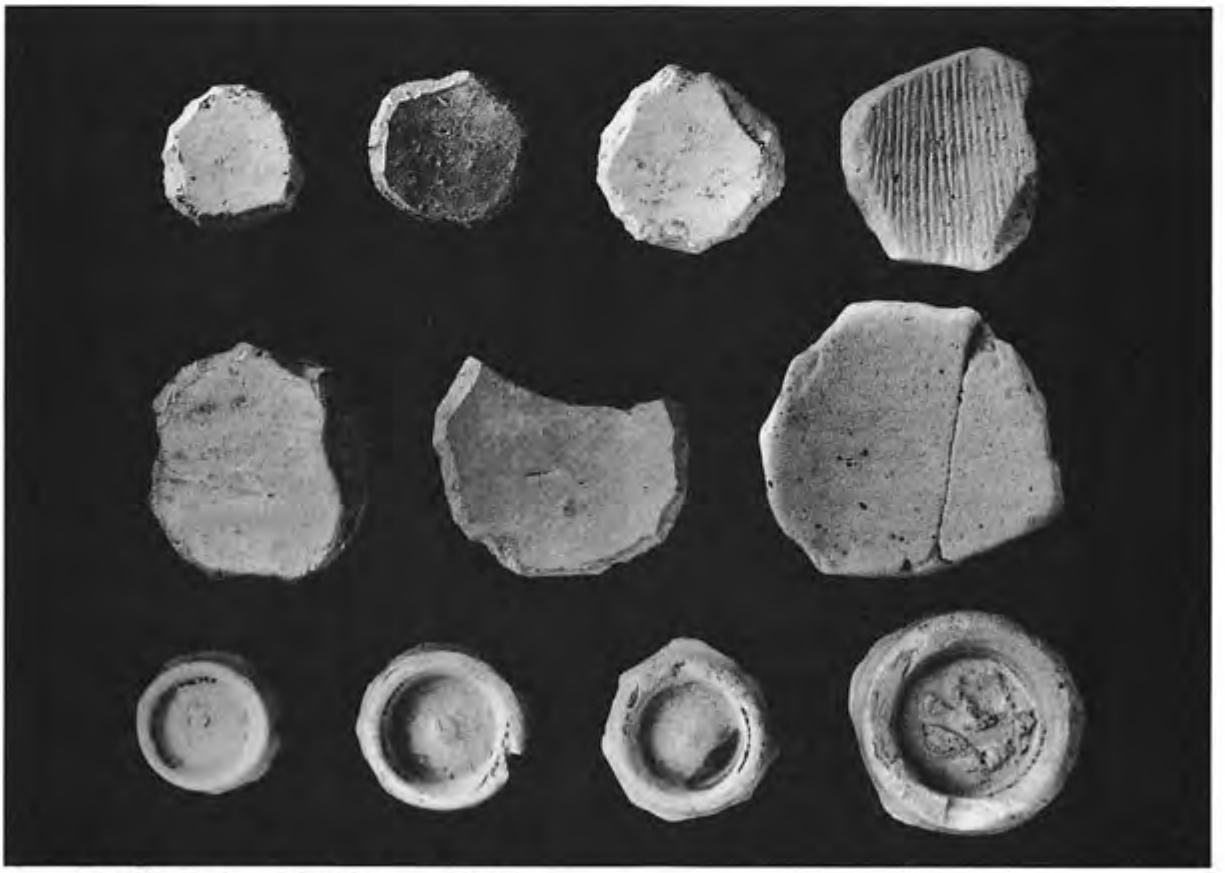


PL.70（第125図） 中国陶磁器〔E地区〕：白磁（1・2）、青磁（3）、青花（4～8）、人形（9）

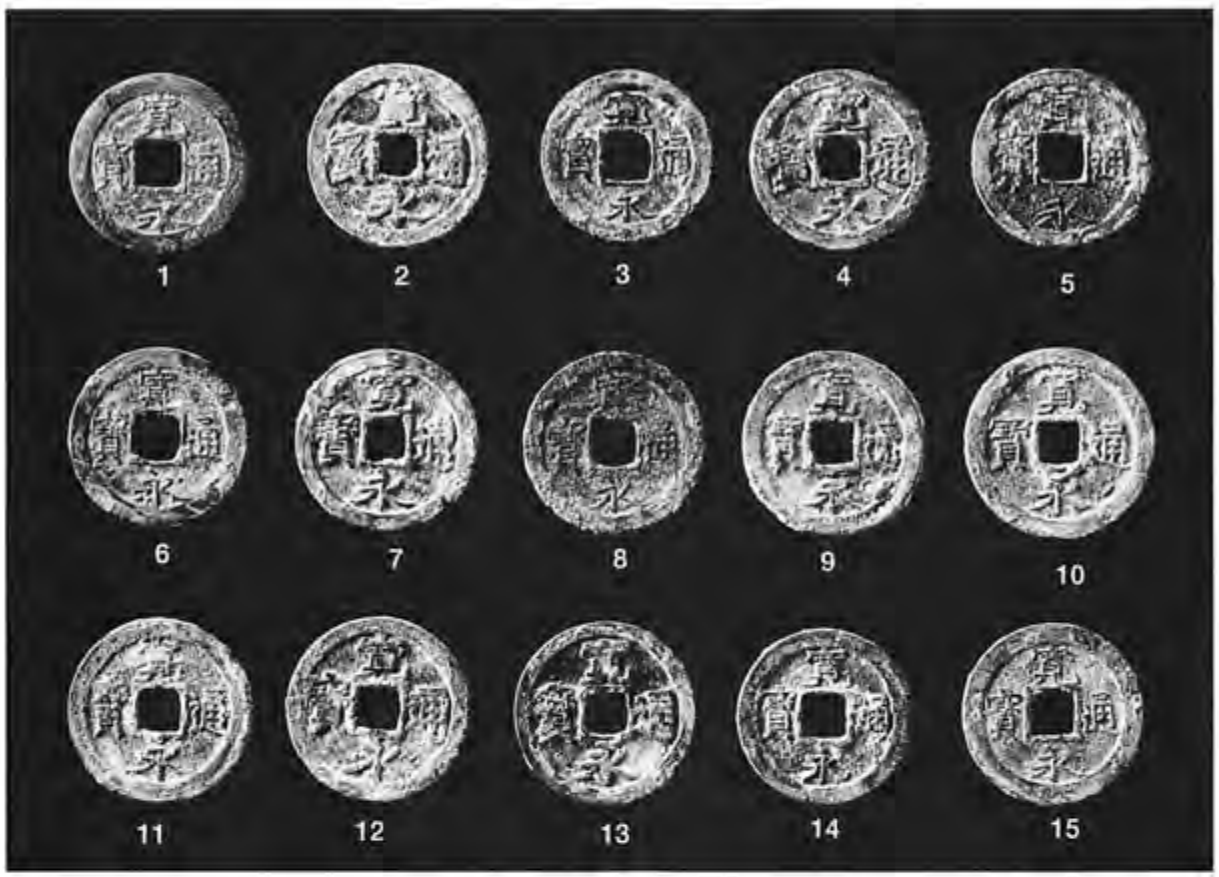


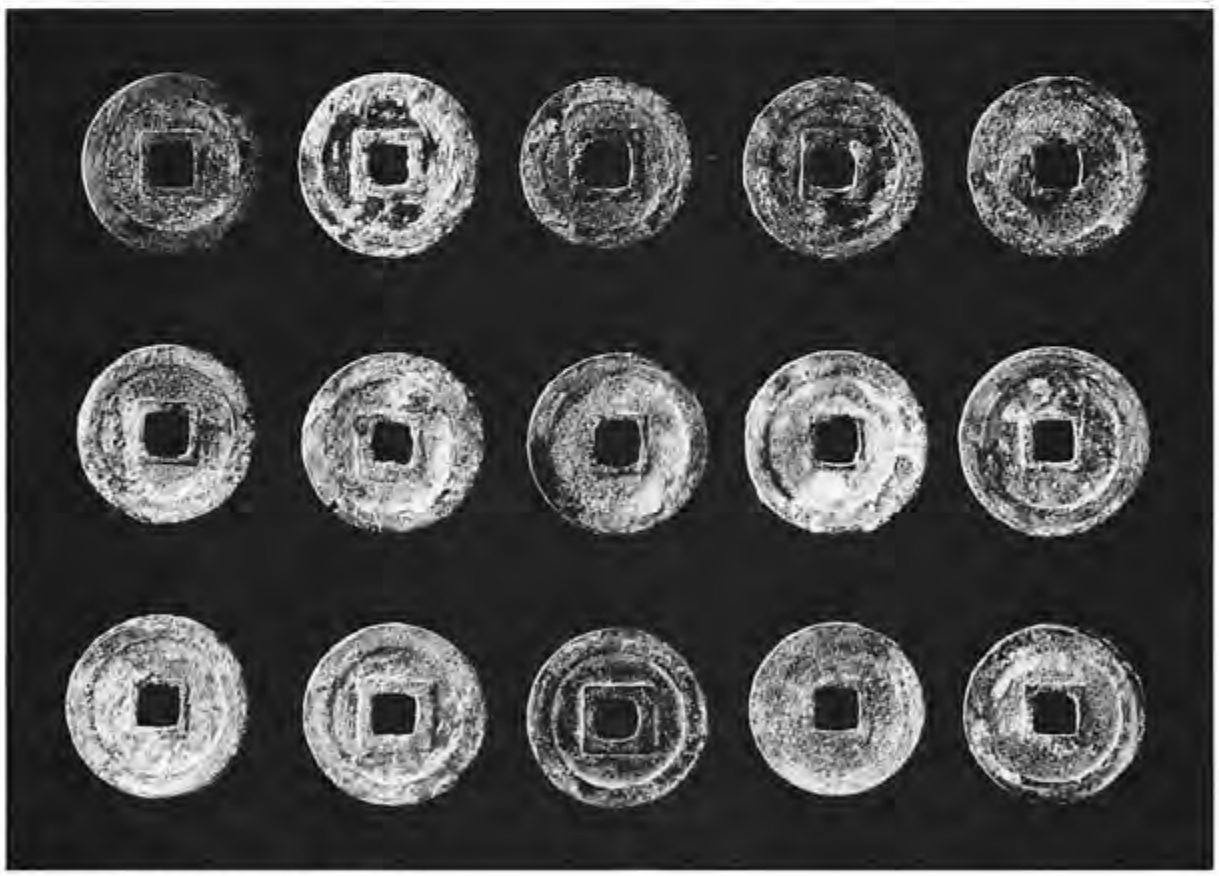
PL.71（第126図）　陶質土器〔E地区〕：鍋（1）、灯明皿（2）、炉（3・4）



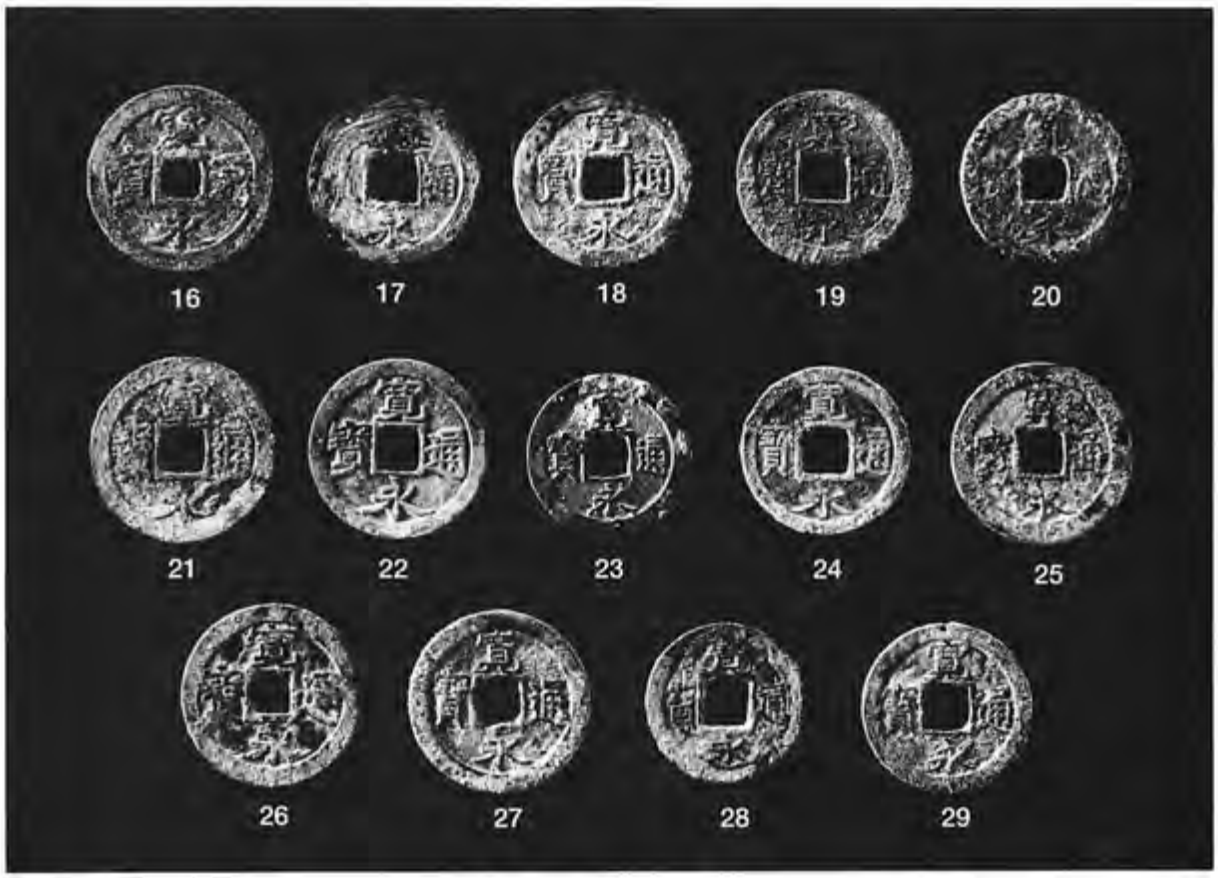


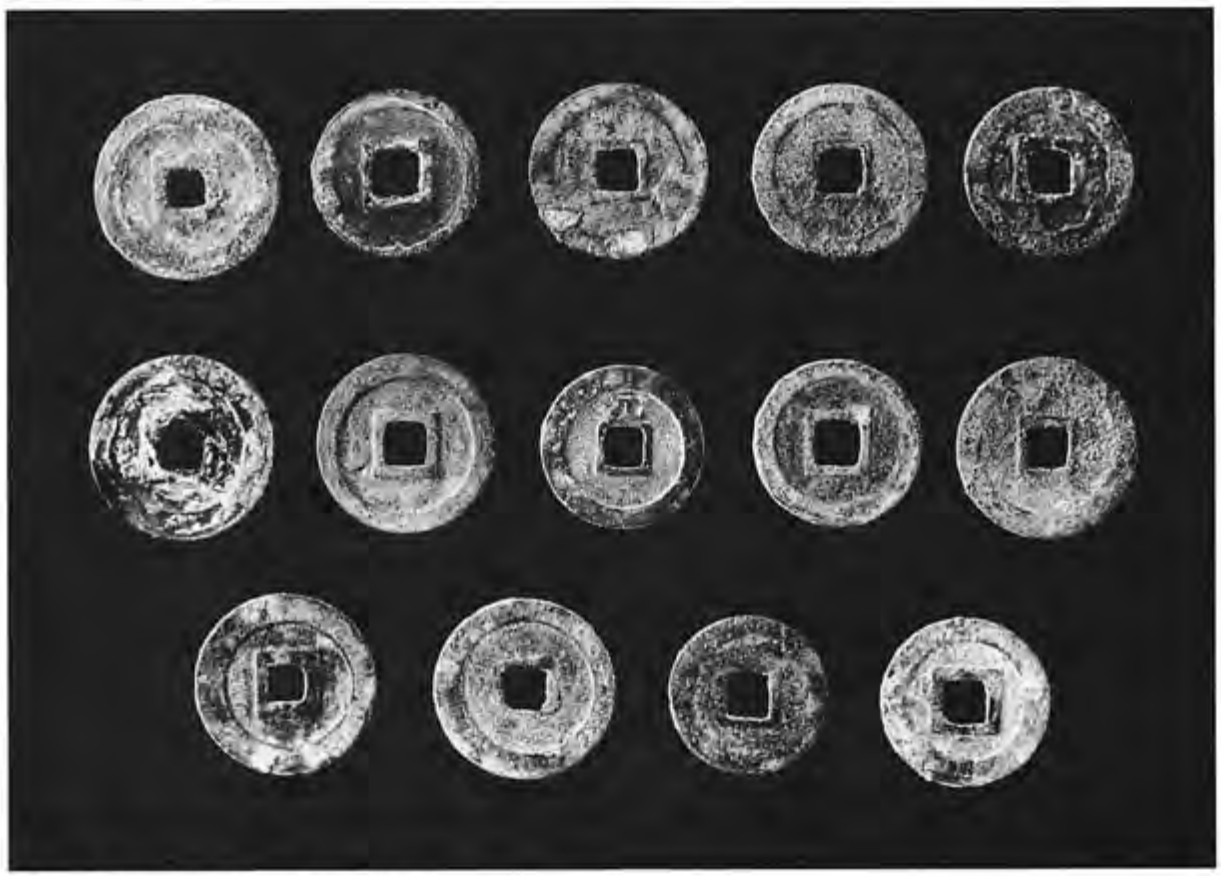
PL. 72 (第127図)　円盤状製品〔E地区〕



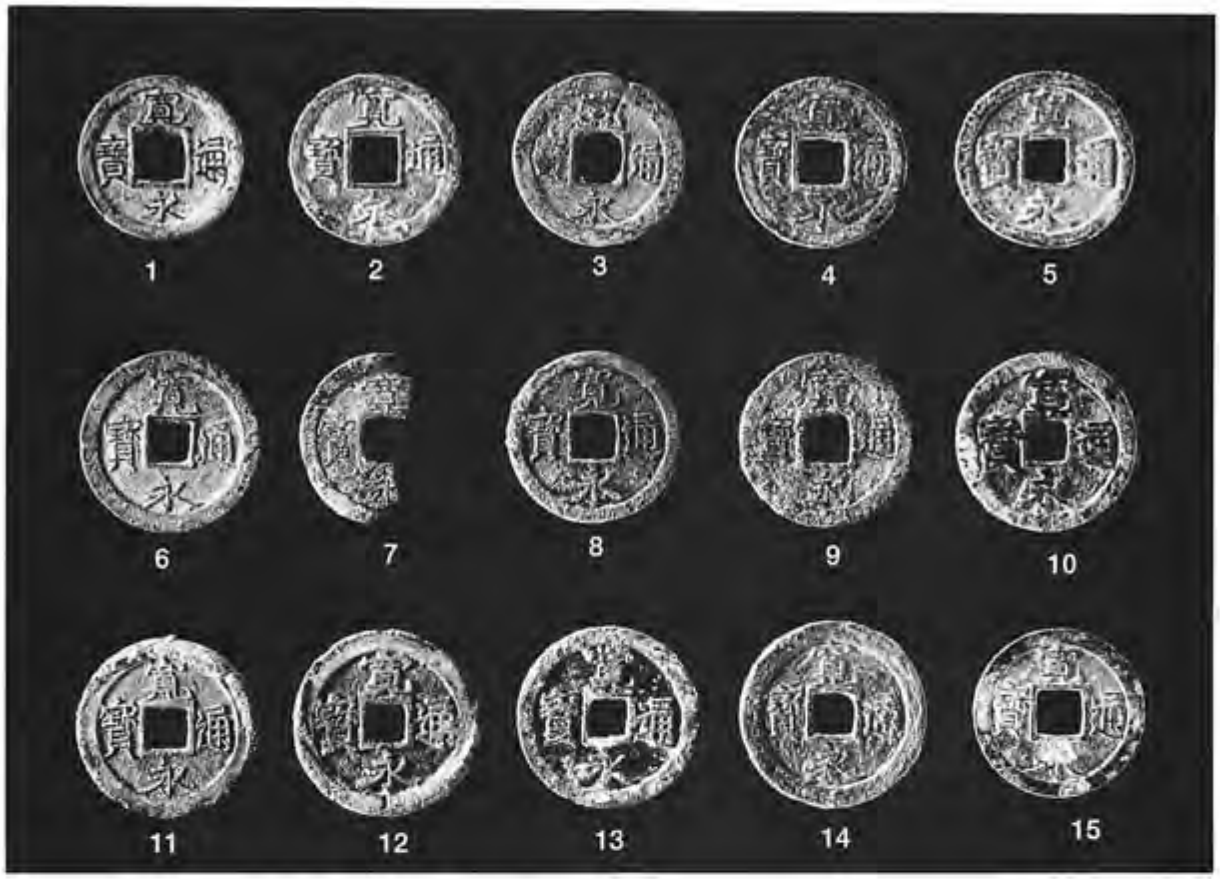


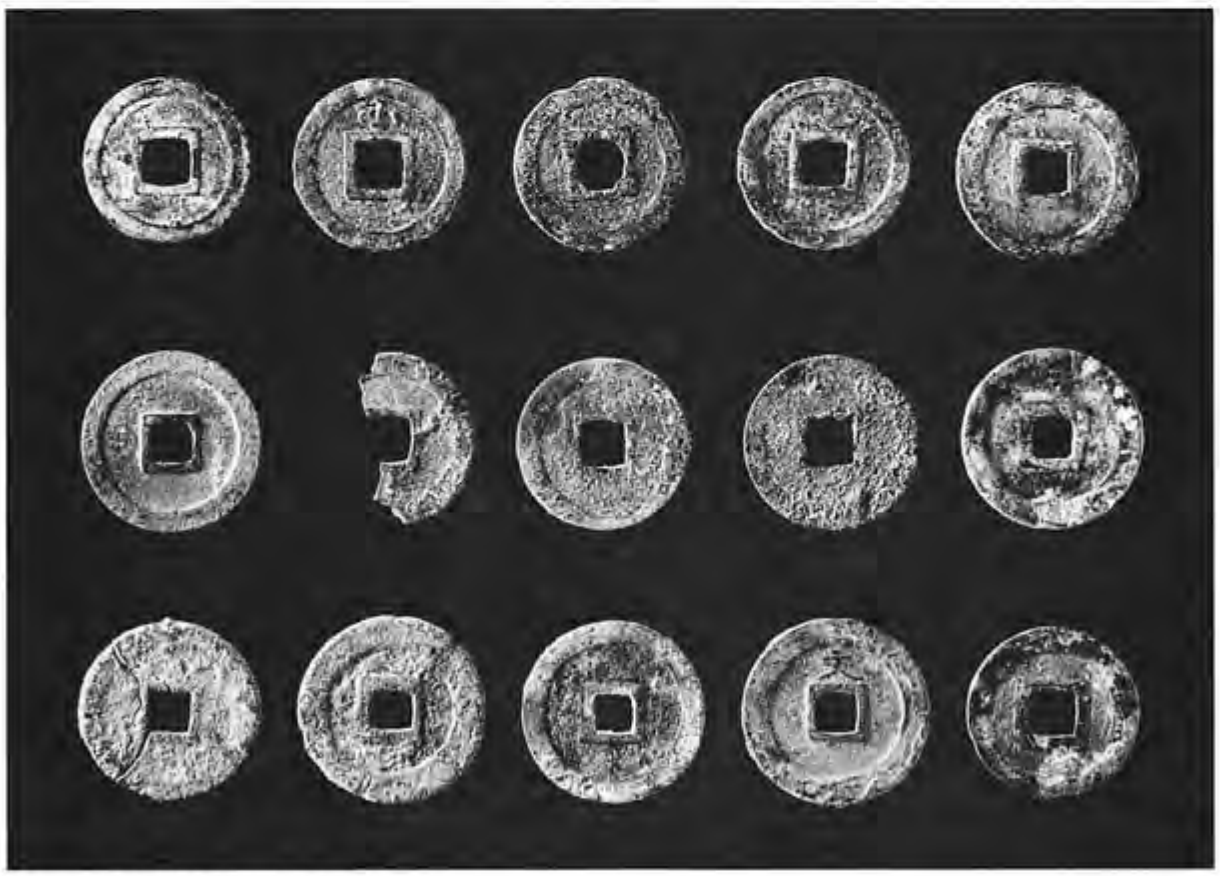
PL.73 (第128図)　銭貨〔B地区〕



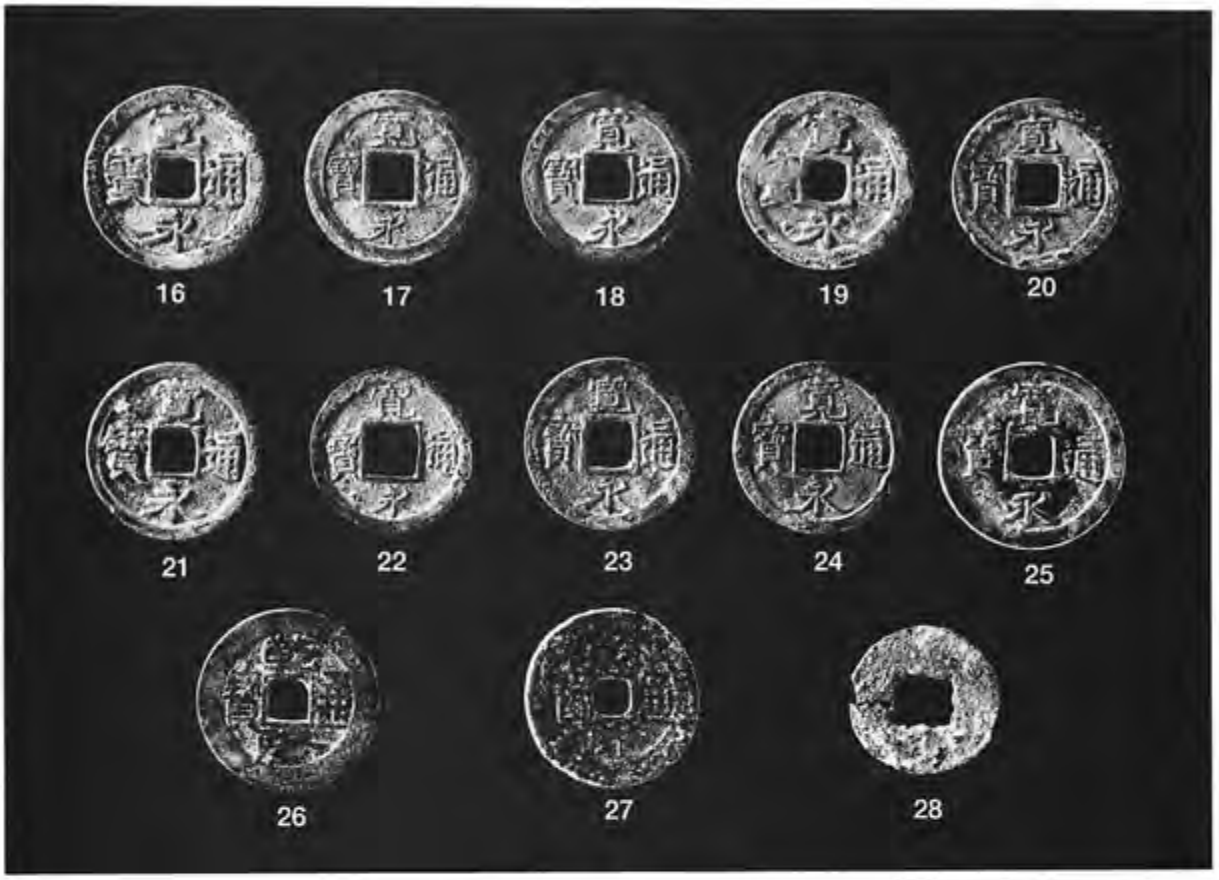


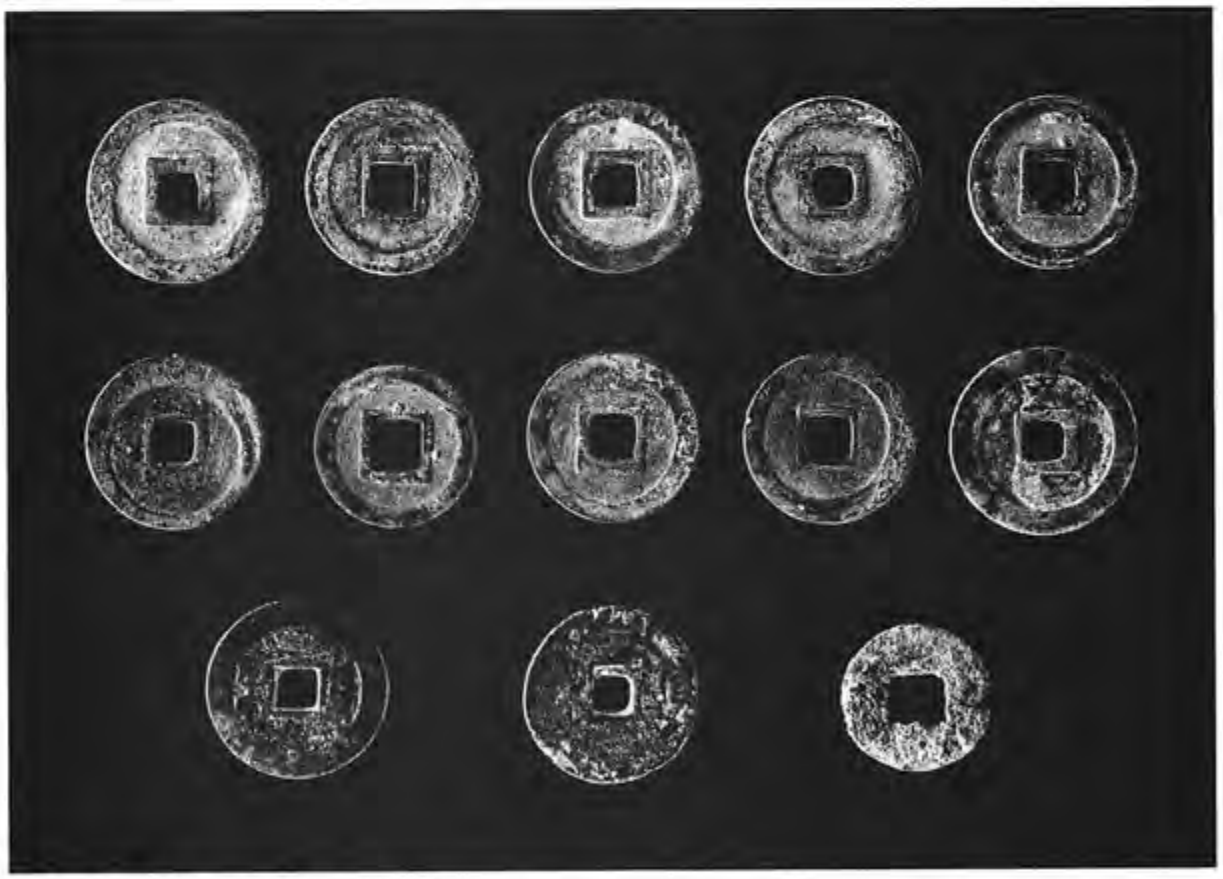
PL.74（第129図）　銭貨〔B地区〕



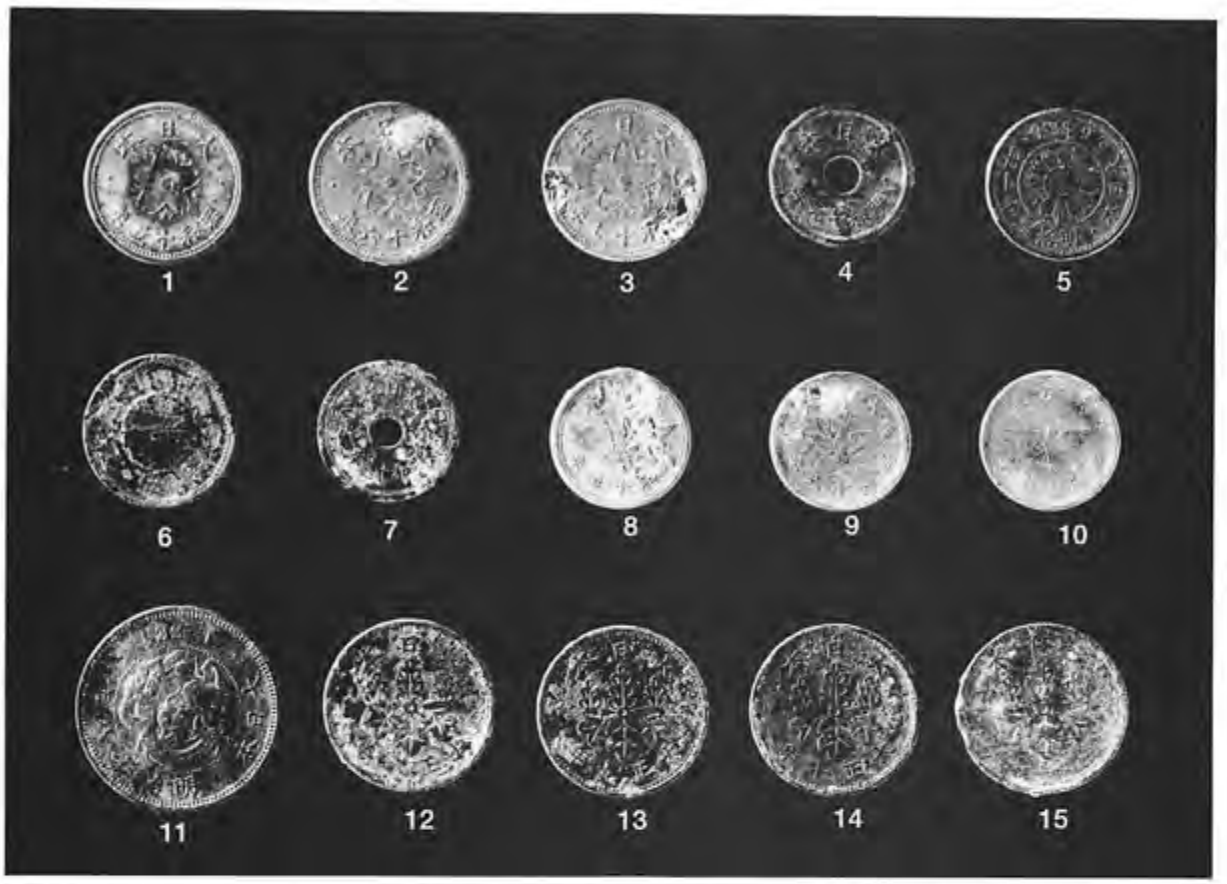


PL.75（第130図）　銭貨〔B地区〕

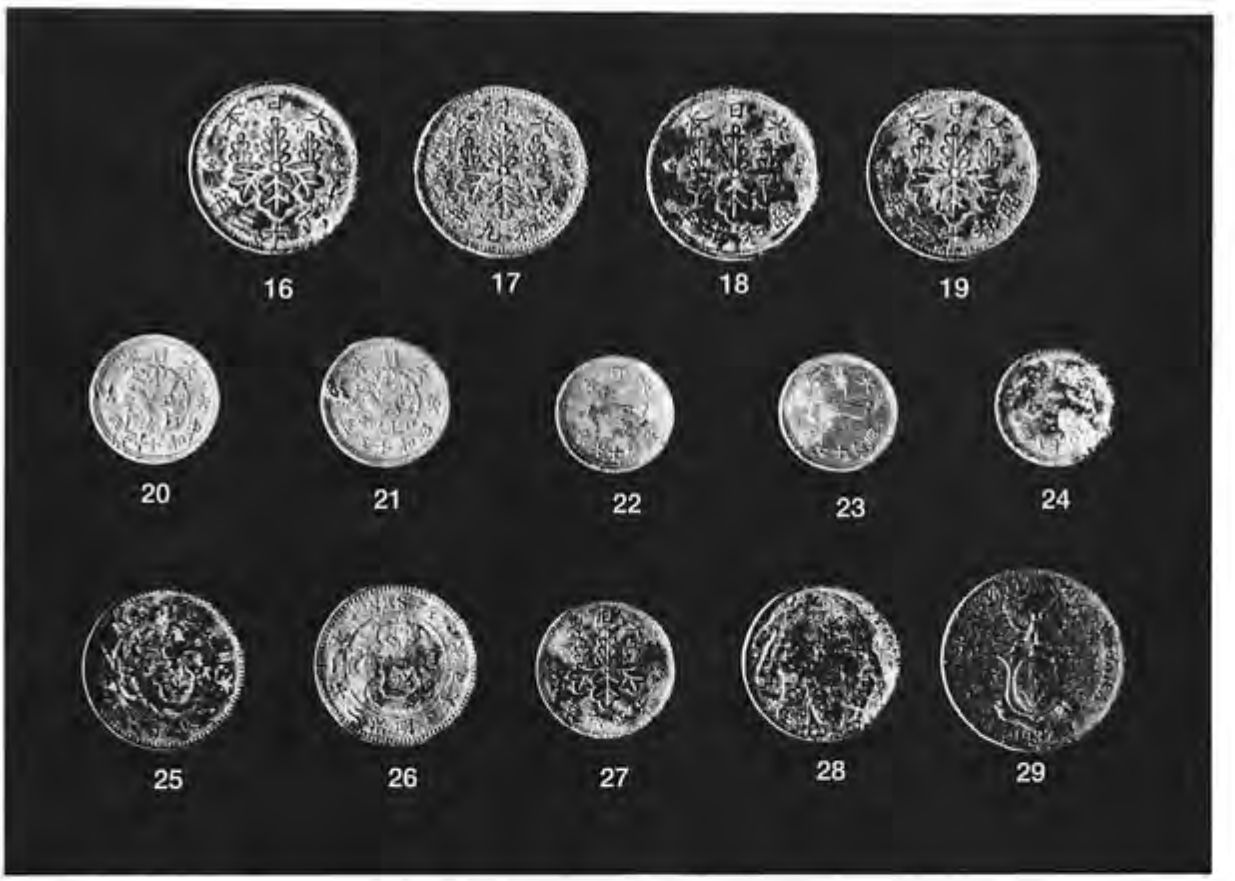




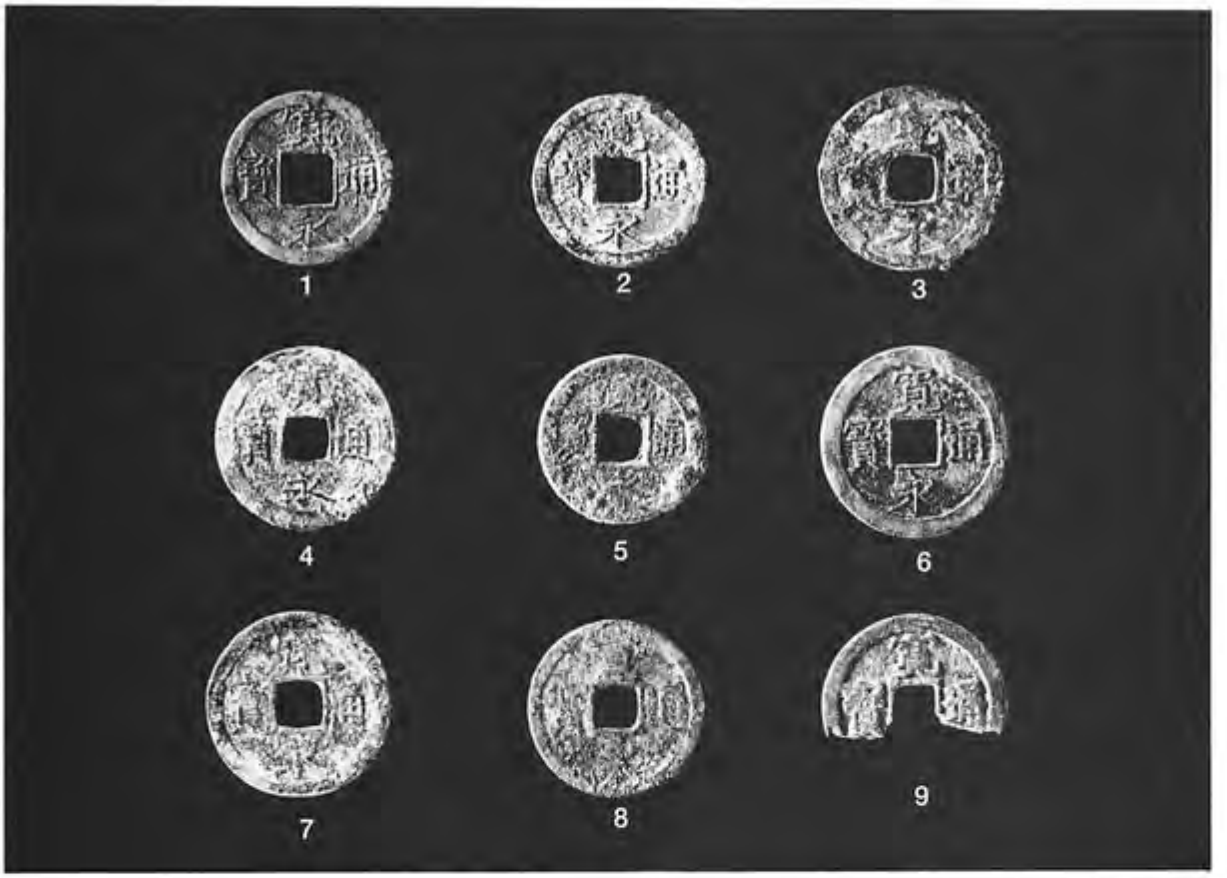
PL.76 (第131図)　銭貨〔B地区〕

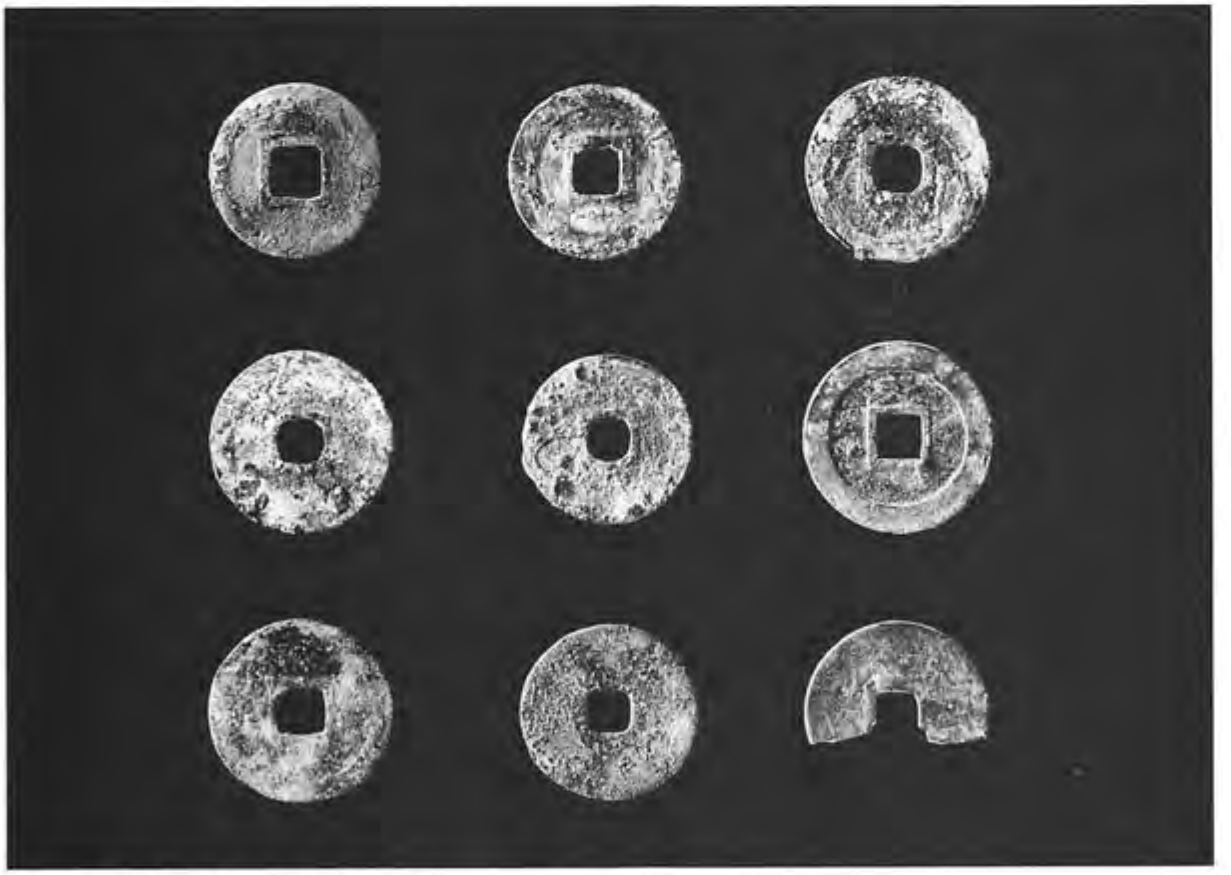


PL.77（第132図）　銭貨〔B地区〕

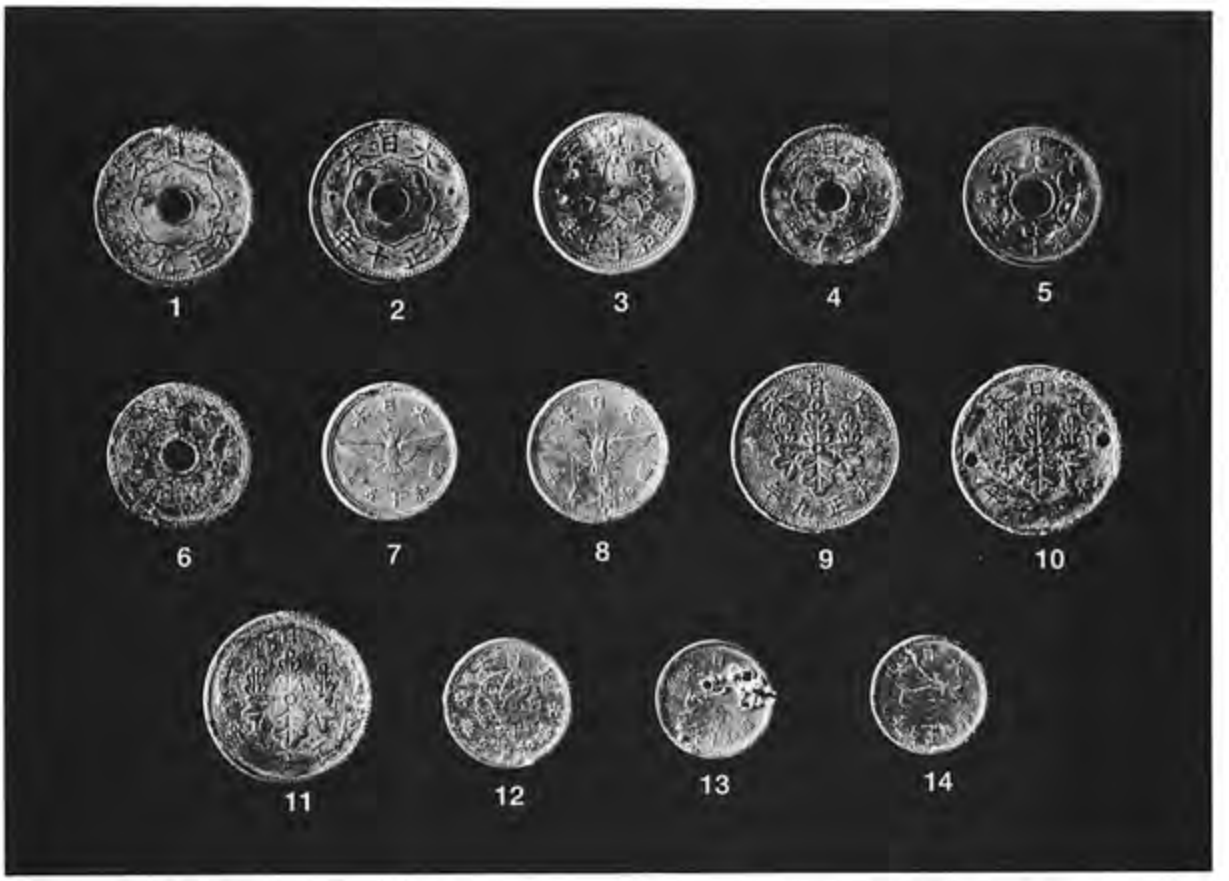


PL.78（第133図）　銭貨〔B地区〕

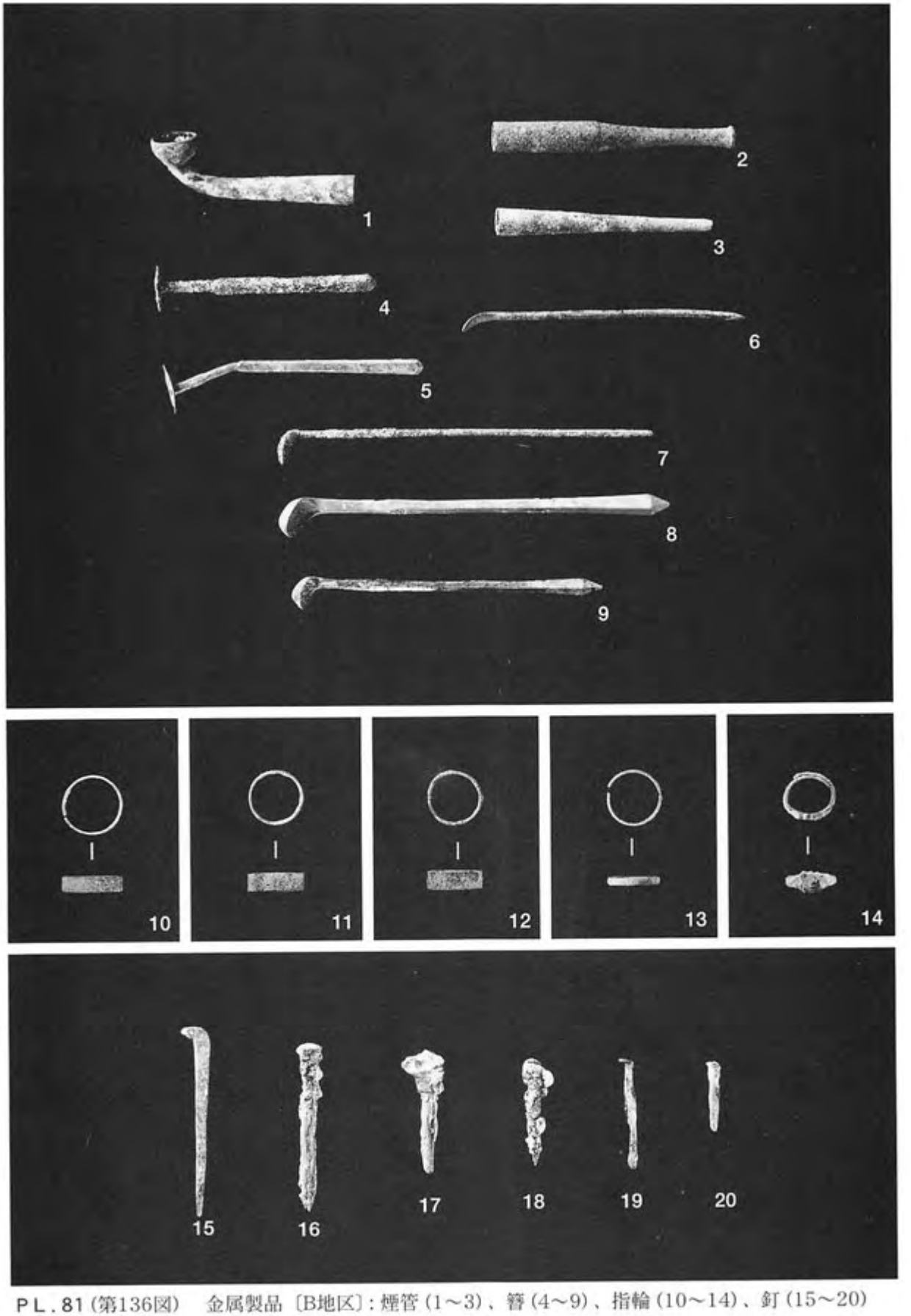




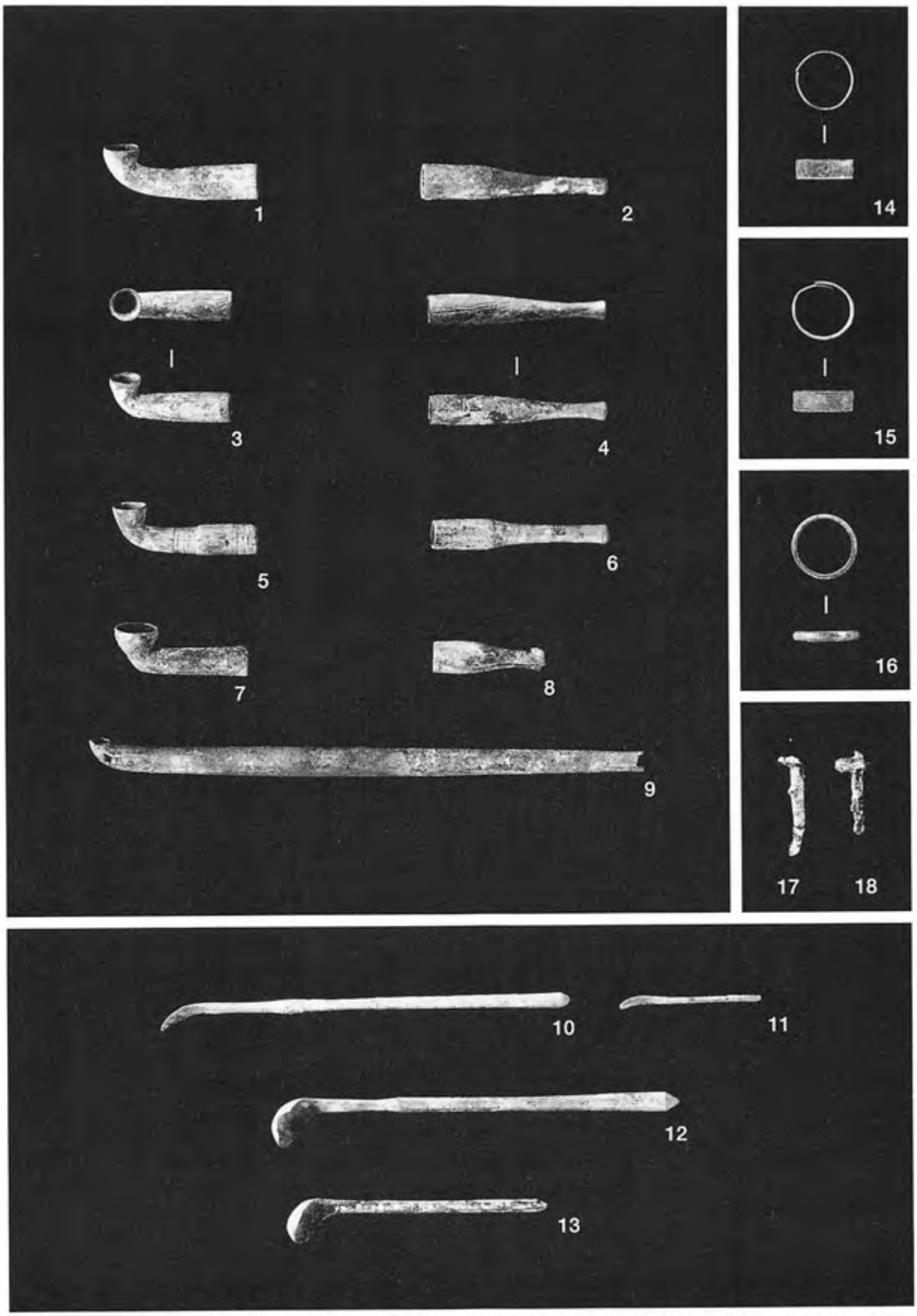
PL.79 (第134図)　銭貨〔E地区〕



PL.80 (第135図)　銭貨〔E地区〕

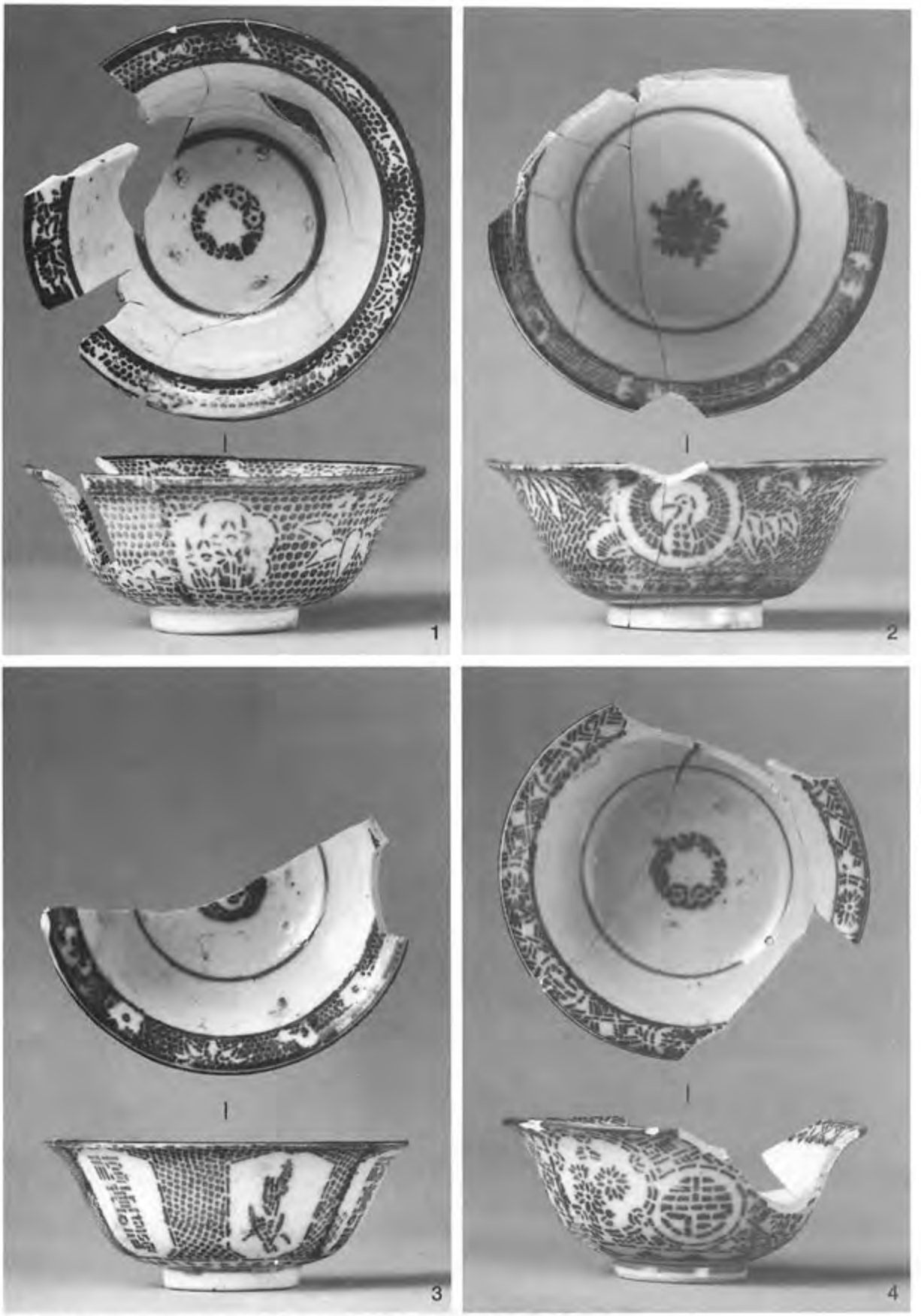


PL.81（第136図）　金属製品〔B地区〕：煙管（1～3）、簪（4～9）、指輪（10～14）、釘（15～20）



PL.82（第137図） 金属製品〔E地区〕：煙管（1～9）、簪（10～13）、指輪（14～16）、釘（17・18）

PL. 83 (第138図)　金属製品〔E地区〕: 鏡



PL.84（第139図）　本土産陶磁器〔B地区〕（型紙染付）：碗

PL.85（第140図）　本土産陶磁器〔B地区〕（型紙染付）：碗

那覇市文化財調査報告書第39集

銘苅古墓群(I)

－那覇新都心土地区画整理事業に伴う緊急発掘調査報告Ｖ－

発　行　1998年３月13日
那覇市教育委員会
〒900－8553　沖縄県那覇市樋川２－８－８
編　集　那覇市教育委員会文化課
ＴＥＬ　098－853－5775
ＦＡＸ　098－833－2202
印　刷　合資会社　精印堂印刷
〒902－0072　沖縄県那覇市字真地399－３
ＴＥＬ　098－832－1311
ＦＡＸ　098－832－8380